青森市埋蔵文化財調査報告書 第93集

合子沢松森(2)遺跡

発掘調査報告書

－東北新幹線建設事業に伴う発掘調査－

平成18年度

青森市教育委員会

円形周溝検出状況（北東から）

円形周溝検出状況（西から）

第１号土器埋設遺構検出状況（北東から）

第１号土器埋設遺構検出状況（東から）

序

東北新幹線新青森－八戸間の早期整備は、本県はもとより、とりわけ本市におきましては、長い間待ち望まれており、それだけに多大な期待が込められております。

平成22年度に予定されている東北新幹線新青森駅開業に際して、本市におきましても、新幹線開業効果を引き出し、また、活用することによりその効果を最大限享受していくという方針を具体化させるため、ハード・ソフト両面において環境整備を着実に進めております。

そのような中、当委員会では、東北新幹線建設工事に伴い、合子沢地区所在の合子沢松森(２)遺跡について、その記録保存を図るため、発掘調査を実施いたしました。本報告書は、平成16、17年度に実施した発掘調査の成果をまとめたものであります。

調査の結果、平安時代の竪穴住居跡、円形周溝などの遺構を検出し、本遺跡は平安時代の集落跡を主体とする遺跡であることが判明いたしました。

本書が、今後の埋蔵文化財の保護並びに活用に役立つことができれば幸いに存じます。

最後になりましたが、調査の実施から本書の作成にわたる関係各機関並びに各位のご指導、地元町会のご協力、そして、調査委託者であります独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構鉄道建設本部東北新幹線建設局のご理解に対しまして、厚くお礼申し上げます。

平成19年３月

青森市教育委員会

教育長　角　田　詮二郎

例　　言

1　本書は青森市大字合子沢字松森に所在する合子沢松森(2)遺跡（青森県遺跡番号01262）の発掘調査報告書である。

2　本書に記載する内容は、独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構鉄道建設本部東北新幹線建設局より委託を受け、青森市教育委員会が平成16年度に実施した第１次調査及び平成17年度に実施した第２次調査の成果である。また、平成16年度刊行の「合子沢松森(2)遺跡発掘調査概報」並びに平成17年度刊行の「合子沢松森(2)遺跡発掘調査概報Ⅱ」は、各年度における調査成果について速報的にまとめたものであり、記載内容については、本書が優先する。

3　本書の執筆並びに編集は、青森市教育委員会が行った。小野貴之、蝦名純（青森市埋蔵文化財調査員）が担当した。執筆分担については、執筆者名を依頼原稿では文頭に、他は文末に記した。

4　土層の注記については、「新版標準土色帳」（小山正忠、竹原秀雄1993）に準拠した。なお、各遺構の計測値については、確認面から計測した数値である。

5　遺構番号は、原則的に遺構の種別毎に、確認順に番号を付した。また、精査後、遺構でないと判明したものについては、欠番とした。

6　図版番号及び表番号は、原則的に「第○図」、「第○表」とし、順番に通し番号を付したが、依頼原稿については「図○」、「表○」とし、個々に番号を付した。

7　挿図の縮尺は、各図毎に示した。また、写真図版の縮尺については統一を図っていない。

8　遺構図等における方位は、真北である。

9　第Ⅱ章第３節「遺跡周辺の地形と地質」及び出土石器の石質鑑定については、青森県総合学校教育センター高校教育課長　工 藤　一 彌　氏に執筆並びに鑑定を依頼した。

10　各種委託業務を実施した業者は、下記のとおりである。

放射性炭素年代測定（平成16年度）	パリノ・サーヴェイ株式会社
放射性炭素年代測定（平成17年度）	株式会社パレオ・ラボ
土器埋設遺構の内容物分析	パリノ・サーヴェイ株式会社

11　発掘調査における出土遺物、実測図、写真等の関係資料は、現在、青森市教育委員会で保管している。

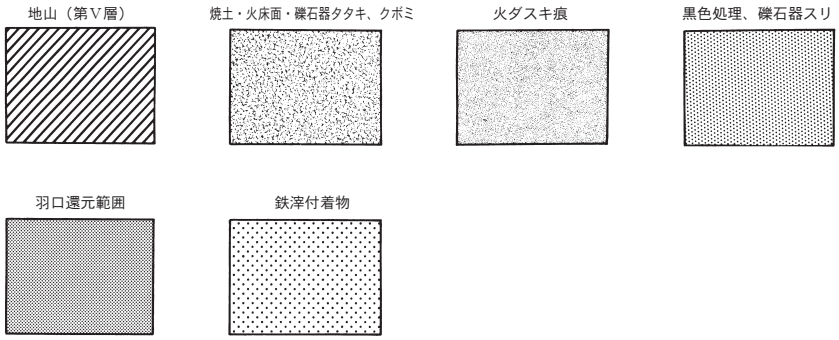
12　発掘調査及び報告書の作成にあたって次の各機関・各氏からご指導・ご協力を賜った。記して感謝の意を表する。(順不同・敬称略)

青森県教育庁文化財保護課・青森県埋蔵文化財調査センター・南部二区連合町会・合子沢町会・一町田　工・木村　高・佐々木　雅裕・笹森　一朗・相馬　信吉・永嶋　豊・成田　誠治

凡　　例

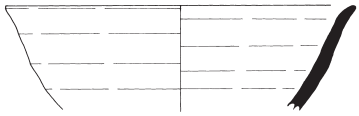
1　本報告書内で使用する、スクリーントーン・表現方法・略称は以下のとおりである。

（1）図中で使用したスクリーントーン

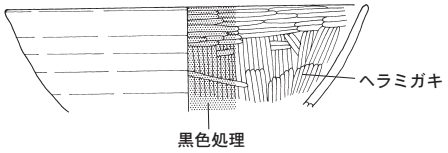


（2）土器実測図での表現方法

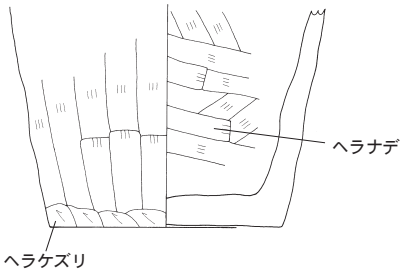
須恵器



黒色土器



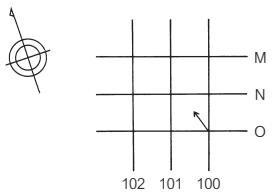
土師器



（3）石器実測図の剥片石器原礫面については、ドットを用いた。

（4）グリッドの呼称

（例）Ｏ－１００グリッド



（5）表中、写真図版中の図版番号の略称

「第○図△」　→　「○－△」

（6）図中、表中で使用した遺構の略称

「第○号竪穴住居跡」→「○住」　「第○号土坑」→「○土」　「第○号溝状土坑」→「○溝状」
「第○号土器埋設遺構」→「○埋」　「第○号焼土遺構」→「○焼」「第○号円形周溝」→「○円」
「第○号溝跡」→「○溝」　「第○号井戸跡」→「○井」
「第○号柱穴状ピット」→「○Ｐ」ないし「○ピット」

（7）図中で使用したアルファベットを用いた略称

Ｐ…土器　Ｓ…石器、石製品　ＣＬ…土製品　M…鉄関連遺物　ＬＢ…ロームブロック

2　出土遺物の分類

本遺跡出土遺物は、以下のように分類した。

（1）土器

第Ⅰ群土器　縄文時代の土器
第Ⅱ群土器　平安時代の土器
第Ⅲ群土器　中世の土器

（2）石器

・石鏃
・石槍
・石篦
・不定形石器
・剥片
・敲磨器
・砥石
・台石・石皿

（3）土製品

・ミニチュア土器
・有孔土製品
・土製支脚
・焼成粘土塊

（4）石製品

・碁石
・軽石石製品
・五輪塔

（5）鉄関連遺物

・羽口
・鉄製品
・鉄滓

目　　次

序
例言
凡例
目次
図版目次
表目次
写真目次
第Ⅰ章　調査の概要……1
第１節　調査に至る経緯……1
第２節　調査要項……3
第３節　発掘調査の方法……7
第４節　調査経過……9
第Ⅱ章　遺跡の環境……13
第１節　遺跡の環境……13
第２節　周辺の遺跡……13
第３節　遺跡周辺の地形と地質……17
第４節　基本層序……21
第Ⅲ章　検出遺構と出土遺物……29
第１節　検出遺構……29
１．竪穴住居跡……29
２．土坑……83
３．溝状土坑……95
４．土器埋設遺構……97
５．焼土遺構……99
６．円形周溝……102
７．溝跡……122
８．井戸跡……148
９．柱穴状ピット……153
第２節　出土遺物……172
１．土器……172
２．石器……180
３．土製品……185
４．石製品……185
５．鉄関連遺物……185
６．古銭……187
第Ⅳ章　自然科学的分析……189

第１節　平成16年度放射性炭素年代測定結果…… 189
第２節　平成17年度放射性炭素年代測定結果…… 191
第３節　合子沢松森（２）遺跡土器埋設遺構の内容物について…… 198
第Ⅴ章　調査のまとめ…… 205
第１節　円形周溝…… 205
第２節　土器埋設遺構…… 205
まとめ…… 208
引用・参考文献…… 210
観察表・計測表…… 213
写真図版…… 227
報告書抄録…… 271

図版目次

第１図　遺跡位置図 ……2
第２図　調査区位置図 ……6
第３図　調査区設定図 ……8
第４図　遺構配置図（１）……11・12
第５図　周辺の遺跡位置図 ……15
第６図　土層確認地点図 ……21
第７図　基本層序 ……22
第８図　遺構配置図（２）……23・24
第９図　遺構配置図（３）……25・26
第10図　遺構配置図（４）……27・28
第11図　第１号竪穴住居跡（１）……40
第12図　第１号竪穴住居跡（２）……41
第13図　第２号竪穴住居跡（１）……43・44
第14図　第２号竪穴住居跡（２）……45
第15図　第３号竪穴住居跡（１）……46
第16図　第３号竪穴住居跡（２）……47
第17図　第４号竪穴住居跡（１）……48
第18図　第４号竪穴住居跡（２）……49
第19図　第５号竪穴住居跡 ……50
第20図　第６号竪穴住居跡 ……51
第21図　第７号竪穴住居跡 ……52
第22図　第８号竪穴住居跡 ……53
第23図　第９号竪穴住居跡（１）……54
第24図　第９号竪穴住居跡（２）……55
第25図　第10号竪穴住居跡（１）……56
第26図　第10号竪穴住居跡（２）……57
第27図　第10号竪穴住居跡（３）……58
第28図　第11号竪穴住居跡 ……59
第29図　第12号竪穴住居跡（１）……60
第30図　第12号竪穴住居跡（２）……61
第31図　遺構内出土土器(竪穴住居跡)（１）……62
第32図　遺構内出土土器(竪穴住居跡)（２）……63
第33図　遺構内出土土器(竪穴住居跡)（３）……64
第34図　遺構内出土土器(竪穴住居跡)（４）……65
第35図　遺構内出土土器(竪穴住居跡)（５）……66
第36図　遺構内出土土器(竪穴住居跡)（６）……67
第37図　遺構内出土土器(竪穴住居跡)（７）……68
第38図　遺構内出土土器(竪穴住居跡)（８）……69
第39図　遺構内出土土器(竪穴住居跡)（９）……70
第40図　遺構内出土土器(竪穴住居跡)(10) ……71
第41図　遺構内出土土器(竪穴住居跡)(11) ……72
第42図　遺構内出土土器(竪穴住居跡)(12) ……73
第43図　遺構内出土石器(竪穴住居跡)（１）……74
第44図　遺構内出土石器(竪穴住居跡)（２）……75
第45図　遺構内出土石器(竪穴住居跡)（３）……76
第46図　遺構内出土石器(竪穴住居跡)（４）……77
第47図　遺構内出土土製品・石製品(竪穴住居跡) ……78
第48図　遺構内出土鉄関連遺物(竪穴住居跡)（１）……79
第49図　遺構内出土鉄関連遺物(竪穴住居跡)（２）……80
第50図　遺構内出土鉄関連遺物(竪穴住居跡)（３）……81
第51図　遺構内出土鉄関連遺物(竪穴住居跡)（４）……82
第52図　土坑（１)(１、２、４～７、10～12土) ……90
第53図　土坑（２)(13、15、16、19、22、23土) ……91
第54図　土坑（３)(25～31、33土) ……92
第55図　遺構内出土土器(土坑)（１）……93
第56図　遺構内出土石器・鉄関連遺物(土坑) ……94
第57図　溝状土坑(1、２溝状)……96
第58図　土器埋設遺構 ……97
第59図　遺構内出土土器(土器埋設遺構) ……98
第60図　焼土遺構（１～６焼) …… 101
第61図　円形周溝（１）……107・108
第62図　円形周溝（２）……109・110
第63図　遺構内出土土器(円形周溝)（１）…… 111
第64図　遺構内出土土器(円形周溝)（２）…… 112
第65図　遺構内出土土器(円形周溝)（３）…… 113
第66図　遺構内出土土器(円形周溝)（４）…… 114
第67図　遺構内出土石器(円形周溝)（１）…… 115
第68図　遺構内出土石器(円形周溝)（２）…… 116
第69図　遺構内出土石器(円形周溝)（３）…… 117
第70図　遺構内出土石器(円形周溝)（４）…… 118
第71図　遺構内出土石器(円形周溝)（５）…… 119
第72図　遺構内出土土製品・石製品・
　　鉄関連遺物(円形周溝) …… 120
第73図　遺構内出土鉄関連遺物(円形周溝) …… 121
第74図　溝跡（１)（１、５溝) …… 132
第75図　溝跡（２)（６～９溝) ……133・134
第76図　溝跡（３)(10～15溝) …… 135
第77図　溝跡（４)(16～23溝) ……137・138
第78図　溝跡（５)(27～30、35、36溝) ……139・140
第79図　溝跡（６)(38～41溝) …… 141
第80図　遺構内出土土器(溝跡)（１）…… 142
第81図　遺構内出土土器(溝跡)（２）…… 143
第82図　遺構内出土土器(溝跡)（３）…… 144
第83図　遺構内出土石器(溝跡) …… 145
第84図　遺構内出土土製品・石製品(溝跡) …… 146
第85図　遺構内出土鉄関連遺物(溝跡) …… 147
第86図　井戸跡（１)（１～３井) …… 150
第87図　井戸跡（２)（４～６井) …… 151
第88図　遺構内出土土器・石器・土製品(井戸跡) … 152
第89図　柱穴状ピット検出状況図（１）…… 156
第90図　柱穴状ピット検出状況図（２）…… 157
第91図　柱穴状ピット検出状況図（３）…… 158
第92図　柱穴状ピット（１)（８～32ピット) …… 159
第93図　柱穴状ピット（２)(33～65ピット) …… 160
第94図　柱穴状ピット（３)(66～87ピット) …… 161
第95図　柱穴状ピット（４)(89～117ピット)…… 162
第96図　柱穴状ピット（５)(118～148ピット) …… 163
第97図　柱穴状ピット（６)(149～169ピット) …… 164
第98図　柱穴状ピット（７)(170～190ピット) …… 165
第99図　柱穴状ピット（８)(191～211ピット) …… 166
第100図　柱穴状ピット（９)(212～231ピット) …… 167
第101図　柱穴状ピット(10)(232～247ピット) …… 168
第102図　柱穴状ピット(11)(248～267ピット) …… 169
第103図　柱穴状ピット(12)(268～285ピット) …… 170
第104図　遺構内出土土器・
　　鉄関連遺物(柱穴状ピット) …… 171
第105図　遺構外出土土器（１）…… 176
第106図　遺構外出土土器（２）…… 177

第107図　遺構外出土土器（３）…… 178
第108図　遺構外出土土器（４）…… 179
第109図　遺構外出土石器（１）…… 182
第110図　遺構外出土石器（２）…… 183
第111図　遺構外出土石器（３）…… 184
第112図　遺構外出土土製品・石製品・
　　鉄関連遺物・古銭 …… 188

表　目　次

第１表　周辺の遺跡一覧……16
第２表　柱穴状ピット観察表…… 153
第３表　遺構内（竪穴住居跡）出土土器観察表①…… 215
第４表　遺構内（竪穴住居跡）出土土器観察表②…… 217
第５表　遺構内（竪穴住居跡）出土石器計測表…… 218
第６表　遺構内（竪穴住居跡）出土土製品観察表…… 218
第７表　遺構内（竪穴住居跡）出土石製品観察表…… 218
第８表　遺構内（竪穴住居跡）出土鉄関連遺物計測表…… 218
第９表　遺構内（土坑）出土土器観察表…… 219
第10表　遺構内（土坑）出土石器計測表…… 219
第11表　遺構内（土坑）出土鉄関連遺物計測表…… 219
第12表　遺構内（土器埋設遺構）出土土器観察表…… 219
第13表　遺構内（円形周溝）出土土器観察表①…… 219
第14表　遺構内（円形周溝）出土土器観察表②…… 221
第15表　遺構内（円形周溝）出土石器計測表…… 221
第16表　遺構内（円形周溝）出土土製品観察表…… 221
第17表　遺構内（円形周溝）出土石製品観察表…… 221
第18表　遺構内（円形周溝）出土鉄関連遺物計測表…… 221
第19表　遺構内（溝跡）出土土器観察表①…… 222
第20表　遺構内（溝跡）出土土器観察表②…… 223
第21表　遺構内（溝跡）出土石器計測表…… 223
第22表　遺構内（溝跡）出土土製品観察表…… 223
第23表　遺構内（溝跡）出土石製品観察表…… 223
第24表　遺構内（溝跡）出土鉄関連遺物計測表…… 223
第25表　遺構内（井戸跡）出土土器観察表…… 223
第26表　遺構内（井戸跡）出土石器計測表…… 223
第27表　遺構内（井戸跡）出土土製品観察表…… 223
第28表　遺構内（柱穴状ピット）出土土器観察表…… 223
第29表　遺構内（柱穴状ピット）出土鉄関連遺物計測表… 224
第30表　遺構外出土土器観察表①…… 224
第31表　遺構外出土土器観察表②…… 225
第32表　遺構外出土石器計測表…… 225
第33表　遺構外出土土製品観察表…… 225
第34表　遺構外出土石製品観察表…… 225
第35表　遺構外出土鉄関連遺物計測表…… 225
第36表　遺構外出土古銭計測表…… 225

写真目次

写真１　調査区の状況…… 229
写真２　検出遺構（１）…… 230
写真３　検出遺構（２）…… 231
写真４　検出遺構（３）…… 232
写真５　検出遺構（４）…… 233
写真６　検出遺構（５）…… 234
写真７　検出遺構（６）…… 235
写真８　検出遺構（７）…… 236
写真９　検出遺構（８）…… 237
写真10　検出遺構（９）…… 238
写真11　検出遺構(10)…… 239
写真12　検出遺構(11)…… 240
写真13　検出遺構(12)…… 241
写真14　検出遺構(13)…… 242
写真15　検出遺構(14)…… 243
写真16　検出遺構(15)…… 244
写真17　検出遺構(16)…… 245
写真18　検出遺構(17)…… 246
写真19　検出遺構(18)…… 247
写真20　検出遺構(19)…… 248
写真21　検出遺構(20)…… 249
写真22　検出遺構(21)…… 250
写真23　遺構内出土土器（竪穴住居跡）（１）…… 251
写真24　遺構内出土土器（竪穴住居跡）（２）…… 252
写真25　遺構内出土土器（竪穴住居跡）（３）…… 253
写真26　遺構内出土土器（竪穴住居跡）（４）…… 254
写真27　遺構内出土土器（竪穴住居跡）（５）…… 255
写真28　遺構内出土土器
　　（土坑・土器埋設遺構・円形周溝）…… 256
写真29　遺構内出土土器（円形周溝・溝跡・井戸跡）…… 257
写真30　遺構外出土土器（１）…… 258
写真31　遺構外出土土器（２）…… 259
写真32　墨書土器・刻書土器…… 260
写真33　遺構内出土石器（竪穴住居跡）…… 261
写真34　遺構内出土石器
　　（竪穴住居跡・土坑・円形周溝）…… 262
写真35　遺構内出土石器（円形周溝）…… 263
写真36　遺構内出土石器（円形周溝・溝跡・井戸跡）…… 264
写真37　遺構外出土石器…… 265
写真38　遺構内出土土製品（竪穴住居跡・円形周溝・
　　溝跡・井戸跡）・遺構外出土土製品 …… 266
写真39　遺構内出土石製品（竪穴住居跡・溝跡）・
　　遺構外出土石製品…… 267
写真40　遺構内出土鉄関連遺物（竪穴住居跡）…… 268
写真41　遺構内出土鉄関連遺物
　　（竪穴住居跡・土坑・円形周溝）…… 269
写真42　遺構内出土鉄関連遺物（溝跡・柱穴状ピット）・
　　遺構外出土鉄関連遺物・古銭…… 270

第Ⅰ章　調査の概要

第１節　調査に至る経緯

八戸・新青森間の整備による東北新幹線全線開通は、関連線区の需要拡大による極めて高い収支改善効果や経済波及効果が見込まれることから地域振興に大きく貢献するものと期待されており、早期の開業が望まれている。日本鉄道建設公団（現　独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構、以下鉄道・運輸機構とする）においてはこの期待を受け、平成10年３月より工事に着手し、現在は平成22年度内の開業が予定されている。

そのような中、鉄道・運輸機構では、東北新幹線建設予定地内の埋蔵文化財包蔵地についてその所在の有無を青森県教育庁文化財保護課（以下県文化財保護課とする。）に照会を行った。

結果、建設予定地内には、青森県内で30個所以上の周知の遺跡が所在しており、これらの遺跡の対応については、鉄道・運輸機構と県文化財保護課、関係各機関で協議したところ、記録保存を前提とした発掘調査を必要とするものが多数であった。本市においても、事前の発掘調査を必要とする遺跡は、合子沢松森(２)遺跡をはじめ、新田(１)遺跡、高間(１)遺跡、三内遺跡、三内沢部(３)遺跡、朝日山(２)遺跡、深沢(３)遺跡、新町野遺跡等多数であり、その中で、本遺跡並びに新田(１)遺跡、高間(１)遺跡等の石江遺跡群、深沢(３)遺跡、新町野遺跡については、遺跡所在地の管轄である青森市に調査が依頼されることとなった。

当委員会では、これら東北新幹線建設事業に係る埋蔵文化財包蔵地について、まず平成13・14年度、深沢(３)遺跡の発掘調査を実施し、これを終了した。平成15年度からは、新田(１)遺跡、高間(１)遺跡等の石江遺跡群、並びに新町野遺跡の調査に着手している。平成16年度も石江遺跡群並びに新町野遺跡の発掘調査を継続して実施したが、新町野遺跡においては、当初23,120㎡を対象に、７月21日から11月19日の期間を予定し現地調査に着手したところ、用地買収が難航し、調査可能面積が3,500㎡と減少したため、調査期間を８月６日までと短縮することとなった。この状況を受け、鉄道・運輸機構からは、新町野遺跡の事業費余剰分によって、用地買収が良好で工事工程上も優先度の高い合子沢松森(２)遺跡の発掘調査を引き続き実施して欲しい旨の協議があり、平成16年８月２日付鉄運盛支用一第57号において、当委員会に対し調査面積5,750㎡の依頼がなされた。当委員会においても、これを了承し、合子沢松森(２)遺跡について平成16年８月19日から同年11月19日の期間、第一次となる発掘調査を実施した。なお、調査面積は当初5,750㎡の予定であったが、用地買収が難航したため、協議の結果3,500㎡に変更となっている。また、第一次調査の結果、本遺跡範囲が東側に拡張することが判明し、加えて工事計画にも変更があったため、残調査面積は、2,250㎡から4,250㎡へと増加することとなった。

引き続いて平成17年度についても、平成17年３月７日付鉄運盛支用一第133号において、当委員会に調査面積4,250㎡の調査依頼がなされ、当委員会では平成17年３月29日付青市教委文第35号で受託の旨回答している。その後、平成17年４月１日付で委託契約を締結した。なお、この当初契約は、旧青森市と旧浪岡町が合併し、新青森市が発足した事に係り、年度当初の４月から６月まで３ヶ月に事業期間を限定した暫定契約であった。そのため平成17年７月１日付で契約変更を行い、事業期間を通年とした本契約を締結し、平成17年５月９日から同年７月８日の期間、当委員会で調査面積4,250㎡の第二次調査を実施した。

北海道
青森市
秋田県
岩手県
青森港
合子沢松森（2）遺跡
1：50,000
1000 500 0 1000 3000 4000 m

第１図　遺跡位置図

第２節　調査要項

・平成16年度発掘調査要項

１　調査目的

鉄道建設・運輸施設整備支援機構鉄道建設本部東北新幹線建設事業に先立ち、工事予定地内に所在する埋蔵文化財包蔵地の発掘調査を実施し、遺跡の記録保存を行い、地域社会の文化財の活用に資する。

２　遺跡名及び所在地

合子沢松森(２)遺跡（青森県遺跡番号　01262）

青森市大字合子沢字松森

３　事業実施期間　　平成16年８月４日～平成17年３月31日

４　発掘調査期間　　平成16年８月19日～平成16年11月19日

５　調査面積　　3,500㎡

６　調査委託者　　鉄道建設・運輸施設整備支援機構鉄道建設本部盛岡支社

（現　鉄道建設・運輸施設整備支援機構鉄道建設本部東北新幹線建設局）

７　調査受託者　　青森市

８　調査担当機関　　青森市教育委員会事務局文化財課

９　調査指導機関　　青森県教育庁文化財保護課

10　予算措置　　調査委託者側で措置

11　調査体制

調査指導員	村越　潔	弘前大学名誉教授　(考古学)
	藤沼邦彦	弘前大学教授　(考古学)
	葛西勵	青森短期大学教授　(考古学)
	市川金丸	元青森県考古学会会長　(考古学)
	工藤一彌	青森県総合学校教育センター指導主事　(地質学)
調査事務局	青森市教育委員会	
教育長	角田詮二郎	
教育部長	古山善猛	
教育次長	最上進	
事務局参事		
文化財課長事務取扱	遠藤正夫	
主幹	多田弘仁	
主査	辻文子	
文化財主事	小野貴之	(調査担当)
	木村淳一	
	児玉大成	
	設楽政健	
主事	宮本大輔	(庶務担当)
	足澤愛子	(庶務担当)

調査補助員　市　川　亜紀子
小笠原　　勇
竹　内　絵美子
永　洞　佐哉子
沼　畑　伸　一
安　田　武　実

・平成17年度発掘調査要項

1　調査目的

鉄道建設・運輸施設整備支援機構鉄道建設本部東北新幹線建設事業に先立ち、工事予定地内に所在する埋蔵文化財包蔵地の発掘調査を実施し、遺跡の記録保存を行い、地域社会の文化財の活用に資する。

2　遺跡名及び所在地

合子沢松森(２)遺跡（青森県遺跡番号　01262)
青森市大字合子沢字松森

3　事業実施期間　平成17年４月１日～平成18年３月31日

4　発掘調査期間　平成17年５月９日～平成17年７月８日

5　調査面積　4,250㎡

6　調査委託者　鉄道建設・運輸施設整備支援機構鉄道建設本部東北新幹線建設局

7　調査受託者　青森市

8　調査担当機関　青森市教育委員会事務局文化財課

9　調査指導機関　青森県教育庁文化財保護課

10　予算措置　調査委託者側で措置

11　調査体制

調査指導員	村　越　　潔	弘前大学名誉教授	(考古学)
	藤　沼　邦　彦	弘前大学教授	(考古学)
	葛　西　　勵	青森短期大学教授	(考古学)
	市　川　金　丸	元青森県考古学会会長	(考古学)
	沼　山　源喜治	岩手県考古学会会長	(考古学)
	工　藤　一　彌	青森県総合学校教育センター高校教育課長	(地質学)

調査事務局　青森市教育委員会

教育長	角　田　詮二郎
教育部長	古　山　善　猛
理事	月　永　良　彦
教育次長	最　上　　進
事務局参事	
文化財課長事務取扱	遠　藤　正　夫
主　　幹	多　田　弘　仁
主　　査	佐々木　競　子

文化財主事	小　野　貴　之（調査担当）
	木　村　淳　一
	児　玉　大　成
	設　楽　政　健
主　　事	越　谷　美由紀（庶務担当）
	當　麻　良　人（庶務担当）
調査補助員	小　野　み　き
	嶋　影　壮　憲
	竹　内　絵美子
	永　洞　佐哉子
	沼　畑　伸　一
	藤　田　ひろみ
	安　田　武　実

※新幹線路線は概略

第2図　調査区位置図

第３節　発掘調査の方法

調査区の設定にあたっては、平成16年度段階の新幹線路線工事計画図を基に幅杭Ｌ680、Ｒ680より打設したセンター杭Ｃ680（ＡＯ－100）と、幅杭Ｌ640、Ｒ640より打設したセンター杭Ｃ640（Ｏ－90）とを結ぶ直線を調査区東西方向の基準線（Ｏライン）とした。また、Ｃ680でこれに直交する直線を調査区南北方向の基準線（100ライン）とし、調査区全体に４ｍ×４ｍのメッシュを組んだ。なお、調査区南北方向の基準線100ラインは磁北から17°東偏する。

グリッド杭の表示は、Ｏ－100を基点とし、東側へ99、98、西側へ101、102の順に算用数字を付し、また、北側へＮ、Ｍ…、Ｂ、Ａ、ｚ、ｙ、ｘ…、南側へＰ、Ｑ…、Ｙ、Ｚ、ＡＡ、ＡＢの順にアルファベット大文字並びに小文字を付した。

各グリッドの呼称は、アルファベットと算用数字を組み合わせ、南東隅のグリッド杭の表示によるものとした（凡例参照）。

調査区域での測量原点（Ｂ．Ｍ）は、調査区付近に所在する新幹線建設用基準点ＢＭ14（標高29.803m）より原点移動を行い、調査区内に標高38.651ｍの原点（Ｂ.Ｍ. １（Ｏ－90））を設置した。これを基準として、調査区全域に対処するため適宜数個所に設置した。

各遺構は、原則として種類別、確認順に１番から遺構番号を付した。精査後、遺構でないと判明したものについては、欠番とした。

遺構精査にあたっては、原則として４分法、２分法を用いることとし、その他遺構の重複等必要に応じ、土層観察用のベルトを設定した。

遺構の実測図作成においては、平面図、断面図を主体に作成した。また、遺構内出土遺物については、必要に応じ、微細図、分布図を作成した。実測にあたっては、基本的に簡易遣り方測量で行い、縮尺については、原則として20分の１とし、その他必要に応じ10分の１とした。写真撮影については、土層断面、完掘状況を主体に撮影し、必要に応じ、遺物出土状況等を撮影した。フィルムは、モノクロームとカラーリバーサルを併用した。

出土遺物の記録は、遺構内外の遺物ともに、必要に応じ出土状況図、分布図を作成し、出土位置を記録した。図面の縮尺については、基本的に20分の１もしくは10分の１とした。その他必要に応じ写真撮影を行った。

75
80
85
90
95
100
105
110
115
120
125
130
V
Z
E
J
O
T
Y
AD
AF
50m
0
平成16年度調査範囲
平成17年度調査範囲

第3図　調査区設定図

第４節　調査経過

・平成16年度

８月19日、調査開始式を行い、調査区内の環境整備を開始した。

８月20日、環境整備と並行し、調査区内に基準杭の設置を開始した。

８月下旬、調査区西側の110ライン以西における遺構密度が高いと思われ、この地点の調査を優先することにした。

９月中旬、引き続き調査区西側の調査を進めた。

10月中旬、調査区東側の精査を開始した。調査時点で本遺跡東端とされている地点での遺構密度が高いことから、遺跡範囲を拡張する必要があるものと思われた。

10月下旬、溝跡、ピット等引き続き、調査区東側の調査を続けた。

11月５日、調査員　葛西　勵氏に現地指導を請い、第１号土器埋設遺構には土師器の甕２個体が横位に納められており、いわゆる「合口甕棺」、「合口埋甕」タイプのものであることを御教示いただいた。

11月７日、現地見学会を実施した。

11月19日、調査終了式を行い、第一次調査を終了した。検出遺構数は、竪穴住居跡７軒、土坑24基、土器埋設遺構１基、溝状土坑２基、焼土遺構２基、溝跡22条、井戸跡５基、柱穴状ピット148基である。出土遺物は、土師器、須恵器、縄文土器、石器、土製品、石製品、鉄関連遺物等ダンボール箱換算で25箱が出土した。

・平成17年度

５月９日、重機による表土剥ぎを開始した。また、本年度調査区内に基準杭の設置を開始した。

５月16日、発掘作業員の作業開始日であり、調査開始式を行った。また、機材整理や環境整備をおこなった。

５月18日、105～112ライン間においては、緩斜面と思われる原地形が、近現代の削平により平坦に削平を受けていることが判明した。

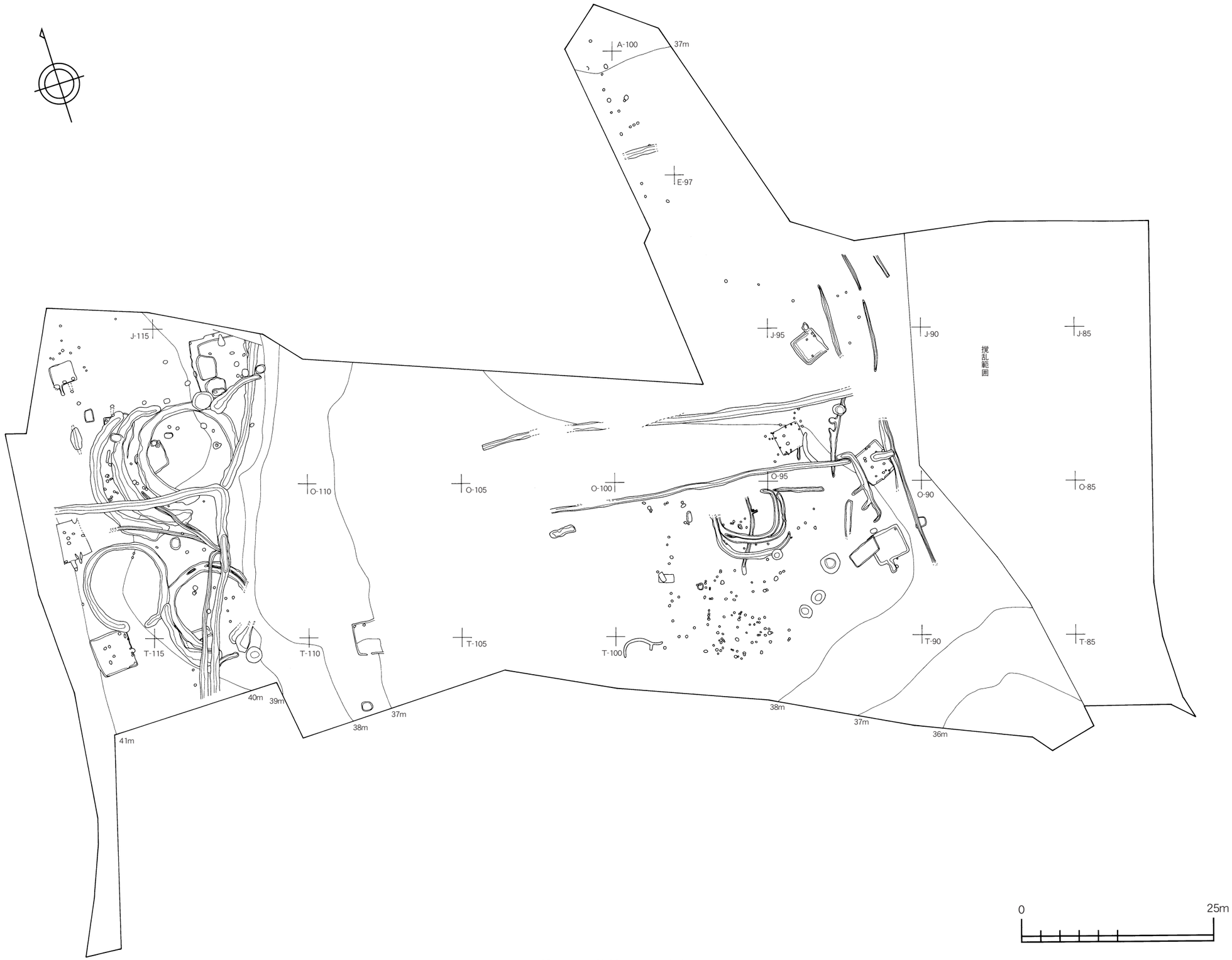
５月下旬、遺構密度の高い調査区西側の遺構精査を進めた。

６月中旬、調査区東側の遺構精査等作業を開始した。91ライン以東は、昨年度の調査結果を受け遺跡範囲を拡張したが、部分的にトレンチを設定し確認したところ、大半が既に深く削平され、廃材等が大量に埋め立てられていることが判明した。

６月下旬、調査区東側の調査を終了した。

７月８日、調査終了式を行い、第二次調査を終了した。検出遺構数は、第一次調査で一部検出の遺構と数が重複するが、竪穴住居跡６軒、円形周溝６基、土坑７基、井戸跡１基、焼土遺構３基、溝跡13条、柱穴状ピット62基である。出土遺物は、土師器、須恵器、縄文土器、石器、土製品、石製品、鉄関連遺物等ダンボール箱換算で32箱が出土した。

（小野貴之）


A-100
37m
E-97
J-115
J-95
J-90
J-85
撹乱範囲
O-110
O-105
O-100
O-95
O-90
O-85
T-115
T-110
T-105
T-100
T-90
T-85
40m
39m
41m
38m
37m
38m
37m
36m
0
25m

第４図　遺構配置図（1）

第Ⅱ章　遺跡の環境

第１節　遺跡の環境

青森市は、人口約31万人を数え、面積824.56㎢を測る本県の県都である。青森市の地形は、東西約10㎞、南北約５㎞の北に開いた三角形を呈する青森平野と、それを囲う形で、東側に東岳を中心とした山地、西側には標高50～150ｍの比較的緩傾斜の開析が進んだ丘陵、南東～南側には八甲田山の裾野にあたる火山性の台地とからなり、北で陸奥湾と接している。

青森平野の南東～南側に広がる八甲田山火砕流堆積物で構成された火山性台地は、北～北西に流れる入内川、堤川、合子沢川、横内川、駒込川等多数の河川により開析される。火山性台地の先端部は、舌状の低丘陵となり北側の平野部へ張り出す形となる。東側の山地は、奥羽山脈の一部をなす東岳山地で、青森市浅虫付近で海岸に接し北の夏泊山地へと続いている。西側の丘陵は、大釈迦丘陵から続く岡町層、鶴ヶ坂層を基盤とした緩傾斜な丘陵となる。この丘陵は、南北方向に走る入内断層を境とし平野部及び火山性台地と接している。

本遺跡は、合子沢川の枝沢により分けられた、火山性台地の北西端に位置する。合子沢川は、八甲田連峰を水源とし、台地を北流し青森平野で合流して荒川となり、その後陸奥湾へと注いでいる。本遺跡は、青森市大字合子沢字松森に所在し、合子沢地区の稲荷神社から南へ200ｍ程の地点、合子沢川により開析された標高35～50ｍの河岸段丘上に立地する。

第２節　周辺の遺跡

青森市内には、平成18年度末現在、約380個所の遺跡が所在している。本遺跡周辺の火山性台地上の低丘陵や平野部西側の入内川左岸に位置する比較的開析が進んだ丘陵にも複数の遺跡が所在している。本遺跡を含む周辺に所在する遺跡の位置を図示した（第５図）。

本遺跡は平安時代の時期を主体とする。本遺跡の周辺に所在する遺跡は、縄文時代早期～中世にわたる時期のものが見られる。火山性台地の低丘陵の平坦面には、縄文時代前期後半～後期前半と平安時代、入内川左岸の丘陵の縁辺部東側には平安時代の時期を主体とした遺跡が多数見られる。

周辺の遺跡で最も古い時期の資料は、横内（１）遺跡と野木（１）遺跡に見られる。横内（１）遺跡は、合子沢川と横内川に挟まれた河岸段丘上の標高26ｍの地点に位置し、隣接する横内（２）遺跡とともに、平成５年に当委員会により発掘調査が実施されている。縄文時代早期の白浜式土器が出土している他、前期末葉の円筒下層ｄ$_2$式期の竪穴住居跡等が検出されている。横内（２）遺跡では、前期後半～中期前半と推定されているフラスコ状土坑29基等が検出されている（青森市教育委員会　1995ａ）。また、本遺跡南西側、標高50～90ｍの丘陵上に位置する野木（１）遺跡は、平成７年から平成10年にわたり青森県埋蔵文化財調査センター（以下県埋文と略す）により、また、平成９・10年に当委員会により発掘調査が実施されている。平安時代の大規模集落跡等が検出される他、円形で底面にピットを持つ６基の土坑が検出され、縄文時代早期の落とし穴と推定されている（青森県教育委員会 1998他、青森市教育委員会 1998ｃ、2001ａ）。

縄文時代前期～中期の時期では、遺跡数が増加する。相当する遺跡として、横内（１）遺跡、横内（２）

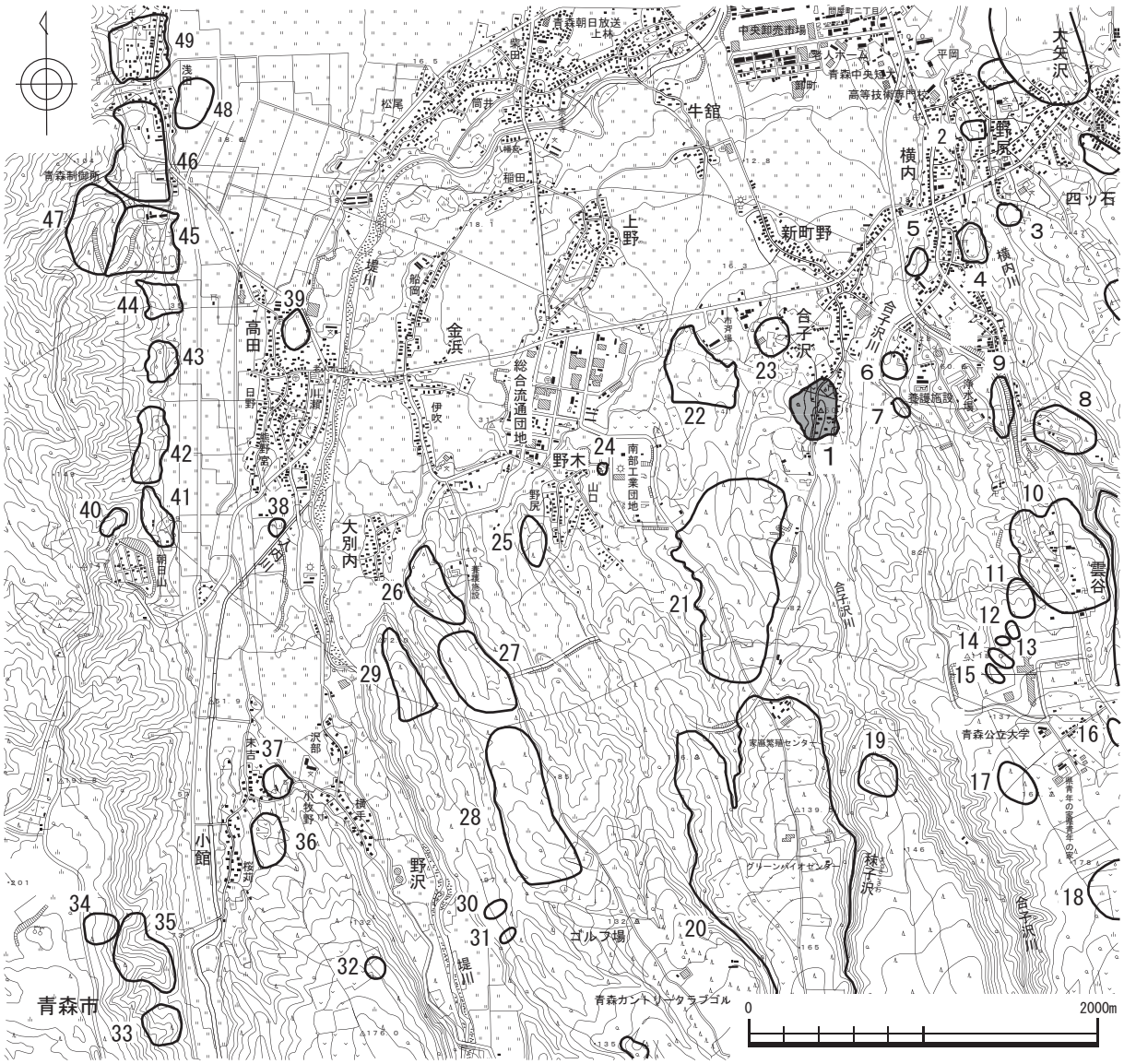
遺跡、桜峯(１)遺跡、桜峯(２)遺跡、新町野遺跡、野木(１)遺跡、山吹(１)遺跡等が挙げられる。桜峯(１)遺跡は、横内川と合子沢川に挟まれた標高100～120mの丘陵上に位置する。平成７、８、11年に当委員会により発掘調査が実施され、前期末葉～中期の集落跡が検出され、小規模ながら竪穴住居跡・土坑・遺物集中ブロックのセット関係が確認されている（青森市教育委員会　1998ａ、2000ｂ)。桜峯(２)遺跡は、桜峯(１)遺跡と同一丘陵上の標高40～50mの地点に位置する。平成６年に当委員会により発掘調査が実施され、中期前半の遺物を主体とし、同時期の竪穴住居跡、土坑等が検出されている。(青森市教育委員会　1995ｂ)。新町野遺跡は、牛舘川と合子沢川に挟まれた標高20～40mの丘陵上に位置する。平成７～10年に県埋文により、また、平成９・10・15～18年に当委員会により発掘調査が実施されている。縄文時代前期末葉と平安時代の時期を主体とし、縄文時代前期末葉の大型住居跡、特殊施設を持つ竪穴住居跡等の他、前期末葉の土坑墓が検出され、土器と特定の器種の石器のセット関係が確認されている（青森県教育委員会1998、2000ａ、青森市教育委員1998ｂ、2001ａ、2006ｃ)。山吹(１)遺跡は、荒川と牛舘川に挟まれた標高100m程の丘陵上に位置する。平成２年に当委員会により調査が実施され、縄文時代中期後半の集落跡の他､円筒上層ｃ・ｄ・榎林式期の遺物が検出されている(青森市教育委員会　1991)。

縄文時代後期の時期には、火山性台地の標高が比較的高い地点に遺跡が所在する。雲谷山吹(６)遺跡、小牧野遺跡等が挙げられる。雲谷山吹(６)遺跡は、合子沢川と横内川に挟まれた台地上の、青森公立大学敷地内の標高112～120mの山林に所在する。平成12年に隣接する雲谷山吹(４)・(５)・(７)遺跡とともに当委員会により調査が実施され、平安時代の集落跡の他に縄文時代前期末葉～中期初頭、後期の遺物が出土し、後期十腰内Ⅰ式期のフラスコ状土坑が検出されている（青森市教育委員会　2003ａ)。小牧野遺跡は、荒川と入内川に挟まれた標高140mの丘陵に位置し、平成元年から当委員会が継続して調査を実施している。後期前葉の時期に大規模な土地造成と特異な配石によって構築された環状列石を主体とし、竪穴住居跡、土坑墓等が検出されている。縄文時代における精神生活や社会構造、土地造成や多量の大型石の運搬、設置等の大規模な土木工事の実態を知る上で貴重な遺跡である（青森市教育委員会1996他)。

縄文時代晩期以降の時期では、遺構の検出等具体的な資料は少なくなる。入内側左岸の丘陵地に位置する朝日山(２)遺跡では、県埋文により発掘調査が実施され、小規模な土坑墓が丘陵全体から検出されている他、土坑墓内から籃胎漆器等の漆製品やヒスイ製玉類等の出土が見られる（青森県教育委員会2002ａ他)。

弥生時代、続縄文時代に関する資料は、荒川を挟んで小牧野遺跡の東側に位置する葛野(２)遺跡（青森市教育委員会　1997ａ、1999ａ)、葛野(２)遺跡と同一丘陵に位置する葛野(３)遺跡（青森市教育委員会　2002ｂ）から弥生時代前期～後期の土器片、小牧野遺跡から続縄文時代後北Ａ～Ｃ$_2$－Ｄ式相当の資料が出土している。

平安時代の時期に、集落跡の検出が増加する。朝日山(１)～(３)遺跡は、入内側左岸の丘陵東側に位置し、いずれも９世紀後半～11世紀代の集落跡が検出されている。朝日山(１)遺跡では、尾根状地形の緩斜面において、一定の区域で繰り返し住居が構築され、朝日山(２)遺跡でも同様に一定の区域に集中して竪穴住居跡が構築され、数時期にわたって営まれた集落跡と推定されている（青森県教育委員会2002ａ他)。また、朝日山(３)遺跡では、急斜面上に集落跡が検出されている。10世紀前半の時期に、住居跡・掘立柱建物跡・外周溝の構造の建物跡が重複無く整然と構築される（青森県教育委員会　1995、1997)。新町野遺跡は、９世紀後半～11世紀に営まれた集落跡が検出されている。集落は数時期に分けら



第５図　周辺の遺跡位置図

れ、住居跡の他、多数の円形周溝が密集した状況で検出されている。野木遺跡では、９世紀後半～10世紀前半に営まれた大規模な集落跡が検出されている。集落は数時期に分けられ、住居跡の他、焼成遺構、住居跡床面にロクロピット、畝状遺構、鉄生産関連遺構、ロクロ回転盤、鉄関連遺物等が検出され、当時の生産構造及び社会構造の解明等に良好な資料である。葛野（２）遺跡は、荒川と合子沢川に挟まれた台地の西端、標高65m付近に位置する。９世紀後半～10世紀前半に営まれた集落跡が検出されている。火山性台地上の比較的標高の高い地点には、雲谷山吹（４）～（７）遺跡が所在する。９世紀後半～10世紀初頭の時期の集落跡が検出されている。

中世以降は、縄文時代晩期以降から平安時代以前と同様に、遺構等の検出例は少なくなる。朝日山（１）遺跡では、丘陵の平坦面の縁辺部から中世の掘立柱建物跡が検出されている。その他、城館跡等が台地の縁辺部に所在し、横内川左岸の丘陵の先端に横内城跡、横内川右岸に位置する野尻館跡、堤川左岸の水田に張り出した丘陵の先端部に高田城跡等が見られる（青森県教育委員会　1983ａ）。

（蝦名　純）

第１表　周辺の遺跡一覧

番号	遺跡番号	遺　跡　名	種　　別	所　在　地	時　　代	備　　考
1	262	合子沢松森(2)遺跡	集落跡	大字合子沢字松森	平安	青森市教育委員会　2005、2006ａ
2	173	野尻館遺跡	城館跡	大字野尻字野田	中世	青森県教育委員会　1983ａ
3	215	四ッ石(3)遺跡	散布地	大字四ッ石字里見	縄文	
4	174	横内城跡	城館跡	大字横内字亀井	中世	青森県教育委員会　1983ａ
5	293	横内(3)遺跡	散布地	大字横内字亀井	平安	
6	164	横内(1)遺跡	集落跡	大字合子沢字山崎	縄文	青森市教育委員会　1995ａ
7	206	横内(2)遺跡	集落跡	大字合子沢字山崎	縄文	青森市教育委員会　1995ａ
8	284	横内猿沢遺跡	散布地	大字横内字猿沢	平安	
9	208	桜峯(2)遺跡	集落跡	大字横内字桜峯、字亀井	縄文(前・中・後)	青森市教育委員会　1995ｂ
10	207	桜峯(1)遺跡	集落跡	大字横内字桜峯	縄文(前・中・後)	青森市教育委員会　1998ａ、2000ｂ
11	285	雲谷山吹(3)遺跡	散布地	大字雲谷字山吹	縄文	青森市教育委員会　2000ｂ
12	303	雲谷山吹(4)遺跡	集落跡	大字合子沢字山崎	縄文(中・晩)、近代	青森市教育委員会　2003ａ
13	304	雲谷山吹(5)遺跡	集落跡	大字合子沢字山崎	縄文(後・晩)、平安	青森市教育委員会　2003ａ
14	305	雲谷山吹(6)遺跡	集落跡	大字合子沢字山崎	縄文(後)、平安	青森市教育委員会　2003ａ
15	306	雲谷山吹(7)遺跡	集落跡	大字合子沢字山崎	縄文(前)、平安	青森市教育委員会　2003ａ
16	310	雲谷山吹(8)遺跡	散布地	大字雲谷字山吹	縄文(中・後)	
17	247	雲谷山崎遺跡	散布地	大字雲谷字山崎	縄文、平安	
18	310	雲谷山吹(8)遺跡	散布地	大字雲谷字山吹	縄文(中・後)	
19	312	合子沢松森(3)遺跡	集落跡	大字合子沢字松森	平安	
20	271	山口遺跡	散布地	大字野木字山口、合子沢字松森、小畑字小杉	縄文(前・後)	
21	210	野木(1)遺跡	散布地、集落跡	大字野木字山口、野木字野尻、合子沢字松森	縄文、平安	青森市教育委員会　1998ｃ、2001ａ 青森県教育委員会　1998、1999、2000ｃ
22	161	新町野遺跡	集落跡	大字新町野字菅谷	縄文(前・後)、平安	青森市教育委員会1998ｂ、2001ａ、2006ｃ 青森県教育委員会1998、2000ａ
23	261	合子沢松森(1)遺跡	散布地	大字合子沢字松森	縄文	
24	290	野木山口遺跡	散布地	大字野木字山口	平安	
25	216	野木沢田遺跡	散布地	大字野木字沢田	平安	
26	217	葛野(1)遺跡	散布地	大字大別内字葛野	縄文	
27	218	葛野(2)遺跡	集落跡	大字大別内字葛野	縄文、弥生、平安	青森市教育委員会　1997ａ、1999ａ
28	308	葛野(3)遺跡	集落跡	大字大別内字葛野	縄文、平安、中世	青森市教育委員会　2002ｂ
29	237	山吹(4)遺跡	散布地	大字大別内字山吹	縄文、平安	
30	186	山吹(1)遺跡	集落跡	大字大別内字山吹	縄文(中)	青森市教育委員会　1991
31	187	山吹(2)遺跡	散布地	大字大別内字山吹	縄文	
32	176	小牧野遺跡	環状列石	大字野沢字小牧野	縄文(後)	青森市教育委員会　1996、1997ｂ、1998ｄ、2000ａ、2001ｂ、2002ａ、2003ｂ、2006ｂ
33	244	亀山(3)遺跡	散布地	大字小館字亀山	縄文(晩)	
34	242	亀山(1)遺跡	散布地	大字小館字亀山	縄文(後・晩)	
35	243	亀山(2)遺跡	散布地	大字小館字亀山	縄文(前・中)	
36	259	桜苅(2)遺跡	散布地	大字小館字桜苅	縄文	
37	172	小館遺跡	城館跡	大字小館字桜苅	中世	青森県教育委員会　1983ａ
38	238	川瀬遺跡	散布地	大字高田字川瀬	平安	
39	170	高田城跡	城館跡	大字高田字日野	中世	青森県教育委員会　1983ａ
40	171	高田蝦夷館跡	城館跡	大字高田字朝日山	中世	青森県教育委員会　1983ａ
41	258	朝日山(7)遺跡	散布地	大字高田字朝日山	平安	
42	257	朝日山(6)遺跡	散布地	大字高田字朝日山	平安	
43	223	朝日山(5)遺跡	散布地	大字高田字朝日山	平安	
44	222	朝日山(4)遺跡	散布地	大字高田字朝日山	平安	
45	165	朝日山(1)遺跡	集落跡	大字高田字朝日山	平安	青森県教育委員会　1983ｂ、1993、1994
46	197	朝日山(2)遺跡	集落跡	大字高田字朝日山	縄文、平安	青森県教育委員会　2002ａ、2002ｂ、2003ａ、2003ｂ、2004ａ、2004ｂ
47	198	朝日山(3)遺跡	集落跡	大字高田字朝日山	縄文、平安	青森県教育委員会　1995、1997
48	13	細越館遺跡	集落跡	大字細越字種元	縄文(晩)、平安	
49	212	栄山(2)遺跡	散布地	大字細越字栄山、高田字朝日山	縄文(前)、平安	

第３節　遺跡周辺の地形と地質

青森県総合学校教育センター　工　藤　一　彌

青森平野は新生代第四紀（約170万年前～現在）に形成された海岸平野であり、東西約10㎞、南北約５㎞のほぼ直角三角形をしている。北は陸奥湾に面し、南～東は八甲田山につらなる火山性の台地、西は標高50～150mの比較的緩傾斜の開析が進んだ丘陵に囲まれている。火山性の台地は北～北西に流れる入内川、堤川、合子沢川、横内川、駒込川などの河川によって細分される。本遺跡は、二つの河川に挟まれている火山性台地の北西端、合子沢川の左岸の河岸段丘面上に位置している。

平野部と西部の丘陵地との境界には「入内断層」と呼ばれる南北方向の大きな断層が存在している。この断層は第四紀洪積世初頭（約170万年前）から活動を始め、断層の東側が最大で800m以上も北に落ち込み、南東の後背地から運ばれた大量の砕屑物により非常に厚い地層が形成され、海岸平野が形成されていった。

南東側の火山性台地は、八甲田カルデラから噴出した八甲田火砕流堆積物、いわゆる「田代平溶結凝灰岩」から構成されており、八甲田火山地の北方につづき標高は40～500mである。八甲田牧場（標高500m）、雲谷平（200m）、梨の木平（200m）、青森カントリークラブゴルフ場（150m）、月見野霊園（100m）など緩傾斜の平坦面を広く残しており、傾斜は堤川右岸の青森カントリークラブゴルフ場付近で約2.5度、左岸の小牧野遺跡南方で約３度、平均で３度前後である。この台地は入内川、堤川、合子沢川、横内川、駒込川など北西～北に流れる河川によって開析されている。溶結凝灰岩が侵食に弱いためいずれの河川の谷壁も25～40度と他の開析谷に比べて著しく急傾斜となっている。八甲田火砕流堆積物は「入内断層」によってできた低地を埋め、緩やかな勾配で北西側に傾斜し、横内～駒込付近から平野に没し、平野部の試錐データによると断層の東側で1000m、市の中心部では500m、市東部の矢田前付近では300mの深さまで達している。

西部の丘陵地は開析がすすみ、稜線の標高は50～150mで緩やかに北に傾斜している。砂・砂質シルト層からなる洪積世の岡町層を基盤に砂・砂礫や八甲田火砕流堆積物などが重なり、最上位に火山灰層が堆積している。八甲田火砕流堆積物は村岡・長谷（1990）によると、大きく２つに区分され、そのうち１期のものには水底火砕流堆積物として産する場合があり、従来の鶴ヶ坂層がこれに相当するという。２期のものは従来の田代平溶結凝灰岩に相当し、陸上火砕流堆積物が主体である。村岡・長谷（1990）はK-Ar法により八甲田第１期火砕流堆積物を約65万年前、八甲田第２期火砕流堆積物を40万年前の活動としている。

本地域の火山灰層は沢田（1976）により３層に区分され、下位から三内火山灰・大谷火山灰・月見野火山灰と呼ばれている。下位の三内火山灰は中部と最下部に浮石帯をもつ赤褐色粘土質降下火山灰で、中位の大谷火山灰は赤褐色粘土質降下火山灰と茶褐色浮石質降下火山灰よりなり、分布範囲は狭い。上位の月見野火山灰は最も広範囲に分布しており、黄褐色浮石質火山灰からなり、浮石流～火山灰流の部分もある。これらの火山灰層からなる地層の上位に十和田火山噴出物（八戸火砕流）と段丘構成層が重なる。

遺跡は合子沢川左岸の河岸段丘上に位置している。段丘面は西部の台地を構成する地層の上位に砂礫層が分布している。この段丘の基盤となっている地層は、工業団地造成工事や牛舘川遊水池工事によっ

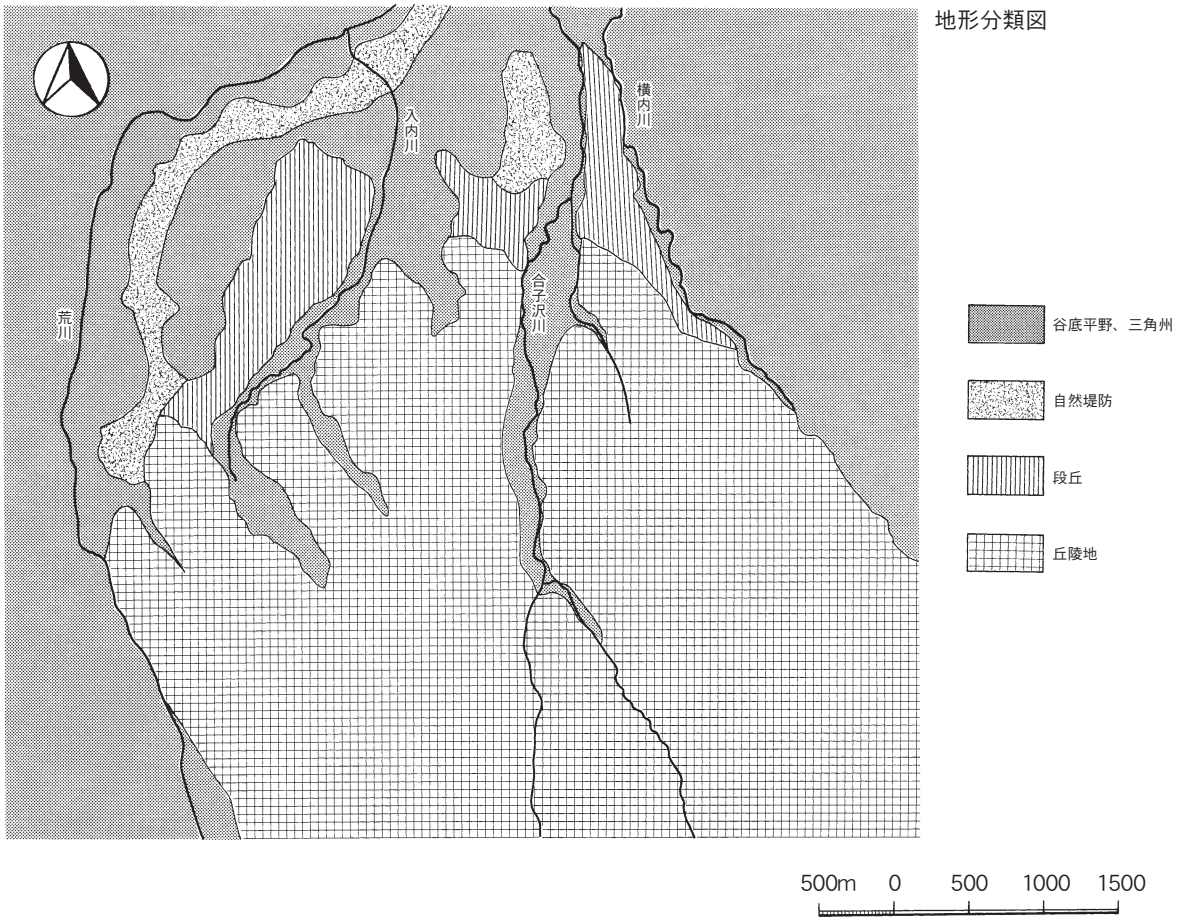
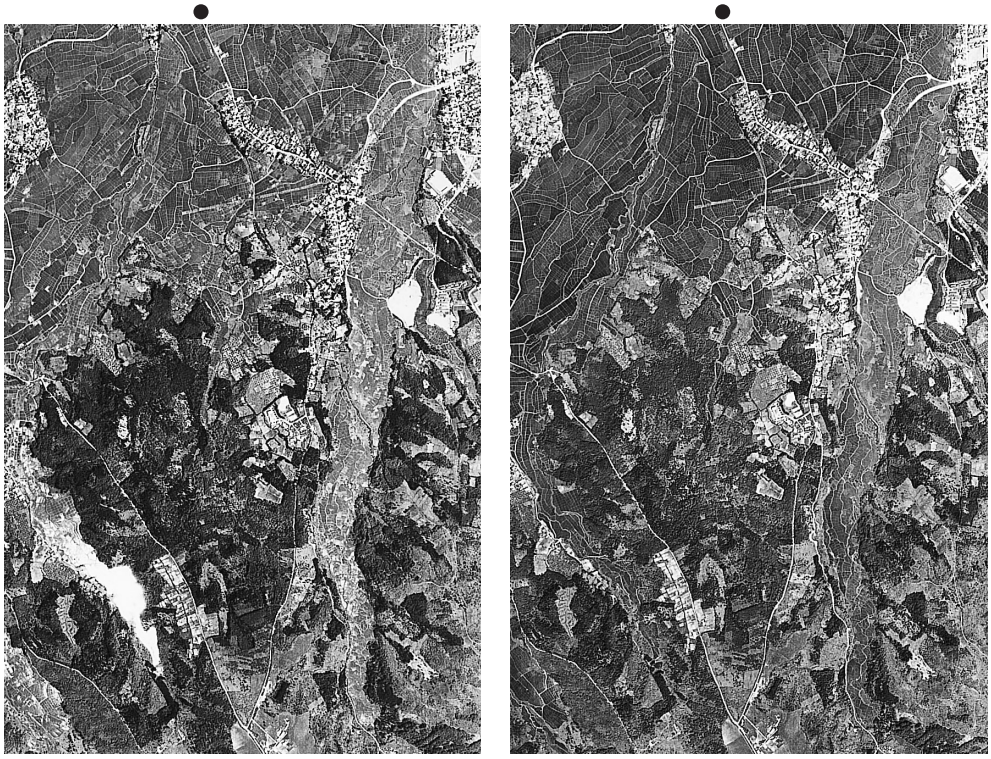


図1　遺跡周辺の地形と地質



国土地理院撮影　1969年　空中写真（実体視）

て観察できるように八甲田第２期火砕流堆積物である。下位の八甲田第１期火砕流堆積物は遺跡周辺では確認されていない。八甲田第２期火砕流堆積物は、塊状無層理で灰色を特徴とし、風化が進んだ所では赤紫色を帯びる所も多い。径が１㎜前後の石英や斜長石を多量に含み、軽石や本質レンズは比較的少ないため、風化面では石英などの鉱物粒の多いことが特徴であり、上部には径３～６㎝の球状の結核である「ダンゴ石」を大量に含むことがあり、上位の火山灰との境界面は起伏に富み、風化帯や再堆積による白色の粘土層の存在することもある。層厚は50～100mに見積もられており、堤川や駒込川の中流部などのように下位の第三系は比較的浅いところにあるものと推定されるが、遺跡周辺では下湯ダム付近で確認できる。青森平野周辺では野内川上流一帯、駒込川中流、雲谷峠付近、堤川中上流には新第三紀中新世中期の地層が分布するので、本遺跡の第四系の基盤にも同様の地層が分布しているものと推定できる。黒色土の直下に分布する黄褐色火山灰層は月見野火山灰と考えられ厚さ20～50㎝で広範囲に分布している、その下位に存在する赤褐色の粘土質火山灰は大谷火山灰と考えられ、本遺跡では八甲田第２期火砕流堆積物の風化帯の上に重なる。火山灰層は、地形の起伏によって厚さが異なり、凸部で薄く、凹部で厚くなっており、最上位の黒色土でも同様の傾向が認められる。また、遺跡北西の遊水池工事では青森市史編纂事業の調査により遊水池の側壁からは約13000年前の火砕流堆積物、遊水池の底面の泥炭中の埋没樹は約5000年前と報告されている。約13000年前の火砕流堆積物は流通団地の基盤を構成しており、青森平野の周辺部に分布する他の火砕流堆積物と同様に十和田起源の八戸火砕流と推定できる。また、約5000年前の泥炭層と埋没樹は牛舘川遊水池に分布し、縄文海進時の堆積物と考えられる。

引用・参考文献

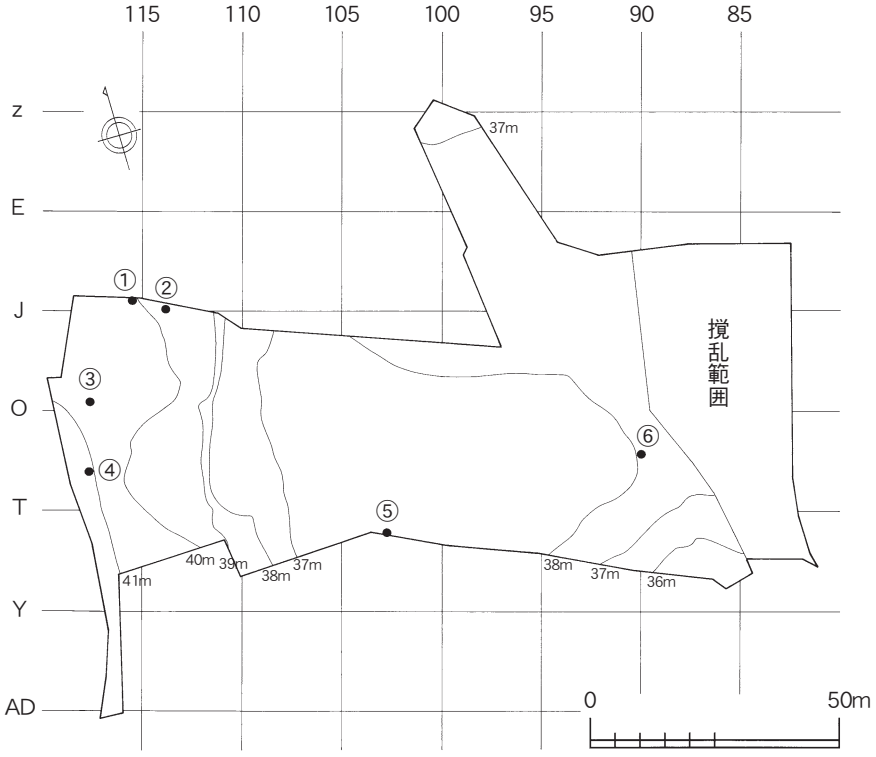
沢田庄一郎　1976　近野遺跡発掘調査報告書（Ⅲ）　（青森県教育委員会）
沢田庄一郎　1976　三内丸山（Ⅱ）遺跡発掘調査報告書　（青森県教育委員会）
沢田庄一郎　1978　近野遺跡発掘調査報告書（Ⅳ）　（青森県教育委員会）
池田敬　1979　青森市の自然　（青森市教育委員会）
青森県　1982　土地分類基本調査　「青森西部」
青森県　1983　土地分類基本調査　「青森東部」
青森県　1984　土地分類基本調査　「油川」
青森県　1985　土地分類基本調査　「浅虫」
青森県　1972　青森県の地質　青森県水産商工部観光鉱政保安課
青森県　1998　青森県の地質　青森県商工観光労働部鉱政保安課
青森県　2001　青森県史　自然編　「地学」　青森県史編さん自然部会
金属鉱業事業団　1976　昭和50年度広域調査報告書　「八甲田地域」
上村不二雄　1983　地域地質研究報告　５万分の１図幅　浅虫地域の地質　地質調査所
藤井敬三　1981　地域地質研究報告　５万分の１図幅　油川地域の地質　地質調査所
村岡洋文・高倉伸一　1988　10万分の１八甲田地熱地域地質図・説明書　地質調査所
村岡洋文・長谷紘和　1990　地域地質研究報告　５万分の１図幅　黒石地域の地質　地質調査所

第４節　基本層序

調査区域の基本層序は、以下のとおりである。

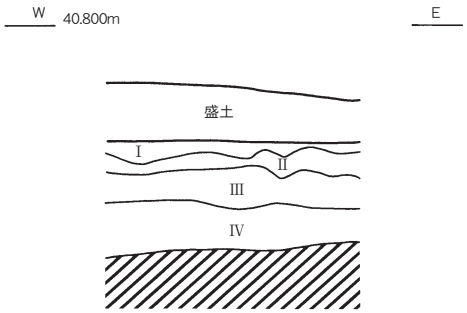
第Ⅰ層　黒 色 土（主に10ＹＲ2/1）表土。近現代の耕作土や盛土等を一括する。
第Ⅱ層　黒褐色土（主に10ＹＲ2/2）平安時代に相当する遺物が主に出土している。
第Ⅲ層　黒 色 土（主に10ＹＲ2/1）縄文時代に相当するものと思われる。
第Ⅳ層　漸移層として一括した。
第Ⅴ層　地山として一括した。上位には黄褐色浮石質火山灰が堆積する。月見野火山灰に相当する。下位には赤褐色粘土質火山灰が堆積する。大谷火山灰に相当する。

調査区全体として、中央部から西側では、上記の堆積状況が確認できた。調査区西端地点においては畑作等の耕作の影響が少なかった地点と思われるが、部分的に白頭山火山灰が厚く堆積する地点も見られた。また、105～112ライン間は、下図に見られるように37～39mの等高線が密に見られるが、現地形ではなく、宅地造成による削平の結果であり、本来は西側へなだらかに下る緩斜面であったものと思われる。中央部から東側においては、基本層序⑥に見られるように広く第Ⅳ層まで削平されていた。地元の方の話では、この地点付近には以前神社があったとのことで、その影響かとも思われる。さらに、90ライン以東の撹乱範囲と示した個所は、第一次調査の結果、遺跡範囲を拡張した地点であるが、第二次調査で確認したところ、急激に深さ数mに及んで削平され、廃材等が大量に廃棄されている状況であった。

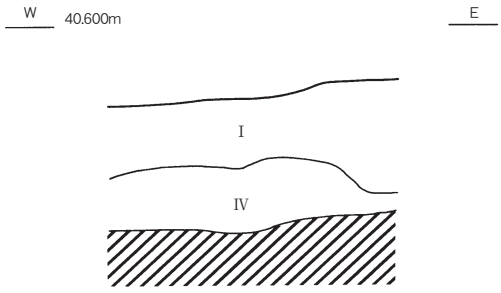


第６図　土層確認地点図

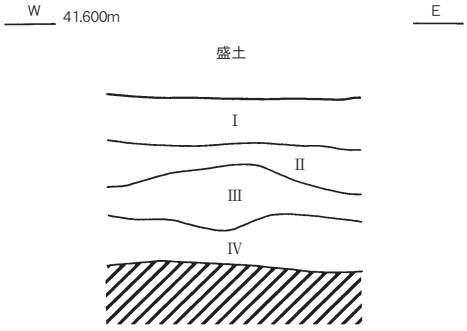
基本層序①（J-115）



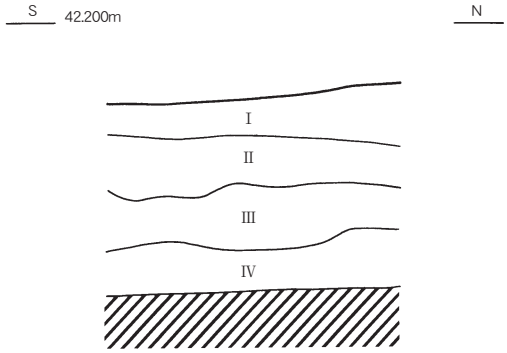
基本層序②（J・K-113）



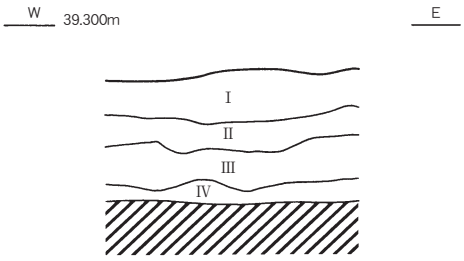
基本層序③（O-117）



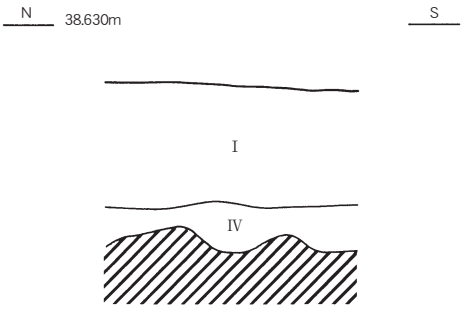
基本層序④（R・S-117）

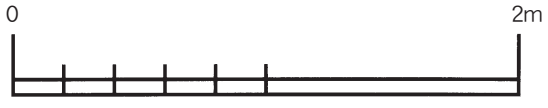


基本層序⑤（V-103）



基本層序⑥（Q-90）





第７図　基本層序

J-105
O-110
O-105
T-110
T-105
T-115
1住
2住
11土
28土
12土
1埋
22土
23土
10土
1焼
1円a
1溝
5溝
2土
7住
1円b
2溝状
19土
6焼
2焼
7土
1
溝
状
1円c
13土
5土
15溝
6住
27土
27溝
28溝
36溝
29溝
10住
3焼
16土
2円
3円a
4焼
3円b
5焼
8住
12住
9住
35溝
6井
30溝
27溝
1土
40m
39m
37m
38m
0
10m

第８図　遺構配置図（2）

J-90
O-105
O-100
O-95
O-90
T-105
T-100
T-90
6溝
6溝
7溝
8溝
9溝
10溝
11溝
12溝
13溝
14溝
15土
16溝
17溝
18溝
19溝
20溝
21溝
22溝
23溝
25土
26土
29土
30土
31土
1井
2井
3井
4井
5井
3住
4住
5住
4土
6土
攪乱範囲
38m
37m
36m

第９図　遺構配置図（3）

第10図　遺構配置図（4）

第Ⅲ章　検出遺構と出土遺物

第１節　検出遺構

１．竪穴住居跡

第１号竪穴住居跡（第11、12図）

［位置・確認層］Ｌ・Ｍ－117、118グリッドに位置する。第Ⅴ層において確認した。

［重複］なし。

［平面形・規模］平面形は、おおむね方形を呈する。規模は、298㎝×264㎝である。深さは、東壁が７㎝、西壁が20㎝、南壁が17㎝、北壁が23㎝である。

［壁］やや外側へ直線的に立ち上がる。

［床］大谷火山灰に相当する第Ⅴ層を掘り込んだ後、ロームブロックを含む第７～９層を埋めて貼床としている。堅く締まる。おおむね平坦であるが、若干の起伏が見られる。

［壁溝］なし。

［ピット・柱穴］５基検出した。規模はピット１が82×70×45㎝、ピット２が37×34×５㎝、ピット３が24×21×14㎝、ピット４が47×46×39㎝、ピット５が36×35×28㎝である。主柱穴はピット２、３、５が考えられる。

［カマド］南壁で２基確認した。西側をカマド１、東側をカマド２とする。カマド１が古く、カマド２が新しいと思われる。カマド１は、南壁の西端から1/4から2/4にかけての地点に設置されている。火床面、煙道部を確認した。主軸はＮ－177°－Ｗである。火床面は一部が残存するのみと思われ、不整形で最長19㎝を測る。煙道部は地下式と思われるが、煙出孔は平面で確認できなかった。カマド１第４層は、第Ⅴ層崩落土の可能性が考えられる。煙道底面は壁際から緩やかに下った後、煙出部で急激に立ち上がる。

　カマド２は、南壁の西端から3/4の地点に設置されている。火床面、煙道部を確認した。主軸は、Ｎ－178°－Ｗである。火床面は不整楕円形を呈し、46×40㎝を測る。煙道部は地下式で、煙出孔は壁から101㎝の地点にあり、不整楕円形を呈し、38×32㎝を測る。カマド２第９層は第Ⅳ層に相当すると思われ、その他第18層、第21層、第26層については、第Ⅴ層崩落土の可能性が考えられる。煙道部底面は、火床面から起伏を伴うが緩やかに下った後、煙出部で急激に立ち上がる。

［その他の付属施設］なし。

［覆土］９層に分層した。第７～９層は掘り方埋土である。第１～６層は、黒褐色土主体に堆積する。自然堆積と思われる。

［出土遺物］土器は、カマド１第６層、覆土第２層より出土し、接合関係の見られる須恵器（壷）（第31図１）、カマド１第12層、覆土第２層より出土し、接合関係の見られる土師器（甕）（第31図２）、第２層より土師器（甕）（第31図４）、ピット１第４層より土師器（甕）（第31図３）が出土している。

　石器は、カマド２第18層、覆土第14層、第２層より出土し接合した砥石（第43図２）が１点、覆土第１層より砥石（第43図３）が１点、敲磨器が２点出土している。

　鉄関連遺物は、ピット５第１層より棒状鉄製品（第50図32）が１点出土している。

［時期］出土遺物よりおおむね９世紀末葉～10世紀前半の平安時代の竪穴住居跡と思われる。

第２号竪穴住居跡（ａ・ｂ）（第13、14図）

［位置・確認層］Ｋ・Ｌ－111～113グリッドに位置する。第Ⅴ層において確認した。なお、拡張されたものと思われ、拡張前をａ、拡張後をｂとする。

［重複］第22号土坑、第23号土坑、第１号溝跡、第５号溝跡、第１号土器埋設遺構と重複し、本遺構ｂは、第22号土坑、第23号土坑、第１号溝跡、第５号溝跡より古い。また、第１号土器埋設遺構との新旧関係は、不明である。本遺構ｂに伴う可能性も考えられる。

［平面形・規模］調査区端に位置し、また重複のため全容は不明である。残存部より平面形は、ａ、ｂいずれもおおむね方形を基調とするものと思われる。残存部の規模は、ａで最長652㎝、ｂで最長735㎝である。深さは、ａが不明で、ｂは西壁が35㎝、北壁が34㎝である。

［壁］ａは不明で、ｂでは残存する壁は、やや外側へ直線的に立ち上がる。

［床］ａ、ｂいずれも大谷火山灰に相当する第Ⅴ層を床面としている。堅く締まる。おおむね平坦であるが若干の起伏が見られる。また、西側から東側へ傾斜が見られる。

［壁溝］ａでは北壁から西壁北側にかけてと、東壁の一部を巡る。幅８～42㎝、深さ４～24㎝である。ｂには見られない。

［ピット・柱穴］９基検出した。規模はピット１が30×25×50㎝、ピット２が35×25×57㎝、ピット３が60×38×31㎝、ピット４が36×31×15㎝、ピット５が71×63×18㎝、ピット６が41×40×19㎝、ピット７が38×33×22㎝、ピット８が104×89×63㎝、ピット９が324×233×71㎝である。ピット１は本遺構ｂに伴う柱穴と思われるが、他はａ、ｂどちらに伴うか判然としない。規模等からピット２、３、８については、柱穴の可能性も考えられる。

［カマド］ａでは北壁で確認した。これをカマド２とする。北壁における位置は調査区端に位置するため不明である。火床面、煙道部を確認した。主軸はＮ－12°－Ｅである。火床面は一部が残存するのみと思われ、不整形で最長17㎝を測る。火床面付近は３～11㎝程度周囲より浅く掘り込まれている。煙道部は住居拡張に伴い破壊されており、煙道底面がわずかに残存するのみと思われ、その構造は判然としない。残存部は幅48㎝、長さ45㎝を測る。

ｂでは北壁で確認した。これをカマド１とする。北壁における位置は調査区端に位置するため不明である。火床面、袖部を確認した。主軸は不明である。火床面は不整円形を呈し、30×27㎝を測る。袖部は、左袖を確認した。第Ⅴ層下位の大谷火山灰出自と思われるロームにより構築されている。煙道部は、耕作による撹乱を受けて削平されたと思われ、その構造は不明である。

［その他の付属施設］ａには見られない。ｂでは第１号土器埋設遺構が本遺構に伴う場合、墓としての用途等が考えられる。

［覆土］ａは不明である。ｂはピット９堆積土を含めて12層に分層した。住居跡全体に堆積する第１～３層では、黒色土、暗褐色土主体に堆積し、第３層は、崩落土と思われる。自然堆積と思われる。

また、ピット９堆積土では覆土上部の第５～９層は、黒褐色土、暗褐色土が堆積し、自然堆積と思われるが、覆土下部の第10～第12層は、褐色土が堆積し、人為堆積の可能性も考えられる。

［出土遺物］土器は、床面より須恵器（壷）（第31図８）、土師器（坏）（第31図12）、土師器（甕）（第32図23）、カマド１第４層より土師器（甕）（第31図17）、カマド第３層より土師器（坏）（第31図11）、カマド２第１層より土師器（甕）（第31図16）、ピット８第1層より須恵器（坏）（第31図７）、須恵器（壷）（第31図９）、土師器（坏）（第31図14、15）、ピット９第12層より土師器（甕）（第32図19、21）、ピッ

ト９第10層より須恵器（坏）（第31図５）、須恵器（壷）（第31図６）、ピット９第５層より土師器（甕）（第32図22)、ピット９覆土より土師器（坏）（第31図13)、覆土より須恵器（壷）（第31図10)、土師器（甕）（第32図18、20）が出土している。

石器は、カマド１第４層より台石・石皿（第43図５）が１点、カマド１第２層より敲磨器（第43図４）が１点、カマド２第１層より敲磨器が１点出土している。

土製品は、カマド覆土よりミニチュア土器（第47図２）が１点、第２層よりミニチュア土器（第47図１）が１点出土している。

［時期］出土遺物よりおおむね９世紀末葉～10世紀前半の平安時代の竪穴住居跡と思われる。

第３号竪穴住居跡（第15、16図）

［位置・確認層］Ｎ－93、94、Ｏ－94グリッドに位置する。第Ⅴ層において確認した。

［重複］第22溝跡、第23号溝跡と重複し、本遺構が古い。

［平面形･規模］一部重複により全容は不明であるが方形を呈するものと思われる。規模は、356㎝×333㎝である。深さは、東壁が18㎝、西壁が10㎝、南壁が15㎝、北壁が10㎝である。

［壁］やや外側へ直線的に立ち上がる。

［床］月見野火山灰に相当する第Ⅴ層上面を床面としている。堅く締まる。おおむね平坦であるが、若干の起伏が見られる。

［壁溝］なし。

［ピット・柱穴］12基検出した。規模はピット１が23×18×18㎝、ピット２が20×15×15㎝、ピット３が18×17×10㎝、ピット４が21×20×20㎝、ピット５が15×14×10㎝、ピット６が16×12×９㎝、ピット７が12×11×６㎝、ピット８が22×18×30㎝、ピット９が16×13×11㎝、ピット10が21×(10)×12㎝、ピット11が28×27×14㎝、ピット12が45×41×８㎝である。ピット１～９は壁際を巡り壁柱穴と思われる。

［カマド］南壁で確認した。南壁の西端から1/4から2/4にかけての地点に設置されているものと思われる。火床面、袖部を確認した。主軸は不明である。火床面は不整楕円形を呈し、67×42㎝を測る。火床面上部では、土師器（甕）（第32図28）を倒立の状態で確認しており、支脚として用いられていた可能性が考えられる。袖部は、左右の袖を確認した。第Ⅴ層下位の大谷火山灰出自と思われるロームにより構築されている。天井部は崩落したものと思われ、カマド堆積土第３層、第５層中のロームブロック、第７層がこれに相当すると思われる。

［その他の付属施設］なし。

［覆土］５層に分層した。第５層は掘り方埋土である。黒色土、黒褐色土が堆積し、第２層は、十和田ａ火山灰と思われる火山灰を多量含む。自然堆積と思われる。

［出土遺物］土器は、カマド第５層より土師器（甕）（第32図27)、カマド覆土より土師器（甕）（第32図28)、第２層、第１層より土師器（甕）（第32図29)、第１層より土師器（甕）（第32図24～26）が出土している。

［時期］出土遺物よりおおむね９世紀末葉～10世紀前半の平安時代の竪穴住居跡と思われる。

第４号竪穴住居跡（第17、18図）

［位置・確認層］Ｑ・Ｒ－90、91グリッドに位置する。第Ⅳ層において確認した。

［重複］第25号土坑と重複し本遺構が古い。

［平面形・規模］平面形はおおむね方形を呈する。規模は、444㎝×400㎝である。深さは、東壁が28㎝、西壁が24㎝、南壁が16㎝、北壁が10㎝である。

［壁］外側へ直線的に立ち上がる。

［床］全体として月見野火山灰に相当する第Ⅴ層上面を床面としている。一部は月見野火山灰に相当する第Ⅴ層を掘り込み、黄褐色土である第６層を埋めて貼床としている。堅く締まる。おおむね平坦であるが、一部起伏が見られる。

［壁溝］南壁でカマド２が存在する一部を除いて巡っている。幅15～42㎝、深さ４～24㎝である。

［ピット・柱穴］２基検出した。規模はピット１が24×23×12㎝、ピット２が24×22×17㎝である。いずれも掘り込みが浅いが、北壁東西隅に位置しており柱穴の可能性も考えられる。

［カマド］南壁で２基検出した。東側をカマド１、西側をカマド２とする。カマド１は、南壁の西端から3/4の地点に設置されている。火床面を確認した。主軸は不明である。火床面は不整楕円形を呈し、47×42㎝を測る。付近の礫は、袖部に使用されていた可能性も考えられる。

　カマド２は、南壁の西端から3/4の地点に設置されている。火床面、煙道部を確認した。主軸はＮ－169°－Ｅである。火床面は、不整楕円形を呈し、56×40㎝を測る。火床面付近は４～８㎝程度周囲より浅く掘り込まれている。煙道部は、地下式と思われるが、煙出孔は平面で確認できなかった。カマド２第１層、第７層、第９層、第13層、第18層は、崩落土の可能性が考えられる。煙道底面は火床面奥から緩やかに下った後、煙出部で一旦緩やかに立ち上がり、その後急激に立ち上がる。

［その他の付属施設］なし。

［覆土］６層に分層した。第６層は掘り方埋土である。第１～５層は、黒色土、黒褐色土主体に堆積する。第２層下部には、十和田ａ火山灰と思われる火山灰が層状に見られる。自然堆積と思われる。

［出土遺物］土器は、床面より須恵器（坏）（第33図30）、第３層より土師器（甕）（第33図35、38）、覆土より土師器（坏）（第33図31～33）、土師器（甕）（第33図34、36、37、39）が出土している。

　土製品は、覆土より土製支脚（第47図３）が１点出土している。

［時期］出土遺物よりおおむね９世紀末葉～10世紀前半の平安時代の竪穴住居跡と思われる。

第５号竪穴住居跡（第19図）

［位置・確認層］Ｏ－90、Ｎ～Ｐ－91グリッドに位置する。第Ⅳ層において確認した。

［重複］第17号溝跡、第18号溝跡、第19号溝跡と重複し、本遺構が古い。

［平面形・規模］重複により全容は不明である。残存部より平面形はおおむね方形を呈するものと思われる。残存部の規模は、最長462㎝である。深さは、東壁が18㎝、西壁が22㎝、南壁が23㎝、北壁が18㎝である。

［壁］残存する壁は、やや外側へ直線的に立ち上がる。

［床］第Ⅳ層並びに月見野火山灰に相当する第Ⅴ層を床面としている。やや堅く締まる。おおむね平坦であるが、若干の起伏が見られる。

［壁溝］南壁中央西寄りと南壁東側から東壁、北壁にかけて巡っている。幅14～25㎝、深さ４～27㎝で

ある。

［ピット・柱穴］２基検出した。規模はピット１が24×22×32㎝、ピット２が45×33×48㎝である。規模等から柱穴の可能性も考えられる。

［カマド］南壁で確認した。南壁の西端から2/4から3/4にかけての地点に設置されていると思われる。火床面を確認した。主軸は不明である。火床面は、不整形で、最長42㎝を測る。火床面付近は５～７㎝程度周囲より浅く掘り込まれている。

［その他の付属施設］なし。

［覆土］８層に分層した。黒色土、黒褐色土主体に堆積する。第１層下部には十和田ａ火山灰と思われる火山灰が層状に見られる。自然堆積と思われる。

［出土遺物］土器は、第１層より須恵器（坏）（第34図40)、覆土より土師器（坏）（第34図41～45)、土師器（甕）（第34図46）が出土している。

　石器は、第１層より敲磨器（第44図６）が１点出土している。

［時期］出土遺物よりおおむね９世紀末葉～10世紀前半の平安時代の竪穴住居跡と思われる。

第６号竪穴住居跡（第20図）

［位置・確認層］Ｎ－114、Ｏ－114、115グリッドに位置する。第Ⅴ層において確認した。

［重複］第５号土坑、第１号円形周溝ａと重複し、本遺構が古い。

［平面形・規模］重複により全容は不明である。残存部より平面形はおおむね方形を呈するものと思われる。規模は、410㎝×338㎝である。深さは、東壁が34㎝、西壁が33㎝である。

［壁］残存する壁は、全体として外側へ直線的に立ち上がる。一部は数度屈曲して立ち上がる。

［床］大谷火山灰に相当する第Ⅴ層を掘り込んだ後、ロームブロックを含む第10層を埋めて貼床としている。堅く締まる。おおむね平坦であるが、若干の起伏が見られる。

［壁溝］なし。

［ピット・柱穴］１基検出した。ピット１の規模は58×51×22㎝である。規模等から柱穴とは判断し難いように思われる。

［カマド］北壁で確認した。北壁の東端から2/4の地点に設置されていると思われる。火床面を確認した。主軸は不明である。火床面は不整楕円形を呈し、42×32㎝を測る。天井部は崩落したと思われ、カマド堆積土第１層がこれに相当すると思われる。

［その他の付属施設］なし。

［覆土］10層に分層した。第10層は掘り方埋土である。第１～９層は、黒褐色土、暗褐色土主体に堆積し、全体にロームが含まれる。人為堆積の可能性も考えられる。

［出土遺物］土器は、床面より土師器（坏）（第34図48、49)、土師器（甕）（第34図50)、覆土より須恵器（壷）（第34図47）が出土している。

　石器は、床面より敲磨器（第44図７）が１点出土している。

［時期］出土遺物よりおおむね９世紀末葉～10世紀前半の平安時代の竪穴住居跡と思われる。

第７号竪穴住居跡（第21図）

［位置・確認層］Ｍ・Ｎ－115、116、Ｏ－115グリッドに位置する。第Ⅴ層において確認した。

［重複］第１号円形周溝ｂ、第１号円形周溝ｃ、第13号土坑と重複し、本遺構は第１号円形周溝ｂ、第１号円形周溝ｃより古く、第13号土坑より新しい。
［平面形・規模］削平により全容は不明である。残存部より平面形は、おおむね方形を呈するものと思われる。規模は、最長390㎝である。深さは、東壁が33㎝、北壁が26㎝である。
［壁］残存する壁は、外側へ直線的に立ち上がる。
［床］全体として大谷火山灰に相当する第Ⅴ層並びに重複する第13号土坑覆土を掘り込んだ後、黒褐色土である第６層、第７層を埋めて貼床としている。また、一部では大谷火山灰に相当する第Ⅴ層を床面としている。堅く締まる。残存する床はおおむね平坦と思われるが、起伏も見られる。
［壁溝］なし。
［ピット・柱穴］１基検出した。ピット１の規模は24×22×10㎝である。柱穴としては掘り込みが浅いように思われる。
［カマド］北壁で確認した。北壁の東端から3/4の地点に設置されていると思われる。煙道部を確認した。主軸は　Ｎ－11°－Ｅ程度と思われる。煙道部は地下式で、煙出孔は壁から113㎝の地点にあり、不整楕円形を呈し、49×41㎝を測る。煙道底面は、約20°で下った後、煙出部で急激に立ち上がる。
［その他の付属施設］なし。
［覆土］７層に分層した。第６、７層は掘り方埋土である。第１～５層は、黒褐色土、暗褐色土主体に堆積する。自然堆積と思われる。
［出土遺物］土器は、覆土より須恵器（坏）（第34図51）、土師器（坏）（第34図52）が出土している。
［時期］出土遺物よりおおむね９世紀末葉～10世紀前半の平安時代の竪穴住居跡と思われる。

第８号竪穴住居跡（第22図）
［位置・確認層］Ｔ・Ｕ－107、108グリッドに位置する。第Ⅲ～Ⅴ層において確認した。
［重複］なし。
［平面形・規模］削平により全容は不明である。残存部より平面形は、方形を基調とするものと思われる。規模は、最長424㎝である。深さは、西壁が６㎝、南壁が５㎝である。
［壁］削平により不明である。
［床］斜面上部では大谷火山灰に相当する第Ⅴ層を掘り込んだ後、暗褐色土である第７層を埋めて貼床としている。斜面下部では第Ⅲ層を掘り込んで床面としている。やや堅く締まる。残存する床はおおむね平坦であるが、西側から東側へ若干の傾斜が見られる。
［壁溝］残存部では南壁カマド部分を除き巡っている。幅10～19㎝、深さ５～28㎝である。
［ピット・柱穴］２基検出した。規模はピット１が38×36×20㎝、ピット２が30×26×５㎝である。ピット１については柱穴の可能性も考えられる。
［カマド］南壁で確認した。南壁における位置は削平のため不明である。火床面を確認した。主軸は不明である。火床面は不整楕円形を呈し、57×49㎝を測る。火床面上部では、土師器（坏）（第35図56、57）を倒立の状態で確認しており、重ね合わせて支脚として用いられていた可能性が考えられる。
［その他の付属施設］なし。
［覆土］７層に分層した。第７層は掘り方埋土である。削平により、堆積状況は判然としない。
［出土遺物］土器は、第４層より土師器（甕）（第35図58）、第３層より須恵器（坏）（第35図53）、土師

器（坏）（第35図56、57）、土師器（甕）（第35図59）、第２層より土師器（坏）（第35図55）、第１層より土師器（坏）（第35図54）、土師器（甕）（第35図60）が出土している。

石器は、床面より砥石（第44図８）が１点出土している。

［時期］出土遺物よりおおむね９世紀末葉～10世紀前半の平安時代の竪穴住居跡と思われる。

第９号竪穴住居跡（第23、24図）

［位置・確認層］Ｔ～Ｖ－115、116グリッドに位置する。第Ⅲ層において確認した。

［重複］第２号円形周溝と重複し、本遺構が古い。

［平面形・規模］一部重複により全容は不明である。残存部より平面形は、方形を呈するものと思われる。規模は、511㎝×478㎝である。深さは、東壁が16㎝、西壁が66㎝、南壁が33㎝、北壁が57㎝である。

［壁］全体としてやや外側へ垂直に近く立ち上がる。北壁と西壁は壁中位ないし上位で外側へ屈曲する。

［床］第Ⅳ層並びに大谷火山灰に相当する第Ⅴ層を掘り込んだ後、黒褐色土と黄褐色土の混合土である第13層を埋めて貼床としている。全体としては堅く締まる。東壁側カマド周囲はやや段上に高くなっており、その上面はやや締まりが弱い。その他の床面はおおむね平坦であるが、若干の起伏も見られ、西側から東側への傾斜も見られる。

［壁溝］西壁中央北寄り一部と北壁、南壁で断続的に巡っている。幅14～31㎝、深さ２～48㎝である。

［ピット・柱穴］８基検出した。規模はピット１が37×19×42㎝、ピット２が44×35×70㎝、ピット３が49×22×73㎝、ピット４が46×30×59㎝、ピット５が32×27×50㎝、ピット６が35×30×45㎝、ピット７が54×30×15㎝、ピット８が37×32×28㎝である。ピット１～６は主柱穴と思われ、古段階がピット１、２、５、６、新段階がピット１～４で建替があったものと思われる。

［カマド］東壁で確認した。東壁の南端から2/4の地点に設置されていると思われる。火床面、袖部、煙道部を確認した。主軸はＮ－76°－Ｅ程度と思われる。火床面は不整楕円形を呈し、77×59㎝を測る。火床面上には、羽口（第48図17）の欠損側を下に立てるように埋め、その上部に土師器（甕）（第38図97）の底部を伏せており、支脚として用いていたものと思われる。袖部は、左袖を確認した。第Ⅴ層下位の大谷火山灰出自と思われるロームにより構築されている。煙道部は半地下式と思われるが一部の検出に留まる。煙道底面は、火床面奥から緩やかに立ち上がる。

［その他の付属施設］なし。

［覆土］13層に分層した。第13層は掘り方埋土である。第１～12層は、黒色土、黒褐色土主体に堆積する。第４層には、白頭山火山灰と思われる火山灰が層状に見られる。自然堆積と思われる。

［出土遺物］土器は、床面より土師器（坏）（第36図68）、第13層より土師器（坏）（第36図70）、第12層より土師器（坏）（第36図76）、第11層、第７層、第４層より土師器（坏）（第36図78）、第９層より土師器（坏）（第36図71）、第９層、第１層より土師器（甕）（第37図83）、第８層、第７層より須恵器（坏）（第35図61）、第８層、第７層、第５層より土師器（甕）（第38図96）、第７層より土師器（坏）（第36図69、77）、土師器（甕）（第37図81、85、87、第38図88、90～92）、第７層、第６層、第５層より土師器（坏）（第36図73）、第７層、第５層、第４層、第3層より土師器（甕）（第37図86）、第７層、第５層、第３層より土師器（坏）（第36図74）、第７層、第５層、第２層より土師器（坏）（第36図67）、第７層、

第５層より須恵器（坏）（第35図62）、第７層、第２層より土師器（甕）（第37図82）、第５層より須恵器（壷）（第35図64、65）、土師器（坏）（第36図75、80）、第５層、第４層より土師器（甕）（第38図95）、第３層より須恵器（甕）（第35図66）、第２層より土師器（甕）（第38図94）、第１層より土師器（坏）（第36図72）、覆土より須恵器（坏）（第35図63）、土師器（坏）（第36図79）、カマド第７～５層、第１層より土師器（甕）（第37図84）、カマド第６層より土師器（甕）（第38図97）、カマド第５層より土師器（甕）（第38図89、93、98）が出土している。また、第13層、第２層より縄文土器片（第42図151、152）が出土している。

石器は、カマド第４層より砥石（第45図12）が１点、カマド第２層より砥石（第45図13）が１点、覆土第13層より砥石（第45図11）が１点、第７層より砥石（第44図10、第45図17）が２点、敲磨器（第45図14～16）が４点、台石・石皿が１点、第５層より敲磨器（第44図９）が２点、第４層より砥石（第46図18）が１点、第２層より敲磨器が１点出土している。

土製品は、第７層より焼成粘土塊（第47図４）が１点、第２層より焼成粘土塊（第47図５）が１点出土している。

鉄関連遺物は、第２層より羽口（第48図18）が１点、カマド第２層より土製支脚として転用された羽口（第48図17）が１点、覆土より刀子（第50図33、34）が２点出土している。

［時期］出土遺物よりおおむね９世紀末葉～10世紀前半の平安時代の竪穴住居跡と思われる。

第10号竪穴住居跡（第25～27図）

［位置・確認層］Ｑ・Ｒ－116、117グリッドに位置する。第Ⅲ～Ⅳ層において確認した。

［重複］なし。

［平面形・規模］調査区端に位置し全容は不明である。残存部より平面形は、方形を基調とするものと思われる。残存部の規模は、最長502㎝である。深さは、南壁が53㎝、北壁が18㎝である。

［壁］残存する壁はやや外側へ直線的に立ち上がる。

［床］西側斜面上部では大谷火山灰に相当する第Ⅴ層、東側斜面下部では第Ⅲ層を掘り込んだ後、ロームブロックを多量に含む第21層を埋めて貼床としている。堅く締まる。おおむね平坦であるが、若干の起伏が見られる。

［壁溝］北壁の一部を巡る。幅15㎝、深さ６㎝である。

［ピット・柱穴］10基検出した。規模はピット１が53×40×27㎝、ピット２が39×37×15㎝、ピット３が34×27×13㎝、ピット４が39×31×23㎝、ピット５が38×34×12㎝、ピット６が37×25×49㎝、ピット７が33×18×62㎝、ピット８が35×27×38㎝、ピット９が28×（21）×23㎝、ピット10が41×32×54㎝である。柱穴としてはピット６～10が考えられ、ピット６、７、10は主柱穴と思われる。

［カマド］南壁で２基確認した。東側をカマド１、西側をカマド２とする。南壁における位置は調査区端に位置するため不明である。カマド１は火床面、袖部、煙道部を確認した。主軸はＮ－178°－Ｅである。火床面は不整楕円形を呈し、63×54㎝を測る。袖部は左右の袖を確認した。第Ⅴ層下位の大谷火山灰出自と思われるロームやロームブロックを含んだ第Ⅴ層上位の月見野火山灰出自と思われる黄褐色土により構築されている。煙道部は半地下式と思われ、幅16～32㎝、長さ72㎝を測る。煙道底面は、火床面奥から緩やかに立ち上がる。

カマド２は、火床面、煙道部を確認した。主軸はＮ－174°－Ｅである。火床面は不整円形を呈し、

56×54㎝を測る。煙道部は地下式と思われ、煙出孔は壁から101㎝の地点にあり、不整楕円形を呈するものと思われ、40×37㎝を測る。カマド２第３層、第４層、第７層、第８層、第９層は、崩落土の可能性が考えられる。煙道底面は壁際から緩やかに下った後、煙出部で急激に立ち上がる。

［その他の付属施設］なし。

［覆土］21層に分層した。第21層は掘り方埋土である。第１～20層は、黒色土、黒褐色土主体に堆積する。第４層上面には、白頭山火山灰と思われる火山灰が層状に見られる。自然堆積と思われる。

［出土遺物］土器は、第13層より土師器（坏）（第40図118）、土師器（甕）（第40図125）、床面、第17層、第10層、カマド１第８層より出土し、接合した土師器（甕）（第40図124）、第10層より須恵器（坏）（第39図100～103）、須恵器（壷）（第39図104～106）、須恵器（鉢）（第39図111）、土師器（坏）（第39図113、115、120）、土師器（甕）（第39図116、第40図123、126～128、130）、第10層、第９層より出土し、接合した土師器（坏）（第40図117）、第10層、第４層より出土し、接合した土師器（坏）（第39図112、第40図119）、第４層より須恵器（坏）（第39図99）、須恵器（壷）（第39図107、109）、須恵器（甕）（第39図108）、土師器（坏）（第39図114、第40図121）、土師器（甕）（第40図129）、なお須恵器（坏）（第39図99）は、第１号円形周溝ａ、第１号円形周溝ｂ出土遺物との接合関係が見られる。ピット５第１層より土師器（坏）（第40図122）、覆土より須恵器（壷）（第39図110）が出土している。

石器は、カマド底面より敲磨器（第46図19）が１点、第８層より砥石（第46図20）が１点、第４層より敲磨器が１点、覆土より敲磨器が１点出土している。

土製品は、カマド２第14層より有孔土製品（第47図６）が１点出土している。

石製品は、床面、第４層、ピット１覆土より碁石（第47図８～15）が８点出土している。

鉄関連遺物は、第10層より羽口（第48図19～21、第49図23、25～27、第50図30）が８点、不明鉄製品（第50図35）が１点、第４層より羽口（第48図22、第49図24、第50図28、29、31）が５点出土している。また、多量の鉄滓が出土しており、一部の椀形鍛冶滓（第51図36～40）を図示した。

［時期］出土遺物よりおおむね９世紀末葉～10世紀前半の平安時代の竪穴住居跡と思われる。

第11号竪穴住居跡（第28図）

［位置・確認層］Ｋ・Ｌ－93、94グリッドに位置する。第Ⅳ層において確認した。

［重複］第33号土坑と重複し、本遺構が古い。

［平面形・規模］一部の重複により全容は不明である。残存部より平面形は、おおむね方形を呈するものと思われる。残存部の規模は、376㎝×364㎝である。深さは、東壁が８㎝、西壁が26㎝、南壁が18㎝、北壁が24㎝である。

［壁］やや外側へ直線的に立ち上がる。

［床］月見野火山灰に相当する第Ⅴ層を床面としている。やや堅く締まる。おおむね平坦であるが、西側から東側へ傾斜が見られる。

［壁溝］二重に巡っている。内側は南壁中央部から西壁、北壁中央部にかけてコの字状に巡っている。幅16～28㎝、深さ４～15㎝である。外側は北東隅、南東隅の一部を除いて巡っている。幅18～30㎝、深さ３～18㎝である。

［ピット・柱穴］４基検出した。規模はピット１が28×23×11㎝、ピット２が23×19×12㎝、ピット３が34×25×10㎝、ピット４が29×23×７㎝である。いずれも掘り込みが浅く柱穴については、判然と

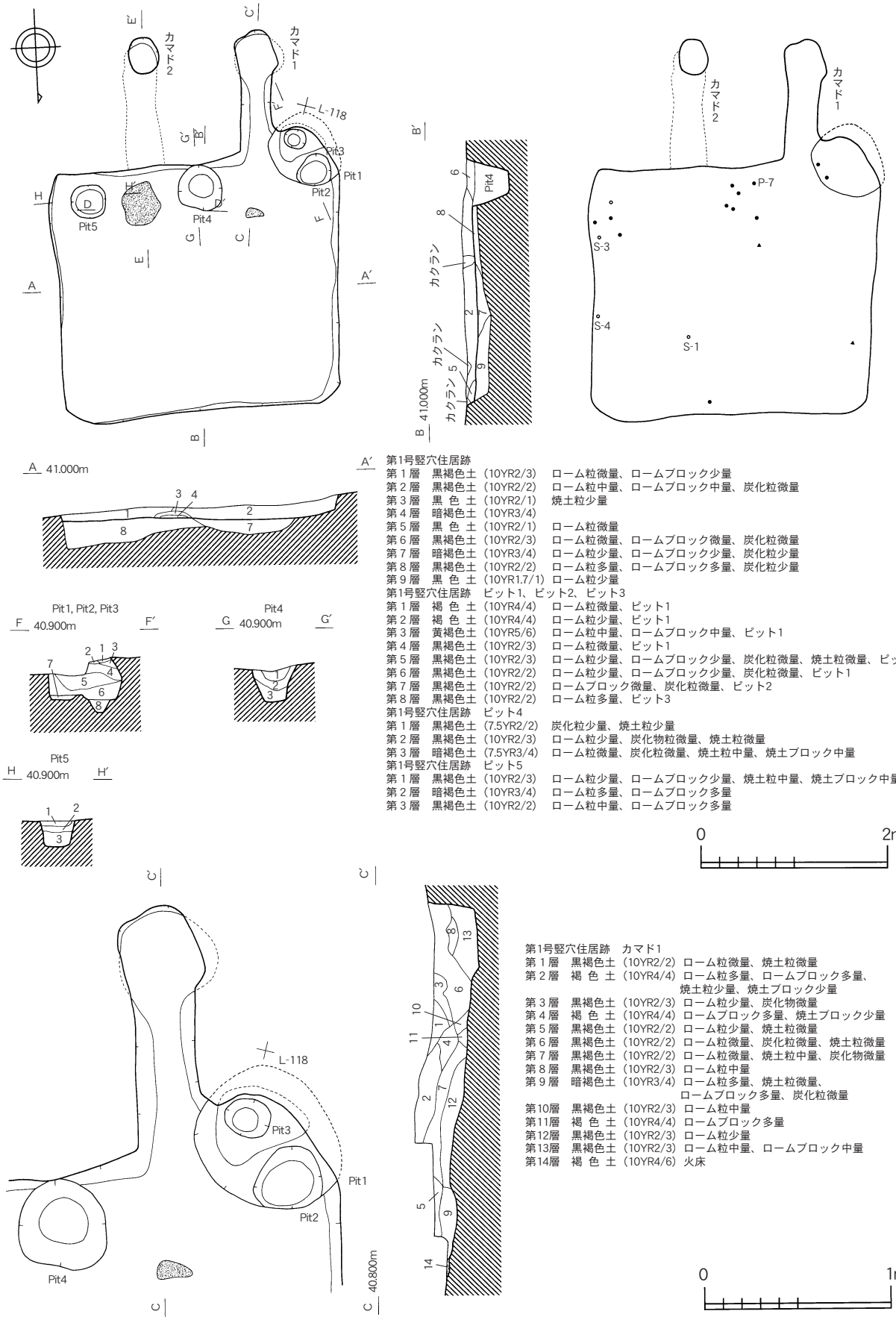
しない。
［カマド］精査時には、東壁の南端から2/4の地点で覆土中に焼土ブロックの混入がやや目だっていたが、確認していない。
［その他の付属施設］なし。
［覆土］４層に分層した。黒色土、黒褐色土主体に堆積する。自然堆積と思われる。
［出土遺物］土器は、第２層より土師器（坏）（第41図132）、土師器（甕）（第41図138～140）、第２層、第１層より土師器（坏）（第41図134、135）、第１層より土師器（坏）（第41図131、133）、土師器（甕）（第41図136、137）が出土している。また、第３層より縄文土器片（第42図153）が出土している。
　石器は、第２層より石鏃（第43図１）が１点、台石・石皿が１点出土している。
［時期］出土遺物よりおおむね９世紀末葉～10世紀前半の平安時代の竪穴住居跡と思われる。

第12号竪穴住居跡（第29、30図）
［位置・確認層］Ｔ・Ｕ－112、113グリッドに位置する。第Ⅳ、Ⅴ層において確認した。
［重複］第３号円形周溝ａ、第３号円形周溝ｂ、第27号溝跡、第30号溝跡と重複し、本遺構が古い。
［平面形・規模］重複により全容は不明である。残存部より平面形はおおむね方形を基調とするものと思われる。残存部の規模は、最長360㎝である。深さは、東壁が50㎝、西壁が52㎝、南壁が28㎝、北壁が56㎝である。
［壁］残存する壁はやや外側へ直線的に立ち上がる。
［床］大谷火山灰に相当する第Ⅴ層を床面としている。やや堅く締まる。残存する床はおおむね平坦であるものと思われるが、若干の起伏が見られる。
［壁溝］残存部では北壁東側から東壁北側にかけて巡っている。幅14～20㎝、深さ13㎝である。
［ピット・柱穴］３基検出した。規模はピット１が35×22×13㎝、ピット２が32×26×23㎝、ピット３が185×157×72㎝である。規模等から柱穴については判然としない。
［カマド］南壁で確認した。南壁における位置は重複のため不明である。火床面、袖部、煙道部を確認した。主軸は不明である。火床面は一部の確認に留まる。袖部は右袖を部分的に確認した。第Ⅴ層下位の大谷火山灰出自と思われるロームにより構築されており、礫（Ｓ－2）を芯材としている。煙道部は重複のため煙道底面の確認に留まり、平面図には図示できなかった。半地下式と思われる。煙道底面は、壁際から緩やかに立ち上がる。
［その他の付属施設］なし。
［覆土］ピット３堆積土を含めて20層に分層した。全体として混入物のあまり見られない黒褐色土と、ローム層ないし、ロームを多く混入する層が交互に堆積する。人為堆積の可能性も考えられる。
［出土遺物］土器は、第14層より土師器（甕）（第42図149）、第６層より土師器（甕）（第42図147）、第４層より土師器（坏）（第42図143）、第２層より須恵器（坏）（第42図141）、土師器（甕）（第42図150）、第1層より土師器（坏）（第42図144）、覆土より土師器（坏）（第42図142、145、146）、土師器（甕）（第42図148）が出土している。また、覆土より縄文土器片（第42図154、155）が出土している。
　石器は、カマド第７層より砥石（第46図21）が１点、覆土より敲磨器（第46図22）が１点出土している。

土製品は、第２層より焼成粘土塊（第47図７）が１点出土している。

［時期］出土遺物よりおおむね９世紀末葉～10世紀前半の平安時代の竪穴住居跡と思われる。

第1号竪穴住居跡



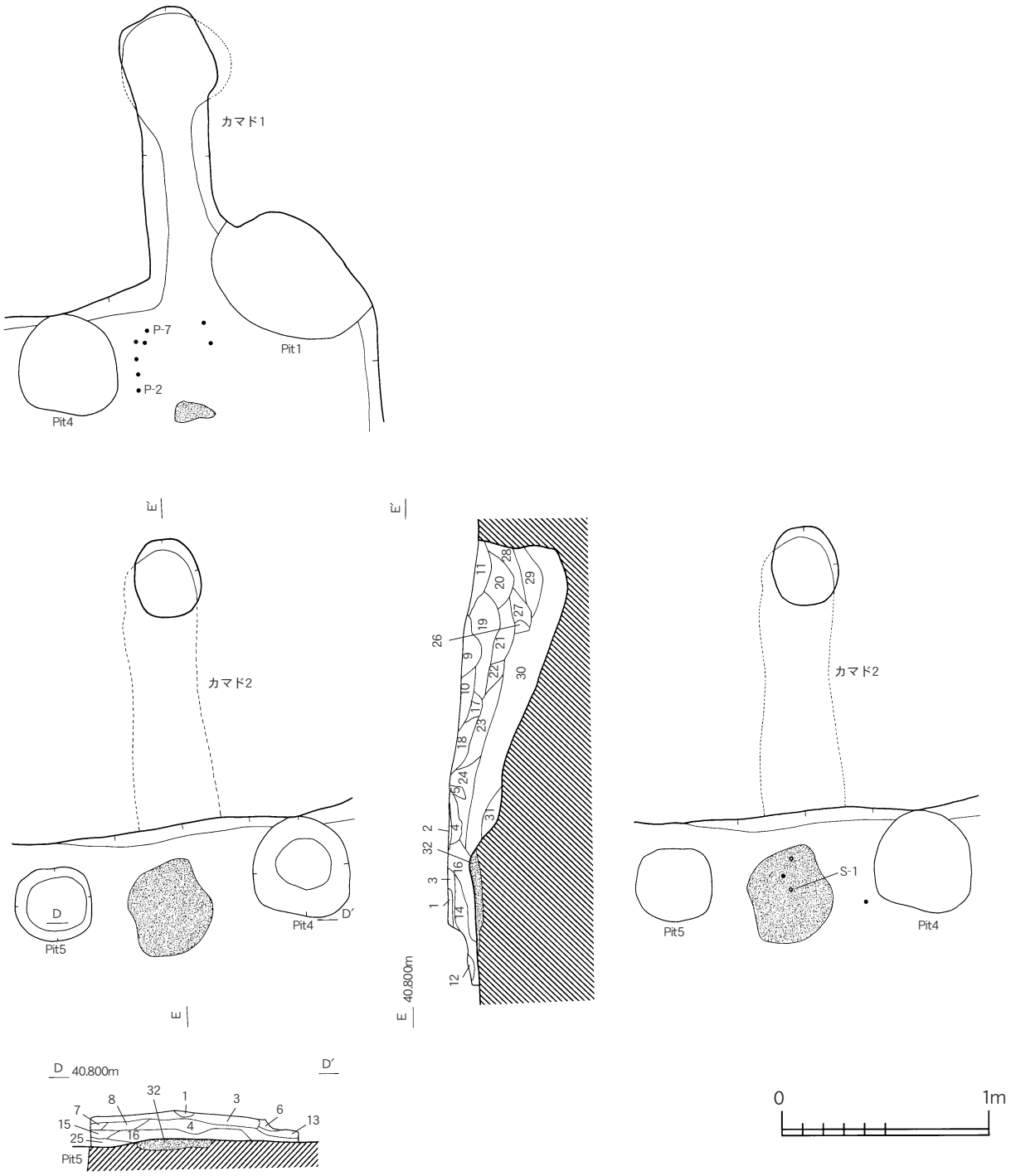
第1号竪穴住居跡
第１層　黒褐色土（10YR2/3）　ローム粒微量、ロームブロック少量
第２層　黒褐色土（10YR2/2）　ローム粒中量、ロームブロック中量、炭化粒微量
第３層　黒　色　土（10YR2/1）　焼土粒少量
第４層　暗褐色土（10YR3/4）
第５層　黒　色　土（10YR2/1）　ローム粒微量
第６層　黒褐色土（10YR2/3）　ローム粒微量、ロームブロック微量、炭化粒微量
第７層　暗褐色土（10YR3/4）　ローム粒少量、ロームブロック少量、炭化粒少量
第８層　黒褐色土（10YR2/2）　ローム粒多量、ロームブロック多量、炭化粒少量
第９層　黒　色　土（10YR1.7/1）ローム粒少量
第1号竪穴住居跡　ピット1、ピット2、ピット3
第１層　褐　色　土（10YR4/4）　ローム粒微量、ピット1
第２層　褐　色　土（10YR4/4）　ローム粒少量、ピット1
第３層　黄褐色土（10YR5/6）　ローム粒中量、ロームブロック中量、ピット1
第４層　黒褐色土（10YR2/3）　ローム粒微量、ピット1
第５層　黒褐色土（10YR2/3）　ローム粒少量、ロームブロック少量、炭化粒微量、焼土粒微量、ピット1
第６層　黒褐色土（10YR2/2）　ローム粒少量、ロームブロック少量、炭化粒微量、ピット1
第７層　黒褐色土（10YR2/2）　ロームブロック微量、炭化粒微量、ピット2
第８層　黒褐色土（10YR2/2）　ローム粒多量、ピット3
第1号竪穴住居跡　ピット4
第１層　黒褐色土（7.5YR2/2）　炭化粒少量、焼土粒少量
第２層　黒褐色土（10YR2/3）　ローム粒少量、炭化物粒微量、焼土粒微量
第３層　暗褐色土（7.5YR3/4）　ローム粒微量、炭化粒微量、焼土粒中量、焼土ブロック中量
第1号竪穴住居跡　ピット5
第１層　黒褐色土（10YR2/3）　ローム粒少量、ロームブロック少量、焼土粒中量、焼土ブロック中量
第２層　暗褐色土（10YR3/4）　ローム粒多量、ロームブロック多量
第３層　黒褐色土（10YR2/2）　ローム粒中量、ロームブロック多量

0　2m

第1号竪穴住居跡　カマド1
第１層　黒褐色土（10YR2/2）ローム粒微量、焼土粒微量
第２層　褐　色　土（10YR4/4）ローム粒多量、ロームブロック多量、
　　焼土粒少量、焼土ブロック少量
第３層　黒褐色土（10YR2/3）ローム粒少量、炭化物微量
第４層　褐　色　土（10YR4/4）ロームブロック多量、焼土ブロック少量
第５層　黒褐色土（10YR2/2）ローム粒少量、焼土粒微量
第６層　黒褐色土（10YR2/2）ローム粒微量、炭化粒微量、焼土粒微量
第７層　黒褐色土（10YR2/2）ローム粒微量、焼土粒中量、炭化物微量
第８層　黒褐色土（10YR2/3）ローム粒中量
第９層　暗褐色土（10YR3/4）ローム粒多量、焼土粒微量、
　　ロームブロック多量、炭化粒微量
第10層　黒褐色土（10YR2/3）ローム粒中量
第11層　褐　色　土（10YR4/4）ロームブロック多量
第12層　黒褐色土（10YR2/3）ローム粒少量
第13層　黒褐色土（10YR2/3）ローム粒中量、ロームブロック中量
第14層　褐　色　土（10YR4/6）火床

0　1m

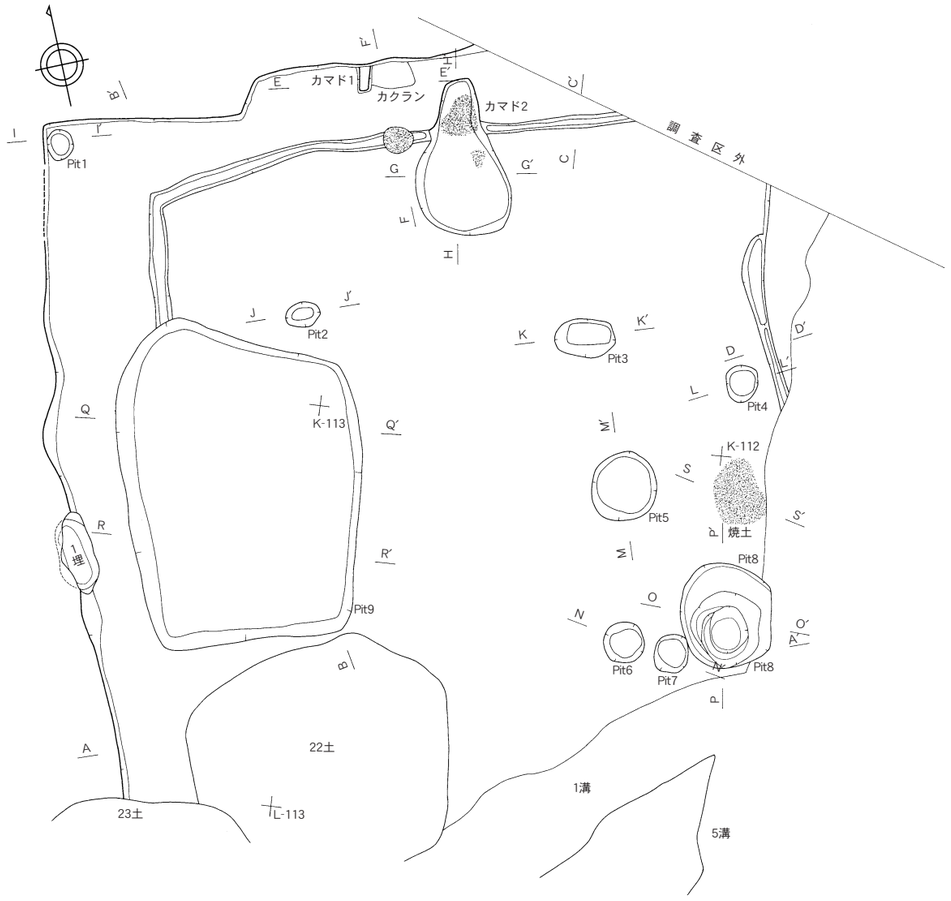
第11図　第1号竪穴住居跡（1）

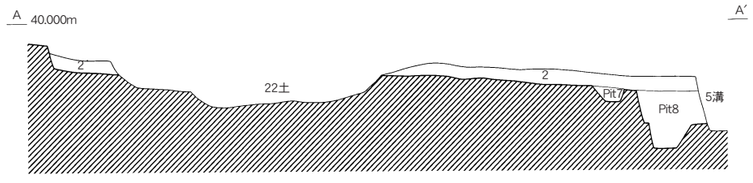


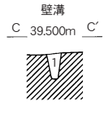
第1号竪穴住居跡　カマド2
第１層　灰 白 色（2.5Y8/1）
第２層　黒褐色土（10YR2/3）焼土粒微量
第３層　黒褐色土（10YR2/3）ローム粒多量、ロームブロック多量、焼土粒微量
第４層　褐 色 土（7.5YR4/4）焼土粒微量
第５層　暗褐色土（10YR3/4）ローム粒微量
第６層　黒褐色土（10YR2/3）ローム粒微量、炭化物少量
第７層　暗褐色土（10YR3/4）焼土粒少量
第８層　暗褐色土（10YR3/4）ローム粒微量
第９層　褐 色 土（10YR4/4）
第10層　黒褐色土（10YR2/2）ローム粒微量
第11層　黒褐色土（10YR2/2）ローム粒少量
第12層　明褐色土（7.5YR5/8）暗褐色土(10YR3/4)少量
第13層　暗褐色土（10YR3/4）焼土粒少量
第14層　暗褐色土（7.5YR4/6）ローム粒少量、炭化粒微量、焼土粒微量
第15層　暗褐色土（10YR3/3）ローム粒微量、炭化物微量
第16層　褐 色 土（10YR3/4）ローム粒少量、炭化粒微量、焼土粒微量
第17層　黒褐色土（10YR2/3）炭化粒少量、焼土粒多量
第18層　黄褐色土（10YR5/6）ローム粒多量
第19層　黒褐色土（10YR3/4）ローム粒中量
第20層　褐 色 土（10YR4/4）ローム粒微量、ロームブロック微量
第21層　褐 色 土（10YR4/4）ローム粒多量、ロームブロック多量
第22層　暗褐色土（10YR3/3）ローム粒微量
第23層　暗褐色土（10YR3/4）ローム粒少量
第24層　暗褐色土（10YR3/4）ローム粒多量、ロームブロック多量、焼土粒少量
第25層　暗褐色土（10YR3/4）ローム粒微量、炭化粒微量、焼土粒微量
第26層　黄褐色土（10YR5/6）黒褐色土(10YR2/2)微量
第27層　暗褐色土（10YR3/3）ローム粒少量
第28層　黒褐色土（10YR2/2）ローム粒中量
第29層　褐 色 土（10YR4/4）黒褐色土(10YR2/2)少量、ローム粒微量
第30層　黒褐色土（10YR2/3）ローム粒微量、焼土粒少量、焼土ブロック少量
第31層　褐 色 土（10YR4/4）ローム粒多量
第32層　明褐色土（7.5YR5/8）火床

第12図　第1号竪穴住居跡（2）

第2号竪穴住居跡

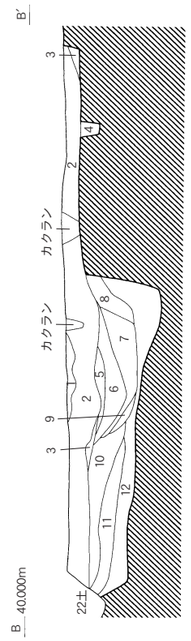


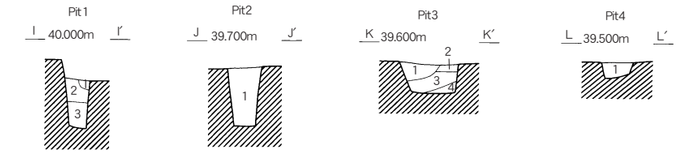


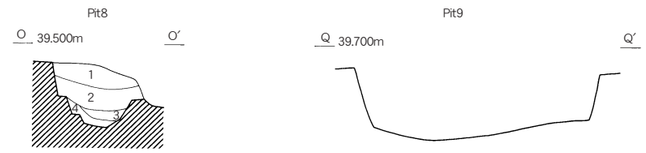


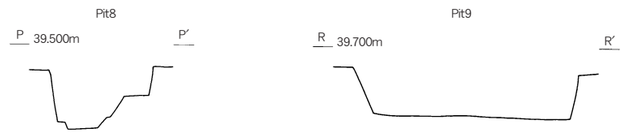
第2号竪穴住居跡
第１層　黒　色　土（10YR2/1）ローム粒微量
第２層　暗 褐 色 土（10YR3/4）ローム粒少量、炭化粒微量
第３層　褐　色　土（10YR4/6）ローム粒多量、ロームブロック多量
第４層　黒 褐 色 土（10YR3/2）と明黄褐色土(10YR6/6)の混合土
ローム粒多量、ロームブロック多量、炭化粒微量
第５層　暗 褐 色 土（10YR3/3）ローム粒少量、ピット9
第６層　暗 褐 色 土（10YR3/4）ローム粒少量、ロームブロック少量、炭化粒少量、焼土粒微量、焼土ブロック微量、ピット9
第７層　黒 褐 色 土（10YR2/2）ローム粒少量、ロームブロック微量、炭化粒少量、ピット9
第８層　黒 褐 色 土（10YR2/3）ローム粒少量、炭化粒少量、ピット9
第９層　黒 褐 色 土（10YR2/3）ローム粒微量、焼土粒微量、ピット9
第10層　黄 褐 色 土（10YR5/6）炭化粒微量、焼土粒微量、ピット9
第11層　褐　色　土（10YR4/4）炭化粒少量、ピット9
第12層　明黄褐色土（10YR6/6）ピット9

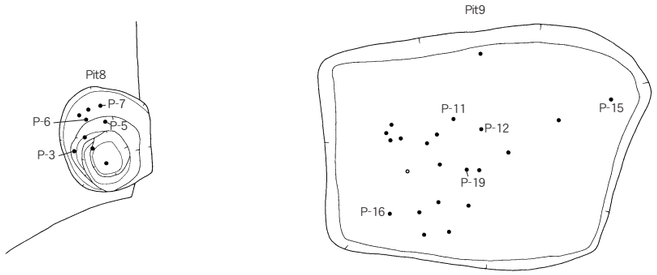
第2号竪穴住居跡　溝
第１層　黒 褐 色 土（10YR3/2）と明黄褐色土(10YR6/6)の混合土
ローム粒少量、ロームブロック少量、炭化粒微量











第2号竪穴住居跡　ピット1
第１層　暗 褐 色 土（10YR3/4）ローム粒多量
第２層　暗 褐 色 土（10YR3/3）ローム粒少量
第３層　黒 褐 色 土（10YR2/3）ローム粒少量、ロームブロック少量

第2号竪穴住居跡　ピット2
第１層　暗 褐 色 土（10YR3/4）ローム粒少量、炭化粒微量

第2号竪穴住居跡　ピット3
第１層　暗 褐 色 土（10YR3/3）ローム粒多量、ロームブロック多量、炭化粒多量
第２層　暗 褐 色 土（10YR3/4）ローム粒少量、炭化粒少量
第３層　暗 褐 色 土（10YR3/4）ローム粒多量、ロームブロック多量、炭化粒少量
第４層　黄 褐 色 土（10YR5/6）ローム粒少量、炭化粒微量

第2号竪穴住居跡　ピット4
第１層　暗 褐 色 土（10YR3/4）ローム粒少量、炭化粒少量、焼土粒微量

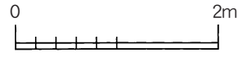
第2号竪穴住居跡　ピット5
第１層　褐　色　土（10YR4/4）ローム粒微量、ロームブロック微量、炭化粒少量
第２層　褐　色　土（10YR4/4）ローム粒少量、焼土粒少量
第３層　褐　色　土（10YR4/6）ローム粒微量

第2号竪穴住居跡　ピット6
第１層　黒 褐 色 土（10YR2/3）ローム粒少量、炭化粒微量
第２層　暗 褐 色 土（10YR3/4）ローム粒微量、炭化粒微量
第３層　暗 褐 色 土（10YR3/3）ローム粒少量
第４層　黄 褐 色 土（10YR5/8）炭化粒微量

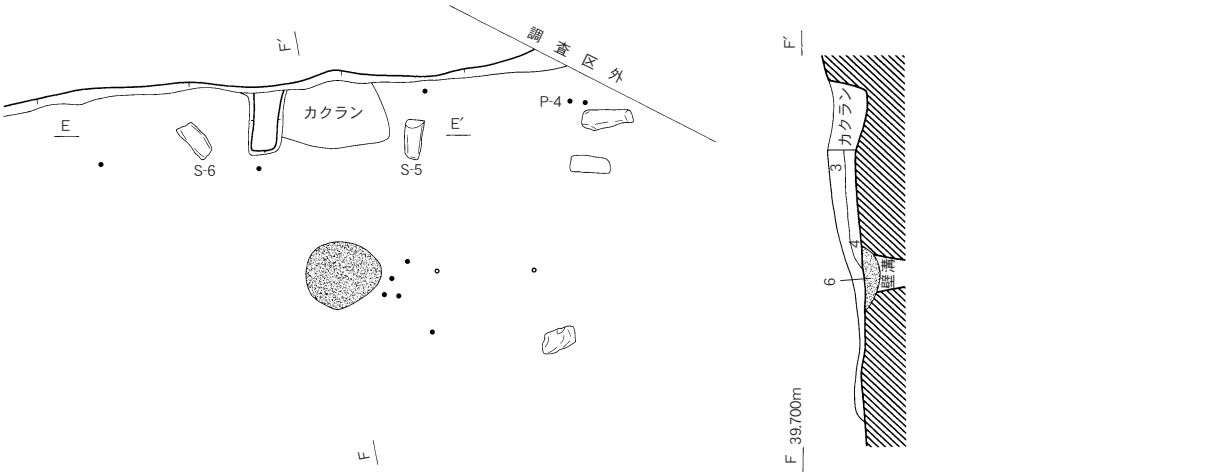
第2号竪穴住居跡　ピット7
第１層　暗 褐 色 土（10YR3/3）ローム粒多量、炭化粒少量
第２層　褐　色　土（10YR4/4）ローム粒少量、炭化粒微量

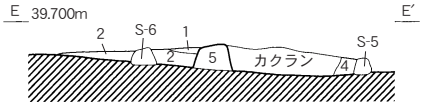
第2号竪穴住居跡　ピット8
第１層　暗 褐 色 土（10YR3/3）ローム粒少量、炭化粒少量
第２層　褐　色　土（10YR4/4）ロームブロック少量、炭化粒少量
第３層　にぶい黄褐色土（10YR4/3）炭化粒微量
第４層　黄 褐 色 土（10YR5/6）炭化粒微量

第2号竪穴住居跡　焼土
第１層　黒 褐 色 土（10YR2/3）ローム粒少量、炭化粒微量、焼土粒少量
第２層　明赤褐色土（5YR5/8）　ローム粒微量、炭化粒微量

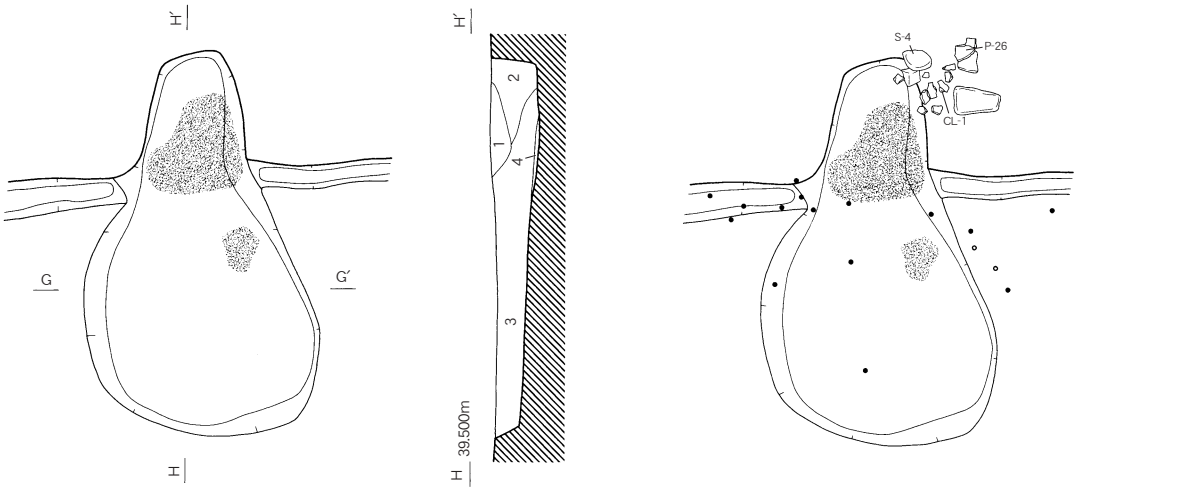


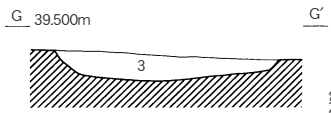
第13図　第2号竪穴住居跡（1）

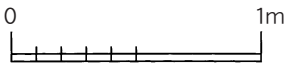




第2号竪穴住居跡　カマド1
第１層　にぶい黄褐色土（10YR5/4）ローム粒少量、炭化粒微量、焼土粒微量
第２層　暗 褐 色 土（10YR3/4）ローム粒少量、炭化粒微量、焼土粒少量
第３層　褐　色　土（10YR4/6）ローム粒少量、炭化粒微量、焼土粒少量
第４層　褐　色　土（7.5YR4/4）ローム粒微量、炭化粒微量、焼土粒少量
第５層　黄 褐 色 土（10YR5/8）ソデ
第６層　明赤褐色土（2.5YR5/8）火床



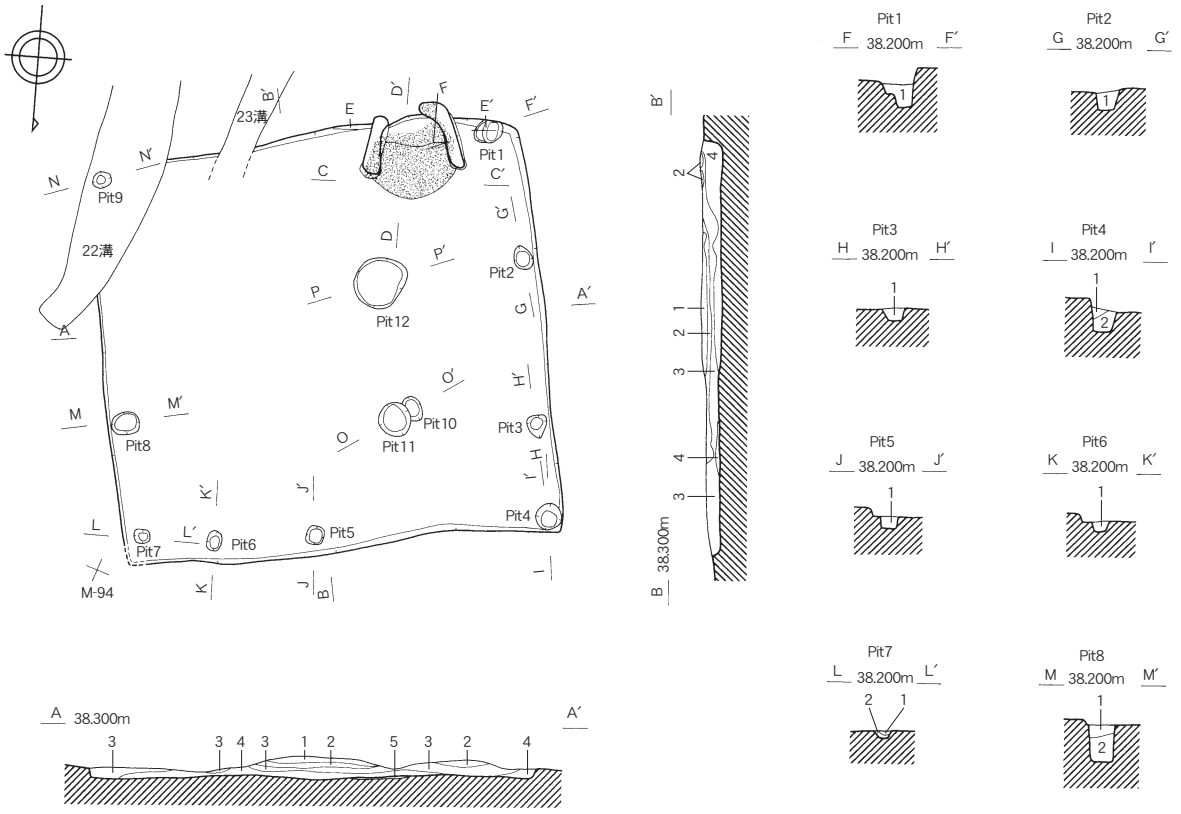




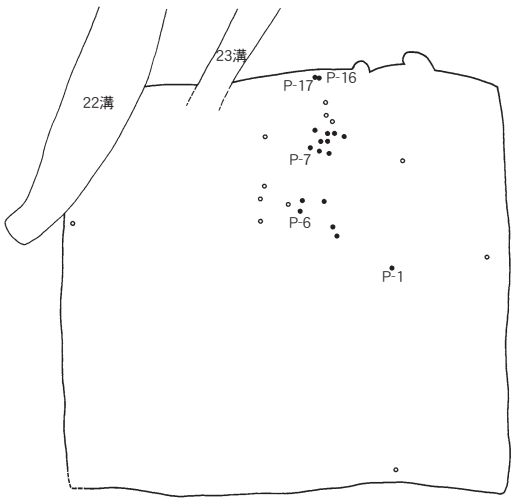
第2号竪穴住居跡　カマド2
第１層　褐　色　土（10YR4/4）ローム粒微量、ロームブロック微量、炭化粒微量、焼土粒微量
第２層　暗 褐 色 土（10YR3/4）ローム粒少量、炭化粒微量、焼土粒少量、焼土ブロック少量
第３層　暗 褐 色 土（7.5YR3/4）ローム粒微量、炭化粒微量、焼土粒少量、焼土ブロック少量
第４層　明赤褐色土（2.5YR5/8）

第14図　第2号竪穴住居跡（2）

第3号竪穴住居跡



第3号竪穴住居跡
第１層　黒　色　土（10YR2/1）　ローム粒微量、炭化物微量
第２層　黒　色　土（10YR1.7/1）十和田a火山灰多量
第３層　黒 褐 色 土（10YR2/2）　ローム粒微量、焼土粒微量
第４層　黒 褐 色 土（10YR2/3）　ローム粒少量
第５層　にぶい黄褐色土（10YR5/4）　ロームブロック中量、焼土粒中量、貼床



第3号竪穴住居跡　ピット1
第１層　黒褐色土（10YR2/2）　ローム粒微量

第3号竪穴住居跡　ピット2
第１層　黒褐色土（10YR2/2）　ローム粒微量

第3号竪穴住居跡　ピット3
第１層　黒 色 土（10YR2/2）　ローム粒少量

第3号竪穴住居跡　ピット4
第１層　黒褐色土（10YR2/2）　ローム粒微量
第２層　黒褐色土（10YR2/3）　ローム粒微量

第3号竪穴住居跡　ピット5
第１層　黒褐色土（10YR2/2）　ローム粒微量

第3号竪穴住居跡　ピット6
第１層　黒褐色土（10YR2/3）　ローム粒中量

第3号竪穴住居跡　ピット7
第１層　黒褐色土（10YR2/3）　焼土粒微量
第２層　暗褐色土（10YR3/3）　ローム粒微量

第3号竪穴住居跡　ピット8
第１層　黒 色 土（10YR2/1）　ローム粒微量
第２層　黒 色 土（10YR1.7/1）ローム粒少量

第3号竪穴住居跡　ピット9
第１層　黒褐色土（10YR2/3）　ローム粒微量

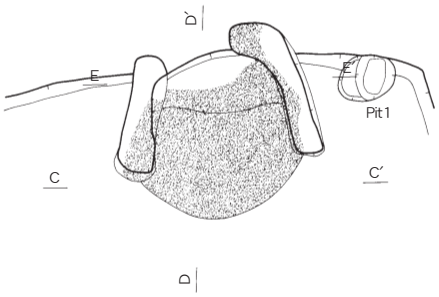
第3号竪穴住居跡　ピット10
第１層　黒 色 土（10YR2/1）　ローム粒微量

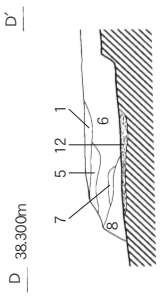
第3号竪穴住居跡　ピット11
第１層　黒 色 土（10YR1.7/1）ローム粒微量
第２層　黒褐色土（10YR2/2）　焼土粒微量

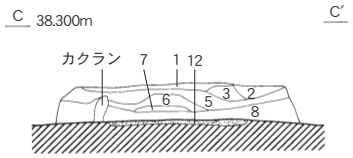
第3号竪穴住居跡　ピット12
第１層　黒 色 土（10YR2/1）　ローム粒微量

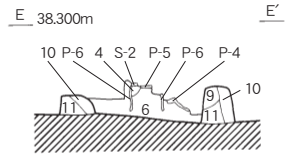
0　2m

第15図　第3号竪穴住居跡（1）

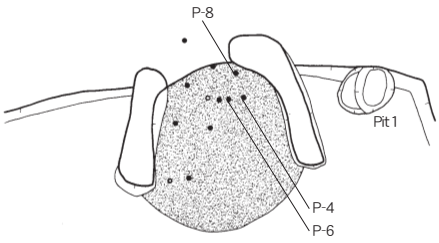






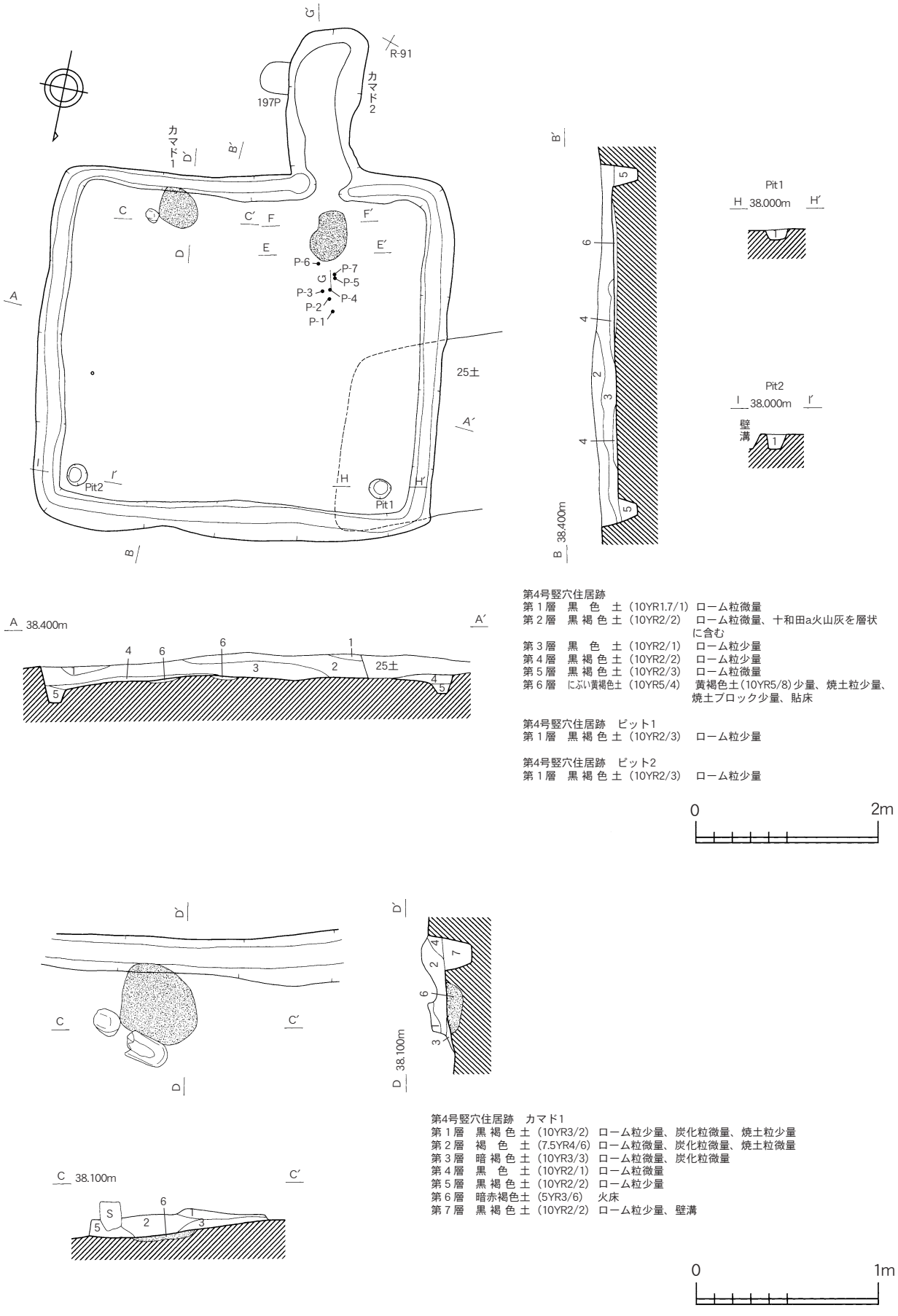


第3号竪穴住居跡　カマド
第１層　黒　色　土（10YR2/1）ローム粒微量、焼土粒少量
第２層　黒 褐 色 土（10YR2/3）ロームブロック微量
第３層　暗赤褐色土（5YR3/6）　焼土
第４層　黒 褐 色 土（10YR2/3）ローム粒少量、焼土粒少量
第５層　暗 褐 色 土（10YR3/3）暗赤褐色土(5YR3/6)少量、ローム粒少量、ロームブロック少量
第６層　暗 褐 色 土（10YR3/4）炭化物微量、焼土粒少量
第７層　明赤褐色土（5YR5/8）　焼土
第８層　黒 褐 色 土（10YR2/3）ローム粒少量、焼土粒微量
第９層　赤 褐 色 土（5YR4/6）　暗褐色土(10YR3/4)少量、ソデ
第10層　褐　色　土（10YR4/6）ローム粒微量、ソデ
第11層　暗 褐 色 土（10YR3/4）ローム粒微量、ソデ
第12層　赤 褐 色 土（2.5YR4/6）火床



第16図　第3号竪穴住居跡（2）

第4号竪穴住居跡



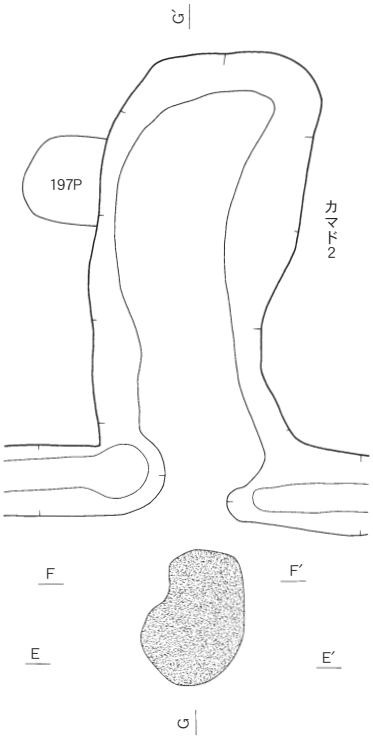
第4号竪穴住居跡
第１層　黒　色　土（10YR1.7/1）ローム粒微量
第２層　黒 褐 色 土（10YR2/2）　ローム粒微量、十和田a火山灰を層状に含む
第３層　黒　色　土（10YR2/1）　ローム粒少量
第４層　黒 褐 色 土（10YR2/2）　ローム粒少量
第５層　黒 褐 色 土（10YR2/3）　ローム粒微量
第６層　にぶい黄褐色土（10YR5/4）　黄褐色土(10YR5/8)少量、焼土粒少量、焼土ブロック少量、貼床

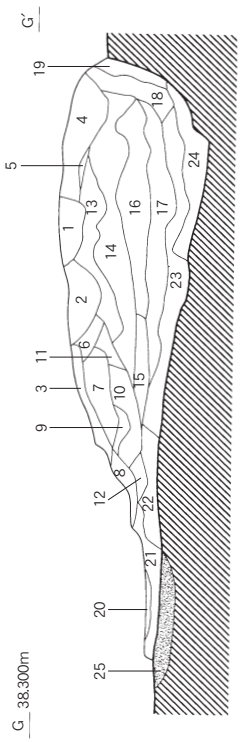
第4号竪穴住居跡　ピット1
第１層　黒 褐 色 土（10YR2/3）　ローム粒少量

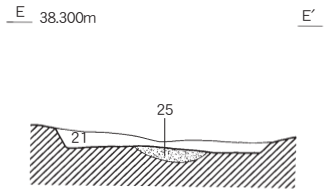
第4号竪穴住居跡　ピット2
第１層　黒 褐 色 土（10YR2/3）　ローム粒少量

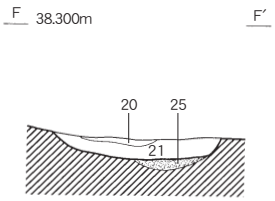
第4号竪穴住居跡　カマド1
第１層　黒 褐 色 土（10YR3/2）ローム粒少量、炭化粒微量、焼土粒少量
第２層　褐　色　土（7.5YR4/6）ローム粒微量、炭化粒微量、焼土粒微量
第３層　暗 褐 色 土（10YR3/3）ローム粒微量、炭化粒微量
第４層　黒　色　土（10YR2/1）ローム粒微量
第５層　黒 褐 色 土（10YR2/2）ローム粒少量
第６層　暗赤褐色土（5YR3/6）　火床
第７層　黒 褐 色 土（10YR2/2）ローム粒少量、壁溝

第17図　第4号竪穴住居跡（1）





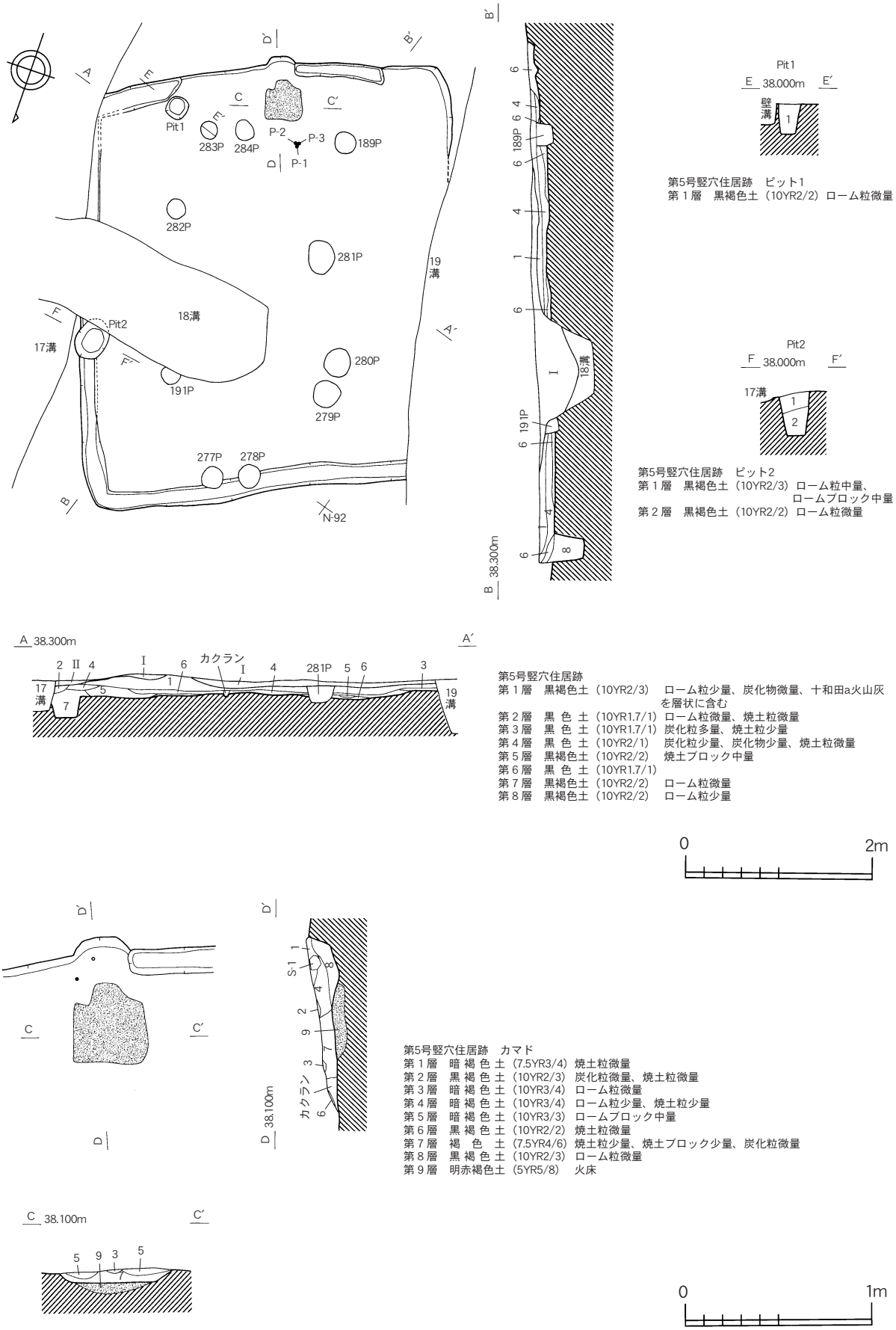




第4号竪穴住居跡　カマド2
第１層　暗 褐 色 土（10YR3/3）　ローム粒少量、焼土粒微量
第２層　黒　色　土（10YR1.7/1）ローム粒微量、焼土粒微量
第３層　黒　色　土（10YR2/1）　ローム粒微量、炭化粒微量、焼土粒少量
第４層　暗 褐 色 土（7.5YR3/4）　ローム粒微量、焼土粒微量
第５層　黒 褐 色 土（10YR2/2）　ローム粒少量
第６層　黒 褐 色 土（10YR2/2）　ローム粒少量、焼土粒微量
第７層　極暗赤褐色土（5YR2/3）　黒褐色土(10YR2/2)少量、焼土ブロック多量
第８層　にぶい黄褐色土（10YR4/3）　ローム粒少量
第９層　極暗褐色土（7.5YR2/3）　焼土粒多量
第10層　黒 褐 色 土（10YR2/2）　ローム粒少量、焼土粒少量
第11層　黒　色　土（7.5YR1.7/1）ローム粒微量
第12層　黒 褐 色 土（10YR2/3）　ローム粒微量、炭化粒微量
第13層　暗 褐 色 土（10YR3/4）　ローム粒中量、炭化粒微量、焼土粒少量
第14層　黒　色　土（10YR2/1）　ローム粒少量、焼土粒微量、焼土ブロック微量
第15層　暗 褐 色 土（7.5YR3/4）　ローム粒少量
第16層　黒　色　土（10YR1.7/1）ローム粒少量
第17層　黒 褐 色 土（10YR2/2）　ローム粒少量、焼土粒微量
第18層　にぶい黄褐色土（10YR4/3）　ローム粒微量、炭化粒微量、焼土粒少量
第19層　黒 褐 色 土（10YR2/3）　ローム粒少量、炭化粒微量
第20層　極暗褐色土（7.5YR2/3）　ローム粒少量
第21層　褐　色　土（7.5YR4/6）　ローム粒微量
第22層　黒 褐 色 土（10YR2/3）　ローム粒少量、炭化粒微量、焼土粒微量
第23層　黒 褐 色 土（10YR2/2）　ローム粒微量
第24層　黒 褐 色 土（10YR2/3）　ローム粒微量
第25層　赤 褐 色 土（5YR4/8）　火床

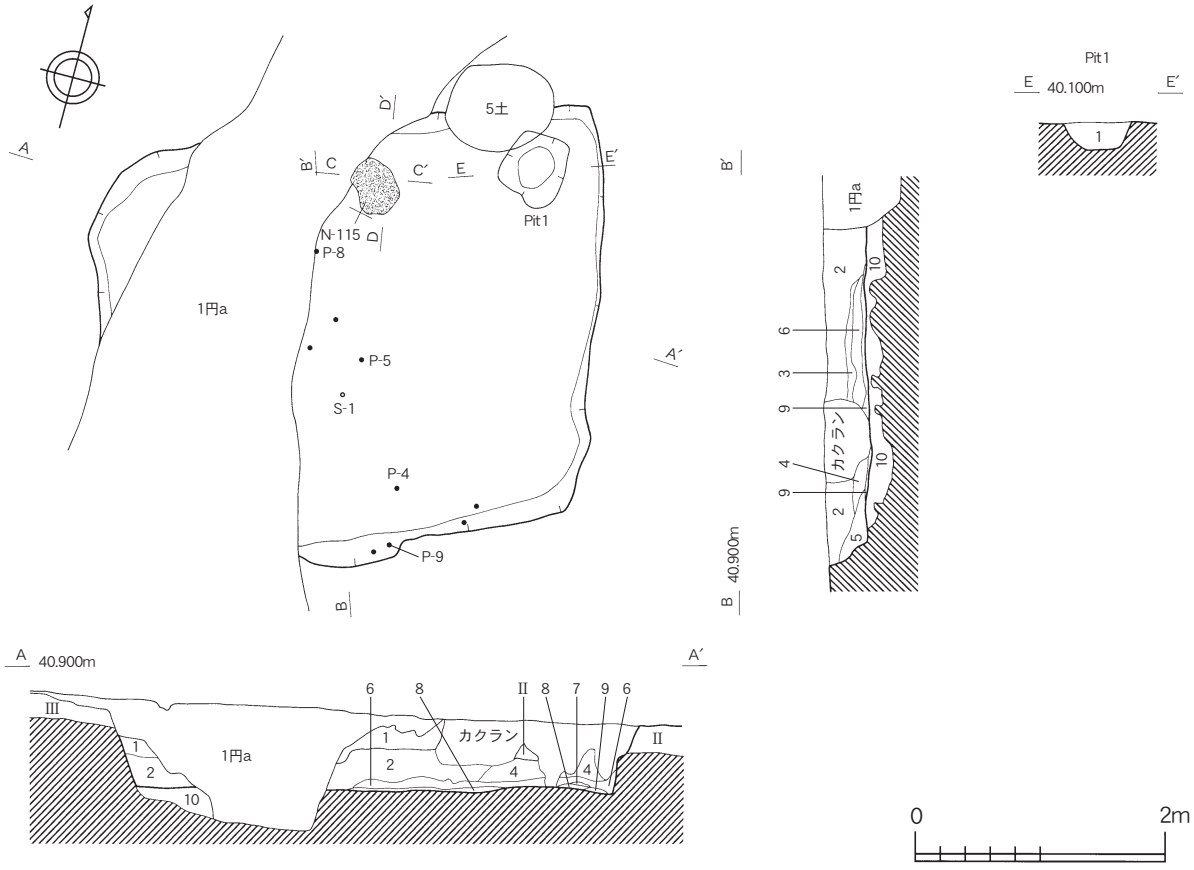
第18図　第4号竪穴住居跡（2）

第5号竪穴住居跡



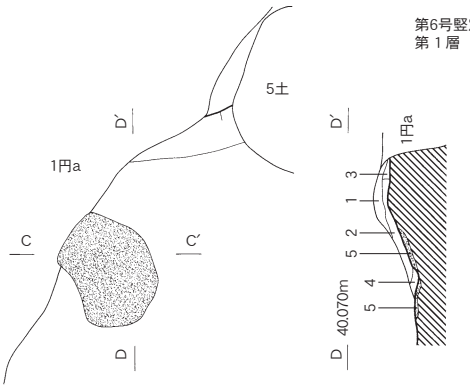
第19図　第5号竪穴住居跡

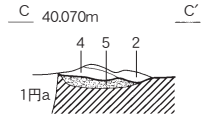
第6号竪穴住居跡



第6号竪穴住居跡
第１層　褐 色 土（10YR4/4）ローム粒少量、ロームブロック少量、炭化粒微量
第２層　暗褐色土（10YR3/4）ローム粒中量、ロームブロック多量、炭化粒少量、炭化物微量
第３層　黒 色 土（10YR2/1）ローム粒中量、炭化粒微量
第４層　黒褐色土（10YR3/2）と黒色土（10YR2/1）の混合土
ローム粒少量、ロームブロック微量、炭化粒微量
第５層　暗褐色土（10YR3/4）ローム粒微量、ロームブロック微量、炭化粒微量
第６層　暗褐色土（10YR3/3）黒褐色土（10YR2/3）少量、ローム粒多量、ロームブロック多量、
炭化粒微量
第７層　黒褐色土（10YR2/3）ローム粒少量
第８層　黒褐色土（10YR3/3）ローム粒少量
第９層　黒褐色土（10YR2/3）ローム粒多量、ロームブロック多量、炭化粒微量、焼土粒微量、床面
第10層　黒褐色土（10YR2/3）と黄褐色土（10YR5/6）の混合土、ロームブロック多量、貼床

第6号竪穴住居跡　ピット1
第１層　褐 色 土（10YR4/4）ロームブロック少量

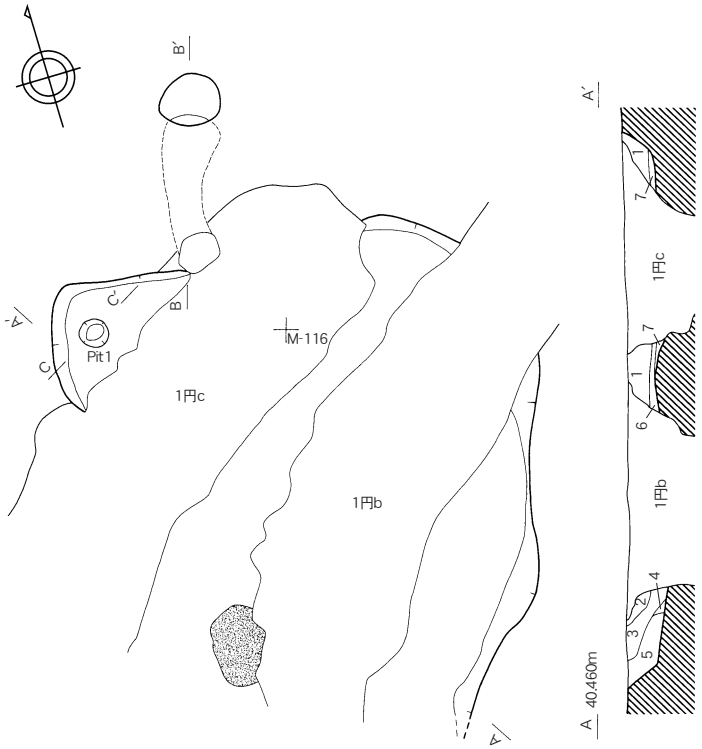


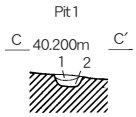


第6号竪穴住居跡　カマド
第１層　赤褐色土（5YR4/6）　炭化粒微量
第２層　暗褐色土（7.5YR3/4）ローム粒微量、炭化粒微量、焼土粒微量
第３層　暗褐色土（10YR3/4）ローム粒微量、炭化粒微量
第４層　褐 色 土（10YR4/4）ローム粒微量
第５層　明褐色土（7.5YR5/8）火床

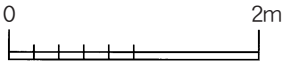
第20図　第6号竪穴住居跡

第7号竪穴住居跡

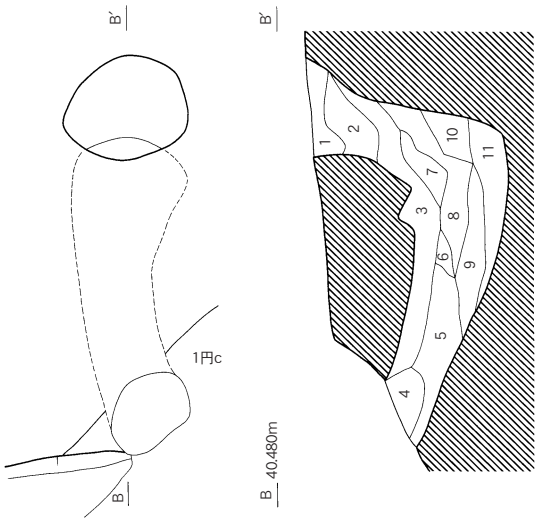




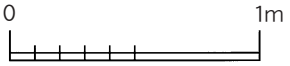
第7号竪穴住居跡　ピット1
第１層　黒褐色土（10YR2/2）ローム粒少量、ロームブロック少量
第２層　黄褐色土（10YR5/6）



第7号竪穴住居跡
第１層　暗褐色土（10YR3/4）ローム粒少量、ロームブロック少量、炭化粒少量
第２層　黒褐色土（7.5YR2/3）ローム粒少量、ロームブロック微量、炭化粒微量
第３層　暗褐色土（10YR3/4）ローム粒少量、ロームブロック少量
第４層　暗褐色土（7.5YR3/4）ローム粒少量、ロームブロック微量
第５層　黒褐色土（10YR2/3）ローム粒少量、ロームブロック少量
第６層　黒褐色土（10YR2/2）ローム粒少量、貼床
第７層　黒褐色土（10YR2/2）ローム粒少量、貼床

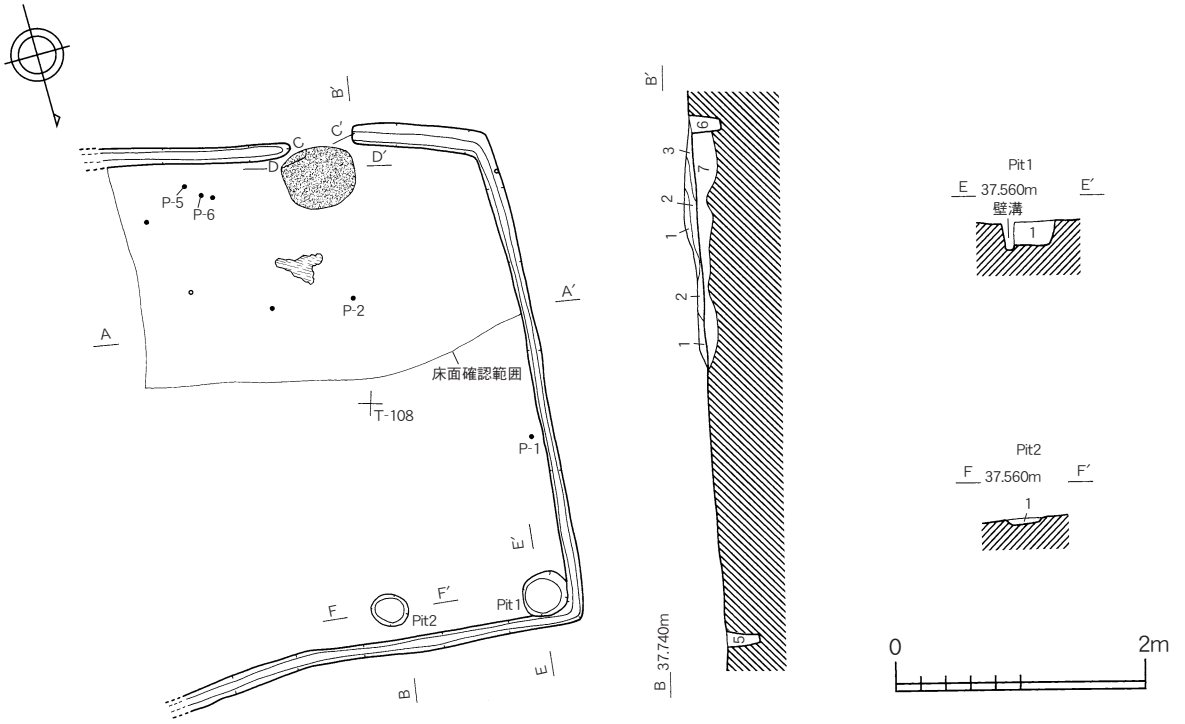


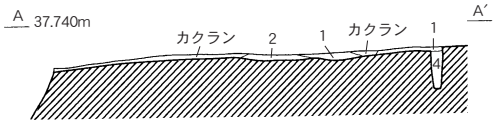
第7号竪穴住居跡　カマド　北側煙道
第１層　暗褐色土（10YR3/3）ローム粒微量、炭化粒微量
第２層　暗褐色土（10YR3/4）ローム粒中量、ロームブロック中量、炭化粒微量
第３層　黒褐色土（10YR2/3）ローム粒少量、ロームブロック少量
第４層　赤褐色土（5YR4/8）　焼土
第５層　褐 色 土（7.5YR4/4）ローム粒少量、ロームブロック少量、炭化粒微量、炭化物微量、焼土ブロック少量
第６層　褐 色 土（7.5YR4/4）
第７層　褐 色 土（7.5YR4/4）黒褐色土混入
第８層　黒褐色土（10YR2/2）ローム粒微量、ロームブロック少量、炭化粒少量、焼土ブロック微量
第９層　黄褐色土（10YR5/6）
第10層　黒褐色土（7.5YR2/3）ローム粒微量、炭化粒微量
第11層　黒褐色土（10YR2/2）ローム粒中量、ロームブロック少量



第21図　第7号竪穴住居跡

第8号竪穴住居跡

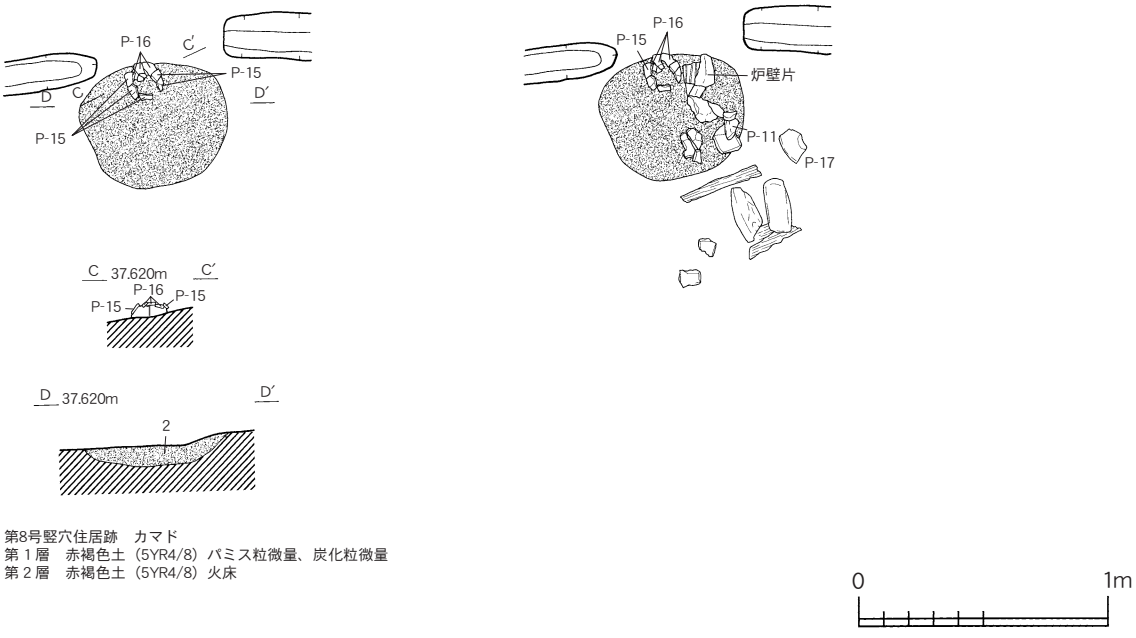




第8号竪穴住居跡
第１層　黒 色 土（10YR1.7/1）ローム粒少量、炭化粒微量、焼土粒微量
第２層　黄褐色土（10YR5/6）　ローム粒微量、焼土粒微量
第３層　褐 色 土（7.5YR4/6）ローム粒少量、焼土粒微量
第４層　黒 色 土（10YR1.7/1）ローム粒少量、炭化粒微量
第５層　暗褐色土（10YR3/4）　ローム粒少量、炭化粒少量
第６層　黒 色 土（10YR2/1）　ローム粒少量、炭化粒微量
第７層　暗褐色土（10YR3/3）　ローム粒少量、パミス粒少量、炭化粒微量、焼土粒微量
貼床

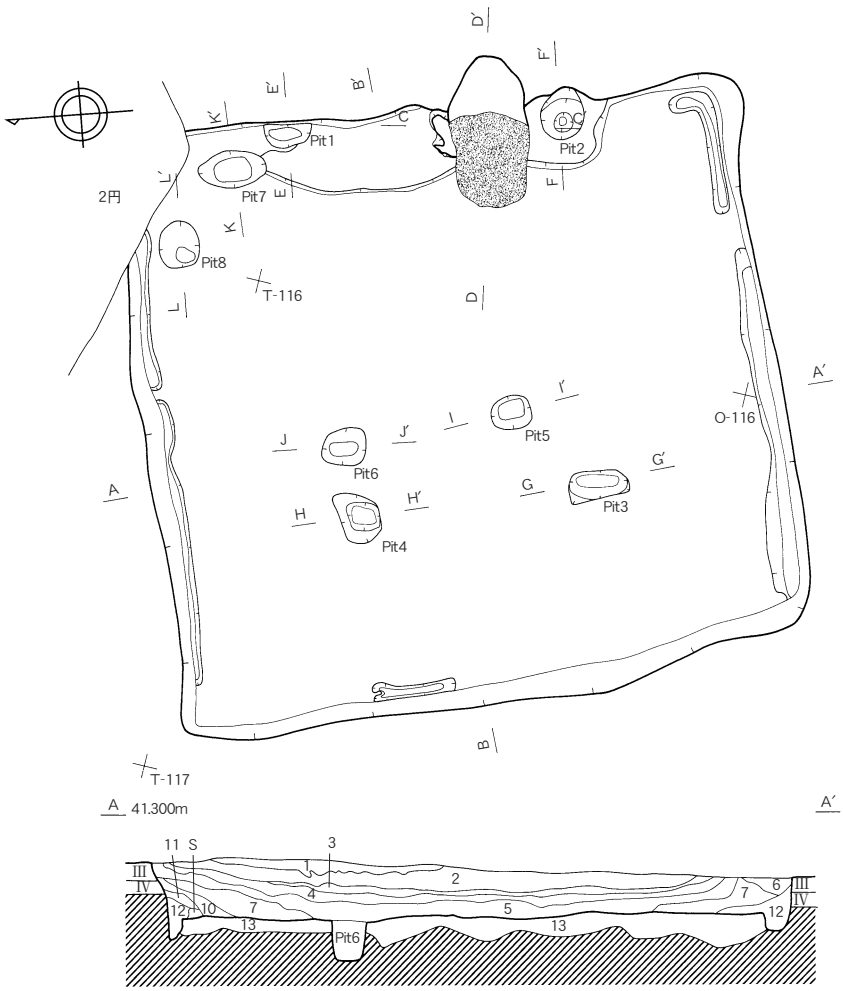
第8号竪穴住居跡　ピット1
第１層　暗褐色土（10YR3/3）　ローム粒少量、炭化粒微量

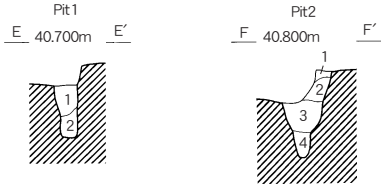
第8号竪穴住居跡　ピット2
第１層　黒 色 土（10YR2/1）　ローム粒少量、炭化粒微量

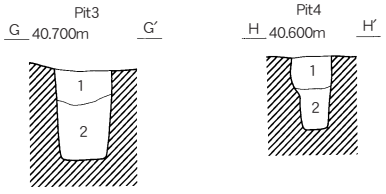


第8号竪穴住居跡　カマド
第１層　赤褐色土（5YR4/8）パミス粒微量、炭化粒微量
第２層　赤褐色土（5YR4/8）火床

第22図　第8号竪穴住居跡







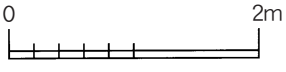
第9号竪穴住居跡
第１層　黒　色　土（10YR1.7/1）ローム粒微量
第２層　黒 褐 色 土（10YR2/2）　ローム粒微量、炭化粒微量、焼土粒微量
第３層　黒 褐 色 土（10YR2/1）　ローム粒微量、炭化粒微量
第４層　黒 褐 色 土（10YR3/1）　ローム粒微量、炭化粒微量、白頭山火山灰を層状に含む
第５層　黒　色　土（10YR1.7/1）ローム粒微量、炭化粒微量、炭化物微量
第６層　黒　色　土（10YR2/1）　ローム粒少量、ロームブロック微量
第７層　黒 褐 色 土（10YR2/2）　ローム粒少量、ロームブロック少量、焼土粒微量
第８層　黒 褐 色 土（10YR2/2）　黄褐色土(10YR5/6)の混合土
ローム粒少量、ロームブロック多量
第９層　黒 褐 色 土（10YR2/2）　ローム粒少量、ロームブロック少量
第10層　黒　色　土（10YR1.7/1）ローム粒微量、ロームブロック微量
第11層　黒　色　土（10YR1.7/1）ローム粒微量、ロームブロック微量
第12層　黒 褐 色 土（10YR2/2）　ローム粒少量、ロームブロック多量、焼土粒微量
第13層　黄 褐 色 土（10YR5/6）　と黒褐色土(10YR2/2)の混合土
ローム粒少量、ロームブロック多量、炭化粒微量、焼土粒微量、貼床

第9号竪穴住居跡　ピット1
第１層　黒 褐 色 土（10YR2/2）　ローム粒少量、炭化粒微量
第２層　黒　色　土（10YR2/1）　ローム粒少量

第9号竪穴住居跡　ピット2
第１層　黒 褐 色 土（10YR2/2）　ローム粒微量
第２層　黒 褐 色 土（10YR3/1）　ローム粒微量
第３層　黒 褐 色 土（10YR2/3）　ローム粒少量、ロームブロック少量、炭化粒微量
第４層　黒 褐 色 土（10YR2/3）　ローム粒微量

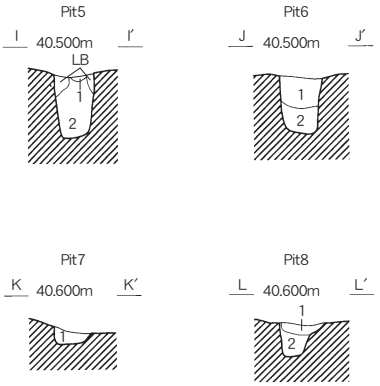
第9号竪穴住居跡　ピット3
第１層　黒 褐 色 土（10YR2/2）　ローム粒少量、ロームブロック少量、炭化粒微量、炭化物微量、焼土粒微量
第２層　黄 褐 色 土（10YR5/4）　パミス粒微量

第9号竪穴住居跡　ピット4
第１層　黒 褐 色 土（10YR2/2）　ローム粒少量、ロームブロック少量、炭化粒微量、炭化物微量、焼土粒微量
第２層　黄 褐 色 土（10YR5/6）



第23図　第9号竪穴住居跡（1）

第9号竪穴住居跡

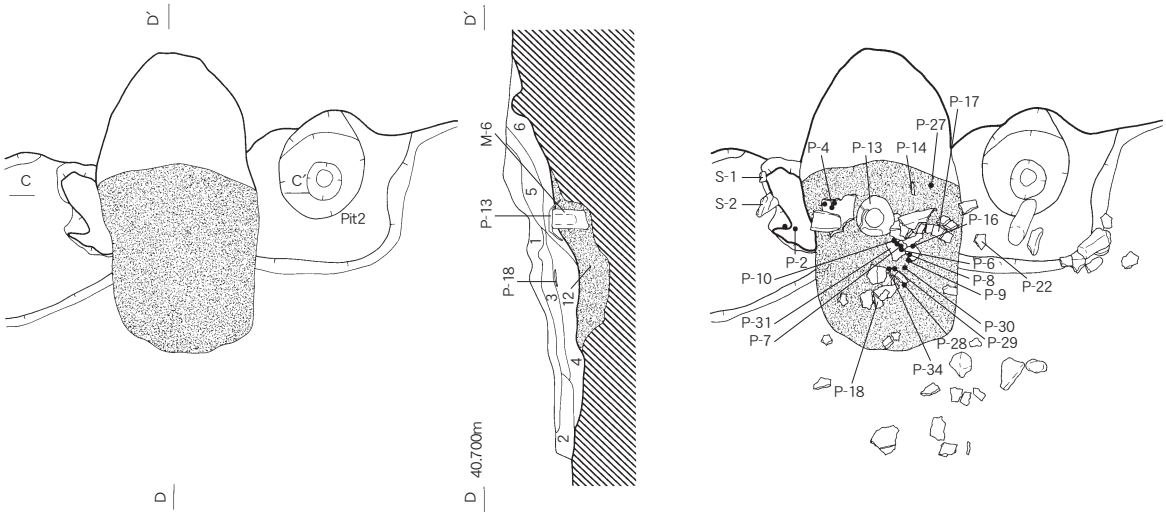


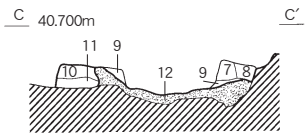
第9号竪穴住居跡　ピット5
第１層　褐 色 土（10YR4/6）ローム粒少量
第２層　暗褐色土（10YR3/3）ローム粒少量

第9号竪穴住居跡　ピット6
第１層　褐 色 土（10YR4/6）ローム粒少量
第２層　暗褐色土（10YR3/3）ローム粒少量

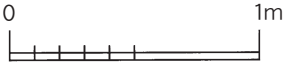
第9号竪穴住居跡　ピット7
第１層　黒褐色土（10YR2/2）ローム粒微量

第9号竪穴住居跡　ピット8
第１層　黒褐色土（10YR2/2）ローム粒微量、焼土粒微量
第２層　黒 色 土（10YR2/1）ローム粒微量



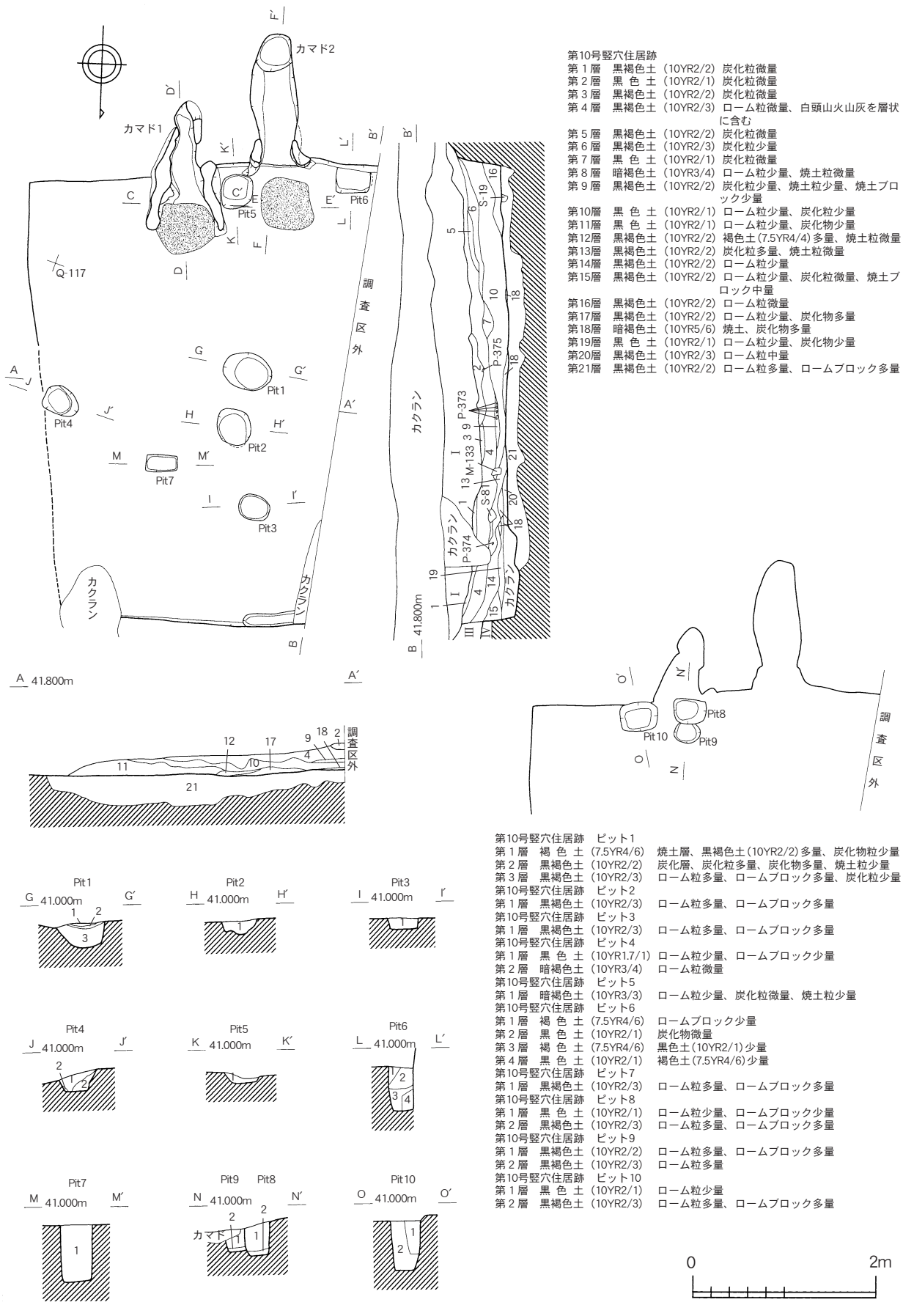


第9号竪穴住居跡　カマド
第１層　暗 褐 色 土（10YR3/4）ローム粒少量、炭化粒微量、焼土粒少量、焼土ブロック少量
第２層　黒 褐 色 土（10YR2/3）ローム粒微量、炭化物微量、焼土粒微量
第３層　にぶい黄褐色土（10YR4/3）ローム粒微量、炭化粒微量、焼土粒微量
第４層　褐　色　土（10YR4/4）ローム粒微量、焼土粒微量
第５層　褐　色　土（10YR4/4）と褐色土（7.5YR4/4）の混合土
　　ローム粒微量、炭化粒少量、炭化物少量、焼土粒少量、焼土ブロック少量
第６層　暗赤褐色土（5YR3/6）　と褐色土（7.5YR4/4）の混合土
　　ローム粒微量、焼土粒多量、焼土ブロック多量
第７層　暗 褐 色 土（10YR3/4）ローム粒少量、ソデ
第８層　明 褐 色 土（10YR5/6）ローム粒微量、ソデ
第９層　明赤褐色土（5YR5/8）
第10層　暗 褐 色 土（10YR3/4）ローム粒少量、ソデ
第11層　黒 褐 色 土（10YR3/2）ソデ
第12層　明赤褐色土（2.5YR5/8）火床



第24図　第9号竪穴住居跡（2）

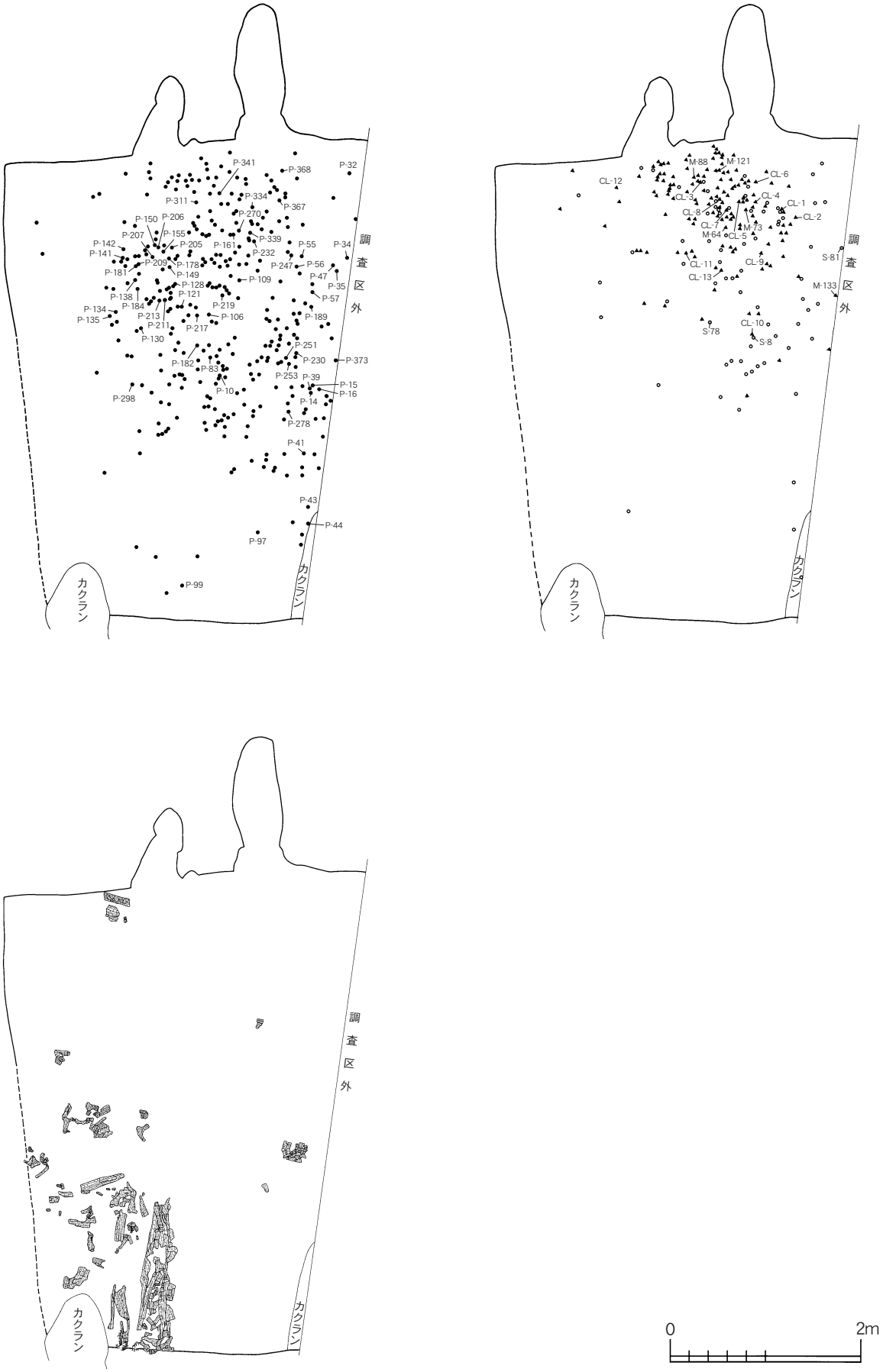
第10号竪穴住居跡



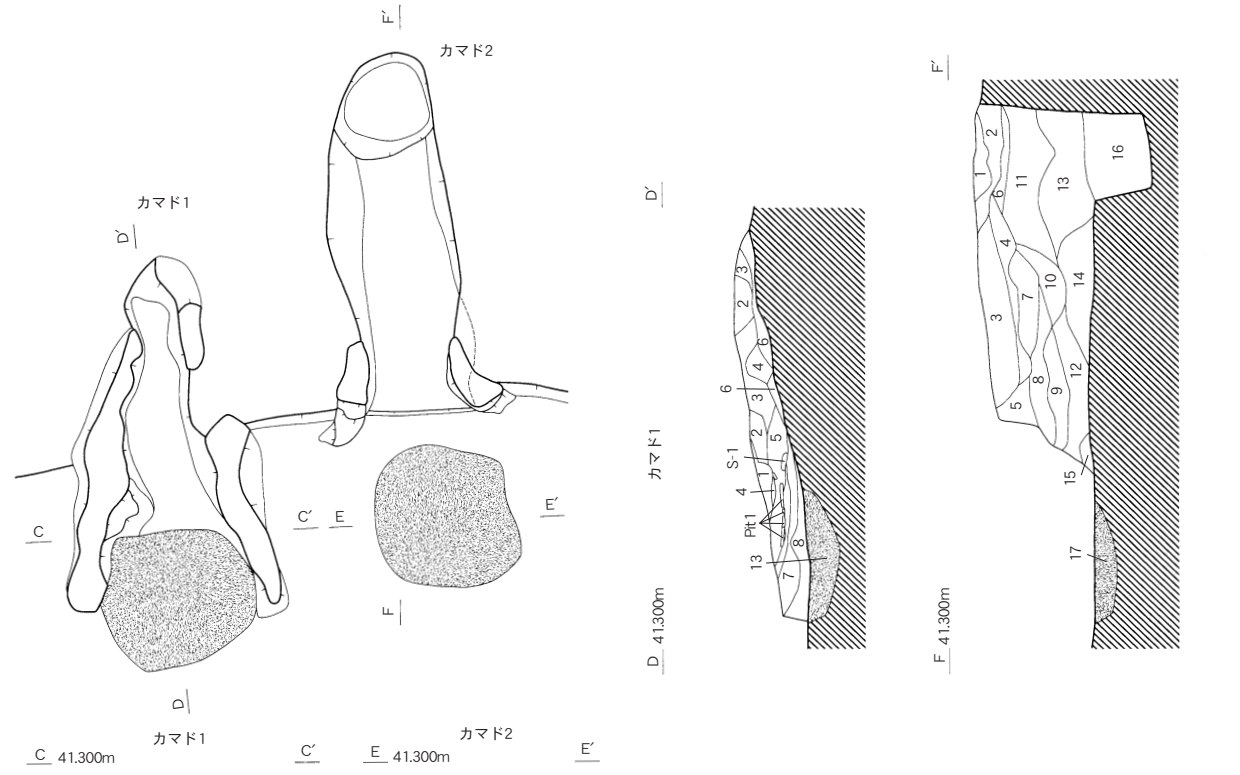
第10号竪穴住居跡
第１層　黒褐色土（10YR2/2）炭化粒微量
第２層　黒 色 土（10YR2/1）炭化粒微量
第３層　黒褐色土（10YR2/2）炭化粒微量
第４層　黒褐色土（10YR2/3）ローム粒微量、白頭山火山灰を層状に含む
第５層　黒褐色土（10YR2/2）炭化粒微量
第６層　黒褐色土（10YR2/3）炭化粒少量
第７層　黒 色 土（10YR2/1）炭化粒微量
第８層　暗褐色土（10YR3/4）ローム粒少量、焼土粒微量
第９層　黒褐色土（10YR2/2）炭化粒少量、焼土粒少量、焼土ブロック少量
第10層　黒 色 土（10YR2/1）ローム粒少量、炭化粒少量
第11層　黒 色 土（10YR2/1）ローム粒少量、炭化物少量
第12層　黒褐色土（10YR2/2）褐色土(7.5YR4/4)多量、焼土粒微量
第13層　黒褐色土（10YR2/2）炭化粒多量、焼土粒微量
第14層　黒褐色土（10YR2/2）ローム粒少量
第15層　黒褐色土（10YR2/2）ローム粒少量、炭化粒微量、焼土ブロック中量
第16層　黒褐色土（10YR2/2）ローム粒微量
第17層　黒褐色土（10YR2/2）ローム粒少量、炭化物多量
第18層　暗褐色土（10YR5/6）焼土、炭化物多量
第19層　黒 色 土（10YR2/1）ローム粒少量、炭化物少量
第20層　黒褐色土（10YR2/3）ローム粒中量
第21層　黒褐色土（10YR2/2）ローム粒多量、ロームブロック多量

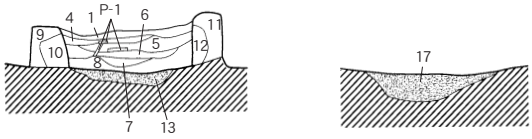
第10号竪穴住居跡　ピット1
第１層　褐 色 土（7.5YR4/6）　焼土層、黒褐色土(10YR2/2)多量、炭化物粒少量
第２層　黒褐色土（10YR2/2）　炭化層、炭化粒多量、炭化物多量、焼土粒少量
第３層　黒褐色土（10YR2/3）　ローム粒多量、ロームブロック多量、炭化粒少量
第10号竪穴住居跡　ピット2
第１層　黒褐色土（10YR2/3）　ローム粒多量、ロームブロック多量
第10号竪穴住居跡　ピット3
第１層　黒褐色土（10YR2/3）　ローム粒多量、ロームブロック多量
第10号竪穴住居跡　ピット4
第１層　黒 色 土（10YR1.7/1）ローム粒少量、ロームブロック少量
第２層　暗褐色土（10YR3/4）　ローム粒微量
第10号竪穴住居跡　ピット5
第１層　暗褐色土（10YR3/3）　ローム粒少量、炭化粒微量、焼土粒少量
第10号竪穴住居跡　ピット6
第１層　褐 色 土（7.5YR4/6）　ロームブロック少量
第２層　黒 色 土（10YR2/1）　炭化物微量
第３層　褐 色 土（7.5YR4/6）　黒色土(10YR2/1)少量
第４層　黒 色 土（10YR2/1）　褐色土(7.5YR4/6)少量
第10号竪穴住居跡　ピット7
第１層　黒褐色土（10YR2/3）　ローム粒多量、ロームブロック多量
第10号竪穴住居跡　ピット8
第１層　黒 色 土（10YR2/1）　ローム粒少量、ロームブロック少量
第２層　黒褐色土（10YR2/3）　ローム粒多量、ロームブロック多量
第10号竪穴住居跡　ピット9
第１層　黒褐色土（10YR2/2）　ローム粒多量、ロームブロック多量
第２層　黒褐色土（10YR2/3）　ローム粒多量
第10号竪穴住居跡　ピット10
第１層　黒 色 土（10YR2/1）　ローム粒少量
第２層　黒褐色土（10YR2/3）　ローム粒多量、ロームブロック多量

第25図　第10号竪穴住居跡（1）

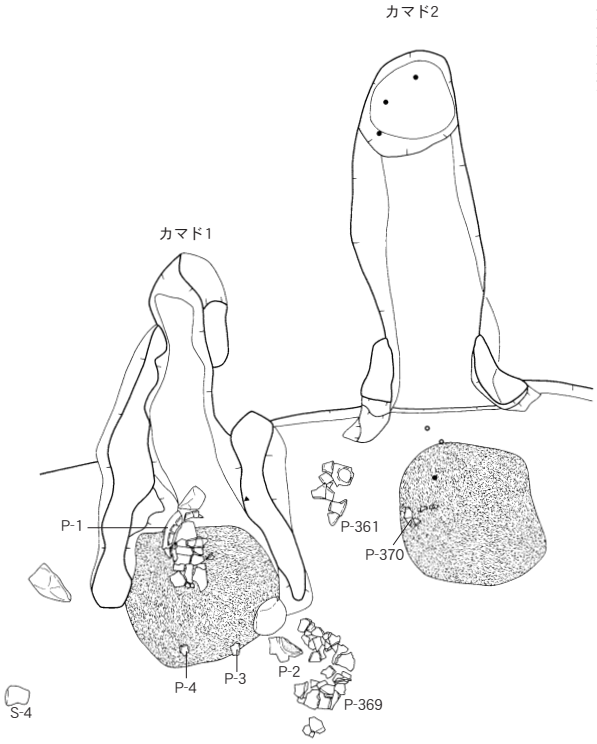


第26図　第10号竪穴住居跡（2）

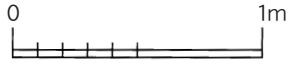




第10号竪穴住居跡　カマド1
第１層　黒 褐 色 土（10YR2/2）ローム粒少量、炭化粒微量、焼土粒微量
第２層　暗 褐 色 土（10YR3/4）ローム粒少量、ロームブロック多量、焼土粒少量、
焼土ブロック少量、崩落土？(層の中にブロック状にある)
第３層　暗 褐 色 土（10YR3/3）ローム粒多量、ロームブロック多量、焼土粒少量、
焼土ブロック少量
第４層　暗 褐 色 土（10YR3/3）ローム粒少量、ロームブロック少量、焼土粒少量
第５層　黒 褐 色 土（10YR2/3）ローム粒多量、炭化粒少量、焼土粒少量
第６層　暗 褐 色 土（10YR3/4）焼土粒多量、焼土ブロック多量
第７層　褐　色　土（7.5YR4/6）ローム粒少量、炭化粒少量、焼土粒少量
第８層　褐　色　土（10YR4/4）ローム粒少量、ロームブロック少量、焼土粒少量、
焼土ブロック少量
第９層　暗赤褐色土（5YR3/6）　ロームブロック少量
第10層　赤 褐 色 土（5YR4/8）　ロームブロック多量
第11層　褐　色　土（10YR4/6）ローム粒少量、ロームブロック少量
第12層　赤 褐 色 土（5YR4/8）　ローム粒多量、ロームブロック多量
第13層　赤 褐 色 土（5YR4/8）　火床

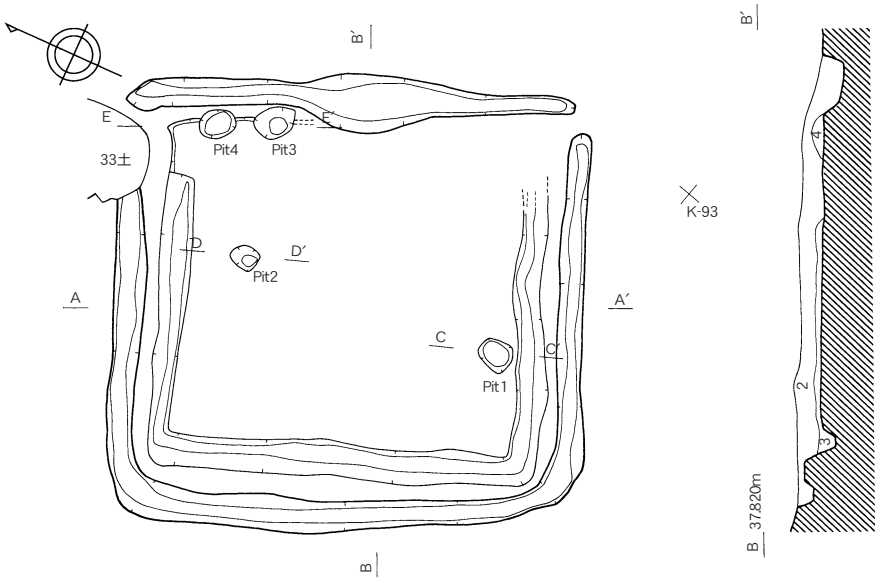


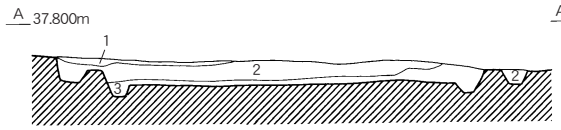
第10号竪穴住居跡　カマド2
第１層　暗赤褐色土（5YR3/2）　黒褐色土(10YR2/3)少量、焼土層、ロームブロック微量
第２層　黒 褐 色 土（10YR2/3）ローム粒微量、炭化粒微量、焼土粒少量
第３層　褐　色　土（10YR4/6）
第４層　にぶい赤褐色土（5YR4/4）　焼土
第５層　黒 褐 色 土（10YR2/2）ローム粒少量、ロームブロック少量、焼土粒少量、
焼土ブロック少量
第６層　黒 褐 色 土（10YR2/3）褐色土(7.5YR4/3)多量、焼土粒少量
第７層　黒 褐 色 土（10YR2/2）ローム粒少量、ロームブロック少量、焼土ブロック多量
第８層　褐　色　土（10YR4/6）黒褐色土(10YR2/2)少量
第９層　にぶい赤褐色土（5YR4/4）　焼土
第10層　暗 褐 色 土（10YR3/4）ローム粒少量、ロームブロック少量、焼土粒微量
第11層　黒 褐 色 土（10YR2/2）ローム粒少量、ロームブロック少量、焼土粒微量
第12層　黒 褐 色 土（10YR2/3）ローム粒微量、焼土粒少量
第13層　黒　色　土（10YR2/1）ローム粒少量
第14層　黒　色　土（10YR2/1）ローム粒多量、ロームブロック多量
第15層　黒 褐 色 土（10YR2/2）焼土粒少量
第16層　黒 褐 色 土（10YR2/3）
第17層　明 褐 色 土（7.5YR5/8）火床



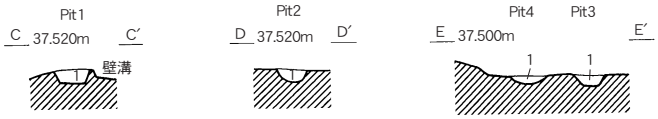
第27図　第10号竪穴住居跡（3）

第11号竪穴住居跡





第11号竪穴住居跡
第１層　黒 色 土（10YR1.7/1）ローム粒微量、炭化粒微量
第２層　黒褐色土（10YR2/2）　ローム粒微量、炭化粒少量、炭化物少量、焼土粒微量
第３層　黒 色 土（10YR2/1）　ローム粒少量
第４層　暗褐色土（10YR3/4）　ローム粒微量、炭化粒微量、焼土粒微量

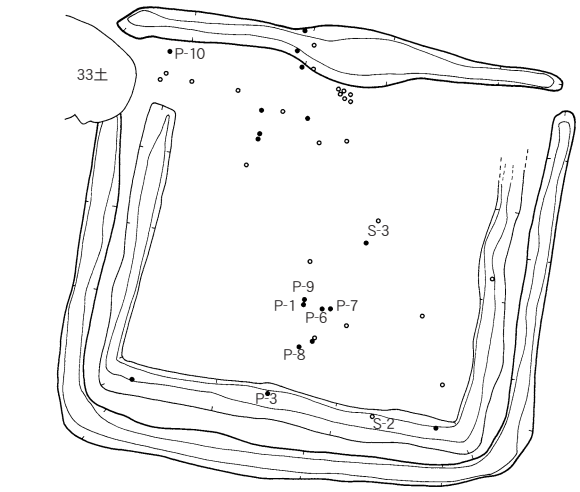


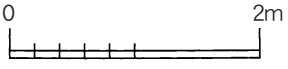
第11号竪穴住居跡　ピット1
第１層　黒 色 土（10YR2/1）ローム粒微量、炭化粒微量

第11号竪穴住居跡　ピット2
第１層　黒 色 土（10YR2/1）ローム粒少量、炭化粒少量

第11号竪穴住居跡　ピット3
第１層　黒褐色土（7.5YR2/2）ローム粒少量、炭化粒微量、炭化物微量、
焼土粒少量

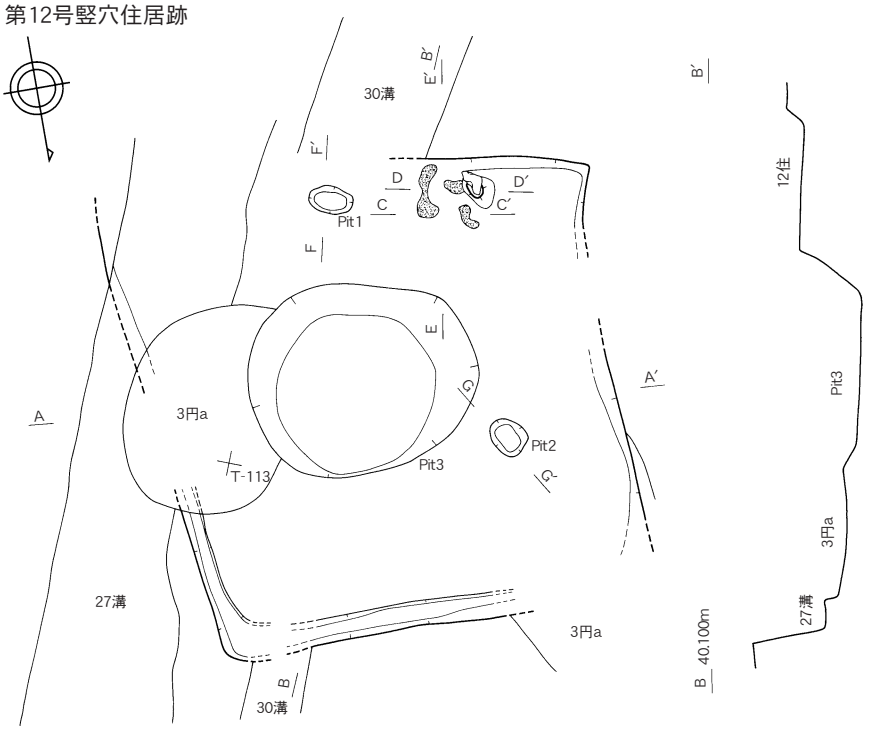
第11号竪穴住居跡　ピット4
第１層　黒褐色土（10YR2/2）ローム粒微量、炭化粒微量

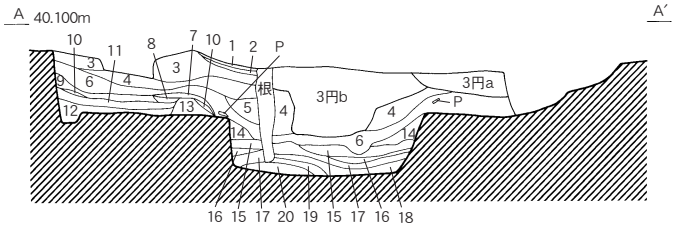




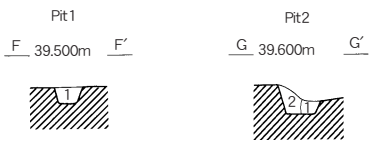
第28図　第11号竪穴住居跡

第12号竪穴住居跡



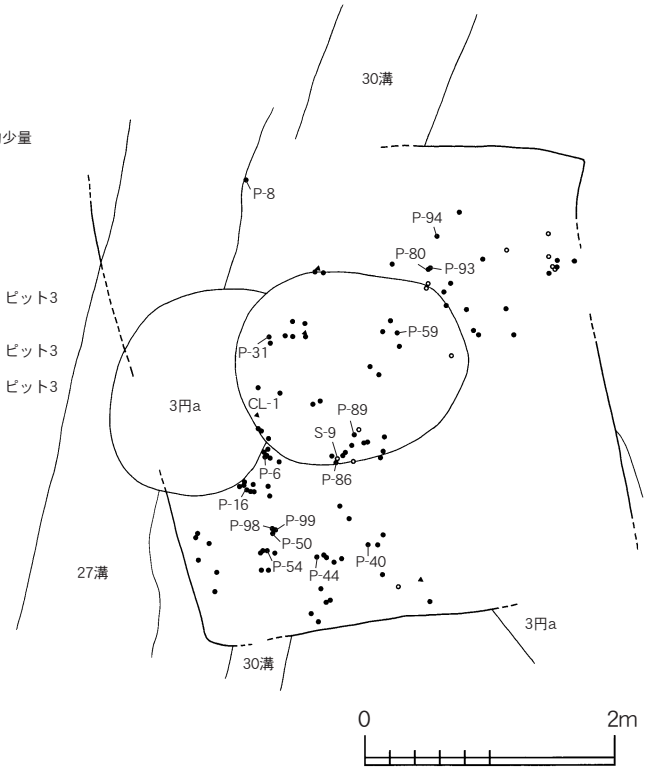


第12号竪穴住居跡
第１層　黒 褐 色 土（10YR3/2）
第２層　灰 黄 色 土（2.5Y7/2）
第３層　黒 褐 色 土（10YR2/2）明黄褐色土(2.5Y7/6)ブロック微量、ローム粒微量
第４層　黒 褐 色 土（10YR3/2）とオリーブ褐色土(2.5Y4/3)の混合土
明黄褐色土(10YR7/6)多量
第５層　黒 褐 色 土（10YR3/2）明黄褐色土(10YR6/6)微量、ローム粒微量
第６層　黒 褐 色 土（10YR2/3）明黄褐色土(10YR6/6)微量、ローム粒微量、炭化物少量
第７層　にぶい黄褐色土（10YR6/4）
第８層　黒 褐 色 土（10YR3/2）と明黄褐色土(10YR6/6)の混合土
ローム粒微量、ロームブロック少量、炭化粒微量
第９層　灰黄褐色土（10YR4/2）ローム粒少量、ロームブロック少量、炭化粒微量
第10層　黒 褐 色 土（10YR2/2）とにぶい黄褐色土(10YR6/4)の混合土
第11層　にぶい黄褐色土（10YR5/4）ローム粒少量、炭化粒微量
第12層　黒 褐 色 土（10YR3/2）ロームブロック少量、炭化粒微量
第13層　明黄褐色土（10YR6/6）ローム層、黒褐色土(10YR3/2)微量、炭化粒微量
第14層　黒 褐 色 土（10YR2/2）ローム粒少量、ロームブロック多量、炭化粒微量、ピット3
第15層　黄 褐 色 土（10YR5/6）と黒褐色土(10YR3/2)の混合土
ロームブロック多量、炭化粒微量、ピット3
第16層　黒 褐 色 土（10YR2/2）ローム粒微量、ロームブロック多量、炭化粒微量、ピット3
第17層　灰黄褐色土（10YR4/2）炭化粒微量、ピット3
第18層　黒 褐 色 土（10YR3/2）ローム粒少量、ロームブロック多量、炭化粒微量、ピット3
第19層　灰黄褐色土（10YR4/2）ローム粒多量、炭化粒少量、ピット3
第20層　黒 褐 色 土（10YR3/2）炭化粒少量、ピット3

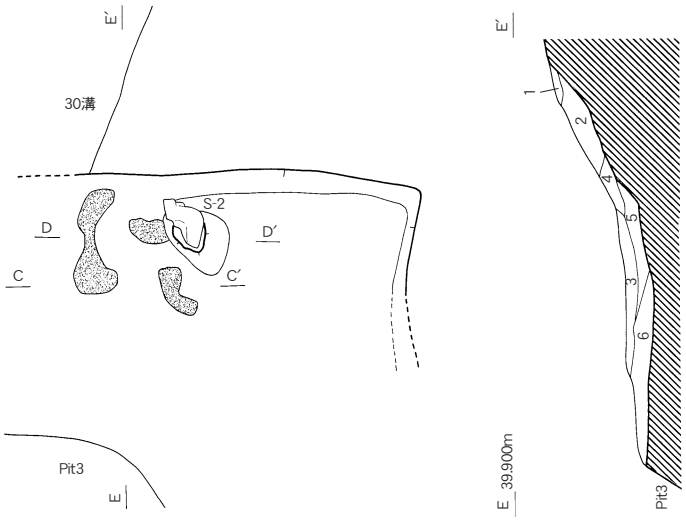


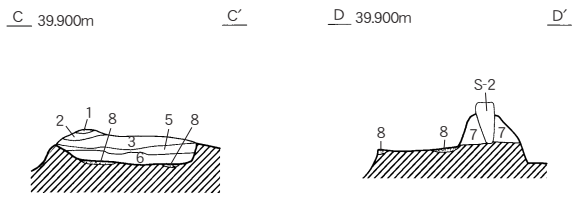
第12号竪穴住居跡　ピット1
第１層　黒褐色土（10YR3/3）ローム粒少量、焼土ブロック微量

第12号竪穴住居跡　ピット2
第１層　黒褐色土（10YR2/3）ローム粒微量
第２層　黒褐色土（10YR3/1）ローム粒微量

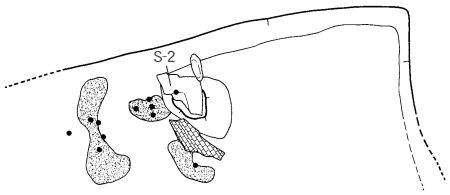


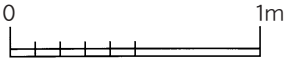
第29図　第12号竪穴住居跡（1）



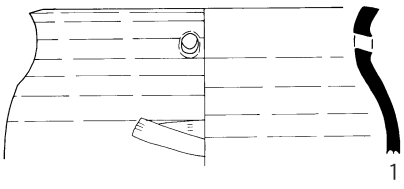


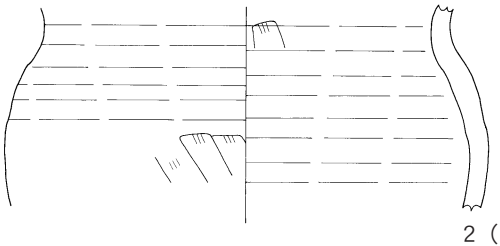
第12号竪穴住居跡　カマド
第１層　にぶい赤褐色土（5YR4/4）　ローム粒微量、焼土粒微量
第２層　黒 褐 色 土（10YR3/2）ローム粒微量、焼土粒微量
第３層　にぶい赤褐色土（5YR4/4）　炭化粒微量、焼土ブロック微量
第４層　赤 褐 色 土（2.5YR4/6）炭化粒微量、焼土粒微量
第５層　赤 褐 色 土（2.5YR4/8）炭化粒微量、焼土ブロック微量
第６層　黒 褐 色 土（7.5YR3/2）ローム粒微量、炭化粒微量、焼土粒微量
第７層　褐　色　土（7.5YR4/4）焼土粒微量、ソデ
第８層　にぶい赤褐色土（5YR4/4）　火床

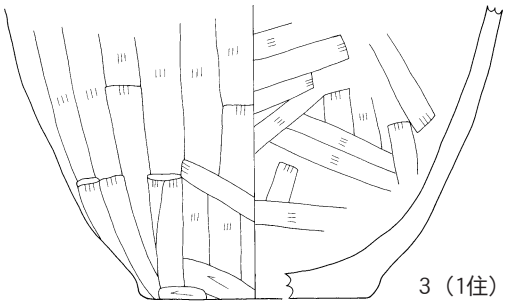


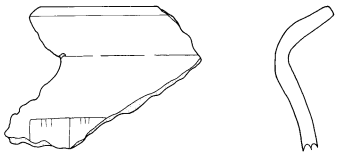


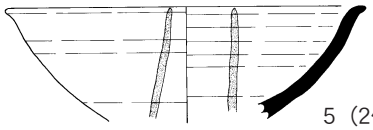
第30図　第12号竪穴住居跡（2）

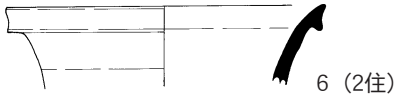

1（1住）


2（1住）

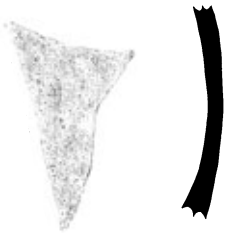

3（1住）


4（1住）


5（2住）

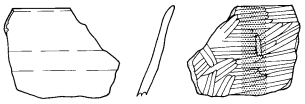

6（2住）

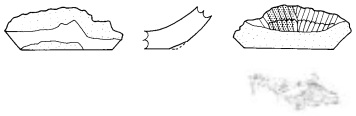
7（2住）


8（2住）

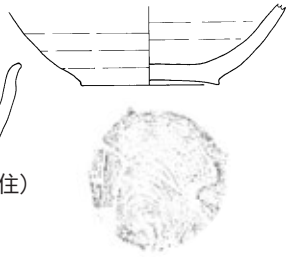
9（2住）

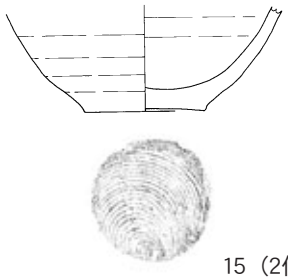
10（2住）

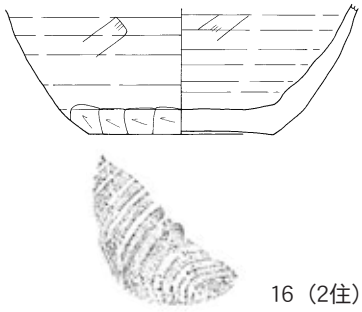

11（2住）

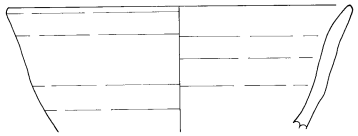

12（2住）

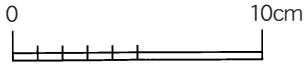
13（2住）


14（2住）

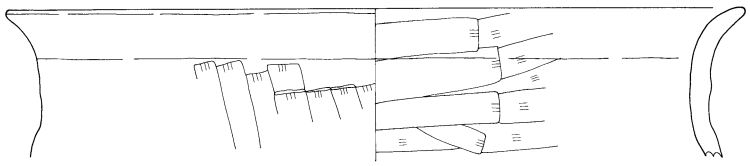

15（2住）

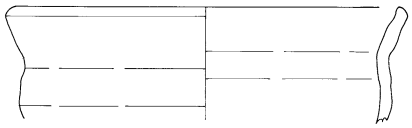

16（2住）

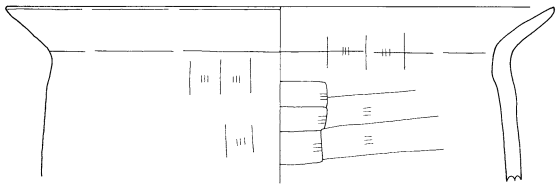

17（2住）

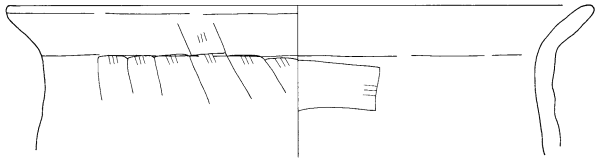


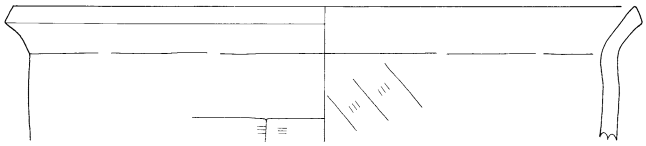
第31図　遺構内出土土器（竪穴住居跡）（1）


18（2住）

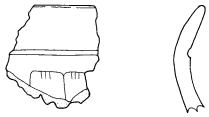

19（2住）

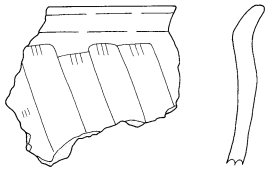

20（2住）

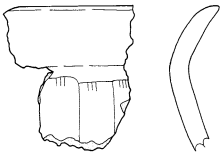

21（2住）

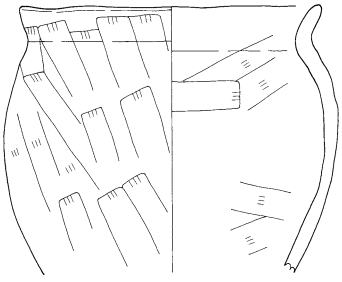

22（2住）

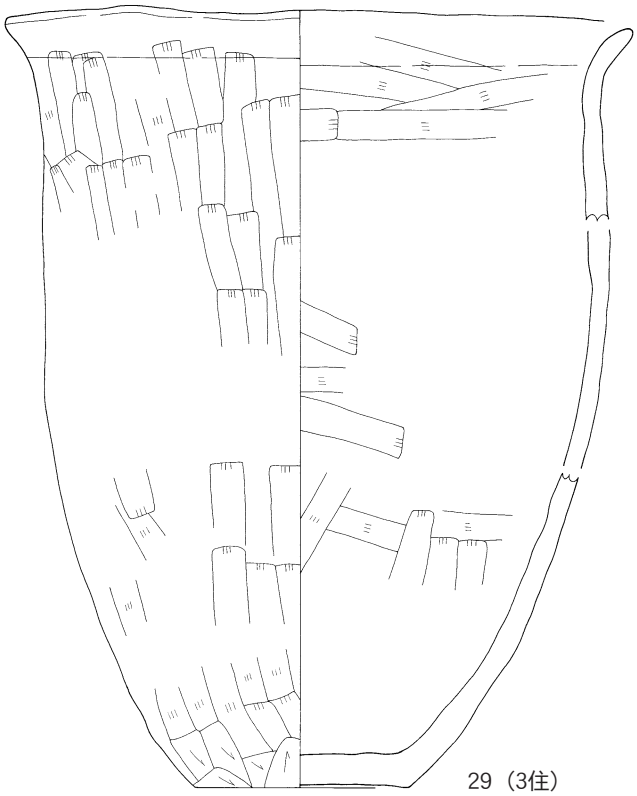
23（2住）

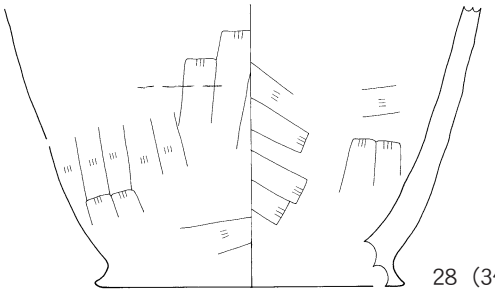

24（3住）

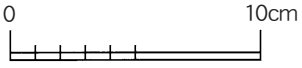

25（3住）


26（3住）

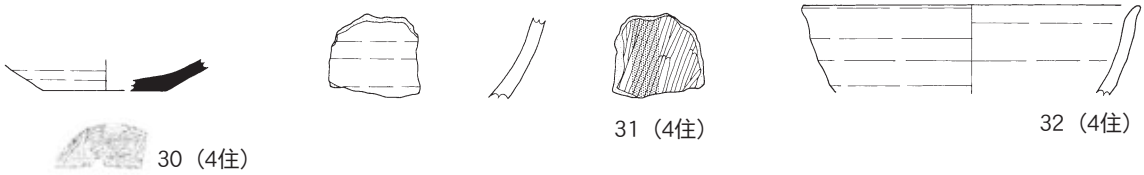

27（3住）


29（3住）

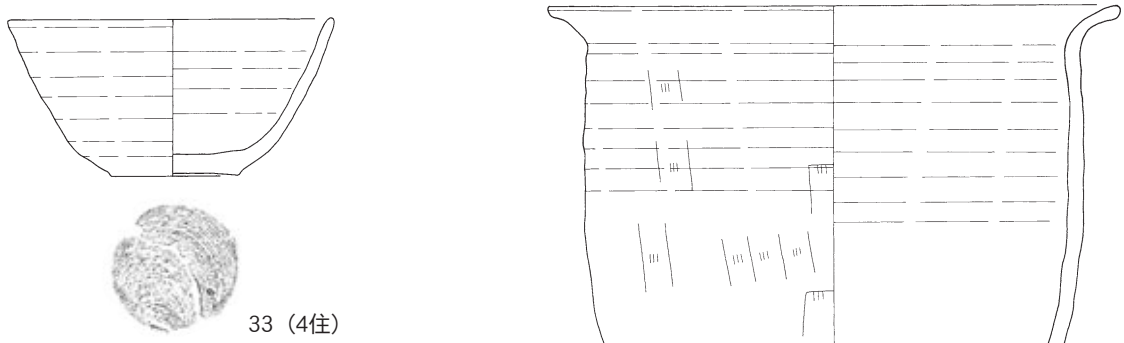

28（3住）



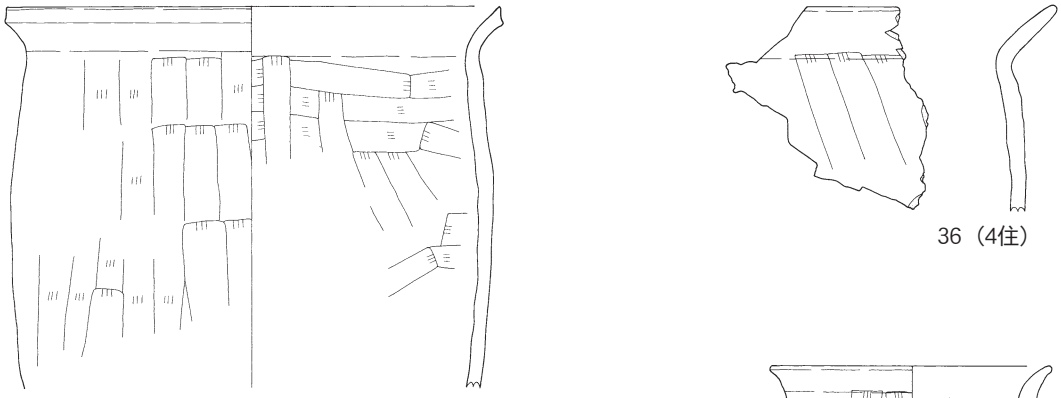
第32図　遺構内出土土器（竪穴住居跡）(2)



30（4住）　31（4住）　32（4住）

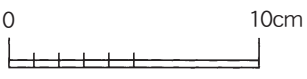


33（4住）　34（4住）



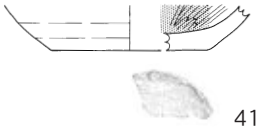
35（4住）　36（4住）　37（4住）

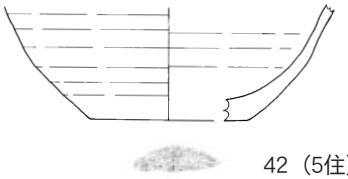
38（4住）　39（4住）



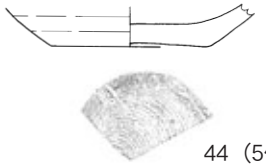
第33図　遺構内出土土器（竪穴住居跡）(3)

40（5住）

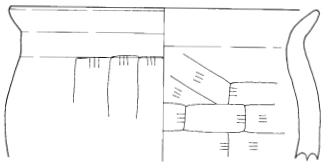

41（5住）


42（5住）

43（5住）

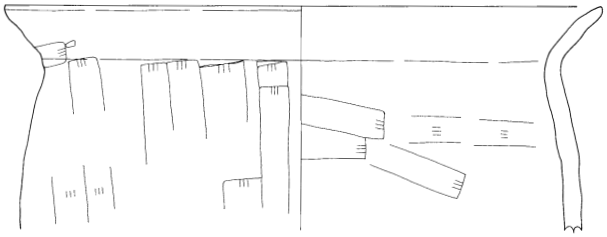

44（5住）

45（5住）


46（5住）

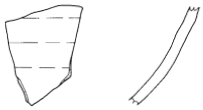
47（6住）

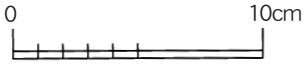
48（6住）


50（6住）

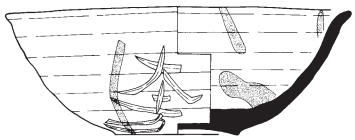
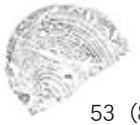
49（6住）

51（7住）


52（7住）

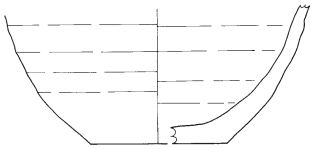


第34図　遺構内出土土器（竪穴住居跡）(4)

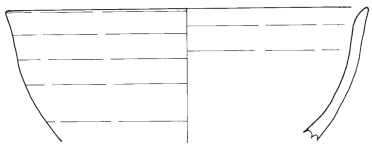


53（8住）

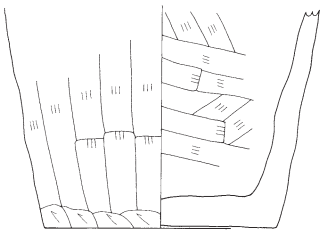
54（8住）

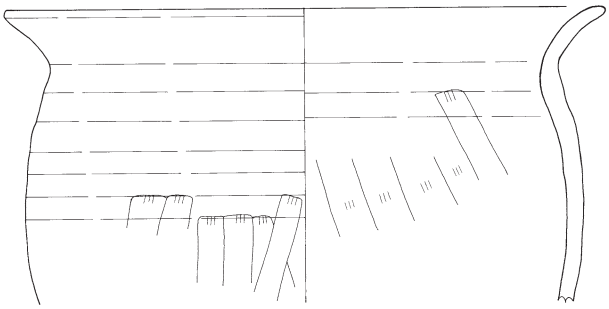
55（8住）

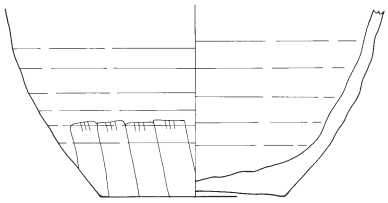


56（8住）

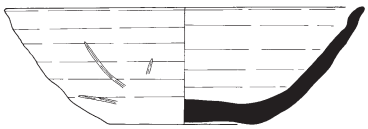

57（8住）


58（8住）

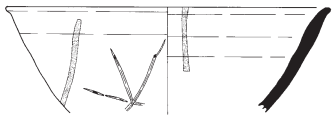

59（8住）

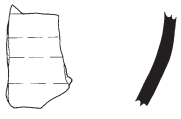


60（8住）

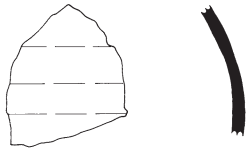


61（9住）


62（9住）

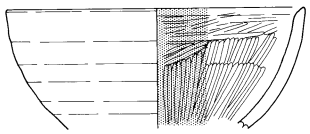

63（9住）

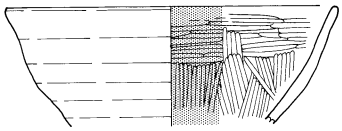
64（9住）

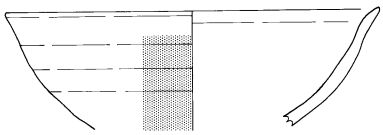

65（9住）

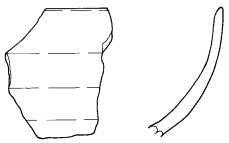
66（9住）

第35図　遺構内出土土器（竪穴住居跡）(5)

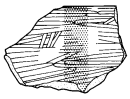

67（9住）

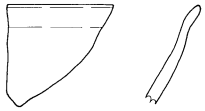

68（9住）

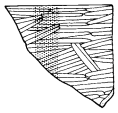

69（9住）

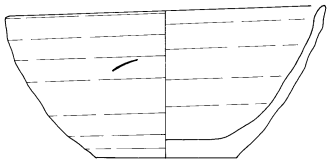


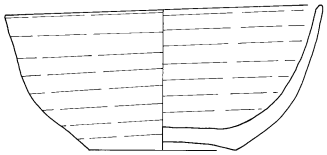
70（9住）

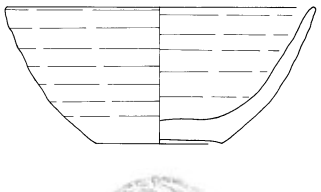

71（9住）

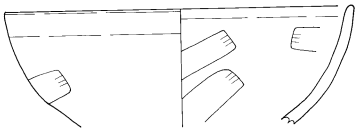


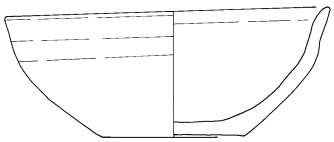

72（9住）

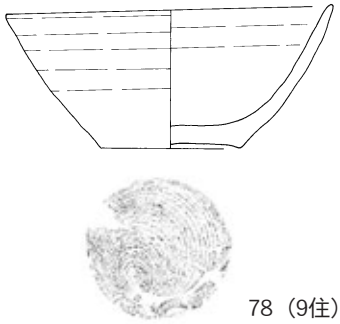

73（9住）

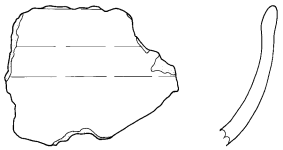

74（9住）

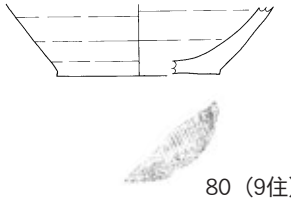

75（9住）

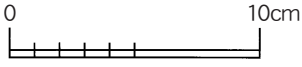

76（9住）


77（9住）

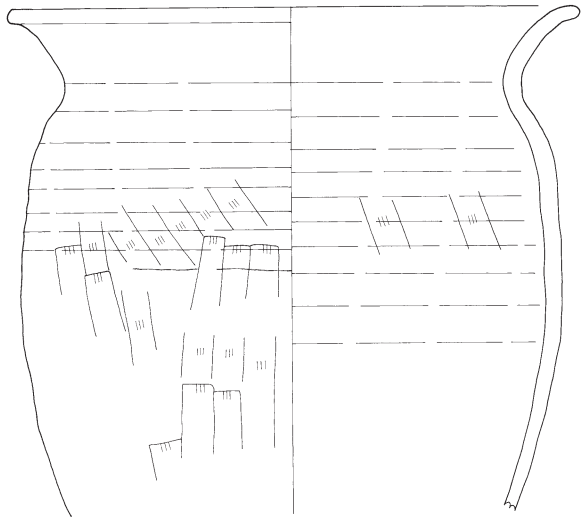

78（9住）


79（9住）

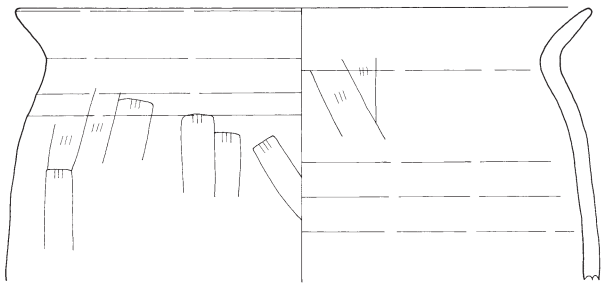

80（9住）



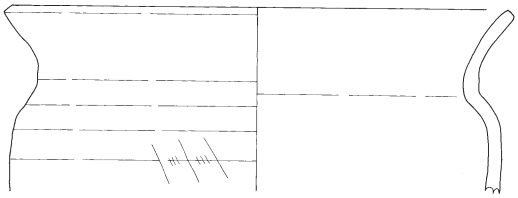
第36図　遺構内出土土器（竪穴住居跡）(6)



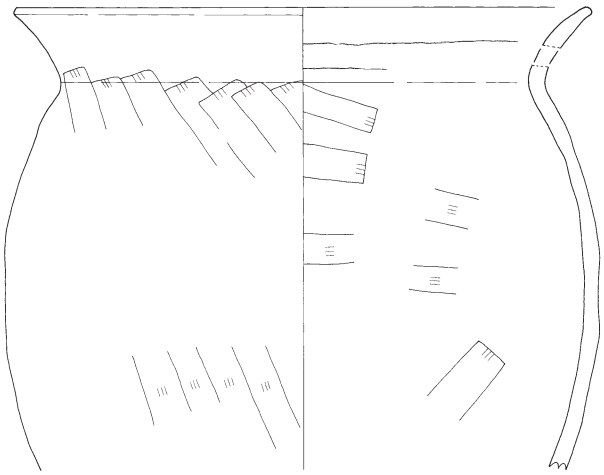
81（9住）



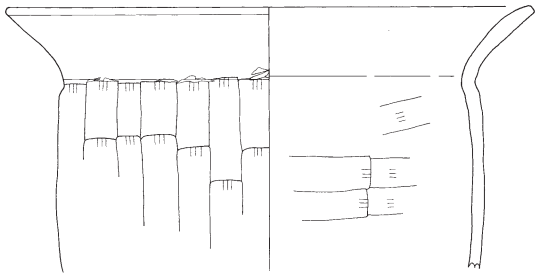
82（9住）



83（9住）

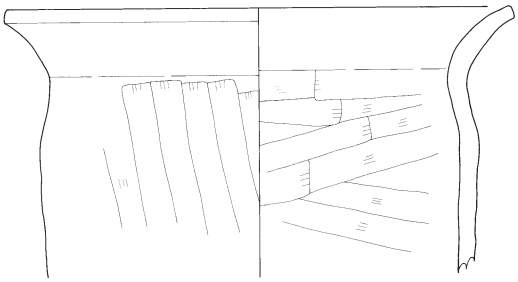


84（9住）



85（9住）

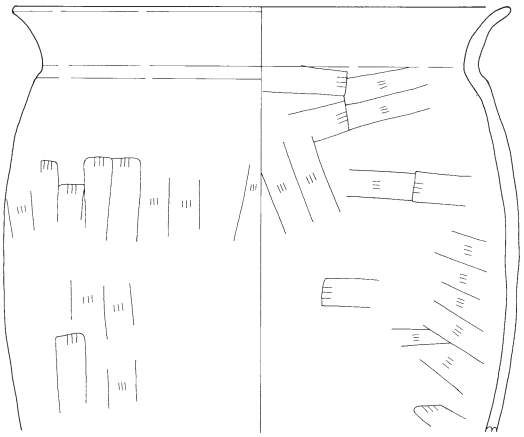
86（9住）



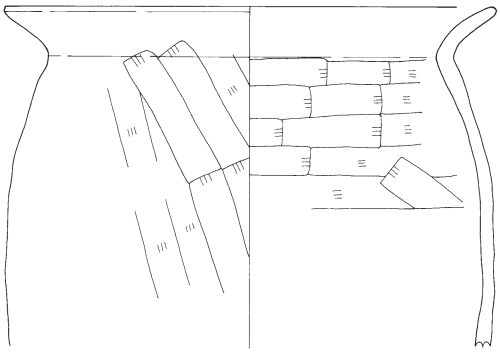
87（9住）

0　10cm

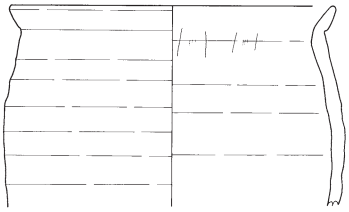
第37図　遺構内出土土器（竪穴住居跡）(7)



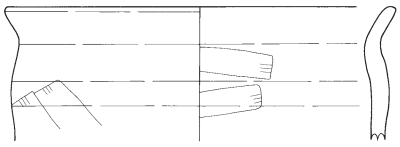
88（9住）



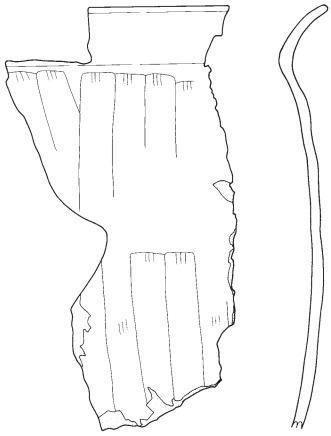
89（9住）



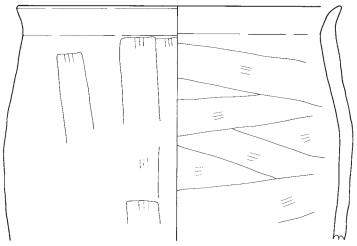
90（9住）



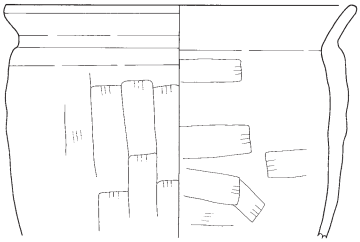
91（9住）



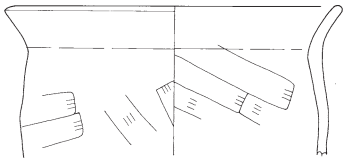
92（9住）



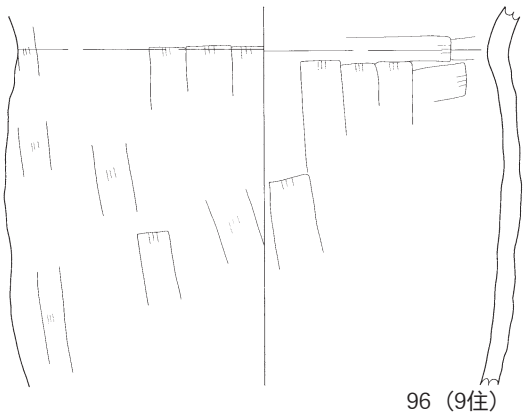
93（9住）



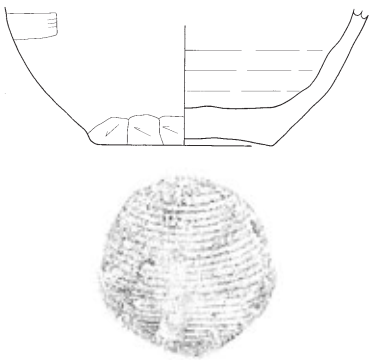
94（9住）



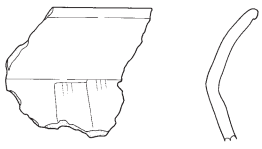
95（9住）



96（9住）



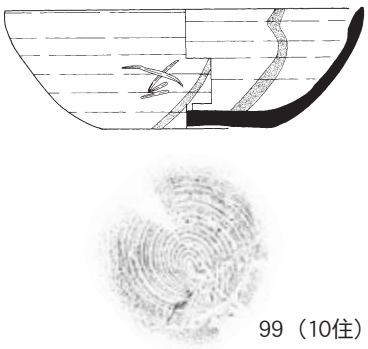
97（9住）

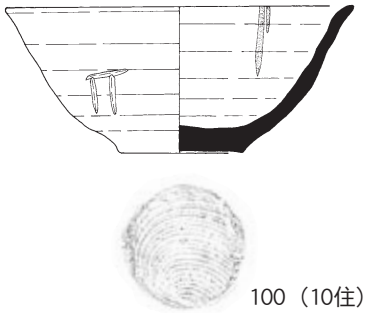


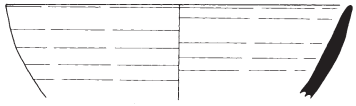
98（9住）

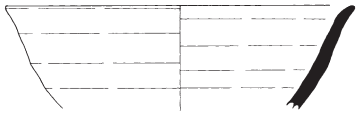
0　10cm

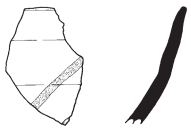
第38図　遺構内出土土器（竪穴住居跡）(8)

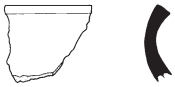

99（10住）


100（10住）


101（10住）


102（10住・12住）


103（10住）

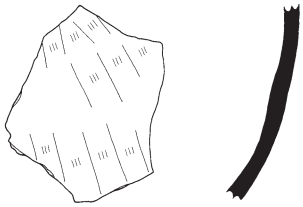

104（10住）

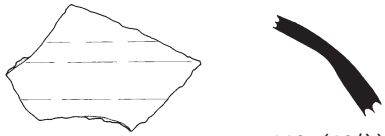
105（10住）

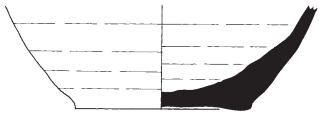
106（10住）

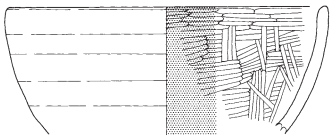
107（10住）

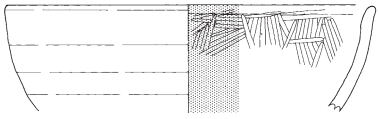
108（10住）

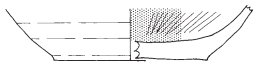

109（10住）


110（10住）


111（10住）

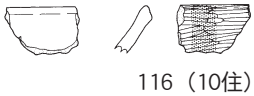

112（10住）

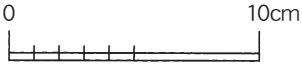

113（10住）



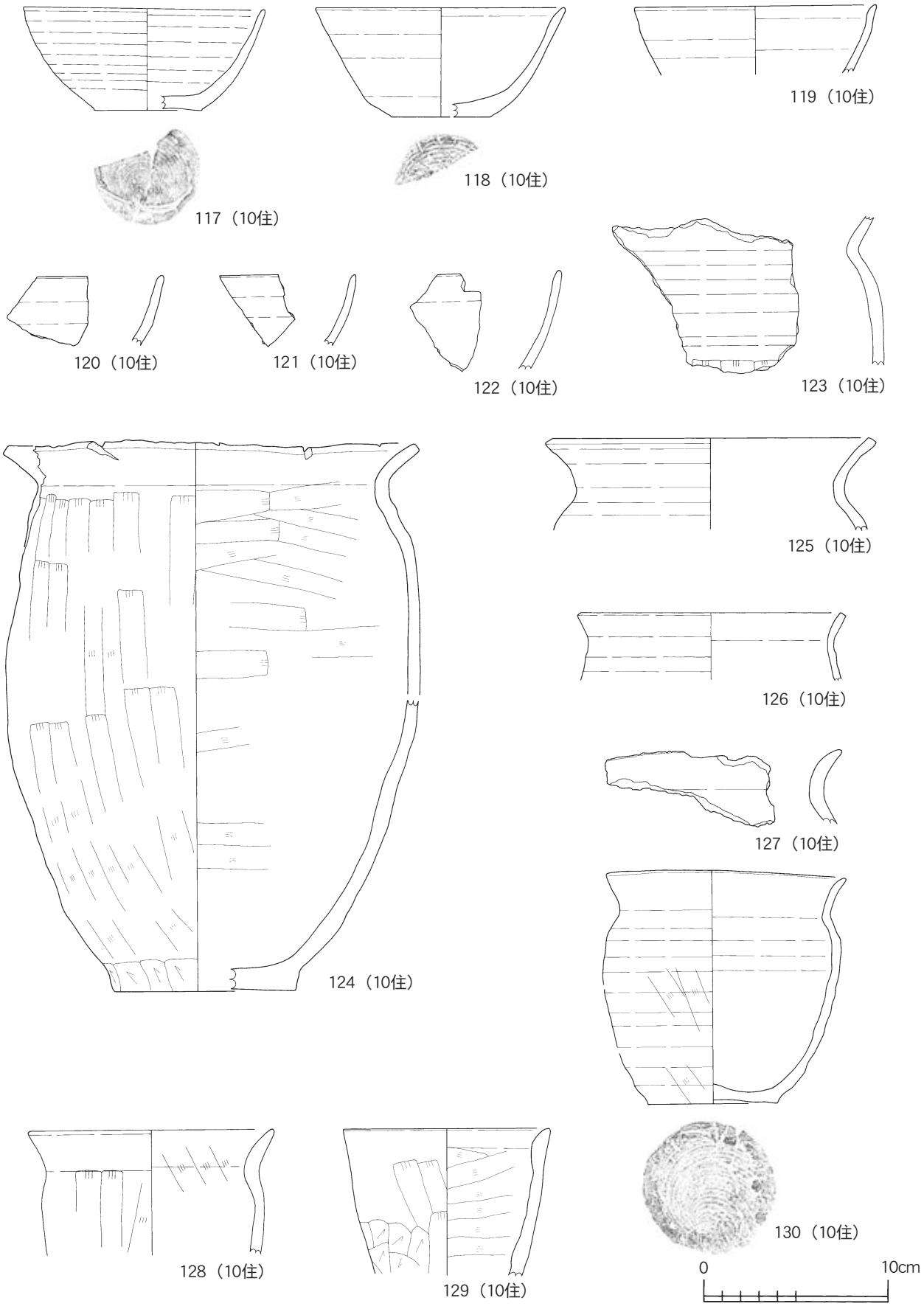
114（10住）

115（10住）

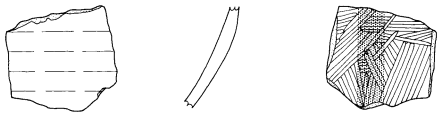

116（10住）

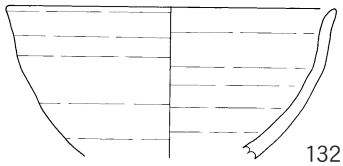


第39図　遺構内出土土器（竪穴住居跡）(9)

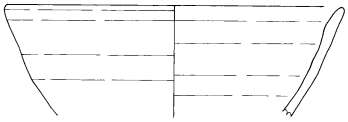


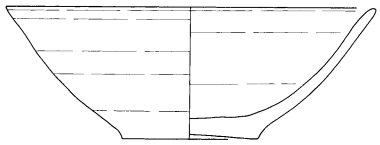
第40図　遺構内出土土器（竪穴住居跡）（10）


131（11住）

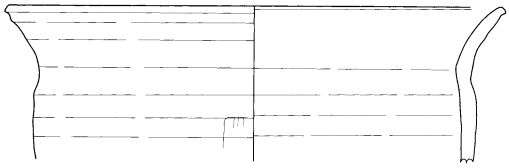

132（11住）

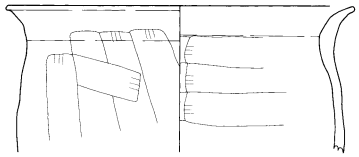
133（11住）

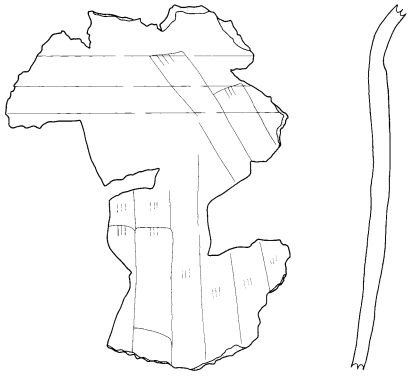

134（11住）



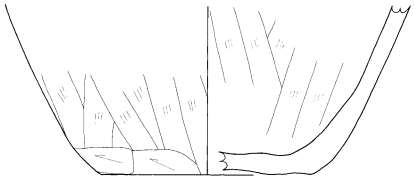
135（11住）

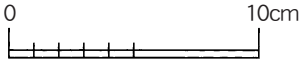

136（11住）


137（11住）


138（11住）

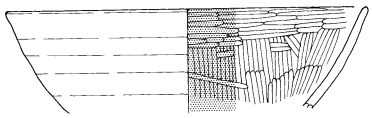
139（11住）

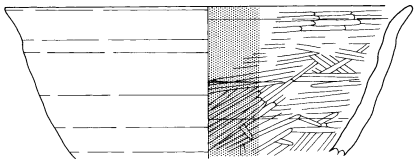

140（11住）



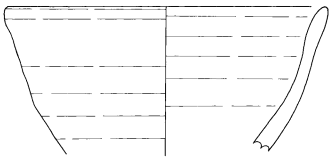
第41図　遺構内出土土器（竪穴住居跡）（11）

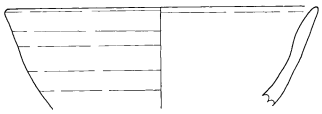
141（12住）

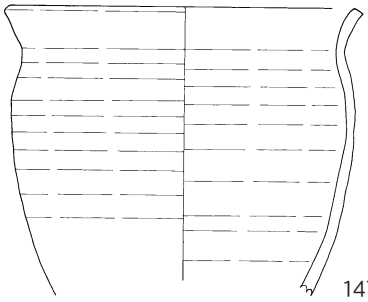

142（12住）

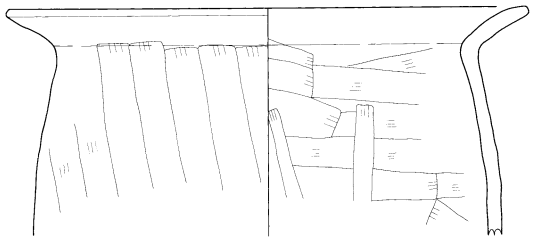

143（12住）

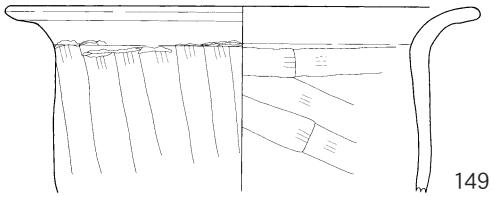
144（12住）

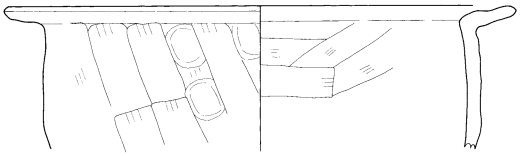

145（12住）


146（12住）


147（12住）


148（12住）


149（12住）


150（12住）

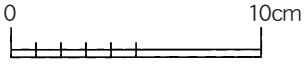
151（9住）

152（9住）

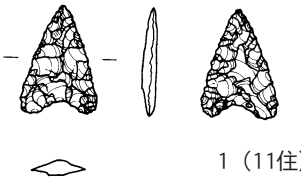
153（11住）

154（12住）

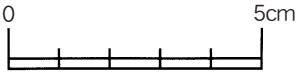
155（12住）

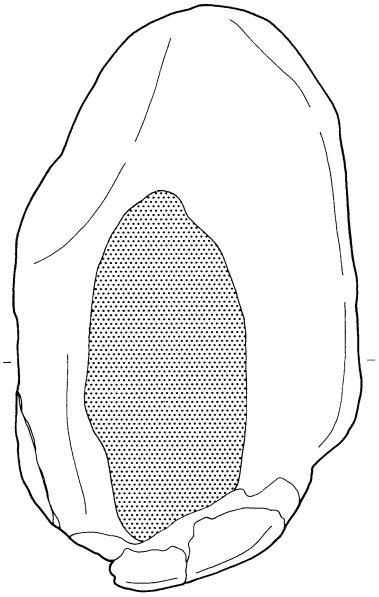


第42図　遺構内出土土器（竪穴住居跡）（12）

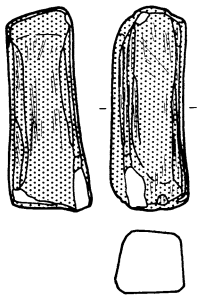


1（11住）

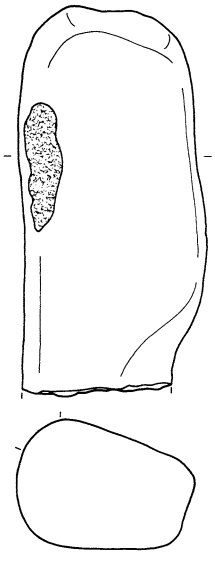




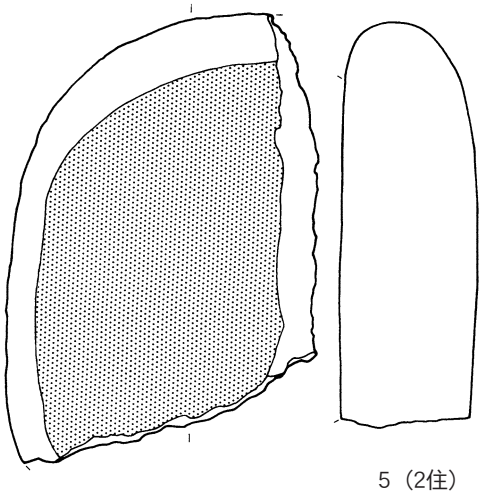
2（1住）



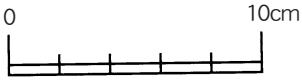
3（1住）



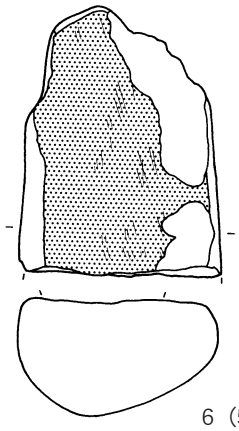
4（2住）



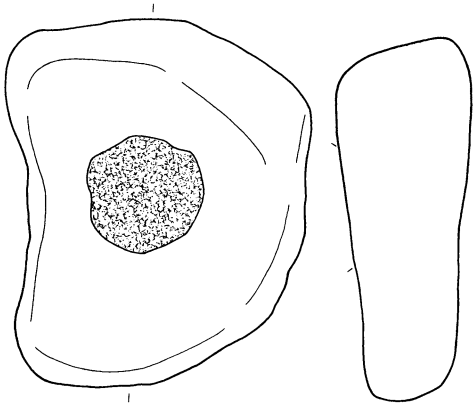
5（2住）



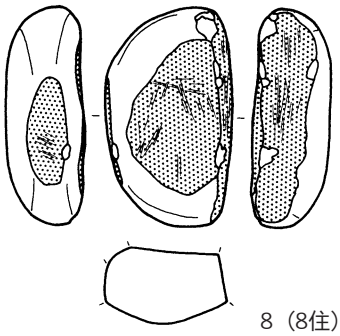
第43図　遺構内出土石器（竪穴住居跡）（1）



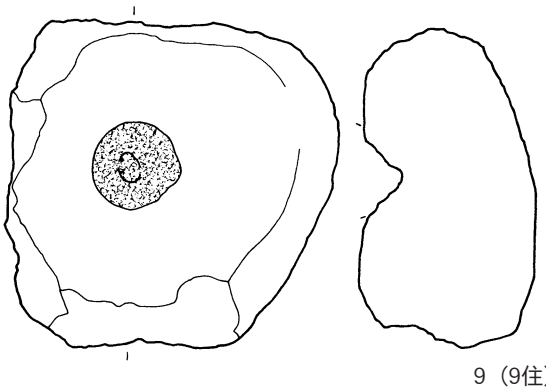
6（5住）



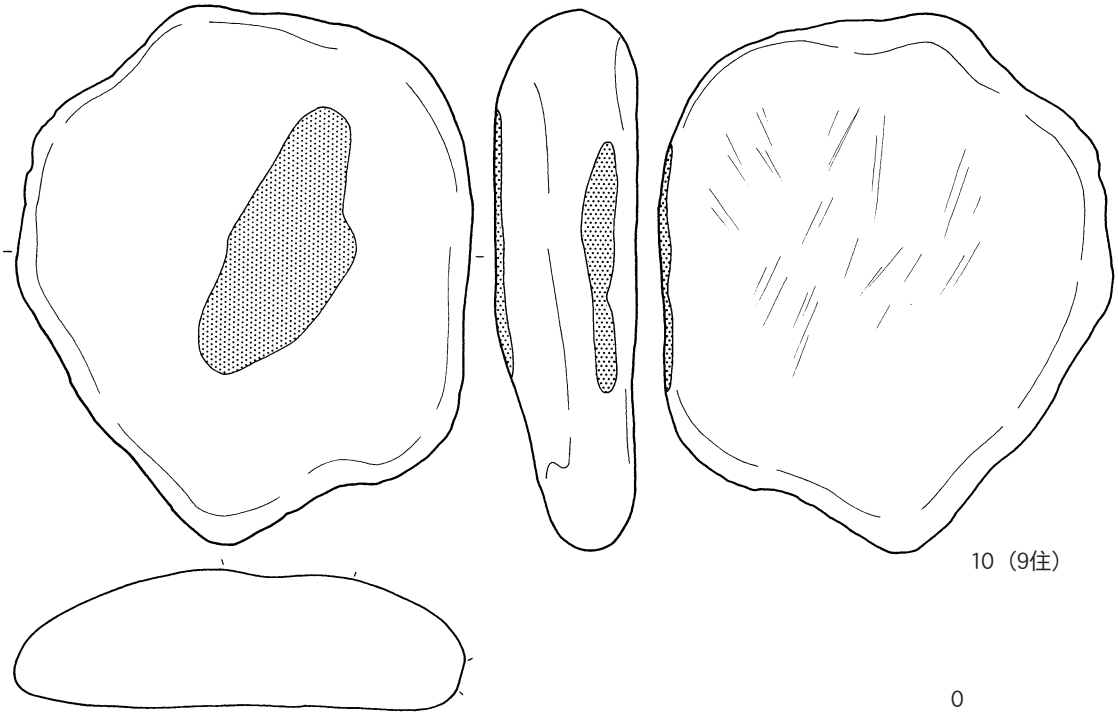
7（6住）



8（8住）



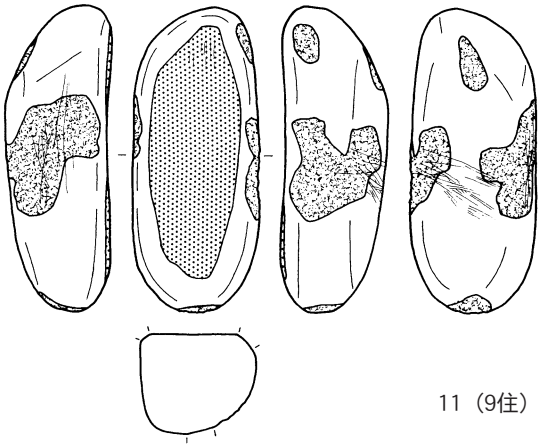
9（9住）



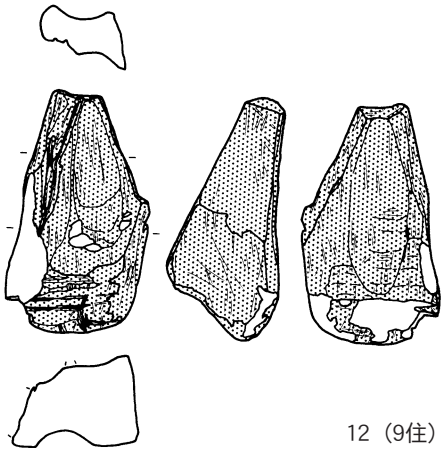
10（9住）

0　10cm

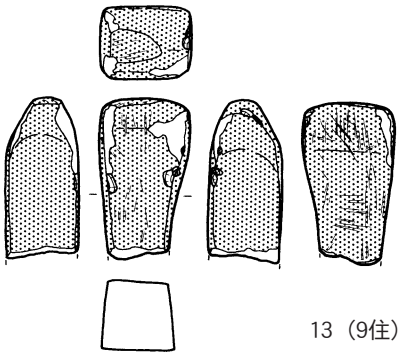
第44図　遺構内出土石器（竪穴住居跡）(2)



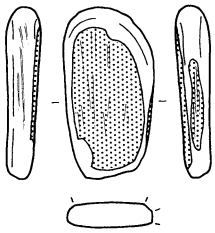
11（9住）



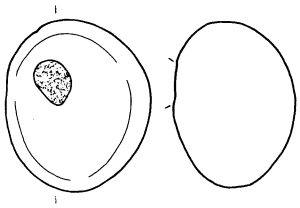
12（9住）



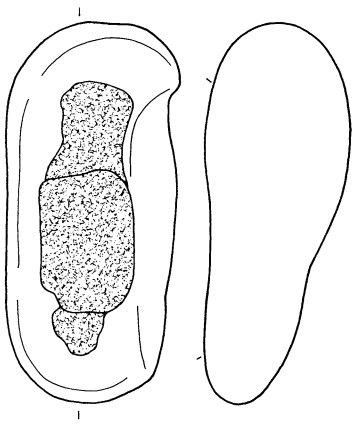
13（9住）



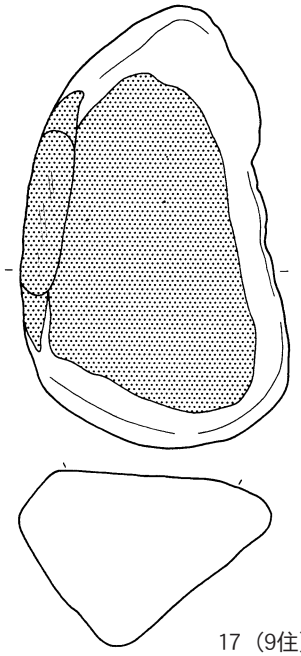
14（9住）



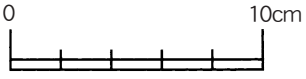
15（9住）



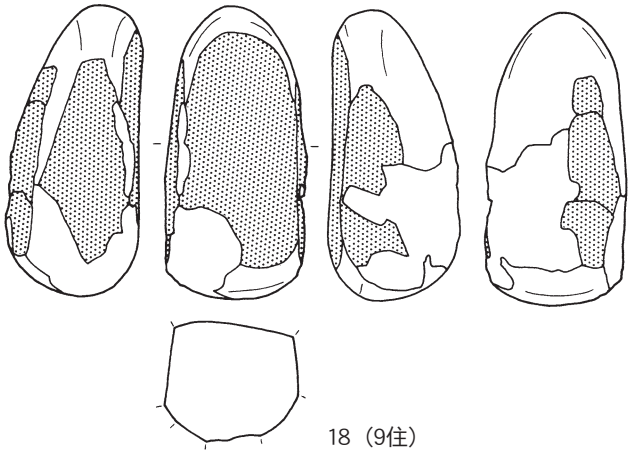
16（9住）

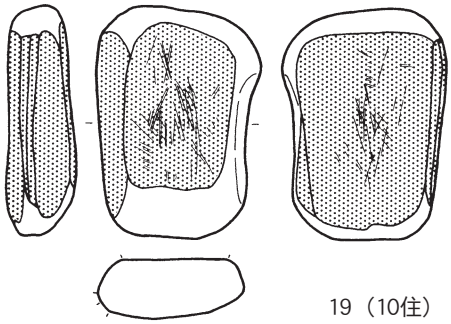


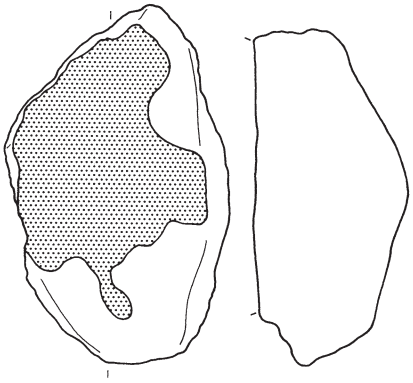
17（9住）

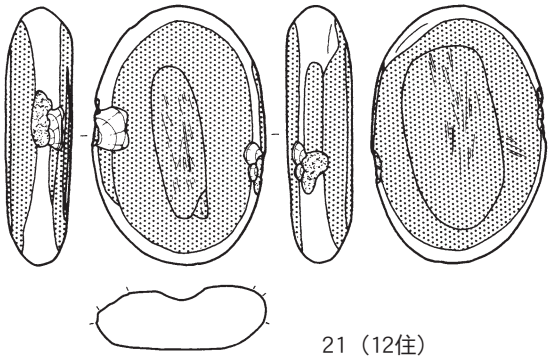


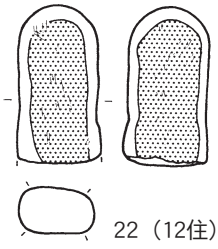
第45図　遺構内出土石器（竪穴住居跡）(3)



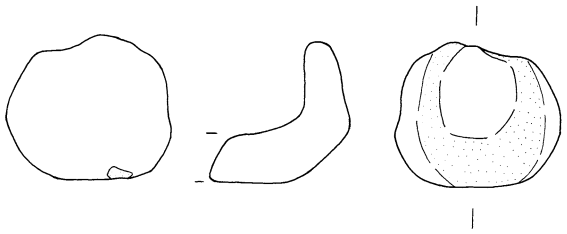


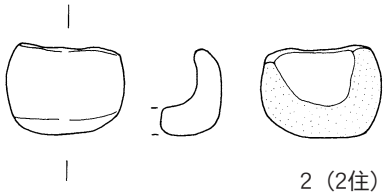


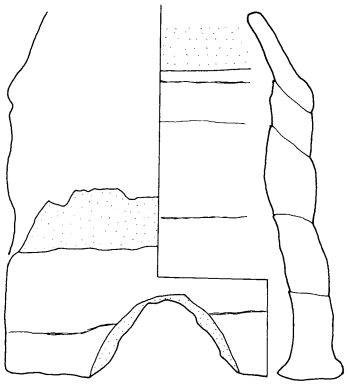


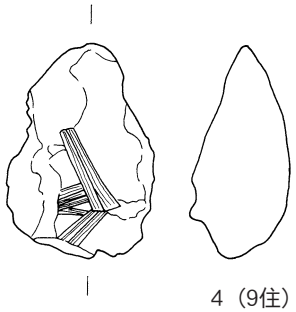


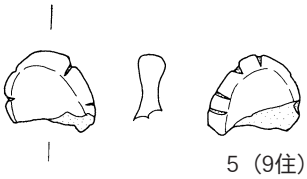
第46図　遺構内出土石器（竪穴住居跡）(4)

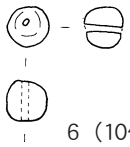

1（2住）

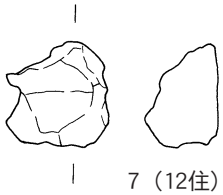

2（2住）

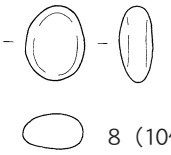

3（4住）

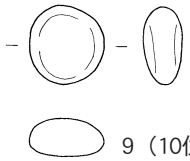

4（9住）

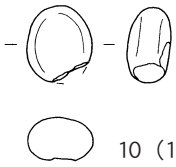

5（9住）

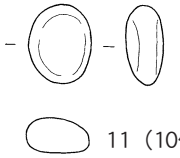

6（10住）

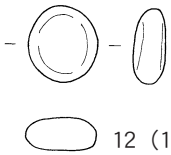

7（12住）

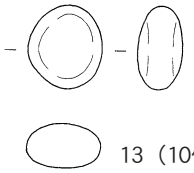

8（10住）

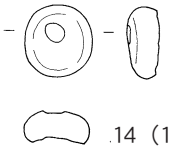

9（10住）

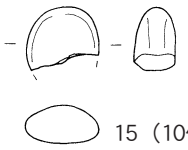

10（10住）

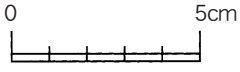

11（10住）


12（10住）

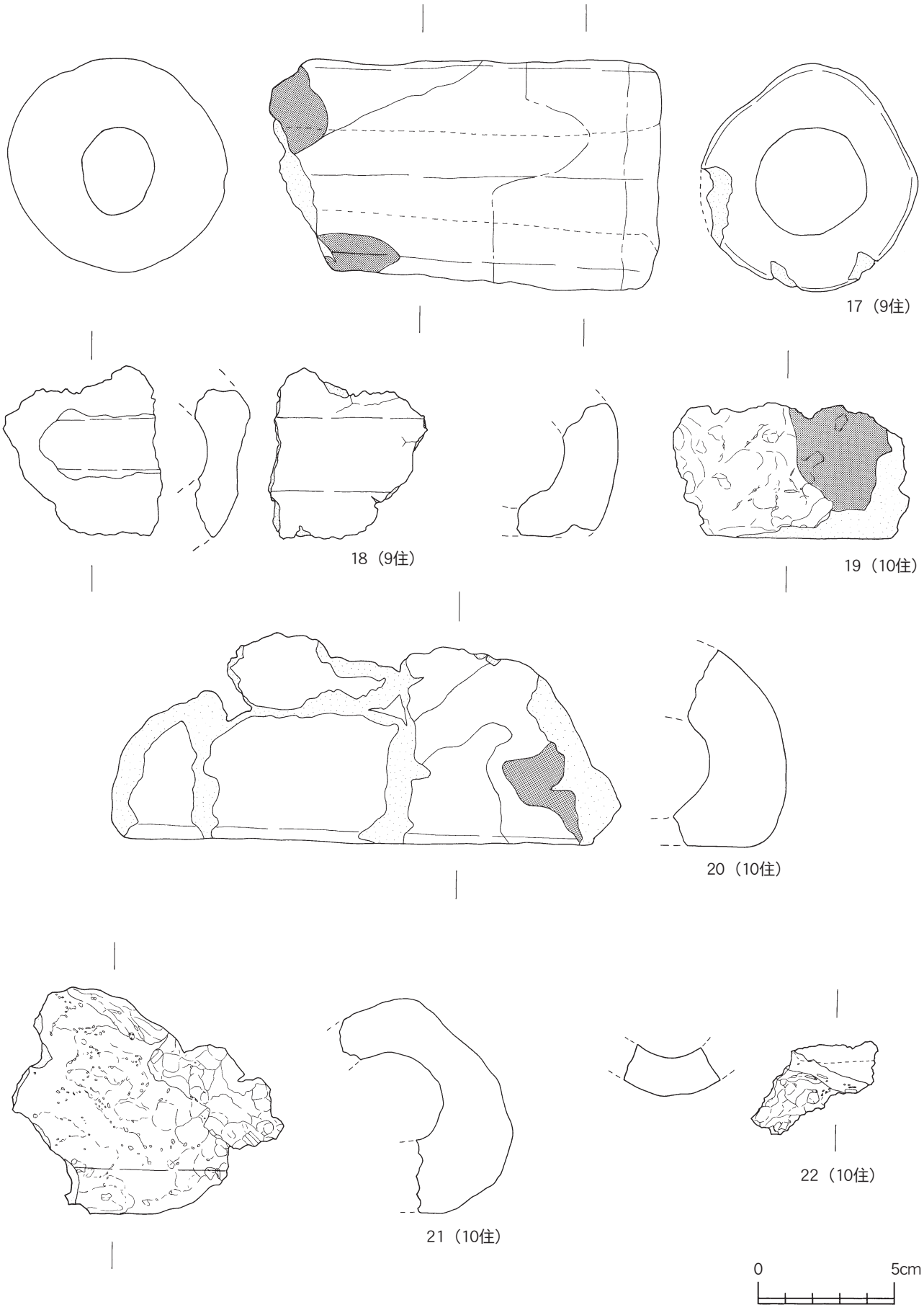

13（10住）


14（10住）

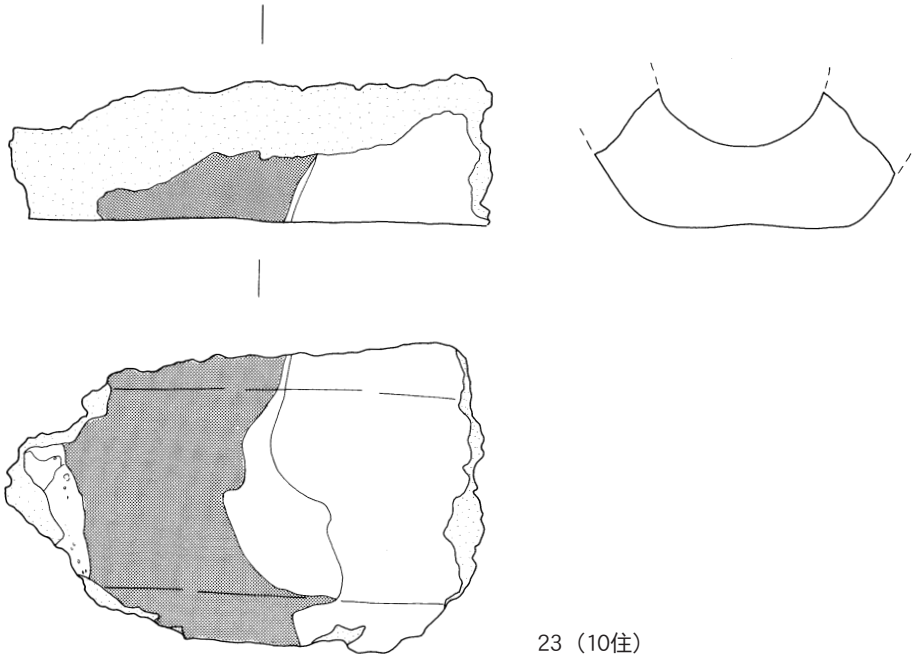

15（10住）

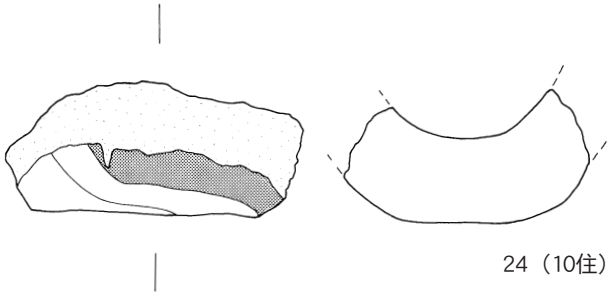


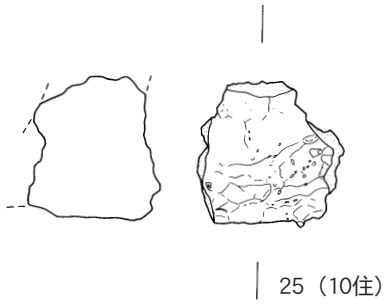
第47図　遺構内出土土製品・石製品（竪穴住居跡）

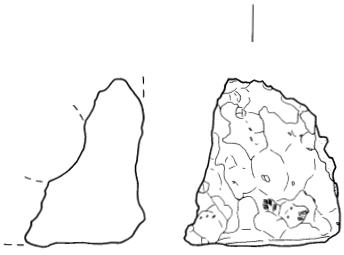


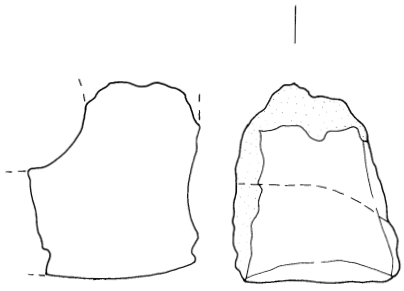
第48図　遺構内出土鉄関連遺物（竪穴住居跡）（1）

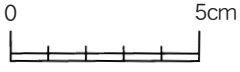




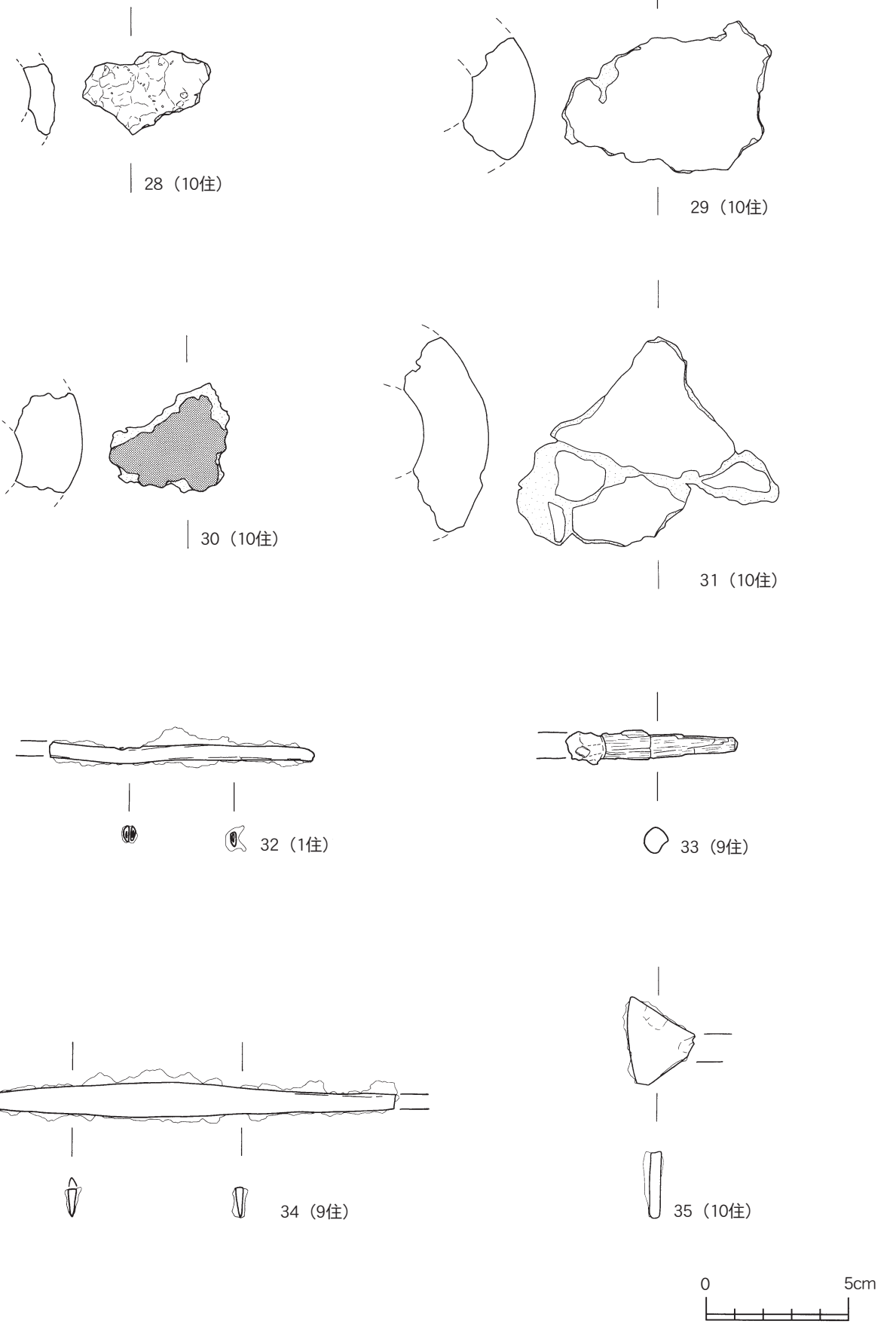




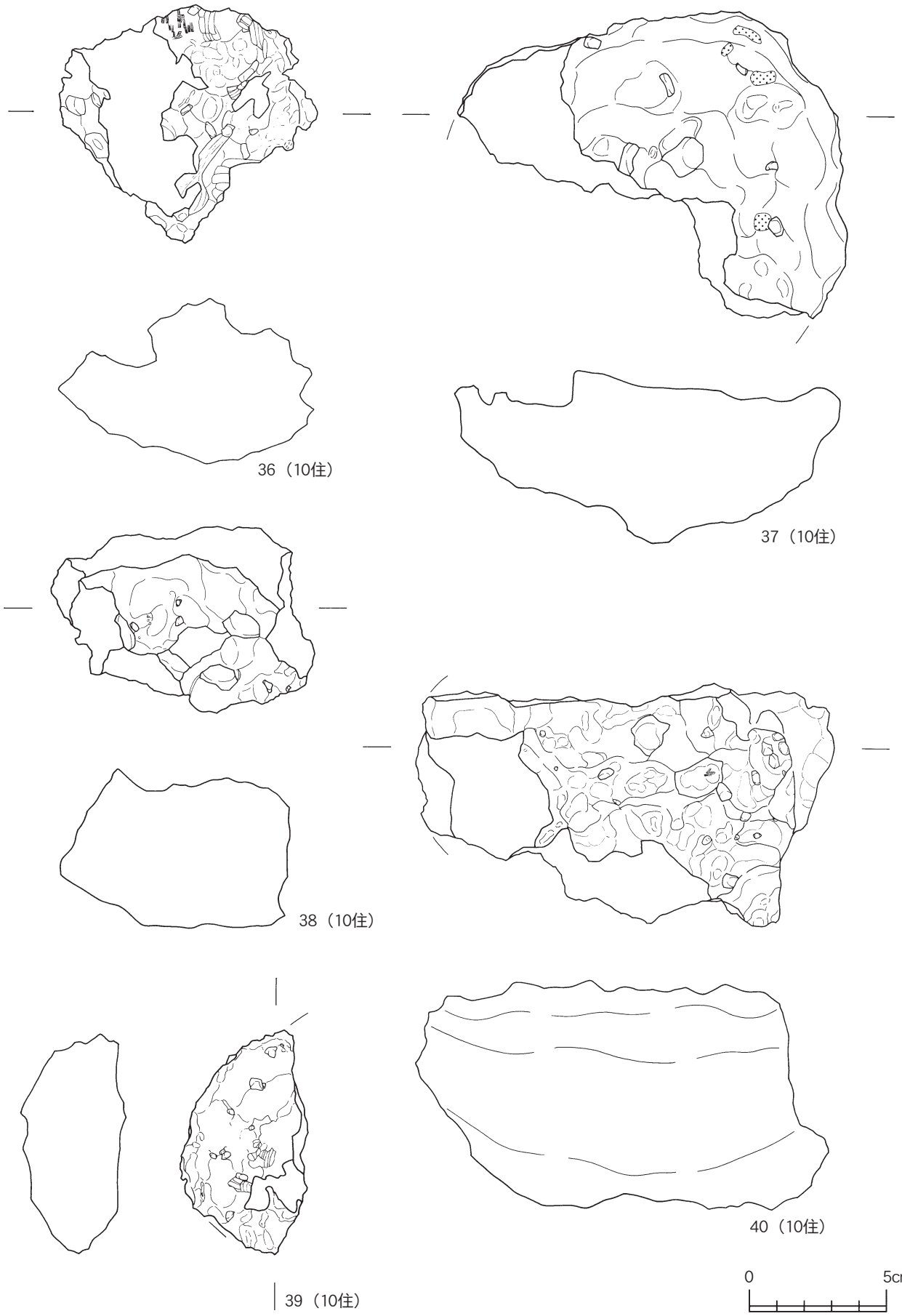




第49図　遺構内出土鉄関連遺物（竪穴住居跡）(2)



第50図　遺構内出土鉄関連遺物（竪穴住居跡）(3)



第51図　遺構内出土鉄関連遺物（竪穴住居跡）(4)

２．土坑

第１号土坑（第52図）

［位置・確認層］Ｗ－107、108グリッドに位置する。第Ⅴ層において確認した。

［重複］なし。

［平面形・規模］平面形は不整な楕円形で、開口部は144㎝×120㎝、底面は122㎝×102㎝、深さは50㎝である。

［壁］外側へ直線的に立ち上がる。

［底面］中央部から東西側へ緩やかな傾斜が見られる。

［覆土］黒色土が堆積する。自然堆積と思われる。

［出土遺物］土器は、覆土より土師器（坏）（第55図１、２）が出土している。

［時期］出土遺物より平安時代と思われる。

第２号土坑（第52図）

［位置・確認層］Ｍ－116、117グリッドに位置する。第Ⅴ層において確認した。

［重複］なし。

［平面形・規模］平面形は不整な長方形で、開口部は長軸幅160㎝、短軸幅110㎝、底面は長軸幅142㎝、短軸幅100㎝、深さは30㎝である。

［壁］外側へ直線的に立ち上がる。

［底面］中央部から外側へ若干の傾斜が見られる。

［覆土］２層に分層した。黒褐色土主体に堆積し、第２層は崩落土の可能性が考えられる。自然堆積と思われる。

［出土遺物］土器は、覆土より土師器（坏）（第55図３）、土師器（甕）（第55図４）が出土している。

［時期］出土遺物より平安時代と思われる。

第４号土坑（第52図）

［位置・確認層］Ｑ－91グリッドに位置する。第Ⅴ層において確認した。

［重複］なし。

［平面形・規模］平面形は不整な楕円形で、開口部は86㎝×57㎝、底面は76㎝×52㎝、深さは16㎝である。

［壁］やや外側へ直線的に立ち上がる。

［底面］ほぼ平坦である。北東側から南西側へ若干の傾斜が見られる。

［覆土］２層に分層した。黒色土主体に堆積する。自然堆積と思われる。

［出土遺物］なし。

［時期］不明である。

第５号土坑（第52図）

［位置・確認層］Ｎ－114グリッドに位置する。第Ⅴ層において確認した。

［重複］第６号竪穴住居跡と重複し、本遺構が新しい。

［平面形・規模］平面形は不整な楕円形で、開口部は88㎝×72㎝、底面は62㎝×60㎝、深さは38㎝である。
［壁］外側へ緩やかに立ち上がる。
［底面］ほぼ平坦である。
［覆土］４層に分層した。黒褐色土主体に堆積する。自然堆積と思われる。なお、第２層、第３層については、人為堆積の可能性も考えられる。
［出土遺物］土器は、覆土より土師器（甕）（第55図５）が出土している。
［時期］出土遺物より平安時代と思われる。

第６号土坑（第52図）
［位置・確認層］Ｑ－89、90グリッドに位置する。第Ⅴ層において確認した。
［重複］第16号溝跡と重複し、本遺構が古い。
［平面形・規模］平面形は不整な楕円形で、開口部は150㎝×124㎝、底面は136㎝×114㎝、深さは14㎝である。
［壁］南北壁は外側へ直線的に立ち上がる。東壁は外側へ緩やかに立ち上がる。
［底面］若干の起伏が見られる。
［覆土］２層に分層した。黒褐色土、黒色土が堆積する。自然堆積と思われる。
［出土遺物］石器は、第１層より敲磨器（第56図１）が１点出土している。
［時期］不明である。

第７号土坑（第52図）
［位置・確認層］Ｎ－114グリッドに位置する。第Ⅴ層において確認した。
［重複］なし。
［平面形・規模］平面形は不整な楕円形で、開口部は112㎝×74㎝、底面は98㎝×65㎝、深さは16㎝である。
［壁］外側へ直線的に立ち上がる。
［底面］若干の起伏が見られる。また、北側から南側へ若干の傾斜が見られる
［覆土］黒褐色土が堆積する。自然堆積と思われる。
［出土遺物］なし。
［時期］不明である。

第10号土坑（第52図）
［位置・確認層］Ｍ－114グリッドに位置する。第Ⅴ層において確認した。
［重複］なし。
［平面形・規模］平面形は不整な楕円形で、開口部は75㎝×57㎝、底面は70㎝×52㎝、深さは９㎝である。
［壁］やや外側へ直線的に立ち上がる。
［底面］ほぼ平坦である。

［覆土］黒褐色土が堆積する。自然堆積と思われる。
［出土遺物］なし。
［時期］不明である。

第11号土坑（第52図）
［位置・確認層］Ｌ－114グリッドに位置する。第Ⅴ層において確認した。
［重複］なし。
［平面形・規模］平面形は不整な円形で、開口部は長径60㎝、底面は長径56㎝、深さは13㎝である。
［壁］全体としてやや外側へ直線的に立ち上がる。北西壁は一部やや内側へ立ち上がる。
［底面］若干の起伏が見られるがほぼ平坦である。
［覆土］４層に分層した。暗褐色土主体に堆積し、第２層中のローム並びに第３層については崩落土の可能性が考えられる。自然堆積と思われる。
［出土遺物］なし。
［時期］不明である。

第12号土坑（第52図）
［位置・確認層］Ｌ－113グリッドに位置する。第Ⅴ層において確認した。
［重複］なし。
［平面形・規模］平面形は不整な円形で、開口部は長径73㎝、底面は長径68㎝、深さは19㎝である。
［壁］やや外側へ直線的に立ち上がる。
［底面］若干の起伏が見られるがほぼ平坦である。
［覆土］黒褐色土が堆積する。自然堆積と思われる。
［出土遺物］なし。
［時期］不明である。

第13号土坑（第53図）
［位置・確認層］Ｎ－115、116グリッドに位置する。第Ⅴ層において確認した。
［重複］第７号竪穴住居跡、第１号円形周溝ｂと重複し、本遺構が古い。
［平面形・規模］平面形は不明で、開口部は最長163㎝、底面は最長126㎝、深さは59㎝である。
［壁］ほぼ平坦である。
［底面］西側から東側へ若干の傾斜が見られるがほぼ平坦である。
［覆土］５層に分層した。黒褐色土、暗褐色土が堆積し、各層ロームブロックを含む。人為堆積と思われる。
［出土遺物］なし。
［時期］不明である。

第15号土坑（第53図）
［位置・確認層］Ｓ－95グリッドに位置する。第Ⅴ層において確認した。

［重複］第79号柱穴状ピットと重複し、本遺構が新しい。
［平面形・規模］平面形は不整な円形で、開口部は長径78㎝、底面は長径70㎝、深さは22㎝である。
［壁］外側へ直線的に立ち上がる。
［底面］ほぼ平坦であるが南西側から北東側へ傾斜が見られる。北東壁際に底面ピットが見られる。
［覆土］黒褐色土が堆積する。自然堆積と思われる。
［出土遺物］なし。
［時期］不明である。

第16号土坑（第53図）
［位置・確認層］Ｑ・Ｒ－113、114グリッドに位置する。第Ⅴ層において確認した。
［重複］なし。
［平面形・規模］平面形は不整な楕円形で、開口部は167㎝×132㎝、底面は126㎝×108㎝、深さは25㎝である。
［壁］外側へ緩やかに立ち上がる。
［底面］中央部から外側へ若干の傾斜が見られる。
［覆土］黒褐色土が堆積する。自然堆積と思われる。
［出土遺物］なし。
［時期］不明である。

第19号土坑（第53図）
［位置・確認層］Ｎ－113グリッドに位置する。第Ⅴ層において確認した。
［重複］なし。
［平面形・規模］平面形は不整な楕円形で、開口部は84㎝×72㎝、底面は80㎝×67㎝、深さは12㎝である。
［壁］やや外側へ直線的に立ち上がる。
［底面］若干の起伏が見られる。
［覆土］黒褐色土が堆積する。自然堆積と思われる。
［出土遺物］なし。
［時期］不明である。

第22号土坑（第53図）
［位置・確認層］Ｌ・Ｍ－112、113グリッドに位置する。第Ⅴ層において確認した。
［重複］第２号竪穴住居跡、第23号土坑、第１号溝跡と重複し、本遺構は、第２号竪穴住居跡、第１号溝跡より新しく、第23号土坑より古い。
［平面形・規模］平面形は不整な楕円形で、開口部は260㎝×237㎝、底面は228㎝×212㎝、深さは52㎝である。
［壁］外側へ緩やかに立ち上がり、壁中位で外側へ屈曲する。
［底面］起伏が見られる。南側に楕円形状の落ち込みが見られ、さらにその西側にピット状の落ち込み

が見られる。
［覆土］６層に分層した。黒褐色土、暗褐色土主体に堆積し、自然堆積と思われる。
［出土遺物］土器は、覆土より土師器（坏）（第55図７）、土師器（甕）（第55図６）が出土している。
［時期］出土遺物より平安時代と思われる。

第23号土坑（第53図）
［位置・確認層］Ｍ－112、113グリッドに位置する。第Ⅴ層において確認した。
［重複］第２号竪穴住居跡、第22号土坑、第１号溝跡と重複し、本遺構が新しい。
［平面形・規模］平面形は不整な楕円形で、開口部は275㎝×242㎝、底面は211㎝×198㎝、深さは62㎝である。
［壁］外側へ緩やかに立ち上がる。
［底面］起伏が見られる。
［覆土］４層に分層した。黒色土、黒褐色土主体に堆積する。自然堆積と思われる。
［出土遺物］土器は、第１層より須恵器（壷）（第55図９）が、覆土より須恵器（坏）（第55図８）、土師器（坏）（第55図10）、土師器（甕）（第55図11、12）が出土している。石器は、第２層より敲磨器（第56図２）が１点出土している。鉄関連遺物は、第２層より棒状鉄製品（第56図３）が１点出土している。
［時期］出土遺物より平安時代と思われる。

第25号土坑（第54図）
［位置・確認層］Ｒ－91、92グリッドに位置する。第Ⅳ層において確認した。
［重複］第４号竪穴住居跡と重複し、本遺構が新しい。
［平面形・規模］平面形は不整な長方形で、開口部は長軸幅402㎝、短軸幅190㎝、底面は長軸幅391㎝、短軸幅180㎝、深さは24㎝である。
［壁］外側へ直線的に立ち上がる。
［底面］若干の起伏が見られるがほぼ平坦である。
［覆土］黒色土が堆積する。自然堆積と思われる。
［出土遺物］なし。
［時期］不明である。

第26号土坑（第54図）
［位置・確認層］Ｑ－95グリッドに位置する。第Ⅴ層において確認した。
［重複］なし。
［平面形・規模］平面形は不整な円形で、開口部は長径58㎝、底面は長径43㎝、深さは16㎝である。
［壁］外側へ緩やかに立ち上がる。
［底面］外側から中央部へ若干の傾斜が見られる。
［覆土］黒色土が堆積する。自然堆積と思われる。
［出土遺物］なし。

［時期］不明である。

第27号土坑（第54図）

［位置・確認層］Ｏ・Ｐ－115グリッドに位置する。第Ⅴ層において確認した。

［重複］第１号円形周溝ｂ、第211号柱穴状ピットと重複し、本遺構は、第１号円形周溝ｂより新しく、第211号柱穴状ピットより古い。

［平面形・規模］平面形は不整な円形で、開口部は長径58㎝、底面は長径60㎝、深さは30㎝である。

［壁］東壁はやや外側へ直線的に立ち上がる。西壁はやや内側へ立ち上がる。

［底面］ほぼ平坦である。

［覆土］黒褐色土が堆積する。自然堆積と思われる。

［出土遺物］なし。

［時期］不明である。

第28号土坑（第54図）

［位置・確認層］Ｌ－111グリッドに位置する。第Ⅴ層において確認した。

［重複］なし。

［平面形・規模］平面形は不整な楕円形で、開口部は131㎝×98㎝、底面は108㎝×90㎝、深さは58㎝である。

［壁］外側へ緩やかに立ち上がる。

［底面］若干の起伏が見られる。また、西側から東側へ若干の傾斜が見られる。

［覆土］４層に分層した。黒色土、黒褐色土主体に堆積し、第２層中の黄褐色土は崩落土と考えられる。自然堆積と思われる。

［出土遺物］土器は、覆土より土師器（甕）（第55図13）が出土している。

［時期］出土遺物より平安時代と思われる。

第29号土坑（第54図）

［位置・確認層］Ｐ・Ｑ－97グリッドに位置する。第Ⅴ層において確認した。

［重複］なし。

［平面形・規模］平面形は不整な長方形で、開口部は長軸幅137㎝、短軸幅64㎝、底面は長軸幅123㎝、短軸幅52㎝、深さは23㎝である。

［壁］全体として外側へ緩やかに立ち上がる。南壁はやや外側へ垂直に近く立ち上がる。

［底面］ほぼ平坦であるが東側から西側へ傾斜が見られる。

［覆土］黒褐色土が堆積する。自然堆積と思われる。

［出土遺物］なし。

［時期］不明である。

第30号土坑（第54図）

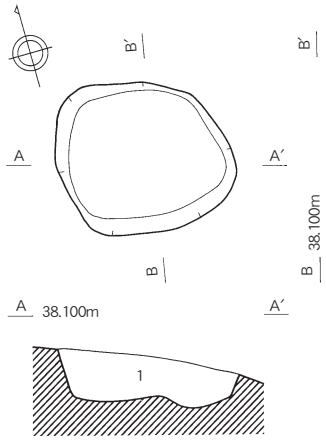
［位置・確認層］Ｓ－98グリッドに位置する。第Ⅴ層において確認した。

［重複］第31号土坑と重複し、本遺構が古い。
［平面形・規模］平面形は不整な長方形で、開口部は長軸幅198㎝、短軸幅106㎝、底面は長軸幅189㎝、短軸幅96㎝、深さは19㎝である。
［壁］やや外側へ直線的に立ち上がる。
［底面］外側から中央部へ若干の傾斜が見られるがほぼ平坦である。
［覆土］黒褐色土が堆積する。自然堆積と思われる。
［出土遺物］なし。
［時期］不明である。

第31号土坑（第54図）
［位置・確認層］Ｒ・Ｓ－98グリッドに位置する。第Ⅴ層において確認した。
［重複］第30号土坑と重複し、本遺構が新しい。
［平面形・規模］平面形は不整な長方形で、開口部は長軸幅122㎝、短軸幅67㎝、底面は長軸幅115㎝、短軸幅59㎝、深さは32㎝である。
［壁］外側へ直線的に立ち上がる。
［底面］ほぼ平坦であるが西側から東側へ傾斜が見られる。
［覆土］２層に分層した。黒色土、黒褐色土が堆積する。自然堆積と思われる。
［出土遺物］なし。
［時期］不明である。

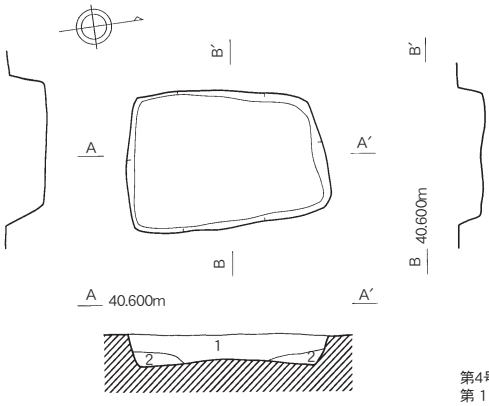
第33号土坑（第54図）
［位置・確認層］Ｊ・Ｋ－93グリッドに位置する。第Ⅴ層において確認した。
［重複］第11号竪穴住居跡と重複し、本遺構が新しい。
［平面形・規模］平面形は不整な楕円形で、開口部は120㎝×86㎝、底面は86㎝×54㎝、深さは20㎝である。
［壁］外側へ直線的に立ち上がる。
［底面］ほぼ平坦であるが北側から南側へ傾斜が見られる。
［覆土］黒褐色土が堆積する。自然堆積と思われる。
［出土遺物］なし。
［時期］不明である。

第1号土坑



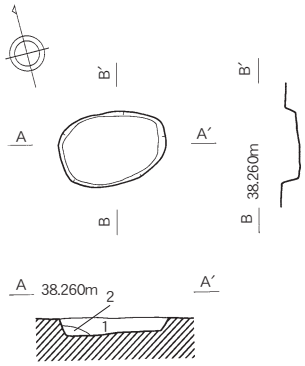
第1号土坑
第１層　黒色土（10YR1.7/1）ローム粒少量

第2号土坑



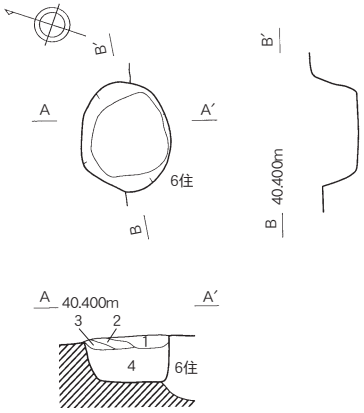
第2号土坑
第１層　黒褐色土（10YR2/3）ロームブロック少量
第２層　暗褐色土（10YR3/3）ロームブロック多量

第4号土坑



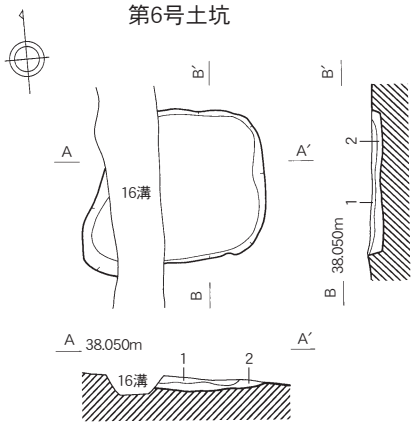
第4号土坑
第１層　黒 色 土（10YR2/1）ローム粒少量、炭化物少量
第２層　黒褐色土（10YR2/2）炭化物微量

第5号土坑



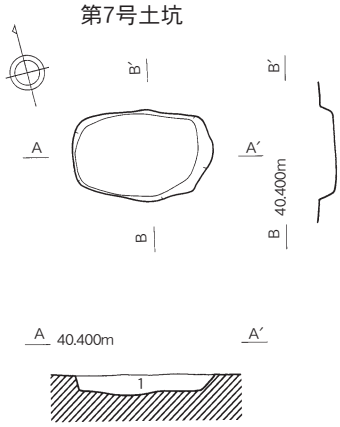
第5号土坑
第１層　黒褐色土（10YR2/3）ローム粒少量、ロームブロック微量、
　　炭化粒微量
第２層　暗褐色土（10YR3/4）ローム粒微量
第３層　褐 色 土（7.5YR4/4）
第４層　黒褐色土（10YR2/3）ローム粒少量、炭化粒少量

第6号土坑



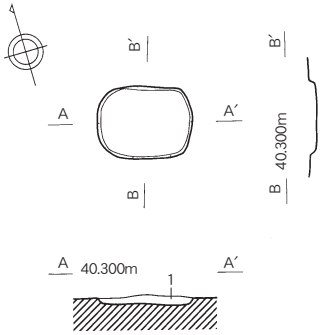
第6号土坑
第１層　黒褐色土（10YR2/2）　ローム粒微量
第２層　黒 色 土（10YR1.7/1）ローム粒微量、炭化物少量

第7号土坑



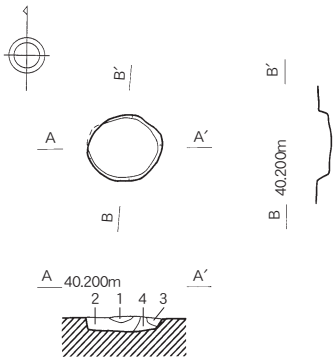
第7号土坑
第１層　黒褐色土（10YR2/3）ローム粒少量

第10号土坑



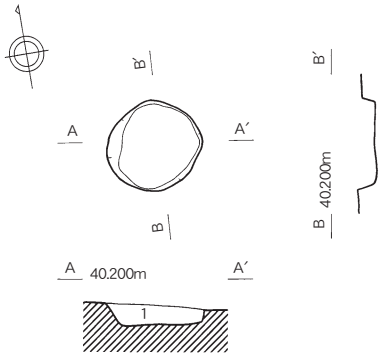
第10号土坑
第１層　黒褐色土（10YR2/2）ローム粒少量、ロームブロック少量

第11号土坑

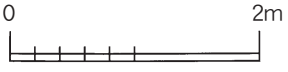


第11号土坑
第１層　黒褐色土（10YR2/1）ローム粒微量
第２層　暗褐色土（10YR3/3）ローム粒中量、ロームブロック中量、
　　炭化粒微量
第３層　黄褐色土（10YR5/6）
第４層　暗褐色土（10YR3/3）ローム粒微量

第12号土坑

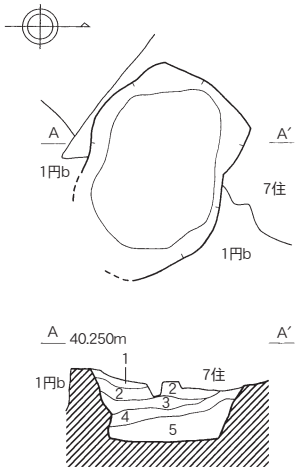


第12号土坑
第１層　黒褐色土（10YR2/2）ローム粒少量、
　　ロームブロック少量



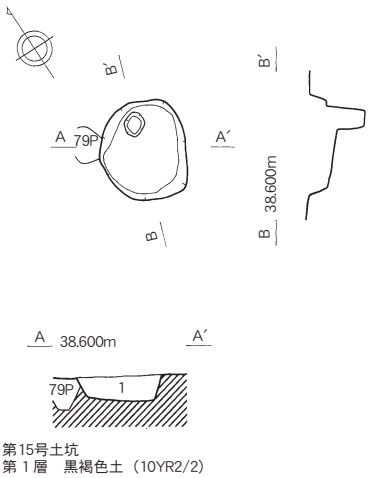
第52図　土坑（1）（1、2、4～7、10～12土）

第13号土坑



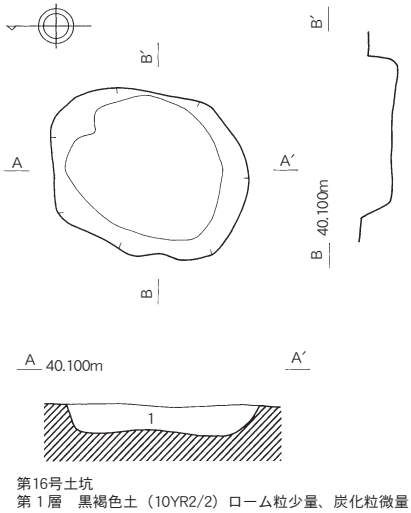
第13号土坑
第１層　黒褐色土（10YR2/2）ローム粒少量、ロームブロック微量、炭化粒少量
第２層　暗褐色土（10YR3/3）ローム粒中量、ロームブロック中量、炭化粒少量
第３層　黒褐色土（10YR2/2）ローム粒少量、ロームブロック少量、炭化粒少量
第４層　黒褐色土（10YR2/3）ローム粒中量、ロームブロック中量、炭化粒少量
第５層　黒褐色土（10YR2/2）ロームブロック中量

第15号土坑



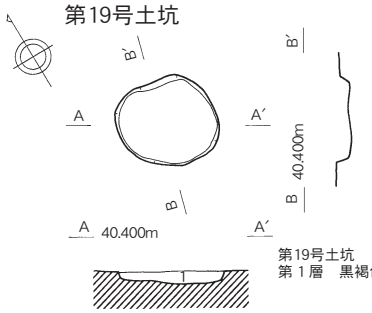
第15号土坑
第１層　黒褐色土（10YR2/2）

第16号土坑



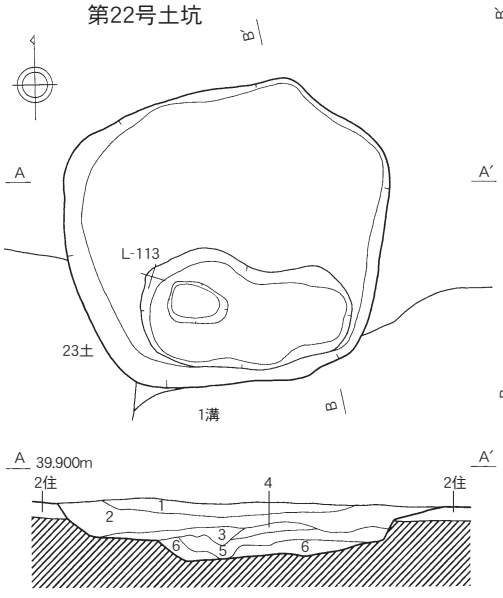
第16号土坑
第１層　黒褐色土（10YR2/2）ローム粒少量、炭化粒微量

第19号土坑



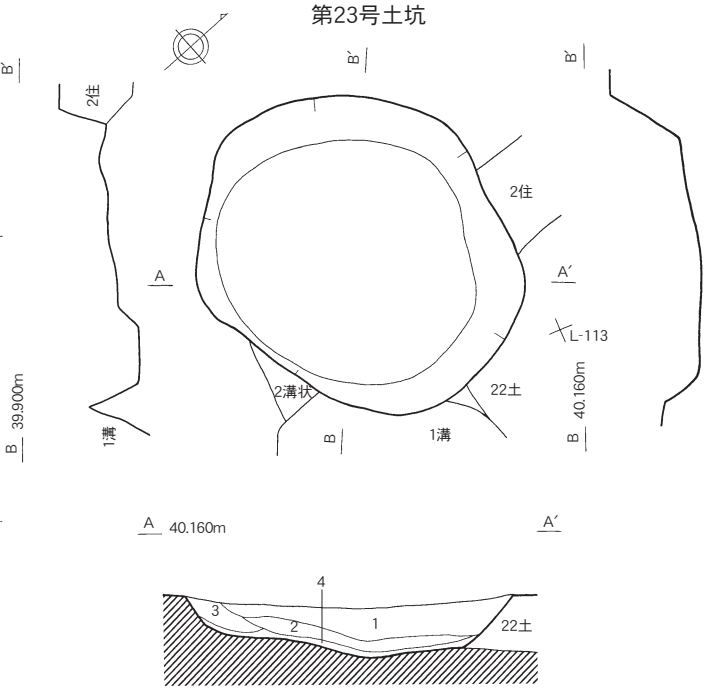
第19号土坑
第１層　黒褐色土（10YR2/2）ローム粒少量、炭化粒微量

第22号土坑



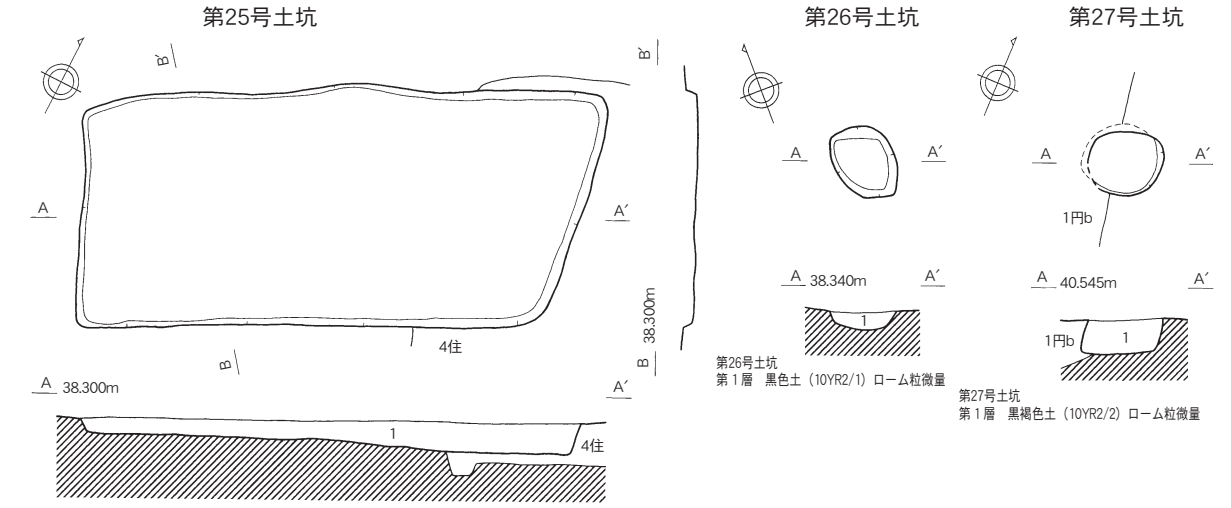
第22号土坑
第１層　黒褐色土（10YR2/2）ローム粒微量
第２層　黒褐色土（10YR2/3）ローム粒微量
第３層　黒褐色土（10YR2/2）ローム粒微量、炭化粒微量
第４層　黒褐色土（10YR2/3）ローム粒微量
第５層　暗褐色土（10YR3/4）ローム粒少量、炭化粒微量
第６層　褐 色 土（10YR4/6）にぶい黄橙色土(10YR6/4)少量、ローム粒多量

第23号土坑



第23号土坑
第１層　黒褐色土（10YR2/3）ローム粒少量、炭化粒少量
第２層　黒 色 土（10YR2/1）ローム粒少量、炭化粒微量
第３層　暗褐色土（10YR3/4）ローム粒少量、炭化粒微量
第４層　暗褐色土（10YR3/3）ローム粒微量

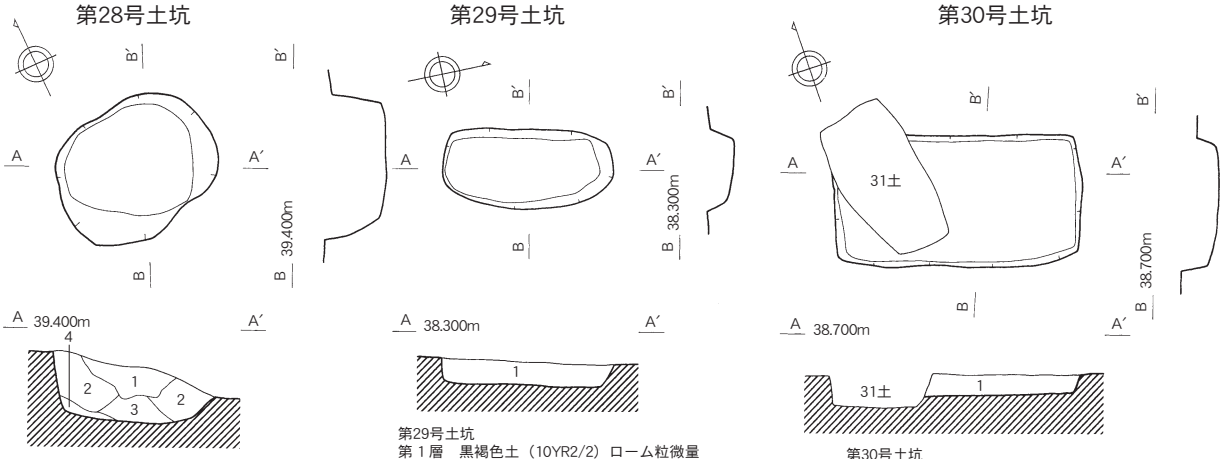
第53図　土坑（2）（13、15、16、19、22、23土）



第25号土坑
第１層　黒色土（10YR2/1）暗褐色土(10YR3/4)少量、ローム粒微量

第26号土坑
第１層　黒色土（10YR2/1）ローム粒微量

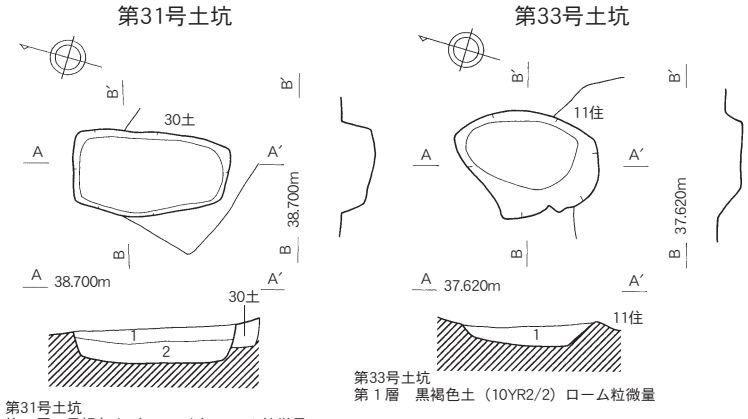
第27号土坑
第１層　黒褐色土（10YR2/2）ローム粒微量



第28号土坑
第１層　黒 色 土（10YR1.7/1）ローム粒微量
第２層　黒褐色土（10YR2/2）　と黄褐色土(10YR5/6)の混合土
交互に層状に堆積
第３層　黒褐色土（10YR2/3）　ローム粒微量
第４層　黒 色 土（10YR2/1）　ローム粒少量

第29号土坑
第１層　黒褐色土（10YR2/2）ローム粒微量

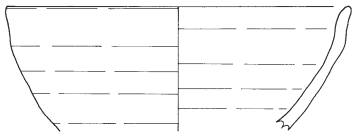
第30号土坑
第１層　黒褐色土（10YR2/2）ローム粒微量

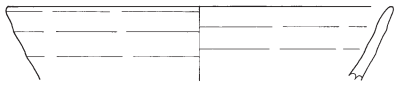


第31号土坑
第１層　黒褐色土（10YR2/2）ローム粒微量
第２層　黒 色 土（10YR2/1）ローム粒微量

第33号土坑
第１層　黒褐色土（10YR2/2）ローム粒微量

第54図　土坑（3）（25～31、33土）


1（1土）

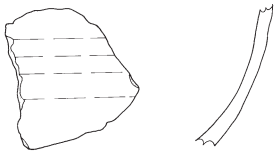

2（1土）

3（2土）

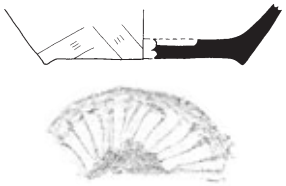
4（2土）

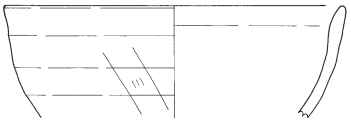
5（5土）

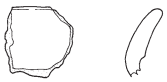
6（22土）

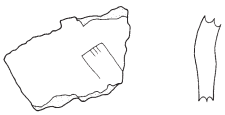

7（22土）

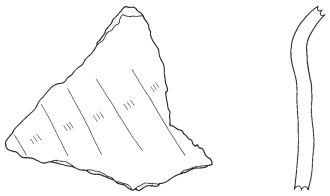
8（23土）

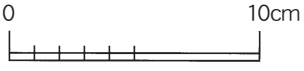

9（23土）


10（23土）


11（23土）

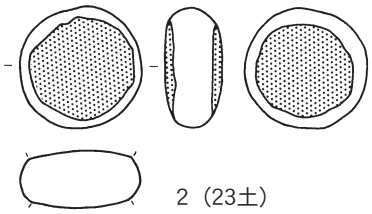

12（23土）


13（28土）

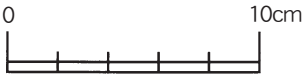


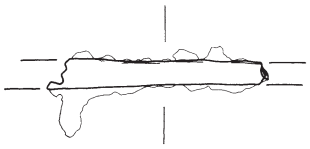
第55図　遺構内出土土器（土坑）(1)

1（6土）



2（23土）





3（23土）

第56図　遺構内出土石器・鉄関連遺物（土坑）

３．溝状土坑

第１号溝状土坑（第57図）

［位置・確認層］Ｎ・Ｏ－117グリッドに位置する。第Ⅴ層において確認した。

［重複］なし。

［平面形・規模］平面形は、南北に細長い不整な楕円形状を呈する。開口部は300㎝×142㎝、底面は395㎝×42㎝、深さは152㎝である。

［壁］南北壁は、内側へオーバーハングして立ち上がり、壁上位で外側へ屈曲する。東西壁は、全体として外側へ数度屈曲して立ち上がる。

［底面］若干の起伏が見られる。

［覆土］29層に分層した。黒色土、黒褐色土主体に堆積し、黄褐色土は崩落土と思われる。自然堆積と思われる。

［出土遺物］なし。

［時期］詳細な時期は不明であるが、形状等から縄文時代の可能性が考えられる。

第２号溝状土坑（第57図）

［位置・確認層］Ｍ－112、113グリッドに位置する。重複する他遺構の覆土下において確認した。

［重複］第23号土坑、第１号円形周溝ａ、第１号溝跡と重複し、本遺構が古い。

［平面形・規模］重複により全容は不明であるが、残存部から平面形は、おおむね東西に細長い形状を呈するものと思われる。残存する開口部は324㎝×56㎝、底面は369㎝×32㎝、深さは87㎝である。

［壁］東西壁は、内側へオーバーハングして立ち上がる。南北壁は、やや外側へ直線的に立ち上がる。

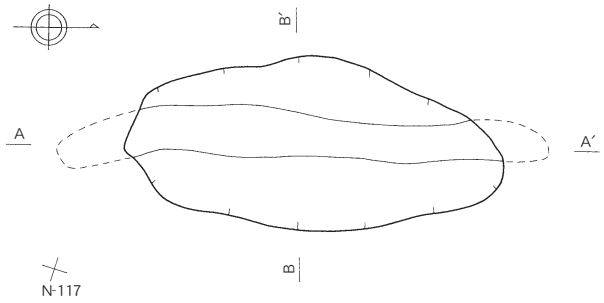
［底面］若干の起伏が見られる。

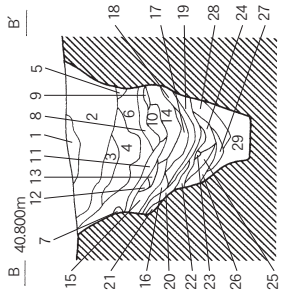
［覆土］７層に分層した。上位には暗褐色土、下位には黒色土、黒褐色土と黄褐色土が交互に堆積し、黄褐色土は崩落土と思われる。自然堆積と思われる。

［出土遺物］なし。

［時期］詳細な時期は不明であるが、形状等から縄文時代の可能性が考えられる。

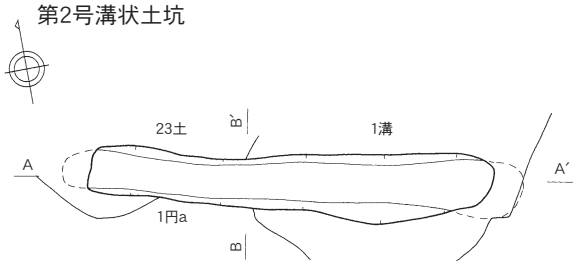
第1号溝状土坑

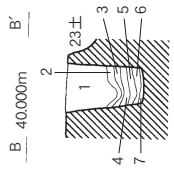


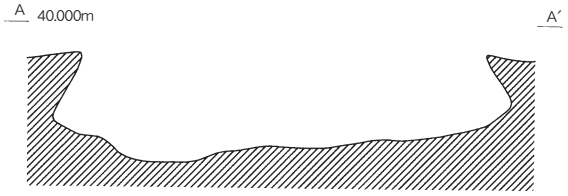


第1号溝状土坑
第１層　黒　色　土（10YR2/1）　ローム粒少量
第２層　黒　色　土（10YR1.7/1）ローム粒少量、ロームブロック少量
第３層　黒　色　土（7.5YR2/1）　ローム粒微量
第４層　黒　色　土（10YR2/1）　ローム粒少量、ロームブロック少量
第５層　黒　色　土（10YR2/1）　ローム粒中量
第６層　黒褐色土（10YR2/2）　ローム粒多量、ロームブロック多量
第７層　黒褐色土（10YR2/2）　ローム粒中量、ロームブロック少量
第８層　黄褐色土（10YR5/8）　黒褐色土混入
第９層　黒褐色土（10YR2/2）　ローム粒少量
第10層　黄褐色土（10YR5/8）　黒褐色土混入
第11層　黒褐色土（10YR2/3）　ローム粒少量、ロームブロック少量
第12層　黒褐色土（10YR2/2）　ロームブロック中量
第13層　黒褐色土（10YR2/2）　ローム粒微量
第14層　黄褐色土（10YR5/8）　黒褐色土混入
第15層　黄褐色土（10YR5/8）
第16層　黒褐色土（10YR3/2）　ローム粒多量
第17層　黒褐色土（10YR2/2）　ローム粒少量、ロームブロック少量
第18層　黄褐色土（10YR5/8）
第19層　黄褐色土（10YR5/6）　黒褐色土混入
第20層　黒褐色土（10YR2/2）　ローム粒少量、ロームブロック微量
第21層　黒褐色土（10YR3/2）　ロームローム粒多量
第22層　黒褐色土（10YR2/2）　ローム粒少量、ロームブロック少量
第23層　黒褐色土（10YR3/2）　ローム粒少量
第24層　黄褐色土（10YR5/8）
第25層　黄褐色土（10YR5/6）
第26層　黄褐色土（10YR5/8）　黒褐色土混入
第27層　黒褐色土（10YR3/2）　ローム粒中量、ロームブロック中量
第28層　黄褐色土（10YR5/8）
第29層　黒褐色土（10YR3/2）　ローム粒中量、ロームブロック多量

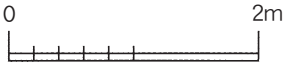
第2号溝状土坑







第2号溝状土坑
第１層　暗褐色土（10YR3/3）ローム粒少量、ロームブロック少量
第２層　黒褐色土（10YR3/2）と黄褐色土(10YR5/6)の混合土
ロームブロック少量
第３層　黒褐色土（10YR3/2）と黄褐色土(10YR5/6)の混合土
ローム粒多量、ロームブロック多量
第４層　黄褐色土（10YR5/6）ローム
第５層　黒　色　土（10YR2/1）ローム粒少量
第６層　黄褐色土（10YR5/6）ローム
第７層　黒褐色土（10YR3/2）ローム粒少量



第57図　溝状土坑（1、2溝状）

４．土器埋設遺構

第１号土器埋設遺構（第58図）

［位置・確認層］Ｌ－113グリッドに位置する。第Ⅴ層において確認した。

［重複］第２号竪穴住居跡ｂと重複する。新旧関係は不明である。住居跡に伴う施設の可能性も考えられる。

［平面形・規模］平面形は不整な長楕円形で、開口部は82×32㎝、底面は59×21㎝、深さは45㎝である。開口部の長軸は、Ｎ－０°－Ｅ、遺物の軸方向は、Ｎ－８°－Ｗである。

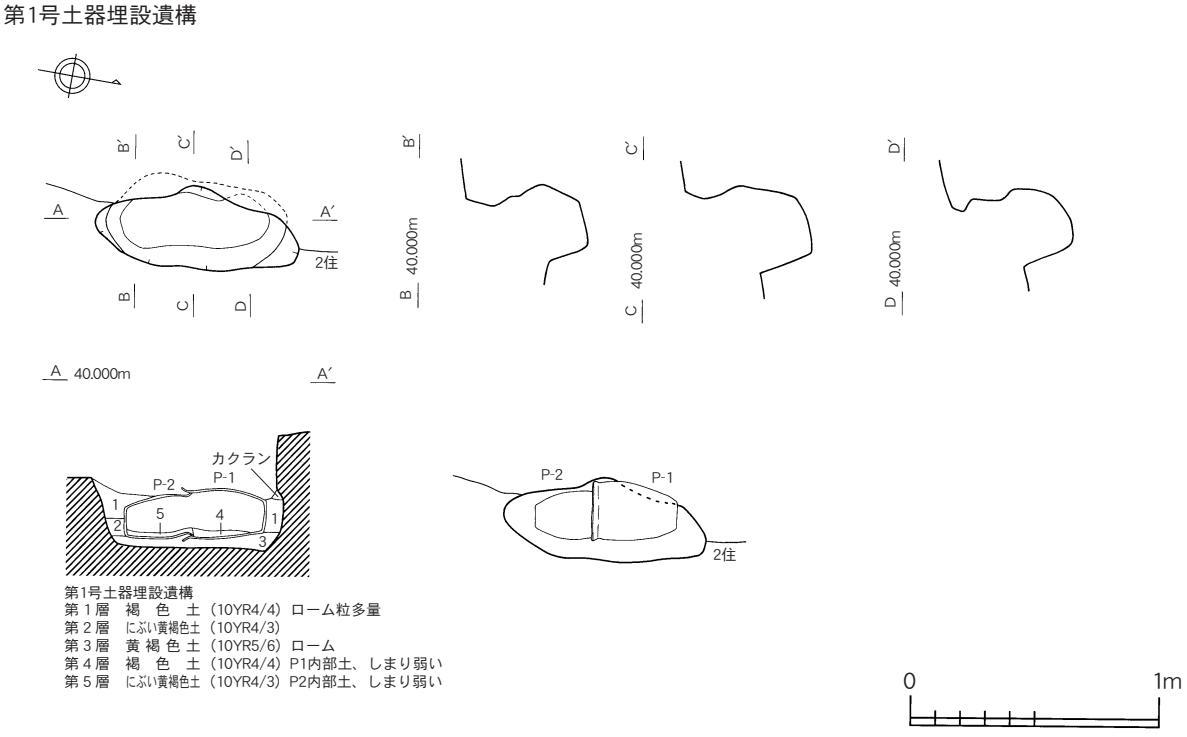
［壁］東側は外側へ直線的に立ち上がる。西側は外側へ直線的に立ち上がった後、内側へ屈曲しオーバーハングして立ち上がる。

［底］ほぼ平坦であるが、西側から東側に傾斜が見られる。

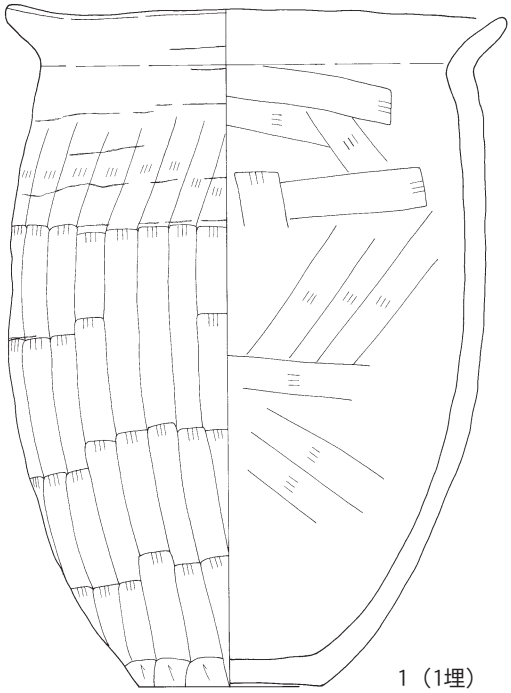
［覆土］５層に分層した。第１～３層は褐色土、黄褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。第３層は甕を納める前に安置する目的があった可能性も考えられる。

［出土遺物・状況］完形の土師器（甕）（第59図１、２）２個体が重ね合わせた状態で横位に納められていた。「合口甕棺」、「合口埋甕遺構」と呼称されるタイプのものと思われる。北側のＰ－１（第59図２）とした大きい個体の口縁部内部に、南側のＰ－２（第59図１）とした小さい個体の口縁部を４㎝程入れた状態で重ね合わせている。なお、出土状況の写真では、Ｐ－１とした甕の上部が欠けているが、これは精査時に破片が内部に落下したもので、確認段階では完形で残存していた。

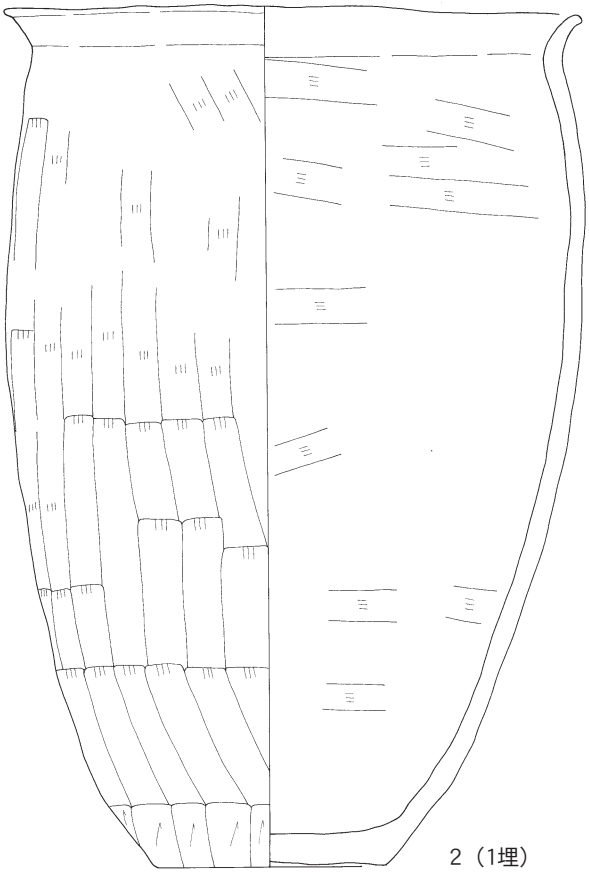
［時期］出土遺物よりおおむね９世紀末葉～10世紀前半の平安時代と思われる。



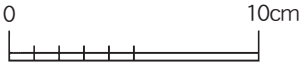
第58図　土器埋設遺構



1（1埋）



2（1埋）



第59図　遺構内出土土器（土器埋設遺構）

５．焼土遺構

第１号焼土遺構（第60図）

［位置・確認層］Ｍ－117グリッドに位置する。第Ⅲ層において確認した。

［重複］なし。

［平面形・規模］焼土の平面形は不整な楕円形で、規模は51㎝×43㎝である。

［覆土］なし。

［出土遺物］なし。

［時期］不明である。

第２号焼土遺構（第60図）

［位置・確認層］Ｎ－114グリッドに位置する。第Ⅳ層において確認した。

［重複］なし。

［平面形・規模］焼土の平面形は不整な楕円形で、規模は41㎝×39㎝である。

［覆土］なし。

［出土遺物］なし。

［時期］不明である。

第３号焼土遺構（第60図）

［位置・確認層］Ｒ－114グリッドに位置する。第Ⅳ層において確認した。

［重複］なし。

［平面形・規模］焼土の平面形は不整な楕円形で、規模は34㎝×20㎝である。

［覆土］なし。

［出土遺物］なし。

［時期］不明である。

第４号焼土遺構（第60図）

［位置・確認層］Ｓ－113グリッドに位置する。第Ⅲ層において確認した。

［重複］なし。

［平面形・規模］焼土の平面形は不整な楕円形で、規模は66㎝×55㎝である。

［覆土］なし。

［出土遺物］なし。

［時期］不明である。

第５号焼土遺構（第60図）

［位置・確認層］Ｔ－112、113グリッドに位置する。第Ⅴ層において確認した。

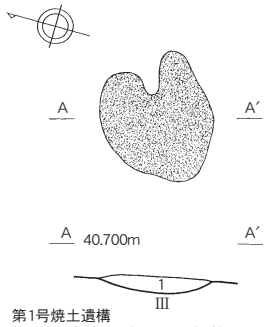
［重複］第30号溝跡と重複し、本遺構が新しい。

［平面形・規模］落込みの上面で焼土を検出した。落込み部の平面形は不整な円形で、開口部は長径57㎝、底面は長径23㎝、深さは138㎝である。焼土の平面形は不整な楕円形で、50㎝×32㎝である。

［壁］落込み部は全体として南東側から北西側に立ち上がる。壁中位で上方に屈曲し、開口部付近で西壁側が屈曲して外側へ緩やかに立ち上がる。
［底面］落込み部はほぼ平坦であるが、外側から中央部へ若干の傾斜が見られる。
［覆土］焼土下位の落込み部堆積土を３層に分層した。黒色土主体に堆積する。自然堆積と思われる。
［出土遺物］なし。
［時期］遺構間の重複関係より、平安時代ないし平安時代以降と思われる。

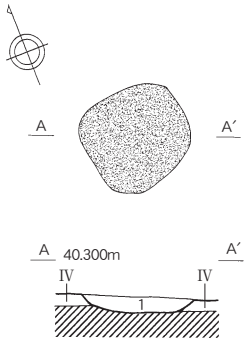
第６号焼土遺構（第60図）
［位置・確認層］Ｎ－114グリッドに位置する。第Ⅴ層において確認した。
［重複］なし。
［平面形・規模］削平により全容は不明であるが、落込みの周囲及び内部で焼土を検出した。落込み部の平面形は不整な楕円形で、規模は51㎝×36㎝、深さ６㎝である。焼土の平面形は不整な円形で長径37㎝である。
［壁］落込み部は外側に緩やかに立ち上がる。
［底面］落込み部は外側から中央部へ緩やかな傾斜が見られる。
［覆土］落込み部を３層に分層した。暗褐色土が堆積する。自然堆積と思われる。
［出土遺物］なし。
［時期］不明である。

第1号焼土遺構



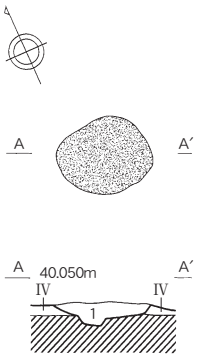
第1号焼土遺構
第１層　褐色土（7.5YR4/6）焼土

第2号焼土遺構



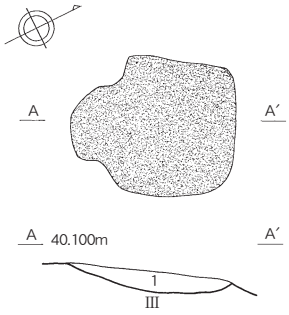
第2号焼土遺構
第１層　褐色土（7.5YR4/4）焼土

第3号焼土遺構



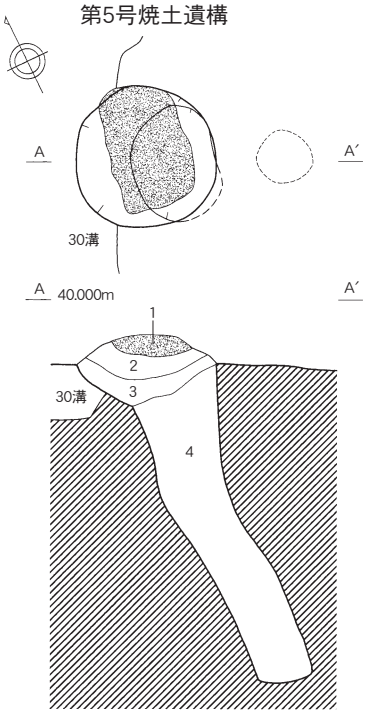
第3号焼土遺構
第１層　明赤褐色土（7.5YR5/8）焼土

第4号焼土遺構



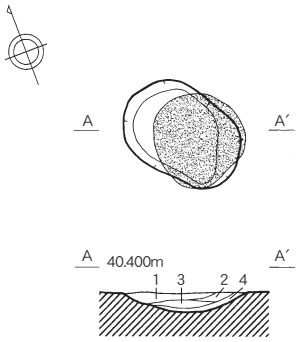
第4号焼土遺構
第１層　褐色土（7.5YR4/6）焼土

第5号焼土遺構

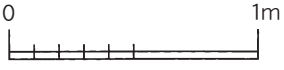


第5号焼土遺構
第１層　明褐色土（7.5YR5/6）焼土
第２層　暗褐色土（10YR3/3）ロームブロック微量、ローム粒少量、炭化粒微量
第３層　黒褐色土（10YR2/3）ローム粒微量、ロームブロック微量
第４層　黒 色 土（7.5YR2/1）ローム粒少量

第6号焼土遺構



第6号焼土遺構
第１層　暗褐色土（10YR3/4）ローム粒微量、炭化粒微量、炭化物微量
第２層　暗褐色土（7.5YR3/4）ローム粒微量
第３層　暗褐色土（7.5YR4/4）ローム粒微量
第４層　明褐色土（7.5YR5/6）焼土



第60図　焼土遺構（1～6焼）

６．円形周溝

第１号円形周溝ａ（第61図）

［位置・確認層］Ｍ～Ｏ－112、Ｐ－113、114、Ｍ－113～115、Ｎ・Ｏ－114、115グリッドに位置する。第Ⅳ層において確認した。

［重複］第６号竪穴住居跡、第23号土坑、第２号溝状土坑、第１号溝跡、第５号溝跡、第27号溝跡、第190号柱穴状ピット、第213号ピットと重複し、本遺構は、第23号土坑、第１号溝跡、第５号溝跡、第27号溝跡、第190号柱穴状ピット、第213号ピットより古く、第６号竪穴住居跡、第２号溝状土坑より新しい。

［平面形・規模］重複により全容は不明であるが、周溝は開口部を有する不整な円形を呈するものと思われる。開口部は、南東側に見られ、開口部幅は不明であるが120㎝以上と思われる。周溝の外径は東西13.8m、内径は東西10.3mである。周溝の幅は104㎝～208㎝、周溝の深さは、21～71㎝である。

［主体部］確認していない。

［壁・底］底面は埋め戻して整えられており、若干の起伏を有するが、おおむね平坦ないし中央部が低くわずかに湾曲している。壁は、全体として外側へ直線的ないし外側へ反るようにやや湾曲して立ち上がるが、壁中位から上位にかけて外側へ屈曲する個所も見られる。

［覆土］３～８層に分層した。最下層は黄褐色土と黒褐色土、暗褐色土の混合土で人為堆積と思われ、底面を埋め戻して平坦に整えたものと思われる。その他は黒褐色土、暗褐色土主体に堆積し、自然堆積と思われる。

［出土遺物］土器は、覆土より須恵器（坏）（第63図１、２）、土師器（坏）（第63図３～５）、土師器（甕）（第63図６～８）、土師器（堝）（第63図９）、縄文土器（第66図71）が出土している。石器は、覆土より敲磨器（第67図２、第68図４、５）が７点、台石・石皿（第67図３）が１点出土している。

［時期］出土遺物よりおおむね９世紀末葉～10世紀前半の平安時代と思われる。

第１号円形周溝ｂ（第61図）

［位置・確認層］Ｍ－114、115、Ｎ・Ｏ－115、116、Ｐ・Ｑ－113～115グリッドに位置する。第Ⅳ層において確認した。

［重複］第７号竪穴住居跡、第13号土坑、第27号土坑、第27号溝跡、第28号溝跡、第36号溝跡と重複し、本遺構は、第27号土坑、第27号溝跡、第28号溝跡、第36号溝跡より古く、第７号竪穴住居跡、第13号土坑より新しい。

［平面形・規模］重複により全容は不明であるが、周溝は第１号円形周溝ａを囲むように弧状を呈するものと思われる。周溝の幅は88㎝～204㎝、周溝の深さは、14～69㎝である。

［主体部］確認していない。

［壁・底］底面は埋め戻して整えられており、若干の起伏を有するが、おおむね平坦ないし中央部が低く湾曲している。壁は、全体として外側へ反るようにやや湾曲して立ち上がるが、壁中位から上位にかけて外側へ屈曲する個所も見られる。

［覆土］６～11層に分層した。最下層や底面付近の堆積土は黄褐色土と黒褐色土の混合土やロームブロックを多く含み人為堆積と思われ、底面を埋め戻して平坦に整えたものと思われる。その他は黒褐色土、暗褐色土主体に堆積し、自然堆積と思われる。

［出土遺物］土器は、覆土より須恵器（坏）（第63図10～13）、須恵器（甕）（第63図14）、須恵器（壷）（第63図15）、土師器（坏）（第63図16、17、第64図18～20）、土師器（甕）（第64図21～23）、縄文土器（第66図72～74）が出土している。石器は、覆土より敲磨器（第68図６）が１点出土している。鉄関連遺物は、覆土より棒状鉄製品（第73図11）が１点、椀形鍛冶滓（第73図19）が１点出土している。
［時期］出土遺物よりおおむね９世紀末葉～10世紀前半の平安時代と思われる。

第１号円形周溝ｃ（第61図）
［位置・確認層］Ｍ～Ｐ－116、Ｐ－115、Ｑ－114～116グリッドに位置する。第Ⅳ層において確認した。
［重複］第７号竪穴住居跡、第27号溝跡、第29号溝跡と重複し、本遺構は、第27号溝跡、第29号溝跡より古く、第７号竪穴住居跡より新しい。
［平面形・規模］重複により全容は不明であるが、周溝は第１号円形周溝ａ、ｂを囲むように弧状を呈するものと思われる。周溝の幅は110㎝～250㎝、周溝の深さは、32～98㎝である。
［主体部］確認していない。
［壁・底］底面は埋め戻して整えられており、若干の起伏を有するが、おおむね平坦ないし中央部が低くわずかに湾曲している。壁は、全体として外側へ反るようにやや湾曲して立ち上がるが、壁中位から上位にかけて外側へ屈曲する個所も見られる。
［覆土］14～16層に分層した。最下層は黄褐色土と黒褐色土、暗褐色土の混合土で人為堆積と思われ、底面を埋め戻して平坦に整えたものと思われる。その他は黒褐色土、暗褐色土主体に堆積し、自然堆積と思われる。また、火山灰層も見られ、白頭山火山灰と思われる。
［出土遺物］土器は、覆土より須恵器（坏）（第63図10、12、第64図24～27）、須恵器（甕）（第64図33）、須恵器（壷）（第63図15、第64図28～32）、土師器（坏）（第64図34～38）、土師器（甕）（第65図39～44）、縄文土器（第66図75～77）が出土している。石器は、覆土より敲磨器（第68図８、第69図11）が５点、台石・石皿（第68図７、第69図９、10）が３点出土している。土製品は、覆土より焼成粘土塊（第72図１）が１点出土している。鉄関連遺物は、覆土より羽口（第72図４、５）が２点、棒状鉄製品（第73図12～14）が３点、椀形鍛冶滓（第73図20）が１点出土している。
［時期］出土遺物よりおおむね９世紀末葉～10世紀前半の平安時代と思われる。

第２号円形周溝（第62図）
［位置・確認層］Ｑ－115、116、Ｒ・Ｓ－114～117、Ｔ－114～116グリッドに位置する。第Ⅲ層において確認した。
［重複］第９号竪穴住居跡、第３号円形周溝ａ、第３号円形周溝ｂと重複し、本遺構は、第３号円形周溝ａより古く、第９号竪穴住居跡、第３号円形周溝ｂより新しい。
［平面形・規模］重複により全容は不明であるが、周溝は開口部を有する不整な円形を呈するものと思われる。開口部は、南西側に見られ、開口部幅は193㎝、開口部の軸はＮ－８°－Ｗである。周溝の外径は、東西10.9m、内径は東西9.02mである。周溝の幅は54㎝～128㎝、周溝の深さは、10～83㎝である。
［主体部］確認していない。
［壁・底］底面は埋め戻して整えられており、若干の起伏を有するが、全体として中央部が低く湾曲し

ている。壁は、全体として外側へ立ち上がるが、やや内側へ反るように湾曲している。

［覆土］８層に分層した。最下層は黄褐色土と黒褐色土の混合土で人為堆積と思われ、底面を埋め戻して平坦に整えたものと思われる。その他は黒褐色土、暗褐色土主体に堆積し、自然堆積と思われる。また、第５層は火山灰層で白頭山火山灰と思われる。

［出土遺物］土器は、覆土より須恵器（坏）（第65図45、46）、須恵器（壷）（第65図47）、土師器（坏）（第65図48～54）、土師器（甕）（第65図55）、縄文土器（第66図78）が出土している。石器は、覆土より敲磨器（第71図13、14）が２点、台石・石皿（第70図12）が１点出土している。土製品は、覆土より焼成粘土塊（第72図２）が１点出土している。鉄関連遺物は、覆土より羽口（第72図６）が１点、棒状鉄製品（第73図15、16）が２点、不明鉄製品（第73図17）が１点、椀形鍛冶滓（第73図21）が１点出土している。

［時期］出土遺物よりおおむね９世紀末葉～10世紀前半の平安時代と思われる。

第３号円形周溝ａ（第62図）

［位置・確認層］Ｒ－111～113、Ｓ－111、Ｓ～Ｕ－114、Ｕ－112、113、Ｔ・Ｕ－111、112グリッドに位置する。第Ⅳ層において確認した。

［重複］第12号竪穴住居跡、第２号円形周溝、第３号円形周溝ｂ、第27号溝跡、第30号溝跡と重複し、本遺構は、第27号溝跡、第30号溝跡より古く、第12号竪穴住居跡、第２号円形周溝、第３号円形周溝ｂより新しい。

［平面形・規模］重複により全容は不明であり、特に第３号円形周溝ｂとの境界が不明な個所も見られるが、おおむね開口部を有する不整な円形を呈するものと思われる。開口部は、南東側に見られ、開口部幅は272㎝、開口部の軸はＮ－１°－Ｅである。周溝の外径は、北東－南西で12.6m、内径は北東－南西で11.4mである。周溝の幅は54㎝～208㎝、周溝の深さは、９～82㎝である。

［主体部］確認していない。

［壁・底］底面は埋め戻して整えられており、若干の起伏を有するが、おおむね平坦ないしわずかに湾曲している。壁は、全体として外側へ立ち上がるが、やや内側へ反るように湾曲している。壁中位から上位にかけて外側へ屈曲する個所も見られる。

［覆土］３～９層に分層した。最下層は黄褐色土と黒褐色土の混合土で人為堆積と思われ、底面を埋め戻して平坦に整えたものと思われる。その他は黒褐色土主体に堆積し、自然堆積と思われる。

［出土遺物］土器は、覆土より須恵器（坏）（第66図56、57）、須恵器（壷）（第66図58）、土師器（坏）（第66図59～62）、土師器（甕）（第66図63）、縄文土器（第66図79）が出土している。石器は、覆土より剥片が１点、敲磨器（第71図15、16）が２点出土している。鉄関連遺物は、覆土より羽口（第72図７）が１点出土している。

［時期］出土遺物よりおおむね９世紀末葉～10世紀前半の平安時代と思われる。

第３号円形周溝ｂ（第62図）

［位置・確認層］Ｒ・Ｓ－112～114、Ｔ－111～114、Ｕ－112、113グリッドに位置する。第Ⅳ層において確認した。

［重複］第12号竪穴住居跡、第２号円形周溝、第３号円形周溝ａ、第27号溝跡、第30号溝跡と重複し、

本遺構は、第２号円形周溝、第３号円形周溝ｂ、第27号溝跡、第30号溝跡より古く、第12号竪穴住居跡より新しい。

［平面形・規模］重複により全容は不明であり、特に第３号円形周溝ａとの境界が不明な個所も見られるが、開口部を有する不整な円形を呈するものと思われる。開口部は、南東側に見られ、開口部幅は160㎝、開口部の軸はＮ－２°－Ｅである。周溝の外径は、北東－南西で10.42m、内径は北東－南西で8.76mである。周溝の幅は60㎝～108㎝、周溝の深さは、５～62㎝である。

［主体部］確認していない。

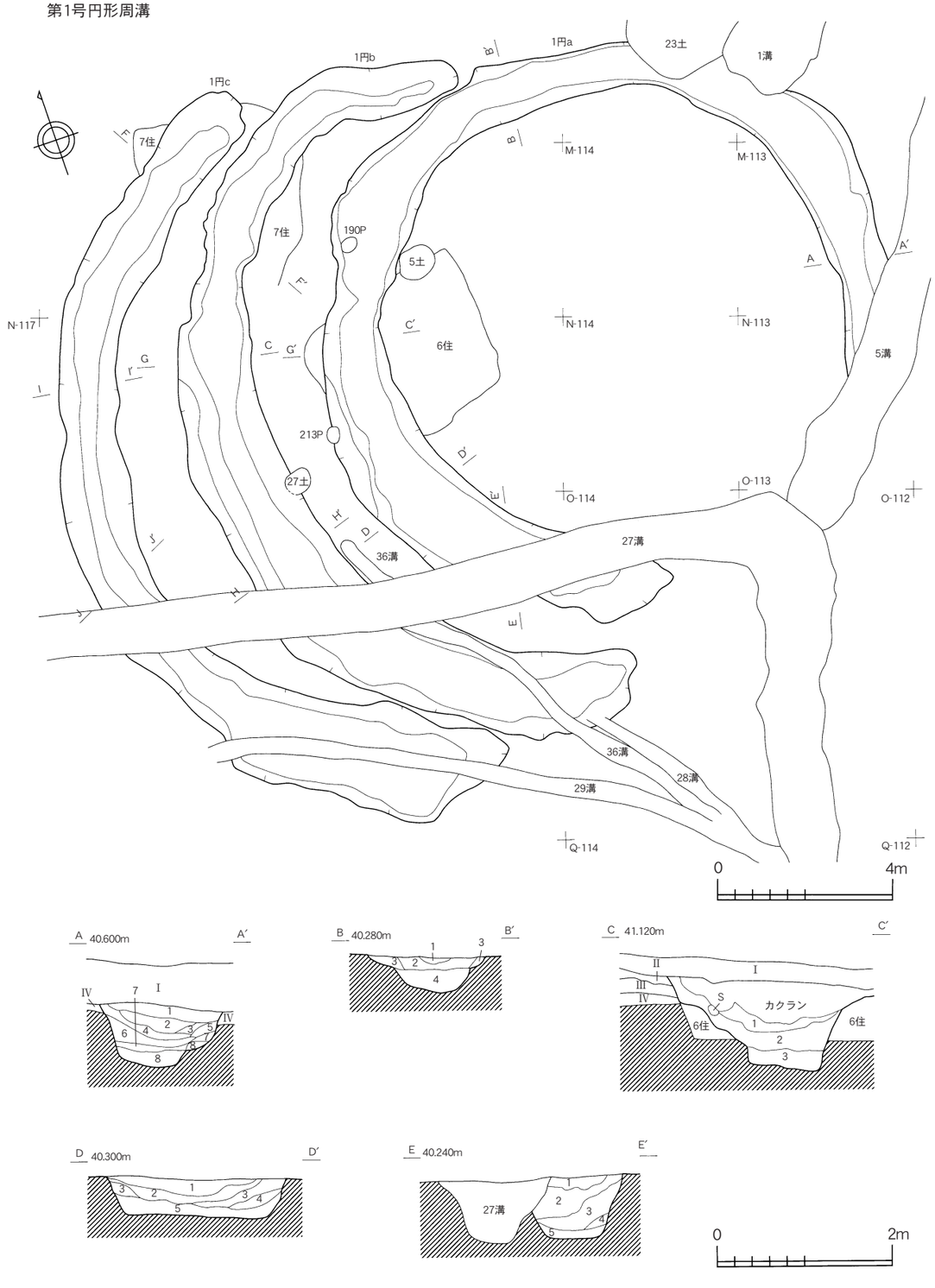
［壁・底］底面は埋め戻して整えられており、若干の起伏を有するが、おおむね平坦ないし中央部が低く湾曲している。壁は、全体として外側へ立ち上がるが、やや内側へ反るように湾曲している。

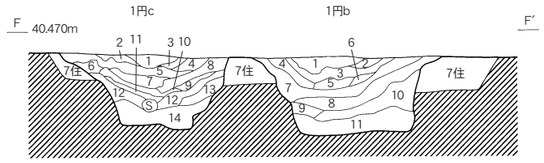
［覆土］２～６層に分層した。最下層は黄褐色土と黒褐色土の混合土で人為堆積と思われ、底面を埋め戻して平坦に整えたものと思われる。その他は黒色土、黒褐色土主体に堆積し、自然堆積と思われる。

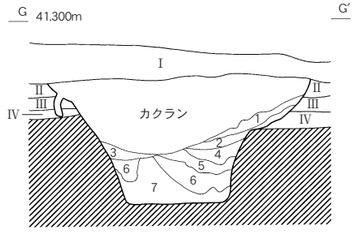
［出土遺物］土器は、覆土より須恵器（坏）（第66図64）、須恵器（壷）（第66図65）、土師器（坏）（第66図66～68）、土師器（甕）（第66図69、70）が出土している。石器は、覆土より不定形石器（第67図１）が１点、台石・石皿（第71図17）が１点出土している。石製品は、覆土より軽石石製品（第72図３）が１点出土している。鉄関連遺物は、覆土より羽口（第72図８～10）が３点、棒状鉄製品（第73図18）が１点出土している。

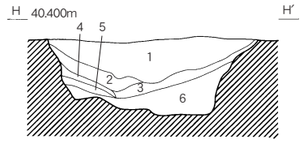
［時期］出土遺物よりおおむね９世紀末葉～10世紀前半の平安時代と思われる。

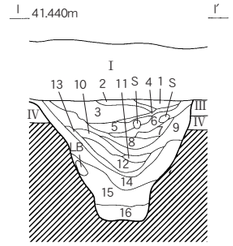
第1号円形周溝

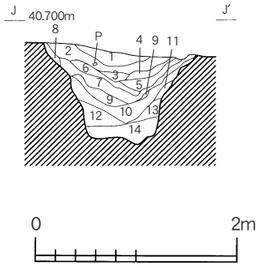












第1号円形周溝a　A-A′
第１層　黒 褐 色 土（10YR2/2）ローム粒微量、炭化粒微量
第２層　褐　色　土（10YR4/4）ローム
第３層　暗 褐 色 土（10YR3/4）ローム粒少量、炭化粒微量
第４層　暗 褐 色 土（10YR3/3）ローム粒少量、炭化粒少量
第５層　暗 褐 色 土（10YR3/4）ローム粒少量
第６層　黒 褐 色 土（10YR2/3）ローム粒微量
第７層　黒 褐 色 土（10YR2/3）ローム粒少量
第８層　暗 褐 色 土（10YR3/3）と黄褐色土（10YR5/6）の混合土

第1号円形周溝a　B-B′
第１層　黒 褐 色 土（10YR2/2）ローム粒中量、炭化粒微量
第２層　黒 褐 色 土（10YR2/2）ローム粒微量
第３層　暗 褐 色 土（10YR3/3）ローム粒少量、ロームブロック少量
第４層　暗 褐 色 土（10YR3/3）と黄褐色土（10YR5/6）の混合土

第1号円形周溝a　C-C′
第１層　暗 褐 色 土（10YR3/3）ローム粒少量、炭化粒微量
第２層　黒 褐 色 土（10YR2/3）ローム粒少量、炭化粒微量
第３層　黒 褐 色 土（10YR2/3）と黄褐色土（10YR5/6）の混合土

第1号円形周溝a　D-D′
第１層　黒 褐 色 土（10YR2/3）ローム粒少量
第２層　黒 褐 色 土（10YR2/2）ローム粒微量
第３層　黒 褐 色 土（10YR2/3）ローム粒少量
第４層　黒 褐 色 土（10YR2/3）ローム粒中量
第５層　黒 褐 色 土（10YR2/3）と黄褐色土（10YR5/6）の混合土

第1号円形周溝a　E-E′
第１層　暗 褐 色 土（10YR3/3）ローム粒少量
第２層　黒 褐 色 土（10YR2/2）ローム粒微量
第３層　暗 褐 色 土（10YR3/3）ローム粒少量
第４層　暗 褐 色 土（10YR3/3）ローム粒中量
第５層　暗 褐 色 土（10YR3/3）と黄褐色土（10YR5/6）の混合土

第1号円形周溝b　F-F′
第１層　にぶい黄褐色土（10YR4/3）ローム粒多量、ロームブロック多量
第２層　黒 褐 色 土（10YR2/3）ローム粒少量
第３層　黒 褐 色 土（10YR2/2）ローム粒少量、炭化粒少量
第４層　暗 褐 色 土（10YR3/3）ローム粒少量、ロームブロック少量、炭化粒微量
第５層　黒 褐 色 土（10YR2/3）ローム粒多量、ロームブロック多量
第６層　黒　色　土（10YR2/1）ローム粒少量
第７層　黒 褐 色 土（10YR2/3）ローム粒少量、ロームブロック少量、炭化粒微量
第８層　黒 褐 色 土（10YR2/2）ローム粒少量
第９層　黒 褐 色 土（10YR2/3）ローム粒少量、炭化粒微量
第10層　暗 褐 色 土（10YR3/4）ローム粒少量、ロームブロック少量、炭化粒微量
第11層　黒 褐 色 土（10YR2/2）ローム粒中量、ロームブロック中量

第1号円形周溝c　F-F′
第１層　黒 褐 色 土（10YR2/2）ローム粒少量
第２層　黒　色　土（10YR2/1）ローム粒微量
第３層　黒 褐 色 土（10YR2/2）ローム粒微量、炭化粒微量
第４層　黒 褐 色 土（10YR3/3）ローム粒少量
第５層　黒 褐 色 土（10YR2/2）ローム粒少量、ロームブロック微量、炭化粒少量
第６層　黒 褐 色 土（10YR2/3）ローム粒微量、炭化粒微量
第７層　黒 褐 色 土（10YR2/3）ローム粒少量、炭化粒微量
第８層　暗 褐 色 土（10YR3/4）ローム粒少量、炭化粒少量、炭化物微量
第９層　黒 褐 色 土（10YR3/3）ローム粒少量、炭化粒微量
第10層　黒　色　土（10YR2/1）ローム粒少量、炭化粒少量
第11層　黒 褐 色 土（10YR2/3）炭化粒微量、白頭山火山灰多量
第12層　暗 褐 色 土（10YR3/3）ローム粒少量、炭化粒微量
第13層　黒 褐 色 土（10YR2/3）ローム粒少量、炭化粒微量
第14層　黒 褐 色 土（10YR2/3）と黄褐色土（10YR5/6）の混合土

第1号円形周溝b　G-G′
第１層　黒 褐 色 土（10YR2/3）ローム粒少量、炭化粒微量
第２層　黒 褐 色 土（10YR2/2）ローム粒微量
第３層　暗 褐 色 土（10YR3/3）ローム粒中量、ロームブロック中量
第４層　黒 褐 色 土（10YR2/2）ローム粒少量
第５層　黒　色　土（10YR2/1）ローム粒少量
第６層　黒 褐 色 土（10YR2/2）ローム粒中量
第７層　黄 褐 色 土（10YR5/6）暗褐色土混入、ロームブロック多量

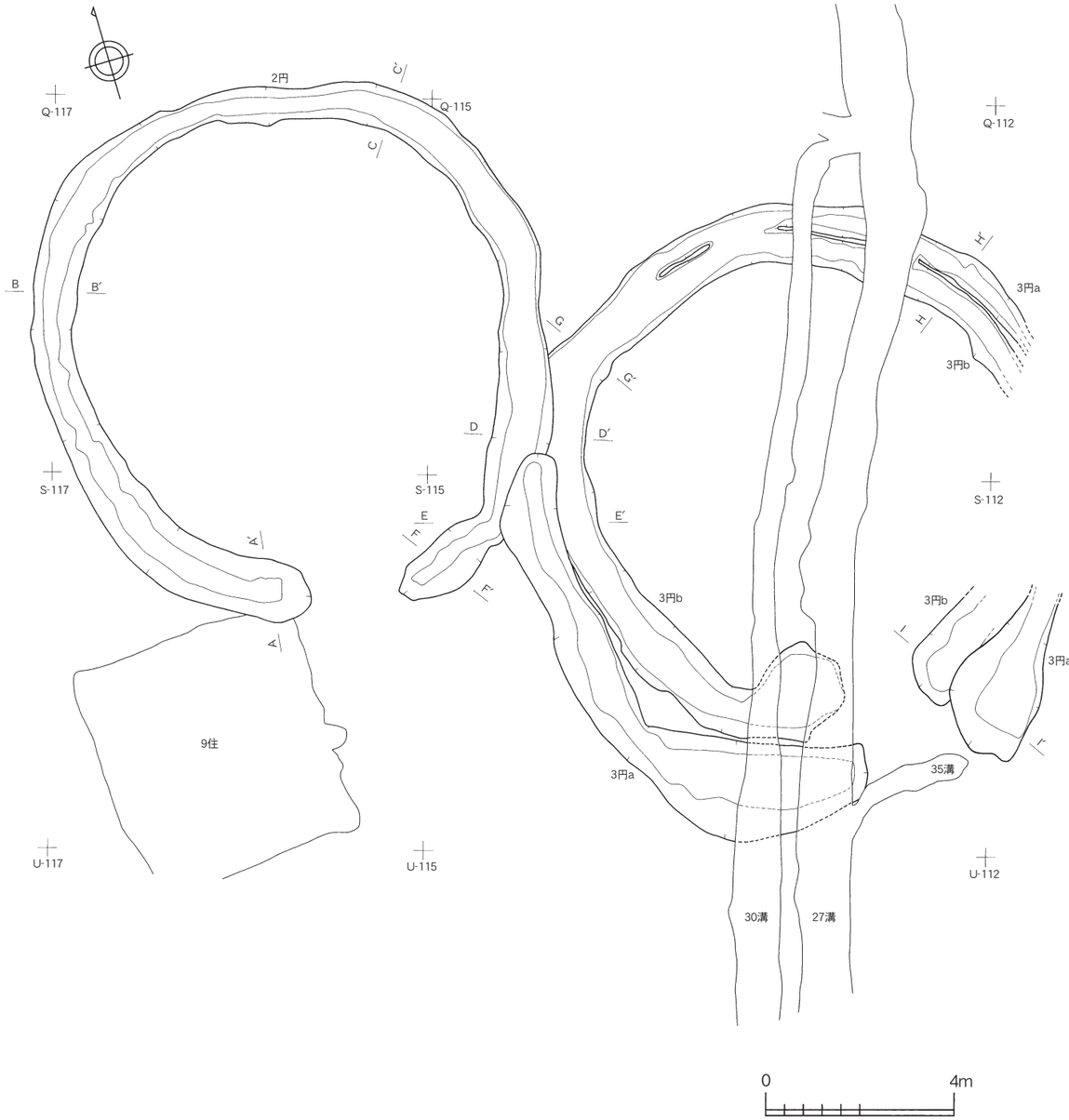
第1号円形周溝b　H-H′
第１層　黒 褐 色 土（10YR2/2）と黒褐色土（10YR2/3）の混合土
ローム粒微量、炭化粒微量
第２層　暗 褐 色 土（10YR3/3）ローム粒少量、炭化粒微量
第３層　黒 褐 色 土（10YR2/3）ローム粒少量、炭化粒微量
第４層　にぶい黄褐色土（10YR4/3）ローム粒少量、炭化粒微量
第５層　黒 褐 色 土（10YR2/3）ロームブロック少量
第６層　黒 褐 色 土（10YR2/3）と黄褐色土（10YR5/6）の混合土

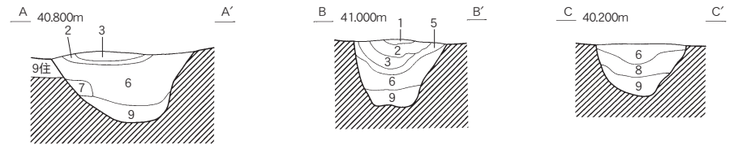
第1号円形周溝c　I-I′
第１層　黒　色　土（10YR2/1）ローム粒微量
第２層　暗 褐 色 土（10YR3/3）ローム粒少量
第３層　黒 褐 色 土（10YR2/2）ローム粒微量、炭化粒微量
第４層　暗 褐 色 土（10YR3/4）ローム粒少量
第５層　黒 褐 色 土（10YR2/3）ローム粒微量
第６層　暗 褐 色 土（10YR3/4）ローム粒微量
第７層　黒 褐 色 土（10YR2/2）ローム粒微量
第８層　黒 褐 色 土（10YR3/4）ローム粒少量、炭化粒微量
第９層　暗 褐 色 土（10YR3/3）ローム粒微量、炭化粒微量
第10層　黒 褐 色 土（10YR2/3）ローム粒微量、炭化粒微量
第11層　黒 褐 色 土（10YR2/2）ローム粒微量、炭化粒微量
第12層　黒 褐 色 土（10YR2/3）ローム粒微量、炭化粒微量
第13層　黄　褐　色（2.5Y5/4）　白頭山火山灰層
第14層　黒 褐 色 土（10YR2/2）ローム粒微量、炭化粒微量
第15層　黒 褐 色 土（10YR2/2）ローム粒中量、ロームブロック中量
第16層　黒 褐 色 土（10YR2/3）と黄褐色土（10YR5/6）の混合土

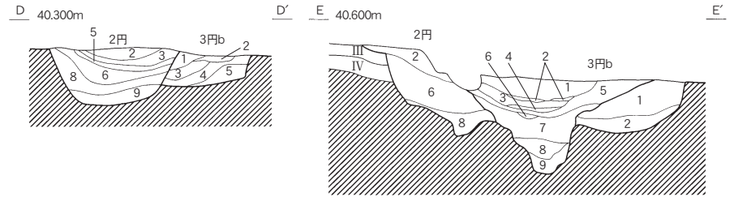
第1号円形周溝c　J-J′
第１層　黒 褐 色 土（10YR2/2）ローム粒微量、炭化物微量
第２層　黒　色　土（10YR2/1）ローム粒微量
第３層　黒 褐 色 土（10YR2/2）ローム粒微量、炭化粒微量
第４層　暗 褐 色 土（10YR3/3）ローム粒少量
第５層　暗 褐 色 土（10YR3/3）ローム粒微量、炭化粒微量
第６層　黒 褐 色 土（10YR2/2）ローム粒微量
第７層　黒 褐 色 土（10YR2/3）ローム粒少量、炭化粒微量
第８層　褐　色　土（10YR4/4）ロームブロック少量
第９層　黒 褐 色 土（10YR2/3）白頭山火山灰多量、ローム粒微量、炭化粒微量
第10層　黒 褐 色 土（10YR2/3）ローム粒少量、炭化粒微量
第11層　暗 褐 色 土（10YR3/4）ローム粒多量
第12層　黒 褐 色 土（10YR2/2）ローム粒少量、炭化粒微量
第13層　黒 褐 色 土（10YR2/3）ローム粒少量、炭化粒微量
第14層　暗 褐 色 土（10YR3/3）と褐色土（10YR4/4）の混合土

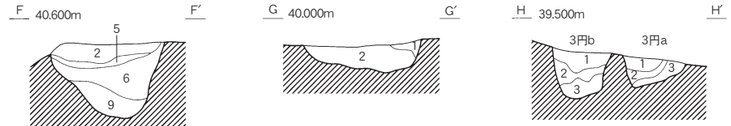
第61図　円形周溝（1）

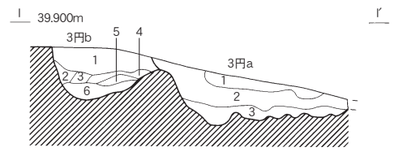
第2号円形周溝
第3号円形周溝











第2号円形周溝
第1層　黒　色　土（10YR1.7/1）ローム粒微量
第2層　黒褐色土（10YR2/3）ローム粒少量、炭化粒微量
第3層　黒褐色土（10YR3/1）ローム粒微量
第5層　にぶい黄褐色（10YR5/4）白頭山火山灰層
第6層　黒褐色土（10YR2/2）ローム粒少量
第7層　黒褐色土（10YR2/3）ローム粒少量
第8層　黒　色　土（10YR2/1）ローム粒微量
第9層　黒褐色土（10YR2/2）と黄褐色土（10YR5/6）の混合土

第3号円形周溝b　D-D′
第1層　暗褐色土（10YR3/3）ローム粒微量、炭化粒微量
第2層　黒褐色土（10YR3/2）
第3層　黒褐色土（10YR3/2）ロームブロック少量、炭化粒微量
第4層　黒褐色土（10YR2/2）ロームブロック少量
第5層　黒褐色土（10YR2/2）と黄褐色土（10YR5/6）の混合土
　　ローム粒多量

第3号円形周溝a　E-E′
第1層　黒褐色土（10YR2/2）ローム粒微量
第2層　暗褐色土（10YR3/3）ローム粒微量
第3層　黒褐色土（10YR2/2）ローム粒微量
第4層　黒　色　土（10YR2/1）ローム粒微量、炭化粒微量
第5層　黒褐色土（10YR2/3）ローム粒少量、炭化粒微量
第6層　黄褐色土（10YR5/6）ロームブロック多量
第7層　黒褐色土（10YR2/3）ローム粒少量、炭化物微量
第8層　黒褐色土（10YR2/3）と黄褐色土（10YR5/6）の混合土
　　ロームブロック中量
第9層　黒褐色土（10YR2/3）と黄褐色土（10YR5/6）の混合土
　　ロームブロック多量

第3号円形周溝b　E-E′
第1層　黒褐色土（10YR2/2）ローム粒微量
第2層　黒褐色土（10YR2/2）と黄褐色土（10YR5/6）の混合土

第3号円形周溝b　G-G′
第1層　黒　色　土（10YR2/1）ローム粒少量
第2層　黒褐色土（10YR2/2）と黄褐色土（10YR5/6）の混合土

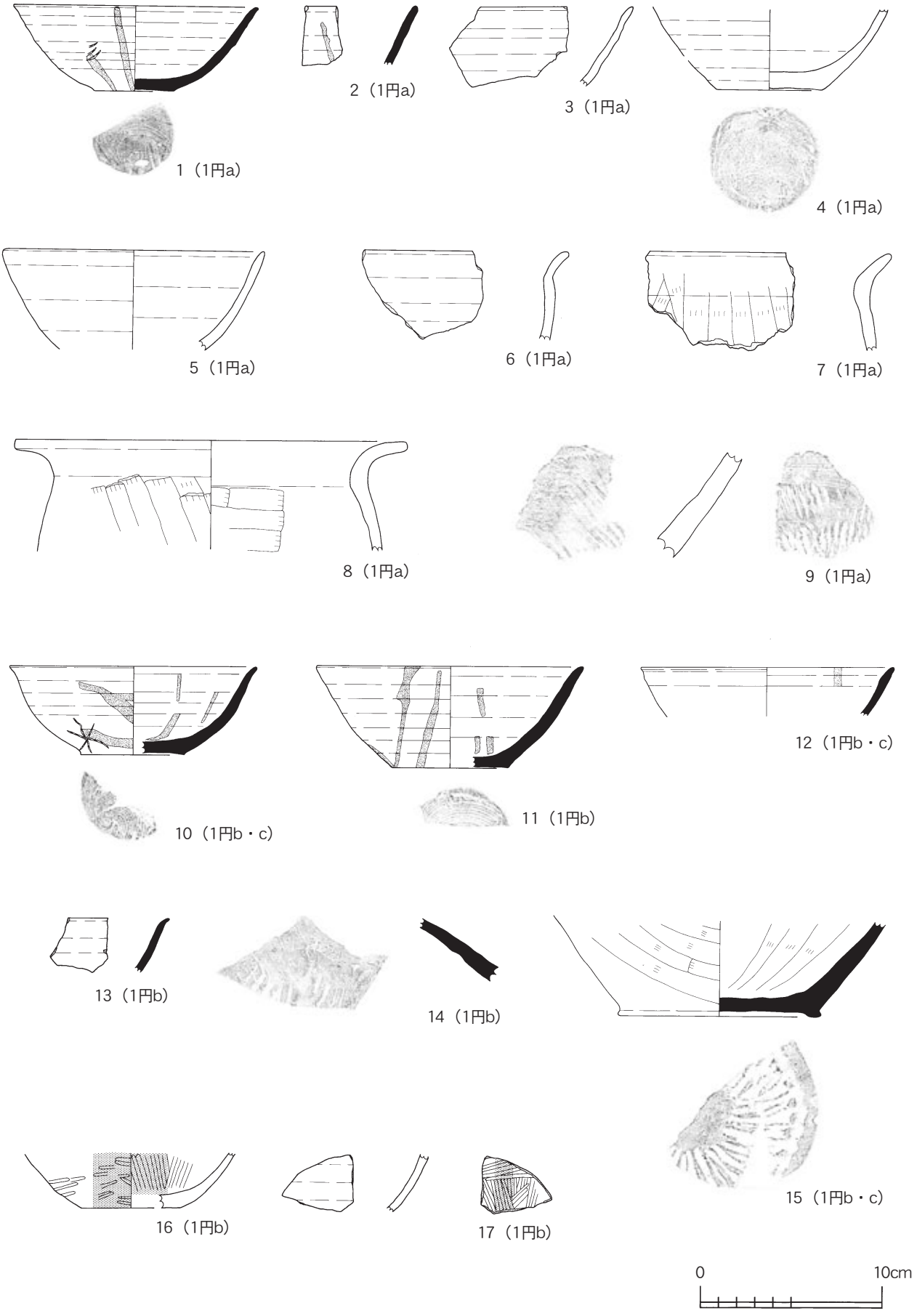
第3号円形周溝a　H-H′
第1層　黒褐色土（10YR2/2）ロームブロック中量
第2層　黒褐色土（10YR2/2）ローム粒少量
第3層　黒褐色土（10YR2/2）と黄褐色土（10YR5/6）の混合土

第3号円形周溝b　H-H′
第1層　黒褐色土（10YR2/2）ローム粒少量
第2層　黒　色　土（10YR2/1）ローム粒微量
第3層　黒褐色土（10YR2/2）と黄褐色土（10YR5/6）の混合土

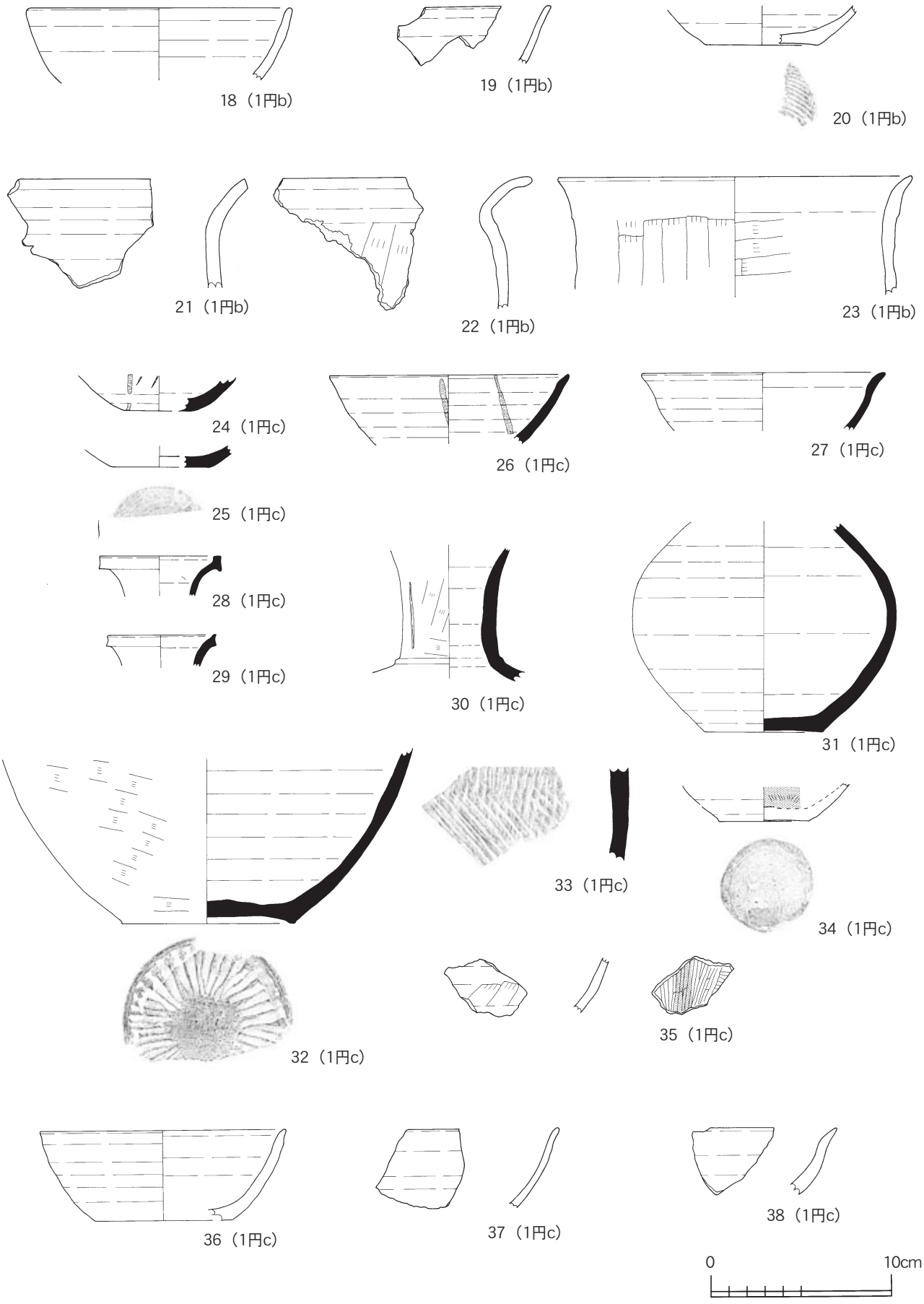
第3号円形周溝a　H′
第1層　黒　色　土（10YR2/1）
第2層　黒褐色土（10YR2/2）ローム粒少量
第3層　黄褐色土（10YR5/6）と黒褐色土（10YR2/2）の混合土

第3号円形周溝b　H′
第1層　黒褐色土（10YR2/2）ローム粒微量
第2層　黒　色　土（10YR2/1）ローム粒少量
第3層　黒褐色土（10YR2/2）ローム粒少量
第4層　黄褐色土（10YR5/6）ローム
第5層　黒　色　土（10YR2/1）
第6層　黄褐色土（10YR5/6）と黒褐色土（10YR2/2）の混合土

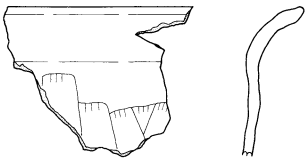
第62図　円形周溝（2）

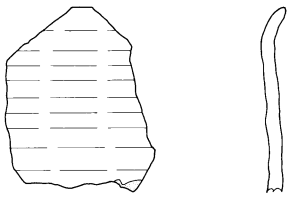


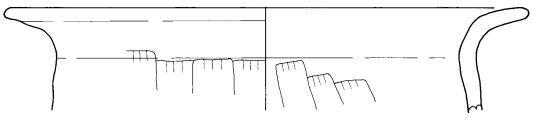
第63図　遺構内出土土器（円形周溝）(1)

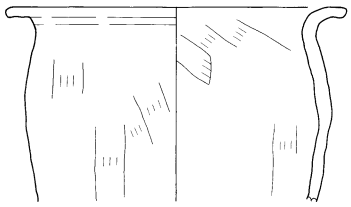


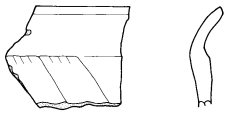
第64図　遺構内出土土器（円形周溝）(2)

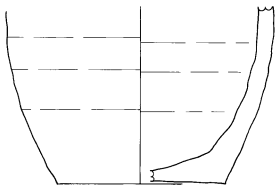

39（1円c）

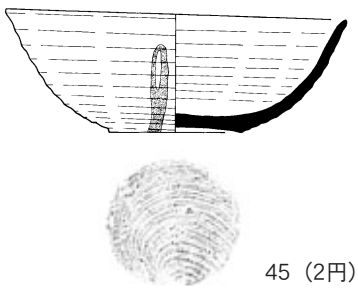

40（1円c）


41（1円c）

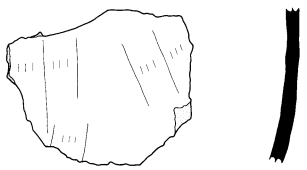

42（1円c）

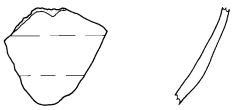

43（1円c）


44（1円c）

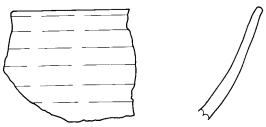

45（2円）

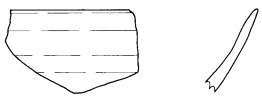
46（2円）

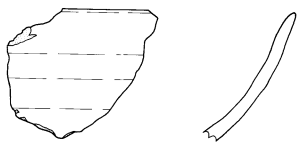

47（2円）

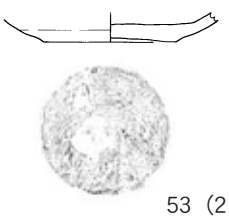

48（2円）

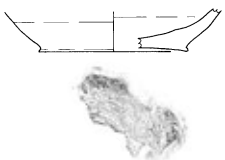
49（2円）


50（2円）

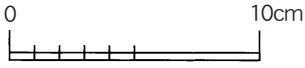

51（2円）


52（2円）

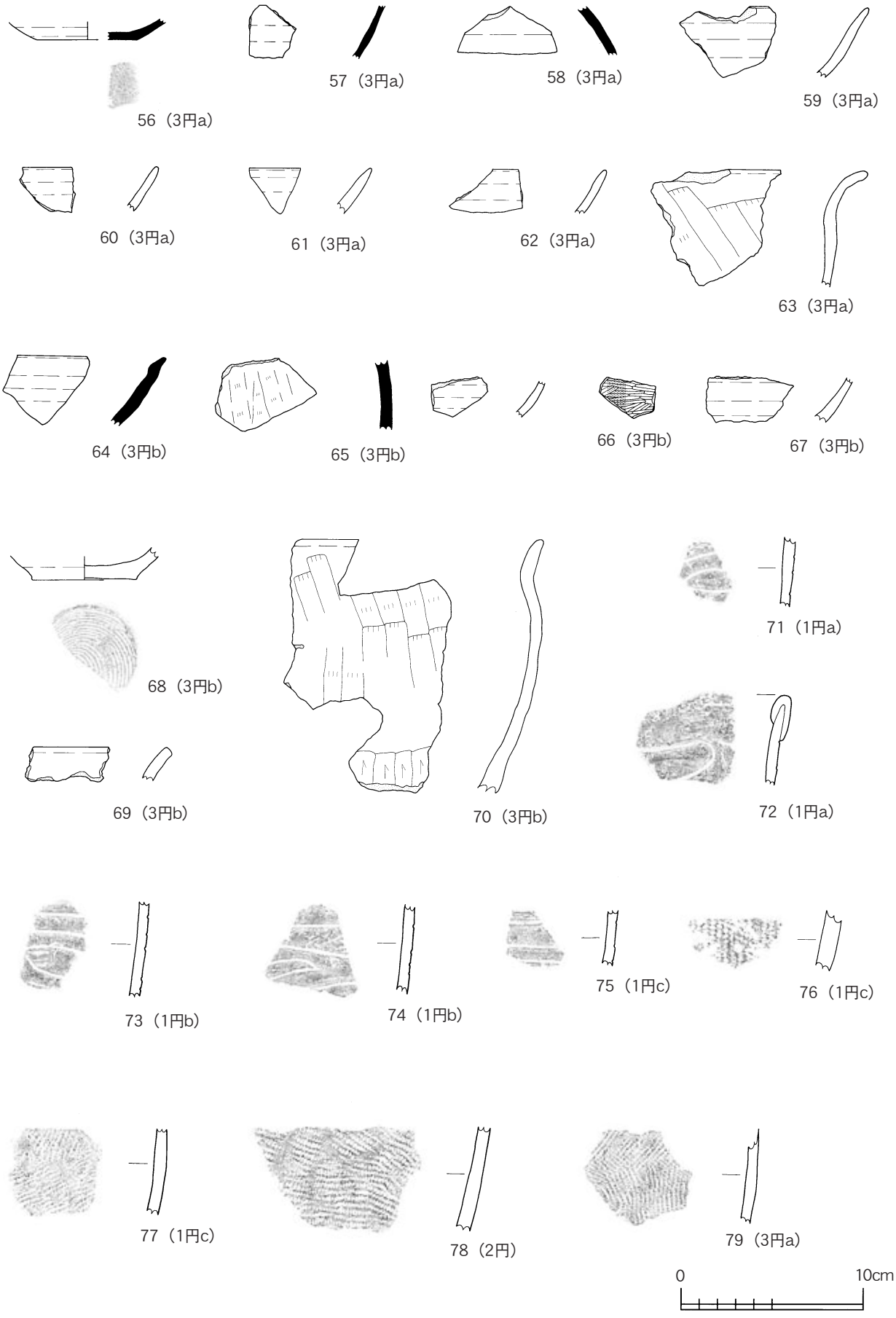

53（2円）


54（2円）

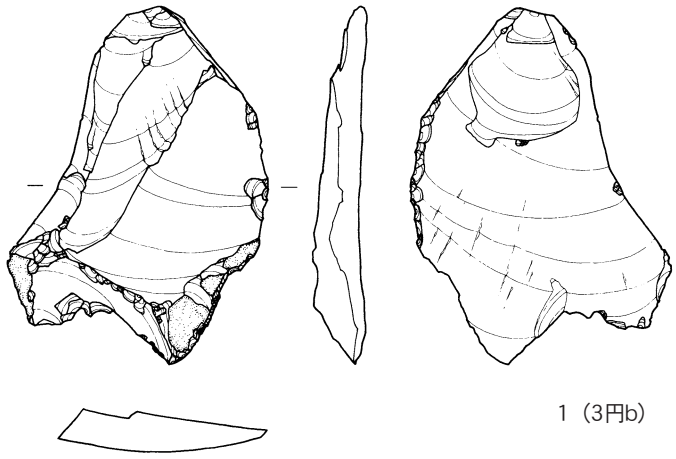
55（2円）



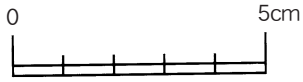
第65図　遺構内出土土器（円形周溝）(3)

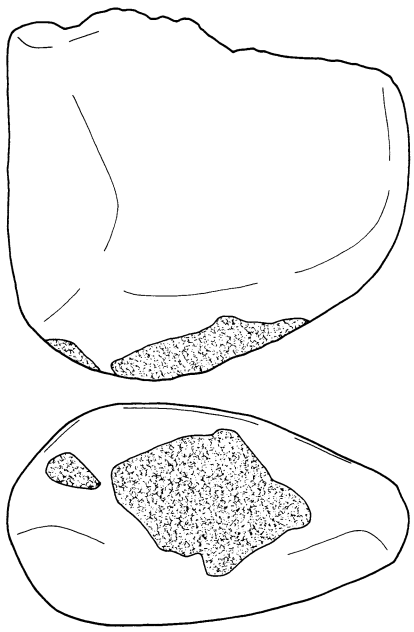


第66図　遺構内出土土器（円形周溝）(4)

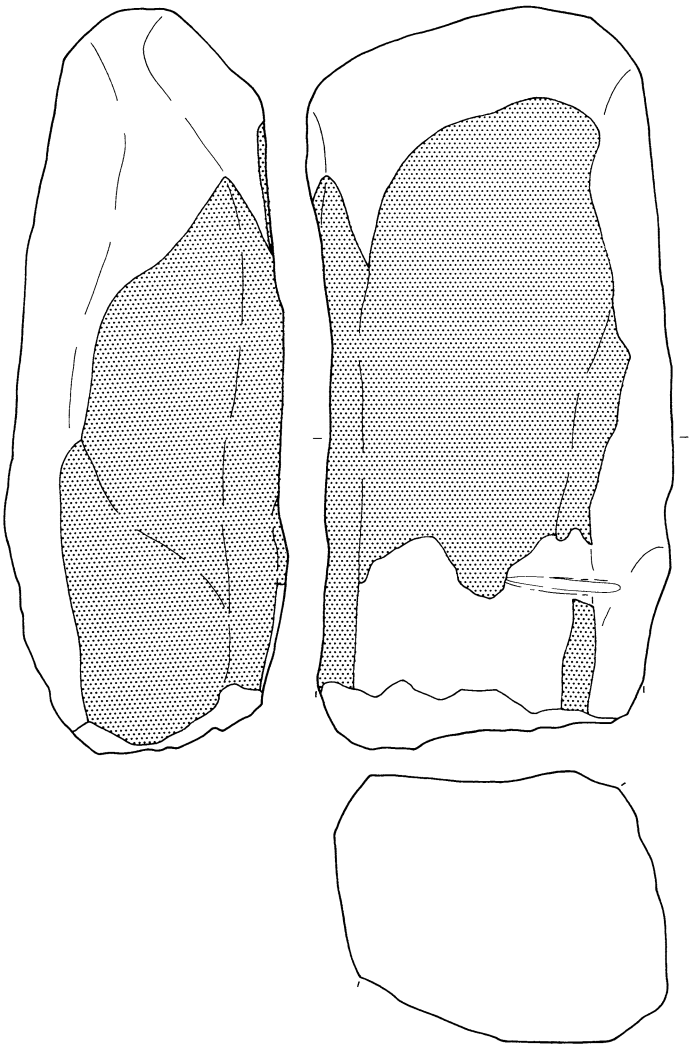


1（3円b）

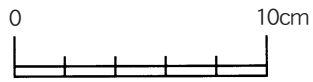




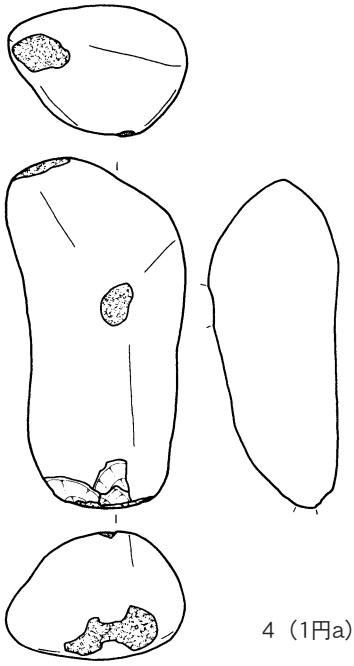
2（1円a）



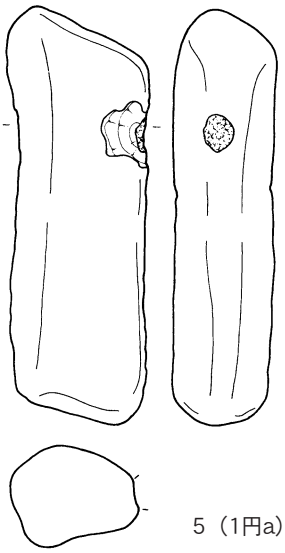
3（1円a）



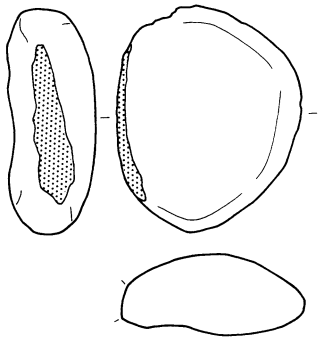
第67図　遺構内出土石器（円形周溝）（1）



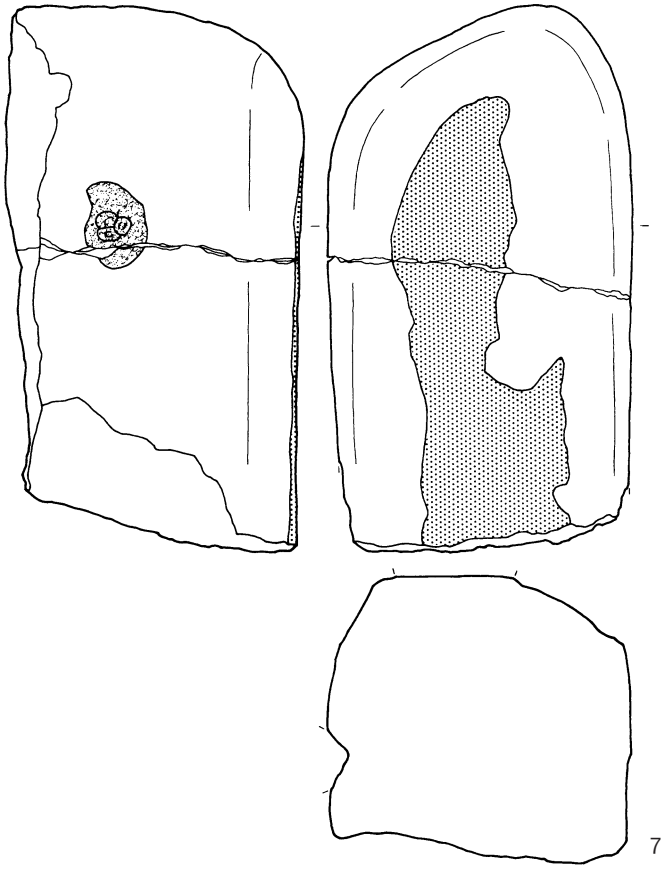
4（1円a）



5（1円a）

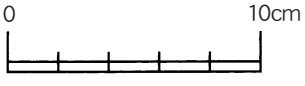


6（1円b）

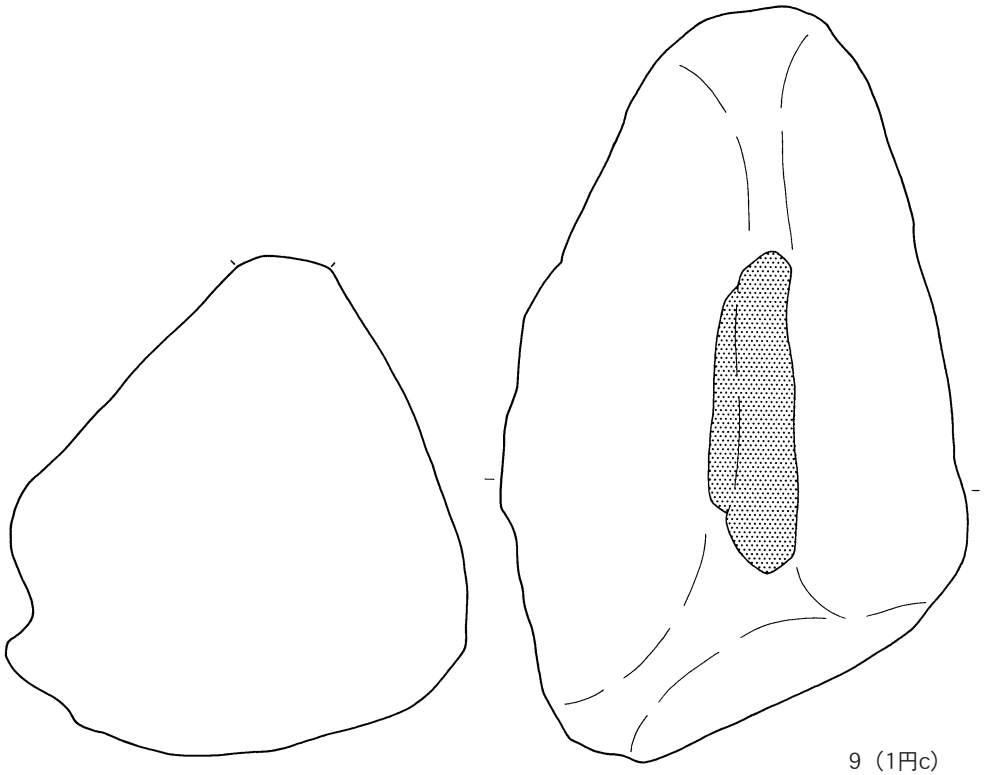


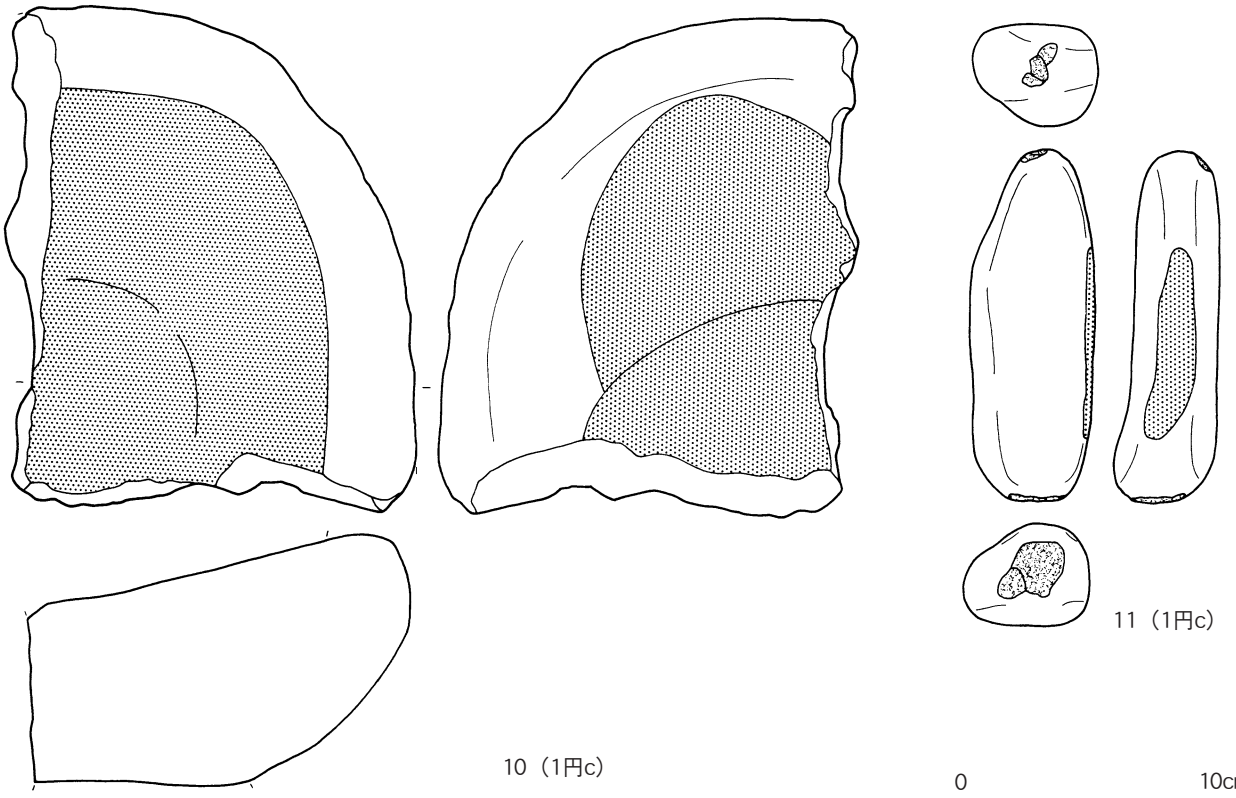
7（1円c・O-115）

8（1円c）

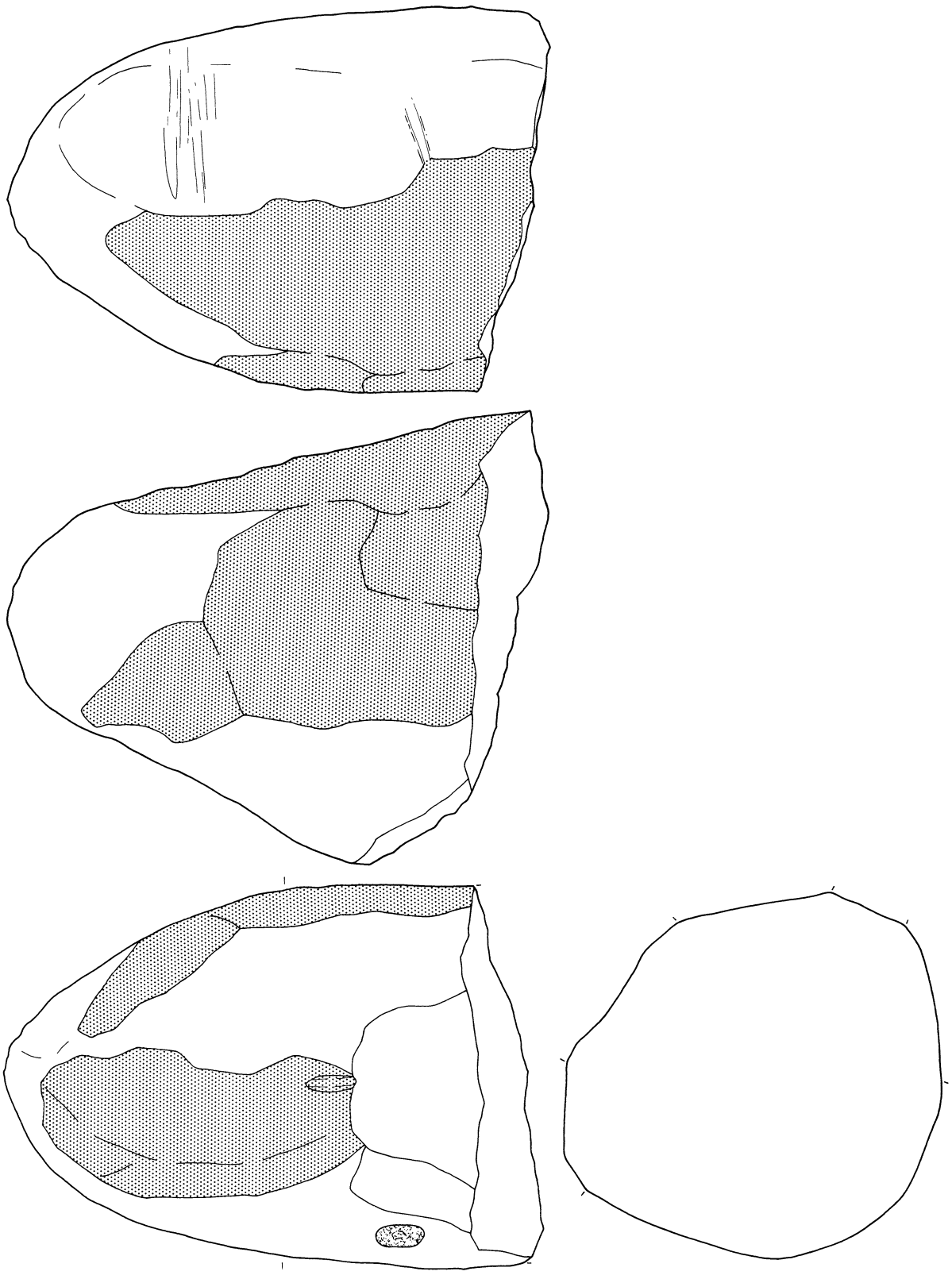


第68図　遺構内出土石器（円形周溝）(2)

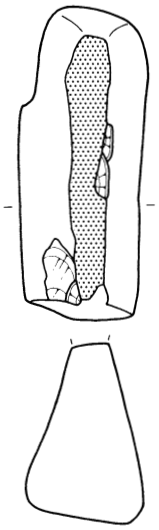




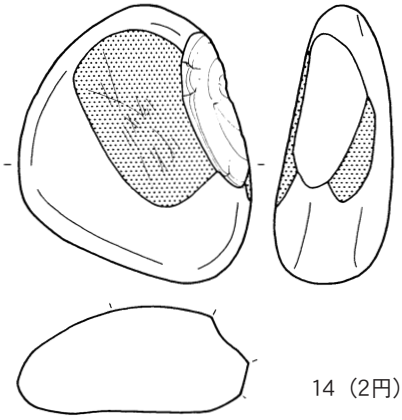
第69図　遺構内出土石器（円形周溝）(3)



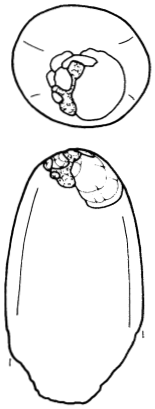
第70図　遺構内出土石器（円形周溝）(4)



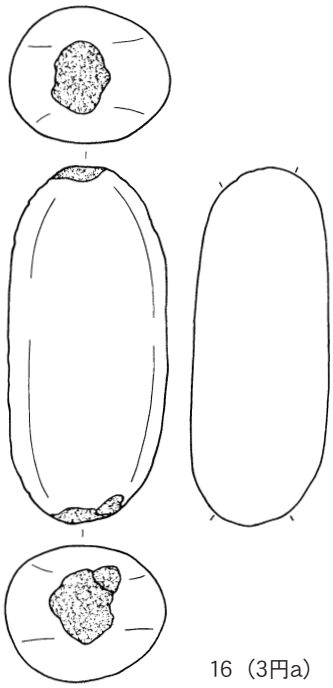
13（2円）



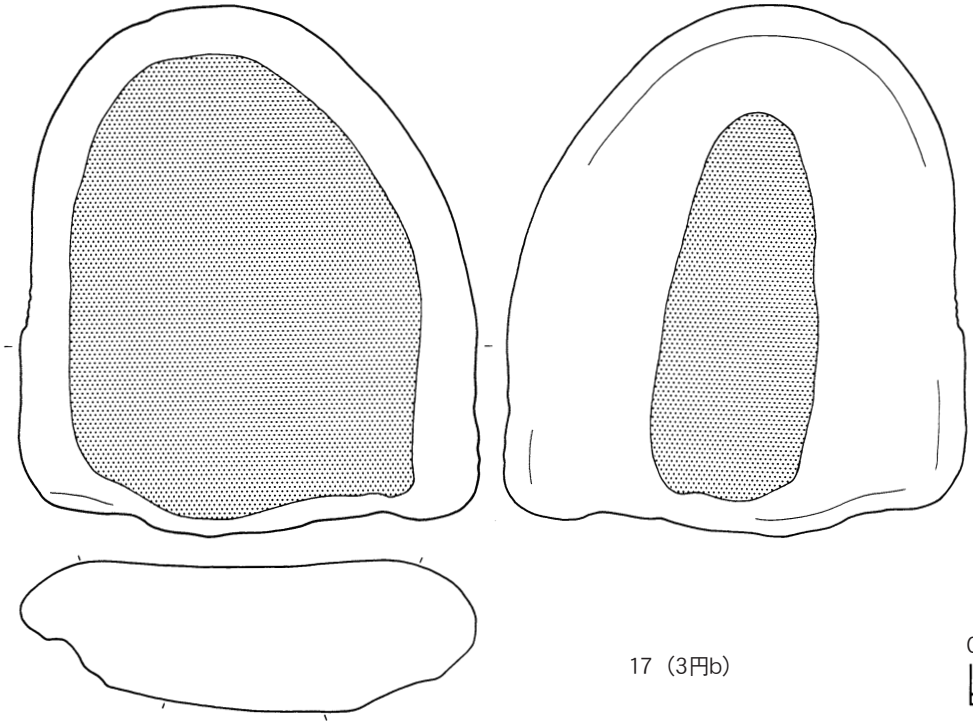
14（2円）



15（3円a）



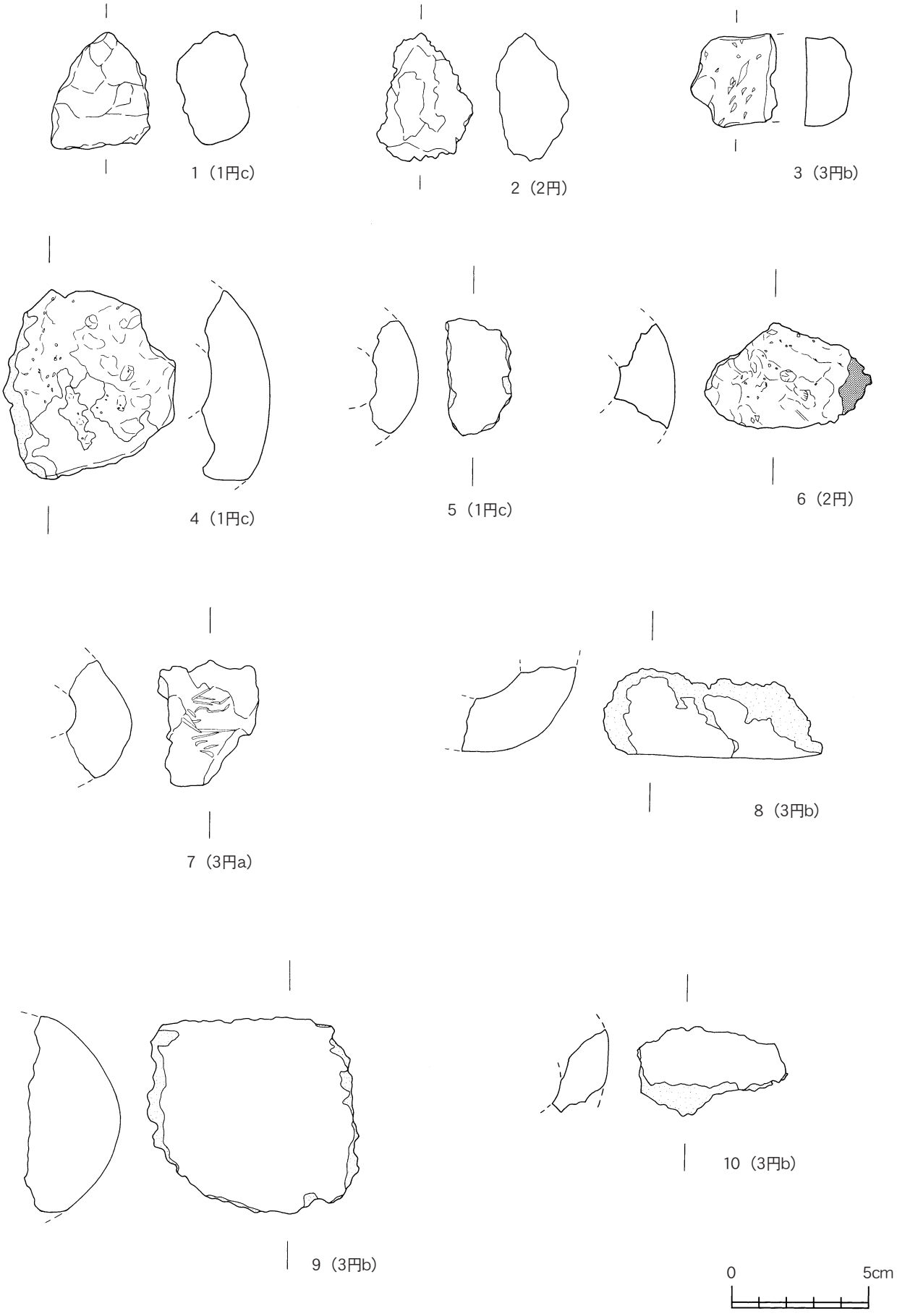
16（3円a）



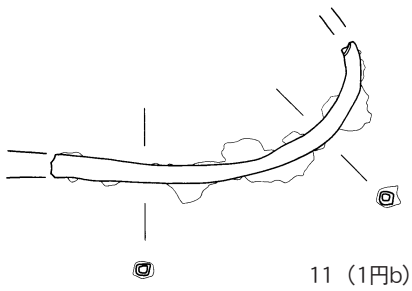
17（3円b）

0　10cm

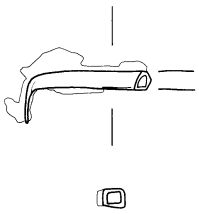
第71図　遺構内出土石器（円形周溝）(5)



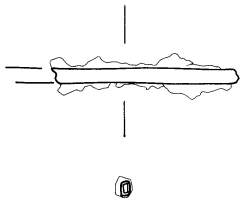
第72図　遺構内出土土製品・石製品・鉄関連遺物（円形周溝）



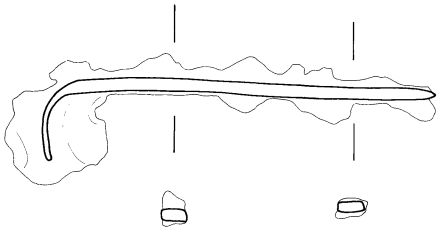
11（1円b）



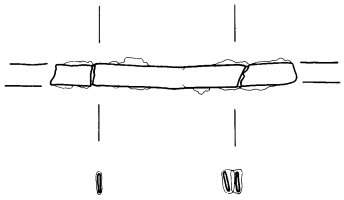
12（1円c）



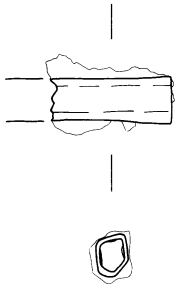
13（1円c）



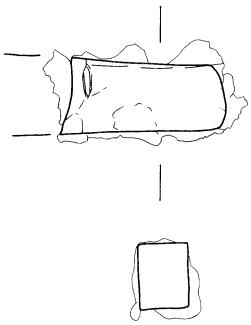
14（1円c）



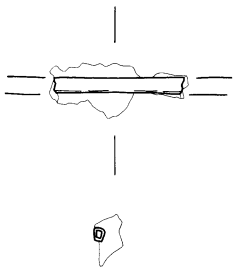
15（2円）



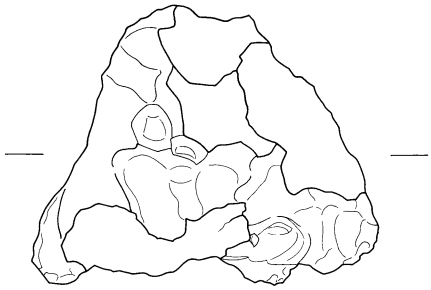
16（2円）



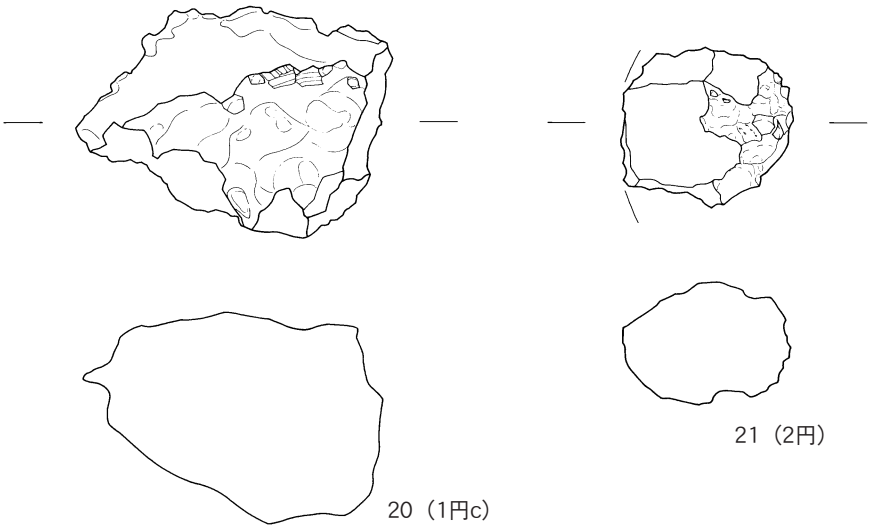
17（2円）



18（3円b）



19（1円b）



20（1円c）

21（2円）

0　5cm

第73図　遺構内出土鉄関連遺物（円形周溝）

７．溝跡

第１号溝跡（第74図）

［位置・確認層］Ｌ－111、112、Ｍ－112、113グリッドに位置する。第Ⅳ層において確認した。

［重複］第２号竪穴住居跡、第22号土坑、第23号土坑、第２号溝状土坑、第５号溝跡と重複し、本遺構が新しい。

［平面形・規模］やや弧状を呈する。規模は、長さ19.27m、幅78～195㎝、深さ10～77㎝である。長軸方向はＮ－70°－Ｅ前後である。

［壁・底］壁は、外側へ直線的に立ち上がり、上部で外側へ屈曲する。底面は、ほぼ平坦である。底面比高差は６㎝で北東側が高い。

［覆土］15層に分層した。黒褐色土、暗褐色土主体に堆積する。自然堆積と思われる。

［出土遺物］土器は、覆土より須恵器（坏）（第80図１）、土師器（坏）（第80図２～４）、土師器（甕）（第80図５、６）が出土している。

［時期］遺構間の重複関係や出土遺物から平安時代ないし平安時代以降と思われる。

第５号溝跡（第74図）

［位置・確認層］Ｋ～Ｎ－111、Ｏ－112グリッドに位置する。第Ⅳ層において確認した。

［重複］第２号竪穴住居跡、第１号円形周溝ａ、第１号溝跡、第27号溝跡と重複し、本遺構は、第１号溝跡、第27号溝跡より古く、第２号竪穴住居跡、第１号円形周溝ａより新しい。

［平面形・規模］調査区端に位置し、また重複のため全容は不明であるが、残存部はやや弧状がかる直線状を呈する。規模は、長さ7.51m、幅82～156㎝、深さ35～66㎝である。長軸方向はＮ－26°－Ｅ前後である。

［壁・底］壁は、外側へ直線的に立ち上がる。底面は、ほぼ平坦である。底面比高差は８㎝で南側が高い。

［覆土］９層に分層した。黒褐色土、暗褐色土主体に堆積する。自然堆積と思われる。

［出土遺物］土器は、覆土より須恵器（坏）（第80図７）、須恵器（甕）（第80図10）、須恵器（壷）（第80図８、９）、土師器（坏）（第80図11）が出土している。石器は、覆土より敲磨器（第83図１、２）が３点出土している。鉄関連遺物は、覆土より椀形鍛冶滓（第85図９）が出土している。

［時期］遺構間の重複関係や出土遺物から平安時代ないし平安時代以降と思われる。

第６号溝跡（第75図）

［位置・確認層］Ｌ－92、Ｍ－92～96、Ｍ・Ｎ－97、98、Ｎ－100～104グリッドに位置する。第Ⅳ層において確認した。

［重複］第21号溝跡、第276号柱穴状ピットと重複し、本遺構は、第276号柱穴状ピットより古く、第21号溝跡より新しい。

［平面形・規模］削平により全容は不明であるが、残存部はほぼ直線状に伸びる。規模は、長さ49.19m、幅60～140㎝、深さ７～32㎝である。長軸方向はＮ－81°－Ｅ前後である。

［壁・底］壁は外側へ緩やかに立ち上がる。底面は、ほぼ平坦である。底面比高差は85㎝で西側が高い。

［覆土］２層に分層した。黒色土、黒褐色土が堆積する。自然堆積と思われる。

［出土遺物］土器は、覆土より須恵器（壷）（第80図12、13）、土師器（甕）（第80図14）が出土している。
［時期］出土遺物から平安時代ないし平安時代以降と思われる。

第７号溝跡（第75図）
［位置・確認層］Ｏ－92～96、Ｐ－96～102グリッドに位置する。第Ⅳ層において確認した。
［重複］第21号溝跡、第22号溝跡と重複し、本遺構が新しい。
［平面形・規模］削平により全容は不明であるが、残存部はほぼ直線状に伸びる。規模は、長さ39.68m、幅50～80㎝、深さ９～36㎝である。長軸方向はＮ－83°－Ｅ前後である。
［壁・底］壁は、外側へ直線的に立ち上がる。底面は、ほぼ平坦である。底面比高差は54㎝で西側が高い。
［覆土］４層に分層した。黒色土、黒褐色土が堆積する。自然堆積と思われる。
［出土遺物］なし。
［時期］遺構間の重複関係から平安時代ないし平安時代以降と思われる。

第８号溝跡（第75図）
［位置・確認層］Ｐ－93、94グリッドに位置する。第Ⅳ層において確認した。
［重複］なし。
［平面形・規模］ほぼ直線状に伸びる。規模は、長さ6.53m、幅36～48㎝、深さ3～13㎝である。長軸方向はＮ－73°－Ｅ前後である。
［壁・底］壁は、外側へ緩やかに立ち上がる。底面は、やや湾曲して中央部がくぼんでいる。底面比高差は10㎝で南東側が高い。
［覆土］黒色土が堆積する。自然堆積と思われる。
［出土遺物］土器は、覆土より土師器（甕）（第80図15）が出土している。
［時期］出土遺物から平安時代ないし平安時代以降と思われる。

第９号溝跡（第75図）
［位置・確認層］Ｑ－101、102グリッドに位置する。第Ⅳ層において確認した。
［重複］なし。
［平面形・規模］ほぼ直線状に伸びる。規模は、長さ3.26m、幅80～100㎝、深さ５～14㎝である。長軸方向はＮ－88°－Ｅ前後である。
［壁・底］壁は、外側へ緩やかに立ち上がる。底面は、ほぼ平坦であるが南側から北側へ若干の傾斜が見られる。底面比高差は１㎝で南東側がやや高い。
［覆土］２層に分層した。黒色土、黒褐色土が堆積する。自然堆積と思われる。
［出土遺物］なし。
［時期］不明である。

第10号溝跡（第76図）
［位置・確認層］Ｐ－94、95、Ｑ－94～96グリッドに位置する。第Ⅴ層において確認した。

［重複］第11号溝跡、第13号溝跡と重複し、本遺構は、第11号溝跡より古く、第13号溝跡より新しい。
［平面形・規模］削平により全容は不明であるが、残存部は半円に近い弧状を呈する。規模は、長さ15.30m、幅40～60cm、深さ４～31cmである。
［壁・底］壁は、外側へ緩やかに立ち上がる。底面は、やや湾曲して中央部がくぼんでいる。底面比高差は19cmで西側が高い。
［覆土］４層に分層した。黒色土、黒褐色土が堆積する。自然堆積と思われる。
［出土遺物］石製品は、覆土より五輪塔の空、風輪（第84図３）が出土している。
［時期］出土遺物から中世ないし中世以降と思われる。

第11号溝跡（第76図）
［位置・確認層］Ｐ－94、Ｑ－94～96グリッドに位置する。第Ⅴ層において確認した。
［重複］第10号溝跡、第13号溝跡、第20号柱穴状ピットと重複し、本遺構は、第20号柱穴状ピットより古く、第10号溝跡、第13号溝跡より新しい。
［平面形・規模］削平により全容は不明であるが、残存部は半円に近い弧状を呈する。規模は、長さ15.58m、幅40～70cm、深さ３～20cmである。
［壁・底］壁は、外側へ緩やかに立ち上がる。底面は、やや湾曲して中央部がくぼんでいる。底面比高差は20cmで西側が高い。
［覆土］黒色土、黒褐色土が堆積する。自然堆積と思われる。
［出土遺物］なし。
［時期］遺構間の重複関係から中世ないし中世以降と思われる。

第12号溝跡（第76図）
［位置・確認層］Ｑ－94、96、Ｒ－94～96グリッドに位置する。第Ⅴ層において確認した。
［重複］第13号溝跡、第２号井戸跡、第107号柱穴状ピット、第108号柱穴状ピットと重複し、本遺構は、第２号井戸跡、第107号柱穴状ピットより古く、第13号溝跡、第108号柱穴状ピットより新しい。
［平面形・規模］削平により全容は不明であるが、残存部は半円に近い弧状を呈する。規模は、長さ14.34m、幅40～100cm、深さ３～40cmである。
［壁・底］壁は、外側へ緩やかに立ち上がる。底面は、やや湾曲して中央部がくぼんでいる。底面比高差は11cmで西側が高い。
［覆土］４層に分層した。黒色土、黒褐色土主体に堆積する。自然堆積と思われる。
［出土遺物］土器は、覆土より土師器（甕）（第80図16）が出土している。
［時期］出土遺物から平安時代ないし平安時代以降と思われるが、第10号溝、第11号溝跡との位置関係からは、中世ないし、中世以降とも思われる。

第13号溝跡（第76図）
［位置・確認層］Ｐ～Ｒ－95グリッドに位置する。第Ⅴ層において確認した。
［重複］第10号溝跡、第11号溝跡、第12号溝跡と重複し、本遺構が古い。
［平面形・規模］削平により全容は不明であるが、残存部はやや弧状を呈する。規模は、長さ10.04m、

幅38～46㎝、深さ２～11㎝である。長軸方向はＮ－19°－Ｅ前後である。
［壁・底］壁は、外側へ緩やかに立ち上がる。底面は、やや湾曲して中央部がくぼんでいる。底面比高差は７㎝で南側が高い。
［覆土］黒色土が堆積する。自然堆積と思われる。
［出土遺物］なし。
［時期］遺構間の重複関係から中世ないし中世以前と思われる。

第14号溝跡（第76図）
［位置・確認層］Ｕ－98、99グリッドに位置する。第Ⅳ層において確認した。
［重複］なし。
［平面形・規模］弧状を呈する。規模は、長さ6.59ｍ、幅20～40㎝、深さ５～17㎝である。
［壁・底］壁は、外側へ緩やかに立ち上がる。底面は、やや湾曲して中央部がくぼんでいる。底面比高差は５㎝で東側が高い。
［覆土］黒色土が堆積する。自然堆積と思われる。
［出土遺物］なし。
［時期］不明である。

第15号溝跡（第76図）
［位置・確認層］Ｎ・Ｏ－116グリッドに位置する。第Ⅴ層において確認した。
［重複］なし。
［平面形・規模］ほぼ直線状に伸びる。規模は、長さ1.66ｍ、幅26～30㎝、深さ５～10㎝である。長軸方向はＮ－24°－Ｅ前後である。
［壁・底］壁は、外側へ緩やかに立ち上がる。底面は、やや湾曲して中央部がくぼんでいる。底面比高差は５㎝で中央部が高い。
［覆土］黒褐色土が堆積する。自然堆積と思われる。
［出土遺物］なし。
［時期］不明である。

第16号溝跡（第77図）
［位置・確認層］Ｎ－90、91、Ｏ～Ｑ－90、Ｑ・Ｒ－89グリッドに位置する。第Ⅴ層において確認した。
［重複］第６号土坑、第17号溝跡、第18号溝跡と重複し、本遺構は、第18号溝跡より古く、第６号土坑、第17号溝跡より新しい。
［平面形・規模］削平により全容は不明であるが、残存部はほぼ直線状に伸びる。規模は、長さ20.05ｍ、幅30～56㎝、深さ５～21㎝である。長軸方向はＮ－３°－Ｗ前後である。
［壁・底］壁は、外側へ直線的に立ち上がる。底面は、ほぼ平坦である。底面比高差は34㎝で南側が高い。
［覆土］黒褐色土が堆積する。自然堆積と思われる。
［出土遺物］なし。

［時期］遺構間の重複関係から平安時代ないし平安時代以降と思われる。

第17号溝跡（第77図）

［位置・確認層］Ｎ～Ｐ－90、Ｎ・Ｏ－91グリッドに位置する。第Ⅴ層において確認した。

［重複］第５号竪穴住居跡、第16号溝跡、第18号溝跡と重複し、本遺構は、第16号溝跡、第18号溝跡より古く、第５号竪穴住居跡より新しい。

［平面形・規模］削平により全容は不明であるが、残存部はほぼ直線状に伸びる。規模は、長さ9.55m、幅50～100㎝、深さ7～31㎝である。長軸方向はＮ－２°－Ｅ前後である。

［壁・底］壁は、外側へ緩やかに立ち上がる。底面は、やや湾曲して中央部がくぼんでいる。底面比高差は27㎝で南側が高い。

［覆土］黒褐色土が堆積する。自然堆積と思われる。

［出土遺物］なし。

［時期］遺構間の重複関係から平安時代ないし平安時代以降と思われる。

第18号溝跡（第77図）

［位置・確認層］Ｎ－90、Ｏ－90、91グリッドに位置する。第Ⅴ層において確認した。

［重複］第５号竪穴住居跡、第16号溝跡、第17号溝跡、第191号柱穴状ピットと重複し、本遺構は、第191号柱穴状ピットより古く、第５号竪穴住居跡、第16号溝跡、第17号溝跡より新しい。

［平面形・規模］ほぼ直線状に伸びる。規模は、長さ3.06m、幅90～100㎝、深さ19～52㎝である。長軸方向はＮ－83°－Ｗ前後である。

［壁・底］壁は、外側へ直線的に立ち上がる。底面は、ほぼ平坦である。底面比高差は10㎝で西側が高い。

［覆土］黒色土が堆積する。自然堆積と思われる。

［出土遺物］なし。

［時期］遺構間の重複関係から平安時代ないし平安時代以降と思われる。

第19号溝跡（第77図）

［位置・確認層］Ｏ・Ｐ－91、92、Ｑ－91グリッドに位置する。第Ⅴ層において確認した。

［重複］第５号竪穴住居跡と重複し、本遺構が新しい。

［平面形・規模］ほぼ直線状に伸びるが両端部は屈曲し弧状を呈する。規模は、長さ11.71m、幅50～90㎝、深さ７～66㎝である。長軸方向はＮ－10°－Ｗ前後である。

［壁・底］壁は、外側へ直線的に立ち上がる。底面は、ほぼ平坦である。底面比高差は51㎝で南側が高い。

［覆土］黒色土、黒褐色土が堆積する。自然堆積と思われる。

［出土遺物］土器は、覆土より土師器（甕）（第80図17）、縄文土器（第82図46）が出土している。石製品は、覆土より五輪塔の空、風輪（第84図４）が出土している。

［時期］出土遺物から中世ないし中世以降と思われる。

第20号溝跡（第77図）

［位置・確認層］Ｐ・Ｑ－92グリッドに位置する。第Ⅴ層において確認した。

［重複］なし。

［平面形・規模］削平により全容は不明であるが、残存部はほぼ直線状に伸びる。規模は、長さ4.95m、幅70～85㎝、深さ５～14㎝である。長軸方向はＮ－20°－Ｅ前後である。

［壁・底］壁は、外側へ緩やかに立ち上がる。底面は、ほぼ平坦である。底面比高差は２㎝で南側が高い。

［覆土］黒色土が堆積する。自然堆積と思われる。

［出土遺物］なし。

［時期］不明である。

第21号溝跡（第77図）

［位置・確認層］Ｍ～Ｏ－92グリッドに位置する。第Ⅴ層において確認した。

［重複］第６号溝跡、第７号溝跡、第３号井戸跡と重複し、本遺構が古い。

［平面形・規模］重複により全容は不明であるが、残存部はほぼ直線状に伸びる。規模は、長さ10.59m、幅40～80㎝、深さ３～18㎝である。長軸方向はＮ－25°－Ｅ前後である。

［壁・底］壁は、外側へ緩やかに立ち上がる。底面は、ほぼ平坦である。底面比高差は57㎝で南側が高い。

［覆土］黒褐色土が堆積する。自然堆積と思われる。

［出土遺物］なし。

［時期］不明である。

第22号溝跡（第77図）

［位置・確認層］Ｎ・Ｏ－93グリッドに位置する。第Ⅴ層において確認した。

［重複］第３号竪穴住居跡、第７号溝跡と重複し、本遺構は第７号溝跡より古く、第３号竪穴住居跡より新しい。

［平面形・規模］重複により全容は不明であるが、残存部は弧状を呈する。規模は、長さ4.16m、幅30～62㎝、深さ３～11㎝である。長軸方向はＮ－1°－Ｅ前後である。

［壁・底］壁は、外側へ緩やかに立ち上がる。底面は、ほぼ平坦である。底面比高差は２㎝で北側が高い。

［覆土］黒褐色土が堆積する。自然堆積と思われる。

［出土遺物］なし。

［時期］遺構間の重複関係から平安時代ないし平安時代以降と思われる。

第23号溝跡（第77図）

［位置・確認層］Ｎ・Ｏ－93グリッドに位置する。第Ⅴ層において確認した。

［重複］第３号竪穴住居跡と重複し、本遺構が新しい。

［平面形・規模］重複により全容は不明であるが、残存部はほぼ直線状に伸びる。規模は、長さ1.72m、

幅30～36㎝、深さ12～22㎝である。長軸方向はＮ－18°－Ｅ前後である。

［壁・底］壁は、外側へ直線的に立ち上がる。底面は、ほぼ平坦である。底面比高差は８㎝で北側が高い。

［覆土］黒褐色土が堆積する。自然堆積と思われる。

［出土遺物］なし。

［時期］遺構間の重複関係から平安時代ないし平安時代以降と思われる。

第27号溝跡（第78図）

［位置・確認層］Ｒ～Ｖ－112、Ｐ－113～118グリッドに位置する。第Ⅳ層において確認した。

［重複］第１号円形周溝ａ～ｃ、第３号円形周溝ａ、ｂ、第５号溝跡、第30号溝跡、第35号溝跡、第36号溝跡と重複し、本遺構は第１号円形周溝ａ～ｃ、第３号円形周溝ａ、ｂ、第５号溝跡より新しく、第30号溝跡、第35号溝跡、第36号溝跡との新旧関係は不明である。

［平面形・規模］調査区端に位置し全容は不明であるが、残存部はほぼ直線状に伸び、Ｐ－113グリッドにおいてほぼ直角に屈曲する。規模は、長さ48.19ｍ、幅90～180㎝、深さ26～95㎝である。長軸方向は東西方向でＮ－82°－Ｗ前後、南北方向でＮ－27°－Ｅ前後である。

［壁・底］壁は外側へ直線的に立ち上がり、中位で外側へ屈曲した後、緩やかに立ち上がる。底面は、ほぼ平坦である。底面比高差は146㎝で北西側が高い。

［覆土］７層に分層した。黒褐色土、暗褐色土主体に堆積する。自然堆積と思われる。

［出土遺物］土器は、覆土より須恵器（坏）（第80図18、19）、須恵器（甕）（第81図22）、須恵器（壷）（第80図20、21）、土師器（坏）（第81図23～29、32）、土師器（甕）（第81図30、31）、縄文土器（第82図47、48）が出土している。石器は、覆土より敲磨器（第83図３、５）が４点、砥石（第83図４）が１点、台石・石皿が１点出土している。土製品は、覆土より焼成粘土塊（第84図１）が１点出土している。鉄関連遺物は、覆土より羽口（第85図５）が１点、棒状鉄製品（第85図６、８）が２点、不明鉄製品（第85図７）が１点、椀形鍛冶滓（第85図10）が出土している。

［時期］遺構間の重複関係や出土遺物から平安時代ないし平安時代以降と思われる。

第28号溝跡（第78図）

［位置・確認層］Ｑ－113グリッドに位置する。第Ⅳ層において確認した。

［重複］第１号円形周溝ｂ、第36号溝跡と重複し、本遺構は第36号溝跡より古く、第１号円形周溝ｂより新しい。

［平面形・規模］重複により全容は不明であるが、残存部はほぼ直線状に伸びる。規模は、長さ1.69ｍ、幅30㎝程度、深さ２～35㎝である。長軸方向はＮ－37°－Ｗ前後である。

［壁・底］壁は、外側へ緩やかに立ち上がる。底面は、やや湾曲して中央部がくぼんでいる。底面比高差は33㎝で南東側が高い。

［覆土］黒褐色土が堆積する。自然堆積と思われる。

［出土遺物］なし。

［時期］遺構間の重複関係から平安時代ないし平安時代以降と思われる。

第29号溝跡（第78図）

［位置・確認層］Ｑ－114～116グリッドに位置する。第Ⅳ層において確認した。

［重複］第１号円形周溝ｃ、第36号溝跡、第221号柱穴状ピットと重複し、本遺構は第36号溝跡、第221号柱穴状ピットより古く、第１号円形周溝ｃより新しい。

［平面形・規模］重複により全容は不明であるが、残存部はほぼ直線状に伸びる。規模は、長さ11.52m、幅30～45㎝、深さ12～32㎝である。長軸方向はＮ－66°－W前後である。

［壁・底］壁は、外側へ緩やかに立ち上がる。底面は、やや湾曲して中央部がくぼんでいる。底面比高差は46㎝で南東側が高い。

［覆土］黒褐色土が堆積する。自然堆積と思われる。

［出土遺物］土器は、覆土より土師器（坏）（第81図33、34）、土師器（甕）（第81図35、36）、縄文土器（第82図49）が出土している。

［時期］遺構間の重複関係や出土遺物から平安時代ないし平安時代以降と思われる。

第30号溝跡（第78図）

［位置・確認層］Ｒ・Ｓ－112、Ｔ～Ｖ－113グリッドに位置する。第Ⅳ層において確認した。

［重複］第12号竪穴住居跡、第３号円形周溝ａ、ｂ、第27号溝跡、第36号溝跡、第５号焼土遺構と重複し、本遺構は、第36号溝跡、第５号焼土遺構より古く、第12号竪穴住居跡、第３号円形周溝ａ、ｂより新しい。第27号溝跡との新旧関係は不明である。

［平面形・規模］調査区端に位置し、全容は不明であるが、残存部はほぼ直線状に伸びる。規模は、長さ19.66m、幅40～105㎝、深さ10～51㎝である。長軸方向はＮ－18°－Ｅ前後である。

［壁・底］壁は、外側へ緩やかに立ち上がる。底面は、やや湾曲して中央部がくぼんでいる。底面比高差は33㎝で南側が高い。

［覆土］３層に分層した。黒褐色土主体に堆積する。自然堆積と思われる。

［出土遺物］土器は、覆土より須恵器（甕）（第81図37）、土師器（坏）（第81図23、26、27、33、38）、土師器（甕）（第81図31、39、40、第82図41）が出土している。

［時期］遺構間の重複関係や出土遺物から平安時代ないし平安時代以降と思われる。

第35号溝跡（第78図）

［位置・確認層］Ｕ－112グリッドに位置する。第Ⅳ層において確認した。

［重複］第３号円形周溝ａ、第27号溝跡と重複し、本遺構は第３号円形周溝ａより新しく、第27号溝跡との重複関係は不明である。

［平面形・規模］重複により全容は不明であるが、残存部は弧状を呈する。規模は、長さ2.77m、幅45～60㎝、深さ９～26㎝である。長軸方向はＮ－80°－W前後である。

［壁・底］壁は、外側へ緩やかに立ち上がる。底面は、やや湾曲して中央部がくぼんでいる。底面比高差は25㎝で西側が高い。

［覆土］５層に分層した。黒褐色土、暗褐色土との間に黄褐色土が堆積する。

［出土遺物］土器は、覆土より須恵器（坏）（第82図42）、土師器（坏）（第82図43）が出土している。

［時期］出土遺物から平安時代ないし平安時代以降と思われる。

第36号溝跡（第78図）

［位置・確認層］Q・R－112、113、P・Q－114、115グリッドに位置する。第Ⅳ層において確認した。

［重複］第１号円形周溝ｂ、第27号溝跡、第28号溝跡、第29号溝跡、第30号溝跡と重複し、本遺構は、第１号円形周溝ｂ、第28号溝跡、第29号溝跡、第30号溝跡より新しく、第27号溝跡との新旧関係は不明である。

［平面形・規模］重複により全容は不明であるが、残存部はほぼ直線状に伸びる。規模は、長さ12.96m、幅30～70㎝、深さ８～68㎝である。長軸方向はＮ－38°－W前後である。

［壁・底］壁は、ほぼ垂直に立ち上がり、中位で外側へ大きく屈曲した後、外側へ緩やかに立ち上がる。底面は、ほぼ平坦である。底面比高差は76㎝で北西側が高い。

［覆土］９層に分層した。黒褐色土主体に堆積する。自然堆積と思われる。

［出土遺物］土器は、覆土より須恵器（坏）（第82図44）、須恵器（壷）（第80図21）、土師器（甕）（第82図45）が出土している。土製品は、覆土より焼成粘土塊（第84図２）が出土している。

［時期］遺構間の重複関係や出土遺物から平安時代ないし平安時代以降と思われる。

第38号溝跡（第79図）

［位置・確認層］Ｅ－98、99グリッドに位置する。第Ⅴ層において確認した。

［重複］第240号柱穴状ピットと重複し、本遺構が新しい。

［平面形・規模］調査区端に位置し、また削平により全容は不明であるが、残存部はほぼ直線状に伸びる。規模は、長さ3.91m、幅95～110㎝、深さ８～18㎝である。長軸方向はＮ－90°－Ｅ前後である。

［壁・底］壁は外側へ緩やかに立ち上がる。底面は、ほぼ平坦である。底面比高差は６㎝で西側が高い。

［覆土］黒色土が堆積する。自然堆積と思われる。

［出土遺物］なし。

［時期］不明である。

第39号溝跡（第79図）

［位置・確認層］Ｉ－93、Ｊ－92、93、Ｋ－92グリッドに位置する。第Ⅴ層において確認した。

［重複］なし。

［平面形・規模］削平により全容は不明であるが、残存部はほぼ直線状に伸びる。規模は、長さ9.71m、幅30～60㎝、深さ１～27㎝である。長軸方向はＮ－１°－W前後である。

［壁・底］壁は、外側へ緩やかに立ち上がる。底面は、ほぼ平坦である。底面比高差は31㎝で南側が高い。

［覆土］黒褐色土が堆積する。自然堆積と思われる。

［出土遺物］なし。

［時期］不明である。

第40号溝跡（第79図）

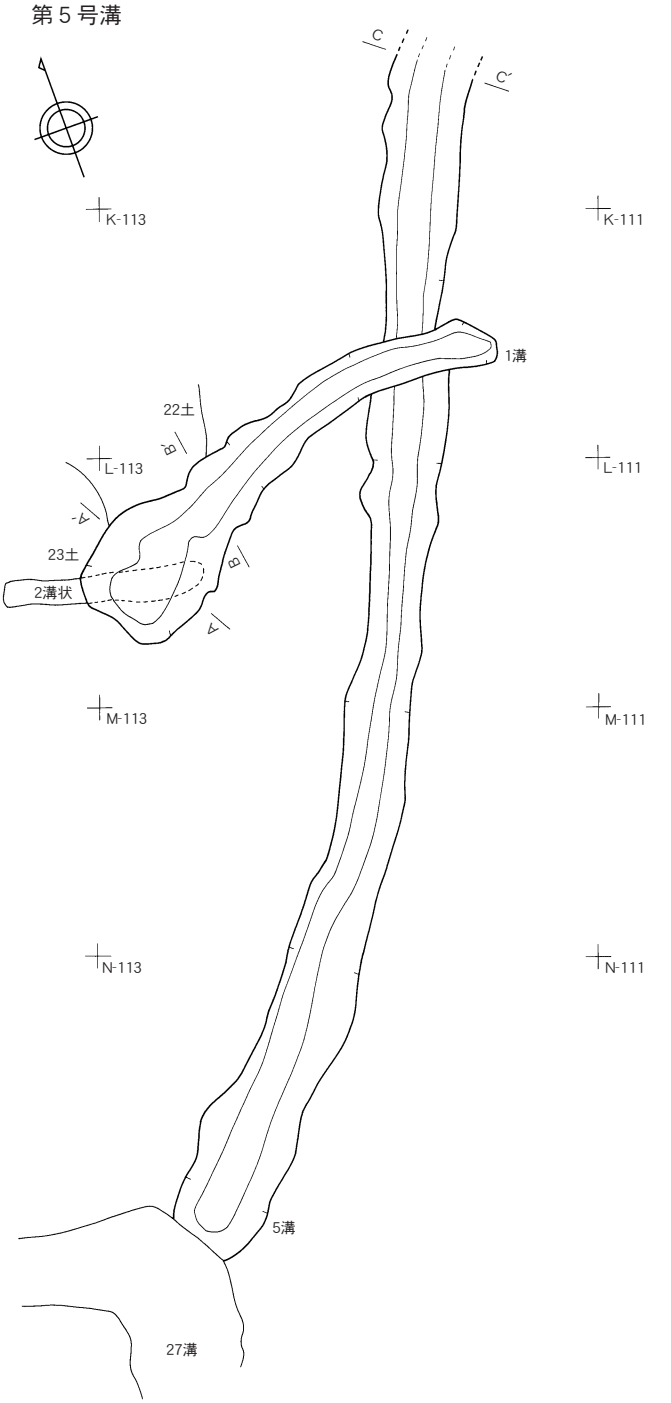
［位置・確認層］Ｈ－92、Ｉ－91、92、Ｊ～Ｌ－91グリッドに位置する。第Ⅴ層において確認した。

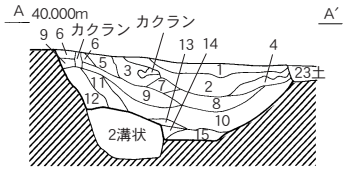
［重複］なし。

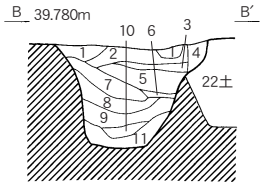
［平面形・規模］調査区端に位置し、また削平により全容は不明であるが、残存部はほぼ直線状に伸びる。規模は、長さ15.97m、幅26～46cm、深さ３～24cmである。長軸方向はＮ－１°－Ｅ前後である。
［壁・底］壁は、外側へ緩やかに立ち上がる。底面は、やや湾曲して中央部がくぼんでいる。底面比高差は47cmで南側が高い。
［覆土］黒色土が堆積する。自然堆積と思われる。
［出土遺物］なし。
［時期］不明である。

第41号溝跡（第79図）
［位置・確認層］Ｈ・Ｉ－91グリッドに位置する。第Ⅴ層において確認した。
［重複］なし。
［平面形・規模］調査区端に位置し、また削平により全容は不明であるが、残存部はほぼ直線状に伸びる。規模は、長さ3.28m、幅36～50cm、深さ２～８cmである。長軸方向はＮ－17°－Ｗ前後である。
［壁・底］壁は、外側へ緩やかに立ち上がる。底面は、やや湾曲して中央部がくぼんでいる。底面比高差は３cmで北側が高い。
［覆土］黒色土が堆積する。自然堆積と思われる。
［出土遺物］なし。
［時期］不明である。

第１号溝
第５号溝

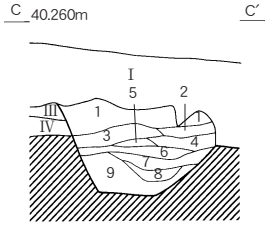




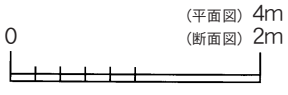


第1号溝　A-A′
第１層　にぶい黄褐色土（10YR4/3）ロームブロック少量
第２層　暗褐色土（10YR3/3）と黄褐色土(10YR5/6)の混合土
ロームブロック中量
第３層　黒褐色土（10YR3/2）ローム粒微量、炭化粒微量
第４層　暗褐色土（10YR3/3）ローム粒少量、ロームブロック少量
第５層　黄褐色土（10YR5/6）ローム
第６層　黒褐色土（10YR3/2）ローム粒微量
第７層　黒褐色土（10YR2/2）ローム粒少量
第８層　黒褐色土（10YR3/2）ローム粒微量、ロームブロック微量
第９層　黒褐色土（10YR2/2）ローム粒少量、ロームブロック少量
第10層　暗褐色土（10YR3/3）ローム粒微量
第11層　にぶい黄褐色土（10YR4/3）ローム粒少量
第12層　黒褐色土（10YR2/2）ローム粒少量、ロームブロック少量
第13層　にぶい黄褐色土（10YR4/3）ローム粒少量
第14層　黒褐色土（10YR2/2）と黄褐色土(10YR5/6)の混合土
ロームブロック多量
第15層　黒褐色土（10YR3/2）と黄褐色土(10YR5/6)の混合土
ロームブロック多量

第1号溝　B-B′
第１層　黒褐色土（10YR2/2）ローム粒微量
第２層　暗褐色土（10YR3/3）ローム粒少量、ロームブロック少量
第３層　黒褐色土（10YR2/3）ローム粒少量、炭化粒微量
第４層　暗褐色土（10YR3/3）ローム粒微量
第５層　暗褐色土（10YR3/3）ロームブロック少量、炭化粒微量
第６層　褐色土（10YR4/4）ローム粒微量、炭化粒微量
第７層　黒褐色土（10YR2/3）ローム粒少量
第８層　暗褐色土（10YR3/3）ロームブロック中量
第９層　黒褐色土（10YR2/3）ローム粒少量
第10層　黒褐色土（10YR2/3）ローム粒微量
第11層　暗褐色土（10YR3/3）ローム粒中量

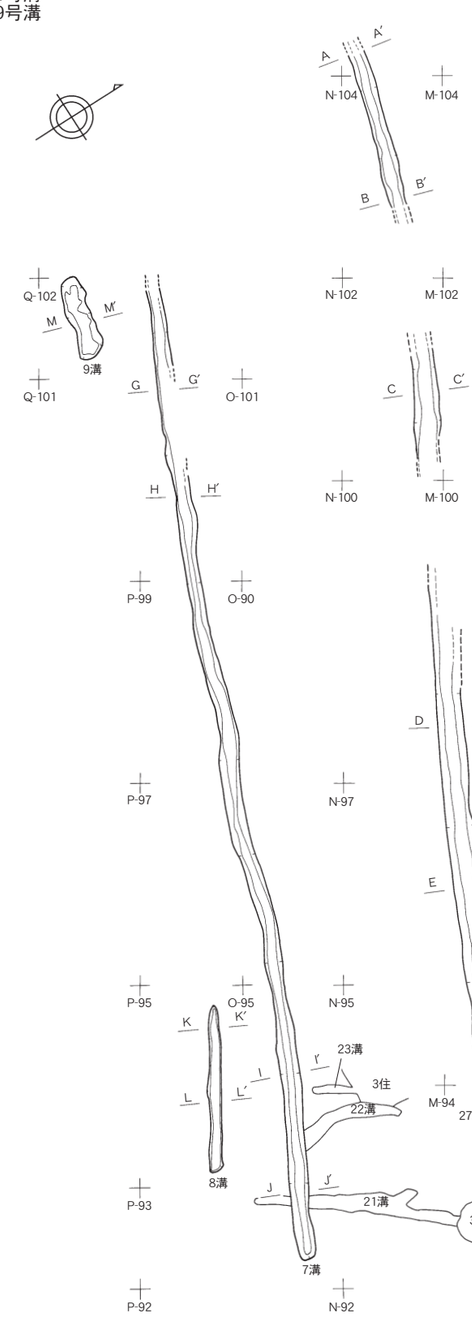


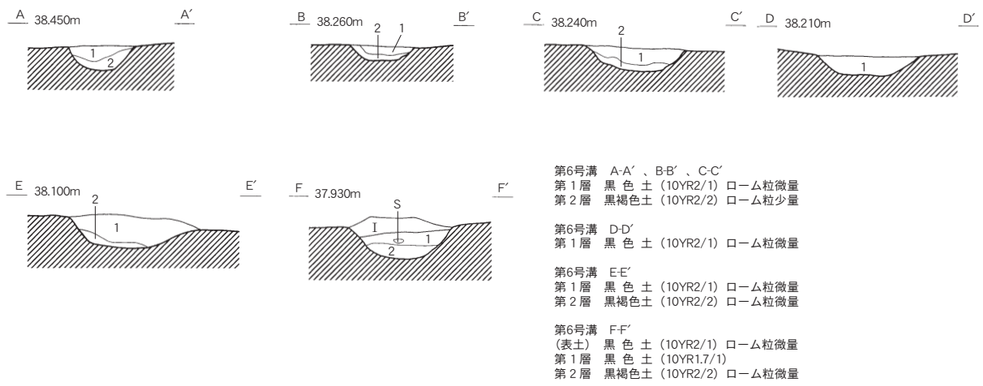
第5号溝　C-C′
第１層　黒褐色土（10YR2/3）ローム粒少量、炭化粒少量
第２層　暗褐色土（10YR3/3）ローム粒微量、炭化粒微量
第３層　暗褐色土（10YR3/3）ローム粒少量、炭化粒微量、焼土粒微量
第４層　暗褐色土（10YR3/3）ロームブロック少量
第５層　褐色土（10YR4/4）ローム粒多量
第６層　暗褐色土（10YR3/3）ローム粒少量、炭化粒少量
第７層　黒褐色土（10YR2/2）ローム粒微量
第８層　黒褐色土（10YR2/3）ローム粒微量
第９層　暗褐色土（10YR3/3）ローム粒少量、ロームブロック少量、
炭化粒微量



第74図　溝跡（1）（1、5溝）

第6号溝
第7号溝
第8号溝
第9号溝



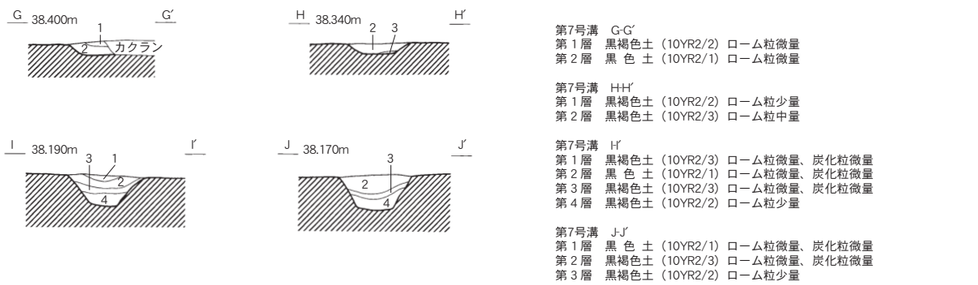


第6号溝　A-A′、B-B′、C-C′
第１層　黒 色 土（10YR2/1）ローム粒微量
第２層　黒褐色土（10YR2/2）ローム粒少量

第6号溝　D-D′
第１層　黒 色 土（10YR2/1）ローム粒微量

第6号溝　E-E′
第１層　黒 色 土（10YR2/1）ローム粒微量
第２層　黒褐色土（10YR2/2）ローム粒微量

第6号溝　F-F′
（表土）　黒 色 土（10YR2/1）ローム粒微量
第１層　黒 色 土（10YR1.7/1）
第２層　黒褐色土（10YR2/2）ローム粒微量

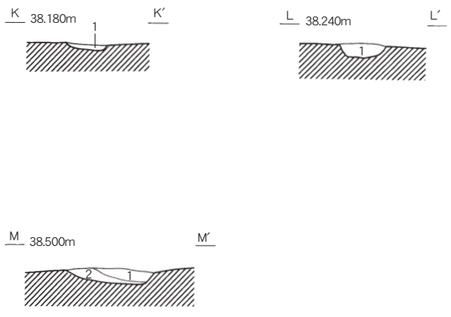


第7号溝　G-G′
第１層　黒褐色土（10YR2/2）ローム粒微量
第２層　黒 色 土（10YR2/1）ローム粒微量

第7号溝　H-H′
第１層　黒褐色土（10YR2/2）ローム粒少量
第２層　黒褐色土（10YR2/3）ローム粒中量

第7号溝　I-I′
第１層　黒褐色土（10YR2/3）ローム粒微量、炭化粒微量
第２層　黒 色 土（10YR2/1）ローム粒微量、炭化粒微量
第３層　黒褐色土（10YR2/3）ローム粒微量、炭化粒微量
第４層　黒褐色土（10YR2/2）ローム粒少量

第7号溝　J-J′
第１層　黒 色 土（10YR2/1）ローム粒微量、炭化粒微量
第２層　黒褐色土（10YR2/3）ローム粒微量、炭化粒微量
第３層　黒褐色土（10YR2/2）ローム粒少量



第8号溝　K-K′、L-L′
第１層　黒色土（10YR2/1）

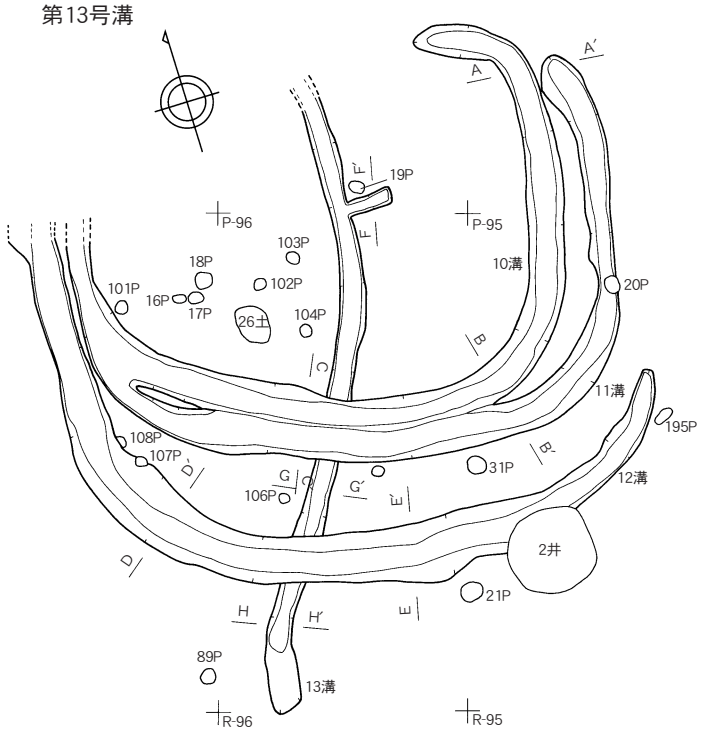
第9号溝　M-M′
第１層　黒褐色土（10YR2/3）ローム粒中量
第２層　黒 色 土（10YR2/1）ローム粒微量

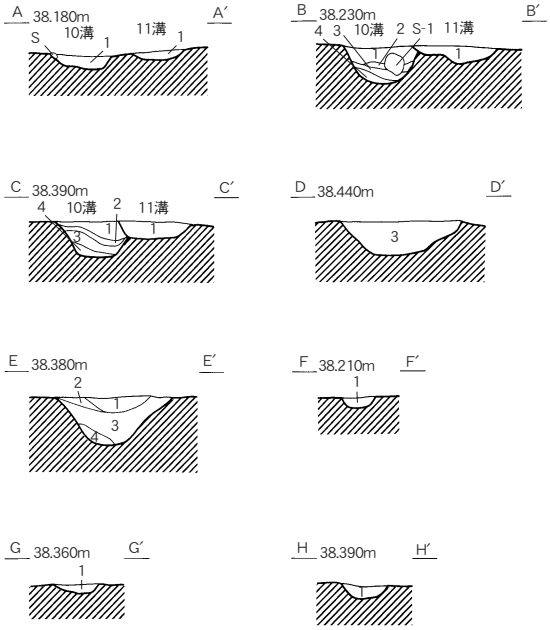
0　8m

0　2m

第75図　溝跡（2）（6～9溝）

第10号溝
第11号溝
第12号溝
第13号溝





第10号溝・第11号溝　A-A′
第10号溝
第１層　黒 色 土（10YR2/1）　ローム粒微量
第11号溝
第１層　黒褐色土（10YR2/2）　ローム粒微量

第10号溝・第11号溝　B-B′
第10号溝
第１層　黒 色 土（10YR2/1）　ローム粒微量
第２層　黒褐色土（10YR2/2）　ローム粒少量
第３層　黒 色 土（10YR2/1）　ローム粒微量
第４層　黒褐色土（10YR2/3）　ローム粒少量
第11号溝
第１層　黒褐色土（10YR2/2）　ローム粒微量

第10号溝・第11号溝　C-C′
第10号溝
第１層　黒褐色土（10YR2/2）　ローム粒少量
第２層　黒褐色土（10YR2/3）　ローム粒微量
第３層　黒 色 土（10YR2/1）　ローム粒微量
第４層　黒褐色土（10YR2/3）　ローム粒少量
第11号溝
第１層　黒 色 土（10YR2/1）　ローム粒微量

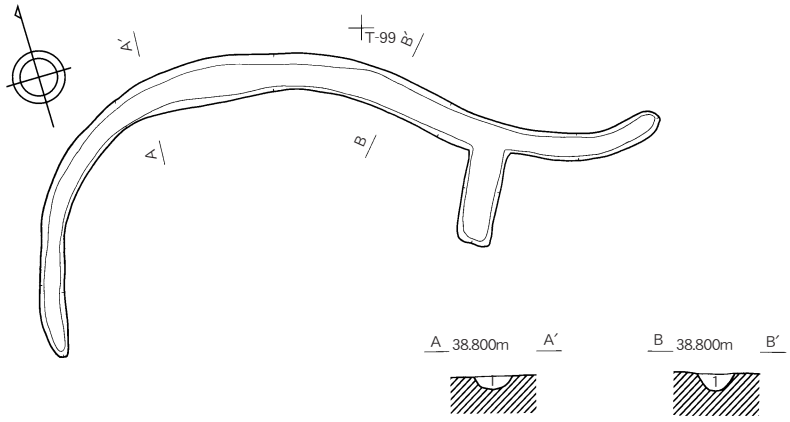
第12号溝　D-D′
第１層　黒 色 土（10YR2/1）　ローム粒微量

第12号溝　E-E′
第１層　黒 色 土（10YR2/1）　ローム粒微量
第２層　黒褐色土（10YR2/3）　ローム粒少量
第３層　黒 色 土（10YR2/1）　ローム粒少量
第４層　黒褐色土（10YR2/3）　ローム粒少量

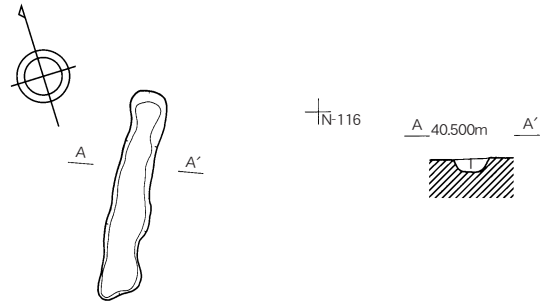
第13号溝　F-F′、G-G′、H-H′
第１層　黒 色 土（10YR2/1）　ローム粒微量

第14号溝　A-A′、B-B′
第１層　黒 色 土（10YR1.7/1）ローム粒微量

第14号溝

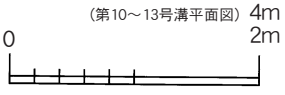


第15号溝



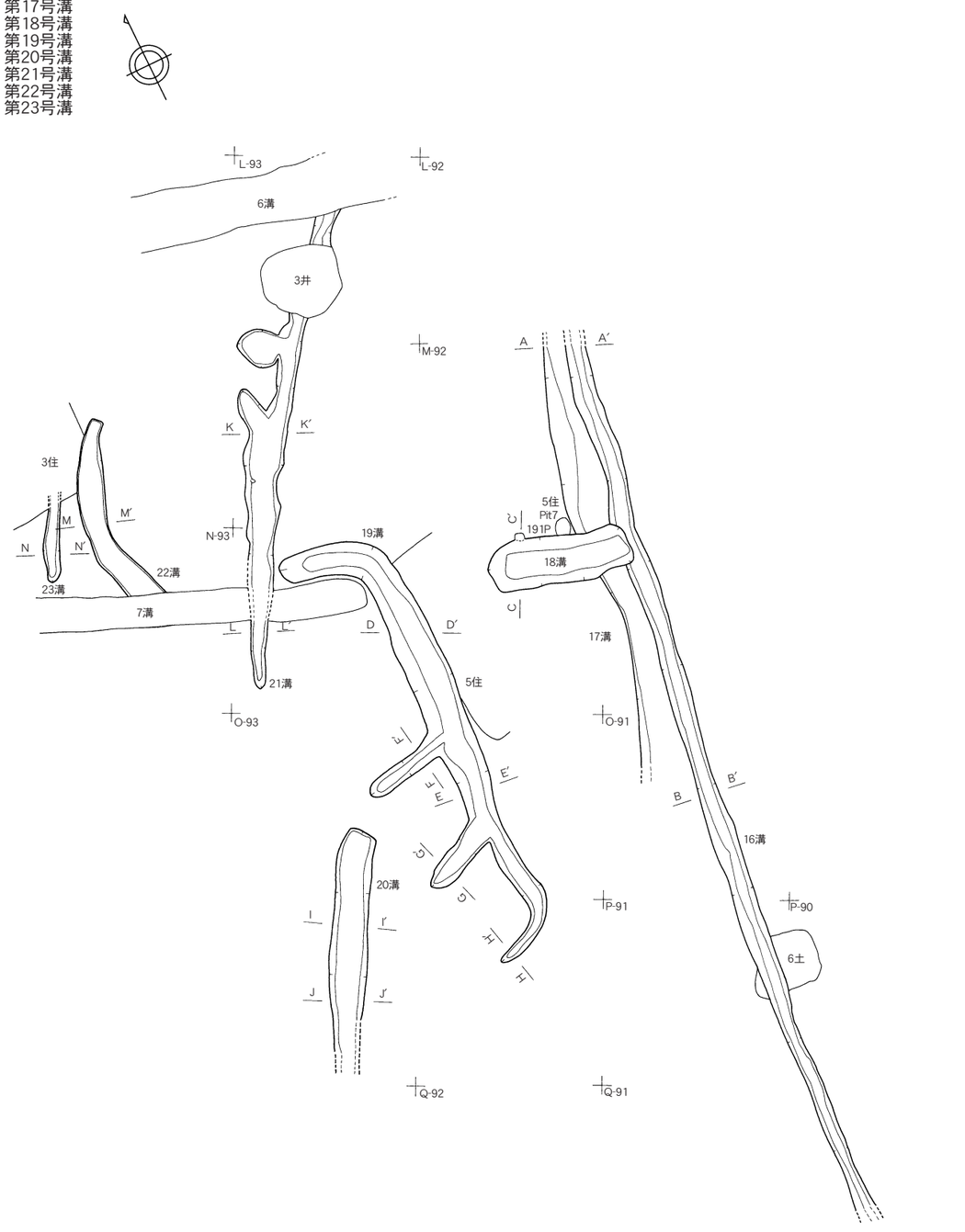
第15号溝
第１層　黒褐色土（10YR2/2）　ローム粒微量

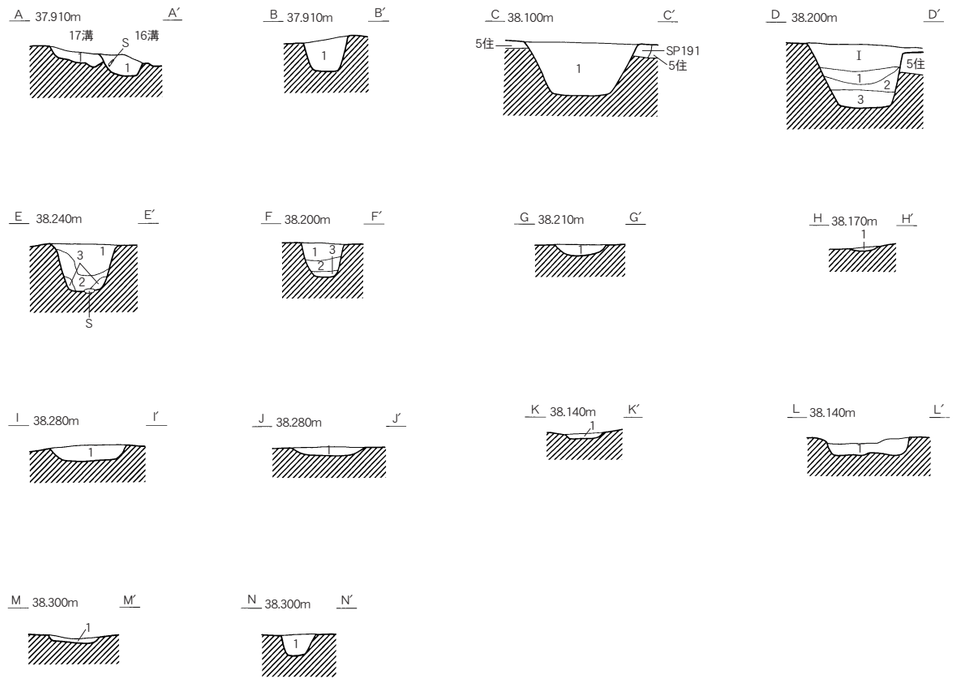
（第10～13号溝平面図）



第76図　溝跡（3）（10～15溝）

第16号溝
第17号溝
第18号溝
第19号溝
第20号溝
第21号溝
第22号溝
第23号溝





第16号溝　A-A′、B-B′
第１層　黒褐色土（10YR2/2）ローム粒微量
第17号溝　A-A′
第１層　黒褐色土（10YR2/2）ローム粒少量

第18号溝　C-C′
第１層　黒　色　土（10YR2/1）ローム粒少量

第19号溝　D-D′
第１層　黒褐色土（10YR2/2）ローム粒少量、炭化物微量
第２層　黒褐色土（10YR2/3）ローム粒中量
第３層　黒　色　土（10YR2/1）ローム粒少量、ロームブロック少量

第19号溝　E-E′
第１層　黒褐色土（10YR2/2）ローム粒微量
第２層　黒　色　土（10YR2/1）ローム粒微量
第３層　黒褐色土（10YR2/3）ローム粒少量

第19号溝　F-F′
第１層　黒褐色土（10YR2/2）ローム粒微量
第２層　黒　色　土（10YR2/1）ローム粒微量
第３層　黒褐色土（10YR3/2）ローム粒少量

第19号溝　G-G′
第１層　黒　色　土（10YR2/1）ローム粒微量

第19号溝　H-H′
第１層　黒褐色土（10YR2/2）ローム粒微量

第20号溝　I-I′、J-J′
第１層　黒　色　土（10YR2/1）ローム粒微量

第21号溝　K-K′、L-L′
第１層　黒褐色土（10YR2/2）ローム粒微量

第22号溝　M-M′
第１層　黒褐色土（10YR2/2）ローム粒微量

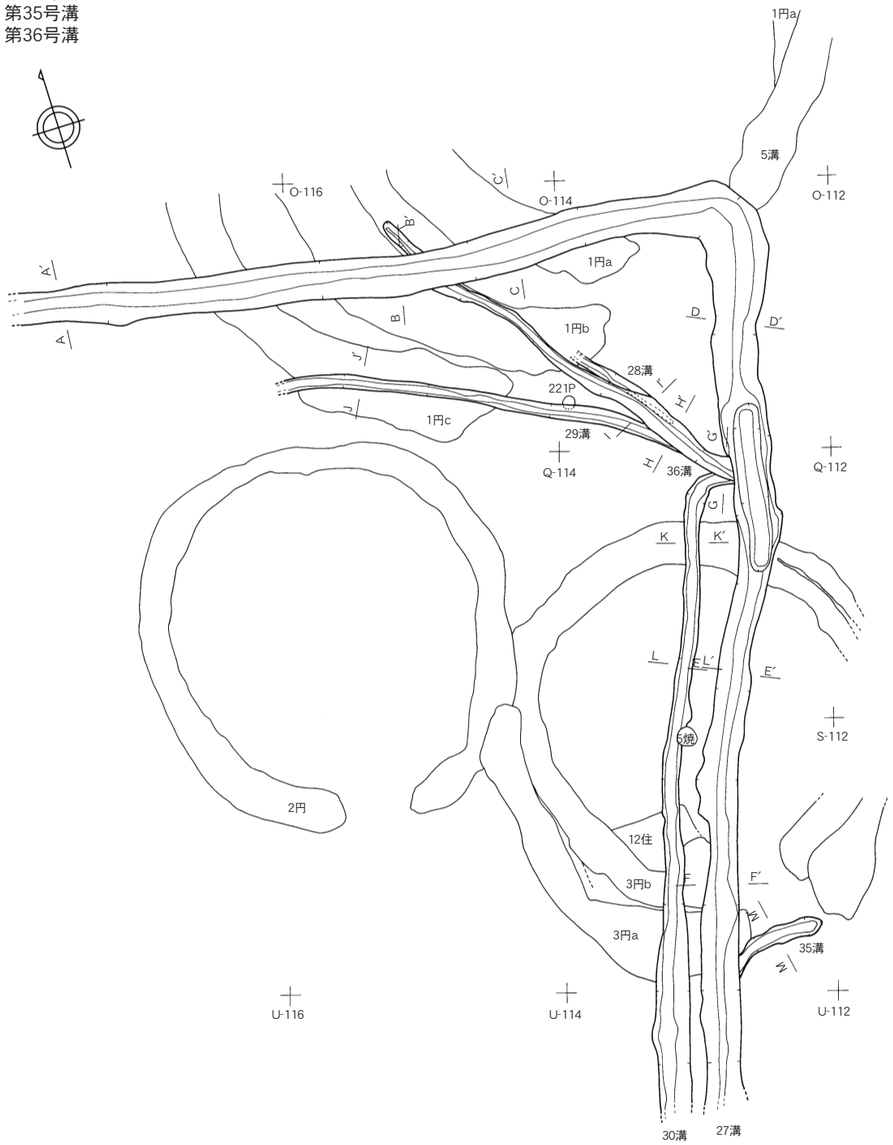
第23号溝　N-N′
第１層　黒褐色土（10YR2/2）ローム粒少量

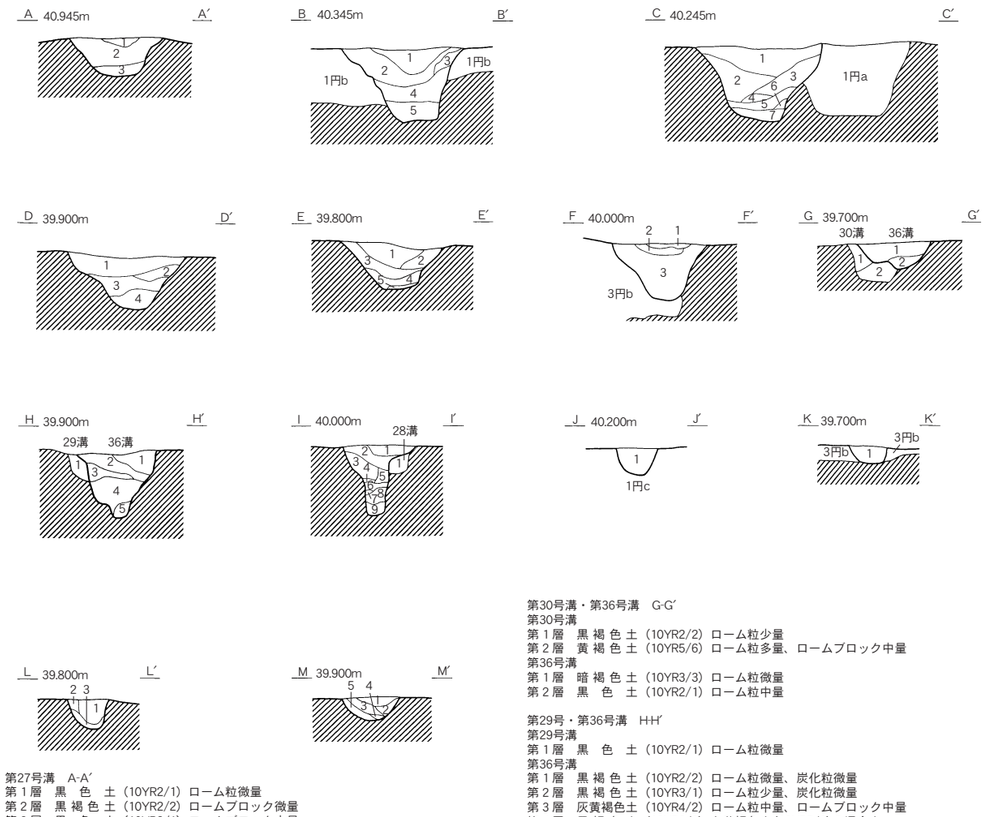
0　4m

0　2m

第77図　溝跡（4）（16～23溝）

第27号溝
第28号溝
第29号溝
第30号溝
第35号溝
第36号溝





第27号溝　A-A′
第１層　黒　色　土（10YR2/1）ローム粒微量
第２層　黒 褐 色 土（10YR2/2）ロームブロック微量
第３層　黒　色　土（10YR2/1）ロームブロック少量

第27号溝　B-B′
第１層　黒 褐 色 土（10YR2/2）ローム粒少量、炭化粒微量、焼土粒微量
第２層　黒 褐 色 土（10YR3/2）ローム粒少量、ロームブロック少量、炭化粒微量、焼土粒微量
第３層　暗 褐 色 土（10YR3/4）ローム粒少量
第４層　暗 褐 色 土（10YR3/3）ローム粒中量、炭化粒微量、焼土粒微量
第５層　黒 褐 色 土（10YR3/2）ローム粒中量、炭化物微量

第27号溝　C-C′
第１層　暗 褐 色 土（10YR3/3）ローム粒少量、炭化粒微量
第２層　黒 褐 色 土（10YR2/3）ローム粒微量、炭化粒微量
第３層　褐　色　土（10YR4/4）ローム粒少量、炭化粒少量
第４層　暗 褐 色 土（10YR3/3）ローム粒微量、炭化粒微量
第５層　褐　色　土（10YR4/4）ローム粒少量、炭化粒微量
第６層　暗 褐 色 土（10YR3/4）ローム粒微量、炭化粒微量
第７層　黒 褐 色 土（10YR2/3）ローム粒少量

第27号溝　D-D′
第１層　黒 褐 色 土（10YR2/3）ローム粒少量
第２層　黒 褐 色 土（10YR3/2）ローム粒少量
第３層　黒 褐 色 土（10YR2/2）と黄褐色土（10YR5/6）の混合土ロームブロック中量
第４層　黒 褐 色 土（10YR2/2）と黄褐色土（10YR5/6）の混合土ロームブロック少量

第27号溝　E-E′
第１層　黒 褐 色 土（10YR2/2）ローム粒微量
第２層　黒 褐 色 土（10YR2/2）ローム粒中量
第３層　黒 褐 色 土（10YR2/3）ローム粒微量
第４層　黒 褐 色 土（10YR2/2）ローム粒微量、炭化粒微量
第５層　黒 褐 色 土（10YR2/2）ローム粒中量

第27号溝　F-F′
第１層　黒 褐 色 土（10YR2/2）ローム粒少量、炭化粒微量、焼土粒微量
第２層　黒 褐 色 土（10YR2/2）と黄褐色土（10YR5/6）の混合土
第３層　黒 褐 色 土（10YR2/2）ローム粒少量、焼土粒微量

第30号溝・第36号溝　G-G′
第30号溝
第１層　黒 褐 色 土（10YR2/2）ローム粒少量
第２層　黄 褐 色 土（10YR5/6）ローム粒多量、ロームブロック中量
第36号溝
第１層　暗 褐 色 土（10YR3/3）ローム粒微量
第２層　黒　色　土（10YR2/1）ローム粒中量

第29号・第36号溝　H-H′
第29号溝
第１層　黒　色　土（10YR2/1）ローム粒微量
第36号溝
第１層　黒 褐 色 土（10YR2/2）ローム粒微量、炭化粒微量
第２層　黒 褐 色 土（10YR3/1）ローム粒少量、炭化粒微量
第３層　灰黄褐色土（10YR4/2）ローム粒中量、ロームブロック中量
第４層　黒 褐 色 土（10YR2/2）と黄褐色土（10YR5/6）の混合土
第５層　黒 褐 色 土（10YR2/3）ローム粒微量、ロームブロック少量

第28号溝・第36号溝　I-I′
第28号溝
第１層　黒 褐 色 土（10YR2/2）ローム粒微量
第36号溝
第１層　黒 褐 色 土（10YR3/2）ローム粒微量
第２層　暗 褐 色 土（10YR3/3）ローム粒少量、ロームブロック微量
第３層　にぶい黄褐色土（10YR4/3）ローム粒少量、炭化粒微量
第４層　黒 褐 色 土（10YR3/2）ロームブロック多量
第５層　黒 褐 色 土（10YR2/3）ローム粒少量
第６層　にぶい黄褐色土（10YR4/3）ローム粒少量、ロームブロック少量、炭化粒微量
第７層　黒 褐 色 土（10YR2/2）ローム粒微量
第８層　黒 褐 色 土（10YR2/2）ロームブロック多量、炭化粒微量
第９層　黒 褐 色 土（10YR2/2）とにぶい黄褐色土（10YR4/3）のロームブロック中量

第29号溝　J-J′
第１層　黒 褐 色 土（10YR2/2）ローム粒微量

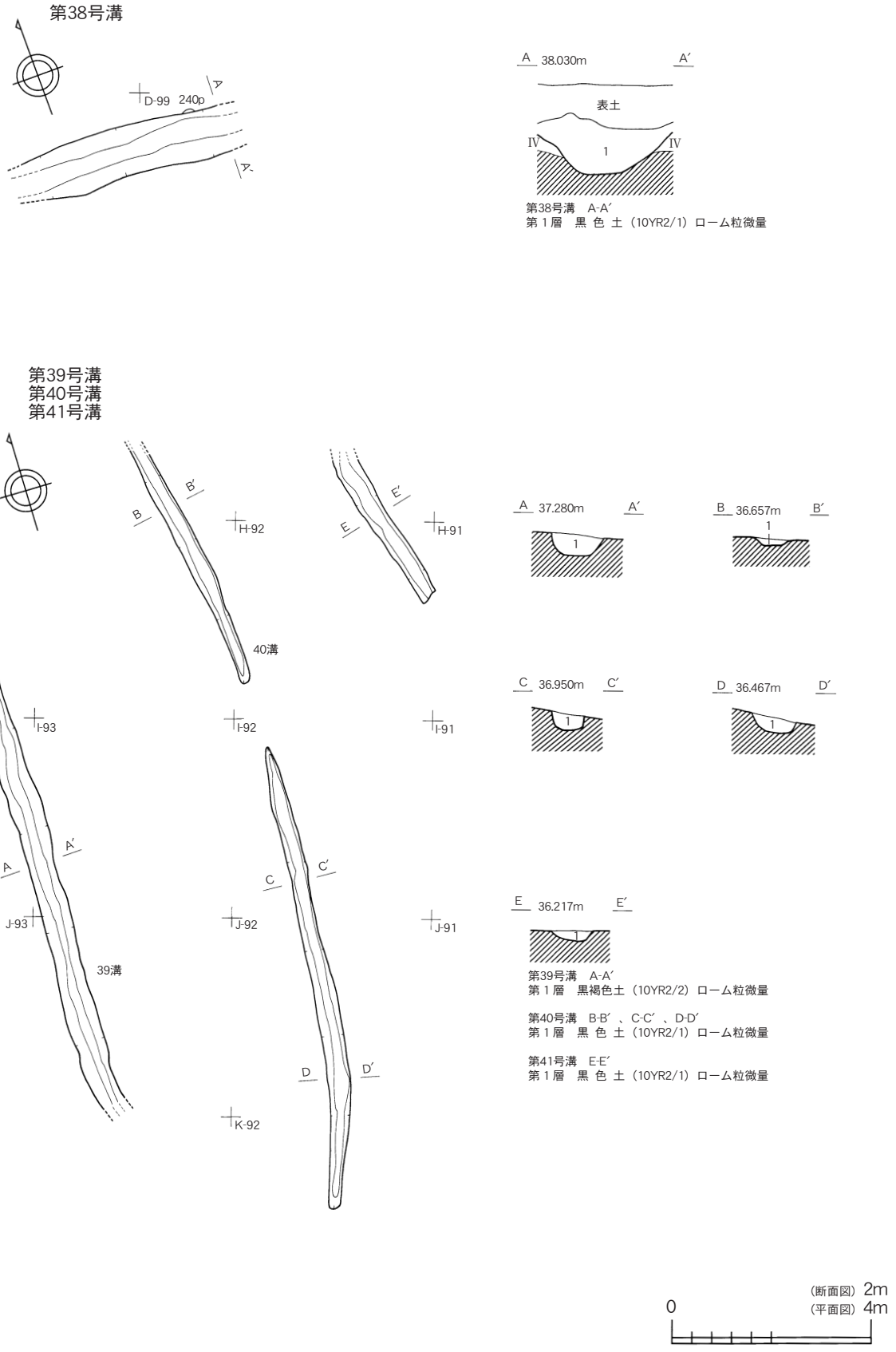
第30号溝　K-K′
第１層　黒 褐 色 土（10YR2/3）ローム粒少量、ロームブロック少量

第30号溝　L-L′
第１層　黒 褐 色 土（10YR2/2）ローム粒微量、ロームブロック微量
第２層　暗 褐 色 土（10YR3/3）ローム粒少量、炭化粒微量
第３層　黒 褐 色 土（10YR3/2）と黄褐色土（10YR5/6）の混合土ロームブロック多量、炭化粒微量

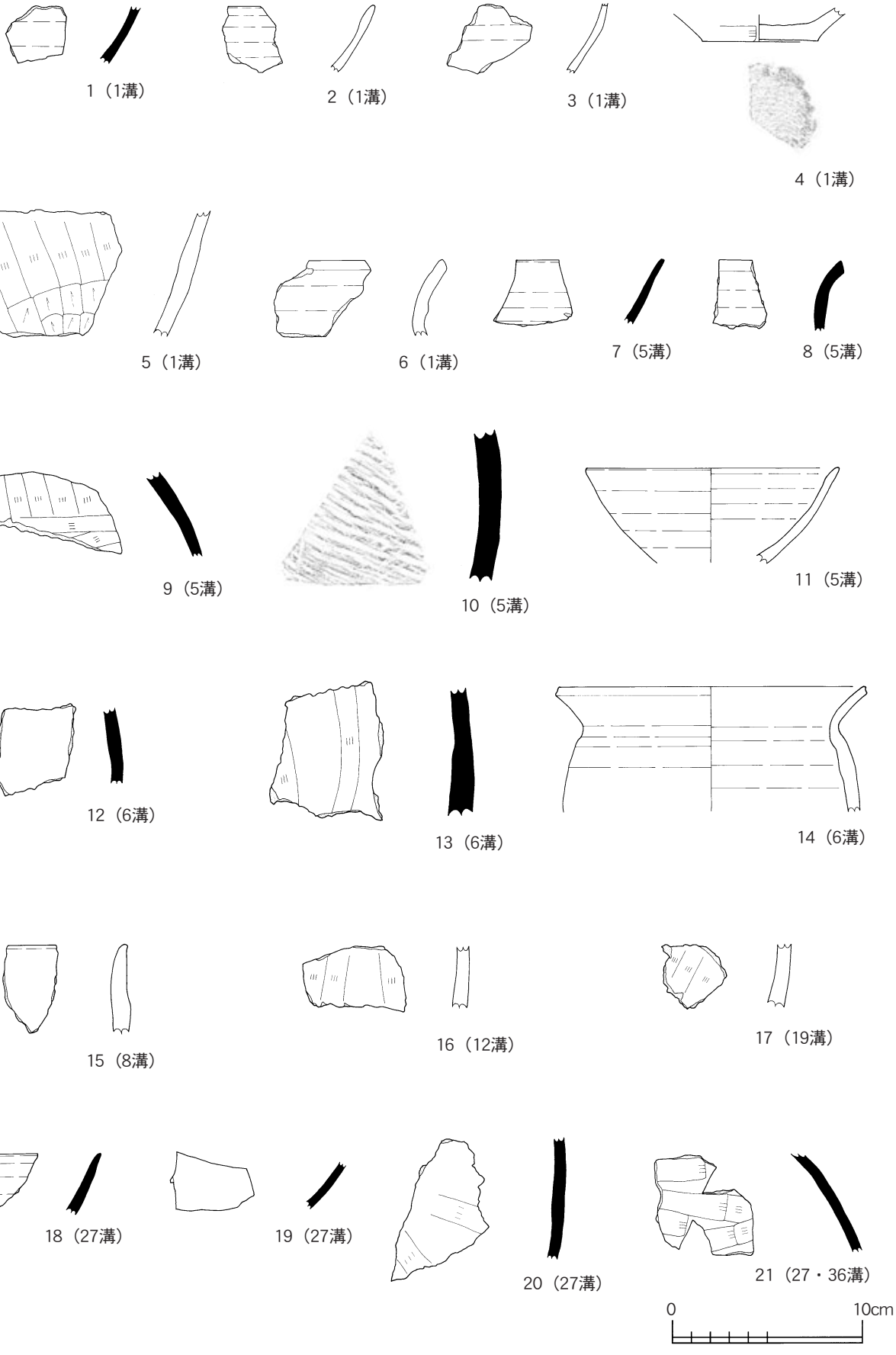
第35号溝　M-M′
第１層　黒 褐 色 土（10YR2/3）ローム粒少量
第２層　黒 褐 色 土（10YR2/3）ローム粒微量、炭化粒微量
第３層　にぶい黄褐色土（10YR4/3）ローム粒中量、ロームブロック少量
第４層　黄 褐 色 土（10YR5/6）ローム、黒褐色土混入
第５層　暗 褐 色 土（10YR3/3）ローム粒少量、炭化粒微量

0　6m
0　2m

第78図　溝跡（5）（27～30、35、36溝）



第79図　溝跡（6）（38～41溝）



第80図　遺構内出土土器（溝跡）（1）

22（27溝）

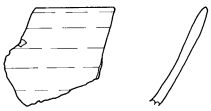
23（27、30溝）

24（27溝）

25（27溝）

26（27、30溝）

27（27、30溝）

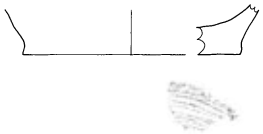


28（27溝）

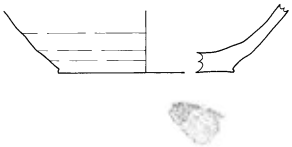
29（27溝）

30（27溝）

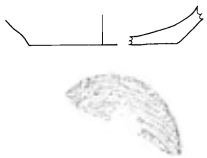
31（27、30溝）



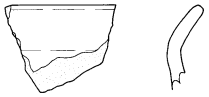
32（27溝）



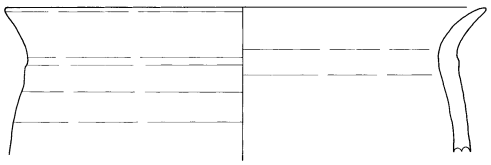
33（29、30溝）



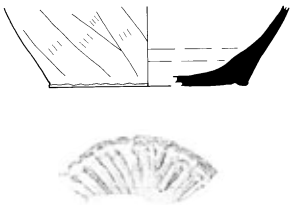
34（29溝）



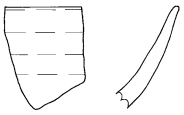
35（29溝）



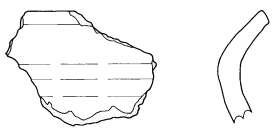
36（29溝）



37（30溝）

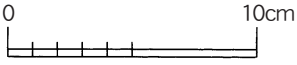


38（30溝）

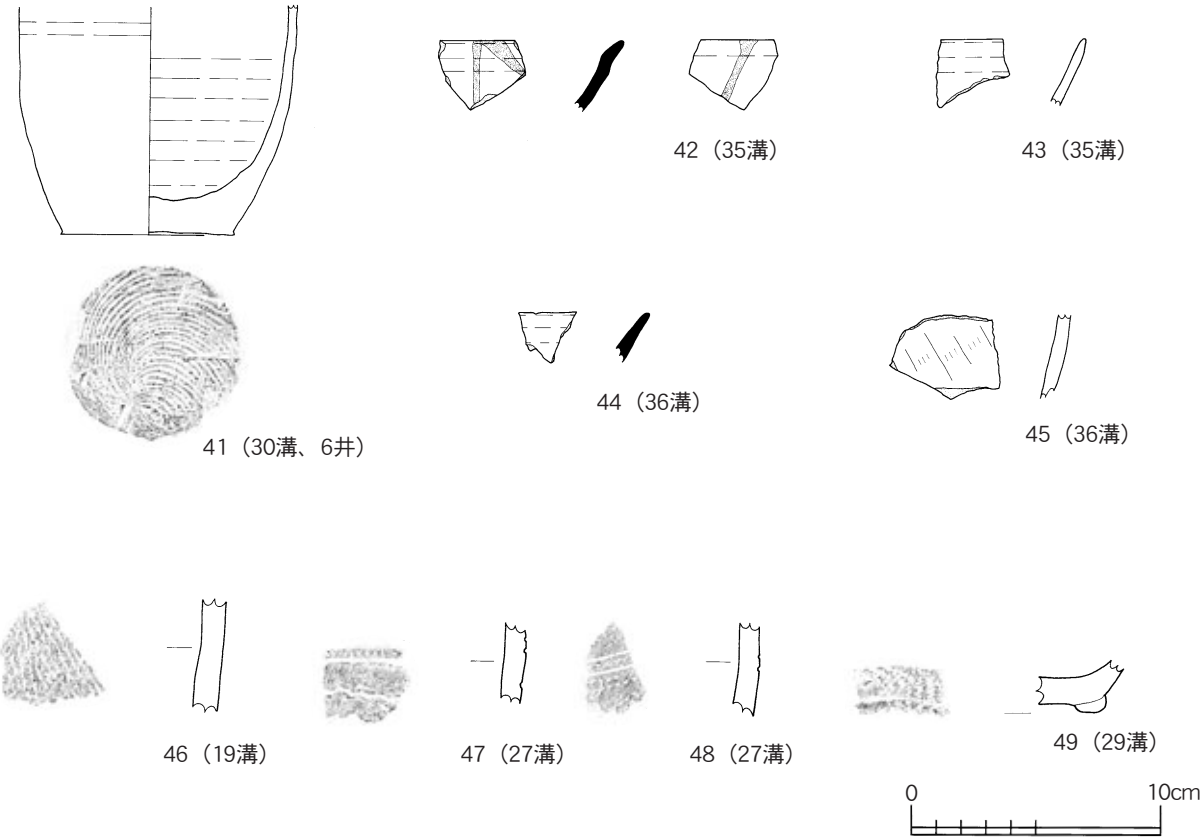


39（30溝）

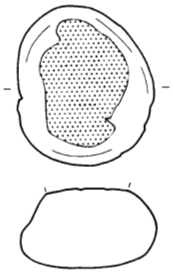
40（30溝）



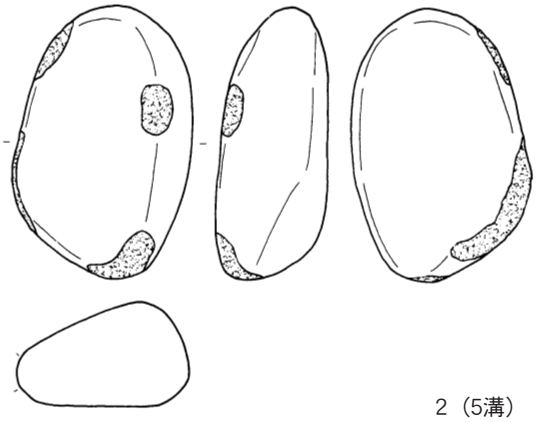
第81図　遺構内出土土器（溝跡）(2)



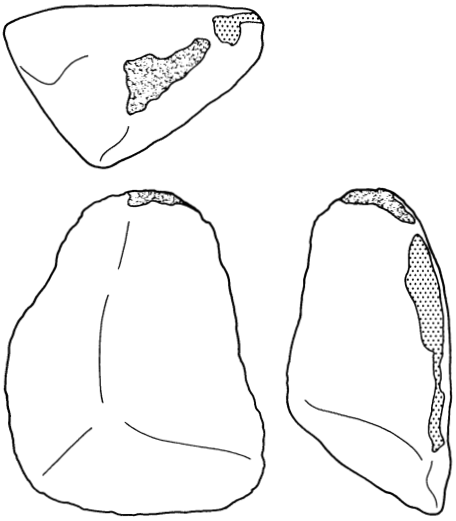
第82図　遺構内出土土器（溝跡）(3)



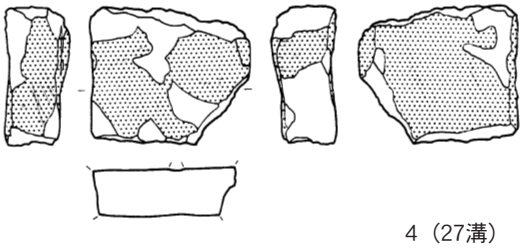
1（5溝）



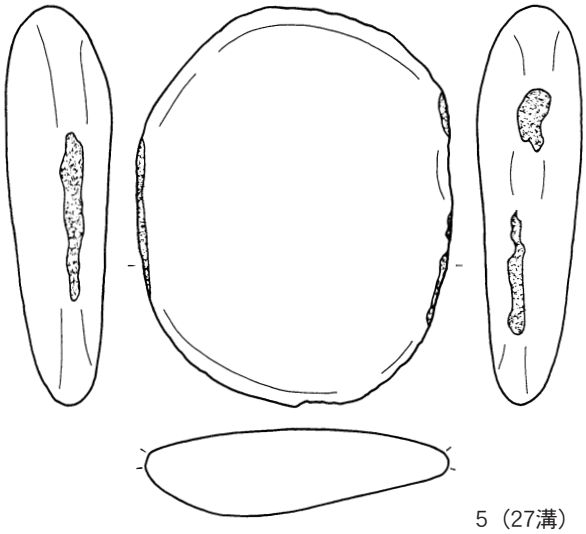
2（5溝）



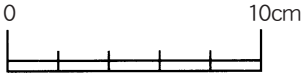
3（27溝）



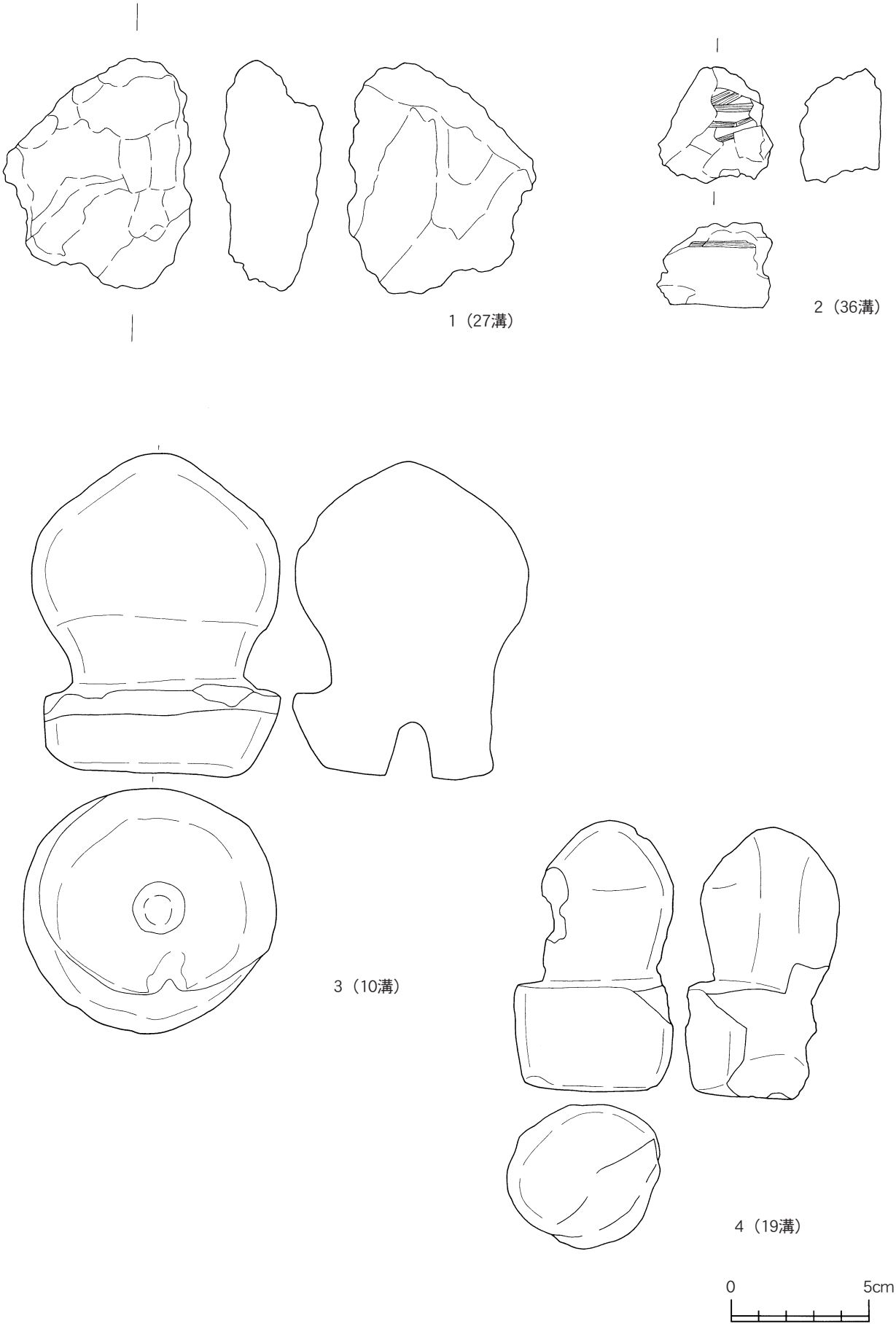
4（27溝）



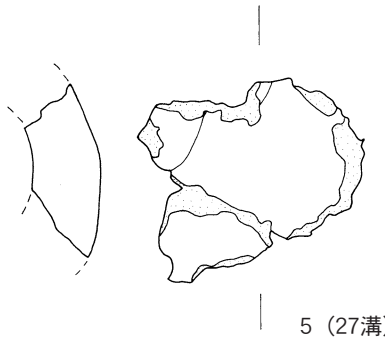
5（27溝）



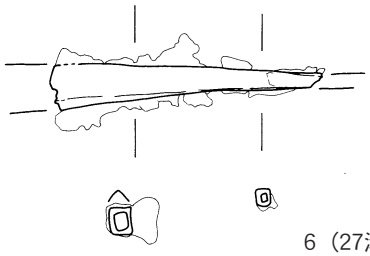
第83図　遺構内出土石器（溝跡）



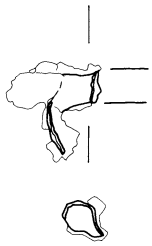
第84図　遺構内出土土製品・石製品（溝跡）



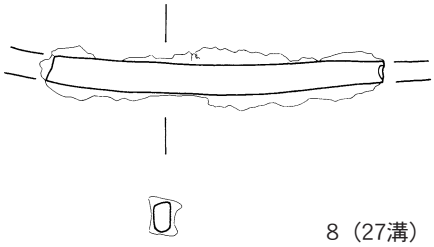
5（27溝）



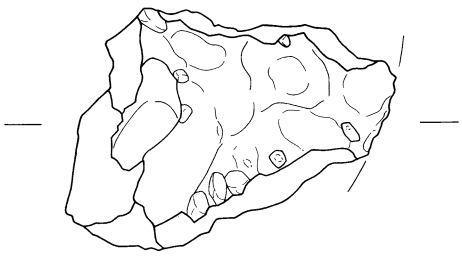
6（27溝）



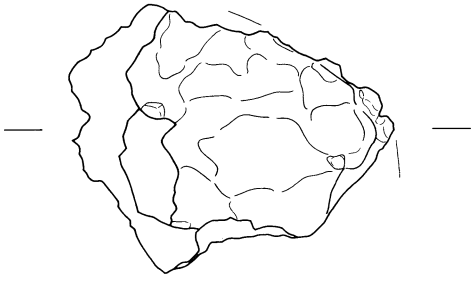
7（27溝）



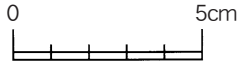
8（27溝）



9（5溝）



10（27溝）



第85図　遺構内出土鉄関連遺物（溝跡）

８．井戸跡

第１号井戸跡（第86図）

［位置・確認層］Ｒ－92、93グリッドに位置する。第Ⅴ層において確認した。

［重複］なし。

［平面形・規模］平面形は不整な楕円形で、開口部は253㎝×238㎝、底面は118㎝×111㎝、深さは268㎝である。

［壁］ほぼ垂直に立ち上がり、中位で外側へ屈曲した後、さらにほぼ垂直に立ち上がる。

［底面］若干の起伏が見られるがほぼ平坦である。

［覆土］12層に分層した。黒色土、黒褐色土主体に堆積し、第７層、第９層、第10層は、崩落土と考えられる。自然堆積と思われる。

［出土遺物］土器は、第５層よりかわらけ（第88図１）、覆土より土師器（甕）（第88図２）が出土している。石器は、第１層より敲磨器（第88図６）が１点出土している。

［時期］出土遺物より中世と思われる。

第２号井戸跡（第86図）

［位置・確認層］Ｒ－94グリッドに位置する。第Ⅴ層において確認した。

［重複］第12号溝跡と重複し、本遺構が新しい。

［平面形・規模］平面形は不整な楕円形で、開口部は長径136㎝、底面は長径66㎝、深さは196㎝である。

［壁］外側へ数度屈曲して立ち上がる。

［底面］ほぼ平坦である。

［覆土］９層に分層した。黒色土、黒褐色土主体に堆積し、第２層、第７層や各層のロームブロックは崩落土と考えられる。自然堆積と思われる。

［出土遺物］なし。

［時期］不明である。

第３号井戸跡（第86図）

［位置・確認層］Ｍ－92グリッドに位置する。第Ⅴ層において確認した。

［重複］第21号溝跡と重複し、本遺構が新しい。

［平面形・規模］平面形は不整な楕円形で、開口部は176㎝×147㎝、底面は104㎝×88㎝、深さは319㎝である。

［壁］ほぼ垂直に立ち上がり、壁中位で屈曲し、外側へ直線的に立ち上がる。

［底面］ほぼ平坦であるが、南側から北側へ若干の傾斜が見られる。

［覆土］７層に分層した。黒色土、黒褐色土主体に堆積し、第４層、第６層は崩落土と考えられる。自然堆積と思われる。

［出土遺物］なし。

［時期］不明である。

第４号井戸跡（第87図）

［位置・確認層］Ｓ－93グリッドに位置する。第Ⅴ層において確認した。

［重複］なし。

［平面形・規模］平面形は不整な楕円形で、開口部は199㎝×172㎝、底面は96㎝×83㎝、深さは229㎝である。

［壁］全体としてほぼ垂直に立ち上がり、壁中位で屈曲し、外側へ直線的に立ち上がる。北東壁には数度の屈曲が見られる。

［底面］外側から中央部へ傾斜が見られる。

［覆土］16層に分層した。黒色土、黒褐色土主体に堆積し、第８層、第10層、第11層、第13層、第15層は崩落土の可能性が考えられる。自然堆積と思われる。ただし、第５層の焼土や礫等から覆土上位は人為堆積の可能性も考えられる。

［出土遺物］なし。

［時期］不明である。

第５号井戸跡（第87図）

［位置・確認層］Ｓ・Ｔ－93グリッドに位置する。第Ⅴ層において確認した。

［重複］なし。

［平面形・規模］平面形は不整な楕円形で、開口部は190㎝×155㎝、底面は98㎝×88㎝、深さは220㎝である。

［壁］外側へ直線的に立ち上がるものと思われる。

［底面］ほぼ平坦である。

［覆土］精査中に覆土が崩落し、詳細な観察は出来なかった。黒褐色土主体に堆積するものと思われ、自然堆積と思われる。

［出土遺物］なし。

［時期］不明である。

第６号井戸跡（第87図）

［位置・確認層］Ｕ－111グリッドに位置する。第Ⅴ層において確認した。

［重複］なし。

［平面形・規模］平面形は不整な円形で、開口部は長径212㎝、底面は114㎝×82㎝、深さは161㎝である。

［壁］外側へ直線的に立ち上がり、壁中位で屈曲しやや内側へすぼまった後、再度外側へ立ち上がる。

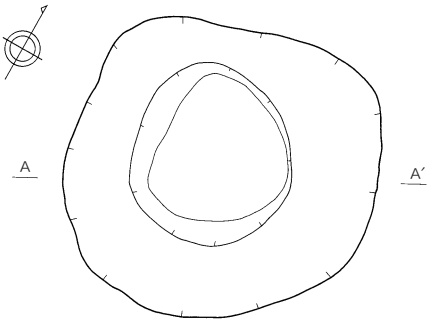
［底面］若干の起伏が見られるがほぼ平坦である。

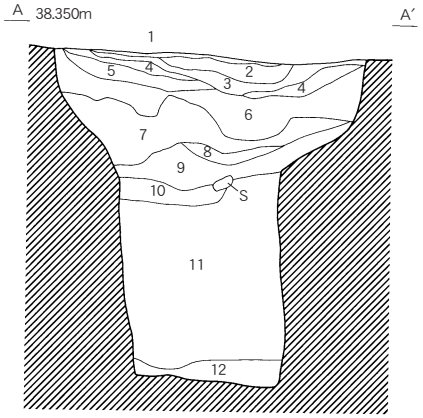
［覆土］18層に分層した。黒色土、黒褐色土主体に堆積し、第11層、第13層、第15～17層は崩落土と思われる。自然堆積と思われる。

［出土遺物］土器は、第18層、第３層より土師器（甕）（第88図５）、第３層より須恵器（壷）（第88図４）、第３、２層より須恵器（壷）（第88図３）、覆土より土師器（甕）（第82図41）が出土している。石器は、第18層より敲磨器（第88図７）が１点出土している。土製品は、第15層より焼成粘土塊（第88図10）、第３層より焼成粘土塊（第88図９）、覆土より焼成粘土塊（第88図８）が各１点出土している。

［時期］出土遺物より平安時代以降と思われる。

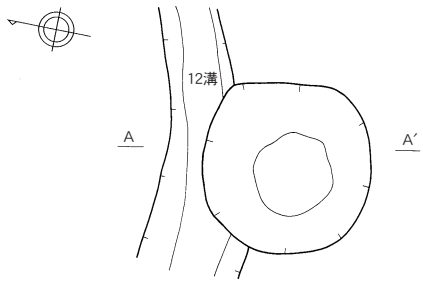
第1号井戸跡

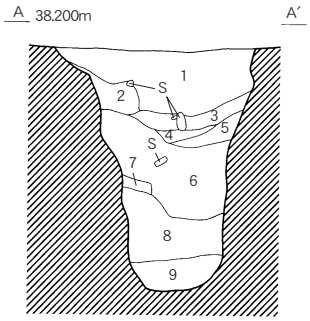




第1号井戸跡
第１層　黒　色　土（10YR2/1）　ローム粒微量、パミス粒微量
第２層　黒 褐 色 土（10YR2/2）　ローム粒少量、パミス粒微量
第３層　黒　色　土（10YR2/1）　ローム粒微量、パミス粒微量
第４層　黒 褐 色 土（10YR2/2）　ローム粒微量
第５層　黒 褐 色 土（10YR3/1）　ローム粒微量
第６層　黒　色　土（10YR2/1）　ローム粒微量
第７層　黄 褐 色 土（2.5Y5/4）
第８層　黒 褐 色 土（10YR2/2）　ローム粒微量
第９層　オリーブ褐色土（2.5Y4/6）
第10層　黒 褐 色 土（10YR3/2）　と褐色土（10YR4/6）の混合土
　　砂多量
第11層　黒　色　土（10YR1.7/1）ローム粒微量、炭化粒微量
第12層　暗 褐 色 土（10YR3/3）　礫多量

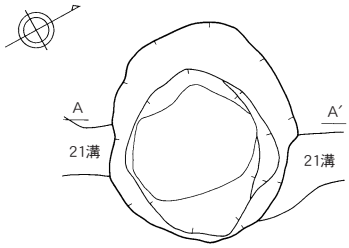
第2号井戸跡

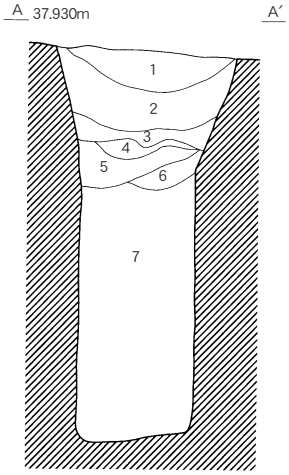




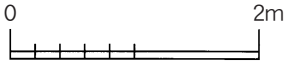
第2号井戸跡
第１層　黒褐色土（10YR2/2）　ローム粒微量
第２層　暗褐色土（10YR4/4）　ロームブロック多量
第３層　黒 色 土（10YR2/1）　ローム粒微量
第４層　黒 色 土（10YR2/2）　ローム粒微量、ロームブロック少量
第５層　黒 色 土（7.5YR2/1）　ローム粒微量、ロームブロック少量
第６層　黒 色 土（10YR2/1）　ローム粒微量
第７層　褐 色 土（10YR4/6）　黒色土混入
第８層　黒 色 土（7.5YR2/1）　ローム粒微量、ロームブロック微量
第９層　黒褐色土（10YR2/3）　と暗褐色土（10YR3/3）の混合土
　　ローム粒少量、礫中量

第3号井戸跡



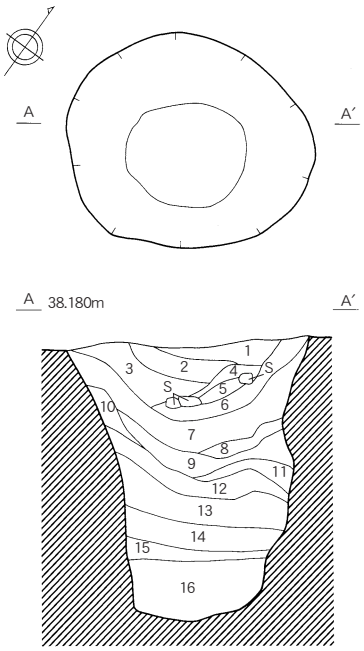


第3号井戸跡
第１層　黒 褐 色 土（10YR3/2）　ローム粒微量
第２層　黒 褐 色 土（10YR2/2）　ローム粒微量
第３層　黒　色　土（10YR2/1）　ローム粒微量
第４層　褐　色　土（10YR4/6）　と黒色土（10YR2/1）の混合土
　　ローム粒微量
第５層　黒　色　土（10YR1.7/1）ローム粒微量
第６層　にぶい橙色（7.5YR7/3）　ローム
第７層　黒 褐 色 土（10YR2/2）　ローム粒少量、礫中量



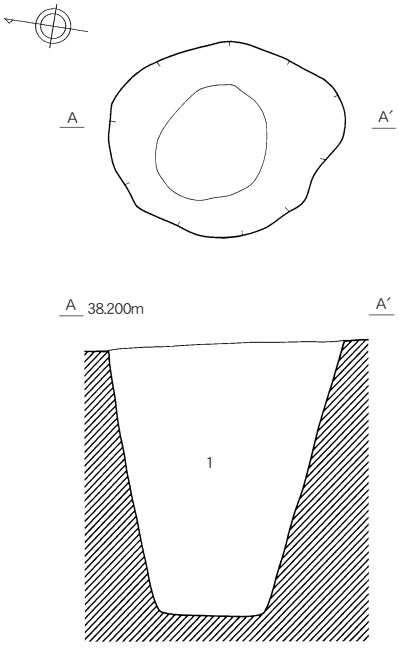
第86図　井戸跡（1）（1～3井）

第4号井戸跡



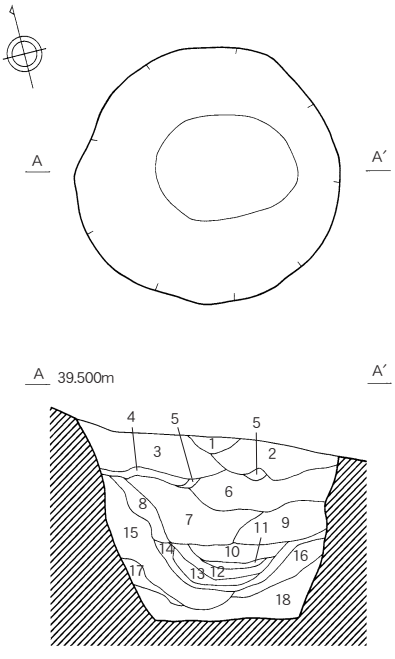
第4号井戸跡
第１層　暗褐色土（7.5YR3/4）炭化粒少量、焼土粒中量
第２層　黒褐色土（7.5YR2/2）ローム粒少量、炭化粒少量
第３層　黒褐色土（10YR2/2）ローム粒少量、炭化粒少量
第４層　黒褐色土（7.5YR2/3）ローム粒微量、焼土粒微量
第５層　赤褐色土（5YR4/8）　焼土
第６層　黒 色 土（10YR2/1）ローム粒少量、炭化粒微量、炭化物微量
第７層　黒褐色土（10YR2/3）ローム粒少量、ロームブロック少量、炭化粒微量、炭化物微量
第８層　黄褐色土（10YR5/6）ローム質
第９層　黒褐色土（10YR2/2）ローム粒少量、ロームブロック少量
第10層　黄褐色土（10YR5/6）ローム質
第11層　黄褐色土（10YR5/6）ローム質
第12層　黒褐色土（7.5YR2/2）ローム粒少量、ロームブロック少量
第13層　黄褐色土（10YR5/6）ローム質
第14層　黒褐色土（7.5YR2/2）ローム粒少量、ロームブロック少量
第15層　黄褐色土（10YR5/6）ローム質
第16層　黒褐色土（7.5YR2/2）ローム粒少量、ロームブロック少量

第5号井戸跡

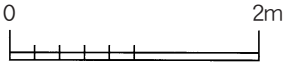


第5号井戸跡
第１層　黒褐色土（10YR2/2）ローム粒少量

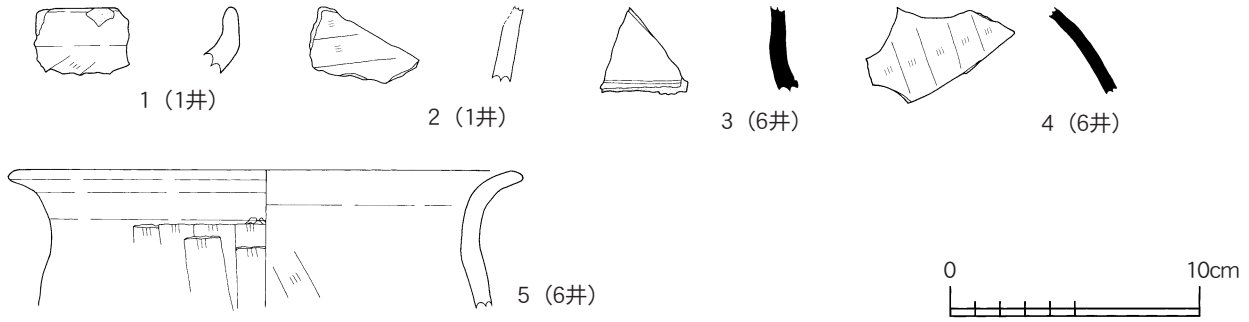
第6号井戸跡

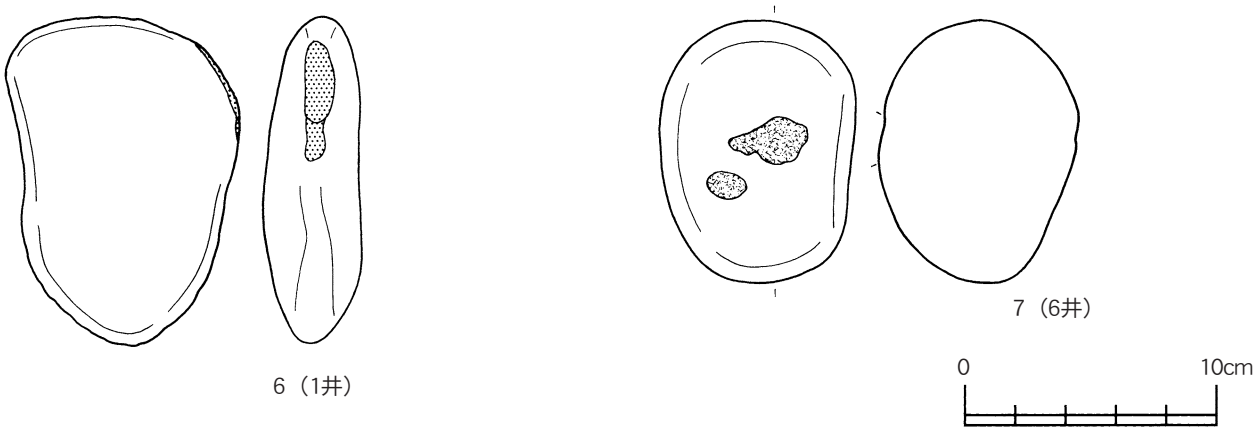


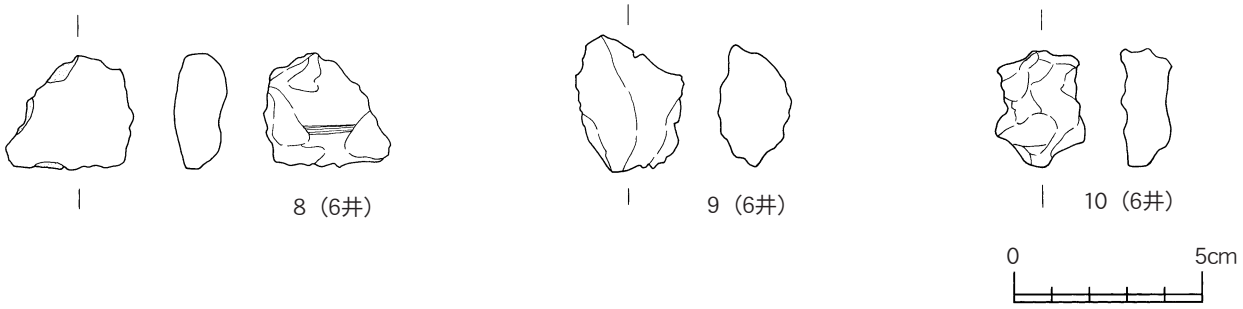
第6号井戸跡
第１層　黒褐色土（10YR2/2）　ローム粒微量
第２層　黒褐色土（10YR2/2）　ローム粒微量
第３層　黒褐色土（10YR2/3）　ローム粒微量
第４層　黒 色 土（10YR1.7/1）ローム粒微量
第５層　黒褐色土（10YR2/2）　とにぶい黄褐色土(10YR5/4)の混合土
ローム粒微量
第６層　黒 色 土（10YR2/1）
第７層　黒褐色土（10YR2/2）
第８層　褐 色 土（10YR4/6）
第９層　黒 色 土（10YR1.7/1）
第10層　黒 色 土（10YR1.7/1）ローム粒微量
第11層　黒 色 土（10YR1.7/1）と黄褐色土(10YR5/6)の混合土
ロームブロック多量
第12層　黒 色 土（10YR2/1）　ローム粒少量、炭化粒微量
第13層　褐 色 土（10YR4/6）　ローム
第14層　黒 色 土（10YR2/1）　ローム粒少量、炭化物微量
第15層　褐 色 土（10YR4/6）　と黒褐色土(10YR2/2)の混合土
交互に層状に堆積
第16層　褐 色 土（10YR4/6）　と黒褐色土(10YR2/2)の混合土
交互に層状に堆積
第17層　褐 色 土（10YR4/6）　ローム
第18層　黒褐色土（10YR2/2）　ローム粒微量



第87図　井戸跡（2）（4～6井）







第88図　遺構内出土土器・石器・土製品（井戸跡）

９．柱穴状ピット

平成16・17年度の調査で計233基の柱穴状ピット（第92図～第103図）を検出している。地点毎にややまとまりをもって分布しており、特にＯ～Ｕ－93～99地点において密度が高いようであるが、規則的な配置等はあまり見られず掘立柱建物跡等の用途の特定は困難である。また、出土遺物もあまり見られないことから時期についても不明なものが多数である。

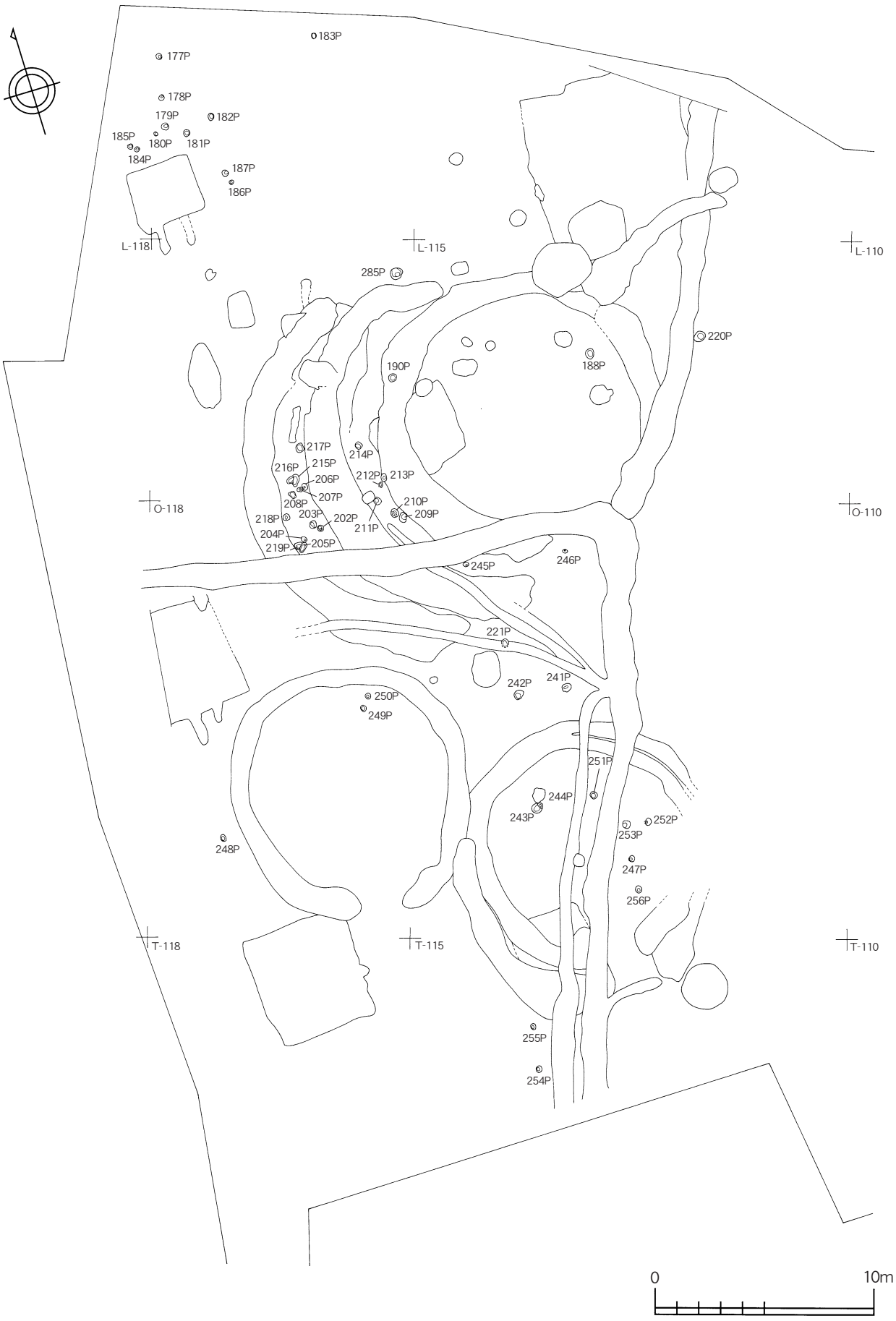
本遺構については、位置、規模等概略を表形式にまとめ以下に記載することとする。

第２表　柱穴状ピット観察表

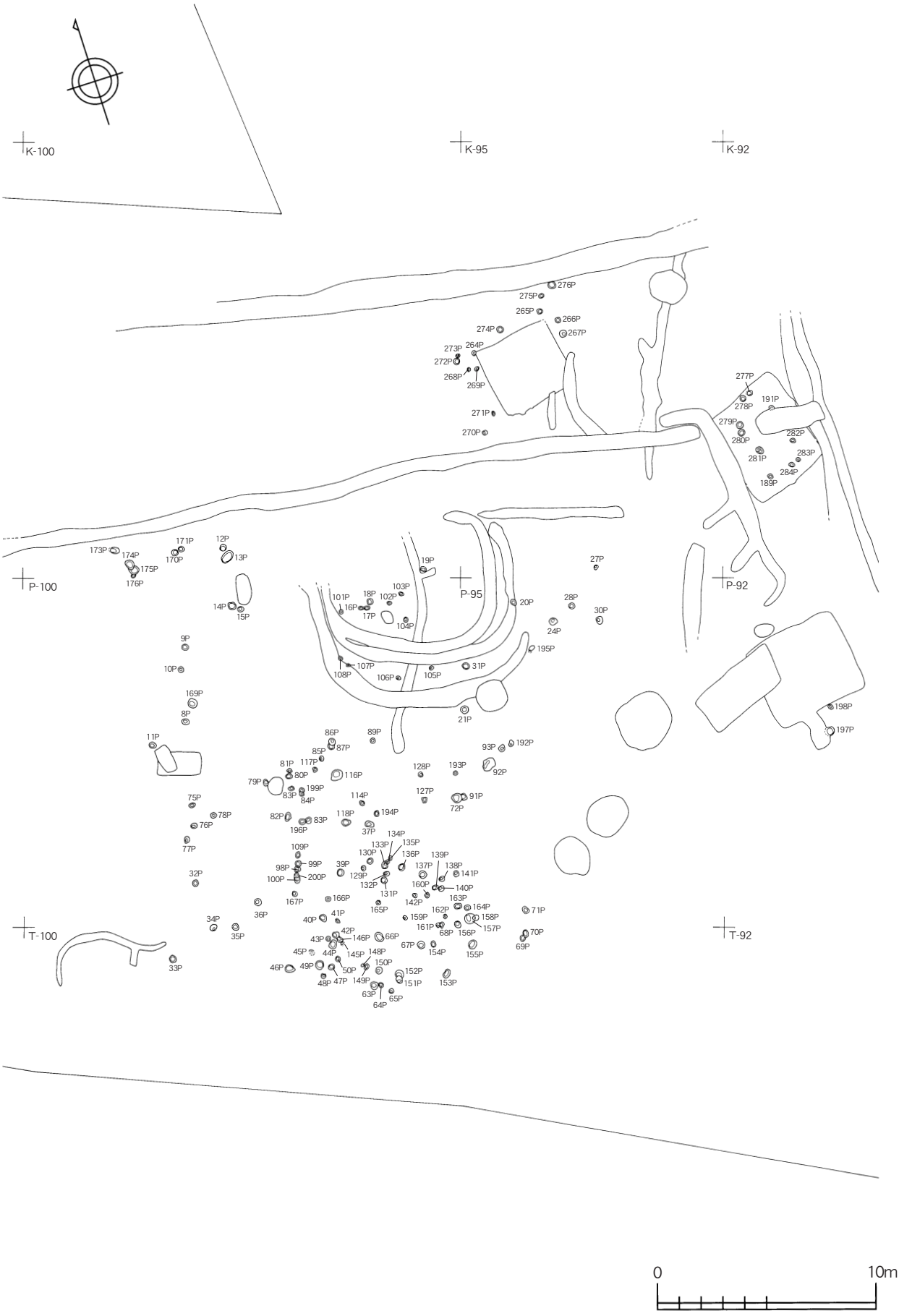
遺構名	図版番号	出土地点	確認層	平面形	規模(cm)			重　　複	備　　考
					上端	下端	深さ		
第8号柱穴状ピット	92図	R-98	V	不整楕円形	31×26	18×16	22	なし	
第9号柱穴状ピット	92図	Q-98	V	不整円形	30×30	22×20	35	なし	
第10号柱穴状ピット	92図	R-98	V	不整楕円形	24×21	18×15	29	なし	
第11号柱穴状ピット	92図	R-98	V	不整楕円形	32×28	22×20	31	なし	
第12号柱穴状ピット	92図	P-97	V	不整楕円形	32×28	22×21	19	なし	
第13号柱穴状ピット	92図	P-97	V	不整楕円形	61×40	55×28	44	なし	
第14号柱穴状ピット	92図	Q-97	V	不整楕円形	42×33	28×24	51	なし	
第15号柱穴状ピット	92図	Q-97	V	不整楕円形	26×22	16×15	21	なし	
第16号柱穴状ピット	92図	Q-96	V	不整楕円形	20×16	14×14	10	なし	
第17号柱穴状ピット	92図	Q-96	V	不整円形	22×21	17×16	13	なし	
第18号柱穴状ピット	92図	Q-96	V	不整円形	28×27	24×16	15	なし	
第19号柱穴状ピット	92図	P-95	V	不整楕円形	26×18	22×14	15	なし	
第20号柱穴状ピット	92図	Q-94	V	不整楕円形	28×26	19×14	30	11溝＞ピット20	
第21号柱穴状ピット	92図	R-94､95	V	不整楕円形	36×33	22×20	43	なし	
第24号柱穴状ピット	92図	Q-93	V	不整円形	36×36	18×12	29	なし	
第27号柱穴状ピット	92図	P-93	V	不整円形	20×18	15×14	7	なし	
第28号柱穴状ピット	92図	Q-93	V	不整円形	28×27	20×19	15	なし	
第30号柱穴状ピット	92図	Q-93	V	不整楕円形	38×30	16×12	29	なし	
第31号柱穴状ピット	92図	Q､R-94	V	不整楕円形	34×28	26×24	18	なし	
第32号柱穴状ピット	92図	T-98	V	不整楕円形	30×26	20×19	40	なし	
第33号柱穴状ピット	93図	U-98	V	不整円形	32×30	24×22	12	なし	
第34号柱穴状ピット	93図	T､U-97	V	不整楕円形	30×26	16×14	22	なし	
第35号柱穴状ピット	93図	T､U-97	V	不整円形	29×28	22×19	11	なし	
第36号柱穴状ピット	93図	T-97	V	不整楕円形	33×30	20×19	21	なし	
第37号柱穴状ピット	93図	S-96	V	不整楕円形	39×27	30×18	25	なし	
第39号柱穴状ピット	93図	Y-96	V	不整楕円形	32×28	26×22	22	なし	
第40号柱穴状ピット	93図	T-96	V	不整楕円形	34×28	24×21	22	なし	
第41号柱穴状ピット	93図	T-96	V	不整楕円形	22×16	16×10	8	なし	
第42号柱穴状ピット	93図	U-96	V	不整円形	32×32	24×20	15	ピット146＜ピット42	
第43号柱穴状ピット	93図	U-96	V	不整円形	23×22	18×18	9	なし	
第44号柱穴状ピット	93図	U-96	V	不整楕円形	38×31	26×20	28	なし	
第45号柱穴状ピット	93図	U-96	V	不整楕円形	(23)×19	(16)×10	16	なし	
第46号柱穴状ピット	93図	U-96､97	V	不整楕円形	47×36	34×28	26	なし	
第47号柱穴状ピット	93図	U-96	V	不整円形	30×28	19×18	13	なし	
第48号柱穴状ピット	93図	U-96	V	不整円形	22×20	14×11	11	なし	
第49号柱穴状ピット	93図	U-96	V	不整円形	40×38	30×28	17	なし	
第50号柱穴状ピット	93図	U-96	V	不整楕円形	24×21	18×14	14	なし	
第63号柱穴状ピット	93図	U-95､96	V	不整楕円形	35×30	23×20	26	なし	
第64号柱穴状ピット	93図	U-95	V	不整円形	21×20	16×14	27	なし	
第65号柱穴状ピット	93図	U-95	V	不整円形	20×18	15×13	11	なし	
第66号柱穴状ピット	94図	U-95	V	不整楕円形	46×34	30×20	16	なし	
第67号柱穴状ピット	94図	U-95	V	不整円形	33×31	24×21	14	なし	
第68号柱穴状ピット	94図	T､U-95	V	不整楕円形	26×22	18×16	18	ピット161＜ピット68	
第69号柱穴状ピット	94図	U-94	V	不整楕円形	(22)×22	(18)×19	20	ピット70＞ピット69	
第70号柱穴状ピット	94図	U-94	V	不整楕円形	32×24	28×18	33	ピット69＜ピット70	
第71号柱穴状ピット	94図	T-94	V	不整楕円形	33×27	21×15	11	なし	
第72号柱穴状ピット	94図	S-95	V	不整楕円形	44×40	32×28	18	ピット91＜ピット72	
第75号柱穴状ピット	94図	S-98	V	不整楕円形	28×20	19×15	15	なし	
第76号柱穴状ピット	94図	S-98	V	不整楕円形	29×23	21×15	10	なし	
第77号柱穴状ピット	94図	S､T-98	V	不整楕円形	30×24	17×8	24	なし	
第78号柱穴状ピット	94図	S-97	V	不整円形	27×26	18×14	25	なし	
第79号柱穴状ピット	94図	S-97	V	不整楕円形	30×24	18×15	27	15土＞ピット79	
第80号柱穴状ピット	94図	S-96､97	V	不整楕円形	32×28	24×20	15	なし	
第81号柱穴状ピット	94図	S-96､97	V	不整楕円形	22×16	16×10	44	なし	
第82号柱穴状ピット	94図	S-96､97	V	不整楕円形	43×27	28×20	16	なし	
第83号柱穴状ピット	94図	S-96	V	不整楕円形	24×19	19×17	59	なし	
第84号柱穴状ピット	94図	S-96	V	不整楕円形	22×16	16×12	7	ピット199＜ピット84	
第85号柱穴状ピット	94図	S-96	V	不整円形	24×22	16×10	19	なし	
第86号柱穴状ピット	94図	R-96	V	不整楕円形	28×(20)	23×17	31	ピット87＞ピット86	
第87号柱穴状ピット	94図	R-96	V	不整円形	30×29	15×13	42	ピット86＜ピット87	
第89号柱穴状ピット	95図	R-96	V	不整円形	24×23	17×14	18	なし	
第91号柱穴状ピット	95図	S-94､95	V	不明	30×(20)	22×(18)	9	ピット72＞ピット91	
第92号柱穴状ピット	95図	S-94	V	不整楕円形	67×46	40×11	31	なし	
第93号柱穴状ピット	95図	R-94	V	不整円形	30×28	17×10	18	なし	
第98号柱穴状ピット	95図	T-96	V	不整楕円形	28×22	22×18	32	なし	
第99号柱穴状ピット	95図	T-96	V	不整円形	24×24	20×18	23	なし	
第100号柱穴状ピット	95図	T-96	V	不明	(22)×30	(14)×20	32	ピット200＞ピット100	
第101号柱穴状ピット	95図	Q-96	V	不整円形	20×19	16×12	13	なし	

遺構名	図版番号	出土地点	確認層	平面形	規模(cm)			重　複	備　考
					上端	下端	深さ		
第102号柱穴状ピット	95図	Q-95	V	不整円形	20×19	14×10	16	なし	
第103号柱穴状ピット	95図	Q-95	V	不整楕円形	23×20	20×15	7	なし	
第104号柱穴状ピット	95図	Q-95	V	不整楕円形	24×20	18×10	8	なし	
第105号柱穴状ピット	95図	R-95	V	不整楕円形	20×16	13×10	17	なし	
第106号柱穴状ピット	95図	R-95	V	不整円形	18×17	12×9	10	なし	
第107号柱穴状ピット	95図	Q、R-96	V	不整楕円形	18×15	11×9	7	12溝＜ピット107	
第108号柱穴状ピット	95図	Q-96	V	不整円形	20×19	15×9	29	12溝＞ピット108	
第109号柱穴状ピット	95図	T-96	V	不整楕円形	26×20	22×17	51	なし	
第113号柱穴状ピット	95図	S-96	V	不整円形	32×30	22×16	32	ピット196＜ピット113	
第114号柱穴状ピット	95図	S-96	V	不整楕円形	24×20	16×13	24	なし	
第116号柱穴状ピット	95図	S-96	V	不整楕円形	58×48	32×26	15	なし	
第117号柱穴状ピット	95図	S-96	V	不整円形	23×21	18×14	49	なし	
第118号柱穴状ピット	96図	S-96	V	不整楕円形	38×32	25×22	37	なし	
第127号柱穴状ピット	96図	S-95	V	不整円形	26×24	21×17	11	なし	
第128号柱穴状ピット	96図	S-95	V	不整楕円形	25×22	16×14	21	なし	
第129号柱穴状ピット	96図	T-96	V	不整円形	20×18	16×14	45	なし	
第130号柱穴状ピット	96図	T-96	V	不整楕円形	26×22	19×18	11	なし	
第131号柱穴状ピット	96図	T-95	V	不整円形	30×28	24×21	16	なし	
第132号柱穴状ピット	96図	T-95	V	不整楕円形	26×20	18×18	43	なし	
第133号柱穴状ピット	96図	T-95	V	不整楕円形	34×30	22×22	42	ピット134＞ピット133	
第134号柱穴状ピット	96図	T-95	V	不整円形	20×20	12×8	9	ピット133＜ピット134	
第135号柱穴状ピット	96図	T-95	V	不整円形	20×18	13×10	24	なし	
第136号柱穴状ピット	96図	T-95	V	不整楕円形	30×27	24×22	22	なし	
第137号柱穴状ピット	96図	T-95	V	不整円形	32×30	24×20	19	なし	
第138号柱穴状ピット	96図	T-95	V	不整楕円形	26×20	19×16	13	なし	
第139号柱穴状ピット	96図	T-95	V	不整楕円形	30×21	20×14	19	なし	
第140号柱穴状ピット	96図	T-95	V	不整円形	26×24	18×10	18	なし	
第141号柱穴状ピット	96図	T-95	V	不整楕円形	28×25	18×16	15	なし	
第142号柱穴状ピット	96図	T-95	V	不整円形	17×17	14×13	33	なし	
第145号柱穴状ピット	96図	U-96	V	不整円形	18×17	24×17	33	なし	
第146号柱穴状ピット	96図	U-96	V	不整楕円形	(25)×22	(22)×17	9	ピット42＞ピット146	
第148号柱穴状ピット	96図	U-96	V	不整楕円形	18×13	11×8	16	なし	
第149号柱穴状ピット	97図	U-96	V	不整楕円形	28×22	18×10	26	なし	
第150号柱穴状ピット	97図	U-95	V	不整円形	32×30	16×16	23	なし	
第151号柱穴状ピット	97図	U-95	V	不整楕円形	34×28	20×14	27	ピット152＜ピット151	覆土より小札(104-4、5)
第152号柱穴状ピット	97図	U-95	V	不整楕円形	40×(24)	24×(16)	24	ピット151＞ピット152	
第153号柱穴状ピット	97図	U-95	V	不整楕円形	44×30	30×15	29	なし	
第154号柱穴状ピット	97図	U-95	V	不整楕円形	23×20	20×17	26	なし	
第155号柱穴状ピット	97図	U-94	V	不整楕円形	43×35	32×18	36	なし	
第156号柱穴状ピット	97図	T、U-95	V	不整円形	30×28	19×18	61	なし	
第157号柱穴状ピット	97図	T-94	V	不整楕円形	(40)×46	34×20	33	ピット158＞ピット157	
第158号柱穴状ピット	97図	T-94	V	不整楕円形	29×23	14×10	9	ピット157＜ピット158	
第159号柱穴状ピット	97図	T-95	V	不整円形	20×20	15×12	21	なし	
第160号柱穴状ピット	97図	T-95	V	不整楕円形	22×22	18×13	14	なし	
第161号柱穴状ピット	97図	T、U-95	V	不整楕円形	20×(16)	12×10	11	ピット68＞ピット161	
第162号柱穴状ピット	97図	T-95	V	不整円形	17×17	12×12	20	なし	
第163号柱穴状ピット	97図	T-95	V	不整楕円形	34×25	25×18	15	なし	
第164号柱穴状ピット	97図	T-94	V	不整楕円形	27×23	16×15	15	なし	
第165号柱穴状ピット	97図	T-95	V	不整楕円形	26×20	14×12	25	なし	
第166号柱穴状ピット	97図	T-96	V	不整楕円形	22×19	17×13	11	なし	
第167号柱穴状ピット	97図	T-96	V	不整楕円形	26×22	19×14	20	なし	
第169号柱穴状ピット	97図	R-98	V	不整楕円形	45×39	26×20	60	なし	
第170号柱穴状ピット	98図	P-98	V	不整楕円形	30×26	21×18	38	なし	
第171号柱穴状ピット	98図	P-98	V	不整楕円形	29×26	19×16	21	なし	
第173号柱穴状ピット	98図	P-98、99	V	不整楕円形	41×29	37×18	18	なし	
第174号柱穴状ピット	98図	P-98	V	不整楕円形	48×34	36×24	44	ピット175＜ピット174	
第175号柱穴状ピット	98図	P-98	V	不整楕円形	(26)×40	30×(22)	43	ピット174＞ピット175＞ピット176	
第176号柱穴状ピット	98図	P-98	V	不整楕円形	(20)×21	(16)×14	22	ピット175＞ピット176	
第177号柱穴状ピット	98図	J-117	V	不整楕円形	26×22	18×17	25	なし	
第178号柱穴状ピット	98図	K-117	V	不整楕円形	30×24	18×10	20	なし	
第179号柱穴状ピット	98図	K-117	V	不整円形	32×32	21×15	16	なし	
第180号柱穴状ピット	98図	K-117	V	不整円形	16×15	11×10	9	なし	
第181号柱穴状ピット	98図	K-117	V	不整楕円形	28×24	22×20	18	なし	
第182号柱穴状ピット	98図	K-117	V	不整楕円形	31×26	22×17	28	なし	
第183号柱穴状ピット	98図	J-116	V	不整円形	25×24	20×20	8	なし	
第184号柱穴状ピット	98図	K-118	V	不整円形	22×22	18×15	13	なし	
第185号柱穴状ピット	98図	K-118	V	不整円形	26×24	20×16	22	なし	
第186号柱穴状ピット	98図	L-117	V	不整円形	22×20	12×10	16	なし	
第187号柱穴状ピット	98図	L-117	V	不整円形	32×30	19×14	34	なし	
第188号柱穴状ピット	98図	N-112、113	V	不整楕円形	48×36	29×22	63	なし	
第189号柱穴状ピット	98図	O-91	V	不整円形	23×22	18×17	24	5住＜ピット189	
第190号柱穴状ピット	98図	N-115	V	不整楕円形	37×29	25×23	15	なし	覆土より土師器片(104-1)
第191号柱穴状ピット	99図	O-91	V	不整楕円形	20×(20)	14×13	14	17溝＞ピット191＞5住	
第192号柱穴状ピット	99図	R-94	V	不整楕円形	26×22	13×12	19	なし	
第193号柱穴状ピット	99図	S-95	V	不整円形	23×22	13×11	13	なし	
第194号柱穴状ピット	99図	S-95、96	V	不整楕円形	24×20	20×18	42	なし	
第195号柱穴状ピット	99図	Q-94	V	不整楕円形	34×20	18×13	33	なし	
第196号柱穴状ピット	99図	S-96	V	不整楕円形	(26)×28	(25)×20	38	ピット113＞ピット196	
第197号柱穴状ピット	99図	R-90	V	不整楕円形	(44)×36	30×27	13	4住＜ピット197	
第198号柱穴状ピット	99図	R-90	V	不整円形	21×20	16×12	13	なし	
第199号柱穴状ピット	99図	S-96	V	不明	24×(16)	18×(15)	13	ピット84＞ピット199	
第200号柱穴状ピット	99図	T-96	V	不整円形	22×20	14×12	52	ピット100＜ピット200	
第202号柱穴状ピット	99図	P-116	V	不整楕円形	28×25	10×6	26	なし	

遺構名	図版番号	出土地点	確認層	平面形	規模(cm)			重　複	備　考
					上端	下端	深さ		
第203号柱穴状ピット	99図	P-116	V	不整円形	35×33	28×14	31	なし	
第204号柱穴状ピット	99図	P-116	V	不整楕円形	28×22	12×10	10	なし	
第205号柱穴状ピット	99図	P-116	V	不整楕円形	47×26	40×16	10	ピット219＜ピット205	
第206号柱穴状ピット	99図	O-116	V	不整楕円形	32×24	13×13	22	なし	
第207号柱穴状ピット	99図	O-116	V	不整楕円形	26×22	12×11	14	なし	
第208号柱穴状ピット	99図	O-116	V	不整楕円形	33×28	(28)×20	7	なし	
第209号柱穴状ピット	99図	P-115	V	不整楕円形	46×38	28×28	22	なし	
第210号柱穴状ピット	99図	P-115	V	不整円形	38×36	21×7	44	なし	
第211号柱穴状ピット	99図	O、P-115	V	不整楕円形	34×28	20×16	34	27土＜ピット211	
第212号柱穴状ピット	100図	O-115	V	不整楕円形	22×15	17×14	13	なし	
第213号柱穴状ピット	100図	O-115	V	不整楕円形	37×28	20×16	33	1円a＜ピット213	
第214号柱穴状ピット	100図	O-115	V	不整楕円形	32×28	27×20	14	なし	
第215号柱穴状ピット	100図	O-116	V	不整楕円形	56×(20)	42×(16)	14	ピット216＞ピット215	
第216号柱穴状ピット	100図	O-116	V	不整楕円形	40×28	35×17	14	ピット215＜ピット216	
第217号柱穴状ピット	100図	O-116	V	不整楕円形	41×37	30×22	37	なし	
第218号柱穴状ピット	100図	P-116	V	不整楕円形	31×30	20×14	12	なし	
第219号柱穴状ピット	100図	P-116	V	不整楕円形	(30)×(30)	23×17	22	ピット205＞ピット219	
第220号柱穴状ピット	100図	N-111	V	不整楕円形	54×44	28×26	28	なし	
第221号柱穴状ピット	100図	Q-113	V	不整楕円形	(38)×32	28×26	28	29溝＜ピット211	
第222号柱穴状ピット	100図	F-98	V	不整楕円形	40×32	26×24	14	なし	
第223号柱穴状ピット	100図	C-99	V	不整楕円形	30×26	23×17	20	ピット232＜ピット223	
第224号柱穴状ピット	100図	F-98	V	不整楕円形	33×32	24×17	13	なし	
第225号柱穴状ピット	100図	F-99	V	不整楕円形	26×22	18×16	10	なし	
第226号柱穴状ピット	100図	D-99	V	不整楕円形	36×26	24×18	22	なし	
第227号柱穴状ピット	100図	D-99	V	不整楕円形	26×21	14×12	24	なし	
第228号柱穴状ピット	100図	D-99	V	不整円形	30×28	20×18	31	なし	
第229号柱穴状ピット	100図	D-99	V	不整楕円形	32×(24)	23×17	40	なし	
第230号柱穴状ピット	100図	C-99	V	不整円形	26×24	16×16	26	なし	
第231号柱穴状ピット	100図	D-99、100	V	不整円形	22×20	17×15	10	なし	
第232号柱穴状ピット	101図	C-99	V	不整楕円形	66×55	46×39	39	ピット223＞ピット232	
第233号柱穴状ピット	101図	C-100	V	不整楕円形	52×47	38×35	53	なし	
第234号柱穴状ピット	101図	C-100	V	不整楕円形	26×22	14×13	13	なし	
第235号柱穴状ピット	101図	B-100	V	不整円形	21×19	14×12	7	なし	
第236号柱穴状ピット	101図	B-100	V	不整楕円形	56×44	33×30	42	なし	
第237号柱穴状ピット	101図	B-100	V	不明	(46)×(22)	(32)×(14)		なし	一部調査区外
第238号柱穴状ピット	101図	A-100	V	不整円形	25×24	18×15	16	なし	
第240号柱穴状ピット	101図	E-98	V	不整楕円形	26×21	19×16	20	38溝＞ピット240	
第241号柱穴状ピット	101図	R-113	V	不整楕円形	42×40	26×11	22	なし	第１層より土師器片(104-２)
第242号柱穴状ピット	101図	R-113	V	不整楕円形	42×40	28×22	20	なし	
第243号柱穴状ピット	101図	S-113	V	不明	(35)×46	(27)×29	26	ピット244＞ピット243	
第244号柱穴状ピット	101図	S-113	V	不整楕円形	34×24	17×12	29	ピット243＜ピット244	
第245号柱穴状ピット	101図	P-114	V	不整円形	25×23	8×7	24	なし	
第246号柱穴状ピット	101図	P-113	V	不整楕円形	24×20	8×7	33	なし	
第247号柱穴状ピット	101図	T-112	V	不整円形	29×27	16×16	40	なし	覆土より羽口(104-3)、椀形鍛冶滓２点(104-6、7)
第248号柱穴状ピット	102図	S-117	V	不整楕円形	31×23	22×16	23	なし	
第249号柱穴状ピット	102図	R-115	V	不整円形	26×26	20×19	14	なし	
第250号柱穴状ピット	102図	R-115	V	不整円形	24×23	16×14	16	なし	
第251号柱穴状ピット	102図	S-112	V	不整楕円形	36×32	26×23	30	なし	
第252号柱穴状ピット	102図	S-112	V	不整楕円形	33×26	10×8	37	なし	
第253号柱穴状ピット	102図	S-112	V	不整円形	38×36	23×21	57	なし	覆土より椀形鍛冶滓(104-8)
第254号柱穴状ピット	102図	V-113	V	不整円形	30×29	18×17	32	なし	
第255号柱穴状ピット	102図	V-113	V	不整円形	26×24	18×13	24	なし	
第256号柱穴状ピット	102図	T-112	V	不整楕円形	34×28	18×17	38	なし	
第257号柱穴状ピット	102図	I-96	V	不整楕円形	46×42	22×18	42	なし	
第258号柱穴状ピット	102図	I-95	V	不整楕円形	30×26	13×12	16	なし	
第259号柱穴状ピット	102図	J-94	V	不整円形	32×30	25×22	14	なし	
第260号柱穴状ピット	102図	I、J-92	V	不整円形	18×18	10×9	23	なし	
第261号柱穴状ピット	102図	I-92	V	不整円形	20×18	9×9	18	なし	
第262号柱穴状ピット	102図	J-91、92	V	不整楕円形	34×28	17×17	30	なし	
第263号柱穴状ピット	102図	K-92	V	不整楕円形	32×24	14×14	18	なし	
第264号柱穴状ピット	102図	N-94	V	不整楕円形	21×18	16×10	24	なし	
第265号柱穴状ピット	102図	M-94	V	不整円形	26×24	20×18	10	なし	
第266号柱穴状ピット	102図	N-93	V	不整円形	26×24	20×18	6	なし	
第267号柱穴状ピット	102図	N-93	V	不整円形	30×28	21×14	16	なし	
第268号柱穴状ピット	103図	N-94	V	不整楕円形	18×14	12×10	12	なし	
第269号柱穴状ピット	103図	N-94	V	不整楕円形	22×18	15×12	17	なし	
第270号柱穴状ピット	103図	O-94	V	不整楕円形	23×20	14×10	12	なし	
第271号柱穴状ピット	103図	O-94	V	不整楕円形	22×13	14×10	16	なし	
第272号柱穴状ピット	103図	N-95	V	不整楕円形	30×27	20×18	16	なし	
第273号柱穴状ピット	103図	N-95	V	不整楕円形	21×18	12×8	21	なし	
第274号柱穴状ピット	103図	N-94	V	不整楕円形	28×25	22×20	46	なし	
第275号柱穴状ピット	103図	M-94	V	不整楕円形	21×18	16×14	24	なし	
第276号柱穴状ピット	103図	M-93、94	V	不整円形	34×32	28×28	18	なし	
第277号柱穴状ピット	103図	N-91	V	不整円形	24×23	22×19	43	5住＜ピット277	
第278号柱穴状ピット	103図	N-91	V	不整楕円形	26×23	22×19	38	5住＜ピット278	
第279号柱穴状ピット	103図	O-91	V	不整楕円形	32×28	22×18	49	5住＜ピット279	
第280号柱穴状ピット	103図	O-91	V	不整円形	32×30	25×24	51	5住＜ピット280	
第281号柱穴状ピット	103図	O-91	V	不整楕円形	37×28	17×12	19	5住＜ピット281	
第282号柱穴状ピット	103図	O-91	V	不整円形	22×21	15×13	20	5住＜ピット282	
第283号柱穴状ピット	103図	O-91	V	不整楕円形	21×16	13×11	26	5住＜ピット283	
第284号柱穴状ピット	103図	O-91	V	不整楕円形	24×17	19×14	44	5住＜ピット284	
第285号柱穴状ピット	103図	M-115	V	不整楕円形	58×48	26×23	24	なし	

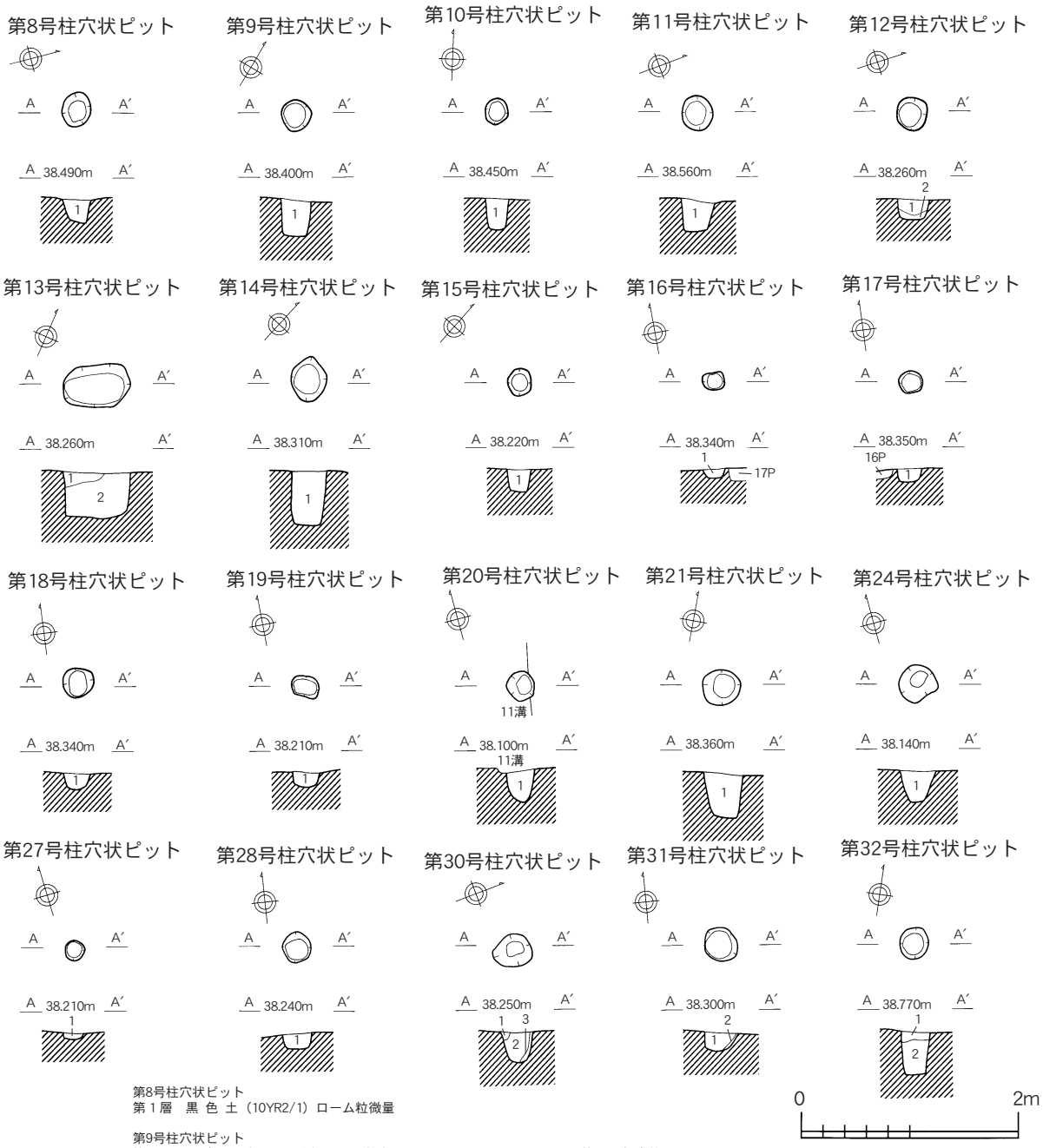


第89図　柱穴状ピット検出状況図（1）



第90図　柱穴状ピット検出状況図（2）

第91図　柱穴状ピット検出状況図（3）



第8号柱穴状ピット
第１層　黒 色 土（10YR2/1）ローム粒微量

第9号柱穴状ピット
第１層　黒 色 土（10YR1.7/1）ローム粒微量

第10号柱穴状ピット
第１層　黒褐色土（10YR2/3）　ローム粒微量

第11号柱穴状ピット
第１層　黒褐色土（10YR2/2）　ローム粒微量

第12号柱穴状ピット
第１層　黒 色 土（10YR1.7/1）ローム粒微量
第２層　黒褐色土（10YR2/3）　ローム粒微量

第13号柱穴状ピット
第１層　黒 色 土（10YR2/1）　ローム粒少量
第２層　黒褐色土（10YR2/3）　ローム粒微量

第14号柱穴状ピット
第１層　黒 色 土（10YR2/1）　ローム粒少量

第15号柱穴状ピット
第１層　黒 色 土（10YR1.7/1）ローム粒微量

第16号柱穴状ピット
第１層　黒 色 土（10YR2/1）　ローム粒微量

第17号柱穴状ピット
第１層　黒 色 土（10YR2/1）　ローム粒微量

第18号柱穴状ピット
第１層　黒 色 土（10YR2/1）　ローム粒微量

第19号柱穴状ピット
第１層　黒 色 土（10YR2/1）　ローム粒微量

第20号柱穴状ピット
第１層　黒 色 土（10YR2/1）　ローム粒微量

第21号柱穴状ピット
第１層　黒褐色土（10YR2/2）　ローム粒微量

第24号柱穴状ピット
第１層　黒褐色土（10YR2/3）　ローム粒微量

第27号柱穴状ピット
第１層　黒褐色土（10YR2/2）　ローム粒微量

第28号柱穴状ピット
第１層　黒 色 土（10YR2/1）　ローム粒微量

第30号柱穴状ピット
第１層　黒褐色土（10YR2/3）　ローム粒微量
第２層　黒褐色土（10YR2/2）　ローム粒微量
第３層　黒褐色土（7.5YR2/2）　ローム粒微量

第31号柱穴状ピット
第１層　黒 色 土（10YR2/1）　ローム粒微量
第２層　黒褐色土（10YR2/3）　ローム粒微量

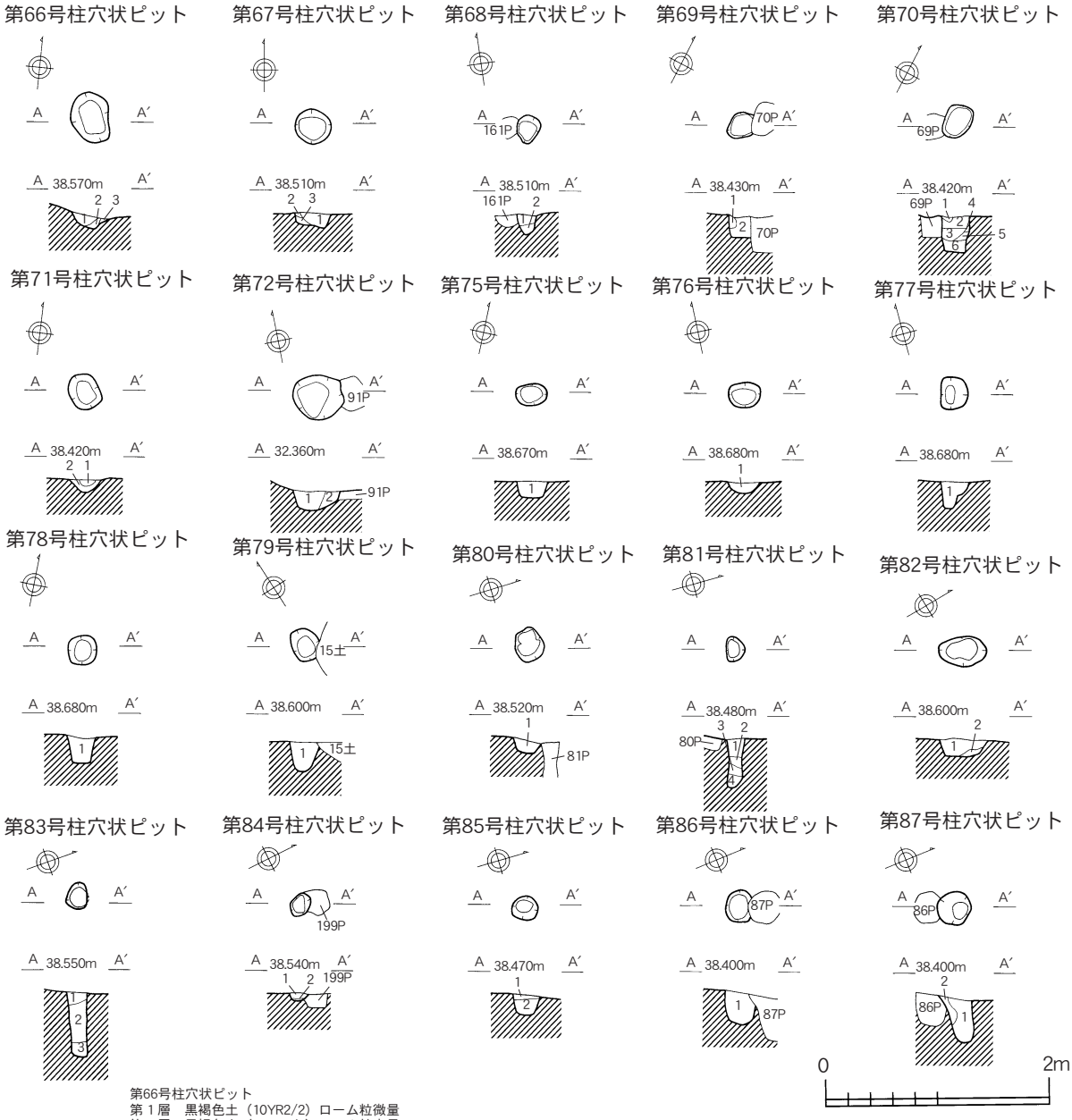
第32号柱穴状ピット
第１層　黒褐色土（10YR2/2）　ローム粒微量
第２層　黒 色 土（10YR2/1）　ローム粒少量

第92図　柱穴状ピット（1）(8～32ピット)

第33号柱穴状ピット
第１層　黒 色 土（10YR2/1）ローム粒微量
第２層　黒褐色土（10YR2/3）ローム粒微量
第34号柱穴状ピット
第１層　黒褐色土（10YR2/2）ローム粒微量
第２層　黒褐色土（10YR2/3）ローム粒微量
第３層　黒褐色土（10YR2/2）ローム粒微量
第35号柱穴状ピット
第１層　黒 色 土（10YR2/1）ローム粒微量
第36号柱穴状ピット
第１層　黒 色 土（10YR2/1）ローム粒微量
第２層　黒褐色土（10YR3/2）ローム粒少量
第37号柱穴状ピット
第１層　黒褐色土（10YR2/2）ローム粒微量、ロームブロック微量、炭化粒微量
第39号柱穴状ピット
第１層　黒褐色土（10YR3/1）
第40号柱穴状ピット
第１層　黒 色 土（10YR2/1）
第41号柱穴状ピット
第１層　黒 色 土（10YR2/1）
第42号柱穴状ピット
第１層　黒 色 土（10YR2/1）ローム粒微量
第２層　黒褐色土（10YR2/2）ローム粒少量
第３層　黒 色 土（10YR2/1）ローム粒微量
第43号柱穴状ピット
第１層　黒褐色土（10YR2/2）ローム粒微量
第２層　黒 色 土（10YR2/1）ローム粒微量
第44号柱穴状ピット
第１層　黒褐色土（10YR2/2）ローム粒少量、ロームブロック少量
第２層　黒 色 土（10YR2/2）ローム粒少量
第３層　黒褐色土（10YR2/1）ローム粒少量、ロームブロック少量
第４層　黒褐色土（10YR2/3）ローム粒少量、ロームブロック少量

第45号柱穴状ピット
第１層　黒褐色土（10YR2/2）ローム粒微量
第46号柱穴状ピット
第１層　黒褐色土（10YR2/2）ローム粒少量
第２層　黒褐色土（10YR2/3）ローム粒少量
第３層　褐 色 土（10YR4/4）黒色土混入
第47号柱穴状ピット
第１層　黒褐色土（10YR2/2）ローム粒微量
第２層　黒褐色土（10YR2/3）
第48号柱穴状ピット
第１層　黒褐色土（10YR2/3）ローム粒少量
第49号柱穴状ピット
第１層　黒褐色土（10YR2/2）ローム粒少量、ロームブロック少量
第２層　黒 色 土（10YR2/1）ローム粒微量
第３層　黒褐色土（10YR2/2）ローム粒少量
第４層　黒 色 土（10YR2/1）ローム粒少量
第５層　黒褐色土（10YR2/3）ローム粒微量
第50号柱穴状ピット
第１層　黒 色 土（10YR2/1）ローム粒微量
第２層　黒褐色土（10YR2/3）ローム粒少量
第63号柱穴状ピット
第１層　黒褐色土（10YR2/2）ローム粒少量
第２層　黒褐色土（10YR2/3）ローム粒少量
第64号柱穴状ピット
第１層　黒 色 土（10YR2/1）ローム粒微量
第65号柱穴状ピット
第１層　黒 色 土（10YR2/1）ローム粒微量、ロームブロック微量
第２層　黒褐色土（10YR2/3）

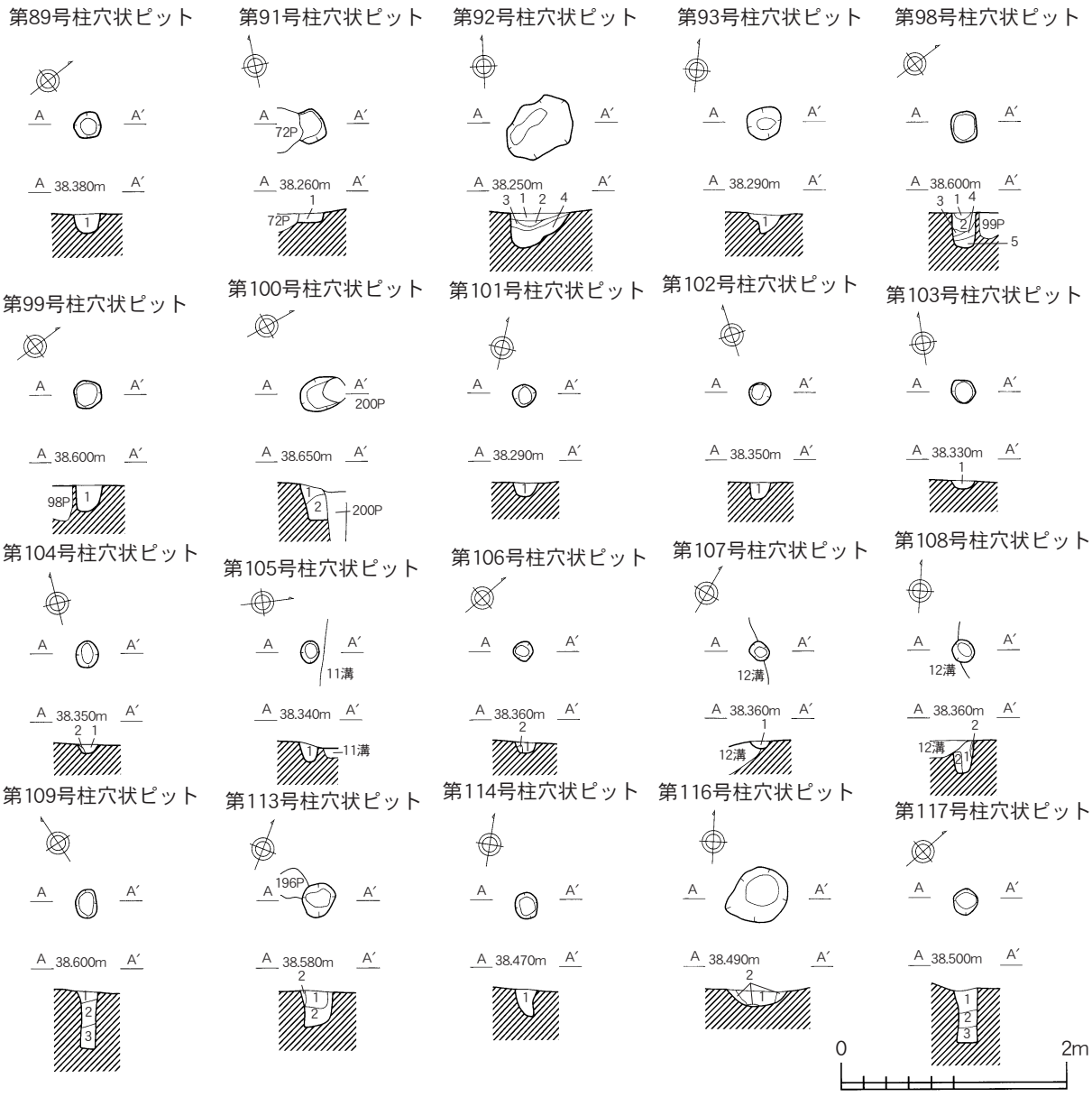
第93図　柱穴状ピット（2）（33～65ピット）



第66号柱穴状ピット
第１層　黒褐色土（10YR2/2）ローム粒微量
第２層　黒褐色土（10YR2/3）ローム粒少量
第３層　黒褐色土（10YR2/2）ローム粒微量
第67号柱穴状ピット
第１層　黒 色 土（10YR2/1）ローム粒少量
第２層　黒褐色土（10YR2/2）ローム粒微量
第３層　黒褐色土（10YR2/3）ローム粒多量
第68号柱穴状ピット
第１層　黒褐色土（10YR2/3）ローム粒少量
第２層　黒 色 土（10YR2/1）ローム粒微量、ロームブロック微量
第69号柱穴状ピット
第１層　黒褐色土（10YR2/2）ローム粒微量
第２層　黒褐色土（10YR2/3）ローム粒多量
第70号柱穴状ピット
第１層　黒褐色土（10YR2/2）
第２層　黒 色 土（10YR2/1）
第３層　黒褐色土（10YR2/2）ローム粒微量
第４層　黒褐色土（10YR2/3）ローム粒少量
第５層　暗褐色土（10YR3/3）ローム粒中量
第６層　黒褐色土（10YR2/2）ローム粒微量
第71号柱穴状ピット
第１層　暗褐色土（10YR3/3）ローム粒微量
第２層　黒褐色土（10YR2/2）ローム粒多量
第72号柱穴状ピット
第１層　黒 色 土（10YR2/1）ローム粒少量
第２層　黒褐色土（10YR2/3）ローム粒中量、ロームブロック中量、炭化粒微量
第75号柱穴状ピット
第１層　黒 色 土（10YR2/1）
第76号柱穴状ピット
第１層　黒 色 土（10YR2/1）
第77号柱穴状ピット
第１層　黒褐色土（10YR3/1）と黒色土(10YR2/1)の混合土
第78号柱穴状ピット
第１層　黒 色 土（10YR2/1）

第79号柱穴状ピット
第１層　黒褐色土（10YR2/2）ローム粒微量
第80号柱穴状ピット
第１層　黒 色 土（10YR2/1）ローム粒微量
第81号柱穴状ピット
第１層　黒 色 土（10YR2/1）ローム粒微量
第２層　黒褐色土（10YR2/2）ローム粒微量
第３層　黒 色 土（10YR2/1）ローム粒微量
第４層　黒褐色土（10YR2/3）ローム粒微量、ロームブロック微量
第82号柱穴状ピット
第１層　黒 色 土（10YR2/1）ローム粒微量
第２層　黒褐色土（10YR2/2）
第83号柱穴状ピット
第１層　黒 色 土（10YR2/1）ローム粒微量
第２層　黒 色 土（7.5YR2/1）ローム粒微量
第３層　黒 色 土（10YR2/1）ローム粒微量
第84号柱穴状ピット
第１層　黒褐色土（10YR2/3）ローム粒微量
第２層　暗褐色土（10YR3/4）ローム粒微量
第85号柱穴状ピット
第１層　黒褐色土（10YR2/2）ローム粒微量
第２層　黒 色 土（10YR2/1）ローム粒微量
第86号柱穴状ピット
第１層　黒褐色土（10YR2/2）ローム粒微量
第87号柱穴状ピット
第１層　黒褐色土（10YR2/2）ローム粒微量
第２層　黒褐色土（10YR2/3）ローム粒微量

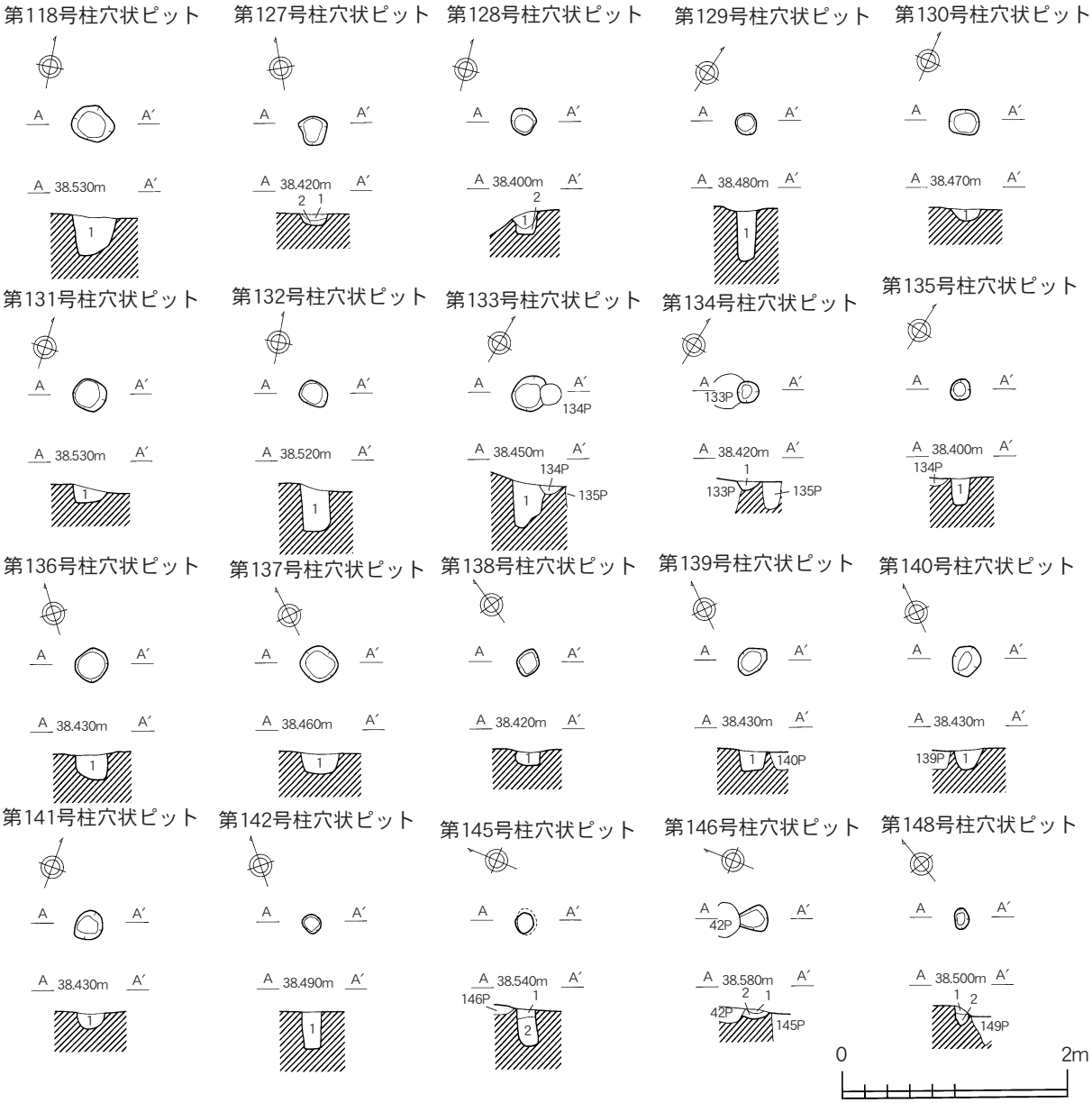
第94図　柱穴状ピット（3）（66～87ピット）



第89号柱穴状ピット
第１層　黒 色 土（10YR2/1）　ローム粒微量
第91号柱穴状ピット
第１層　黒 色 土（10YR2/1）　ローム粒微量、炭化粒少量
第92号柱穴状ピット
第１層　黒褐色土（10YR2/2）　ローム粒少量
第２層　暗褐色土（10YR3/4）　ローム粒微量
第３層　黒 色 土（10YR2/1）　ローム粒微量
第４層　暗褐色土（10YR3/3）　ローム粒中量、ロームブロック中量
第93号柱穴状ピット
第１層　黒 色 土（10YR2/1）　ローム粒少量
第98号柱穴状ピット
第１層　黒褐色土（10YR2/2）　ローム粒微量
第２層　黒 色 土（10YR2/1）　ローム粒少量
第３層　暗褐色土（10YR3/3）
第４層　黒褐色土（10YR2/2）　ローム粒少量
第５層　黒褐色土（10YR2/3）　ローム粒微量
第99号柱穴状ピット
第１層　黒 色 土（10YR2/1）　ローム粒微量
第100号柱穴状ピット
第１層　黒 色 土（10YR1.7/1）ローム粒微量
第２層　黒褐色土（10YR2/2）　ローム粒少量
第101号柱穴状ピット
第１層　黒褐色土（10YR2/2）　ローム粒微量
第102号柱穴状ピット
第１層　黒褐色土（10YR2/2）　ローム粒少量
第103号柱穴状ピット
第１層　黒 色 土（10YR2/3）　ローム粒微量

第104号柱穴状ピット
第１層　黒褐色土（10YR2/2）ローム粒微量
第２層　黒褐色土（10YR2/3）ローム粒微量
第105号柱穴状ピット
第１層　黒褐色土（10YR2/2）ローム粒微量
第106号柱穴状ピット
第１層　黒 色 土（10YR2/1）ローム粒微量
第２層　黒褐色土（10YR2/3）ローム粒微量
第107号柱穴状ピット
第１層　黒 色 土（10YR2/1）ローム粒微量
第108号柱穴状ピット
第１層　黒 色 土（10YR2/1）ローム粒微量
第２層　黒褐色土（10YR2/3）
第109号柱穴状ピット
第１層　黒褐色土（10YR2/2）ローム粒少量
第２層　黒褐色土（10YR2/3）ローム粒少量
第３層　暗褐色土（10YR3/3）
第113号柱穴状ピット
第１層　黒褐色土（10YR2/2）ローム粒微量
第２層　黒褐色土（10YR2/3）ローム粒微量、焼土ブロック微量
第114号柱穴状ピット
第１層　黒 色 土（10YR2/1）ローム粒微量、炭化粒微量
第116号柱穴状ピット
第１層　黒褐色土（10YR2/2）ローム粒微量
第２層　黒褐色土（10YR2/3）ローム粒微量、炭化粒微量
第117号柱穴状ピット
第１層　黒褐色土（10YR2/2）ローム粒微量
第２層　黒 色 土（10YR2/1）ローム粒微量
第３層　黒褐色土（10YR2/3）ローム粒微量

第95図　柱穴状ピット（4）（89～117ピット）



第118号柱穴状ピット
第１層　黒褐色土（10YR2/2）ローム粒微量、炭化粒微量

第127号柱穴状ピット
第１層　黒 色 土（10YR2/1）ローム粒微量
第２層　黒褐色土（10YR2/3）ローム粒少量

第128号柱穴状ピット
第１層　黒褐色土（10YR2/2）ローム粒微量
第２層　黒褐色土（10YR2/3）ローム粒微量

第129号柱穴状ピット
第１層　黒褐色土（10YR3/1）

第130号柱穴状ピット
第１層　黒 色 土（10YR2/1）

第131号柱穴状ピット
第１層　黒褐色土（10YR3/1）

第132号柱穴状ピット
第１層　黒 色 土（10YR2/1）

第133号柱穴状ピット
第１層　黒褐色土（10YR3/1）

第134号柱穴状ピット
第１層　黒 色 土（10YR2/1）

第135号柱穴状ピット
第１層　黒 色 土（10YR2/1）

第136号柱穴状ピット
第１層　黒 色 土（10YR2/1）

第137号柱穴状ピット
第１層　黒褐色土（10YR3/1）礫中量

第138号柱穴状ピット
第１層　黒 色 土（10YR2/1）黒褐色土(10YR2/3)少量

第139号柱穴状ピット
第１層　黒褐色土（10YR3/1）ロームブロック少量

第140号柱穴状ピット
第１層　黒 色 土（10YR2/1）

第141号柱穴状ピット
第１層　黒 色 土（10YR2/1）黒褐色土(10YR2/3)少量

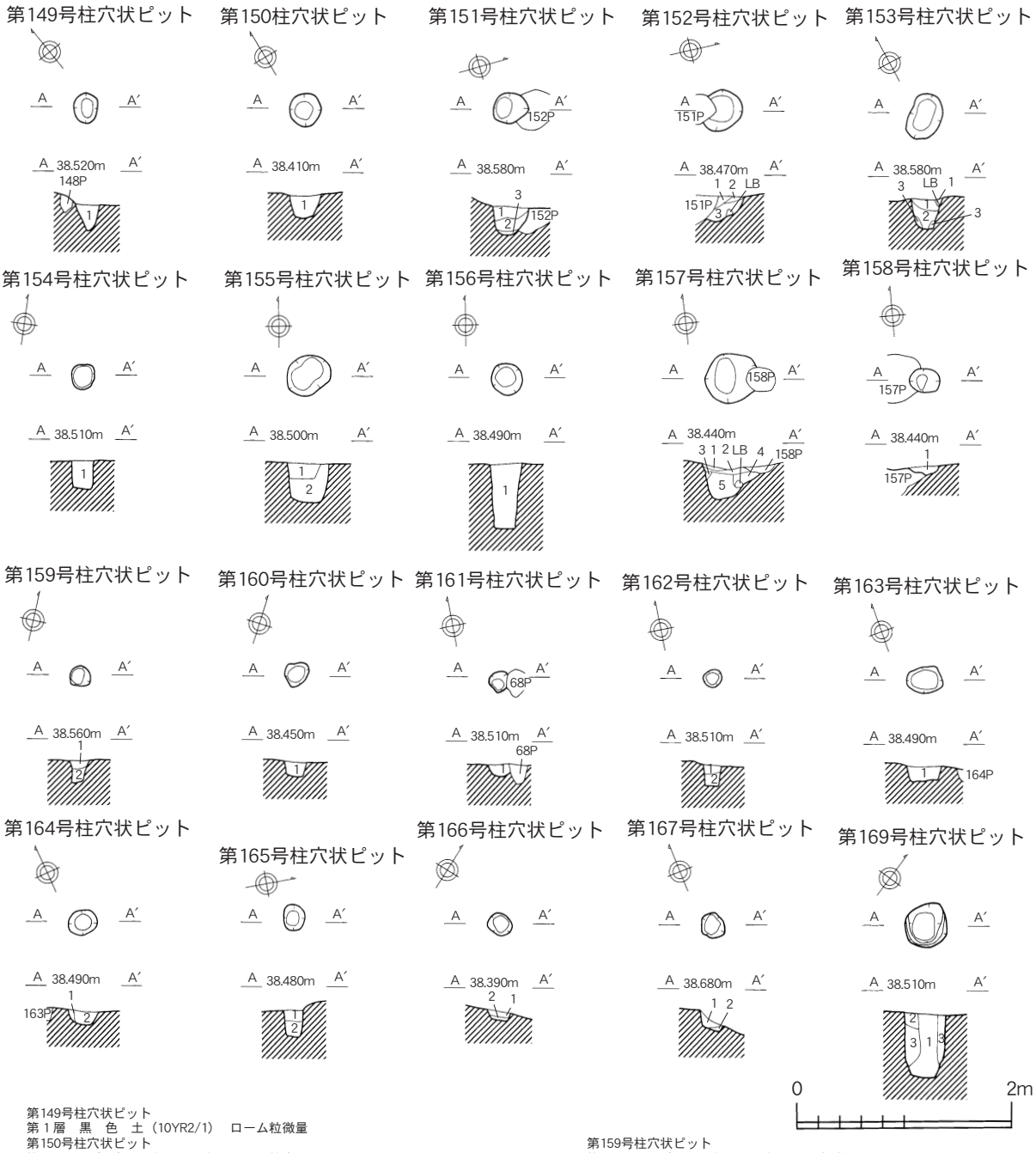
第142号柱穴状ピット
第１層　黒 色 土（10YR2/1）

第145号柱穴状ピット
第１層　黒 色 土（10YR2/1）ローム粒少量
第２層　黒 色 土（10YR2/1）ローム粒少量、ロームブロック少量

第146号柱穴状ピット
第１層　黒褐色土（10YR2/2）ローム粒微量
第２層　黒 色 土（10YR2/1）ローム粒微量

第148号柱穴状ピット
第１層　黒 色 土（10YR2/1）ローム粒微量
第２層　褐 色 土（10YR4/4）黒色土混入

第96図　柱穴状ピット（5）（118～148ピット）

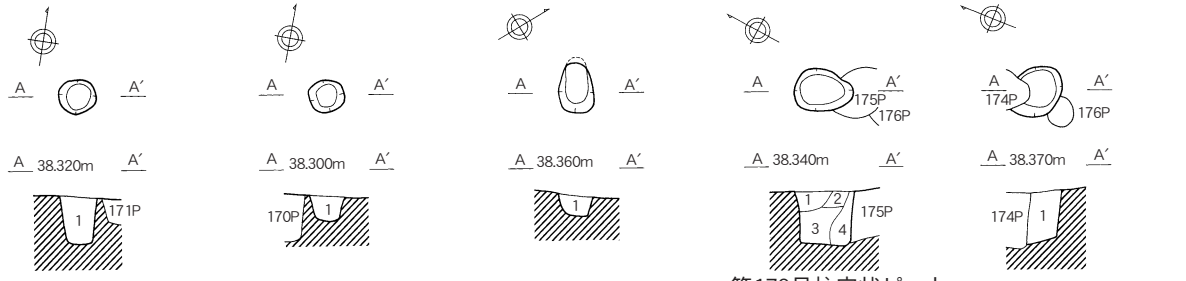


第149号柱穴状ピット
第１層　黒　色　土（10YR2/1）　ローム粒微量
第150号柱穴状ピット
第１層　黒 褐 色 土（10YR2/3）　ローム粒少量
第151号柱穴状ピット
第１層　黒 褐 色 土（10YR2/3）　暗褐色土混入、ローム粒少量
第２層　黒　色　土（10YR2/1）　ローム粒微量
第３層　黒 褐 色 土（10YR2/2）　ローム粒少量
第152号柱穴状ピット
第１層　黒 褐 色 土（10YR2/2）　ローム粒微量
第２層　褐　色　土（10YR4/6）
第３層　黒　色　土（10YR2/1）　ローム粒微量
第153号柱穴状ピット
第１層　黒　色　土（10YR2/1）　黒褐色土(10YR3/2)少量、ローム粒少量
第２層　黒　色　土（10YR1.7/1）ローム粒微量
第３層　黒 褐 色 土（10YR3/2）　ローム粒少量
第154号柱穴状ピット
第１層　黒　色　土（10YR2/1）　ローム粒微量
第155号柱穴状ピット
第１層　黒　色　土（10YR2/1）　ローム粒微量、ロームブロック微量
第２層　黒 褐 色 土（10YR2/2）　ローム粒微量
第156号柱穴状ピット
第１層　黒　色　土（10YR2/1）　ローム粒少量、ロームブロック少量
第157号柱穴状ピット
第１層　黒　色　土（10YR2/1）　ローム粒微量
第２層　黒 褐 色 土（10YR2/2）　ローム粒中量
第３層　黒　色　土（10YR2/1）　ローム粒少量
第４層　黒　色　土（10YR2/1）　焼土粒微量
第５層　黒 褐 色 土（10YR2/2）　ローム粒微量
第158号柱穴状ピット
第１層　黒　色　土（10YR2/1）　ローム粒少量

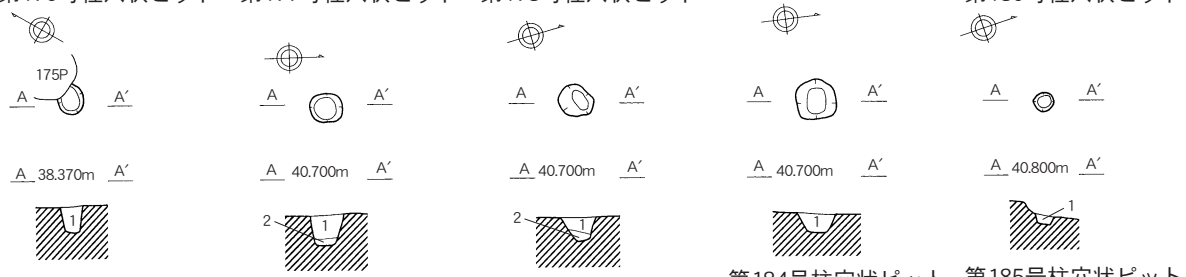
第159号柱穴状ピット
第１層　黒　色　土（10YR2/1）ローム粒微量
第２層　黒 褐 色 土（10YR2/2）ローム粒少量
第160号柱穴状ピット
第１層　黒 褐 色 土（10YR3/1）褐色土(10YR4/4)中量
第161号柱穴状ピット
第１層　黒 褐 色 土（10YR2/2）ローム粒少量、ロームブロック微量
第162号柱穴状ピット
第１層　黒 褐 色 土（10YR2/3）ローム粒微量
第２層　黒 褐 色 土（10YR2/2）ローム粒少量
第163号柱穴状ピット
第１層　黒　色　土（10YR2/1）
第164号柱穴状ピット
第１層　黒 褐 色 土（10YR2/3）
第２層　黒　色　土（10YR2/1）
第165号柱穴状ピット
第１層　黒 褐 色 土（10YR2/3）
第２層　黒　色　土（10YR2/1）
第166号柱穴状ピット
第１層　黒　色　土（10YR2/1）ローム粒少量
第２層　暗 褐 色 土（10YR3/3）
第167号柱穴状ピット
第１層　黒 褐 色 土　　ローム粒微量
第２層　黒 褐 色 土（10YR3/2）と明黄褐色土(10YR6/6)の混合土
第169号柱穴状ピット
第１層　黒　色　土（10YR2/1）ローム粒微量
第２層　黒 褐 色 土（10YR2/2）ローム粒少量
第３層　黒 褐 色 土（10YR2/3）ローム粒微量、ロームブロック微量

第97図　柱穴状ピット（6）（149～169ピット）

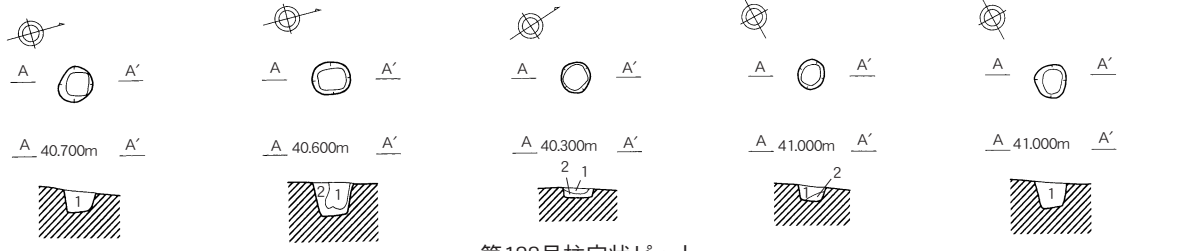
第170号柱穴状ピット　第171号柱穴状ピット　第173号柱穴状ピット　第174号柱穴状ピット　第175号柱穴状ピット



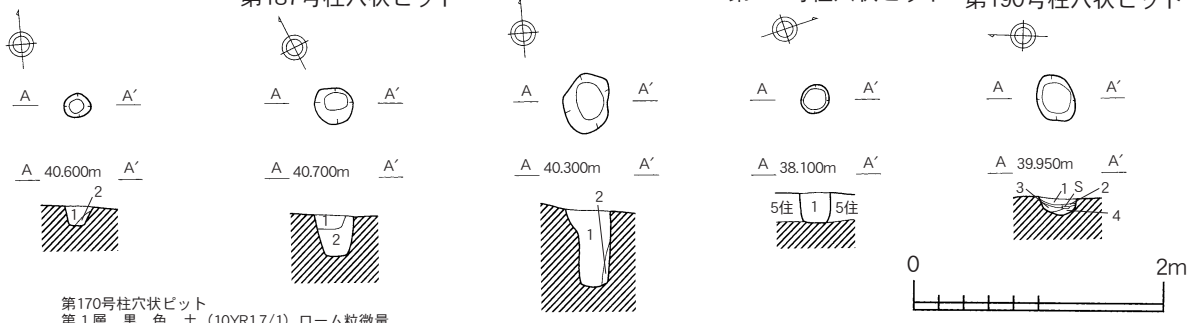
第176号柱穴状ピット　第177号柱穴状ピット　第178号柱穴状ピット　第179号柱穴状ピット　第180号柱穴状ピット



第181号柱穴状ピット　第182号柱穴状ピット　第183号柱穴状ピット　第184号柱穴状ピット　第185号柱穴状ピット



第186号柱穴状ピット　第187号柱穴状ピット　第188号柱穴状ピット　第189号柱穴状ピット　第190号柱穴状ピット



第170号柱穴状ピット
第１層　黒　色　土（10YR1.7/1）ローム粒微量

第171号柱穴状ピット
第１層　黒　色　土（10YR1.7/1）ローム粒少量

第173号柱穴状ピット
第１層　黒　色　土（10YR1.7/1）ローム粒微量

第174号柱穴状ピット
第１層　黒　色　土（10YR1.7/1）ローム粒微量
第２層　黒褐色土（10YR2/2）　ローム粒少量
第３層　黒　色　土（10YR2/1）　ローム粒微量
第４層　黒褐色土（10YR2/3）

第175号柱穴状ピット
第１層　黒　色　土（10YR2/1）　ローム粒微量

第176号柱穴状ピット
第１層　黒　色　土（10YR1.7/1）ローム粒微量

第177号柱穴状ピット
第１層　黒褐色土（10YR2/2）　ローム粒微量
第２層　黒褐色土（10YR2/3）　ローム粒中量

第178号柱穴状ピット
第１層　黒褐色土（10YR2/2）　ロームブロック少量
第２層　黒褐色土（10YR2/3）　ローム粒中量

第179号柱穴状ピット
第１層　黒褐色土（10YR2/2）　ローム粒少量

第180号柱穴状ピット
第１層　黒褐色土（10YR2/2）　ローム粒少量

第181号柱穴状ピット
第１層　黒褐色土（10YR2/2）　ローム粒微量、炭化粒微量

第182号柱穴状ピット
第１層　黒褐色土（10YR2/2）ローム粒微量、炭化粒微量
第２層　黒褐色土（10YR2/3）ローム粒多量、ロームブロック多量

第183号柱穴状ピット
第１層　黒褐色土（10YR2/2）ローム粒微量
第２層　褐　色　土（10YR4/6）黒褐色土(10YR2/3)少量

第184号柱穴状ピット
第１層　黒褐色土（10YR2/3）ローム粒微量
第２層　褐　色　土（10YR4/4）ローム粒微量、炭化粒微量

第185号柱穴状ピット
第１層　黒褐色土（10YR2/3）ローム粒微量、炭化粒微量

第186号柱穴状ピット
第１層　黒褐色土（10YR2/3）黄褐色土混入、ローム粒微量、炭化粒微量、
第２層　黄褐色土（10YR5/8）ローム粒微量、炭化粒微量

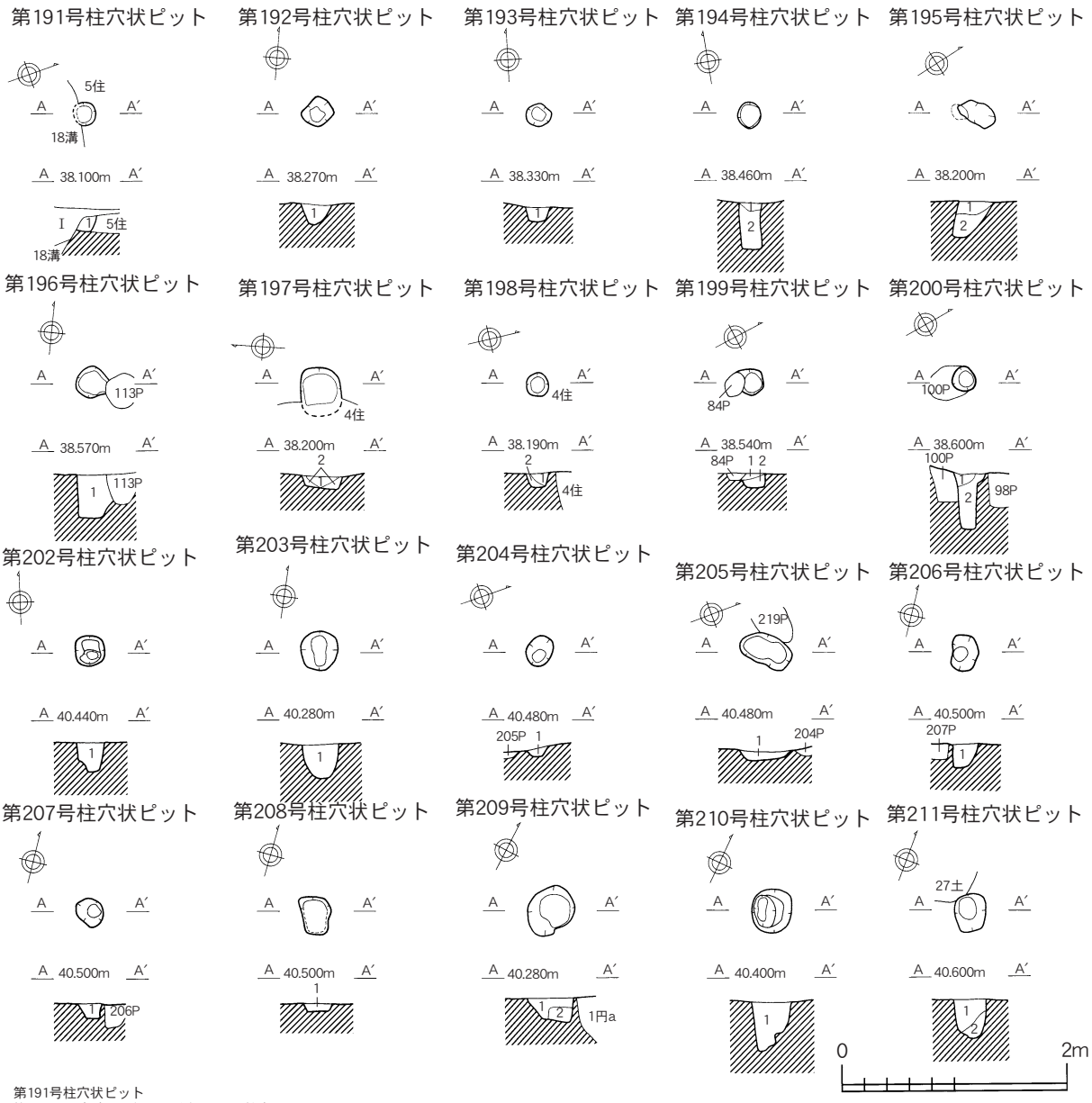
第187号柱穴状ピット
第１層　暗褐色土（10YR3/3）ローム粒少量、炭化粒微量
第２層　黒褐色土（10YR2/2）ローム粒微量

第188号柱穴状ピット
第１層　暗褐色土（10YR3/3）ローム粒微量、ロームブロック微量、炭化粒微量
第２層　にぶい黄褐色土（10YR5/8）ローム粒中量、ロームブロック中量

第189号柱穴状ピット
第１層　黒褐色土（10YR2/2）ローム粒微量

第190号柱穴状ピット
第１層　褐　色　土（7.5YR4/3）ローム粒微量、ロームブロック微量、炭化粒少量
第２層　黒褐色土（7.5YR2/2）ローム粒微量、炭化粒微量
第３層　褐　色　土（7.5YR4/4）黒色土混入、ローム粒中量、ロームブロック中量、炭化粒微量
第４層　黒　色　土（7.5YR2/1）ローム粒微量、炭化粒微量

第98図　柱穴状ピット（7）（170～190ピット）



第191号柱穴状ピット
第１層　黒褐色土（10YR2/3）ローム粒少量

第192号柱穴状ピット
第１層　黒色土（10YR2/1）ローム粒微量

第193号柱穴状ピット
第１層　黒 色 土（10YR2/1）ローム粒微量

第194号柱穴状ピット
第１層　黒 色 土（10YR2/1）ローム粒微量
第２層　黒褐色土（10YR2/2）ローム粒少量

第195号柱穴状ピット
第１層　黒 色 土（10YR2/1）ローム粒微量
第２層　黒褐色土（10YR2/3）ローム粒微量

第196号柱穴状ピット
第１層　黒 色 土（10YR2/1）ローム粒微量

第197号柱穴状ピット
第１層　黒褐色土（10YR2/2）ローム粒微量
第２層　暗褐色土（10YR3/4）ローム粒少量

第198号柱穴状ピット
第１層　黒褐色土（10YR2/3）暗褐色土(10YR3/3)少量
第２層　暗褐色土（10YR3/4）ローム粒微量

第199号柱穴状ピット
第１層　黒褐色土（10YR2/2）ローム粒少量
第２層　黒 色 土（10YR2/1）ローム粒少量

第200号柱穴状ピット
第１層　黒褐色土（10YR2/2）と褐色土(10YR4/4)の混合土
ローム粒少量
第２層　黒褐色土（10YR2/3）ローム粒少量

第202号柱穴状ピット
第１層　黒褐色土（10YR2/2）ローム粒少量、炭化物少量

第203号柱穴状ピット
第１層　黒褐色土（10YR2/2）ローム粒少量、ロームブロック少量、焼土粒微量

第204号柱穴状ピット
第１層　黒褐色土（10YR2/2）と褐色土(10YR4/4)の混合土
焼土粒微量、ローム粒少量

第205号柱穴状ピット
第１層　黒 色 土（10YR2/1）と黒褐色土(10YR2/2)の混合土
ローム粒少量、パミス粒微量、焼土粒微量

第206号柱穴状ピット
第１層　黒褐色土（10YR2/2）ローム粒少量

第207号柱穴状ピット
第１層　黒褐色土（10YR2/3）ローム粒微量

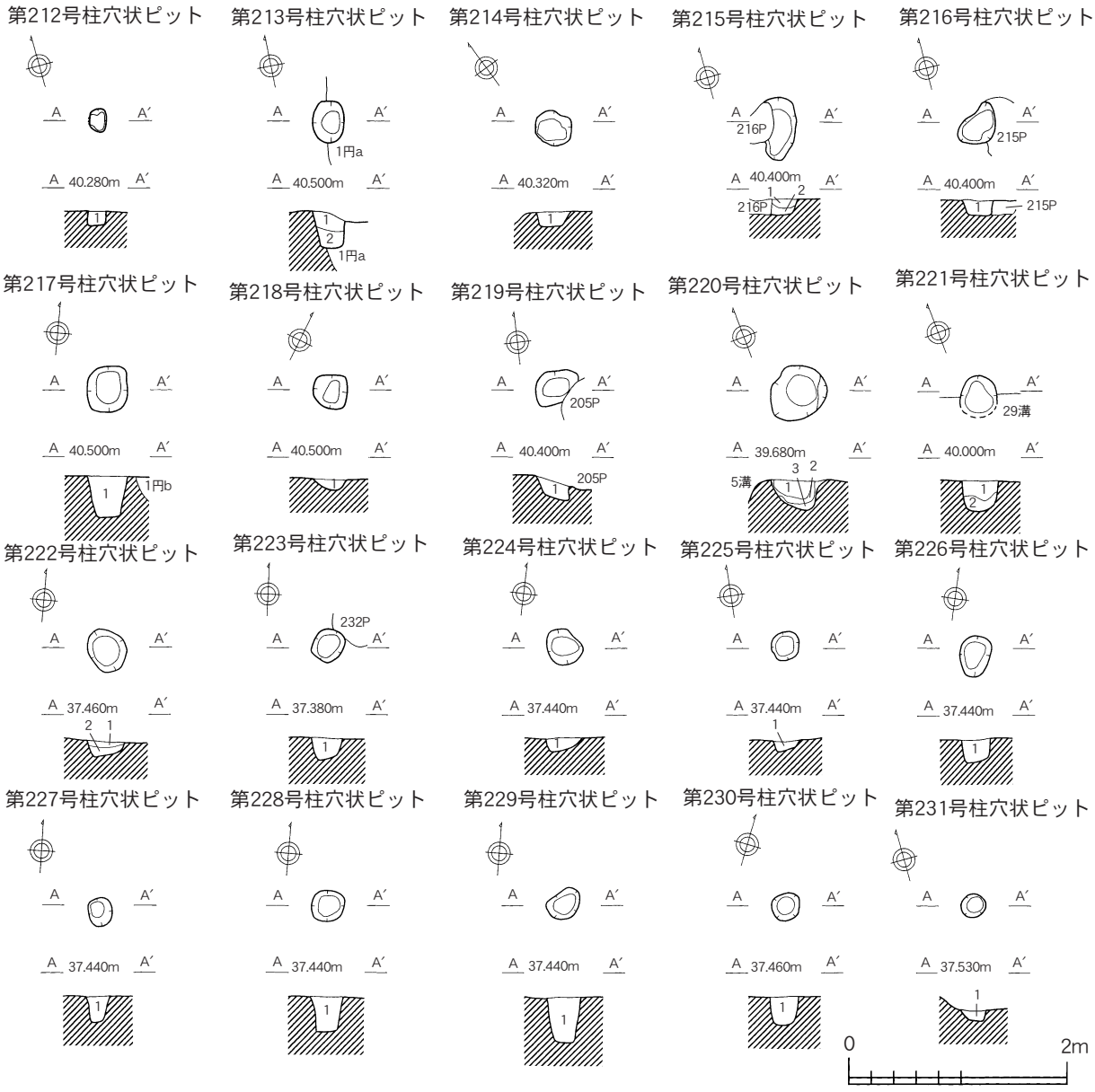
第208号柱穴状ピット
第１層　黒褐色土（10YR2/3）ローム粒微量

第209号柱穴状ピット
第１層　暗褐色土（10YR3/4）ローム粒微量
第２層　黒褐色土（10YR2/2）ローム粒少量

第210号柱穴状ピット
第１層　黒褐色土（10YR2/2）ローム粒少量、ロームブロック少量

第211号柱穴状ピット
第１層　黒褐色土（10YR2/2）ローム粒微量
第２層　黒褐色土（10YR2/3）ローム粒微量、ロームブロック微量

第99図　柱穴状ピット（8）（191～211ピット）

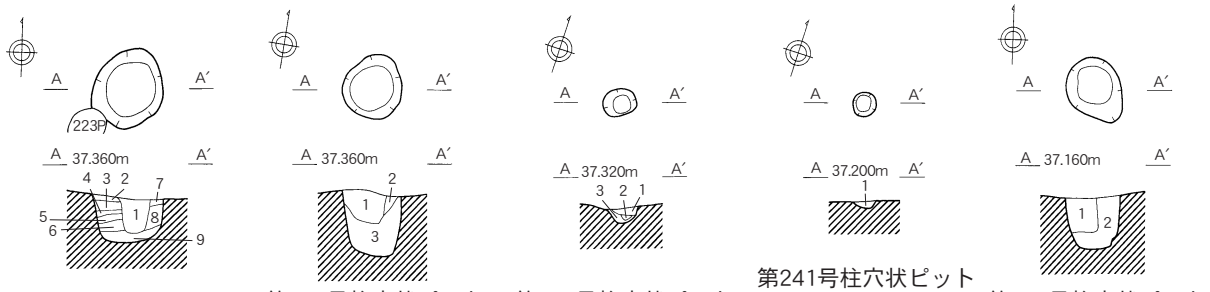


第212号柱穴状ピット
第１層　黒褐色土（10YR2/2）ローム粒微量
第213号柱穴状ピット
第１層　黒褐色土（10YR2/3）ローム粒少量、ロームブロック少量
第２層　黒褐色土（10YR2/2）ローム粒微量
第214号柱穴状ピット
第１層　暗褐色土（10YR3/4）と黒褐色土(10YR2/2)と明黄褐色土(10YR6/8)の混合土
ローム粒少量、ロームブロック少量
第215号柱穴状ピット
第１層　暗褐色土（10YR3/3）ローム粒微量、炭化粒微量
第２層　にぶい黄褐色土（10YR4/3）ローム粒少量、炭化粒微量
第216号柱穴状ピット
第１層　暗褐色土（10YR3/4）ローム粒少量、炭化粒微量
第217号柱穴状ピット
第１層　黒褐色土（10YR2/2）ローム粒少量、ロームブロック少量、炭化粒微量
第218号柱穴状ピット
第１層　暗褐色土（10YR4/4）
第219号柱穴状ピット
第１層　黒　色　土（10YR2/1）
第220号柱穴状ピット
第１層　暗褐色土（10YR3/3）ロームブロック微量、炭化粒微量
第２層　黒褐色土（10YR3/2）ロームブロック微量、ローム粒少量、炭化粒微量
第３層　褐　色　土（10YR4/4）ローム粒中量、炭化粒微量
第221号柱穴状ピット
第１層　黒褐色土（10YR3/1）ローム粒微量、ロームブロック少量
第２層　黒褐色土（10YR2/2）ローム粒微量

第222号柱穴状ピット
第１層　黒　色　土（10YR1.7/1）ローム粒微量
第２層　黒　色　土（10YR2/1）　ローム粒微量
第223号柱穴状ピット
第１層　黒　色　土（10YR2/1）　ローム粒微量
第224号柱穴状ピット
第１層　黒　色　土（10YR2/1）　ローム粒微量
第225号柱穴状ピット
第１層　黒　色　土（10YR1.7/1）ローム粒微量
第226号柱穴状ピット
第１層　黒　色　土（10YR1.7/1）と暗褐色土(10YR3/3)
ローム粒少量
第227号柱穴状ピット
第１層　黒褐色土（10YR2/2）　ローム粒微量
第228号柱穴状ピット
第１層　黒　色　土（10YR1.7/1）と暗褐色土(10YR3/3)の混合土
ローム粒微量
第229号柱穴状ピット
第１層　黒　色　土（10YR2/1）と黒褐色土(10YR2/3)の混合土
ローム粒微量
第230号柱穴状ピット
第１層　黒　色　土（10YR1.7/1）ローム粒微量
第231号柱穴状ピット
第１層　黒　色　土（10YR1.7/1）と黒褐色土(10YR2/2)の混合土
ローム粒微量

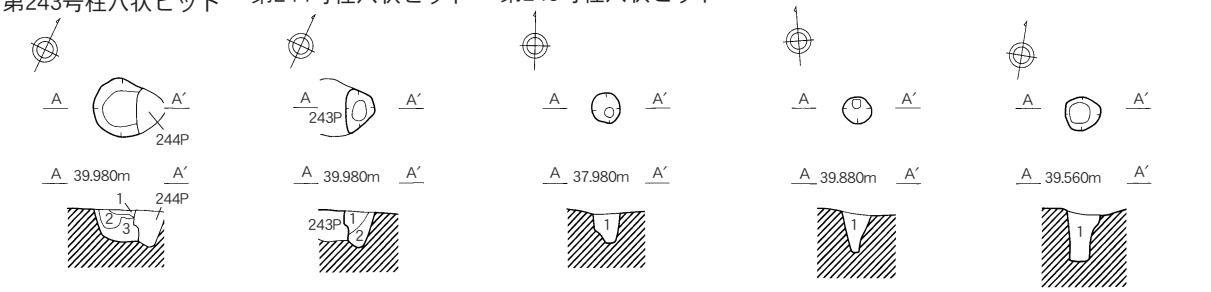
第100図　柱穴状ピット（9）（212～231ピット）

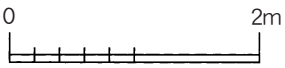
第232号柱穴状ピット　第233号柱穴状ピット　第234号柱穴状ピット　第235号柱穴状ピット　第236号柱穴状ピット



第237号柱穴状ピット　第238号柱穴状ピット　第240号柱穴状ピット　第241号柱穴状ピット　第242号柱穴状ピット

第243号柱穴状ピット　第244号柱穴状ピット　第245号柱穴状ピット　第246号柱穴状ピット　第247号柱穴状ピット





第232号柱穴状ピット
第１層　黒 色 土（10YR2/1）　ローム粒少量、炭化粒微量
第２層　黒 色 土（10YR2/1）と黄褐色土（10YR6/6）の混合土
　　ロームブロック少量
第３層　黒褐色土（10YR2/2）　ローム粒少量、炭化粒微量
第４層　黒褐色土（10YR3/2）　炭化粒微量、ローム粒少量
第５層　暗褐色土（10YR3/3）　ローム粒微量、炭化粒微量
第６層　黒褐色土（10YR2/2）　ローム粒微量、炭化粒微量
第７層　黒褐色土（10YR3/2）　ローム粒微量
第８層　黒 色 土（10YR2/1）　ローム粒微量、炭化粒微量
第９層　黒褐色土（10YR2/3）　ローム粒少量、炭化粒微量

第233号柱穴状ピット
第１層　黒 色 土（10YR1.7/1）と黒褐色土（10YR2/2）の混合土
　　ローム粒微量、ロームブロック微量
第２層　暗褐色土（10YR3/3）　ローム粒中量
第３層　黒褐色土（10YR2/2）と黒色土（10YR1.7/1）の混合土
　　ローム粒中量

第234号柱穴状ピット
第１層　黒 色 土（10YR1.7/1）ローム粒微量
第２層　黒褐色土（10YR2/3）　ローム粒微量
第３層　暗褐色土（10YR3/4）　ローム粒多量

第235号柱穴状ピット
第１層　黒 色 土（10YR1.7/1）ローム粒微量、炭化粒微量

第236号柱穴状ピット
第１層　黒 色 土（10YR1.7/1）ローム粒少量
第２層　黒 色 土（10YR2/1）　ローム粒微量
　　黒褐色土（10YR2/2）　ローム粒少量

第237号柱穴状ピット
第１層　黒 色 土（10YR1.7/1）ローム粒少量、ロームブロック少量、焼土粒少量
第２層　黒 色 土（10YR1.7/1）と黄褐色土（10YR5/6）と黒褐色土（10YR2/3）の混合土
　　ローム粒少量、ロームブロック多量
第３層　黄褐色土（10YR5/6）と暗褐色土（10YR2/3）と黒色土（10YR1.7/1）の混合土
　　ローム粒少量
第４層　黒 色 土（10YR1.7/1）と灰黄褐色土（10YR4/2）
　　ローム粒少量

第238号柱穴状ピット
第１層　黒 色 土（10YR2/1）
第２層　暗 褐 色 土（10YR3/4）　ローム粒少量

第240号柱穴状ピット
第１層　黒 色 土（10YR1.7/1）ローム粒微量
第２層　暗 褐 色 土（10YR3/4）　ローム

第241号柱穴状ピット
第１層　黒 褐 色 土（10YR2/2）　ローム粒少量、ロームブロック少量、

第242号柱穴状ピット
第１層　黒 褐 色 土（10YR2/2）　ローム粒少量、ロームブロック少量、炭化粒微量
第２層　黒 色 土（10YR2/1）と黒褐色土（10YR2/2）の混合土
　　ローム粒少量、ロームブロック中量

第243号柱穴状ピット
第１層　黒 褐 色 土（10YR2/2）と黄褐色土（10YR5/6）の混合土
　　ローム粒微量、ロームブロック多量
第２層　黒 色 土（10YR2/1）と褐色土（10YR4/4）の混合土
　　ローム粒少量
第３層　にぶい黄褐色土（10YR4/3）と褐色土（10YR4/4）の混合土
　　ローム粒微量、ロームブロック少量

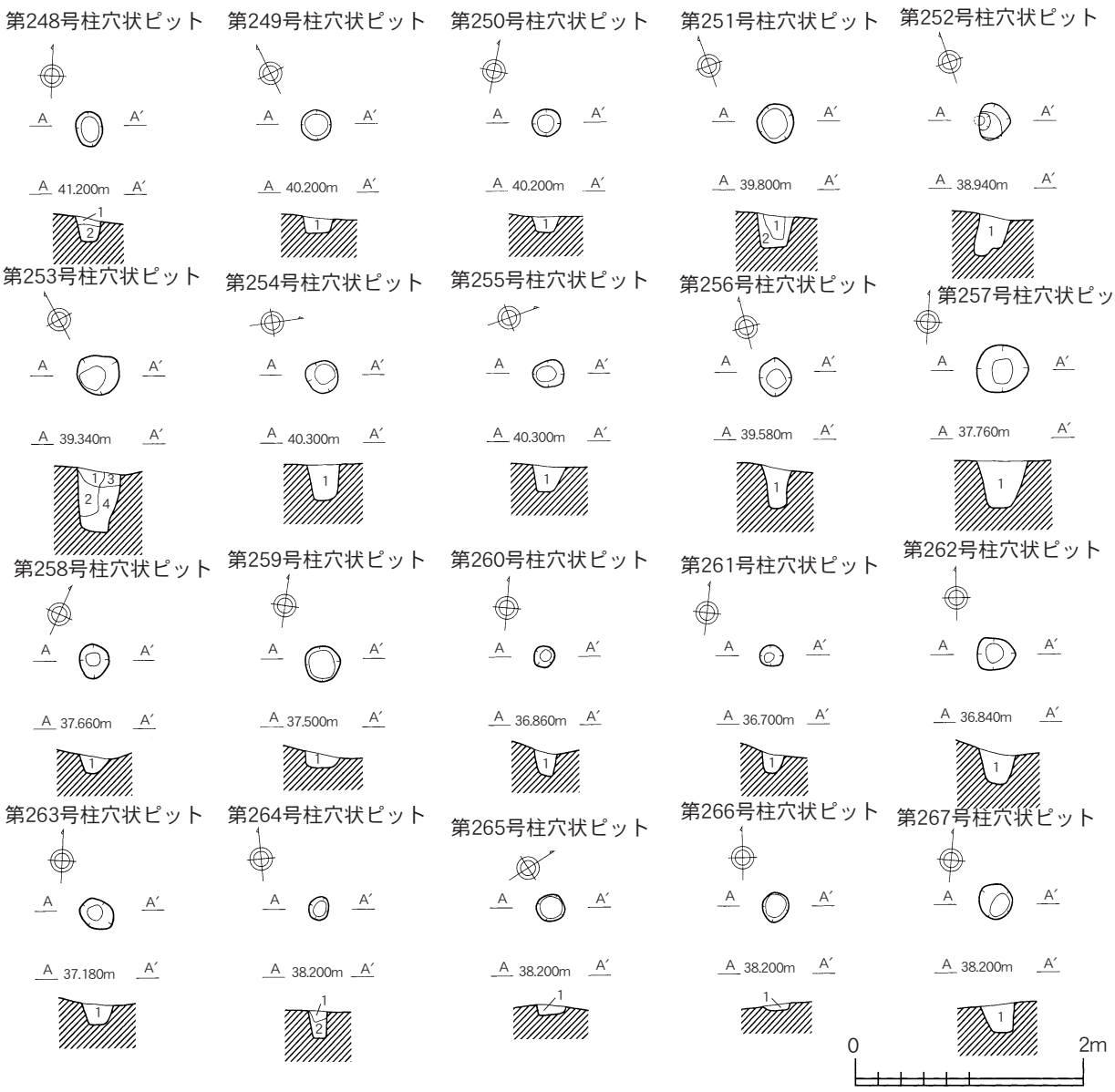
第244号柱穴状ピット
第１層　黒 色 土（10YR2/1）と黒色土（10YR1.7/1）の混合土
　　ローム粒少量
第２層　黒 色 土（10YR2/1）ローム粒少量、ロームブロック少量

第245号柱穴状ピット
第１層　暗 褐 色 土（10YR3/4）　ローム粒少量、炭化粒少量

第246号柱穴状ピット
第１層　暗 褐 色 土（10YR3/4）　ローム粒少量、焼土粒微量

第247号柱穴状ピット
第１層　黒 褐 色 土（10YR2/2）　暗褐色土（10YR3/3）微量、ローム粒少量

第101図　柱穴状ピット（10）（232～247ピット）



第248号柱穴状ピット
第１層　黒褐色土（10YR2/2）　ロームブロック微量
第２層　暗褐色土（10YR3/4）　ローム粒少量、炭化粒少量

第249号柱穴状ピット
第１層　黒褐色土（10YR2/3）　ローム粒微量

第250号柱穴状ピット
第１層　黒褐色土（10YR2/3）　ローム粒少量

第251号柱穴状ピット
第１層　黒　色　土（10YR1.7/1）ローム粒少量、炭化粒微量
第２層　黒褐色土（10YR2/2）　ローム粒少量、炭化粒微量

第252号柱穴状ピット
第１層　黒　色　土（10YR2/1）　ローム粒少量
第２層　褐　色　土（10YR4/6）　黒色土(10YR2/1)微量

第253号柱穴状ピット
第１層　黒褐色土（10YR2/2）　ローム粒少量
第２層　黒　色　土（10YR1.7/1）
第３層　黒褐色土（10YR2/2）　ローム粒微量
第４層　黒褐色土（10YR2/2）　ローム粒少量

第254号柱穴状ピット
第１層　黒褐色土（10YR2/3）　ローム粒少量

第255号柱穴状ピット
第１層　黒褐色土（10YR2/3）　ローム粒少量、炭化粒微量

第256号柱穴状ピット
第１層　黒褐色土（10YR2/2）　ローム粒少量

第257号柱穴状ピット
第１層　黒　色　土（10YR2/1）　ローム粒微量

第258号柱穴状ピット
第１層　黒　色　土（10YR2/1）　ローム粒少量

第259号柱穴状ピット
第１層　黒褐色土（10YR2/2）　ローム粒少量

第260号柱穴状ピット
第１層　黒　色　土（10YR2/1）　ローム粒微量

第261号柱穴状ピット
第１層　黒　色　土（10YR2/1）と暗褐色土(10YR3/3)の混合土

第262号柱穴状ピット
第１層　黒　色　土（10YR2/1）　ローム粒微量、炭化粒微量

第263号柱穴状ピット
第１層　黒褐色土（10YR2/2）　ローム粒少量、炭化粒微量

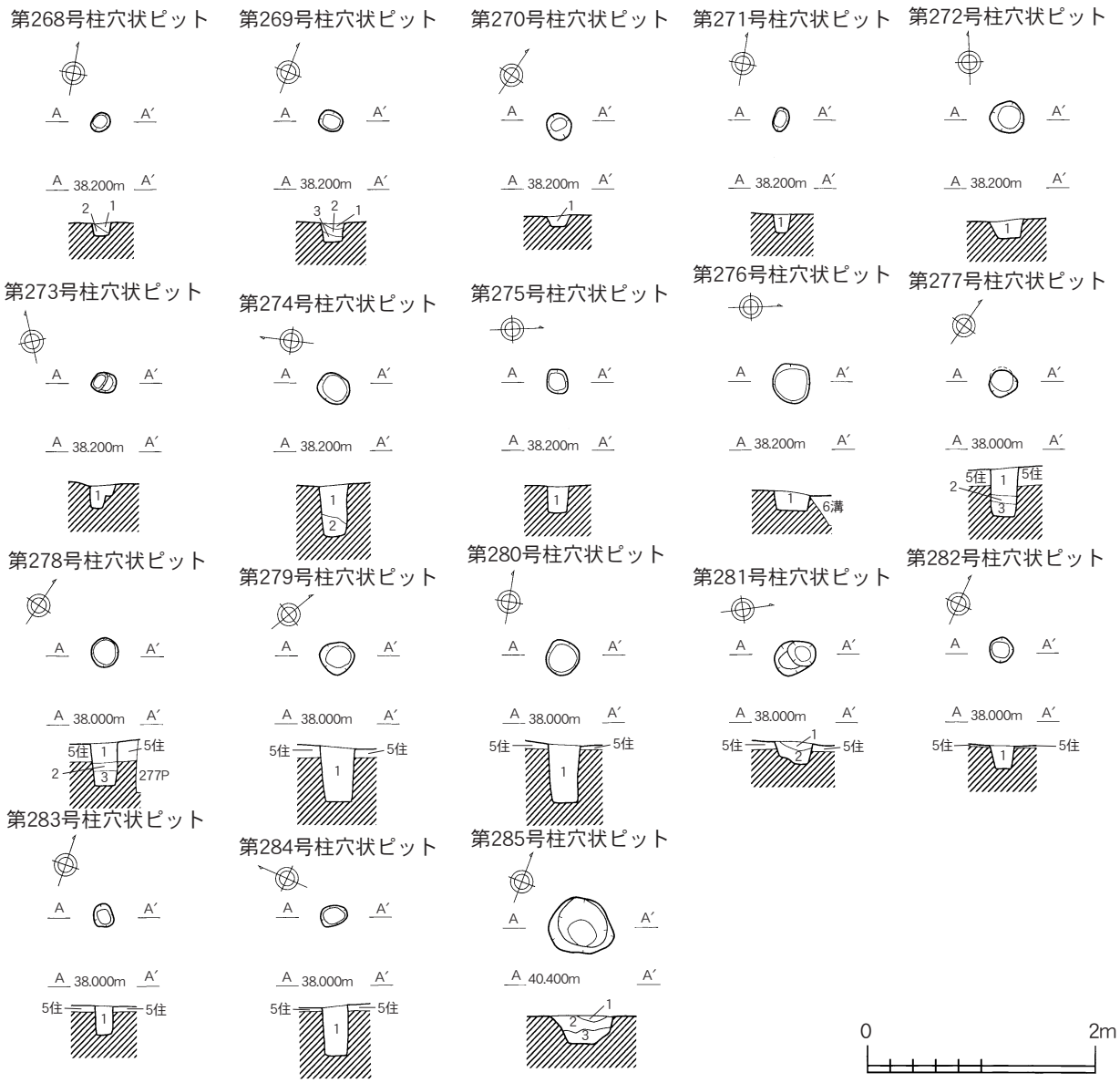
第264号柱穴状ピット
第１層　黒　色　土（10YR2/1）　ローム粒微量
第２層　黒褐色土（10YR2/2）　ローム粒少量

第265号柱穴状ピット
第１層　黒　色　土（10YR1.7/1）ローム粒微量

第266号柱穴状ピット
第１層　黒　色　土（10YR2/1）　ローム粒微量

第267号柱穴状ピット
第１層　黒　色　土（10YR1.7/1）

第102図　柱穴状ピット（11）（248～267ピット）



第268号柱穴状ピット
第１層　黒 色 土（10YR2/1）　ローム粒少量
第２層　黒 色 土（10YR1.7/1）ローム粒微量

第269号柱穴状ピット
第１層　黒 色 土（10YR2/1）　ローム粒微量
第２層　黒 色 土（10YR1.7/1）ローム粒微量
第３層　黒褐色土（10YR2/2）　ローム粒微量

第270号柱穴状ピット
第１層　黒褐色土（10YR2/2）　ローム粒微量

第271号柱穴状ピット
第１層　黒褐色土（10YR2/2）　ローム粒少量

第272号柱穴状ピット
第１層　黒 色 土（10YR2/1）　ローム粒微量

第273号柱穴状ピット
第１層　黒 色 土（10YR2/1）　ローム粒微量、焼土粒微量

第274号柱穴状ピット
第１層　黒褐色土（10YR2/2）　ローム粒微量
第２層　黒褐色土（10YR2/3）　ローム粒中量

第275号柱穴状ピット
第１層　黒褐色土（10YR2/2）　ローム粒少量

第276号柱穴状ピット
第１層　黒褐色土（10YR2/2）　ローム粒微量

第277号柱穴状ピット
第１層　黒 褐 色 土（10YR2/2）ローム粒少量
第２層　黒　色　土（10YR2/1）ローム粒微量
第３層　黒 褐 色 土（10YR2/3）ローム粒中量

第278号柱穴状ピット
第１層　黒 褐 色 土（10YR2/2）ローム粒少量
第２層　黒　色　土（10YR2/1）ローム粒微量
第３層　黒 褐 色 土（10YR2/3）ローム粒中量

第279号柱穴状ピット
第１層　黒　色　土（10YR2/1）ローム粒少量

第280号柱穴状ピット
第１層　黒　色　土（10YR2/1）ローム粒少量

第281号柱穴状ピット
第１層　黒 褐 色 土（10YR2/2）ローム粒少量、ロームブロック少量
第２層　黒　色　土（10YR2/1）ローム粒少量

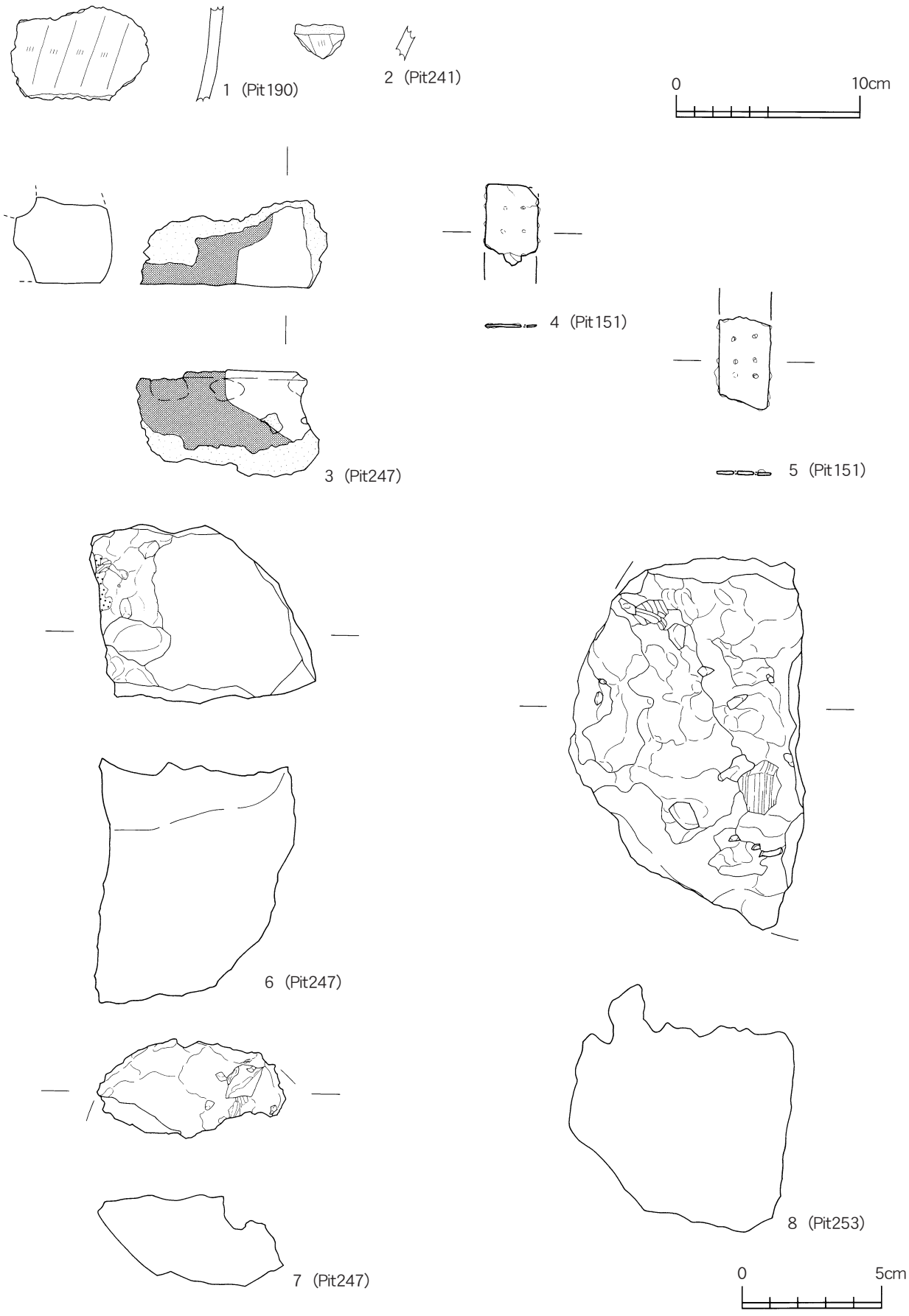
第282号柱穴状ピット
第１層　黒　色　土（10YR2/1）ローム粒微量

第283号柱穴状ピット
第１層　黒　色　土（10YR2/1）ローム粒微量

第284号柱穴状ピット
第１層　黒 褐 色 土（10YR2/2）焼土粒少量
第２層　黒　色　土（10YR2/1）ローム粒少量

第285号柱穴状ピット
第１層　暗 褐 色 土（10YR3/4）ローム粒微量
第２層　黒 褐 色 土（10YR2/2）ローム粒微量、炭化粒微量
第３層　にぶい黄褐色土（10YR4/3）ローム粒中量、ロームブロック中量

第103図　柱穴状ピット（12）（268～285ピット）



第104図　遺構内出土土器・鉄関連遺物（柱穴状ピット）

第２節　出土遺物

平成16年度、平成17年度の調査で出土した遺物には、土器、石器、土製品、石製品、鉄関連遺物、古銭がある。出土遺物の量は、平成16年度でダンボール箱換算で25箱、平成17年度でダンボール箱換算で32箱、計57箱である。遺構外出土遺物はあまり見られなかったため、遺構内出土遺物が大半である。

１．土器

本遺跡で出土した土器は以下のように分類した。

第Ⅰ群土器　縄文時代の土器
第Ⅱ群土器　平安時代の土器
第Ⅲ群土器　中世の土器

出土土器のうち、第Ⅰ群土器は少量、第Ⅲ群土器は１点のみの出土であり、大半を第Ⅱ群土器とした平安時代の土器が占める。

第Ⅰ群土器：縄文時代の土器

早期～後期の土器が出土している。

○早期の土器（第82図47、第108図49～51）

第108図49は口縁部片である。口縁最上部には縦位からやや斜位がかった貝殻復縁刺突文が２段にわたり横位に連続して見られる。その下位には斜位に刺突文が５段にわたり横位に連続して見られる。さらにその下位には、横位の沈線文が見られる。早期前葉の白浜式併行の土器と思われる。

第82図47は横位に直線状、山形状に沈線文が見られる。早期中葉の蛍沢ＡⅡ式土器と思われる。

第108図50、51は尖底土器で貝殻条痕文が見られる。

○前期の土器（第42図153、第66図76、第82図46、49、第108図52～57）

口縁部片では、横位、縦位の縄押圧と横位に貼付隆帯の見られるもの（第108図52）、横位、縦位の縄押圧の見られるもの（第108図53）、狭い口縁部に横位にやや荒めの絡条体回転文の見られるもの（第108図57）などが見られる。おおむね前期末葉の円筒下層ｄ式土器と思われる。

そのほか、胴部片、底部片では、胴部に縦走する縄文が見られるもの（第42図153、第66図76、第108図55）、胴部に縦位の絡条体回転文が見られるもの（第82図46、第108図56）、胴部に横位の羽状縄文が見られるもの（第108図54）、胴部に単節縄文、底部に台状に粘土紐貼付の見られるもの（第82図49）などがある。おおむね前期末葉の土器と思われる。

○中期の土器（第42図154）

第42図154は胴部片で、隆帯貼付が縦位に見られる。中期中葉の土器と思われる。

○後期の土器（第42図151、152、155、第66図71～75、77～79、第82図48、第108図58～60）

沈線文の見られるもの（第66図71～75、第82図48）、沈線文と縄文の見られるもの（第108図58、59）などがあり、波状口縁のもの（第66図72）や、赤い彩色の見られるもの（第66図71、73、74）も見られる。後期前半の十腰内Ⅰ式土器と思われる。

そのほか、胴部片で縄文の見られるもの（第42図151、152、155、第66図77～79、第108図60）も見られる。おおむね中期末葉から後期の土器と思われる。

第Ⅱ群土器：平安時代の土器

おおむね９世紀末葉から10世紀前半の時期と思われる。須恵器、土師器が出土している。

○須恵器

坏、鉢、壷、甕が出土している。

・坏

火ダスキ痕の認められるものが多数見られる。焼成が不良のもの（第34図51、第35図62、第39図99、第63図12、13、第65図45、第66図56、第105図５）も見られる。刻書土器（第35図53、61、62、第39図99、100、第63図１、10、第64図24、第105図１）が９点出土している。

・鉢

底部に回転糸切痕が認められるもの（第39図111、第105図14）が見られる。

・壷

リング状の突帯が認められるもの（第64図30、第88図３）や、底部に菊花状痕の認められるもの（第55図９、第63図15、第64図32、第81図37）などが見られる。また、刻書土器（第64図30）が１点出土している。

・甕

胴部片で外面にタタキ目の認められるもの（第35図66、第39図108、第63図14、第64図33、第80図10、第81図22、第105図10、11、13）が見られる。

○土師器

坏、甕、塝、壷が出土している。

・坏

黒色処理の見られるものと見られないものとがあり、黒色処理の見られるもの（第31図11、12、第33図31、第34図41、第35図54、55、第36図67～72、第39図112～116、第41図131、第42図142～144、第63図16、17、第64図34、35、第65図48、49、第66図66、第81図23～25、第106図16～25）は、おおむね内面のみに認められるが、内面に加えて外面上端にかけて認められるもの（第81図23、第106図16、17）や、内面に認められず外面に認められるもの（第36図69）も見られる。いずれもヘラミガキが施される。ロクロ成形で切離し後無調整と思われ、底部が確認できるもの（第31図12、第34図41、第39図114、第64図34、第106図24、25）は、回転糸切による切離しである。

おおむね椀状の器形を有すると思われ、やや内湾ないし内湾気味に立ち上がるものが多く見られるが、

底部付近がやや台状に外反するもの（第39図114、第64図34、第106図24、25）や、口縁部形状においてつまみ出されたように外反するもの（第35図55、第36図69、72、第42図143、第81図24、第106図18、22）も見られる。

黒色処理の見られないものは、ロクロ成形でおおむね切離し後無調整である。一部にヘラナデの認められるもの（第36図76、第55図10）も見られる。底面が確認できるものは、回転糸切による切離しで、右回転のものが多数である。

おおむね椀状の器形を有すると思われ、やや内湾ないし内湾気味に立ち上がるものが多く見られるが、一部皿状の器形に近いもの（第41図135、第63図３、第64図19、）や、皿状のもの（第106図26）も見られる。また、底部付近がやや台状に外反するものが約半数を占めるほか、口縁部形状においてつまみ出されたように外反するもの（第31図13、第33図32、第34図49、第41図132、第64図36～38、第81図27、第106図28、29）も見られる。

また、墨書土器（第36図73、第106図26）が２点出土している。椀状の器形を有し、外面中位にやや弧状気味に一字状にのみ認められるもの（第36図73）と、皿状の器形を有し、正位に「寺」の文字が認められるもの（第106図26）とが見られる。

・甕

破片での出土が多く、口縁部から底部まで全体形状を確認できるものは少ない。

成形・整形段階でロクロを用いたものと、用いていないものとが見られる。

ロクロを用いたものでは、頸部下や胴部途中などから、ヘラナデ、ヘラケズリの調整が見られる。用いていないものでは、頸部下から底部付近までヘラナデ、ヘラケズリの調整が見られる。

調整は外面では胴部に縦位ないし斜位に見られ、内面ではおおむね横位ないし斜位に見られる。

口唇先端部の形状は、平らなもの、丸みを帯びるもの、先細りするものなどが見られるが、平らなものは、成形・整形段階でロクロを用いているものに多く見られる。

口縁部から頸部にかけての断面形状では、頸部にくびれを持ち、「く」の字状に屈曲ないし湾曲して外反するものが多数であるが、そのほか、頸部のくびれがあまり見られず外反するもの（第33図38、39）、頸部で大きく外反するもの（第42図148～150、第63図８、第65図41、42、第66図63、第88図５、第108図47、48）、外反の度合いが弱いもの（第32図25、第38図93、第64図23、第65図40、第66図70）、直立気味のもの（第40図129、第80図15、第108図45）などが見られる。

また、内面や、内面から口唇部にかけて黒色処理の認められるもの（第39図116、第55図６）が２点見られる。

・堝

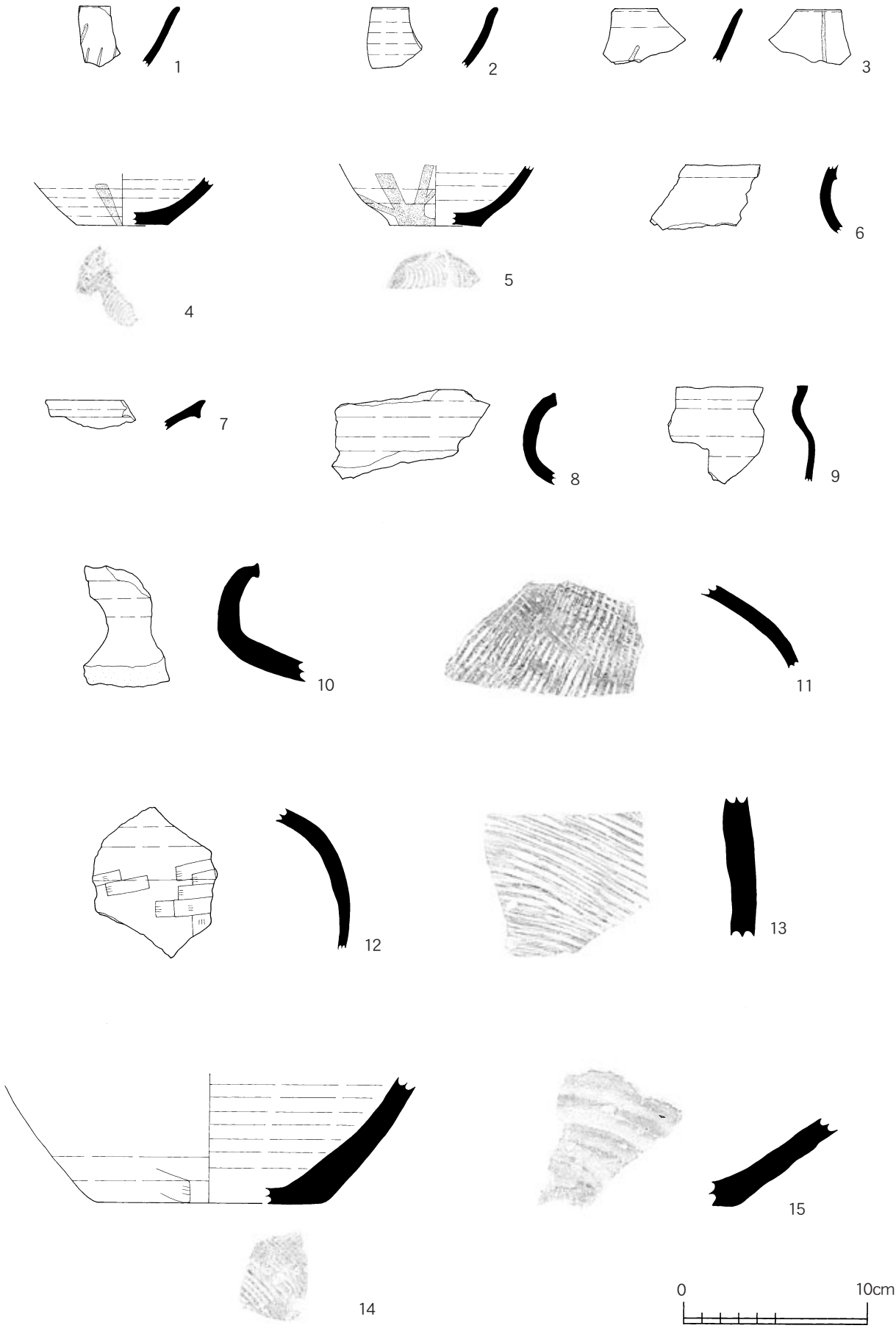
第1号円形周溝ａから１点（第63図９）出土している。内外面にタタキ目が見られる。

・壷

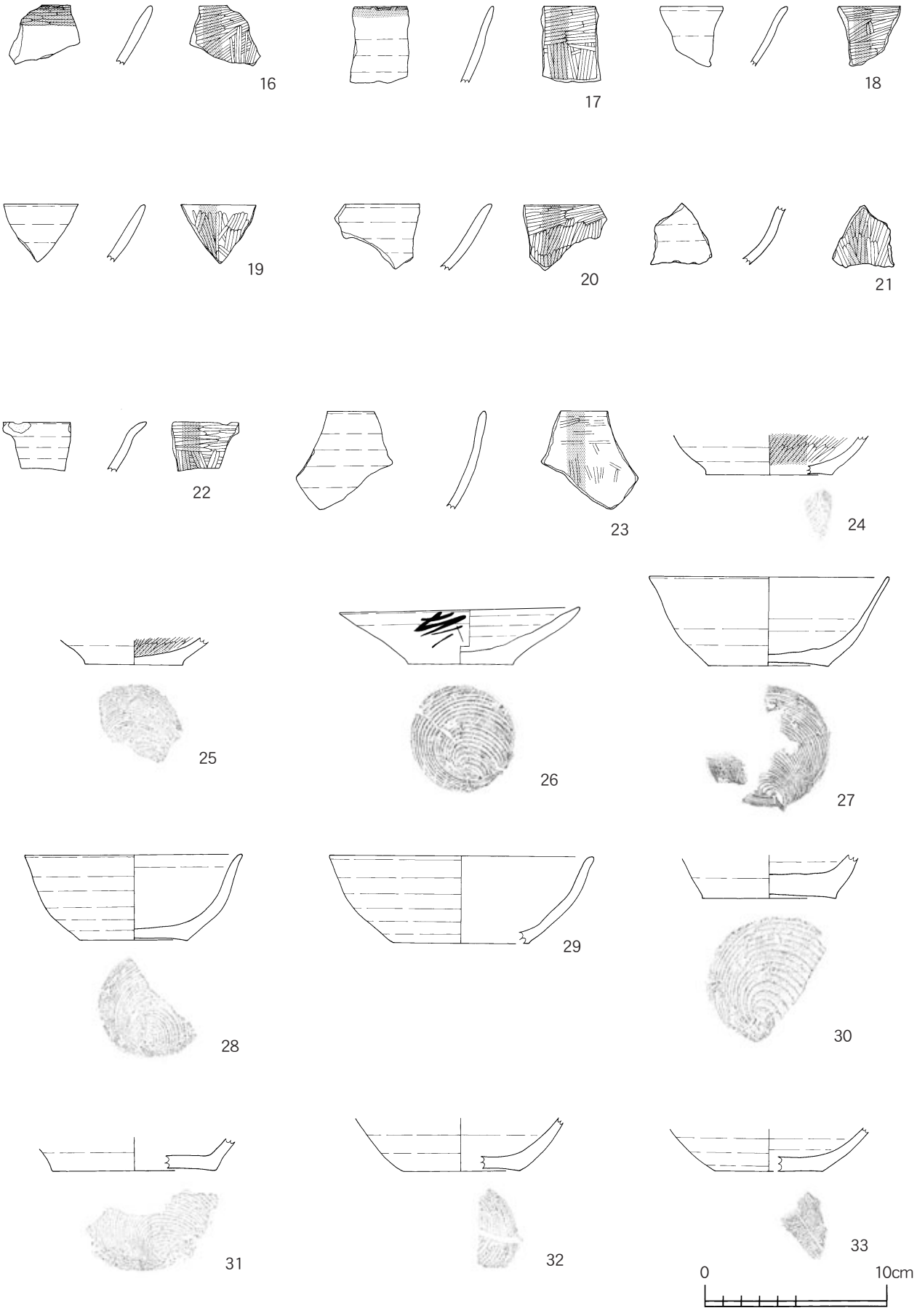
遺構外から内面黒色の壷（第107図34）が1点出土している。内面にヘラミガキによる調整が施される。これについてはおおむね10世紀中葉から10世紀後半の時期と思われる。

第Ⅲ群土器：中世の土器

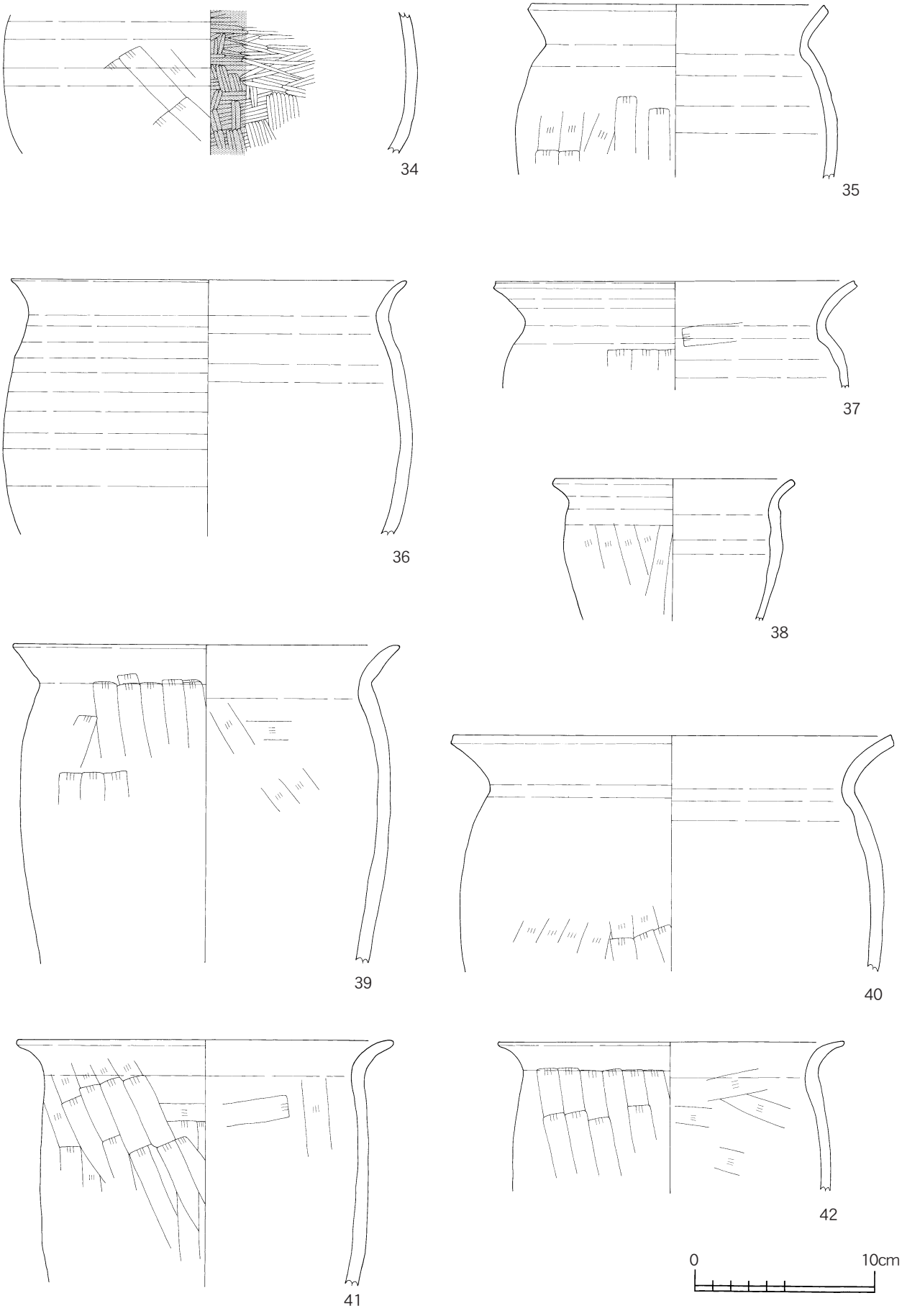
第６号井戸跡から、かわらけ（第88図１）が１点出土している。13世紀前半頃の時期と思われる。



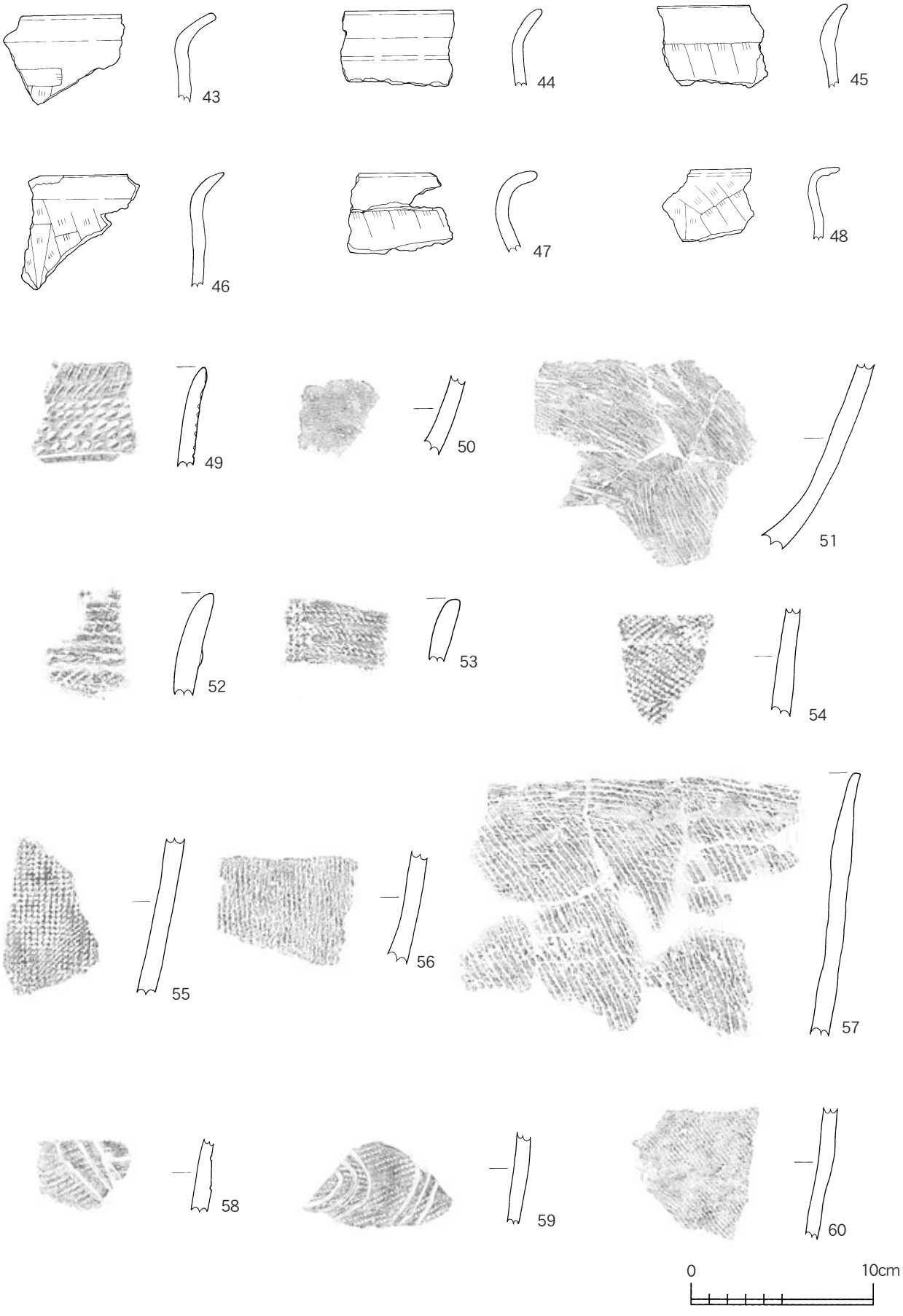
第105図　遺構外出土土器（1）



第106図　遺構外出土土器（2）



第107図　遺構外出土土器（3）



第108図　遺構外出土土器（4）

２．石器

平成16年度、平成17年度の調査を合わせて、剥片石器７点、剥片７点、礫石器79点、総数93点が出土した。うち、遺構内出土は70点、遺構外出土は23点で遺構内出土のものが多数である。遺構種別では、竪穴住居跡から32点、土坑から２点、円形周溝から25点、溝跡から９点、井戸跡から２点が出土している。

出土石器には、石鏃、石槍、石篦、不定形石器、敲磨器、砥石、台石・石皿が見られ、その他剥片が見られる。

石器の石質については、剥片石器並びに剥片は全て珪質頁岩である。礫石器は安山岩、デイサイト、凝灰岩、溶結凝灰岩、泥岩が見られ、安山岩が35点で44.3％、デイサイトが31点で39.2％、凝灰岩が10点で12.7％、溶結凝灰岩が２点で2.5％、泥岩が１点で1.3％を占める。

○剥片石器

・石鏃（第43図１）

遺構内から１点出土している。石質は珪質頁岩である。無茎凹基で器体下部がやや丸みを帯びる。

・石槍（第110図8）

遺構外から１点出土している。石質は珪質頁岩である。細長で器体下部に抉りが見られる。

・石篦（第109図１）

遺構外から１点出土している。石質は珪質頁岩である。細身で両側縁がやや弧状を呈する。

・不定形石器（第67図１、第109図２、３）

遺構内から１点、遺構外から２点、計３点出土している。石質は全て珪質頁岩である。

側縁に調整の見られるもの（第67図１）、端部に調整の見られるもの（第109図２、３）などが見られる。

・剥片（第109図４、５、第110図６、７、９）

遺構内から１点、遺構外から６点、計７点出土している。石質は全て珪質頁岩である。

微細剥離が認められ使用剥片の可能性が考えられるものも見られる。

・敲磨器（第43図４、第44図９、第45図14～16、第46図19、22、第56図１、２、第67図２、第68図４～６、８、第69図11、第71図13～16、第83図１～３、５、第88図６、７、第111図10、12、13）

遺構内から45点、遺構外から７点、計52点出土している。石質は安山岩が23点で44.2％、デイサイトが21点で40.4％、凝灰岩が５点で9.6％、溶結凝灰岩が２点で3.8％、泥岩が１点で1.9％である。

磨痕のみが認められるもの、敲打痕のみが認められるものが多く、磨痕と敲打痕がともに認められるもの（第69図11、第83図３）は少ない。磨痕、敲打痕はいずれも器体表裏面や側縁、側縁端部等に認められる。

・砥石（第43図２、３、第44図８、10、第45図11～13、17、第46図18、20、21、第83図４、第111図11）

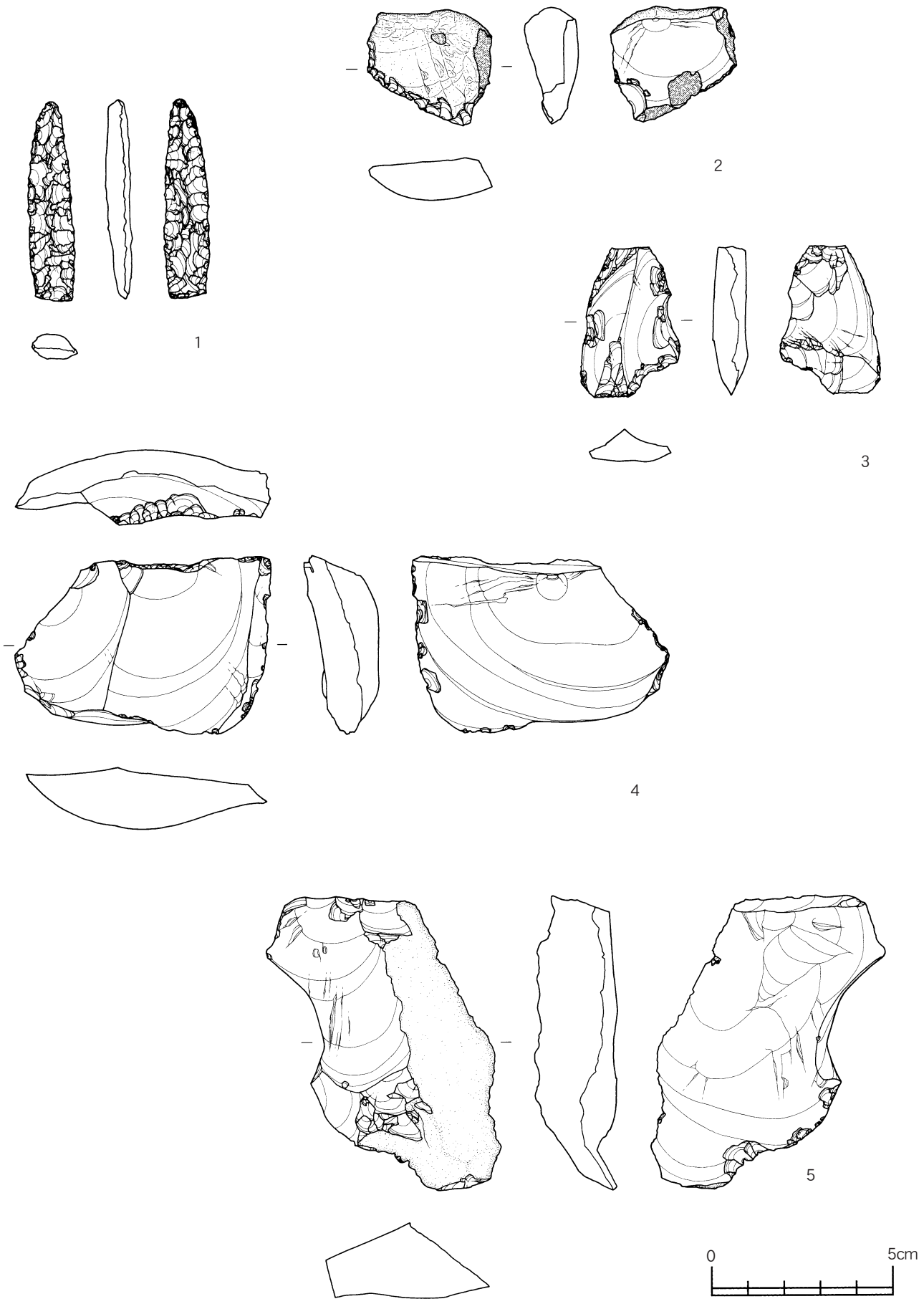
遺構内から12点、遺構外から２点、計14点出土している。石質はデイサイトが９点で64.3％、凝灰岩が４点で28.6％、安山岩が１点で7.1％である。

緩やかに湾曲した砥面が複数面見られるものが多数であるが、一部には砥面が一面のみのものも見られる。素材となる礫には柱状のもの（第43図３、第45図11～13、第46図18）、板状のもの（第44図８、10、第46図21、第83図４、第111図11）、その他の形状のもの（第43図２、第45図17、第46図20）などが見られる。また、一部敲打痕の認められるもの（第45図11、第46図21）も見られる。

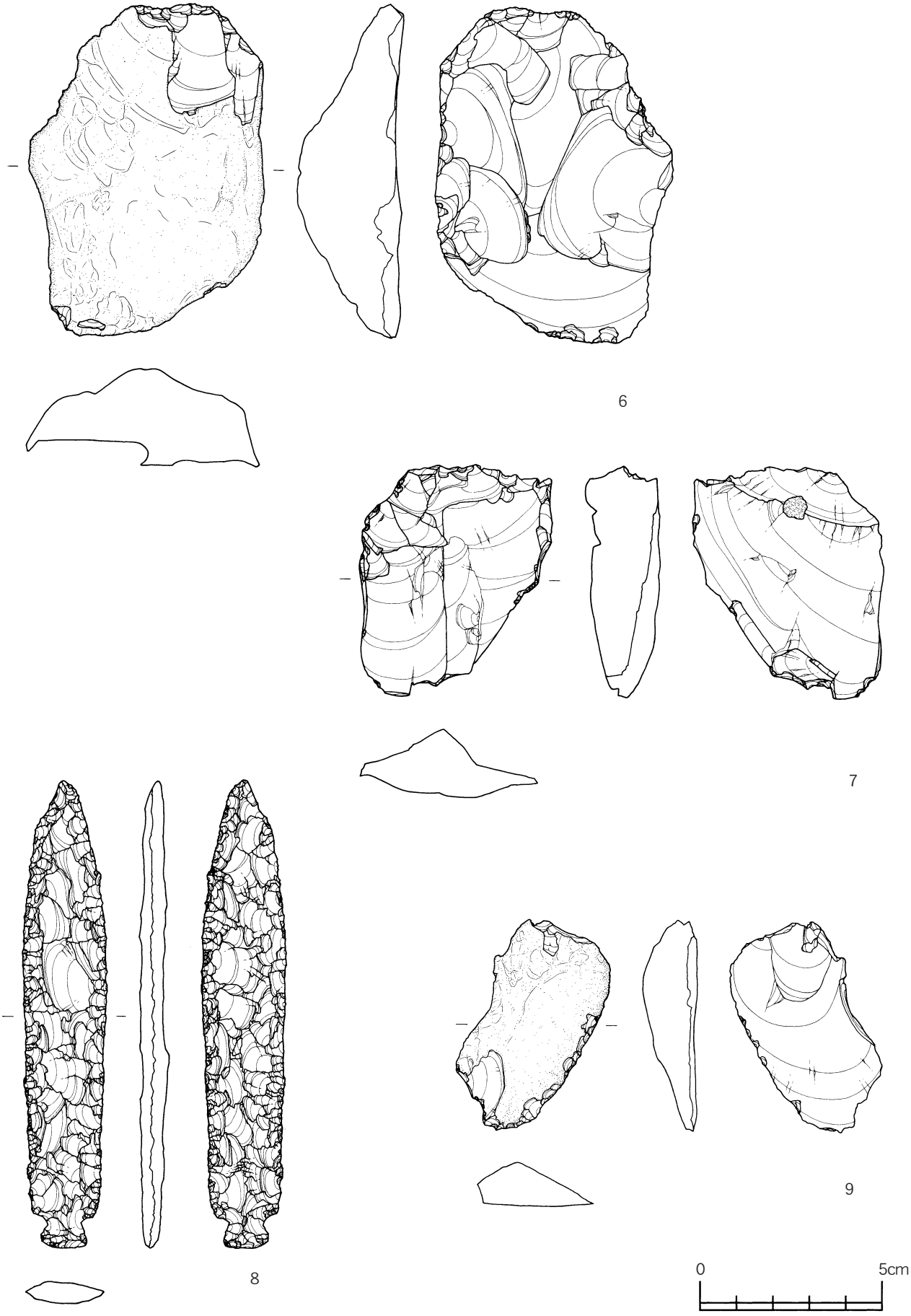
・台石・石皿（第43図５、第44図６、７、第67図３、第68図７、第69図９、10、第70図12、第71図17、第111図14）

遺構内から10点、遺構外から３点、計13点が出土している。石質は安山岩が11点で84.6％、デイサイトが１点で7.7％、凝灰岩が１点で7.7％である。

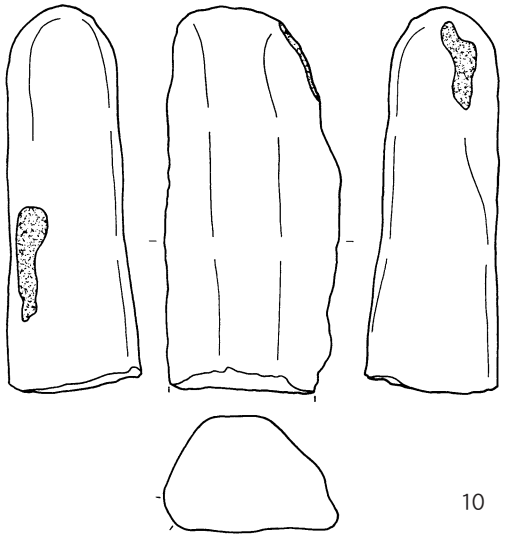
扁平な礫を素材とし、一面に磨痕が認められるもの（第43図５、第69図10）、表裏面に磨痕が認められるもの（第71図17、第111図14）、一面に敲打痕が認められるもの（第44図７）や、それよりやや厚く細長い形状の礫を素材とし、一面に磨痕の認められるもの（第44図６、第69図９）、複数面に磨痕の認められるもの（第67図３）、複数面に磨痕と敲打痕の認められるもの（第68図７、第70図12）が見られる。

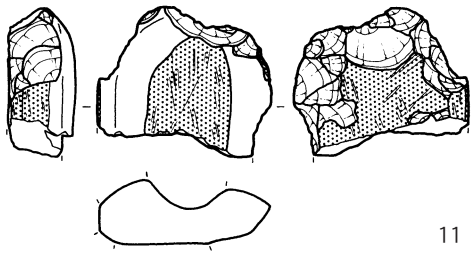


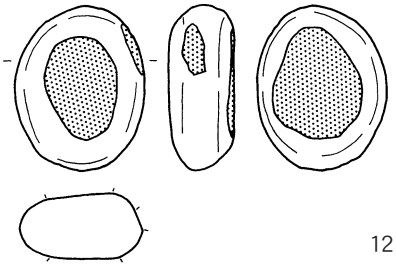
第109図　遺構外出土石器（1）

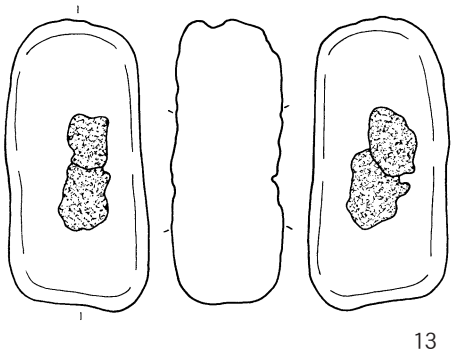


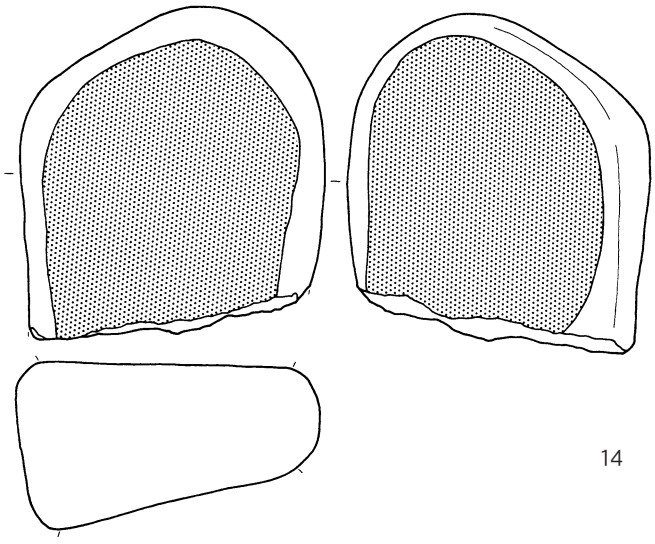
第110図　遺構外出土石器（2）

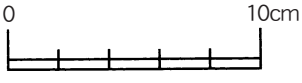












第111図　遺構外出土石器（3）

３．土製品

ミニチュア土器、有孔土製品、土製支脚、焼成粘土塊が出土している。

○ミニチュア土器（第47図１、２）

遺構内から２点出土している。

手捏ねで成形されており、やや丸みを帯びる形状である。

○有孔土製品（第47図６）

遺構内から１点出土している。土玉と思われる。

○土製支脚（第47図３、第112図１）

遺構内から１点、遺構外から１点、計２点出土している。

いずれも輪積成形による。

○焼成粘土塊（第47図４、５、７、第72図１、２、第84図１、２、第88図８～10）

遺構内から10点出土している。

形状、大きさ等は様々であるが、一部に工具痕が認められるもの（第47図５、第84図１、第88図８）も見られる。

４．石製品

碁石、軽石石製品、五輪塔が出土している。

○碁石（第47図８～15）

遺構内（第10号竪穴住居跡）から８点が出土している。石質は全て珪質頁岩である。

必ずしも明瞭な加工痕は認められないが、全て第10号竪穴住居跡からの出土と出土地点が限定されている点や、形状、大きさ等に偏りがなく一定していると思われる点から本項で取り上げることとした。

○軽石石製品（第72図３）

遺構内から１点が出土している。石質は軽石である。

滑らかな平坦面が見られる。

○五輪塔（第84図３、４、第112図２）

遺構内から２点、遺構外から１点、計３点が出土している。石質は全て溶結凝灰岩である。

空輪、風輪部分のもの（第84図３、４）と空輪部分のもの（第112図２）が見られる。底部から穿孔の認められるもの（第84図３）も見られる。

５．鉄関連遺物

羽口、鉄製品、鉄滓が出土している。

○羽口（第48図17～22、第49図23～27、第50図28～31、第72図４～10、第85図５、第104図３、第112図３）

遺構内から24点、遺構外から１点、計25点出土している。特に第10号竪穴住居跡からは半数以上の13点が出土している。なお、図示に際して先端側を判断できるものについては、先端部を断面に向けた。また、平坦な面を確認できるものについては、平坦面を下に向けた。

断面形状については、破片のため不明なものも見られるが、円形のもの（第48図17）１点を除き、円形で一部に平坦部を有するものないしカマボコ形の形状を呈するものが多数と思われる。

先端部の溶損個所が認められるもの（第48図19、第48図21、第49図23、第50図28、第72図４、６、第112図３）には、鉄滓が付着しているもの（第48図21、22）も見られる。

末端部を確認できるもの（第48図17、第49図25～27）には、先端側から末端部へ外形が広がるもの（第48図17）や、内部の孔が末端部で広がるもの（第48図17、第49図27）が見られる。

また、転用されたものとして、第９号竪穴住居跡カマドに支脚として用いられたもの（第48図17）が見られる。欠損している先端側を下に埋め、上となった末端部に土師器（甕）（第38図97）の底部片を伏せ置いて使用されていたものと見られる。

○鉄製品

・鎌（第112図４）

遺構外から１点が出土している。欠損品である。

・刀子（第50図33、34、第112図５）

遺構内から２点、遺構外から１点、計３点が出土している。刃部が見られるもの（第50図34、第112図５）では、先端、末端方向へ収束しているもの（第50図34）が見られる。また、柄の部分の木質が残存しているもの（第50図33）も見られる。

・小札（第104図４、５）

遺構内、第151号柱穴状ピットから２点が出土している。いずれも欠損しており本来は同一個体である可能性も考えられる

・棒状鉄製品（第50図32、第56図３、第73図11～16、18、第85図６、８、第112図６～10）

用途が不明で、形状が棒状を呈するものを一括した。遺構内から11点、遺構外から５点、計16点が出土している。断面形状はおおむね方形を呈するものと思われる。湾曲するもの（第73図11）や折れ曲がるもの（第73図12、14、第112図６、８）も見られる。

・不明鉄製品（第50図35、第73図17、第85図７）

用途が不明で棒状等の形状にあてはまらないものを一括した。遺構内から３点が出土している。鉄鋌としての可能性が考えられるもの（第73図17）も見られる。

○鉄滓（第51図36～40、第73図19～21、第85図９、10、第104図６～８）

本遺跡からは、竪穴住居跡、円形周溝、溝跡、柱穴状ピット等の遺構内を主体にダンボール箱換算で

４箱の鉄滓が出土している。特に第10号竪穴住居跡からの出土が目立つ。これら鉄滓のうち椀形鍛冶滓13点を図示した。

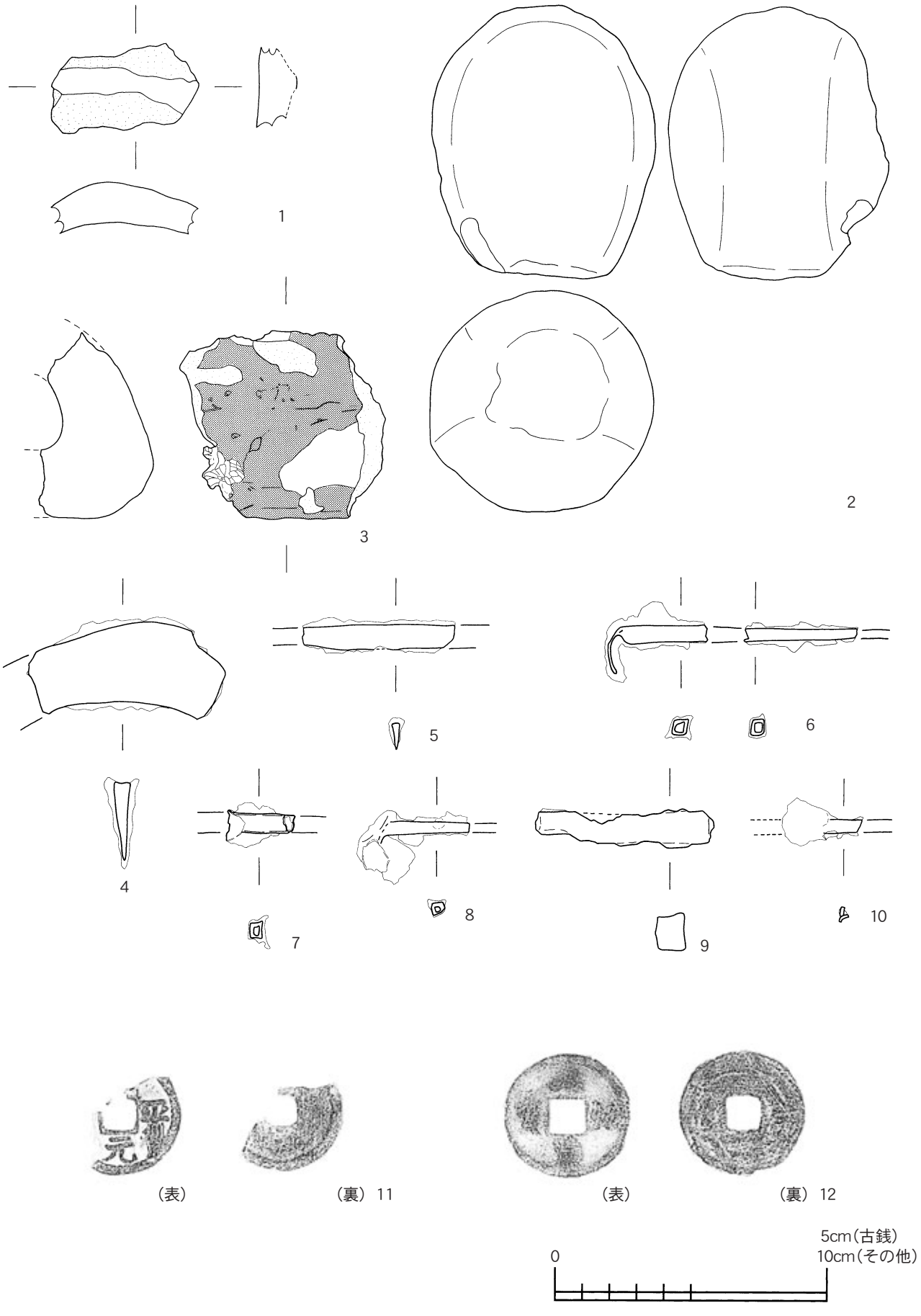
６．古銭

遺構外から２点（第112図11、12）が出土している。

第112図11は、欠損品で「平」、「元」の文字が見られることから「□平元寶」となるものと思われる。

これに当てはまるものとして、「咸平元寶」（初鋳年998年）、「治平元寶」（初鋳年1064年）、「端平元寶」（初鋳年1234年）などが青森市内でも出土している。これらの中では、欠損部付近を観察するとわずかに文字の痕が見られ、「咸平元寶」の可能性が高いように思われたが、詳細は不明である。

第112図12は、完形品であるが摩滅が激しく文字を識別できなかった。



第112図　遺構外出土土製品・石製品・鉄関連遺物・古銭

第Ⅳ章　自然科学的分析

第１節　平成16年度放射性炭素年代測定結果

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

合子沢松森（２）遺跡は、青森県青森市合子沢字松森に所在する。今回の分析調査では、遺構埋積土や堆積層中から採取した炭化材と木材を対象に放射性炭素年代測定を実施し、年代に関する情報を得る。

１．試料

試料は、炭化材２点と木材２点である。試料の詳細は、結果とともに表１に示す。

２．分析方法

測定は株式会社加速器分析研究所の協力を得て、AMS法により行った。なお、放射性炭素の半減期はLIBBYの半減期5,568年を使用する。また、測定年代は1950年を基点とした年代（BP）であり、誤差は標準偏差（One Sigma）に相当する年代である。なお、暦年較正は、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV5.0（Copyright 1986-2005 M Stuiver and PJ Reimer）を用い、いずれの試料も北半球の大気圏における暦年較正曲線を用いる条件を与えて計算させている。なお、炭化材については、実体鏡による木材組織の観察で樹種の同定を実施する。木材については、剃刀の刃を用いて木口（横断面）・柾目（放射断面）・板目（接線断面）の３断面の徒手切片を作製し、ガム・クロラール（抱水クロラール，アラビアゴム粉末，グリセリン，蒸留水の混合液）で封入し、プレパラートを作製する。作製したプレパラートは、生物顕微鏡で観察・同定する。

３．結果

結果を表１・２に示す。測定年代（補正年代）は、テフラ層出土木材が32060BP（試料番号３）と1550BP（試料番号４）、SI-５　７層出土炭化材（試料番号1）が1220BP、SK-４　１層出土炭化材（試料番号２）が530BPの値を示す。なお、測定試料の樹種は、サクラ属・広葉樹・モミ属・ブナ属に同定された。

今後考古学的所見との総合解析を行うことがのぞまれる。さらに、同一遺構・同一層準から出土した炭化材や木材等の測定点数を増やすことにより、より詳細な年代資料が得られると思われる。

表１　放射性炭素年代測定結果

試料番号	試料名		試料の質	樹種	補正年代 BP	δ13C (‰)	測定年代 BP	Code.No.
1	SI-5	7層	炭化材	サクラ属	1220±40	-33.76±0.89	1370±30	IAAA-41876
2	SK-4	1層	炭化材	広葉樹	530±40	-27.01±0.91	560±40	IAAA-41877
3	テフラ		木材	モミ属	32060±250	-22.21±0.82	32010±250	IAAA-41878
4	テフラ		木材	ブナ属	1550±40	-24.71±0.97	1540±40	IAAA-41879

１）年代値の算出には、Libbyの半減期5568年を使用。

２）BP年代値は、1950年を基点として何年前であるかを示す。

３）付記した誤差は、測定誤差σ（測定値の68%が入る範囲）を年代値に換算した値。

表２　暦年較正結果

試料番号	補正年代 (BP)	暦年較正年代(cal)		相対比	Code No.
1	1221±36	cal AD　725 - cal AD　738	cal BP 1,225 - 1,212	0.103	IAAA-41876
		cal AD　771 - cal AD　871	cal BP 1,179 - 1,079	0.897	
2	529±38	cal AD 1,330 - cal AD 1,338	cal BP　620 -　612	0.117	IAAA-41877
		cal AD 1,397 - cal AD 1,434	cal BP　553 -　516	0.883	
3	32060±253	- - - -	- - -	-	IAAA-41878
4	1545±40	cal AD　435 - cal AD　492	cal BP 1,515 - 1,458	0.55	IAAA-41879
		cal AD　508 - cal AD　519	cal BP 1,442 - 1,431	0.092	
		cal AD　528 - cal AD　563	cal BP 1,422 - 1,387	0.358	

１）計算には、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV4.4 (Copyright 1986-2002 M Stuiver and PJ Reimer) を使用

２）計算には表に示した丸める前の値を使用している。

３）付記した誤差は、測定誤差σ（測定値の68%が入る範囲）を年代値に換算した値。

４）No.3は暦年較正の範囲外の値。

第２節　平成17年度放射性炭素年代測定結果

パレオ・ラボAMS年代測定グループ
小林紘一・丹生越子・伊藤茂・山形秀樹・
Zaur Lomtatidze・Ineza Jorjoliani

１．はじめに

合子沢松森(２)遺跡より検出された試料について、加速器質量分析法（AMS法）による放射性炭素年代測定を行った。

２．試料と方法

測定試料の情報、調整データは表１のとおりである。試料は調整後、加速器質量分析計（パレオ・ラボ、コンパクトAMS：NEC製 1.5SDH）を用いて測定した。得られた^{14}C濃度について同位体分別効果の補正を行った後、^{14}C年代、暦年代を算出した。

表１　測定試料及び処理

測定番号	遺跡データ	試料データ	前処理	測定
PLD-5701	遺構：SD-2,3 層位：覆土4 試料№：①	試料の種類：炭化材 試料の性状：年輪部不明 状態：dry カビ：無	超音波煮沸洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸1.2N，水酸化ナトリウム1N，塩酸1.2N)	PaleoLabo： NEC製コンパクトAMS・1.5SDH
PLD-5702	遺構：SD-3 層位：覆土23 試料№：②	試料の種類：炭化材 試料の性状：年輪部不明 状態：dry カビ：無	超音波煮沸洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸1.2N，水酸化ナトリウム1N，塩酸1.2N)	PaleoLabo： NEC製コンパクトAMS・1.5SDH
PLD-5703	遺構：SI-8 層位：カマド 試料№：③	試料の種類：炭化材 試料の性状：年輪部不明 状態：dry カビ：無	超音波煮沸洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸1.2N，水酸化ナトリウム1N，塩酸1.2N)	PaleoLabo： NEC製コンパクトAMS・1.5SDH
PLD-5704	遺構：SI-9 試料№：④	試料の種類：炭化材 試料の性状：年輪部不明 状態：dry カビ：無	超音波煮沸洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸1.2N，水酸化ナトリウム1N，塩酸1.2N)	PaleoLabo： NEC製コンパクトAMS・1.5SDH
PLD-5705	遺構：SI-10 層位：床面 試料№：⑤	試料の種類：炭化材 試料の性状：年輪部不明 状態：dry カビ：無	超音波煮沸洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸1.2N，水酸化ナトリウム1N，塩酸1.2N)	PaleoLabo： NEC製コンパクトAMS・1.5SDH
PLD-5706	遺構：SE-6 層位：覆土14 試料№：⑥	試料の種類：炭化草本類 試料の性状：茎 状態：dry カビ：無	超音波煮沸洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸1.2N，水酸化ナトリウム1N，塩酸1.2N)	PaleoLabo： NEC製コンパクトAMS・1.5SDH
PLD-5707	遺構：SD-33 層位：覆土1 試料№：⑦	試料の種類：炭化材 試料の性状：年輪部不明 状態：dry カビ：無	超音波煮沸洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸1.2N，水酸化ナトリウム1N，塩酸1.2N)	PaleoLabo： NEC製コンパクトAMS・1.5SDH

３．結果

表２に、同位体分別効果の補正に用いる炭素同位体比（δ^{13}C)、同位体分別効果の補正を行った^{14}C年代、^{14}C年代を暦年代に較正した年代範囲、暦年較正に用いた年代値を、図１～７に暦年較正結果をそれ

ぞれ示す。暦年較正に用いた年代値は、今後暦年較正曲線が更新された際にこの年代値を用いて暦年較正を行うために記載した。

^{14}C年代はAD1950年を基点にして何年前かを示した年代である。^{14}C年代（yrBP）の算出には、^{14}Cの半減期としてLibbyの半減期5568年を使用した。また、付記した^{14}C年代誤差（±1σ）は、測定の統計誤差、標準偏差等に基づいて算出され、試料の^{14}C年代がその^{14}C年代誤差内に入る確率が68.2%であることを示すものである。

なお、暦年較正の詳細は以下の通りである。

暦年較正

暦年較正とは、大気中の^{14}C濃度が一定で半減期が5568年として算出された^{14}C年代に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の^{14}C濃度の変動、及び半減期の違い（^{14}Cの半減期5730±40年）を較正することで、より実際の年代値に近いものを算出することである。

^{14}C年代の暦年較正にはOxCal3.10（較正曲線データ：INTCAL04）を使用した。なお、1σ暦年代範囲は、OxCalの確率法を使用して算出された^{14}C年代誤差に相当する68.2%信頼限界の暦年代範囲であり、同様に2σ暦年代範囲は95.4%信頼限界の暦年代範囲である。カッコ内の百分率の値は、その範囲内に暦年代が入る確率を意味する。グラフ中の縦軸上の曲線は^{14}C年代の確率分布を示し、二重曲線は暦年較正曲線を示す。それぞれの暦年代範囲のうち、その確率が最も高い年代範囲については、表中に下線で示してある。

表２　放射性炭素年代測定及び暦年較正の結果

測定番号	δ^{13}C (‰)	^{14}C年代 (yrBP±1σ)	^{14}C年代を暦年代に較正した年代範囲		暦年較正用年代 (yrBP±1σ)
			1σ暦年代範囲	2σ暦年代範囲	
PLD-5701	-26.19±0.16	1175±20	780AD(5.8%)790AD 810AD(62.4%)890AD	770AD(92.3%)900AD 920AD(3.1%)940AD	1177±21
PLD-5702	-24.77±0.15	1235±20	700AD(31.7%)750AD 760AD(31.3%)820AD 840AD(5.2%)860AD	690AD(39.8%)750AD 760AD(55.6%)880AD	1235±20
PLD-5703	-26.02±0.16	1230±20	710AD(18.6%)750AD 760AD(38.1%)830AD 840AD(11.5%)870AD	690AD(28.4%)750AD 760AD(67.0%)880AD	1229±22
PLD-5704	-24.88±0.16	1190±20	780AD(6.5%)790AD 805AD(61.7%)880AD	770AD(95.4%)900AD	1192±22
PLD-5705	-22.03±0.21	1190±25	780AD(5.7%)790AD 805AD(62.5%)885AD	770AD(95.4%)900AD	1189±23
PLD-5706	-9.95±0.16	860±20	1170AD(68.2%)1215AD	1050AD(1.4%)1080AD 1150AD(94.0%)1230AD	858±19
PLD-5707	-25.97±0.16	1305±20	665AD(40.5%)695AD 700AD(5.7%)710AD 745AD(22.0%)765AD	660AD(95.4%)780AD	1304±21

４．考察

試料について、同位体分別効果の補正及び暦年較正を行った。得られた暦年代範囲のうち、その確率

の最も高い年代範囲に着目すると、それぞれより確かな年代値の範囲が示された。

試料№①（PLD-5701）は、炭化材であるが、１σ暦年代範囲においてCal AD 810 -890年（62.4%）、２σ暦年代範囲においてCal AD 770-900年（92.3%）であった。

試料№②（PLD-5702）は、炭化材であるが、１σ暦年代範囲においてCal AD 700-750年（31.7%）または760-820年（31.3%）、２σ暦年代範囲においてCal AD 760-880年（55.6%）であった。

試料№③（PLD-5703）は、炭化材であるが、１σ暦年代範囲においてCal AD 760-830年（38.1%）、２σ暦年代範囲においてCal AD 760-880年（67.0%）であった。

試料№④（PLD-5704）は、炭化材であるが、１σ暦年代範囲においてCal AD 805-880年（61.7%）、２σ暦年代範囲においてCal AD 770-900年（95.4%）であった。

試料№⑤（PLD-5705）は、炭化材であるが、１σ暦年代範囲においてCal AD 805-885年（62.5%）、２σ暦年代範囲においてCal AD 770-900年（95.4%）であった。

試料№⑥（PLD-5706）は、炭化草本類の茎であるが、１σ暦年代範囲においてCal AD 1170-1215年（68.2%）、２σ暦年代範囲においてCal AD 1150-1230年（94.0%）であった。

試料№⑦（PLD-5706）は、炭化材であるが、１σ暦年代範囲においてCal AD 665-695年（40.5%）、２σ暦年代範囲においてCal AD 660-780年（95.4%）であった。

測定試料は炭化材が多いが、木材は複数年輪からなり最外年輪部を測定した場合には少なくとも伐採年代を示す。しかし、これ以外の年輪部を測定した場合にはこの伐採年代よりも古い年代となる。測定した炭化材は、いずれも最外年輪部を測定していないため、調査の知見による予想年代よりも古い年代であることが考えられる。

なお、試料№⑥は、草本類であるが、$\delta^{13}C$の値が-9.95と高いことから、Ｃ４植物群のキビやアワあるいはヒエなどの雑穀類の植物遺体と思われる。

参考文献

Bronk Ramsey C.（1995）Radiocarbon Calibration and Analysis of　Stratigraphy: The OxCal Program, Radiocarbon, 37（2）, 425-430.

Bronk Ramsey C.（2001）Development of the Radiocarbon Program OxCal, Radiocarbon, 43（2A）, 355-363.

中村俊夫（2000）放射性炭素年代測定法の基礎．日本先史時代の^{14}C年代, 3-20.

Reimer PJ, MGL Baillie, E Bard, A Bayliss, JW Beck, C Bertrand, PG Blackwell, CE Buck, G Burr, KB Cutler, PE Damon, RL Edwards, RG Fairbanks, M Friedrich, TP Guilderson, KA Hughen, B Kromer, FG McCormac, S Manning, C Bronk Ramsey, RW Reimer, S Remmele, JR Southon, M Stuiver, S Talamo, FW Taylor, J van der Plicht, and CE Weyhenmeyer.（2004）Radiocarbon 46, 1029-1058.

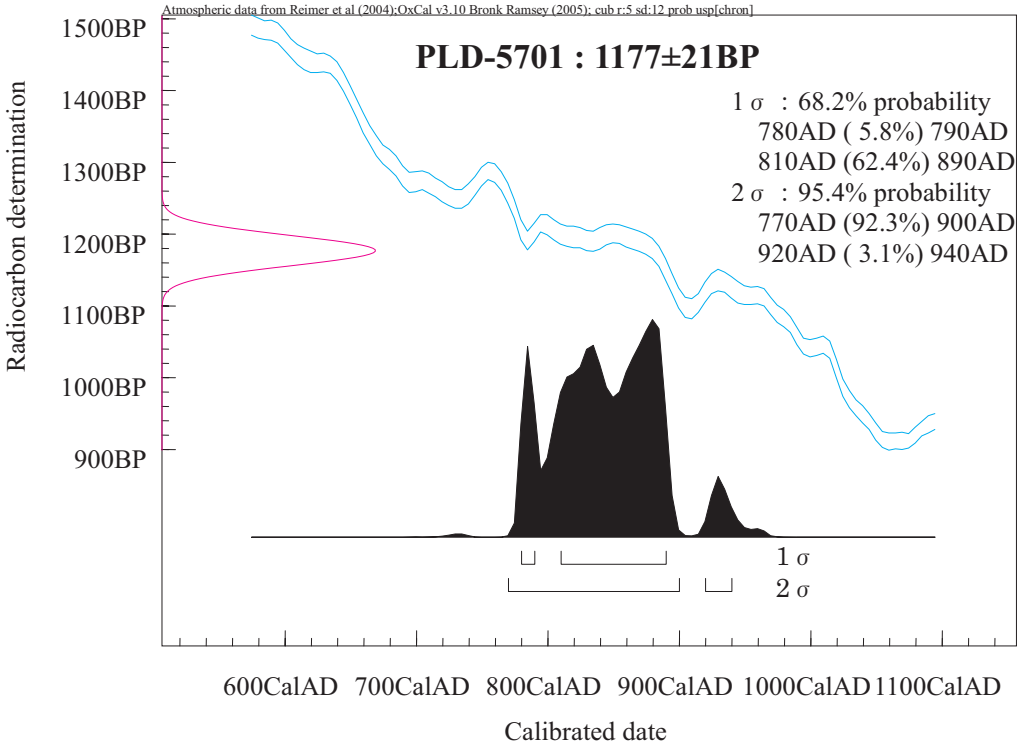


図１　暦年較正結果（１）

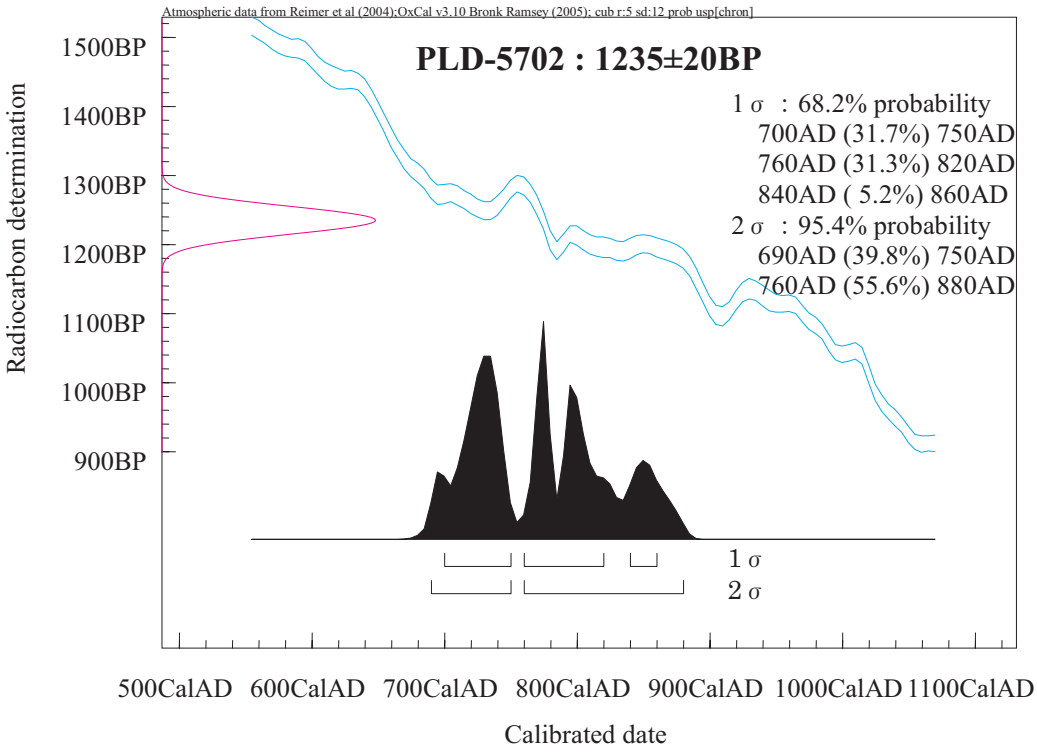


図２　暦年較正結果（２）

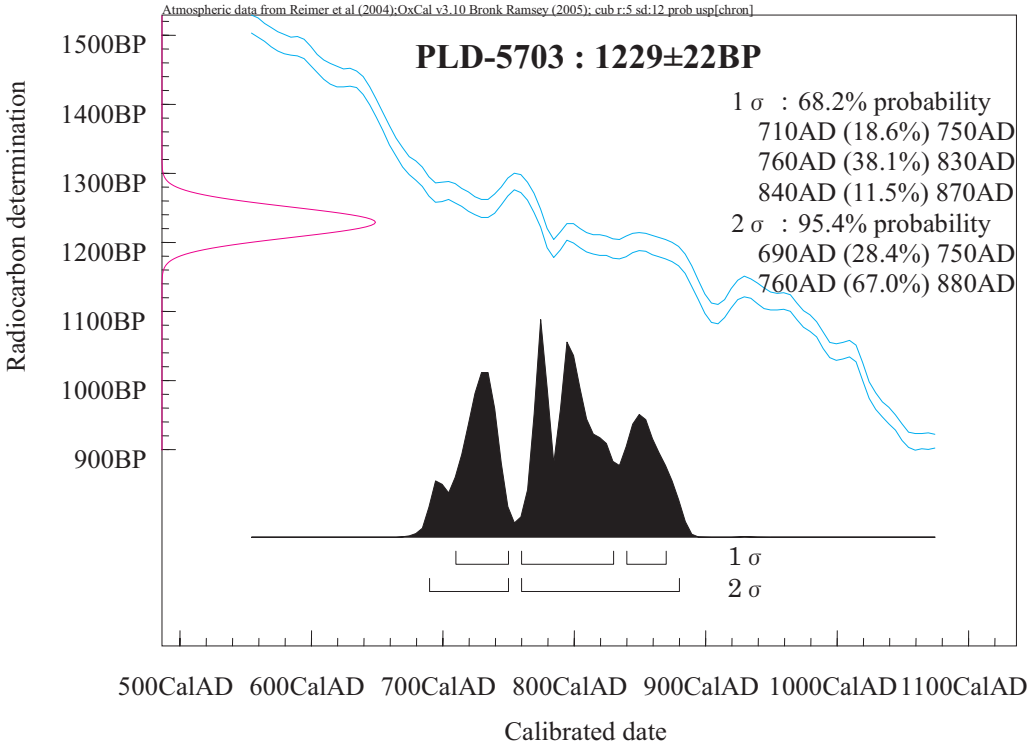


図３　暦年較正結果（３）

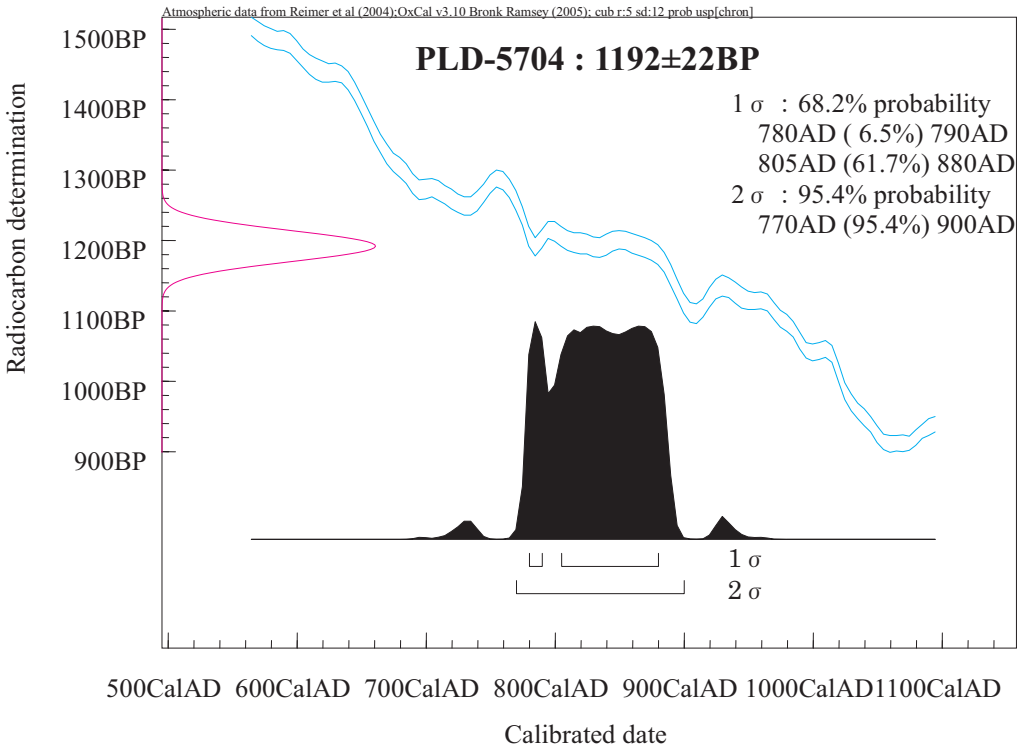


図４　暦年較正結果（４）

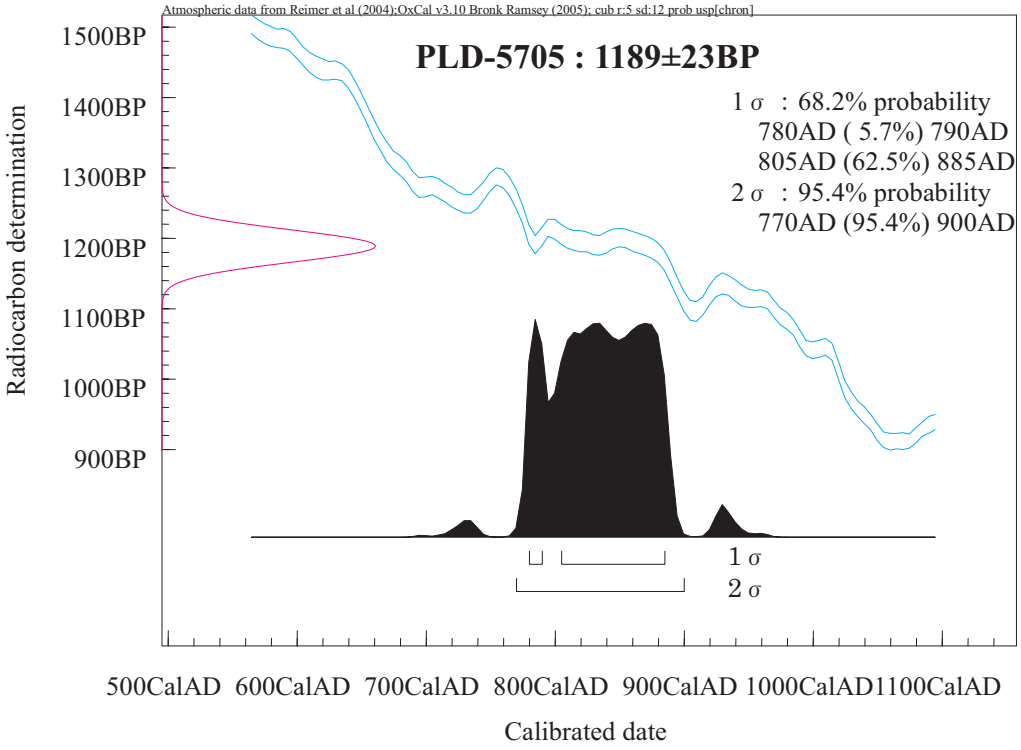


図５　暦年較正結果（５）

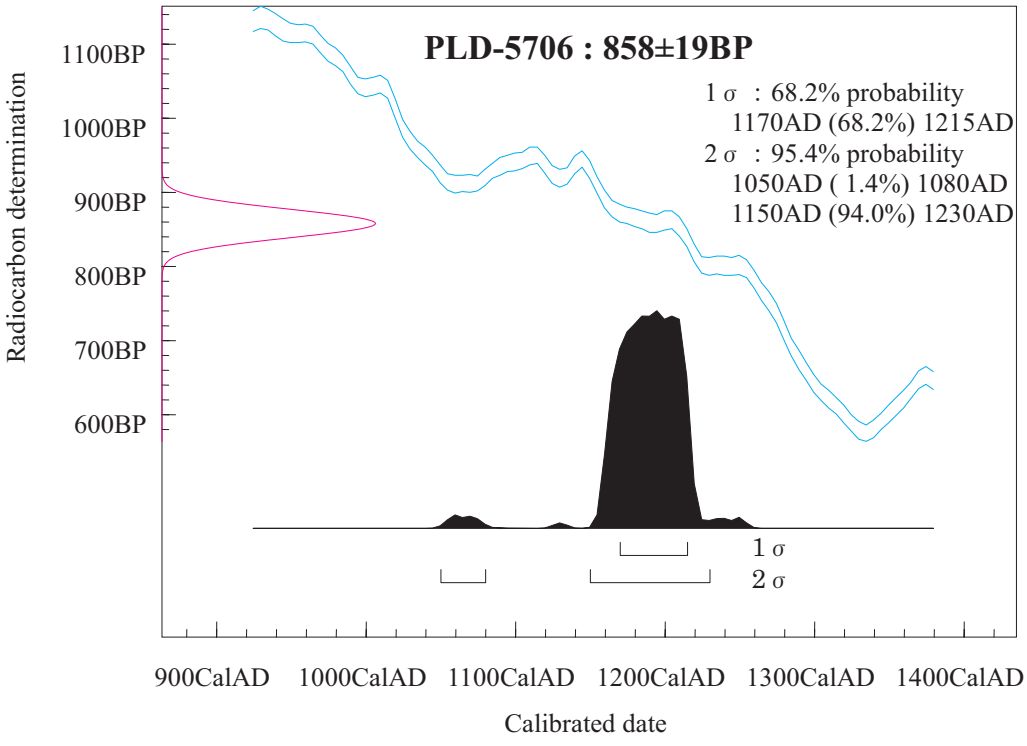


図６　暦年較正結果（６）

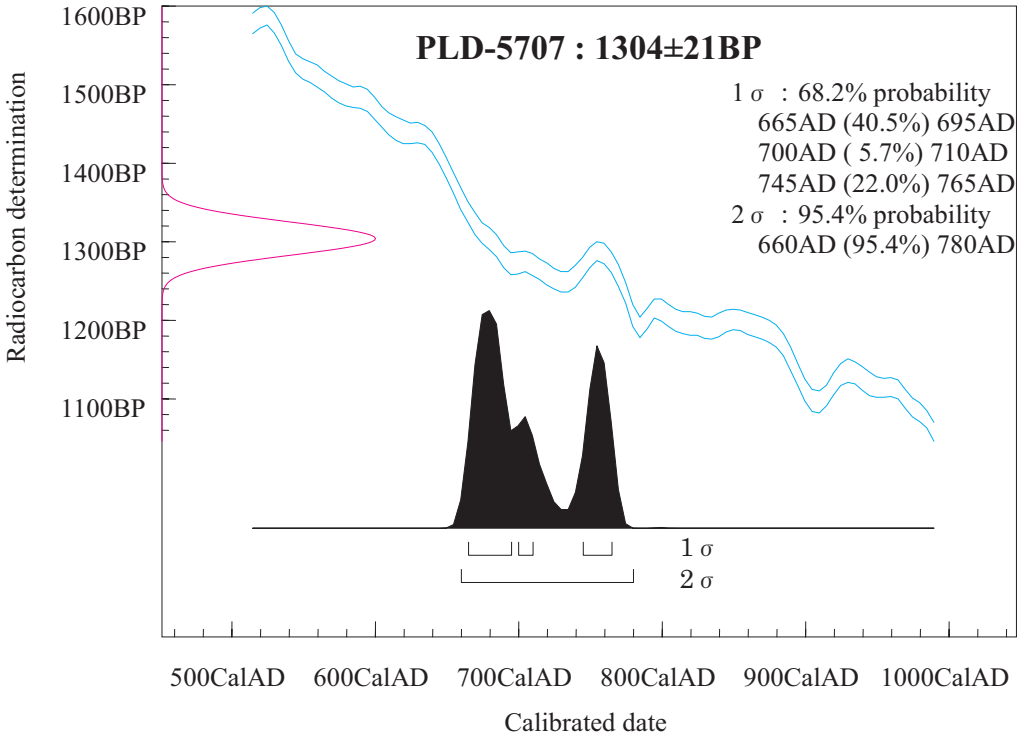

PLD-5707 : 1304±21BP
1σ ：68.2% probability
665AD (40.5%) 695AD
700AD (5.7%) 710AD
745AD (22.0%) 765AD
2σ ：95.4% probability
660AD (95.4%) 780AD
1σ
2σ
1600BP
1500BP
1400BP
1300BP
1200BP
1100BP
Radiocarbon determination
500CalAD
600CalAD
700CalAD
800CalAD
900CalAD
1000CalAD
Calibrated date

図７　暦年較正結果（７）

第３節　合子沢松森（２）遺跡土器埋設遺構の内容物について

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

合子沢松森（２）遺跡（青森市大字合子沢字松森所在）は、八甲田山の裾野につながる火山性台地が、合子沢川の流れによって削られ、段丘化した場所に立地する。今回の分析調査では、Ｌ－113グリッドで検出された平安時代の土器埋設遺構（第１号土器埋設遺構）について、土壌理化学分析と脂質分析を行い、遺体埋納に関する情報を得る。土器は合口埋甕とよばれるタイプで、横位に埋設されており、内部に土壌が少量入っている。

１．試料

試料は、第１号土器埋設遺構の遺構内覆土、底面の地山、土器内から採取された93点である。分析にあたって、土坑底面の地山から３点、土器下の遺構覆土から４点、土器内から２点、遺構覆土下層から３点、遺構覆土上層から２点の計14点を選択した。今回は各試料の土壌量が少なく、各試料とも100g前後であった。このため、土器内土壌以外の12点は、隣接して採取された２試料を一組とし（ただし試料の混合は行っていない）、それぞれ土壌理化学分析と脂質分析に用いた。土壌理化学分析は再分析に必要な量を残し、残りの土壌を分析したが、脂質分析は全量を分析した。なお、土器内試料２点については、試料がやや多かったため、１試料を分割してそれぞれの分析に用いた。分析に用いた試料は、それぞれの結果表に示す。また、一組とした試料の対応関係は、図１に示す。

２．分析方法

（１）土壌理化学分析

今回は、リン酸、カルシウム、腐植含量を測定する。リン酸は硝酸・過塩素酸分解－バナドモリブデン酸比色法、カルシウムは硝酸・過塩素酸分解－原子吸光光度法、腐植はチューリン法で実施する（土壌養分測定法委員会，1981；土壌標準分析・測定法委員会，1986）。以下に各項目の具体的な操作工程を示す。

＜試料の調整＞

試料を風乾後、軽く粉砕して2.00㎜の篩を通過させる（風乾細土試料）。風乾細土試料の水分を加熱減量法（105℃、５時間）により測定する。風乾細土試料の一部を粉砕し、0.5㎜φのふるいを全通させる（微粉砕試料）。

＜リン酸・カルシウム＞

風乾細土試料2.00ｇをケルダール分解フラスコに秤量し、硝酸約5mlを加えて加熱分解する。放冷後、過塩素酸約10mlを加えて再び加熱分解を行う。分解終了後、水で100mlに定容してろ過する。ろ液の一定量を試験管に採取し、リン酸発色液を加えて分光光度計によりリン酸（P205）濃度を測定する。別にろ液の一定量を試験管に採取し、干渉抑制剤を加えた後に原子吸光光度計によりカルシウム（Ca0）濃度を測定する。これら測定値と加熱減量法で求めた水分量から乾土あたりのリン酸含量（P205mg/g）とカルシウム含量（Ca0mg/g）を求める。

＜腐植含量＞

微粉砕試料0.100～0.500ｇを100ml三角フラスコに正確に秤りとり、0.4Nクロム酸・硫酸混液10mlを正確に加え、約200℃の砂浴上で正確に５分間煮沸する。冷却後、0.2%フェニルアントラニル酸液を指示薬に0.2N硫酸第１鉄アンモニウム液で滴定する。滴定値および加熱減量法で求めた水分量から乾土あたりの有機炭素量（Org-C乾土%）を求める。これに1.724を乗じて腐植含量（%）を算出する。

（２）脂質分析

分析は、坂井ほか（1996）に基づき、脂肪酸およびステロール成分の含量測定を行う。試料が浸るに十分なクロロホルム：メタノール（２：１）を入れ、超音波をかけながら脂質を抽出する。ロータリーエバポレーターにより、溶媒を除去し、抽出物を塩酸–メタノールでメチル化を行う。ヘキサンにより脂質を再抽出し、セップパックシリカを使用して脂肪酸メチルエステル、ステロールを分離する。脂肪酸のメチルエステルの分離は、キャピラリーカラム（ULBON,HR-SS-10,内径0.25㎜,長さ30m）を装着したガスクロマトグラフィー（GC-14A,SHIMADZU）を使用した。注入口温度は250℃、検出器は水素炎イオン検出器を使用する。ステロールの分析は、キャピラリーカラム　（J&W SCIENFIC,DB-1,内径0.36㎜、長さ30m）を装着する。注入口温度は320℃、カラム温度は270℃恒温で分析を行う。キャリアガスは窒素を、検出器は水素炎イオン化検出器を使用する。

３．結果

（１）土壌理化学分析

結果を表１、図１に示す。腐植含量は１%に満たないものがほとんどであり、全体的に低い。その中でも上層や甕内の試料は１%を上回っており、相対的にみるとやや高い。リン酸含量も全体的に低く、１mg/gに満たないものがほとんどだが、腐植含量が多い上層や甕内土壌で若干高くなる。カルシウム含量は、１－７mg/gの間で変化するが、局部的に濃集するような傾向は認められず、不規則にばらつく。

（２）脂質分析

結果を表２、図１に示す。いずれの試料もパルチミン酸の割合が高い。次いでパルミトレイン酸、オレイン酸等が多い。ステロールはいずれも未検出であった。

４．考察

リン酸やカルシウムは、哺乳動物の生命維持に必要な要素であり、特に、脳、内臓、骨などに多く含まれている。これらの元素は、土壌中にも含まれており、周辺地形、土壌の種類、周辺植生などによって、その含量が異なる。動物の遺体に含まれるリン酸やカルシウムは、土壌中と比べて桁違いに多いので、これらが土壌中に埋納されると、高濃度のリン酸やカルシウムが土壌中に多く残存することになる。これらは、遺体が腐敗したあとも成分として土壌中に残存するが、経年変化によって徐々に流亡していく。このなかでも、リン酸は水に溶けにくいことから、土壌中での移動が少なく、長い間残留すると考えられている。リン酸は、植物遺体にも含まれているため、自然状態においては、リン酸と腐植含量との間に正の相関がある。今回腐植とリン酸との相関（係数）は、0.92と非常に高い。このことから、検出されたリン酸は埋納等によって付加されたものではなく、腐植由来と考えられ、自然状態の範囲内にあるといえる。一方カルシウムは、水に溶けやすいため流亡しやすく、石灰岩を含む土壌などでは非常に高くなるなど、後背の地質に影響されやすい。このため、極端に高い場合を除いては、遺体埋納の指

図1　脂質・土壌理化学組成

表１　土壌理化学分析結果

試　料　名	土　性	土　　色	腐植含量(%)	P205(mg/g)	Ca0(mg/g)
埋設１号　上層 19	SCL	10YR4／4　褐	1.27	0.61	3.23
埋設１号　上層 15	SCL	10YR4／4　褐	1.48	0.64	6.90
埋設１号　下層 31	SCL	10YR4／4　褐	1.25	0.63	5.18
埋設１号　下層 30	SC	10YR4／6　褐	0.80	0.41	1.31
埋設１号　下層 34	SC	10YR4／6　褐	0.69	0.36	1.66
埋設１号　土器内 92	SL	10YR4／3　オリーブ褐	3.16	1.34	4.37
埋設１号　土器内 93	SL	10YR4／3　オリーブ褐	1.68	1.28	3.97
埋設１号　土器下 51	SCL	10YR4／6　褐	0.42	0.30	4.50
埋設１号　土器下 43	SCL	10YR4／6　褐	0.75	0.42	3.71
埋設１号　土器下 45	SCL	10YR4／6　褐	0.37	0.34	4.12
埋設１号　土器下 47	SCL	10YR4／6　褐	0.52	0.38	3.16
埋設１号　底面 61	SC	10YR4／6　褐	0.28	0.26	6.56
埋設１号　底面 63	SC	10YR4／6　褐	0.35	0.26	3.45
埋設１号　底面 65	SC	10YR4／6　褐	0.21	0.22	2.63

土色は、新版標準土色帖（農林省農林水産技術会議監修，1967）による。
土性は、土壌調査ハンドブック（ペドロジスト懇談会編，1984）の野外土性による。

SL･･･砂壌土（粘土0～15%、シルト0～35%、砂65～85%）
SCL･･･砂質埴壌土（粘土15～25%、シルト0～20%、砂5～85%）
SC･･･砂質埴土（粘土25～45%、シルト0～20%、砂55～75%）

標とはなりにくく、今回の場合動物遺体に由来するかどうかは不明である。

脂肪酸は、土壌微生物に由来するものや（荒尾ほか，1995)、植物のワックスに由来するもの（筒木･近藤，1997；1998）など、自然状態であっても微量ではあるが土壌中に含まれる。ヒトなど動物の遺体には、多くの脂肪酸が含まれているので、土壌中に埋蔵されると多くの脂肪酸が土壌中に残存することになる。動物に含まれる脂肪酸は、土壌と比べると桁違いに多い。そのため、動物遺体埋納により脂肪酸が富化されると、土壌中に本来含まれる脂肪酸の組成は埋没し、分析によって得られるのは動物由来の脂肪酸組成となる。また、脂肪酸は体の中で偏在（脳や内臓に多い）し、部位によってその組成も異なるため、遺構内で組成のばらつきが起こる。遺体埋納によって脂質が遺構内に付加されると、脂質の密度の差による脂肪酸組成のばらつき、脳や臓器に多いC20以上の脂肪酸の増加、動物性ステロールの増加、などの現象が起こる。これらの点に着目することによって、遺構内容物の検証を行うことができる。

今回検出された脂肪酸は、パルミチン酸、パルミトレイン酸など分子量が小さな脂肪酸が多い。脂肪酸の分解は、炭素原子（C）が二つずつ失われることによって進み、不飽和脂肪酸については、その際二重結合が一つずつ少なくなっていく（丸山，1999など)。このような経過をたどることにより、土壌中ではパルチミン酸など化学的に安定な脂肪酸が相対的に増加する（坂井・小林，1995など)。また、動物の内臓や脳に多いC20以上の脂肪酸は、今回の試料ではほとんど検出されない。以上のことから、今回得られた組成は、経年変化により化学的に安定な脂肪酸のみが残存しているといえそうである。

以上のことから、今回の分析結果から見る限り、リン酸、カルシウム、脂質のいずれの値も自然状態の範囲内で、動物遺体の痕跡は認められない。上層や土器内ではリン酸の値がやや高いが、腐植含量も同様に高いことから、腐植に由来するものと思われる。仮に本来動物遺体が埋納されていたとすれば、経年変化により流亡し、自然状態のレベルまで各成分の値が下がっていると推定される。

表2.　脂質分析結果

種類	上層		下層			土器内		土器下				底面		
試料名	13	14	24	29	33	92	93	50	42	44	46	60	62	64
脂肪酸組成														
ミリスチン酸（C14）	－	－	－	－	－	－	7.6	－	8.7	－	－	－	－	6.7
パルミチン酸（C16）	39.2	42.6	62.1	100.0	100.0	53.4	33.2	100.0	37.5	56.1	54.9	58.4	55.7	37.7
パルミトレイン酸（C16:1）	18.1	12.2	37.9	－	－	46.6	25.2	－	17.4	28.4	21.0	12.1	44.3	29.8
ステアリン酸（C18）	8.7	11.1	－	－	－	－	10.1	－	8.1	－	－	16.5	－	6.5
エライジン酸（C18:1trans）	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
オレイン酸（C18:1ｃｉｓ）	20.3	22.1	－	－	－	－	13.9	－	28.2	15.5	24.1	13.0	－	19.3
リノール酸（C18:2）	13.7	11.9	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
αリノレン酸（C18:3）	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
アラキジン酸（C20）	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
イコセン酸（C20:1）	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
アラキドン酸（C20:4）	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
ベヘン酸（C22）	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
ドコセン酸（C22:1trans）	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
エルカ酸（C22:1cis）	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
イコサペンタエン酸(C20:5)	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
リグノセリン酸（C24）	－	－	－	－	－	－	9.8	－	－	－	－	－	－	－
テトラコセン酸（C24:1）	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
ドコサヘキサエン酸(C22:6)	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
ステロール組成														
コプロスタノール	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
コレステロール	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
エルゴステロール	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
カンペステロール	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
スティグマステロール	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
シトステロール	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
分析試料の重量(g)	65	71	77	88	85	99	102	104	99	100	135	128	111	130

引用文献

荒尾知人・岡野正豪・金森哲夫, 1995, GC-MSによる土壌中のリン脂質脂肪酸組成の分析. 日本土壌肥料学会関東支部群馬大会講演要旨集, 9.

土壌養分測定法委員会編, 1981, 土壌養分分析法. 養賢堂, 440p.

土壌標準分析・測定法委員会編, 1986, 土壌標準分析・測定法. 博友社, 354p.

丸山　工作, 1999, 生化学入門. 188p, 裳華房.

農林省農林水産技術会議事務局監修, 1967, 新版標準土色帖.

ペドロジスト懇談会編, 1984, 土壌調査ハンドブック. 博友社, 156p.

坂井　良輔・小林　正史, 1995, 脂肪酸分析の方法と問題点. 考古学ジャーナル, 386, 9–16, ニューサイエンス社.

坂井　良輔・小林　正史・藤田　邦雄, 1996, 灯明皿の脂質分析. 富山県文化振興財団埋蔵文化財発掘調査報告第7集 梅原胡摩堂遺跡発掘調査報告（遺物編）　第二分冊, 財団法人 富山県文化振興財団, 24–37.

筒木　潔・近藤連三, 1997, 泥炭地植物のフェノール性化合物, 脂肪酸, ステロール組成. 日本土壌肥料学雑誌, 68, 37–44.

筒木　潔・近藤連三, 1998, 泥炭地の乾燥化と植生変化に伴う泥炭の脂質組成の変化. 日本土壌肥料学雑誌, 69, 12–20.

第Ⅴ章　調査のまとめ

第１節　円形周溝

本遺跡では、計６基の円形周溝を検出している。

このうち第１号円形周溝ａ～ｃとしたものは、ほぼ南側に開口部が見られるＣ字状を呈する第１号円形周溝ａの外側に、これを囲うように、その西側に弧状を呈する第１号円形周溝ｂ、さらにその西側に同じく弧状を呈する第１号円形周溝ｃが見られるという検出状況である。これらは互いに接しておらず重複関係は見られない。

第２号円形周溝は、ほぼ南側に開口部が見られＣ字状を呈する。東側で第３号円形周溝ａ並びに第３号円形周溝ｂと接し、重複しており堆積土の観察からは第３号円形周溝ｂより新しく、第３号円形周溝ａより古いものと思われた。

第３号円形周溝ａ、ｂとしたものは、南側から若干東寄りに開口部が見られ、おおむねＣ字状を呈するものと思われる第３号円形周溝ｂの外側に、これを囲うように第３号円形周溝ａが見られる。これらは接し、重複しており堆積土の観察からは第３号円形周溝ａが新しい。なお、第３号円形周溝ａは南側から若干東寄りに開口部が見られるＣ字状を呈する形状と思われたが、北側において第３号円形周溝ｂとの境界が不明瞭になり、あるいは第３号円形周溝ｂの東側と西側でこれを弧状に囲む２基の周溝であった可能性も考えられる。

これら本遺跡で見られた円形周溝は、本市新町野地区の新町野遺跡や本市浪岡地区の野尻(２)遺跡の調査で見られた円形周溝に類例が求められるようである。

第１号円形周溝ａ～ｃは、新町野遺跡（青森市教育委員会　2001ａ）で形態分類されている第Ⅳ群「周辺に新たに弧状の溝を付設したもの」に相当するものと思われ、第１号円形周溝ａ→第１号円形周溝ｂ→第１号円形周溝ｃの順で拡張されたものと思われる。また、拡張の段階で古い周溝を埋め戻す事例も見られるようだが、本遺跡では確認していない。

第２号円形周溝、第３号円形周溝ａ、ｂは、野尻(２)遺跡（青森県教育委員会　1996）で分類されている「Ｅタイプ　二つの円形周溝の円弧の一部分を重複させ、二つの円形周溝がセットとして意識的に造られたと思われるもの。形態的にはメガネ状を呈する。」に相当するものと思われる。

これらの時期については、第１号円形周溝ｃ、第２号円形周溝の覆土中には、白頭山火山灰が層状に堆積しており、おおむね本遺構の下限を示すものと思われる。また、第１号円形周溝ａは第６号竪穴住居跡と、第１号円形周溝ｂ、ｃは第７号竪穴住居跡と、また、第２号円形周溝は第９号竪穴住居跡と、第３号円形周溝ａ、ｂは第12号竪穴住居跡とそれぞれ重複関係にあり、そのいずれもが住居跡より新しいものとなっている。これらの竪穴住居跡は出土遺物から、おおむね９世紀末葉から10世紀前半の時期と思われ、これらより新しい円形周溝の時期の上限もおおまかではあるが想定される。

第２節　土器埋設遺構

第１号土器埋設遺構は、土師器の甕二個体の口の部分を合わせて掘り方内に横位に納めている、「合口甕棺」、「合口埋甕遺構」等と呼称されるタイプのものである。

第２号竪穴住居跡ｂの西壁際で確認、検出している。住居跡の堆積土を床面まで掘り下げた段階で横位に納められた甕と、甕が納められている長楕円形の掘り方を確認したため、第２号竪穴住居跡ｂとの新旧関係については、詳細な堆積状況の観察ができず、厳密には不明といわざるを得ない結果となってしまった。

このタイプの遺構は、青森県内では本市浪岡地区の野尻(１)遺跡、野尻(３)遺跡で各１基、並びに未報告であるが、当委員会による本市石江地区、新城平岡(４)遺跡の平成18年度現地調査で１基検出されている。

範囲を東北地方に広げると、「東日本における奈良・平安時代の墓制－墓制をめぐる諸問題－」（東日本埋蔵文化財研究会栃木大会準備委員会　1995）において多数掲載されており、またその後の検出事例も加えると現在では30ヶ所を超える遺跡においてその検出が見られるようである。ただ、岩手県内、宮城県内での検出事例が多く見られる状況は現在においても以前と同様であるものと思われる。

このタイプの遺構について、沼山によると（沼山　1985）

①多くは一基だけ単独で営まれ、群集はみられない。

②顕著な墳丘はみられず地表下に埋納。

③遺構の多くは平面楕円形、船底状壙底の土壙に合口甕棺を横位に埋置。一般に土壙には特に施設はみとめられない。

④甕棺に用いる土師器甕は、日常用のものを転用したもので、大きさは口径20～25㎝、口縁を合わせた２個の総長は60～70㎝程度である。

⑤総じて副葬品等の伴出遺物のないものが多いが、土師器坏、木炭などがままみられる。

⑥甕棺は幼児用か成人の改葬用か一概に決め難く、なかには成人の歯牙が検出された例もあるが、多くは幼児用の可能性が強い。

⑦年代は平安前半期で、８世紀代に遡るものはない。

と上記に抜粋した諸特徴が述べられている。

これらの点を本遺跡における検出状況と比較すると、⑥については、埋納されている甕の内部がほぼ空洞で歯牙等の検出が見られなかったことや、下部に堆積していた土壌の自然科学的分析結果を踏まえその判断ができかねるものと思うが、その他は③に係る掘り方底面がおおむね平坦であった点を除いて本遺跡検出のものも同様であるものと思われる。

しかしながら、本遺跡の検出事例で着目したいのは掘り方の形態について、西壁がオーバーハングし、袋状に掘り込まれている点である。また、西壁からの掘り方の深さも45㎝と他の良好な検出例と比較してもやや深めのもののようである。これらのことは、堆積状況からは判断できなかったが、本遺構が第２号竪穴住居跡ｂの使用時あるいは廃絶時に伴う可能性が高いことを示しているようにも思われる。また、未報告ながら本市の新城平岡(４)遺跡現地調査における検出状況は、平安時代の竪穴住居跡壁隅に設置されているもので、堆積状況の観察から現時点においては、住居使用時から住居廃絶時に伴う可能性が考えられている。

本遺跡検出例を竪穴住居跡に伴うものと仮定すれば、新城平岡(４)遺跡検出例と合わせてこのタイプの遺構にはこれまで見られなかった個々の住居跡に伴う設置状況であるように思われる。類例がいまだ僅かであるこのタイプの遺構で、本市において住居跡に伴うものと考えられるものが複数見られることは、単なる偶然とも考えにくい。典型的な諸特徴はこれまでのものとおおむね同様であることから、本

来的なものから派生した、あるいは地方的な一形態とも思われる。

このタイプの遺構の用途については、主として乳幼児を対象とした埋葬施設であるとする説や道路に係る地鎮等に係る施設とする説が見られるようである。本遺跡や新城平岡(４)遺跡における住居跡に係る検出状況からは、道路との関係は考えにくいものと思われる。しかし、本遺跡においては掘り方内に埋納された甕の状態が比較的良好であったものの、内部土壌の自然科学分析も含め埋葬施設であるとする点についてもあまり積極的に支持する材料は見られない。本市においても僅かずつ見られつつあり、更なる類例の増加を待ちたい。

（小野貴之）

ま と め

合子沢松森(２)遺跡は、青森市大字合子沢字松森に所在する。

本遺跡は、青森市の南東部から南部に広がる火山性台地が合子沢川により開析された標高35～50mの河岸段丘上に立地している。

当委員会では、東北新幹線建設工事に先立ち平成16年度、平成17年度の２ヵ年にわたり本遺跡の発掘調査を実施した。第一次調査にあたる平成16年度の調査面積は3,500㎡、第二次調査にあたる平成17年度の調査面積は4,250㎡である。調査対象面積は当初5,750㎡の予定であったが、第一次調査の結果を受け遺跡範囲を拡張したこと及び工事計画の変更により、最終的な調査面積は7,750㎡となっている。

調査区は、本遺跡範囲東側にあたり。標高は35～41mである。調査区西側が標高39～41mと高く、調査区中央部から東側が標高35～38mと低くなっており、グリッド107～112ライン間において段上に２m程度の比高差が見られたが、これは宅地造成による削平の結果と思われ、本来は西側から東側になだらかに下る丘陵であったと思われる。

調査の結果、竪穴住居跡12軒、土坑23基、溝状土坑２基、土器埋設遺構１基、焼土遺構６基、円形周溝６基、溝跡30条、井戸跡６基、柱穴状ピット233基を検出した。また、縄文土器、平安時代の須恵器、土師器、中世のかわらけ、石器、土製品、石製品、鉄関連遺物、古銭等ダンボール箱で57箱分の遺物が出土した。平安時代の集落跡を主体とするものと思われる。

遺構の検出状況は全体的に見て、削平の影響なのかグリッド105～112ライン間においては、第８号竪穴住居跡、第１号土坑を除いて遺構が見られず、結果調査区の東側と西側に分かれるような検出状況となっている。また、調査区端に位置する遺構もあり、特に調査区西側では調査区外の北側、南側に遺構の分布が広がるように思われる。

竪穴住居跡は、全て平安時代のものである。調査区の東側で８軒、西側で４軒検出している。重複等により不明なものも見られるが、カマドが設置される壁が判断できるものは、北壁に設置するものが３軒、南壁に設置するものが７軒、東壁に設置するものが１軒と、南壁に設置するものが多い傾向が見られた。また、円形周溝や溝跡、土坑との重複関係が見られるものが８軒あるが、いずれも住居跡が切られ、古いものとなっている。出土遺物からはおおむね９世紀末葉から10世紀前半の時期と思われた。

土坑は、詳細な時期の不明なものが多いが、出土遺物から平安時代と思われるものも見られた。

溝状土坑は２基の検出である。出土遺物は見られなかったが形態からはおおむね縄文時代のものと思われる。

土器埋設遺構は、土師器の甕二個体の口を合わせて横位に納める「合口甕棺」、「合口埋甕遺構」と呼称されるタイプのもので、第２号竪穴住居跡ｂの西壁際で検出している。住居跡との新旧関係については、詳細な堆積状況の確認ができなかったことから不明としたが、住居跡の壁を袋状に掘り込んでいる構造からは、住居跡に伴う、ないし住居跡の廃絶当初に伴う可能性が高いのではないかと思われる。道路跡を除き、あまり他の遺構に伴うことが見られない遺構と思われるが、当委員会で今年度調査を実施した新城平岡(４)遺跡においては未報告であるが、竪穴住居跡の壁隅を掘り込んだ、住居使用時ないし廃絶当初に伴うものと思われる同様の遺構が検出されている。本遺跡の検出例については、検出状況は比較的良好であったものの、自然科学的分析も含め、用途については、あまりその詳細な内容に迫ることが出来なかったが、近年、本市においても僅かではあるが見られつつあり、更なる類例の増加を待ち

たい。

焼土遺構は、６基検出したが詳細な時期は不明である。

円形周溝は、６基、拡張前後を一括すると３基検出している。主体部や盛土の存在は確認していない。円形周溝間の重複関係や、竪穴住居跡との重複関係で住居跡より新しいと判断できる点、並びに覆土中に見られる白頭山火山灰の堆積状況からは、いずれも白頭山火山灰降下前の比較的近い時期のものと考えられる。

溝跡は、30条検出している。調査区西側のものと調査区東側のものとがあり、西側の溝跡からは比較的多く出土遺物が見られ平安時代ないしそれ以降の時期と思われる。また、東側の第10号溝跡からは中世と思われる五輪塔の一部が出土し、中世ないし中世以降の時期と思われた。平安時代の竪穴住居跡や円形周溝との重複関係が見られるものは、いずれも溝跡のほうが新しく、竪穴住居跡と円形周溝との重複関係の状況も合わせて、本遺跡における平安時代以降の様相の推移は、９世紀末葉から10世紀前半における竪穴住居跡から円形周溝への移り変わり、またそれ以降における円形周溝から溝跡への移り変わりの様におおまかではあるが大きく３段階の状況が考えられる。

井戸跡は、６基検出している。調査区東側で検出した１基はおおむね平安時代、西側で検出した５基のうち第１号井戸跡からは、中世のかわらけが出土しており、比較的近い位置に見られる他の井戸跡についても中世の可能性が考えられるかもしれない。

柱穴状ピットは、233基検出しており、地点によっては密度が高くなる状況が認められたが、時期や建物跡等の詳細な性格が不明なものが多数である。

出土遺物には、土器、石器、土製品、石製品、鉄関連遺物、古銭が見られる。遺構内出土遺物が多く、遺構外から出土したものはあまり見られない。

土器には、縄文土器、平安時代の須恵器、土師器、中世のかわらけが見られる。主体を占めるのは、第Ⅱ群土器とした平安時代の須恵器、土師器である。全体として、おおむね９世紀末葉～10世紀前半の時期のものが主体となるように思われる。須恵器では、坏、鉢、壷、甕が見られ、刻書土器も９点の出土が見られた。土師器では、坏、甕、堝、壷が見られ、墨書土器が２点出土している。また、１点出土した壷については、内面に黒色処理が施されており、他とはやや時期の異なる10世紀中葉～後半のものと思われる。第Ⅰ群土器とした縄文土器は、量的にはわずかな出土であったが、早期～後期にかけての各時期のものが見られた。また、１点のみの出土であるが、井戸跡から中世のかわらけが出土している。おおむね13世紀前半のものと思われる。石製品として取り扱った中に見られる五輪塔の一部とともに、中世における本遺跡の様相を垣間見させる資料である。石器は敲磨器が最も多く出土したほか、それに次いで砥石、台石・石皿類の出土が見られた。土製品は、ミニチュア土器、有孔土製品、土製支脚、焼成粘土塊が見られた。鉄関連遺物は、羽口、鉄製品、鉄滓が見られ、鉄製品については用途の詳細が不明なものが多いが、鎌、刀子、小札など用途を特定できる製品も見られた。

最後になりましたが、本遺跡の現地調査並びに整理・報告書刊行作業にわたり、ご指導ご協力を賜った多くの方々に、深くお礼を申し上げます。

（調査担当者一同）

引用・参考文献

青森県　2001　『青森県史　自然編　地学』
青森県　2003　『青森県史　資料編　考古４　中世・近世』
青森県教育委員会　1983ａ『青森県の中世城館』
青森県教育委員会　1983ｂ第 87 集　『朝日山遺跡』
青森県教育委員会　1993　第152集　『朝日山（１）遺跡Ⅱ』
青森県教育委員会　1994　第156集　『朝日山（１）遺跡Ⅲ』
青森県教育委員会　1995　第167集　『朝日山（３）遺跡』
青森県教育委員会　1996　第186集　『野尻（２）遺跡Ⅱ・野尻（３）遺跡』
青森県教育委員会　1997　第215集　『朝日山（３）遺跡』
青森県教育委員会　1998　第239集　『新町野遺跡・野木遺跡』
青森県教育委員会　1999　第264集　『野木遺跡Ⅱ』
青森県教育委員会　2000ａ第275集　『新町野遺跡Ⅱ』
青森県教育委員会　2000ｂ第277集　『野尻（１）遺跡Ⅱ』
青森県教育委員会　2000ｃ第281集　『野木遺跡Ⅲ』
青森県教育委員会　2001　第298集　『朝日山（２）遺跡』
青森県教育委員会　2002ａ第324集　『朝日山（２）遺跡Ⅳ』
青森県教育委員会　2002ｂ第325集　『朝日山（２）遺跡Ⅴ』
青森県教育委員会　2003ａ第349集　『朝日山（２）遺跡Ⅵ』
青森県教育委員会　2003ｂ第350集　『朝日山（２）遺跡Ⅶ』
青森県教育委員会　2004ａ第368集　『朝日山（２）遺跡Ⅷ』
青森県教育委員会　2004ｂ第369集　『朝日山（２）遺跡Ⅸ』
青森県教育委員会　2006　第414集　『野尻（３）遺跡Ⅱ』
青森市　2006　『新青森市史　資料編１　考古』
青森市教育委員会　1991　第16集　『山吹（１）遺跡発掘調査報告書』
青森市教育委員会　1992　第17集　『埋蔵文化財出土遺物調査報告書』
青森市教育委員会　1995ａ第24集　『横内遺跡・横内（２）遺跡発掘調査報告書』
青森市教育委員会　1995ｂ第26集　『桜峯（２）遺跡発掘調査報告書』
青森市教育委員会　1996　第30集　『小牧野遺跡発掘調査報告書』
青森市教育委員会　1997ａ第34集　『葛野（２）遺跡発掘調査報告書』
青森市教育委員会　1997ｂ第35集　『小牧野遺跡発掘調査報告書Ⅱ』
青森市教育委員会　1998ａ第36集　『桜峯（１）遺跡発掘調査報告書』
青森市教育委員会　1998ｂ第37集　『新町野遺跡発掘調査報告書』
青森市教育委員会　1998ｃ第38集　『野木遺跡発掘調査報告書』
青森市教育委員会　1998ｄ第40集　『小牧野遺跡発掘調査報告書Ⅲ』
青森市教育委員会　1999ａ第44集　『葛野（２）遺跡発掘調査報告書Ⅱ』
青森市教育委員会　1999ｂ第45集　『小牧野遺跡発掘調査報告書Ⅳ』

青森市教育委員会　2000ａ第50集　『小牧野遺跡発掘調査報告書Ⅴ』
青森市教育委員会　2000ｂ第51集　『桜峯（１）遺跡・雲谷山吹（３）遺跡発掘調査報告書』
青森市教育委員会　2001ａ第54集　『新町野遺跡発掘調査報告書Ⅱ・野木遺跡発掘調査報告書Ⅱ』
青森市教育委員会　2001ｂ第55集　『小牧野遺跡発掘調査報告書Ⅵ』
青森市教育委員会　2002ａ第60集　『小牧野遺跡発掘調査報告書Ⅶ』
青森市教育委員会　2002ｂ第64集　『市内遺跡発掘調査報告書』
青森市教育委員会　2003ａ第65集　『雲谷山吹（４）～（７）遺跡発掘調査報告書』
青森市教育委員会　2003ｂ第70集　『小牧野遺跡発掘調査報告書Ⅷ』
青森市教育委員会　2005　第80集　『合子沢松森（２）遺跡発掘調査概報』
青森市教育委員会　2006ａ第83集　『合子沢松森（２）遺跡発掘調査概報Ⅱ』
青森市教育委員会　2006ｂ第85集　『小牧野遺跡発掘調査報告書Ⅸ』
青森市教育委員会　2006ｃ第87集　『新町野遺跡発掘調査報告書Ⅲ』
青森市蛍沢遺跡発掘調査団　1979　『蛍沢遺跡』
阿部明彦・山口博之・斎藤健　1995「山形県の奈良・平安時代の墓制について」『東日本における奈良・平安時代の墓制－墓制をめぐる諸問題－』東日本埋蔵文化財研究会栃木大会準備委員会
久世康博　1996　「辻の祭祀考」『研究紀要』第２号　(財)京都市埋蔵文化財研究所
古川一明　1995　「宮城県の奈良・平安時代の墓制について」『東日本における奈良・平安時代の墓制－墓制をめぐる諸問題－』東日本埋蔵文化財研究会栃木大会準備委員会
五所川原市教育委員会　2003　第25集　『五所川原須恵器窯跡群』
斉藤尚巳・沼山源喜治　1974　「東北地方の合口埋甕遺構について」『北奥古代文化』第６号　北奥古代文化研究会
(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター　2003　第410集　『本町Ⅱ遺跡第二次発掘調査報告書』
(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター　2006　第473集　『杉の堂遺跡第31次調査・跡呂井遺跡発掘調査報告書』
(財)山形県埋蔵文化財センター　2000　第80集　『高瀬山遺跡（２期）第２・３次発掘調査報告書』
高橋千晶　1995　「岩手県の奈良・平安時代の墓制について」『東日本における奈良・平安時代の墓制－墓制をめぐる諸問題－』東日本埋蔵文化財研究会栃木大会準備委員会
多賀城市埋蔵文化財センター　1995　第37集　『高崎遺跡－第11次調査報告書－』
多賀城市埋蔵文化財センター　2003　第72集　『市川橋遺跡・高崎遺跡』
沼山源喜治　1981　「土師器合口甕棺葬について」『考古學雑誌』第66巻　第４号　日本考古学会
沼山源喜治　1985　「東北北部の古代・中世墓について」『日高見国－菊地啓次郎学兄還暦記念論集－』菊地啓次郎学兄還暦記念会
三浦圭介　1995　「青森県の奈良・平安時代の墓制について」『東日本における奈良・平安時代の墓制－墓制をめぐる諸問題－』東日本埋蔵文化財研究会栃木大会準備委員会
三浦圭介　1992　「青森県における古代の土器様相」『第18回古代城柵官衛遺跡検討会資料』古代城柵官衛遺跡検討会
宮城県教育委員会　1996　第171集　『山王遺跡Ⅳ』
宮城県教育委員会　2003　第193集　『市川橋遺跡』
村越　潔　1974　『円筒土器文化』　雄山閣

観察表・計測表

第３表　遺構内（竪穴住居跡）出土土器観察表①

図版番号	遺構名	層　位	種別	器種	計測値（cm）			外　面	内　面	底　面	胎　土	焼成	備　考	整理番号	分類
					口径	底径	器高								
31－1	1住	第2層、カマド1第6層	須恵器	壺	(12.6)	－	(6.3)	ロクロ、ヘラナデ	ロクロ		砂粒少量	良好	内部より貫通孔あり	1	Ⅱ
31－2	1住	第2層、カマド1第12層	土師器	甕	－	－	(8.7)	ロクロ、ヘラナデ	ロクロ、ヘラナデ		砂粒少量	良好	P－2、7	3	Ⅱ
31－3	1住 ピット1	第4層	土師器	甕	－	(11.8)	(9.0)	ヘラナデ、ヘラケズリ	ヘラナデ		砂粒多量	良好		5	Ⅱ
31－4	1住	第2層	土師器	甕	－	－	－	ヘラナデ	ヘラナデ		砂粒少量	良好	P－7	2	Ⅱ
31－5	2住 ピット9	第10層	須恵器	坏	(14.4)	－	(4.6)	ロクロ	ロクロ		砂粒少量	良好	P－12、19、内面・外面火ダスキ痕	(土)6	Ⅱ
31－6	2住 ピット9	第10層	須恵器	壺	(12.8)	－	(3.2)	ロクロ	ロクロ		砂粒少量	良好	P－11	(土)7	Ⅱ
31－7	2住 ピット8	第1層	須恵器	坏	－	－	－	ロクロ	ロクロ		砂粒少量	良好		6	Ⅱ
31－8	2住	床面	須恵器	壺	－	－	－	ヘラナデ	ロクロ		砂粒少量	良好		9	Ⅱ
31－9	2住 ピット8	第1層	須恵器	壺	－	－	－	ヘラナデ	ロクロ		砂粒少量	良好	P－5	8	Ⅱ
31－10	2住	覆土	須恵器	壺	－	－	－	ロクロ	ロクロ		砂粒少量	良好		7	Ⅱ
31－11	2住	カマド1第3層	土師器	坏	(11.1)	－	(4.0)	ロクロ	ヘラミガキ		砂粒少量	良好	P－10、内面黒色	10	Ⅱ
31－12	2住	床面	土師器	坏	－	－	－	ロクロ	ヘラミガキ	回転糸切	砂粒少量	良好	内面黒色	11	Ⅱ
31－13	2住 ピット9	覆土	土師器	坏		－	－	ロクロ	ロクロ		砂粒少量	良好		(土)9	Ⅱ
31－14	2住 ピット8	第1層	土師器	坏	－	5.5	(3.1)	ロクロ	ロクロ	回転糸切	砂粒少量	良好	P－3	13	Ⅱ
31－15	2住 ピット8	第1層	土師器	坏	－	(4.0)	(4.8)	ロクロ	ロクロ	回転糸切	砂粒少量	良好	P－6、7	12	Ⅱ
31－16	2住	カマド2第1層	土師器	甕	－	7.4	(5.0)	ロクロ、ヘラナデ ヘラケズリ	ロクロ、ヘラナデ	回転糸切	砂粒少量	良好	P－26	17	Ⅱ
31－17	2住	覆土、カマド1第4層	土師器	甕	－	(8.4)	(1.4)	ロクロ	ロクロ		砂粒少量	良好	P－4	18	Ⅱ
32－18	2住	覆土	土師器	甕	(29.6)	－	(6.0)	ヘラナデ	ヘラナデ		砂粒少量	良好		15	Ⅱ
32－19	2住 ピット9	第12層	土師器	甕	(7.6)	－	(4.5)	ロクロ	ロクロ		砂粒少量	良好		(土)10	Ⅱ
32－20	2住	覆土	土師器	甕	(22.0)	－	(7.0)	ヘラナデ	ヘラナデ		砂粒中量	良好		14	Ⅱ
32－21	2住 ピット9	第12層	土師器	甕	(11.8)	－	(6.0)	ヘラナデ	ヘラナデ		砂粒中量	良好	P－15	(土)12	Ⅱ
32－22	2住 ピット9	第5層	土師器	甕	(12.4)	－	(5.4)	ヘラナデ	ヘラナデ		砂粒少量	良好		(土)11	Ⅱ
32－23	2住	床面	土師器	甕	－	－	－	ロクロ	ロクロ		砂粒少量	良好		16	Ⅱ
32－24	3住	第1層	土師器	甕	－	－	－	ロクロ、ヘラナデ	ヘラナデ		砂粒少量	良好	P－1	21	Ⅱ
32－25	3住	第1層	土師器	甕			－	ヘラナデ	ヘラナデ		砂粒中量	良好	P－7	22	Ⅱ
32－26	3住	第1層	土師器	甕	－	－	－	ヘラナデ	ヘラナデ		砂粒少量	良好	P－17	20	Ⅱ
32－27	3住	カマド第5層	土師器	甕	(12.0)	－	(10.6)	ヘラナデ	ヘラナデ		砂粒多量	良好	P－6	24	Ⅱ
32－28	3住	カマド覆土	土師器	甕	－	(12.2)	(11.2)	ヘラナデ	ヘラナデ	砂底	砂粒中量	良好	P－4、6、8、輪積痕	23	Ⅱ
32－29	3住	第2、1層	土師器	甕	(25.2)	8.4	(31.4)	ヘラナデ、ヘラケズリ	ヘラナデ		砂粒中量	良好	P－16	19	Ⅱ
33－30	4住	床面	須恵器	坏	－	(5.0)	(1.3)	ロクロ	ロクロ	回転糸切	砂粒少量	良好	P－7	25	Ⅱ
33－31	4住	覆土	土師器	坏	－	－	－	ロクロ	ヘラミガキ		砂粒少量	良好	内面黒色	26	Ⅱ
33－32	4住	覆土	土師器	坏	(13.6)	－	(3.6)	ロクロ	ロクロ		砂粒少量	良好		28	Ⅱ
33－33	4住	覆土	土師器	坏	(13.0)	(5.0)	(6.1)	ロクロ	ロクロ	回転糸切	砂粒中量	良好		27	Ⅱ
33－34	4住	覆土	土師器	甕	(22.9)	－	(13.7)	ロクロ、ヘラナデ	ロクロ		砂粒中量	良好		30	Ⅱ
33－35	4住	第3層	土師器	甕	(19.8)	－	(15.3)	ヘラナデ	ヘラナデ		砂粒中量	良好	P－1、2、3、4、5	29	Ⅱ
33－36	4住	覆土	土師器	甕	－	－	－	ヘラナデ	ヘラナデ		砂粒少量	良好		31	Ⅱ
33－37	4住	覆土	土師器	甕	(11.3)	－	(5.3)	ヘラナデ	ヘラナデ		砂粒中量	良好		32	Ⅱ
33－38	4住	第3層	土師器	甕	(14.4)	－	(17.7)	ヘラナデ	ヘラナデ		砂粒中量	良好	P－6	33	Ⅱ
33－39	4住	覆土	土師器	甕	(13.6)	－	(5.3)	ヘラナデ	ヘラナデ		砂粒多量	良好		34	Ⅱ
34－40	5住	第1層	須恵器	坏	－	(9.0)	(2.8)	ロクロ、ヘラナデ	ロクロ		砂粒少量	良好		35	Ⅱ
34－41	5住	覆土	土師器	坏	－	(6.2)	(1.8)	ロクロ	ヘラミガキ	回転糸切	砂粒少量	良好	P－1、内面黒色	36	Ⅱ
34－42	5住	覆土	土師器	坏	－	(6.3)	(4.7)	ロクロ	ロクロ	回転糸切	砂粒少量	良好	P－2	39	Ⅱ
34－43	5住	覆土	土師器	坏	－	－	－	ロクロ	ロクロ		砂粒少量	良好		38	Ⅱ
34－44	5住	覆土	土師器	坏	－	(6.2)	(1.7)	ロクロ	ロクロ	回転糸切	砂粒少量	良好	P－3	40	Ⅱ
34－45	5住	覆土	土師器	坏	－	－	－	ロクロ	ロクロ		砂粒少量	良好		37	Ⅱ
34－46	5住	覆土	土師器	甕	(12.4)	(6.1)	－	ヘラナデ	ヘラナデ		砂粒多量	良好		41	Ⅱ
34－47	6住	覆土	須恵器	壺	－	－	－	ロクロ	ロクロ		砂粒少量	良好	P－9	42	Ⅱ
34－48	6住	床面	土師器	坏	(14.2)	－	(3.0)	ロクロ	ロクロ		砂粒少量	良好	P－8	43	Ⅱ
34－49	6住	床面	土師器	坏	(9.4)	－	(2.5)	ナデ	ナデ		砂粒少量	良好	P－4	44	Ⅱ
34－50	6住	床面	土師器	甕	(24.0)	－	(9.0)	ヘラナデ	ヘラナデ		砂粒中量	良好	P－5	45	Ⅱ
34－51	7住	覆土	須恵器	坏	－	－	－	ロクロ	ロクロ		砂粒少量	不良		46	Ⅱ
34－52	7住	覆土	土師器	坏	－	－	－	ロクロ	ロクロ		砂粒少量	良好		47	Ⅱ
35－53	8住	第3層	須恵器	坏	(13.8)	(4.8)	(5.1)	ロクロ	ロクロ	回転糸切	砂粒少量	良好	P－17、刻書土器「本万」、火ダスキ痕	48	Ⅱ
35－54	8住	第1層	土師器	坏	－	－	－	ロクロ	ヘラミガキ		砂粒少量	良好	内面黒色、P－6	49	Ⅱ

図版番号	遺構名	層位	種別	器種	計測値(cm)			外面	内面	底面	胎土	焼成	備考	整理番号	分類
					口径	底径	器高								
35－55	8住	第2層	土師器	坏	－	－	－	ロクロ	ヘラミガキ		砂粒少量	良好	内面黒色	50	Ⅱ
35－56	8住	第3層	土師器	坏	－	(5.4)	(5.5)	ロクロ	ロクロ	回転糸切	砂粒中量	良好	P－16、支脚に転用？	51	Ⅱ
35－57	8住	第3層	土師器	坏	(14.6)	－	(15.4)	ロクロ	ロクロ		砂粒少量	良好	P－15、支脚に転用？	52	Ⅱ
35－58	8住	第4層、覆土	土師器	甕	－	(9.2)	(8.8)	ヘラナデ、ヘラケズリ	ヘラナデ		砂粒中量	良好	P－1、2	55	Ⅱ
35－59	8住	第3層	土師器	甕	(24.0)	－	(11.8)	ロクロ、ヘラナデ	ロクロ、ヘラナデ		砂粒少量	良好	P－11	53	Ⅱ
35－60	8住	第1層	土師器	甕	－	7.4	(7.5)	ロクロ、ヘラナデ	ヘラナデ	回転糸切	砂粒中量	良好	P－5	54	Ⅱ
35－61	9住	第8、7層、覆土	須恵器	坏	(13.8)	4.4	4.9	ロクロ	ロクロ	回転糸切	砂粒少量	良好	P－35、203、205、刻書土器	56	Ⅱ
35－62	9住	第7、5層	須恵器	坏	(13.0)	－	(4.3)	ロクロ	ロクロ		砂粒少量	不良	P－105、124、刻書土器、火ダスキ痕、	57	Ⅱ
35－63	9住	覆土	須恵器	坏	－	－	－	ロクロ	ロクロ		砂粒少量	良好		59	Ⅱ
35－64	9住	第5層	須恵器	壺	－	－	－	ロクロ	ロクロ		砂粒少量	良好		58	Ⅱ
35－65	9住	第5層	須恵器	壷	－	－	－	ヘラナデ	ヘラナデ		砂粒少量	良好	P－117	60	Ⅱ
35－66	9住	第3層	須恵器	甕	－	－	－	タタキ目	ヘラナデ		砂粒少量	良好		61	Ⅱ
36－67	9住	第7、5、2層	土師器	坏	(12.0)	－	(4.7)	ロクロ	ヘラミガキ		砂粒少量	良好	P－162、内面黒色	62	Ⅱ
36－68	9住	床面	土師器	坏	(13.3)	－	(4.7)	ロクロ	ヘラミガキ		砂粒少量	良好	P－81、内面黒色	63	Ⅱ
36－69	9住	第7層	土師器	坏	(15.0)	－	(4.8)	ロクロ、ヘラミガキ	ロクロ		砂粒少量	良好	P－47、外面黒色	67	Ⅱ
36－70	9住	第13層	土師器	坏	(11.9)	－	(5.7)	ロクロ	ヘラミガキ		砂粒中量	良好	内面黒色	65	Ⅱ
36－71	9住	第9層	土師器	坏	(12.9)	－	(3.6)	ロクロ	ヘラミガキ		砂粒少量	良好	内面黒色、P－199	66	Ⅱ
36－72	9住	第1層	土師器	坏	(14.0)	－	(4.3)	ロクロ	ヘラミガキ		砂粒少量	良好	内面黒色	64	Ⅱ
36－73	9住	第7、6、5層、覆土	土師器	坏	(12.5)	(5.6)	16.1	ロクロ	ロクロ	回転糸切	砂粒少量	良好	P－34、51、52、68、69、103、139、142、164、188、墨書土器	70	Ⅱ
36－74	9住	第7、5、3層	土師器	坏	(12.8	6.0	(5.9)	ロクロ	ロクロ	回転糸切	砂粒少量	良好	P－28、74、84、107、146	73	Ⅱ
36－75	9住	第5層、覆土	土師器	坏	12.4	5.0	(5.5)	ロクロ、ヘラナデ	ロクロ	回転糸切	砂粒中量	良好	P－49、59、60、61、191、192、193	69	Ⅱ
36－76	9住	第12層	土師器	坏	(14.0)	－	(4.9)	ロクロ	ロクロ		砂粒中量	良好	P－183	74	Ⅱ
36－77	9住	第7層	土師器	坏	13.1	(5.2)	(5.6)	ロクロ	ロクロ		砂粒中量	良好	P－44	72	Ⅱ
36－78	9住	第11、7、4層、覆土	土師器	坏	13.1	5.6	(5.9)	ロクロ	ロクロ	回転糸切	砂粒中量	良好	P－76、111、137、155	71	Ⅱ
36－79	9住	覆土	土師器	坏	－	－	－	ロクロ	ロクロ		砂粒中量	良好		68	Ⅱ
36－80	9住	第5層	土師器	坏	－	(6.6)	(2.8)	ロクロ	ロクロ	回転糸切	砂粒少量	良好	P－78	75	Ⅱ
37－81	9住	第7層	土師器	甕	(22.8)	－	(20.2)	ロクロ、ヘラナデ	ロクロ、ヘラナデ		砂粒中量	良好	輪積痕、P－94	77	Ⅱ
37－82	9住	第7、2層	土師器	甕	(23.0)	－	(11.0)	ロクロ、ヘラナデ	ロクロ、ヘラナデ		砂粒少量	良好	P－46、196	83	Ⅱ
37－83	9住	第9、1層	土師器	甕	(20.4)	－	(7.4)	ロクロ、ヘラナデ	ヘラナデ		砂粒中量	良好	P－201	82	Ⅱ
37－84	9住	カマド第7、6、5、1層	土師器	甕	(13.0)	－	(8.5)	ヘラナデ	ヘラナデ		砂粒中量	良好	P－2、4、6、7、8、9、10、14、16、17、22、27、29、輪積痕	76	Ⅱ
37－85	9住	第7層	土師器	甕	(21.2)	－	(10.6)	ヘラナデ	ヘラナデ		砂粒少量	良好	P－39	81	Ⅱ
37－86	9住	第7、5、4、3層	土師器	甕	(23.0)	－	(24.7)	ヘラナデ	ヘラナデ		砂粒少量	良好	P－55、63、75、80、91、97、99、101、128	79	Ⅱ
37－87	9住	第7層	土師器	甕	(20.2)	－	(10.6)	ヘラナデ	ヘラナデ		砂粒中量	良好	P－26、66、67、100	85	Ⅱ
38－88	9住	第7層	土師器	甕	(19.9)	－	(17.0)	ヘラナデ	ヘラナデ		砂粒少量	良好	P－140、148、149、152、153	80	Ⅱ
38－89	9住	カマド第5層	土師器	甕	(19.7)	－	(13.6)	ヘラナデ	ヘラナデ		砂粒少量	良好	P－30	78	Ⅱ
38－90	9住	第7層	土師器	甕	(13.0)	－	(8.0)	ロクロ	ロクロ、ヘラナデ		砂粒中量	良好	P－56、86、87	89	Ⅱ
38－91	9住	第7層	土師器	甕	(15.6)	－	(5.4)	ロクロ、ヘラナデ	ロクロ、ヘラナデ		砂粒少量	良好	P－177、178、179、炭化物付着	90	Ⅱ
38－92	9住	第7層	土師器	甕	－	－	－	ヘラナデ	ヘラナデ		砂粒少量	良好	P－58、77	84	Ⅱ
38－93	9住	カマド第5層	土師器	甕	(13.0)	－	(9.4)	ヘラナデ	ヘラナデ		砂粒中量	良好	P－18、28、34	91	Ⅱ
38－94	9住	第2層	土師器	甕	(14.1)	－	(9.3)	ロクロ、ヘラナデ	ヘラナデ		砂粒少量	良好	P－31	86	Ⅱ
38－95	9住	第5、4層	土師器	甕	13.5	－	6.0	ヘラナデ	ヘラナデ		砂粒中量	良好	P－106	88	Ⅱ
38－96	9住	第8、7、5層、覆土	土師器	甕	－	－	(5.2)	ヘラナデ	ヘラナデ		砂粒多量	良好	P－27、43、50、73、131、174、185、186、187、197	92	Ⅱ
38－97	9住	カマド第6層	土師器	甕	－	(7.0)	(6.5)	ヘラナデ、ヘラケズリ	ロクロ	回転糸切	砂粒多量	良好	P－13、支脚に転用	93	Ⅱ
38－98	9住	カマド第5層	土師器	甕	－	－	－	ヘラナデ	ヘラナデ		砂粒少量	良好	P－31	87	Ⅱ
39－99	10住 1円a、b Q－117	第4層 覆土 Ⅱ	須恵器	坏	(14.4)	(6.6)	(5.8)	ロクロ	ロクロ	回転糸切	砂粒少量	不良	刻書土器、火ダスキ痕 1円c P－61　10住 P－155	98	Ⅱ
39－100	10住	第10層	須恵器	坏	14	5.0	5.9	ロクロ	ロクロ	回転糸切	砂粒少量	良好	刻書土器、内面火ダスキ痕、P－141、361、367、368、370	94	Ⅱ
39－101	10住	第10層	須恵器	坏	14	－	3.8	ロクロ	ロクロ		砂粒少量	良好	P－135	95	Ⅱ
39－102	10住・12住	第10層・覆土	須恵器	坏	14	－	4.2	ロクロ	ロクロ		砂粒少量	良好	10住 P－83、12住 P－59	96	Ⅱ
39－103	10住	第10層	須恵器	坏	－	－	－	ロクロ	ロクロ		砂粒少量	良好	P－97、火ダスキ痕	97	Ⅱ
39－104	10住	第10層	須恵器	壺	－	－	－	ロクロ	ロクロ		砂粒少量	良好	P－247	99	Ⅱ
39－105	10住	第10層	須恵器	壺	－	－	－	ロクロ	ロクロ		砂粒少量	良好	P－251	101	Ⅱ
39－106	10住	第10層	須恵器	壺	－	－	－	ロクロ、ヘラナデ	ロクロ		砂粒少量	良好	P－189	100	Ⅱ
39－107	10住	第4層	須恵器	壺	－	－	－	ヘラナデ	ヘラナデ		砂粒少量	良好	P－56	103	Ⅱ

図版番号	遺構名	層位	種別	器種	計測値（cm）			外面	内面	底面	胎土	焼成	備考	整理番号	分類
					口径	底径	器高								
39－108	10住・1円c	第4層、覆土	須恵器	甕	－	－	－	タタキ目	ヘラナデ		砂粒少量	良好	P－10、278、101	105	Ⅱ
39－109	10住	第4層	須恵器	壷	－	－	－	ヘラナデ	ヘラナデ		砂粒少量	良好	P－334	104	Ⅱ
39－110	10住	覆土	須恵器	壺	－	－	－	ロクロ	ロクロ		砂粒少量	良好		102	Ⅱ
39－111	10住	第10層	須恵器	鉢	－	(7.0)	(4.2)	ロクロ	ロクロ	回転糸切	砂粒少量	良好	P－32	106	Ⅱ
39－112	10住	第10、4層	土師器	坏	(12.8)	(5.2)	－	ロクロ	ヘラミガキ		砂粒少量	良好	内面黒色、P－161、219	107	Ⅱ
39－113	10住	第10層	土師器	坏	(14.8)	－	(4.3)	ロクロ	ヘラミガキ		砂粒少量	良好	内面黒色、P－149、230	108	Ⅱ
39－114	10住	第4層	土師器	坏	－	(6.0)	(2.2)	ロクロ	ヘラミガキ	回転糸切	砂粒少量	良好	内面黒色、P－109	110	Ⅱ
39－115	10住	第10層	土師器	坏	(14.0)	－	(2.6)	ロクロ	ヘラミガキ		砂粒少量	良好	内面黒色、P－99	109	Ⅱ
39－116	10住	第10層	土師器	甕	－	－	－	ロクロ	ヘラミガキ		砂粒少量	良好	内面黒色、P－311	112	Ⅱ
40－117	10住 Q－117	第10、9層 Ⅱ	土師器	坏	(13.1)	(5.8)	(5.7)	ロクロ	ロクロ	回転糸切	砂粒少量	良好	P－15、16、39、339、373	114	Ⅱ
40－118	10住	第13層	土師器	坏	(13.6)	(5.3)	(5.9)	ロクロ	ロクロ	回転糸切	砂粒中量	良好	P－43	115	Ⅱ
40－119	10住	第10、4層	土師器	坏	(13.2)	－	(3.7)	ロクロ	ロクロ		砂粒中量	良好	P－130、298	116	Ⅱ
40－120	10住	第10層	土師器	坏	－	－	－	ロクロ	ロクロ		砂粒少量	良好	P－253	117	Ⅱ
40－121	10住	第4層	土師器	坏	－	－	－	ロクロ	ロクロ		砂粒少量	良好	P－341	118	Ⅱ
40－122	10住 ピット5	第1層	土師器	坏	－	－	－	ロクロ	ロクロ		砂粒中量	良好		119	Ⅱ
40－123	10住	第10層	土師器	甕	－	－	－	ロクロ、ヘラナデ	ヘラナデ		砂粒少量	良好	P－34	122	Ⅱ
40－124	10住	第17、10層、床面、 カマド1第8層	土師器	甕	(22.6)	(9.8)	(29.0)	ヘラナデ、ヘラケズリ	ヘラナデ		砂粒中量	良好	P－47、35、369 P－1、2、3、4	120	Ⅱ
40－125	10住	第13層	土師器	甕	(9.0)	(4.8)	－	ロクロ	ロクロ		砂粒少量	良好	P－44	121	Ⅱ
40－126	10住	第10層	土師器	甕	(14.6)	－	(3.7)	ロクロ	ロクロ		砂粒少量	良好	P－128、142、178	123	Ⅱ
40－127	10住	第10層	土師器	甕	－	－	－	ヘラナデ	ヘラナデ		砂粒少量	良好	P－55	124	Ⅱ
40－128	10住	第10層	土師器	甕	(13.4)	－	(6.7)	ヘラナデ	ヘラナデ		砂粒中量	良好	P－270	125	Ⅱ
40－129	10住	第4層	土師器	甕	(11.2)	－	(8.0)	ヘラナデ、ヘラケズリ	ヘラナデ、ヘラケズリ		砂粒中量	良好	P－14、41、57、106、土製支脚？	127	Ⅱ
40－130	10住	第10層	土師器	甕	(13.0)	7.0	(12.8)	ロクロ、ヘラナデ	ロクロ	回転糸切	砂粒中量	良好	P－121、134、138、150、181、182、184、205、206、207、209、211、213、217、232	126	Ⅱ
41－131	11住	第1層	土師器	坏	－	－	－	ロクロ	ヘラミガキ		砂粒少量	良好	内面黒色	128	Ⅱ
41－132	11住	第2層	土師器	坏	(13.2)	－	(6.0)	ロクロ	ロクロ		砂粒少量	良好	P－3	131	Ⅱ
41－133	11住	第1層	土師器	坏	(13.8)	－	(4.9)	ロクロ	ロクロ		砂粒少量	良好		132	Ⅱ
41－134	11住	第2、1層	土師器	坏	(13.7)	－	(4.6)	ロクロ	ロクロ		砂粒少量	良好	P－7、9	129	Ⅱ
41－135	11住	第2、1層	土師器	坏	－	－	－	ロクロ	ロクロ	回転糸切	砂粒少量	良好	P－1、6、8	130	Ⅱ
41－136	11住	第1層	土師器	甕	(20.0)	－	(6.3)	ロクロ、ヘラナデ	ロクロ		砂粒少量	良好		133	Ⅱ
41－137	11住	第1層	土師器	甕	－	－	－	ヘラナデ	ヘラナデ		砂粒少量	良好		134	Ⅱ
41－138	11住	第2層	土師器	甕	(14.0)	－	(5.9)	ロクロ、ヘラナデ	ヘラナデ		砂粒少量	良好		136	Ⅱ
41－139	11住	第2層	土師器	甕	－	－	－	ロクロ	ヘラナデ		砂粒少量	良好		135	Ⅱ
41－140	11住	第2層	土師器	甕	－	(8.4)	(6.8)	ヘラナデ、ヘラケズリ	ヘラナデ		砂粒中量	良好	P－10	137	Ⅱ
42－141	12住	第2層	須恵器	坏	－	－	－	ロクロ	ロクロ		砂粒少量	良好	P－8	138	Ⅱ
42－142	12住	覆土	土師器	坏	(14.6)	－	(4.2)	ロクロ	ヘラミガキ		砂粒中量	良好	内面黒色、P－40	139	Ⅱ
42－143	12住	第4層	土師器	坏	(16.4)	－	(6.5)	ロクロ	ヘラミガキ		砂粒少量	良好	内面黒色、P－31	141	Ⅱ
42－144	12住	第1層	土師器	坏	(13.0)	－	(3.8)	ロクロ	ヘラミガキ		砂粒少量	良好	内面黒色、P－16	140	Ⅱ
42－145	12住	覆土	土師器	坏	(13.0)	－	(5.7)	ロクロ	ロクロ		砂粒中量	良好	P－50	142	Ⅱ
42－146	12住	覆土	土師器	坏	(12.6)	－	(4.0)	ロクロ	ロクロ		砂粒少量	良好	P－44	143	Ⅱ
42－147	12住	第6層	土師器	甕	(14.2)	－	(11.6)	ロクロ	ロクロ		砂粒少量	良好	P－86	147	Ⅱ
42－148	12住	覆土	土師器	甕	(21.0)	－	(9.2)	ヘラナデ	ヘラナデ		砂粒少量	良好	P－98	144	Ⅱ
42－149	12住	第14層	土師器	甕	(19.0)	－	(7.4)	ヘラナデ	ヘラナデ		砂粒中量	良好	P－89	145	Ⅱ
42－150	12住	第2層、覆土	土師器	甕	(20.5)	－	(5.8)	ヘラナデ、指頭圧痕	ヘラナデ		砂粒多量	良好	P－6、54、80、93、94、99	146	Ⅱ

第４表　遺構内（竪穴住居跡）出土土器観察表②

図版番号	遺構名	層位	部位	施文	備考	整理番号	分類
42－151	9住	第13層	胴	ＬＲ(縦)	P－169、砂粒混入	1	Ⅰ
42－152	9住	第2層	胴	ＲＬ(横)	P－20、砂粒混入	2	Ⅰ
42－153	11住	第3層	胴	ＲＬ(斜)	繊維混入	3	Ⅰ
42－154	12住	覆土	胴	隆帯貼付(縦)、ＬＲ(縦)	P－45、砂粒混入	4	Ⅰ
42－155	12住	覆土	胴	ＬＲ(斜)	砂粒混入	5	Ⅰ

第５表　遺構内（竪穴住居跡）出土石器計測表

図版番号	整理番号	遺構名	層　位	最大計測値(mm、g)				石　質	器　種	備　考
				長さ	幅	厚さ	重量			
43-2	1	1住	カマド2第18層	229.0	137.0	89.0	2830.0	デイサイト	砥石	
43-3	4	1住	第1層	85.5	31.5	34.0	87.5	凝灰岩	砥石	S-4
	2	1住	第1層	(143.8)	77.0	51.7	822.0	デイサイト	敲磨器	磨り、被熱、S-3
	3	1住	第1層	141.9	156.4	86.1	2100.0	安山岩	敲磨器	敲き、S-1
43-4	32	2住	カマド1第2層	(154.0)	74.0	52.5	848.0	デイサイト	敲磨器	敲き、S-5
43-5	31	2住	カマド1第4層	(178.0)	(122.0)	57.0	1638.0	安山岩	台石・石皿	S-6
	33	2住	カマド2第1層	(90.5)	(77.1)	54.8	435.8	安山岩	敲磨器	敲き、S-4
44-6	5	5住	第1層	(114.0)	80.0	54.0	447.9	凝灰岩	台石・石皿	磨り
44-7	34	6住	床面	146.0	121.0	55.0	1192.0	安山岩	台石・石皿	敲き、S-1
44-8	35	8住	床面	92.5	53.5	32.5	143.2	凝灰岩	砥石	
45-14	40	9住	第7層	67.5	35.5	13.0	24.8	凝灰岩	敲磨器	磨り、S-96
45-15	39	9住	第7層	70.0	57.0	50.0	223.0	安山岩	敲磨器	敲き、S-95
45-16	37	9住	第7層	149.5	69.0	63.0	662.0	デイサイト	敲磨器	敲き、S-38
44-9	46	9住	第5層	129.0	130.0	70.0	1218.0	溶結凝灰岩	敲磨器	敲き、S-131
44-10	47	9住	第7層	212.0	177.5	56.0	2555.0	デイサイト	砥石	S-133
45-17	36	9住	第7層	174.5	106.0	69.0	1288.0	デイサイト	砥石	S-21
45-11	49	9住	第13層	119.0	49.5	41.5	330.9	デイサイト	砥石	一部敲き
46-18	43	9住	第4層	114.0	57.0	53.0	385.0	安山岩	砥石	S-36
45-12	42	9住	カマド第4層	102.0	58.5	46.5	223.2	凝灰岩	砥石	S-2
45-13	44	9住	カマド第2層	(68.0)	38.0	30.0	104.8	デイサイト	砥石	S-1
	38	9住	第7層	(90.0)	108.3	54.4	492.4	安山岩	敲磨器	敲き、S-71
	41	9住	第5層	187.0	64.6	47.5	904.0	デイサイト	敲磨器	敲き、S-47
	45	9住	第2層	107.0	131.0	86.8	1384.0	安山岩	敲磨器	敲き、S-4
	48	9住	第7層	176.1	179.0	80.4	3675.0	安山岩	台石・石皿	S-139
46-19	59	10住	カマド底面	97.0	69.0	28.5	230.9	デイサイト	敲磨器	磨り、S-4、被熱、付着物
46-20	60	10住	第8層	141.0	90.0	62.0	802.0	デイサイト	砥石	S-81
	58	10住	第4層	(59.5)	(32.5)	(33.0)	40.9	凝灰岩	敲磨器	磨り、S-42、炭化物付着
	61	10住	覆土	79.2	105.1	33.4	364.5	安山岩	敲磨器	敲き
43-1	103	11住	第2層	21.5	15.0	3.0	0.6	珪質頁岩	石鏃	S-3
	62	11住	第2層	(46.5)	(36.8)	50.0	109.2	安山岩	台石・石皿	S-2
46-21	63	12住	カマド第7層	109.5	72.5	27.5	302.1	デイサイト	砥石	S-2、一部敲き
46-22	64	12住	覆土	(62.0)	33.0	18.0	56.6	デイサイト	敲磨器	磨り、S-9

第６表　遺構内（竪穴住居跡）出土土製品観察表

図版番号	種　別	遺構名	層　位	計　測　値　(cm)			備　考	整理番号
				長さ	幅	厚さ		
47-1	ミニチュア土器	2住	第2層	3.8	4.4	1.4	口径×底径×器高	1
47-2	ミニチュア土器	2住	カマド覆土	2.4	1.5	0.9	CL-1、口径×底径×器高	8
47-3	土製支脚	4住	覆土	8.9	9.7	2.7		2
47-4	焼成粘土塊	9住	第7層	5.7	3.3	2.6	CL-1、工具痕	9
47-5	焼成粘土塊	9住	第2層	2.2	2.4	0.7	CL-2	6
47-6	有孔土製品	10住	カマド2第14層	1.0	1.1	1.1	貫通孔、土玉	7
47-7	焼成粘土塊	12住	第2層	2.8	2.7	1.9	CL-1	25

第７表　遺構内（竪穴住居跡）出土石製品観察表

図版番号	整理番号	遺構名	層　位	最大計測値(mm、g)				石　質	器　種	備　考
				長さ	幅	厚さ	重量			
47-8	51	10住	床面	20.0	16.0	9.0	3.8	頁岩	碁石	S-78
47-9	54	10住	床面	20.5	20.0	11.5	6.2	頁岩	碁石	
47-10	55	10住	床面	(20.0)	17.0	12.0	5.4	頁岩	碁石	
47-11	56	10住	床面	20.0	17.0	10.0	5.1	頁岩	碁石	
47-12	57	10住	床面	20.0	18.5	9.0	4.7	頁岩	碁石	
47-13	53	10住	床面	22.0	20.0	12.0	7.1	頁岩	碁石	
47-15	50	10住	第4層	(17.0)	19.5	11.0	4.3	頁岩	碁石	S-8
47-14	52	10住ピット1	覆土	19.0	18.0	(8.5)	3.6	頁岩	碁石	焼けはじけ

第８表　遺構内（竪穴住居跡）出土鉄関連遺物計測表

図版番号	種　別	遺構名	層　位	最大計測値(mm、g)				備　考	整理番号
				長さ	幅	厚さ	重量		
48-17	羽口	9住	カマド第12層	14.4	8.4	2.5	－	M-6、支脚に転用	4
48-18	羽口	9住	第2層	6.3	5.8	2.0	－	M-5	5
48-19	羽口	10住	第10層	(5.0)	(8.7)	2.0	－	M-135	12
48-20	羽口	10住	第10層	(7.7)	(18.8)	2.8	－	M-134	11
48-21	羽口	10住	第10層	8.3	(10.0)	3.0	－	M-140	14
48-22	羽口	10住	第4層	(3.5)	(4.7)	1.4	－	M-136	19
49-23	羽口	10住	第10層	(8.2)	(12.7)	3.5	－	M-139	13
49-24	羽口	10住	第4層	(3.2)	(7.9)	3.6	－	M-137	20
49-25	羽口	10住	第10層	(3.8)	(3.9)	3.5	－	M-142	17
49-26	羽口	10住	第10層	(4.4)	(4.2)	2.4	－	M-141	15
49-27	羽口	10住	第10層	(5.2)	(4.5)	4.5	－	M-143	23
50-28	羽口	10住	第4層	(2.9)	(4.5)	0.9	－	M-146	22
50-29	羽口	10住	第4層	(5.3)	(7.3)	2.2	－	M-145	24
50-30	羽口	10住	第10層	(3.8)	(4.2)	2.4	－	M-144	16
50-31	羽口	10住	第4層	(7.3)	(9.2)	2.3	－	M-138	21
50-32	棒状鉄製品	1住ピット5	第1層	(93.1)	5.8	2.0	6.9		1
50-33	刀子	9住	覆土	(60.5)	10.2	9.2	4.4		2
50-34	刀子	9住	覆土	(144.2)	12.6	3.0	23.8		3
50-35	不明鉄製品	10住	第10層	(24.0)	(29.4)	3.5	8.3		4
51-36	椀形鍛冶滓	10住	第10層	86.0	94.5	60.2	246.0	M-88	34
51-37	椀形鍛冶滓	10住	第21層	113.0	143.8	57.5	866.0		35
51-38	椀形鍛冶滓	10住	第4層	68.0	96.0	56.2	154.0	M-64	32
51-39	椀形鍛冶滓	10住	第4層	80.9	45.5	37.9	422.0	M-73	33
51-40	椀形鍛冶滓	10住	覆土	88.2	152.2	87.5	1472.0	M-133	31

第９表　遺構内（土坑）出土土器観察表

図版番号	遺構名	層位	種別	器種	計測値(cm) 口径	底径	器高	外面	内面	底面	胎土	焼成	備考	整理番号	分類
55－1	1土	覆土	土師器	坏	(13.8)	－	(5.0)	ロクロ	ロクロ		砂粒少量	良好		1	Ⅱ
55－2	1土	覆土	土師器	坏	(15.6)	－	(2.9)	ロクロ	ロクロ		砂粒少量	良好		2	Ⅱ
55－3	2土	覆土	土師器	坏	－	－	－	ロクロ	ロクロ		砂粒少量	良好		3	Ⅱ
55－4	2土	覆土	土師器	甕	－	(13.2)	(2.4)	ヘラケズリ	ヘラナデ		砂粒少量	良好		4	Ⅱ
55－5	5土	覆土	土師器	甕	(17.2)	－	(4.1)	ロクロ	ロクロ		砂粒少量	良好		5	Ⅱ
55－6	22土	覆土	土師器	甕	(8.0)	－	(3.1)	上端ヘラミガキ	ヘラミガキ		砂粒少量	良好	内面、外面上端黒色	13	Ⅱ
55－7	22土	覆土	土師器	坏	－	－	－	ロクロ	ロクロ		砂粒少量	良好		14	Ⅱ
55－8	23土	覆土	須恵器	坏	(7.2)	－	(4.7)	ロクロ	ロクロ		砂粒少量	良好		15	Ⅱ
55－9	23土	第1層	須恵器	壷	－	(4.0)	(2.4)	ヘラナデ	ヘラナデ	菊花状	砂粒少量	良好		16	Ⅱ
55－10	23土	覆土	土師器	坏	(6.8)	－	(4.5)	ロクロ、ヘラナデ	ロクロ		砂粒少量	良好		17	Ⅱ
55－11	23土	覆土	土師器	甕	－	－	－	ロクロ	ロクロ		砂粒少量	良好		18	Ⅱ
55－12	23土	覆土	土師器	甕	－	－	－	ヘラナデ	ヘラナデ		砂粒少量	良好		19	Ⅱ
55－13	28土 S－114	覆土	土師器	甕	－	－	－	ヘラナデ	ヘラナデ		砂粒少量	良好		20	Ⅱ

第10表　遺構内（土坑）出土石器計測表

図版番号	整理番号	遺構名	層位	最大計測値(mm、g) 長さ	幅	厚さ	重量	石質	器種	備考
56－1	7	23土	第2層	47.0	48.0	22.5	33.0	泥岩	敲磨器	磨り
56－2	6	6土	第1層	91.5	57.5	33.5	155.9	溶結凝灰岩	敲磨器	敲き

第11表　遺構内（土坑）出土鉄関連遺物計測表

図版番号	種別	遺構名	層位	最大計測値(mm、g) 長さ	幅	厚さ	重量	備考	整理番号
56－3	棒状鉄製品	23土	第2層	(49.2)	6.4	4.7	7.4		5

第12表　遺構内（土器埋設遺構）出土土器観察表

図版番号	遺構名	層位	種別	器種	計測値(cm) 口径	底径	器高	外面	内面	底面	胎土	焼成	備考	整理番号	分類
59－1	1埋	第2、1層	土師器	甕	20.3	7.4	27.5	ヘラナデ、ヘラケズリ	ヘラナデ		砂粒中量	良好	P－2、輪積痕	1	Ⅱ
59－2	1埋	第2、1層	土師器	甕	23.2	9.4	34.1	ヘラナデ、ヘラケズリ	ヘラナデ		砂粒中量	良好	P－1	2	Ⅱ

第13表　遺構内（円形周溝）出土土器観察表①

図版番号	遺構名	層位	種別	器種	計測値(cm) 口径	底径	器高	外面	内面	底面	胎土	焼成	備考	整理番号	分類
63－1	1円a	覆土	須恵器	坏	(13.6)	(4.4)	(4.7)	ロクロ	ロクロ	回転糸切	砂粒少量	良好	刻書土器、火ダスキ痕	37	Ⅱ
63－2	1円a	覆土	須恵器	坏	－	－	－	ロクロ	ロクロ		砂粒少量	良好	火ダスキ痕	39	Ⅱ
63－3	1円a	覆土	土師器	坏	－	－	－	ロクロ	ロクロ		砂粒少量	良好		40	Ⅱ
63－4	1円a	覆土	土師器	坏	－	5.7	(4.4)	ロクロ	ロクロ	回転糸切	砂粒中量	良好		41	Ⅱ
63－5	1円a	覆土	土師器	坏	(14.4)	－	(5.5)	ロクロ	ロクロ		砂粒少量	良好		38	Ⅱ
63－6	1円a	覆土	土師器	甕	－	－	－	ロクロ	ロクロ		砂粒中量	良好		44	Ⅱ
63－7	1円a	覆土	土師器	甕	－	－	－	ヘラナデ	ヘラナデ		砂粒中量	良好		43	Ⅱ
63－8	1円a	覆土	土師器	甕	(21.4)	－	(6.0)	ヘラナデ	ヘラナデ		砂粒中量	良好		42	Ⅱ
63－9	1円a	覆土	土師器	鍋	－	－	－	タタキ目、ヘラナデ	タタキ目、ヘラナデ		砂粒中量	良好		45	Ⅱ
63－10	1円b、c Q－116	覆土 表採	須恵器	坏	(13.6)	(5.6)	(4.9)	ロクロ	ロクロ	回転糸切	砂粒少量	良好	刻書土器、火ダスキ痕	1	Ⅱ
63－11	1円b	覆土	須恵器	坏	(14.8)	(6.4)	(5.6)	ロクロ	ロクロ	回転糸切	砂粒少量	良好	火ダスキ痕	26	Ⅱ
63－12	1円b、c	覆土	須恵器	坏	(14.0)	－	(2.6)	ロクロ	ロクロ		砂粒少量	不良	火ダスキ痕	4	Ⅱ
63－13	1円b	覆土	須恵器	坏	－	－	－	ロクロ	ロクロ		砂粒少量	不良		27	Ⅱ
63－14	1円b	覆土	須恵器	甕	－	－	－	ヘラナデ、タタキ目	ヘラナデ		砂粒少量	良好		28	Ⅱ
63－15	1円b、c	覆土	須恵器	壷	－	(11.2)	(5.3)	ヘラナデ	ヘラナデ	菊花状	砂粒中量	良好		13	Ⅱ
63－16	1円b	覆土	土師器	坏	－	(5.4)	(2.6)	ヘラミガキ	ヘラミガキ		砂粒少量	良好	内面・外面黒色	29	Ⅱ
63－17	1円b	覆土	土師器	坏	－	－	－	ロクロ	ヘラミガキ		砂粒少量	良好	内面黒色	30	Ⅱ
64－18	1円b	覆土	土師器	坏	(14.8)	－	(3.8)	ロクロ	ロクロ		砂粒少量	良好		31	Ⅱ
64－19	1円b	覆土	土師器	坏				ロクロ	ロクロ		砂粒少量	良好		32	Ⅱ
64－20	1円b	覆土	土師器	坏	－	(6.2)	(2.2)	ロクロ	ロクロ	回転糸切	砂粒少量	良好		33	Ⅱ

図版番号	遺構名	層位	種別	器種	計測値 (cm)			外面	内面	底面	胎土	焼成	備考	整理番号	分類
					口径	底径	器高								
64－21	1円b	覆土	土師器	甕	(22.0)	－	(6.0)	ロクロ	ロクロ？		砂粒中量	良好		34	Ⅱ
64－22	1円b	覆土	土師器	甕	－	－	－	ヘラナデ	ヘラナデ		砂粒中量	良好		35	Ⅱ
64－23	1円b	覆土	土師器	甕	(19.6)	－	(6.7)	ヘラナデ	ヘラナデ		砂粒中量	良好		36	Ⅱ
64－24	1円c	覆土	須恵器	坏	－	(3.8)	(1.9)	ロクロ	ロクロ	回転糸切	砂粒少量	良好	刻書土器、火ダスキ痕	5	Ⅱ
64－25	1円c	覆土	須恵器	坏	－	(5.4)	(2.1)	ロクロ	ロクロ	回転糸切	砂粒少量	良好		6	Ⅱ
64－26	1円c	覆土	須恵器	坏	(13.3)	－	(4.8)	ロクロ	ロクロ		砂粒少量	良好	火ダスキ痕	2	Ⅱ
64－27	1円c	覆土	須恵器	坏	(13.6)	－	(3.2)	ロクロ	ロクロ		砂粒少量	良好		3	Ⅱ
64－28	1円c	覆土	須恵器	壺	(6.7)	－	(2.2)	ロクロ	ロクロ		砂粒少量	良好		7	Ⅱ
64－29	1円c	覆土	須恵器	壺	(6.0)	－	－	ロクロ	ロクロ		砂粒少量	良好		8	Ⅱ
64－30	1円c	覆土	須恵器	壺	(6.6)	－	－	ロクロ、ヘラナデ	ロクロ		砂粒少量	良好	刻書土器、突帯	9	Ⅱ
64－31	1円c	覆土	須恵器	壺	－	(6.6)	(11.6)	ロクロ	ロクロ		砂粒少量	良好		10	Ⅱ
64－32	1円c	覆土	須恵器	壷	－	(9.4)	(9.8)	ヘラナデ	ロクロ	菊花状	砂粒少量	良好		12	Ⅱ
64－33	1円c	覆土	須恵器	甕	－	－	－	タタキ目	ヘラナデ		砂粒少量	良好		11	Ⅱ
64－34	1円c	覆土	土師器	坏	－	5.0	(2.1)	ロクロ	ヘラミガキ	回転糸切	砂粒中量	良好	内面黒色	15	Ⅱ
64－35	1円c	覆土	土師器	坏	－	－	－	ヘラナデ	ヘラミガキ		砂粒少量	良好	内面黒色	14	Ⅱ
64－36	1円c	覆土	土師器	坏	(13.6)	(7.6)	(5.0)	ロクロ	ロクロ		砂粒少量	良好		17	Ⅱ
64－37	1円c	覆土	土師器	坏	－	－	－	ロクロ	ロクロ		砂粒少量	良好		19	Ⅱ
64－38	1円c	覆土	土師器	坏	－	－	－	ロクロ	ロクロ		砂粒中量	良好		16	Ⅱ
65－39	1円c	覆土	土師器	甕	(28.0)	－	(5.9)	ヘラナデ	ヘラナデ		砂粒少量	良好		20	Ⅱ
65－40	1円c	覆土	土師器	甕	－	－	－	ロクロ	ロクロ		砂粒少量	良好		24	Ⅱ
65－41	1円c	覆土	土師器	甕	(21.0)	－	(4.2)	ヘラナデ	ヘラナデ		砂粒中量	良好		22	Ⅱ
65－42	1円c	覆土	土師器	甕	(13.6)	－	(7.7)	ヘラナデ	ヘラナデ		砂粒中量	良好		23	Ⅱ
65－43	1円c	覆土	土師器	甕	－	－	－	ヘラナデ	ヘラナデ		砂粒少量	良好		21	Ⅱ
65－44	1円c	覆土	土師器	甕	－	(6.6)	(7.1)	ロクロ	ロクロ		砂粒少量	良好		25	Ⅱ
65－45	2円	第6,2層	須恵器	坏	(13.6)	5.4	(5.1)	ロクロ	ロクロ	回転糸切	砂粒少量	不良	火ダスキ痕	50	Ⅱ
65－46	2円	覆土	須恵器	坏	－	－	－	ロクロ	ロクロ		砂粒少量	良好		46	Ⅱ
65－47	2円	第6層	須恵器	壷	－	－	－	ヘラナデ	ヘラナデ		砂粒少量	良好		47	Ⅱ
65－48	2円	第2層	土師器	坏	－	－	－	ロクロ	ヘラミガキ		砂粒少量	良好	内面黒色	49	Ⅱ
65－49	2円	覆土	土師器	坏	－	－	－	ロクロ	ヘラミガキ		砂粒少量	良好	内面黒色	48	Ⅱ
65－50	2円	第4層	土師器	坏	－	－	－	ロクロ	ロクロ		砂粒少量	良好		52	Ⅱ
65－51	2円	第6層	土師器	坏	－	－	－	ロクロ	ロクロ		砂粒少量	良好		53	Ⅱ
65－52	2円	第4層	土師器	坏	－	－	－	ロクロ	ロクロ		砂粒少量	良好		51	Ⅱ
65－53	2円	第4層	土師器	坏	－	5.2	(1.2)	ロクロ	ロクロ	回転糸切	砂粒中量	良好		55	Ⅱ
65－54	2円	第6層	土師器	坏	－	(6.0)	(1.6)	ロクロ	ロクロ	回転糸切	砂粒少量	良好		54	Ⅱ
65－55	2円	第6層	土師器	甕	－	－	－	ロクロ	ロクロ		砂粒中量	良好		56	Ⅱ
66－56	3円a	覆土	須恵器	坏	－	(5.4)	(1.2)	ロクロ	ロクロ	回転糸切	砂粒少量	不良		59	Ⅱ
66－57	3円a	覆土	須恵器	坏	－	－	－	ロクロ	ロクロ		砂粒少量	良好		57	Ⅱ
66－58	3円a	覆土	須恵器	壺	－	－	－	ロクロ、ヘラナデ	ロクロ		砂粒少量	良好		58	Ⅱ
66－59	3円a	覆土	土師器	坏	－	－	－	ロクロ	ロクロ		砂粒少量	良好		60	Ⅱ
66－60	3円a	覆土	土師器	坏	－	－	－	ロクロ	ロクロ		砂粒少量	良好		62	Ⅱ
66－61	3円a	覆土	土師器	坏	－	－	－	ロクロ	ロクロ		砂粒少量	良好		63	Ⅱ
66－62	3円a	覆土	土師器	坏	－	－	－	ロクロ	ロクロ		砂粒少量	良好		61	Ⅱ
66－63	3円a	覆土	土師器	甕	－	－	－	ヘラナデ	ヘラナデ		砂粒少量	良好		64	Ⅱ
66－64	3円b	覆土	須恵器	坏	－	－	－	ロクロ	ロクロ		砂粒少量	良好		65	Ⅱ
66－65	3円b	覆土	須恵器	壷	－	－	－	ヘラナデ	ヘラナデ		砂粒少量	良好		66	Ⅱ
66－66	3円b	覆土	土師器	坏	－	－	－	ロクロ	ヘラミガキ		砂粒少量	良好	内面黒色	67	Ⅱ
66－67	3円b	覆土	土師器	坏	－	－	－	ロクロ	ロクロ		砂粒少量	良好		68	Ⅱ
66－68	3円b	覆土	土師器	坏	－	(5.4)	(1.3)	ロクロ	ロクロ	回転糸切	砂粒少量	良好		69	Ⅱ
66－69	3円b	覆土	土師器	甕	－	－	－	ヘラナデ	ヘラナデ		砂粒中量	良好		70	Ⅱ
66－70	3円b	覆土	土師器	甕	(12.0)	－	(14.0)	ヘラナデ、ヘラケズリ	ヘラナデ		砂粒少量	良好		71	Ⅱ

第14表　遺構内（円形周溝）出土土器観察表②

図版番号	遺構名	層　位	部　位	施　文	備　考	整理番号	分類
66－71	1円a	覆土	胴	沈線、彩色(赤)	砂粒混入	7	I
66－72	1円b	覆土	口縁	波状口縁、沈線	砂粒混入	4	I
66－73	1円b、c	覆土	胴	沈線、彩色(赤)	砂粒混入	5	I
66－74	1円b	覆土	胴	沈線、彩色(赤)	砂粒混入	6	I
66－75	1円c	覆土	胴	沈線	砂粒混入	3	I
66－76	1円c	覆土	胴	ＬＲ(斜)	繊維混入	2	I
66－77	1円c	覆土	胴	ＬＲ(横)	砂粒混入	1	I
66－78	2円	覆土	胴	ＬＲ(縦～斜)	砂粒混入	12	I
66－79	3円a	覆土	胴	ＬＲ(横～斜)	砂粒混入	13	I

第15表　遺構内（円形周溝）出土石器計測表

図版番号	整理番号	遺構名	層　位	最大計測値(㎜、g)				石　質	器　種	備　考
				長さ	幅	厚さ	重量			
67－2	74	1円a	覆土	145.5	157.5	67.0	2204.0	安山岩	敲磨器	敲き
68－4	77	1円a	覆土	139.0	70.0	51.0	577.3	安山岩	敲磨器	敲き
68－5	78	1円a	覆土	164.5	56.5	40.5	486.8	デイサイト	敲磨器	敲き
	73	1円a	覆土	105.1	102.8	50.1	710.0	安山岩	敲磨器	敲き
	75	1円a	覆土	241.0	71.1	70.5	1462.0	デイサイト	敲磨器	敲き
	79	1円a	覆土	137.0	104.7	56.4	906.8	安山岩	敲磨器	敲き
	80	1円a	覆土	(138.8)	74.9	50.7	792.0	安山岩	敲磨器	敲き
67－3	76	1円a	覆土	(295.0)	143.1	105.0	5115.0	凝灰岩	台石･石皿	鉄付着、被熱
68－6	72	1円b	覆土	88.5	73.0	34.0	236.4	安山岩	敲磨器	磨り
68－8	69	1円c	覆土	(60.0)	51.0	56.0	195.0	デイサイト	敲磨器	敲き
69－11	10	1円c	覆土	147.5	49.0	40.0	335.1	デイサイト	敲磨器	複合(磨り･敲き)
	70	1円c	覆土	110.8	99.2	82.0	992.0	デイサイト	敲磨器	磨り
	71	1円c	覆土	(112.0)	(75.2)	40.0	437.3	安山岩	敲磨器	敲き

図版番号	整理番号	遺構名	層　位	最大計測値(㎜、g)				石　質	器　種	備　考
				長さ	幅	厚さ	重量			
	66	1円c	覆土	(95.4)	(67.0)	49.0	410.0	安山岩	敲磨器	磨り
68－7	9	1円c	覆土	(216.0)	119.5	120.0	5300.0	安山岩	台石･石皿	鉄付着、Ｏ－115、第Ⅱ層出土と接合
69－9	68	1円c	覆土	297.1	182.4	196.0	10300.0	デイサイト	台石･石皿	鉄付着
69－10	67	1円c	覆土	(198.0)	(162.5)	106.0	3935.0	安山岩	台石･石皿	
71－13	90	2円	第7層	124.0	51.5	71.0	674.0	安山岩	敲磨器	磨り
71－14	91	2円	第3層	109.0	92.0	46.5	455.7	安山岩	敲磨器	磨り
70－12	92	2円	第2層	(267.0)	(191.0)	210.0	10900.0	安山岩	台石･石皿	鉄付着
	93	3円a	覆土	30.6	36.2	21.0	15.7	珪質頁岩	剥片	
71－15	95	3円a	覆土	(100.0)	53.5	47.5	301.4	安山岩	敲磨器	敲き
71－16	94	3円a	覆土	142.0	63.0	54.0	672.0	デイサイト	敲磨器	敲き
67－1	96	3円b	覆土	70.5	51.5	10.5	23.6	珪質頁岩	不定形	
71－17	97	3円b	覆土	210.0	180.5	60.0	3590.0	安山岩	台石･石皿	炭化物付着

第16表　遺構内（円形周溝）出土土製品観察表

図版番号	種　別	遺構名	層　位	計　測　値　(cm)			備　考	整理番号
				長さ	幅	厚さ		
72－1	焼成粘土塊	1円c	覆土	4.2	3.6	2.6		3
72－2	焼成粘土塊	2円	第6層	4.6	3.4	2.6		5

第17表　遺構内（円形周溝）出土石製品観察表

図版番号	整理番号	遺構名	層　位	最大計測値(㎜、g)				石　質	器　種	備　考
				長さ	幅	厚さ	重量			
72－3	110	3円b	覆土	34.1	31.8	16.1	4.6	軽石	軽石石製品	

第18表　遺構内（円形周溝）出土鉄関連遺物計測表

図版番号	種　別	遺構名	層　位	最大計測値(㎜、g)				備　考	整理番号
				長さ	幅	厚さ	重量		
72－4	羽口	1円c	覆土	6.9	(6.3)	2.5	－		2
72－5	羽口	1円c	覆土	4.3	(2.4)	1.6	－		4
72－6	羽口	2円	第4層	(3.9)	(6.1)	2.0	－		7
72－7	羽口	3円a	覆土	4.6	3.7	2.1	－		9
72－8	羽口	3円b	覆土	(3.2)	(8.0)	2.1	－		10
72－9	羽口	3円b	覆土	(7.2)	(7.8)	3.3	－		11
72－10	羽口	3円b	覆土	3.2	5.4	2.0	－		1
73－11	棒状鉄製品	1円b	覆土	(82.2)	6.2	3.5	8.8		6
73－12	棒状鉄製品	1円c	覆土	(32.9)	5.0	6.0	6.7		9

図版番号	種　別	遺構名	層　位	最大計測値(㎜、g)				備　考	整理番号
				長さ	幅	厚さ	重量		
73－13	棒状鉄製品	1円c	覆土	(49.5)	4.5	2.6	2.6		8
73－14	棒状鉄製品	1円c	覆土	(103.8)	3.2	6.8	26.6		7
73－15	棒状鉄製品	2円	第2層	65.0	5.7	0.9	2.9		14
73－16	棒状鉄製品	2円	第2層	(32.4)	12.7	8.4	8.4		13
73－17	不明鉄製品	2円	第2層	(44.7)	20.2	14.0	58.6	鉄[illegible]？	15
73－18	棒状鉄製品	3円b	覆土	(35.3)	4.3	2.5	3.4		16
73－19	椀形鍛冶滓	1円b	覆土	75.0	90.5	59.2	330.0		36
73－20	椀形鍛冶滓	1円c	覆土	60.8	84.0	57.0	300.0		37
73－21	椀形鍛冶滓	2円	第4層	42.0	44.9	33.0	80.0		40

第19表　遺構内（溝跡）出土土器観察表①

図版番号	遺構名	層位	種別	器種	計測値（cm）			外面	内面	底面	胎土	焼成	備考	整理番号	分類
					口径	底径	器高								
80-1	1溝	覆土	須恵器	坏	－	－	－	ロクロ	ロクロ		砂粒少量	良好		1	Ⅱ
80-2	1溝	覆土	土師器	坏	－	－	－	ロクロ	ロクロ		砂粒少量	良好		2	Ⅱ
80-3	1溝	覆土	土師器	坏	－	－	－	ロクロ	ロクロ		砂粒少量	良好		3	Ⅱ
80-4	1溝	覆土	土師器	坏	－	(6.0)	(11.8)	ヘラナデ	ロクロ	回転糸切	砂粒少量	良好		4	Ⅱ
80-5	1溝	覆土	土師器	甕	－	－	－	ヘラナデ、ヘラケズリ	ヘラナデ		砂粒中量	良好		5	Ⅱ
80-6	1溝	覆土	土師器	甕	－	－	－	ロクロ	ヘラナデ		砂粒少量	良好		6	Ⅱ
80-7	5溝	覆土	須恵器	坏	－	－	－	ロクロ	ロクロ		砂粒少量	良好		7	Ⅱ
80-8	5溝	覆土	須恵器	壺	－	－	－	ロクロ	ロクロ		砂粒少量	良好		8	Ⅱ
80-9	5溝	覆土	須恵器	壺	－	－	－	ヘラナデ	ヘラナデ		砂粒少量	良好		9	Ⅱ
80-10	5溝	覆土	須恵器	甕	－	－	－	タタキ目	ヘラナデ		砂粒少量	良好		10	Ⅱ
80-11	5溝	覆土	土師器	坏	13.4	－	(5.0)	ロクロ	ロクロ		砂粒少量	良好		11	Ⅱ
80-12	6溝	覆土	須恵器	壷	－	－	－	ヘラナデ	ヘラナデ		砂粒中量	良好		13	Ⅱ
80-13	6溝	覆土	須恵器	壷	－	－	－	ロクロ、ヘラナデ	ロクロ		砂粒少量	良好		12	Ⅱ
80-14	6溝	覆土	土師器	甕	－	－	－	ロクロ	ロクロ		砂粒少量	良好		14	Ⅱ
80-15	8溝	覆土	土師器	甕	－	－	－	ヘラナデ	ヘラナデ		砂粒少量	不良		15	Ⅱ
80-16	12溝	覆土	土師器	甕	－	－	－	ヘラナデ	ヘラナデ		砂粒少量	良好		16	Ⅱ
80-17	19溝	覆土	土師器	甕	－	－	－	ヘラナデ	ヘラナデ		砂粒中量	良好		17	Ⅱ
80-18	27溝	覆土	須恵器	坏	－	－	－	ロクロ	ロクロ		砂粒少量	良好		18	Ⅱ
80-19	27溝	覆土	須恵器	坏	－	－	－	ロクロ	ロクロ		砂粒少量	良好		19	Ⅱ
80-20	27溝	覆土	須恵器	壷	－	－	－	ヘラナデ	ロクロ		砂粒中量	良好		21	Ⅱ
80-21	27溝、36溝	覆土	須恵器	壺	－	－	－	ヘラナデ	ロクロ		砂粒少量	良好		20	Ⅱ
81-22	27溝	覆土	須恵器	甕	－	－	－	タタキ目	ヘラナデ		砂粒少量	良好		22	Ⅱ
81-23	27溝、30溝、S-113	覆土 Ⅱ	土師器	坏	－	－	－	ロクロ	ヘラミガキ		砂粒少量	良好	内面黒色、外面上端黒色	24	Ⅱ
81-24	27溝	覆土	土師器	坏	－	－	－	ロクロ	ヘラミガキ		砂粒中量	良好	内面黒色	23	Ⅱ
81-25	27溝	覆土	土師器	坏	－	－	－	ロクロ	ヘラミガキ		砂粒少量	良好	内面黒色	25	Ⅱ
81-26	27溝、30溝、S-113、T-113	覆土 Ⅱ	土師器	坏	(12.2)	－	(3.0)	ロクロ	ロクロ		砂粒少量	良好		46	Ⅱ
81-27	27溝、30溝、S-113	覆土 Ⅱ	土師器	坏	－	－	－	ロクロ	ロクロ		砂粒少量	良好		26	Ⅱ
81-28	27溝	覆土	土師器	坏	－	－	－	ロクロ	ロクロ		砂粒少量	良好		27	Ⅱ
81-29	27溝	覆土	土師器	坏	－	－	－	ロクロ	ロクロ		砂粒少量	良好		28	Ⅱ
81-30	27溝	覆土	土師器	甕	－	－	－	ロクロ	ロクロ		砂粒少量	良好		30	Ⅱ
81-31	27溝、30溝、T-113	覆土 Ⅱ	土師器	甕	－	－	－	ロクロ	ロクロ		砂粒中量	良好		31	Ⅱ
81-32	27溝	覆土	土師器	坏	－	(8.7)	(2.0)	ロクロ、ヘラナデ	ロクロ	回転糸切	砂粒少量	良好		32	Ⅱ
81-33	29溝、30溝、S-113	覆土 Ⅱ	土師器	坏	－	(7.0)	(2.3)	ロクロ	ロクロ	回転糸切	砂粒少量	良好		29	Ⅱ
81-34	29溝	覆土	土師器	坏	－	(3.0)	(1.5)	ロクロ	ロクロ	回転糸切	砂粒少量	良好		33	Ⅱ
81-35	29溝、Q-115	覆土、Ⅱ	土師器	甕	－	－	－	ロクロ	ロクロ		砂粒少量	良好		35	Ⅱ
81-36	29溝 R-113	覆土 Ⅱ	土師器	甕	(19.2)	－	(5.8)	ロクロ	ロクロ		砂粒少量	良好		34	Ⅱ
81-37	30溝	覆土	須恵器	壷	－	(8.0)	(3.1)	ヘラナデ	ロクロ	菊花状	砂粒少量	良好		36	Ⅱ
81-38	30溝	覆土	土師器	坏	－	－	－	ロクロ	ロクロ		砂粒少量	良好		37	Ⅱ
81-39	30溝	覆土	土師器	甕	－	－	－	ロクロ	ロクロ		砂粒少量	良好		39	Ⅱ
81-40	30溝	覆土	土師器	甕	－	－	－	ロクロ、ヘラナデ	ヘラナデ		砂粒少量	良好		38	Ⅱ
82-41	30溝、6井	覆土	土師器	甕	－	(7.0)	(9.2)	ロクロ	ロクロ	回転糸切	砂粒中量	良好		40	Ⅱ
82-42	35溝	覆土	須恵器	坏	－	－	－	ロクロ	ロクロ		砂粒少量	良好	火ダスキ痕	41	Ⅱ
82-43	35溝、U-112	覆土	土師器	坏	－	－	－	ロクロ	ロクロ		砂粒少量	良好		42	Ⅱ
82-44	36溝、Q-113	覆土	須恵器	坏	－	－	－	ロクロ	ロクロ		砂粒少量	良好		43	Ⅱ
82-45	36溝、Q-113	覆土	土師器	甕	－	－	－	ヘラナデ	ヘラナデ		砂粒少量	良好		44	Ⅱ

第20表　遺構内（溝跡）出土土器観察表②

図版番号	遺構名	層　位	部　位	施　　文	備　　考	整理番号	分類
82-46	19溝	覆土	胴	Ｌ単軸絡条体第１類(縦)	繊維混入	8	Ⅰ
82-47	27溝	覆土	胴	無文、沈線(直線状、山形状)	砂粒混入	9	Ⅰ
82-48	27溝	覆土	胴	沈線	砂粒混入	10	Ⅰ
82-49	29溝	覆土	胴～底	胴：ＲＬ(横～斜)、底：粘土紐貼付による台付	繊維混入	11	Ⅰ

第21表　遺構内（溝跡）出土石器計測表

図版番号	整理番号	遺構名	層　位	最大計測値(㎜、g)				石質	器種	備　考
				長さ	幅	厚さ	重量			
83－1	83	5溝	覆土	62.5	55.0	33.0	81.5	凝灰岩	敲磨器	磨り
83－2	81	5溝	覆土	107.0	71.0	44.0	358.9	安山岩	敲磨器	敲き
	82	5溝	覆土	59.7	56.8	59.7	224.2	デイサイト	敲磨器	敲き
83－3	86	27溝	覆土	128.0	101.5	64.0	790.0	デイサイト	敲磨器	複合(磨り・敲き)
83－5	89	27溝	覆土	156.0	123.5	43.0	826.0	安山岩	敲磨器	敲き

図版番号	整理番号	遺構名	層　位	最大計測値(㎜、g)				石質	器種	備　考
				長さ	幅	厚さ	重量			
	84	27溝	覆土	81.8	(40.5)	37.5	134.1	デイサイト	敲磨器	敲き
	85	27溝	覆土	72.9	82.4	41.0	288.6	デイサイト	敲磨器	敲き
83－4	87	27溝	覆土	54.0	63.5	25.0	103.3	デイサイト	砥石	
	88	27溝	覆土	184.3	135.2	(95.0)	2580.0	安山岩	台石・石皿	

第22表　遺構内（溝跡）出土土製品観察表

図版番号	種　別	遺構名	層　位	計　測　値　(cm)			備　　考	整理番号
				長さ	幅	厚さ		
84－1	焼成粘土塊	27溝	覆土	8.2	6.8	3.8	工具痕	1
84－2	焼成粘土塊	36溝	覆土	4.2	4.2	2.9		3

第23表　遺構内（溝跡）出土石製品観察表

図版番号	整理番号	遺構名	層　位	最大計測値(㎜、g)				石質	器種	備　考
				長さ	幅	厚さ	重量			
84－3	11	10溝	覆土	231.5	181.5	177.0	5250.0	溶結凝灰岩	五輪塔	空、風輪、S－1
84－4	12	19溝	覆土	196.0	116.0	104.0	1522.0	溶結凝灰岩	五輪塔	空、風輪

第24表　遺構内（溝跡）出土鉄関連遺物計測表

図版番号	種　別	遺構名	層　位	最大計測値(㎜、g)				備　　考	整理番号
				長さ	幅	厚さ	重量		
85－5	羽口	27溝	覆土	(5.4)	(6.0)	2.0	－		2
85－6	棒状鉄製品	27溝	覆土	69.4	11.7	5.8	14.7		10
85－8	棒状鉄製品	27溝	覆土	89.8	8.2	4.5	21.9		12

図版番号	種　別	遺構名	層　位	最大計測値(㎜、g)				備　　考	整理番号
				長さ	幅	厚さ	重量		
85－7	不明鉄製品	27溝	覆土	11.2	8.0	9.2	4.6		11
85－9	椀形鍛冶滓	5溝	覆土	64.5	88.0	43.0	280.0		38
85－10	椀形鍛冶滓	27溝	覆土	71.0	86.0	52.0	386.0		39

第25表　遺構内（井戸跡）出土土器観察表

図版番号	遺構名	層　位	種別	器種	計　測　値　(cm)			外　面	内　面	底　面	胎土	焼成	備　　考	整理番号	分類
					口径	底径	器高								
88－1	1井	第5層	かわらけ	－	(13.6)	(3.1)	－	ナデ	ナデ		砂粒少量	良好	中世	1	Ⅲ
88－2	1井	覆土	土師器	甕	－	－	－	ヘラナデ	ヘラナデ		砂粒少量	良好		2	Ⅱ
88－3	6井	第3、2層	須恵器	壺	－	－	－	ロクロ	ロクロ		砂粒少量	良好	突帯	3	Ⅱ
88－4	6井	第3層	須恵器	壺	－	－	－	ヘラナデ	ヘラナデ		砂粒少量	良好		4	Ⅱ
88－5	6井	第18、3層	土師器	甕	(20.6)	－	(5.6)	ヘラナデ	ヘラナデ		砂粒少量	良好		5	Ⅱ

第26表　遺構内（井戸跡）出土石器計測表

図版番号	整理番号	遺構名	層　位	最大計測値(㎜、g)				石質	器種	備　考
				長さ	幅	厚さ	重量			
88－6	8	1井	第1層	128.5	91.5	39.0	491.5	安山岩	敲磨器	磨り
88－7	65	6井	第18層	103.0	78.0	80.0	842.0	デイサイト	敲磨器	敲き

第27表　遺構内（井戸跡）出土土製品観察表

図版番号	種　別	遺構名	層　位	計　測　値　(cm)			備　　考	整理番号
				長さ	幅	厚さ		
88－8	焼成粘土塊	6井	覆土	3.0	3.3	1.4	工具痕	3
88－9	焼成粘土塊	6井	第3層	3.6	2.8	2.0		2
88－10	焼成粘土塊	6井	第15層	3.1	2.4	1.4		1

第28表　遺構内（柱穴状ピット）出土土器観察表

図版番号	遺構名	層　位	種別	器種	計　測　値　(cm)			外　面	内　面	底　面	胎土	焼成	備　　考	整理番号	分類
					口径	底径	器高								
104－1	190ピット	覆土	土師器	甕	－	－	－	ヘラナデ	ヘラナデ		砂粒中量	良好		1	Ⅱ
104－2	241ピット	第1層	土師器	甕	－	－	－	ヘラナデ	ヘラナデ		砂粒少量	良好		2	Ⅱ

第29表　遺構内（柱穴状ピット）出土鉄関連遺物計測表

図版番号	種　別	遺構名	層　位	最大計測値(mm、g)				備　考	整理番号
				長さ	幅	厚さ	重量		
104-3	羽口	247ピット	覆土	(3.8)	(6.6)	3.0	－		1
104-4	小札	151ピット	覆土	(29.1)	(20.5)	0.9	2.4		17
104-5	小札	151ピット	覆土	(33.2)	18.3	0.9	2.3		18
104-6	椀形鍛冶滓	247ピット	覆土	64.0	82.0	92.0	924.0		41
104-7	椀形鍛冶滓	247ピット	覆土	36.0	67.5	34.5	84.0		42
104-8	椀形鍛冶滓	253ピット	覆土	134.0	85.1	74.5	1262.0		43

第30表　遺構外出土土器観察表①

図版番号	グリット番号	層位	種別	器種	計　測　値　(cm)			外　面	内　面	底　面	胎土	焼成	備　考	整理番号	分類
					口径	底径	器高								
105-1	M-115	I	須恵器	坏	－	－	－	ロクロ	ロクロ		砂粒少量	良好	刻書土器、火ダスキ痕	1	II
105-2	M-116	I	須恵器	坏	－	－	－	ロクロ	ロクロ		砂粒少量	良好		3	II
105-3	L-116	I	須恵器	坏	－	－	－	ロクロ	ロクロ		砂粒少量	良好	火ダスキ痕	2	II
105-4	－	表採	須恵器	坏	－	－	－	ロクロ	ロクロ	回転糸切	砂粒少量	良好	火ダスキ痕	4	II
105-5	M-115	II	須恵器	坏	－	(5.0)	(3.3)	ロクロ	ロクロ	回転糸切	砂粒少量	不良	火ダスキ痕	32	II
105-6	AA-96	I	須恵器	壺	－	－	－	ロクロ	ロクロ		砂粒少量	良好		5	II
105-7	?-114	I	須恵器	壺	－	－	－	ロクロ	ロクロ		砂粒少量	良好		6	II
105-8	L-112	I	須恵器	壺	－	－	－	ロクロ	ロクロ		砂粒少量	良好		7	II
105-9	L-117	II	須恵器	壺	－	－	－	ロクロ	ロクロ		砂粒少量	良好		9	II
105-10	－	表採	須恵器	甕	－	－	－	タタキ目	ロクロ		砂粒少量	良好		10	II
105-11	O-96	I	須恵器	甕	－	－	－	タタキ目	ナデ		砂粒少量	良好		11	II
105-12	M-112	II	須恵器	壺	－	－	－	ロクロ、ヘラナデ	ロクロ		砂粒少量	良好		8	II
105-13	S-96	I	須恵器	甕	－	－	－	タタキ目	ナデ		砂粒少量	良好		12	II
105-14	Q-90	I	須恵器	鉢	－	(13.0)	(7.0)	ロクロ	ロクロ	回転糸切	砂粒少量	良好		13	II
105-15	P-58	I	須恵器	壺	－	－	－	ヘラナデ	ヘラナデ		砂粒少量	良好		14	II
106-16	T-115	II	土師器	坏	－	－	－	上端ヘラミガキ	ヘラミガキ		砂粒少量	良好	内面黒色、外面上端黒色	15	II
106-17	Q-117	II	土師器	坏	－	－	－	ロクロ、上端ヘラミガキ	ヘラミガキ		砂粒少量	良好	内面黒色、外面上端黒色	17	II
106-18	K-112	I	土師器	坏	－	－	－	ロクロ	ヘラミガキ		砂粒少量	良好	内面黒色	20	II
106-19	－	表採	土師器	坏	－	－	－	ロクロ	ヘラミガキ		砂粒少量	良好	内面黒色	19	II
106-20	L-114	II	土師器	坏	－	－	－	ロクロ	ヘラミガキ		砂粒少量	良好	内面黒色	16	II
106-21	S-115	II	土師器	坏	－	－	－	ロクロ	ヘラミガキ		砂粒少量	良好	内面黒色	22	II
106-22	O-117	II	土師器	坏	－	－	－	ロクロ	ヘラミガキ		砂粒少量	良好	内面黒色	21	II
106-23	AA-96	I	土師器	坏	－	－	－	ロクロ	ヘラミガキ		砂粒少量	良好	内面黒色	18	II
106-24	K-112	I	土師器	坏	－	(7.0)	(2.2)	ロクロ	ヘラミガキ	回転糸切	砂粒少量	良好	内面黒色	24	II
106-25	Q-116	II	土師器	坏	－	(5.4)	(1.5)	ロクロ	ヘラミガキ	回転糸切	砂粒少量	良好	内面黒色	23	II
106-26	O-117	I	土師器	坏	13.4	5.8	3.2	ロクロ	ロクロ	回転糸切	砂粒少量	良好	墨書土器「寺」	30	II
106-27	V-110	表採	土師器	坏	(13.3)	(6.6)	(5.9)	ロクロ	ロクロ	回転糸切	砂粒少量	良好		29	II
106-28	－	表採	土師器	坏	(12.0)	(6.0)	(4.7)	ロクロ	ロクロ	回転糸切	砂粒少量	良好		28	II
106-29	Q-117	II	土師器	坏	－	－	－	ロクロ	ロクロ		砂粒中量	良好		27	II
106-30	L-115	I	土師器	甕	－	－	－	ロクロ	ロクロ	回転糸切	砂粒少量	良好		49	II
106-31	M-116	II	土師器	甕	－	－	－	ロクロ	ロクロ	回転糸切	砂粒少量	良好		48	II
106-32	I-117	I	土師器	坏	－	(6.4)	(2.8)	ロクロ	ロクロ	回転糸切	砂粒少量	良好		31	II
106-33	N-116	IV	土師器	坏	－	(6.0)	(2.9)	ロクロ	ロクロ		砂粒少量	良好		33	II
107-34	Q-117	II	土師器	壺	－	－	－	ロクロ、ヘラナデ	ヘラミガキ		砂粒中量	良好	内面黒色	34	II
107-35	L-114	II	土師器	甕	(14.6)	－	(9.7)	ロクロ、ヘラナデ	ロクロ		砂粒中量	良好		35	II
107-36	L-117	I	土師器	甕	(22.0)	－	(14.2)	ロクロ	ロクロ		砂粒少量	良好		37	II
107-37	L-117	I	土師器	甕	(20.0)	－	(6.1)	ロクロ、ヘラナデ	ロクロ、ヘラナデ		砂粒中量	良好		36	II
107-38	M-118	IV	土師器	甕	(13.2)	－	(8.0)	ロクロ、ヘラナデ	ロクロ		砂粒少量	良好		42	II
107-39	L-117	I	土師器	甕	(21.6)	－	(17.8)	ヘラナデ	ヘラナデ		砂粒中量	良好		38	II
107-40	Q-117	II	土師器	甕	(24.6)	－	(13.2)	ロクロ、ヘラナデ	ロクロ		砂粒少量	良好		34	II
107-41	L-117	I	土師器	甕	(21.0)	－	(13.8)	ヘラナデ	ヘラナデ		砂粒中量	良好		40	II
107-42	S-114	I	土師器	甕	(19.4)	－	(8.3)	ヘラナデ	ヘラナデ		砂粒中量	良好		39	II
108-43	O-117	II	土師器	甕	－	－	－	ヘラナデ	ヘラナデ		砂粒中量	良好		45	II
108-44	N-116	II	土師器	甕	－	－	－	ロクロ	ロクロ		砂粒少量	良好		41	II
108-45	N-118	II	土師器	甕	－	－	－	ヘラナデ	ヘラナデ		砂粒少量	良好		47	II
108-46	S-114	I	土師器	甕	－	－	－	ヘラナデ	ヘラナデ		砂粒少量	良好		43	II

図版番号	グリット番号	層位	種別	器種	計測値(cm)			外面	内面	底面	胎土	焼成	備考	整理番号	分類
					口径	底径	器高								
108-47	T-112	Ⅱ	土師器	甕	－	－	－	ヘラナデ	ヘラナデ		砂粒少量	良好		44	Ⅱ
108-48	N-116	Ⅱ	土師器	甕	－	－	－	ヘラナデ	ヘラナデ		砂粒少量	良好		46	Ⅱ

第31表　遺構外出土土器観察表②

図版番号	グリット名	層位	部位	施文	備考	整理番号	分類
108-49	O-92	Ⅰ	口縁	貝殻腹縁刺突文、連続刺突文、沈線	砂粒混入	1	Ⅰ
108-50	O-91	Ⅰ	胴～底	貝殻条痕文、尖底	砂粒混入	2	Ⅰ
108-51	P-90、91	Ⅰ	胴～底	貝殻条痕文、尖底	砂粒混入	3	Ⅰ
108-52	－	表採	口～胴	口縁：ＬＲ押圧(横)、貼付隆帯(横)、胴：ＬＲ(横)	繊維混入	4	Ⅰ
108-53	O-117	Ⅲ	口縁	ＬＲ押圧(横、縦)	繊維混入	5	Ⅰ
108-54	－	表採	胴	結束第一種(ＬＲ・ＲＬ)(横)	繊維混入	8	Ⅰ
108-55	M-92	Ⅰ	胴	ＲＬＲ(斜)	繊維混入	7	Ⅰ
108-56	O-94	Ⅰ	胴	Ｌ単軸絡条体第１類(縦)	繊維混入	6	Ⅰ
108-57	O-106	Ⅲ	口縁～胴	口縁：平縁、Ｌ単軸絡条体第１類(横)、胴：Ｌ単軸絡条体第１類(斜)	繊維混入	9	Ⅰ
108-58	O-96	Ⅰ	胴	沈線、ＲＬ	砂粒混入	10	Ⅰ
108-59		表採	胴	沈線、ＲＬ	砂粒混入	11	Ⅰ
108-60	V-114	Ⅲ	胴	ＲＬ(横)	砂粒混入	12	Ⅰ

第32表　遺構外出土石器計測表

図版番号	整理番号	グリット名	層位	最大計測値(㎜、g)				石質	器種	備考
				長さ	幅	厚さ	重量			
110-8	29	－	表採	128.5	23.0	8.0	23.5	珪質頁岩	石槍	
109-1	28	R-90	Ⅳ	55.0	12.5	7.0	4.5	珪質頁岩	石篦	
109-2	15	K-114	Ⅰ	32.0	34.5	15.0	16.1	珪質頁岩	不定形	
109-3	23	Q-89	Ⅰ	41.0	27.5	9.5	8.9	珪質頁岩	不定形	
110-9	99	Q-116	Ⅰ	58.0	42.0	15.0	26.0	珪質頁岩	剥片	
	30	P-91	Ⅰ	28.4	36.2	5.5	6.6	珪質頁岩	不定形	焼けはじけ
109-5	21	P-89	Ⅰ	82.0	65.0	23.0	87.1	珪質頁岩	剥片	
110-6	25	Q-92	Ⅰ	91.5	65.0	28.5	138.0	珪質頁岩	剥片	
110-7	26	R-89	Ⅰ	63.5	52.5	20.5	47.2	珪質頁岩	剥片	
109-4	20	P-89	Ⅰ	49.5	71.0	20.5	56.4	珪質頁岩	剥片	
	100	S-115	Ⅰ	52.9	37.8	22.6	33.7	珪質頁岩	剥片	
111-12	14	K-113	Ⅰ	65.0	51.5	26.0	106.0	凝灰岩	敲磨器	磨り

図版番号	整理番号	グリット名	層位	最大計測値(㎜、g)				石質	器種	備考
				長さ	幅	厚さ	重量			
111-10	18	N-116	Ⅱ	(152.0)	69.5	53.0	668.0	デイサイト	敲磨器	敲き
111-13	24	Q-90	Ⅰ	116.0	56.0	44.0	414.7	デイサイト	敲磨器	敲き
	98	O-116	表採	(133.0)	63.4	57.0	654.0	デイサイト	敲磨器	敲き
	16	L-114	Ⅰ	90.5	80.0	32.0	276.6	デイサイト	敲磨器	敲き
	19	O-93	Ⅰ	141.5	(142.0)	29.2	796.0	安山岩	敲磨器	敲き
	27	R-89	Ⅰ	90.5	50.5	27.5	187.5	安山岩	敲磨器	敲き
111-11	102	U-112	Ⅱ	58.5	68.0	26.0	89.8	凝灰岩	砥石	
	17	L-117	Ⅳ	(82.9)	77.5	49.5	352.4	デイサイト	砥石	
	101	T-112	表採	(159.3)	(144.0)	(123.0)	2975.0	安山岩	台石・石皿	鉄付着
68－7	9	O-115	Ⅱ	(216.0)	(119.5)	(120.0)	(5300.0)	安山岩	台石・石皿	1円c 覆土出土と接合
111－14	22	P-90	Ⅰ	(132.5)	119.0	69.5	1706.0	安山岩	台石・石皿	

第33表　遺構外出土土製品観察表

図版番号	種別	グリット名	層位	計測値(cm)			備考	整理番号
				長さ	幅	厚さ		
112-1	土製支脚	－	表採	3.2	5.4	1.5		

第34表　遺構外出土石製品観察表

図版番号	整理番号	グリット名	層位	最大計測値(㎜、g)				石質	器種	備考
				長さ	幅	厚さ	重量			
112-2	13	O-90	Ⅰ	199.0	163.0	161.0	3585.0	溶結凝灰岩	五輪塔	空輪

第35表　遺構外出土鉄関連遺物計測表

図版番号	種別	グリット名	層位	最大計測値(㎜、g)				備考	整理番号
				長さ	幅	厚さ	重量		
112-3	羽口	T-114	Ⅰ	(6.9)	(7.6)	(3.6)	－		
112-4	鎌	O-90	Ⅰ	72.6	30.5	6.1	27.6	手鎌？	26
112-5	刀子	L-117	Ⅰ	56.6	9.0	2.6	6.5		25
112-6	棒状鉄製品	38トレンチ	Ⅱ	(32.1)	6.2	6.8	12.0		19
112-6	棒状鉄製品	38トレンチ	Ⅱ	(41.7)	4.9	4.6	4.9		20
112-7	棒状鉄製品	M-115	Ⅱ	(22.5)	7.4	5.4	3.5		22
112-8	棒状鉄製品	M-115	Ⅱ	(33.3)	4.3	5.4	6.3		21
112-9	棒状鉄製品	K-112	Ⅰ	66.8	14.3	10.6	23.3		24
112-10	棒状鉄製品	M-115	Ⅱ	(30.3)	4.4	(3.2)	2.4		23

第36表　遺構外出土古銭計測表

図版番号	種別	グリット名	層位	最大計測値(㎜、g)				備考	整理番号
				長さ	幅	厚さ	重量		
112-11	古銭	P-91	Ⅰ	19.7	16.6	1.1	0.9	欠損、「□平元寶」(咸平元寶？)	51
112-12	古銭	－	表採	23.7	23.6	1.1	2.7	完形、摩滅により判読不能	52

写　真　図　版

調査区遠景（西から）

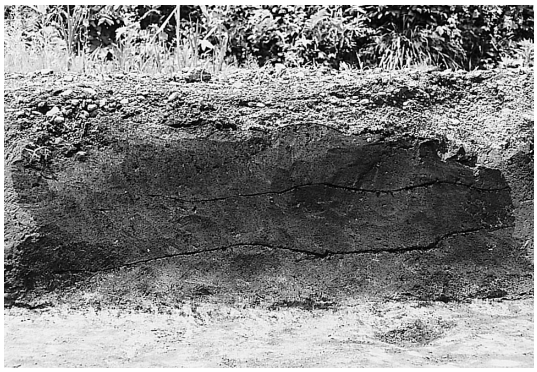
調査区の状況（平成17年度）

写真１　調査区の状況

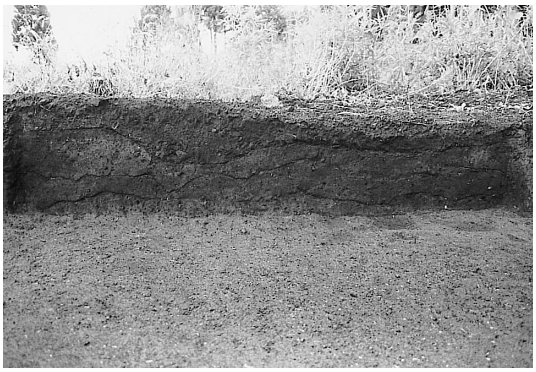
基本層序①

基本層序②

基本層序③



基本層序④



基本層序⑤

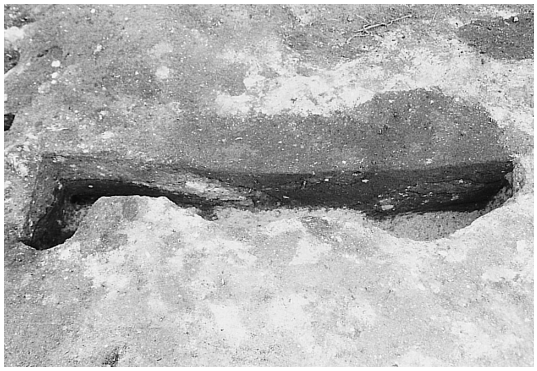
基本層序⑥

第１号竪穴住居跡　セクション（Ｓ→）

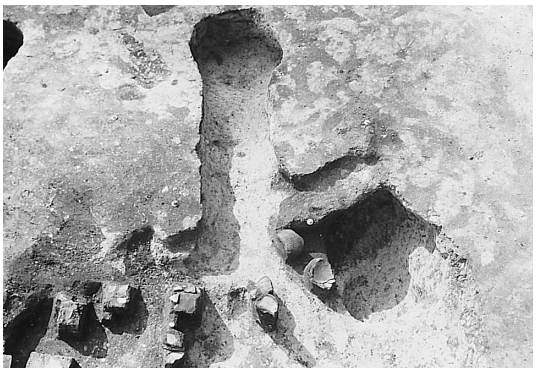
第１号竪穴住居跡　セクション（Ｗ→）

写真２　検出遺構（１）

第１号竪穴住居跡　遺物出土状況（N→）

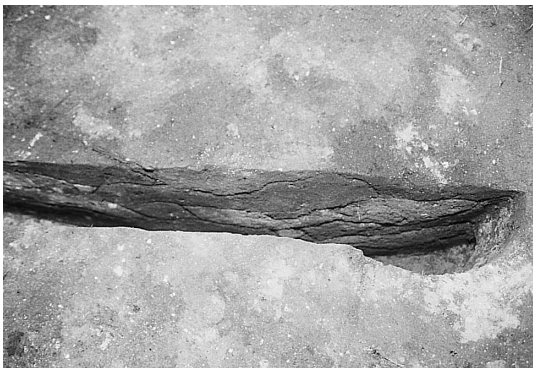


第１号竪穴住居跡　カマド１　セクション（W→）



第１号竪穴住居跡　カマド１　遺物出土状況（N→）

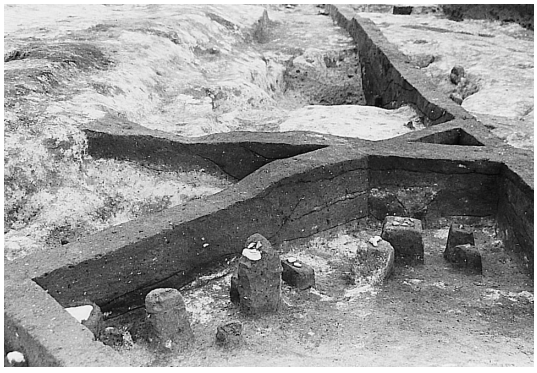
第１号竪穴住居跡　カマド２　セクション（N→）



第１号竪穴住居跡　カマド２　セクション（W→）

第１号竪穴住居跡　完掘（N→）

第２号竪穴住居跡　セクション（E→）



第２号竪穴住居跡　セクション（S→）

写真３　検出遺構（２）

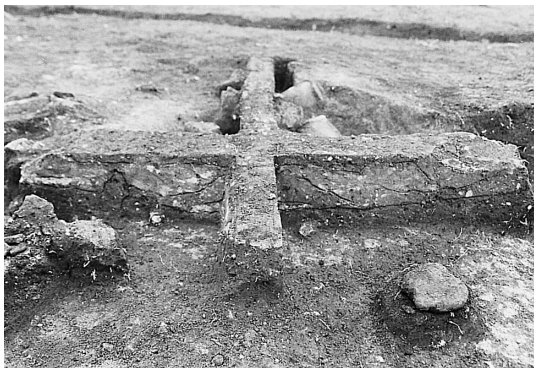
第 2 号竪穴住居跡　pit 8 完掘（W→）

第 2 号竪穴住居跡　完掘（N→）

第 2 号竪穴住居跡　完掘（W→）

第 2 号竪穴住居跡　完掘（S→）

第 3 号竪穴住居跡　セクション（E→）

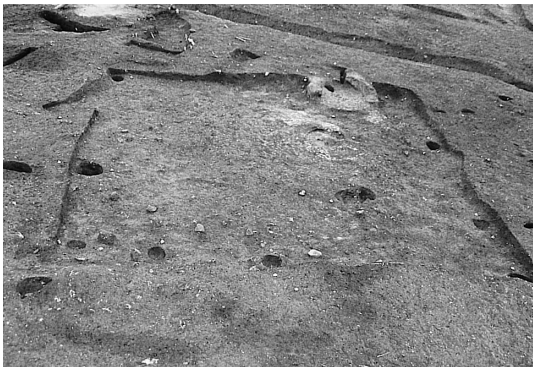


第 3 号竪穴住居跡　カマド　セクション（N→）

第 3 号竪穴住居跡　カマド　遺物出土状況（N→）

第 3 号竪穴住居跡　カマド　完掘（N→）

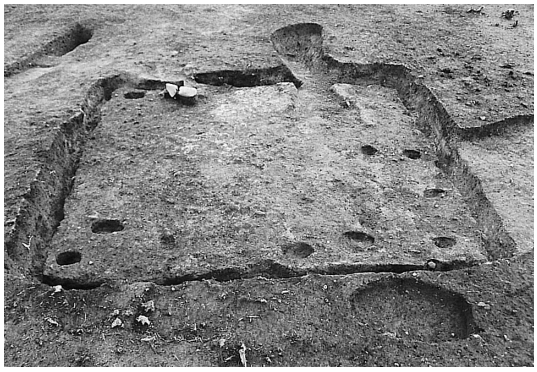
写真 4　検出遺構（ 3 ）



第３号竪穴住居跡　完掘（N→）

第４号竪穴住居跡　セクション（S→）

第４号竪穴住居跡　セクション（W→）

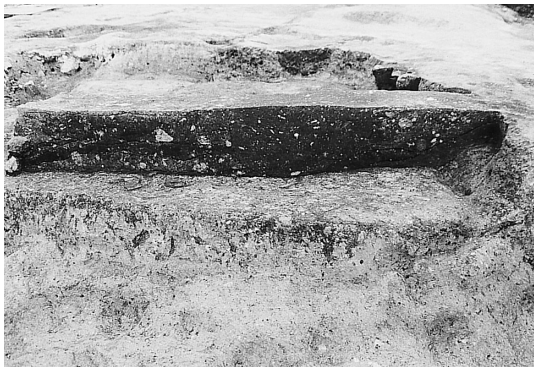


第４号竪穴住居跡　完掘（N→）

第５号竪穴住居跡　セクション（S→）

第５号竪穴住居跡　完掘（N→）

第６号竪穴住居跡　pit１セクション（E→）



第６号竪穴住居跡　セクション（W→）

写真５　検出遺構（４）

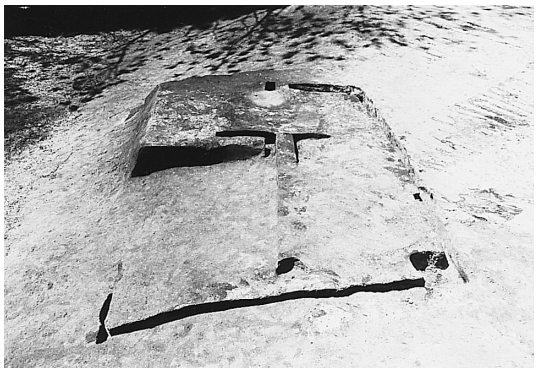
第６号竪穴住居跡　検出状況（Ｓ→）

第７号竪穴住居跡　カマド　セクション（Ｅ→）

第７号竪穴住居跡　完掘（Ｓ→）

第８号竪穴住居跡　遺物出土状況（Ｎ→）

第８号竪穴住居跡　遺物出土状況（Ｗ→）



第８号竪穴住居跡　完掘（Ｎ→）

第９号竪穴住居跡　セクション（Ｗ→）

第９号竪穴住居跡　セクション（Ｗ→）

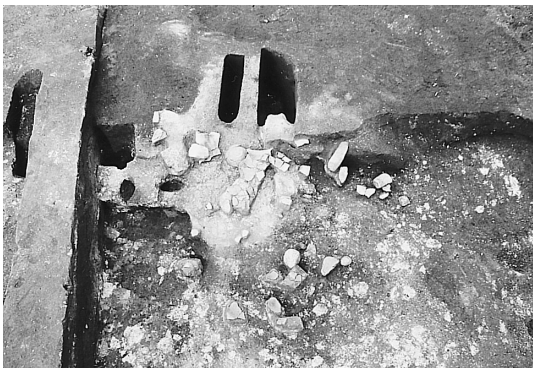
写真６　検出遺構（５）

第９号竪穴住居跡　セクション（Ｓ→）

第９号竪穴住居跡　セクション（Ｓ→）

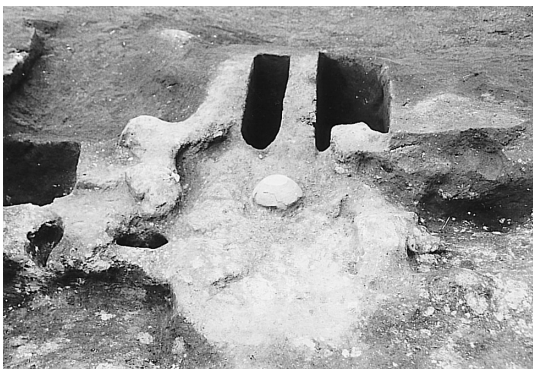
第９号竪穴住居跡　カマド　セクション（Ｗ→）

第９号竪穴住居跡　カマド　セクション（Ｓ→）

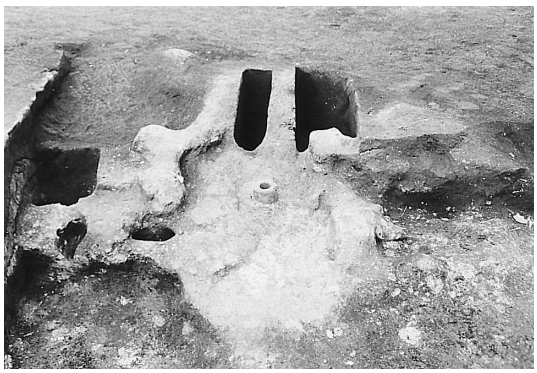


第９号竪穴住居跡　カマド　遺物出土状況（Ｗ→）

第９号竪穴住居跡　カマド　遺物出土状況（Ｎ→）



第９号竪穴住居跡　カマド　遺物出土状況（Ｗ→）

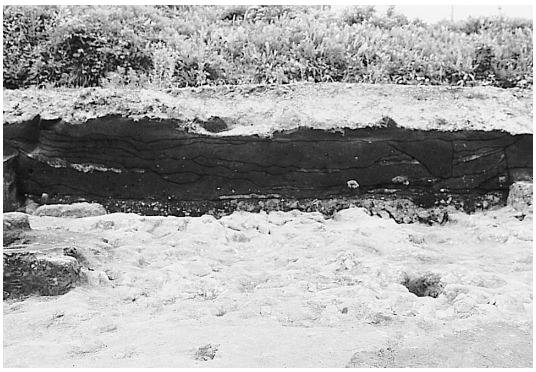


第９号竪穴住居跡　カマド　遺物出土状況（Ｗ→）

写真７　検出遺構（６）

第９号竪穴住居跡　完掘（W→）

第10号竪穴住居跡　セクション（S→）



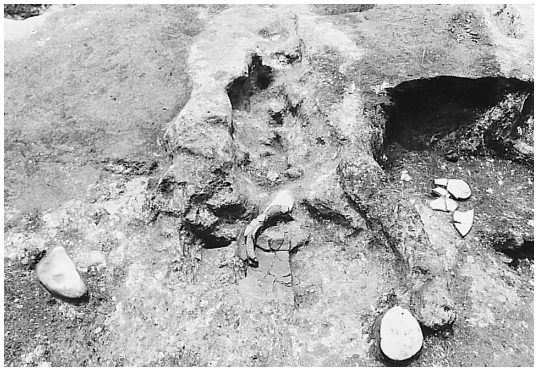
第10号竪穴住居跡　セクション（E→）

第10号竪穴住居跡　炭化物出土状況（N→）

第10号竪穴住居跡　遺物出土状況（N→）

第10号竪穴住居跡　検出状況（N→）

第10号竪穴住居跡　カマド１　セクション（W→）



第10号竪穴住居跡　カマド１　検出状況（N→）

写真８　検出遺構（７）

第10号竪穴住居跡　カマド２　完掘（Ｎ→）

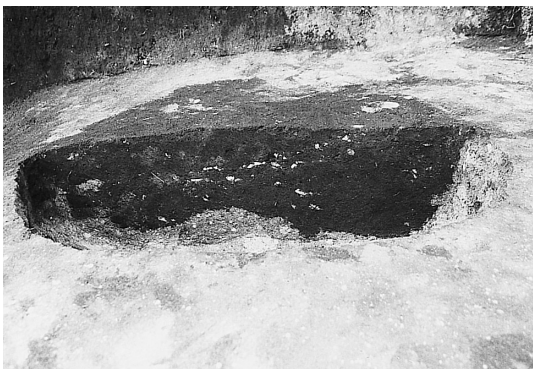
第10号竪穴住居跡　完掘（Ｎ→）

第11号竪穴住居跡　セクション（Ｓ→）

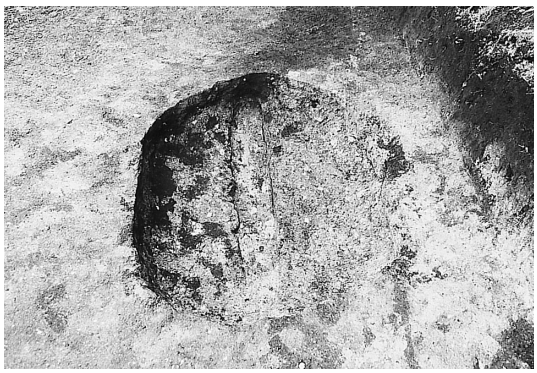
第12号竪穴住居跡　セクション（Ｅ→）

第12号竪穴住居跡　カマド　セクション（Ｎ→）

第12号竪穴住居跡　完掘（Ｎ→）

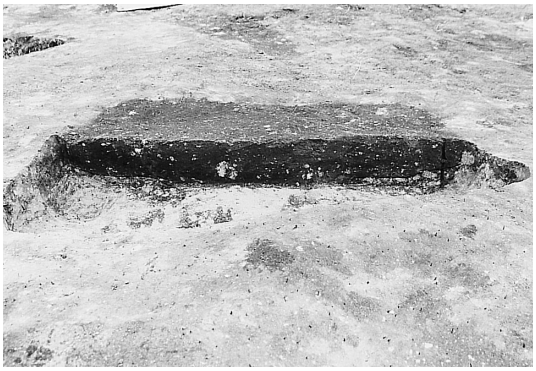


第１号土坑　セクション（Ｎ→）

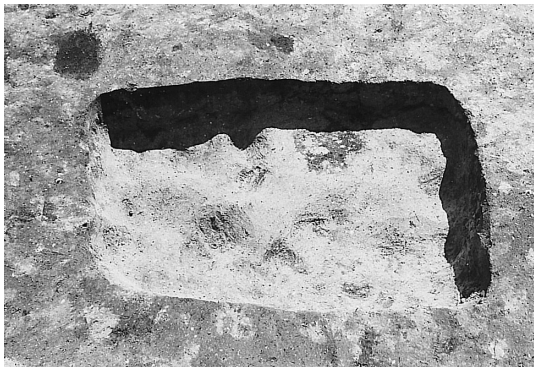


第１号土坑　完掘（Ｗ→）

写真９　検出遺構（８）



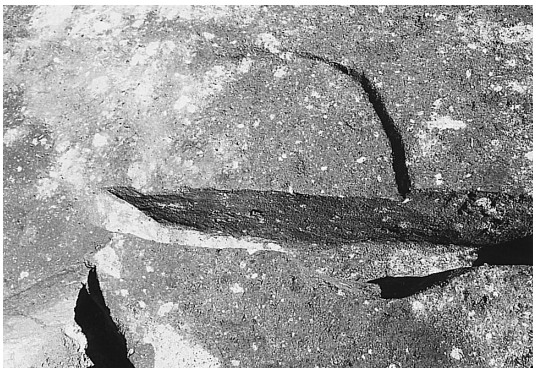
第２号土坑　セクション（Ｅ→）



第２号土坑　完掘（Ｗ→）

第４号土坑　セクション（Ｎ→）

第４号土坑　完掘（Ｓ→）



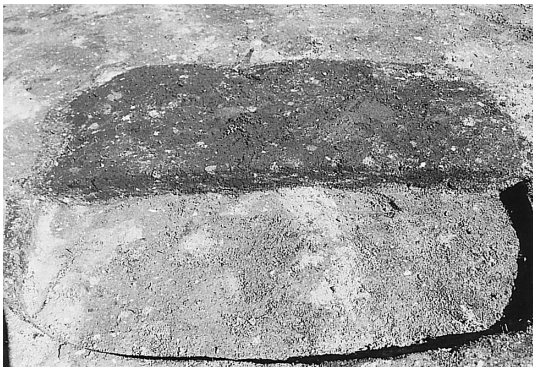
第５号土坑　完掘（Ｗ→）

第６号土坑　完掘（Ｓ→）

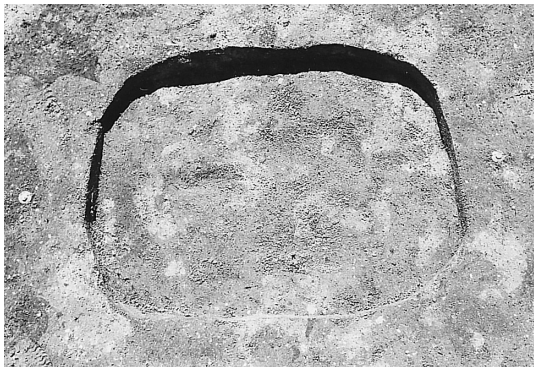
第７号土坑　セクション（Ｓ→）

第７号土坑　完掘（Ｓ→）

写真10　検出遺構（９）



第10号土坑　セクション（Ｓ→）



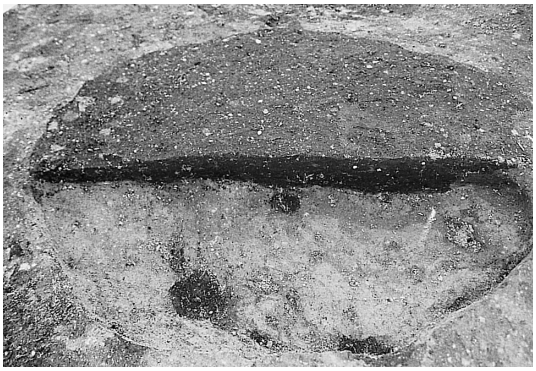
第10号土坑　完掘（Ｎ→）

第12号土坑　セクション（Ｓ→）

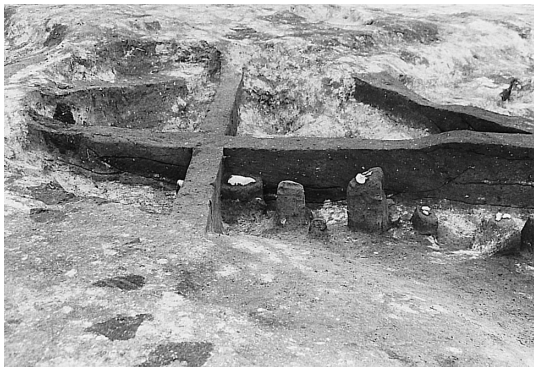
第12号土坑　完掘（Ｎ→）

第13号土坑　セクション（Ｅ→）

第13号土坑　完掘（Ｎ→）



第19号土坑　セクション（ＳＷ→）



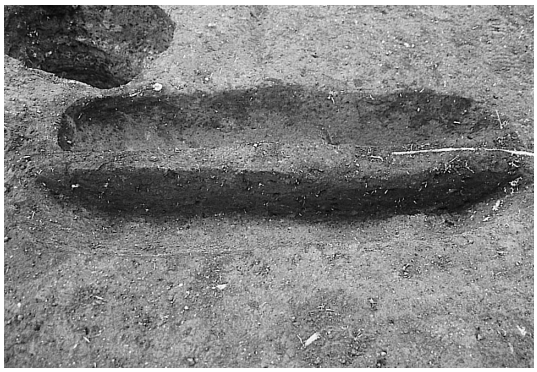
第23号土坑　セクション（Ｅ→）

写真11　検出遺構（10）

第25号土坑　完掘（N→）

第28号土坑　セクション（S→）

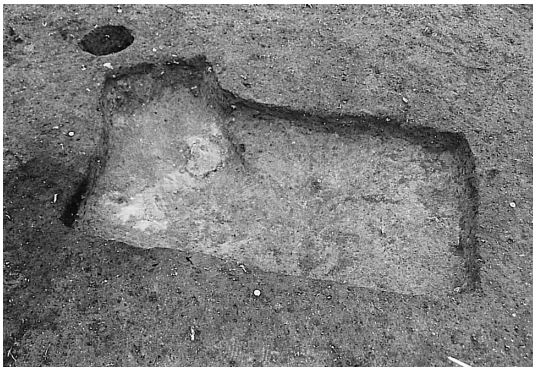
第28号土坑　完掘（S→）



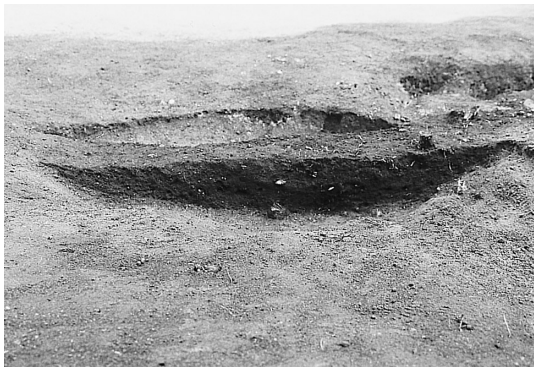
第29号土坑　セクション（E→）

第29号土坑　完掘（E→）

第30号土坑　セクション（N→）

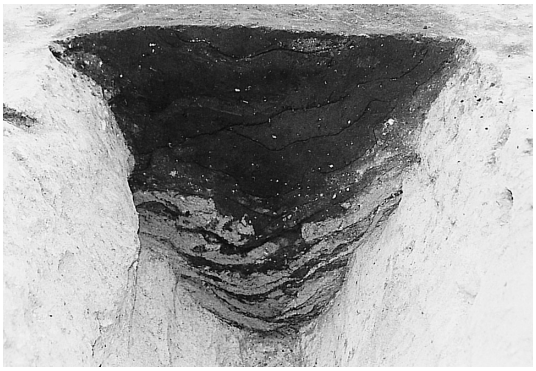


第30号・第31号土坑　完掘（S→）

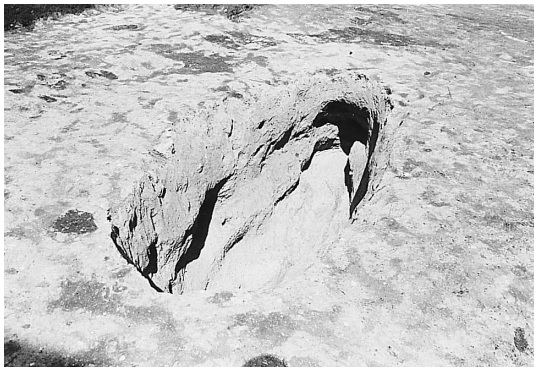


第33号土坑　セクション（W→）

写真12　検出遺構（11）



第１号溝状土坑　セクション（Ｓ→）



第１号溝状土坑　完掘（ＮＷ→）

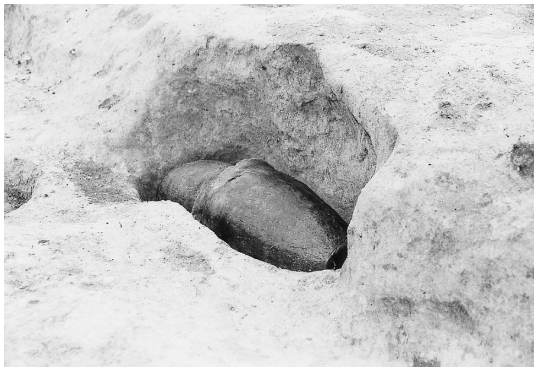
第２号溝状土坑　セクション（ＳＥ→）

第２号溝状土坑　完掘（Ｗ→）

第１号土器埋設遺構　検出状況（ＮＥ→）

第１号土器埋設遺構　検出状況（Ｅ→）

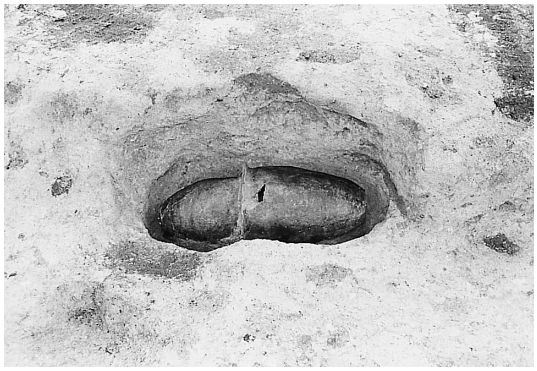
第１号土器埋設遺構　検出状況（ＳＥ→）



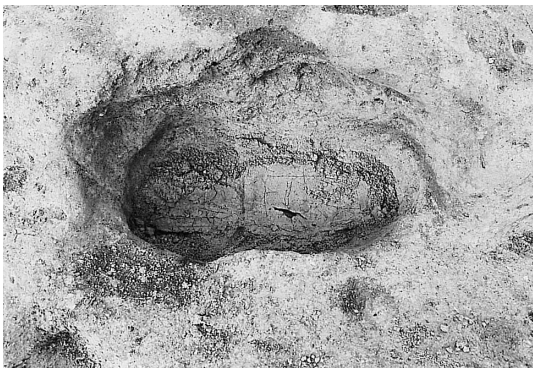
第１号土器埋設遺構　検出状況（ＮＥ→）

写真13　検出遺構（12）

第１号土器埋設遺構　検出状況（ＳＥ→）

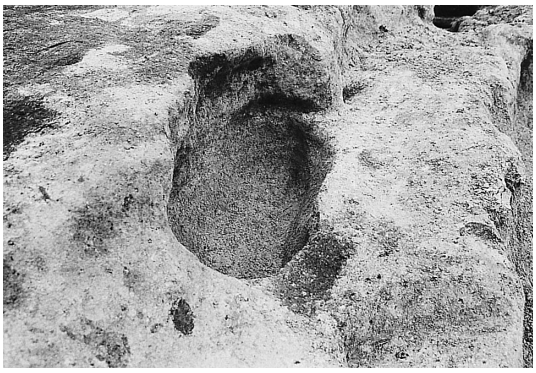


第１号土器埋設遺構　検出状況（Ｅ→）

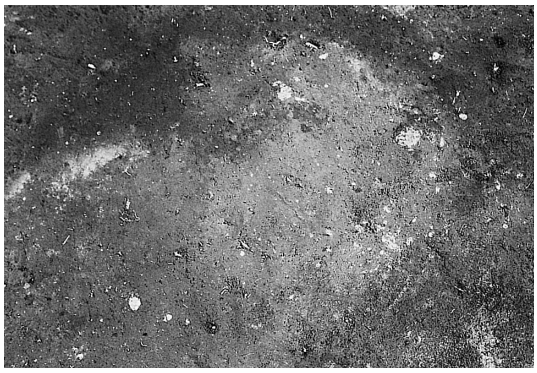


第１号土器埋設遺構　検出状況（Ｅ→）

第１号土器埋設遺構　完掘（Ｅ→）



第１号土器埋設遺構　完掘（Ｓ→）



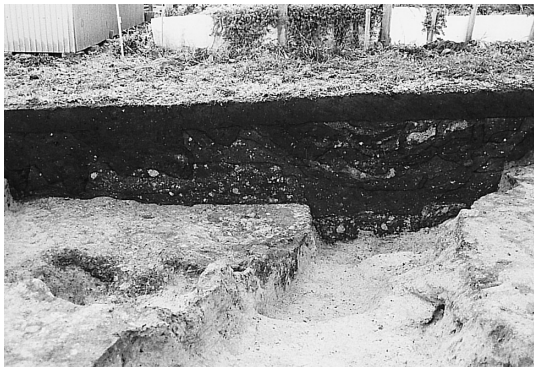
第１号焼土遺構　検出状況（Ｗ→）

第１号焼土遺構　セクション（Ｓ→）

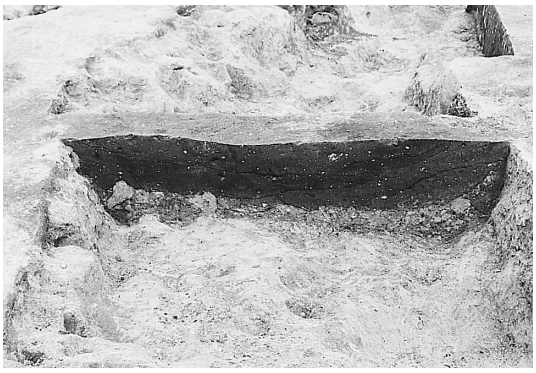
第４号焼土遺構　検出状況（Ｓ→）

写真14　検出遺構（13）

第１号円形周溝ａ　セクションＡ－Ａ´（Ｎ→）

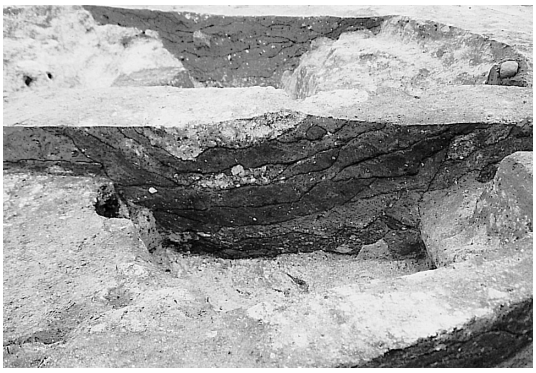


第１号円形周溝ａ　セクションＣ－Ｃ´（Ｎ→）



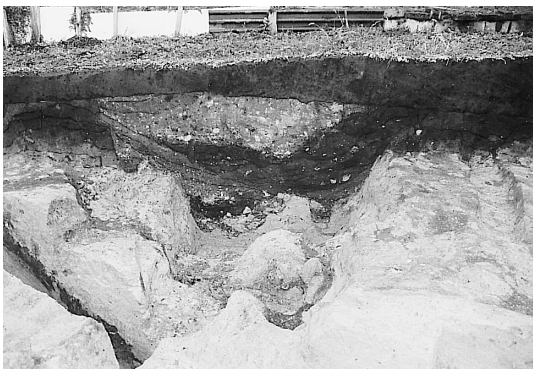
第１号円形周溝ａ　セクションＤ－Ｄ´（Ｓ→）

第１号円形周溝ａ　検出状況（ＳＷ→）

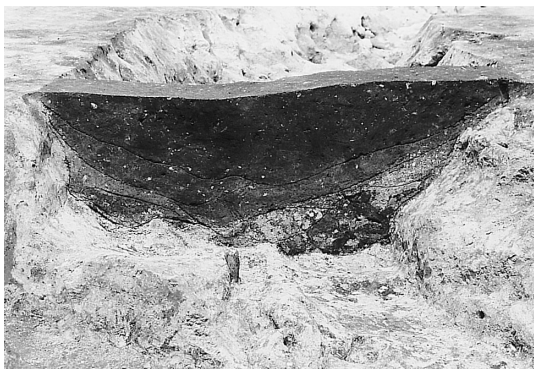


第１号円形周溝ｂ　セクションＦ－Ｆ´（Ｗ→）

第１号円形周溝ｂ、ｃ　検出状況（Ｗ→）



第１号円形周溝ｂ　セクションＧ－Ｇ´（Ｎ→）

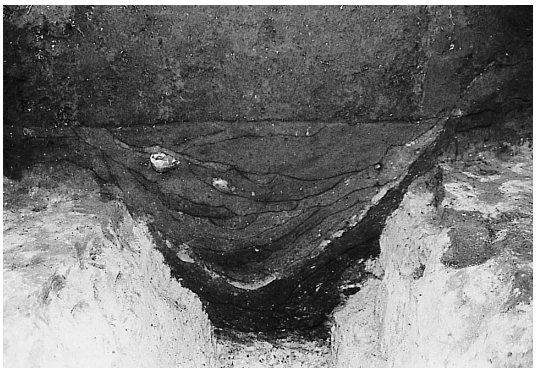


第１号円形周溝ｂ　セクションＨ－Ｈ´（Ｓ→）

写真15　検出遺構（14）

第１号円形周溝ａ～ｃ　検出状況（Ｓ→）

第１号円形周溝ｃ　セクションＦ－Ｆ´（Ｗ→）



第１号円形周溝ｃ　セクションＩ－Ｉ´（Ｎ→）

第１号円形周溝ｃ　セクションＪ－Ｊ´（Ｎ→）

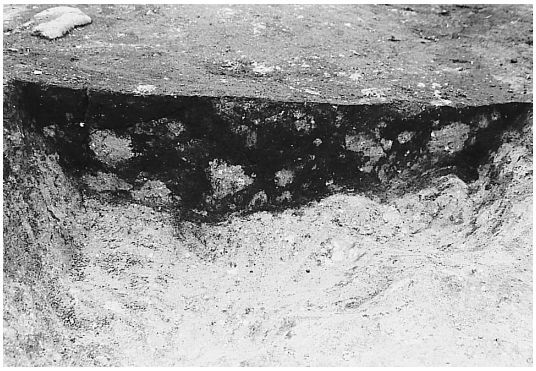
第１号円形周溝ｃ　検出状況（Ｓ→）

第２号円形周溝　セクションＢ－Ｂ´（Ｎ→）

第２号円形周溝　完掘（Ｗ→）

第２号、第３号円形周溝　セクションＥ－Ｅ´（Ｓ→）

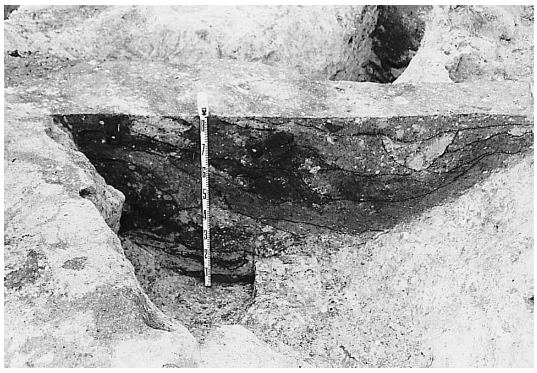
写真16　検出遺構（15）



第３号円形周溝　セクションＧ－Ｇ´（Ｅ→）

第３号円形周溝ａ、ｂ　セクションＨ－Ｈ´（Ｅ→）

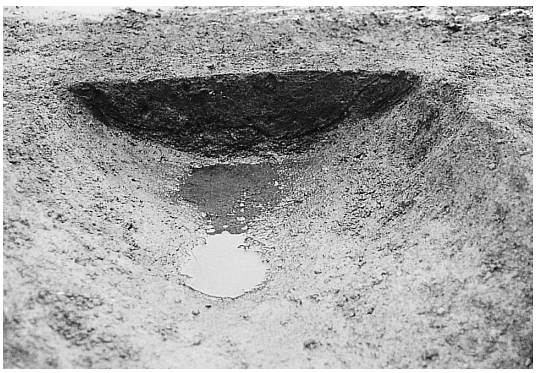
第３号円形周溝ａ、ｂ　セクションＩ－Ｉ´（Ｅ→）



第１号溝跡　セクションＡ－Ａ´（Ｎ→）

第１号溝跡　セクションＢ－Ｂ´（Ｅ→）

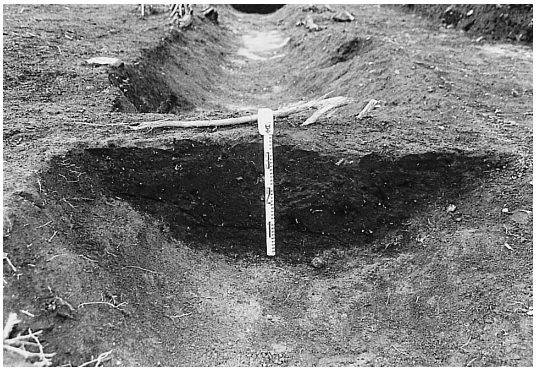
第５号溝跡　セクションＣ－Ｃ´（Ｓ→）



第６号溝跡　セクションＢ－Ｂ´（Ｗ→）

第６号溝跡　セクションＤ－Ｄ´（Ｓ→）

写真17　検出遺構（16）

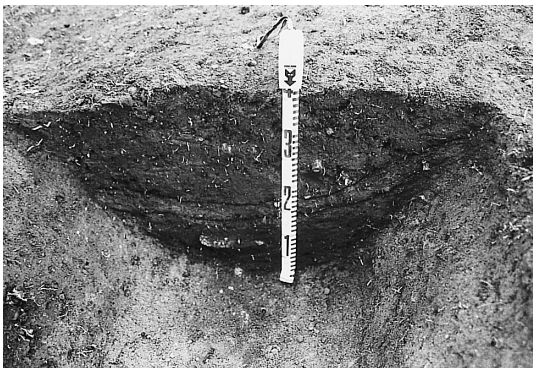


第６号溝跡　セクションＥ－Ｅ´（Ｓ→）

第６号溝跡　セクションＦ－Ｆ´（Ｓ→）

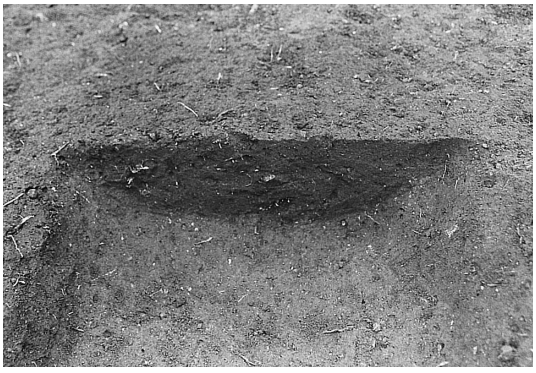
第６号溝跡　検出状況（ＮＷ→）

第７号溝跡　セクションＩ－Ｉ´（ＮＷ→）



第７号溝跡　セクションＪ－Ｊ´（ＮＷ→）

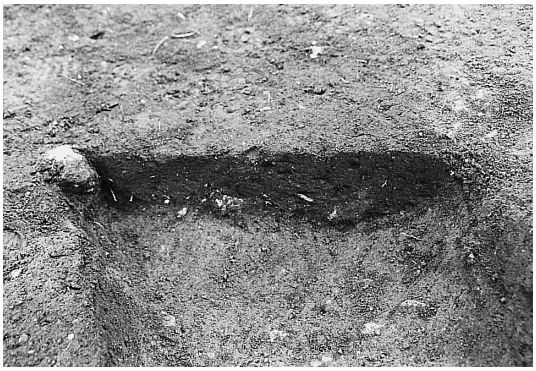
第７号溝跡　検出状況（Ｗ→）



第８号溝跡　セクションＬ－Ｌ´（ＮＷ→）

第８号溝跡　検出状況（Ｅ→）

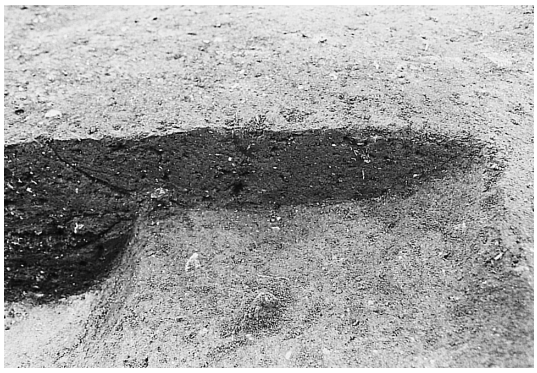
写真18　検出遺構（17）



第10号溝跡　セクションＡ－Ａ´（Ｗ→）

第10号溝跡　セクションＢ－Ｂ´（Ｗ→）

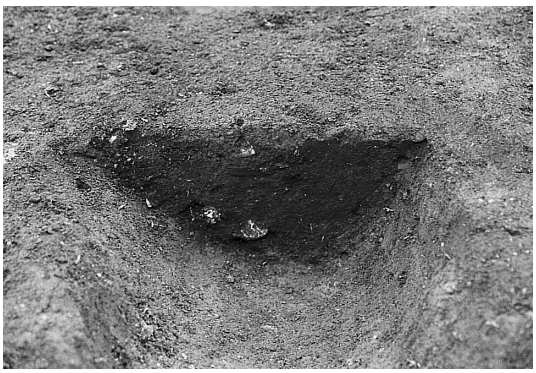
第11号溝跡　セクションＢ－Ｂ´（Ｗ→）



第11号溝跡　セクションＣ－Ｃ´（Ｎ→）

第13号溝跡　セクションＨ－Ｈ´（Ｎ→）

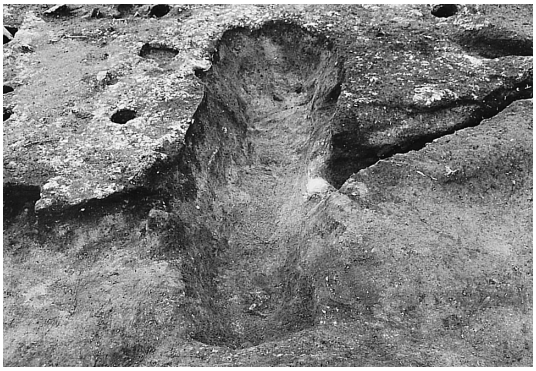
第14号溝跡　セクションＡ－Ａ´（Ｗ→）



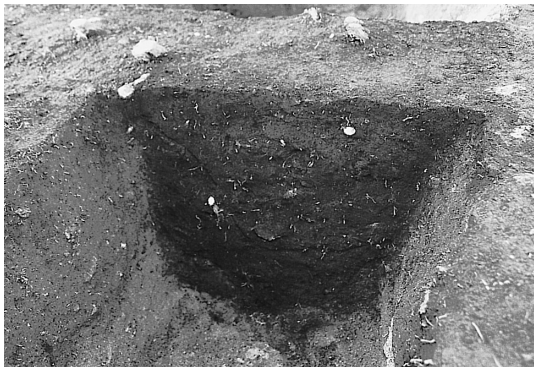
第14号溝跡　セクションＢ－Ｂ´（Ｗ→）

第16号、第17号溝跡　検出状況（Ｎ→）

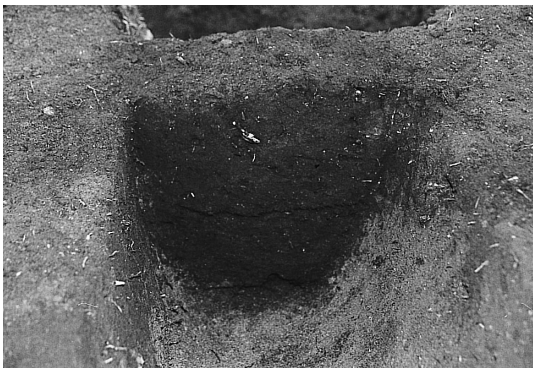
写真19　検出遺構（18）



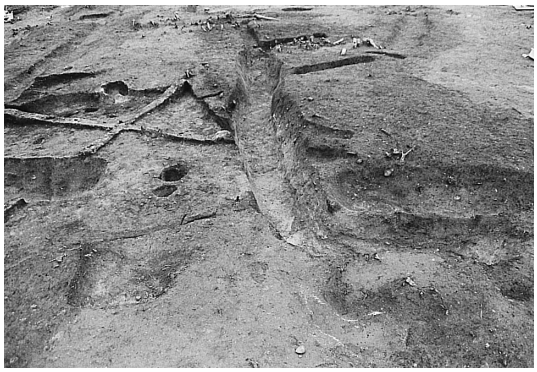
第18号溝跡　完掘（ＳＥ→）



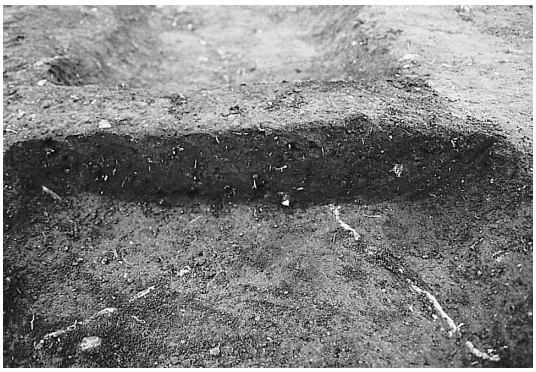
第19号溝跡　セクションＥ－Ｅ´（Ｓ→）



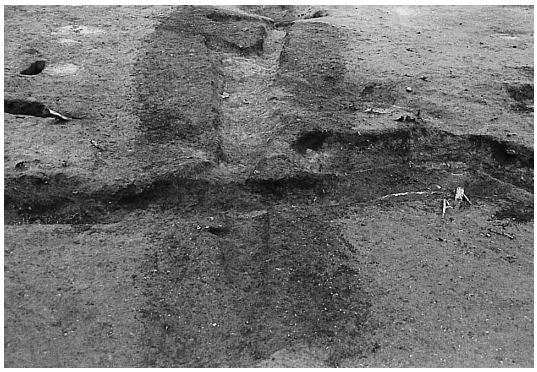
第19号溝跡　セクションＦ－Ｆ´（Ｗ→）



第19号溝跡　検出状況（Ｎ→）



第20号溝跡　セクションＩ－Ｉ´（Ｓ→）

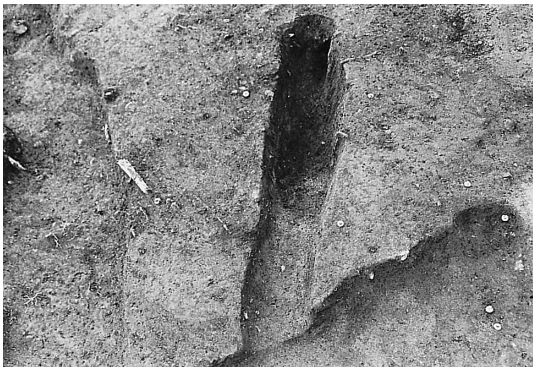


第21号溝跡　検出状況（Ｗ→）

第22号溝跡　セクションＭ－Ｍ´（Ｓ→）

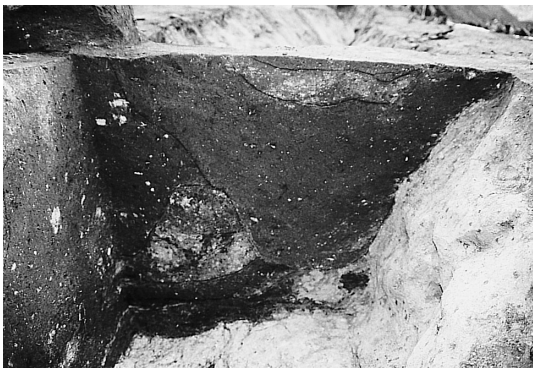
第22号溝跡　検出状況（Ｎ→）

写真20　検出遺構（19）



第23号溝跡　検出状況（N→）

第27号溝跡　セクションD－D´（S→）



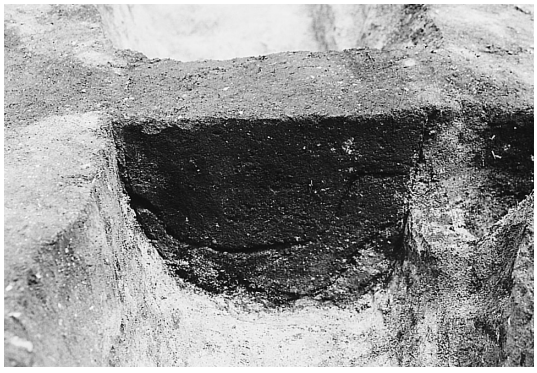
第27号溝跡　セクションF－F´（S→）

第30号、第36号溝跡　セクションG－G´（E→）

第29号、第36号溝跡　セクションH－H´（E→）

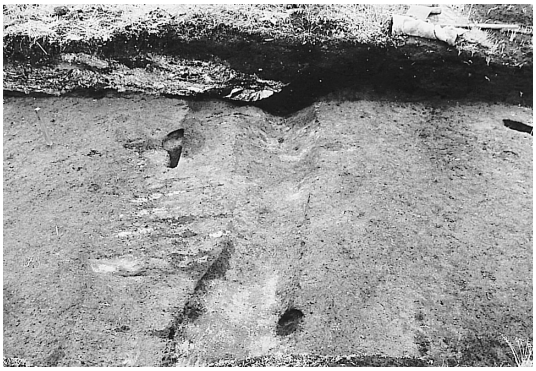
第29号溝跡　セクションJ－J´（E→）

第30号溝跡　セクションK－K´（S→）

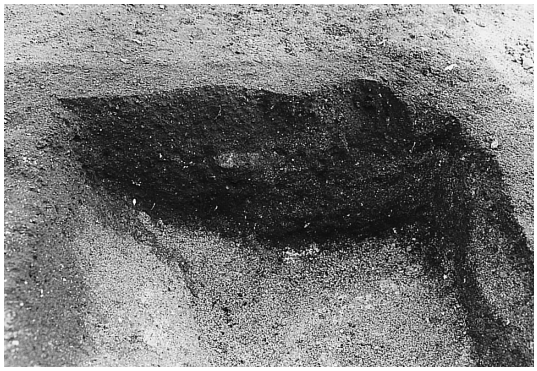


第30号溝跡　セクションL－L´（S→）

写真21　検出遺構（20）



第38号溝跡　検出状況（Ｅ→）

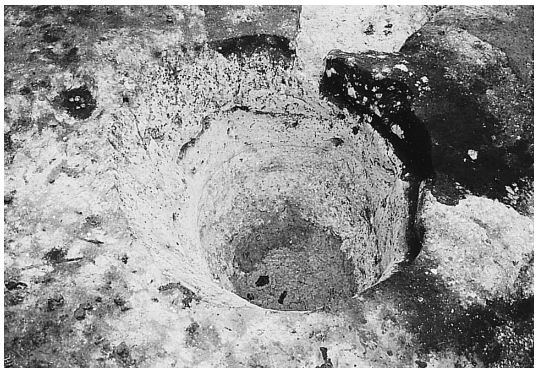


第39号溝跡　セクションＡ－Ａ´（Ｎ→）

第２号井戸跡　セクション（Ｗ→）

第３号井戸跡　検出状況（Ｗ→）

第４号井戸跡　セクション（Ｓ→）

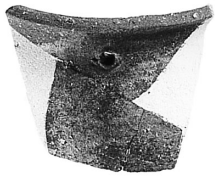


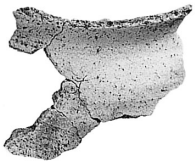
第６号井戸跡　完掘（Ｓ→）

遺構検出状況（ＳＷ→）

遺構検出状況（Ｗ→）

写真22　検出遺構（21）

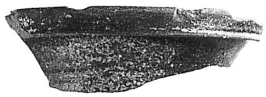

31－1


31－2

31－3

31－4

31－5


31－6

31－15

31－16

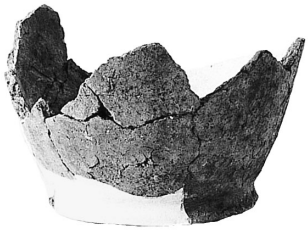
32－18

32－20

32－25

32－26

32－27


32－28

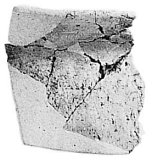
32－29

33－33

33－34

写真23　遺構内出土土器（竪穴住居跡）（１）

33－35


33－36

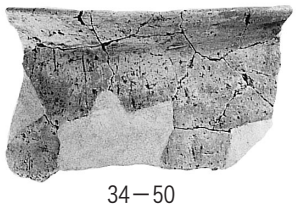
33－37

33－38

33－39

34－46

34－49


34－50

35－53

35－56

35－57

35－59

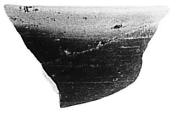
35－60

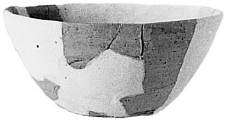
35－61

35－62

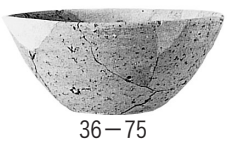
36－67

36－68


36－69


36－73

36－74

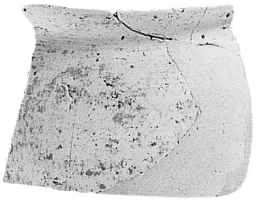

36－75

36－77

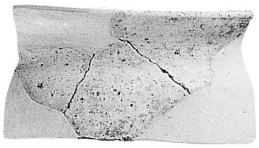
36－78

写真24　遺構内出土土器（竪穴住居跡）（２）

37－81



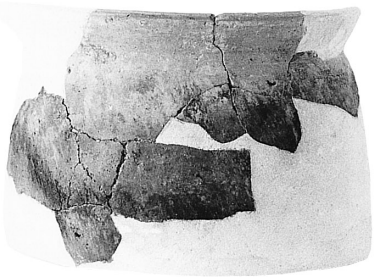
37－82



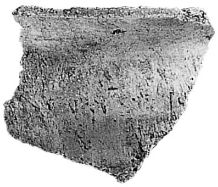
37－83

37－84

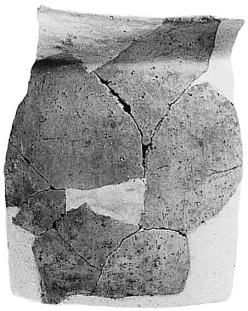
37－85



37－86

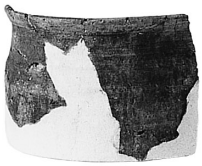


37－87

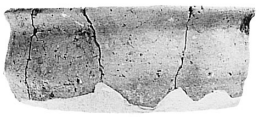


38－88

38－89



38－90



38－91

38－92

38－93

38－94

写真25　遺構内出土土器（竪穴住居跡）（３）

38－95

38－96

38－97

38－98

39－99

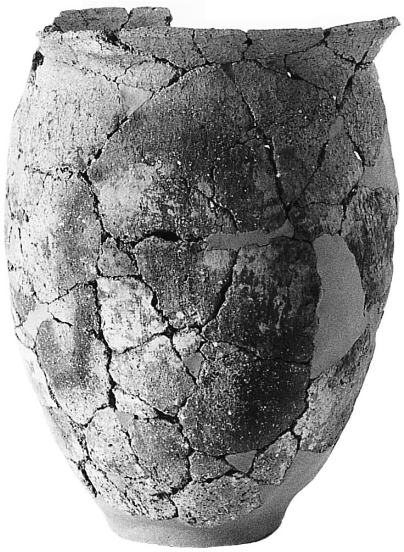
39－100

39－112

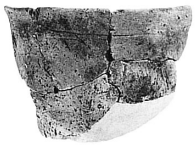
40－117

40－118

40－123


40－124

40－126


40－129

40－130

41－132

41－133

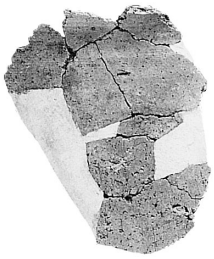
41－134

41－135

写真26　遺構内出土土器（竪穴住居跡）（４）

41－136

41－137


41－138

42－147

41－148

41－149

41－150

42－151

42－152

42－153

42－154

42－155

写真27　遺構内出土土器（竪穴住居跡）（５）

55－1

55－6

59－1

59－2

63－1

63－8

63－10

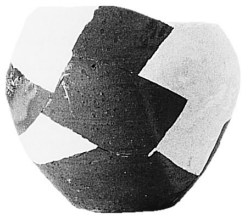
63－11

64－21

64－22

64－28

64－30


64－31

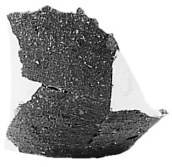

64－32

写真28　遺構内出土土器（土坑・土器埋設遺構・円形周溝）

65－40

65－43

65－45

66－70

66－71

66－72

66－73

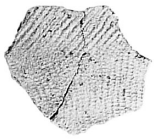
66－74

66－75

66－76

66－77

66－78


66－79

80－13

80－14

81－36

82－41

82－46

82－47

82－48

82－49

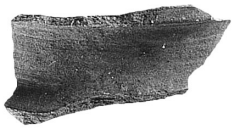
88－1

88－5

写真29　遺構内出土土器（円形周溝・溝跡・井戸跡）

105－1

105－6


105－8

105－9

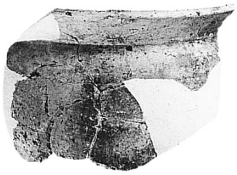
105－10

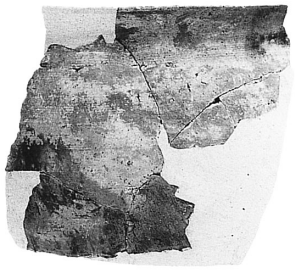
106－16

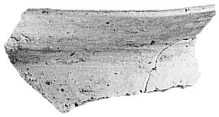
106－17

106－26

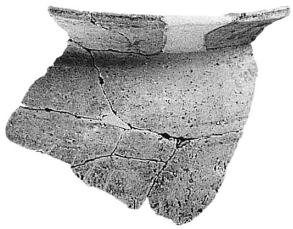
106－27

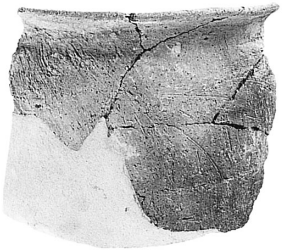

107－35


107－36


107－37

107－39


107－40


107－41

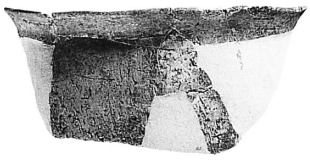

107－42

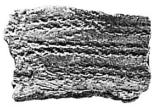
写真30　遺構外出土土器（１）

108－49

108－50

108－51

108－52


108－53

108－54

108－55

108－56

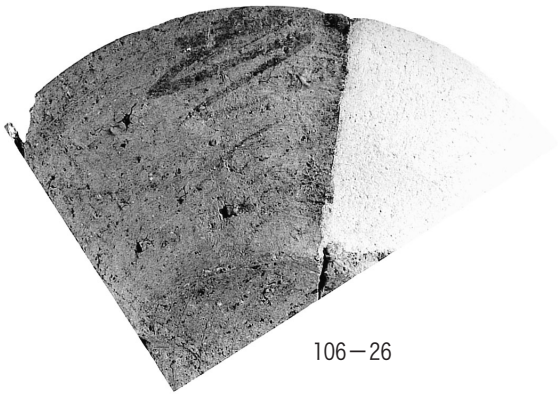
108－57

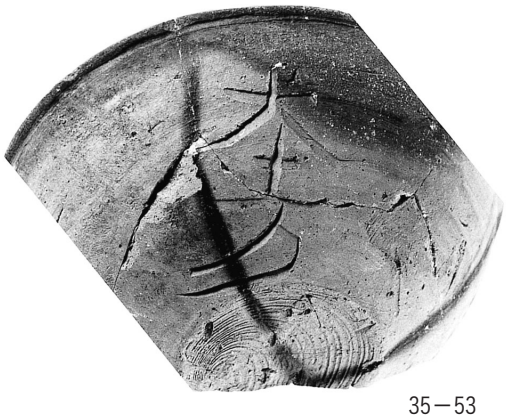
108－58

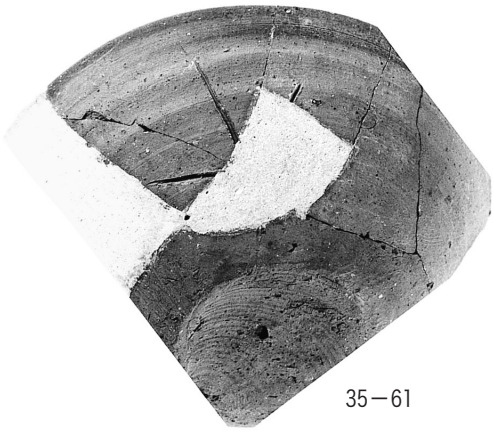
108－59

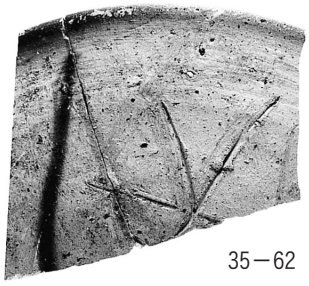
108－60

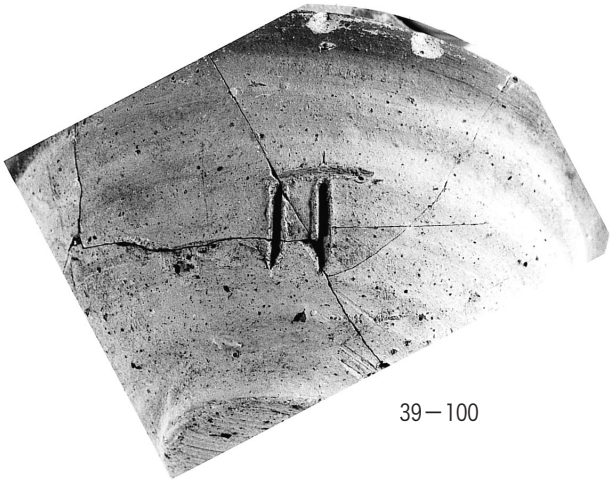
写真31　遺構外出土土器（２）

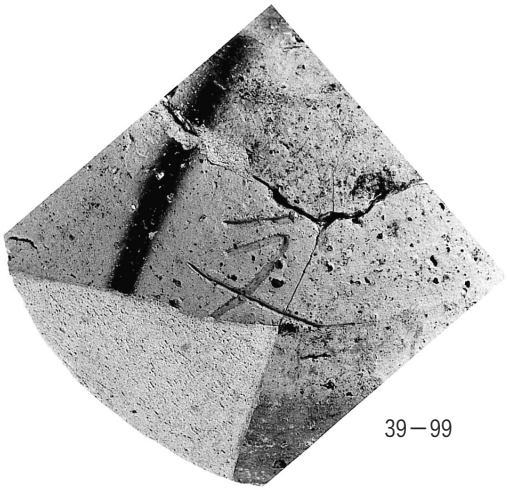

106－26

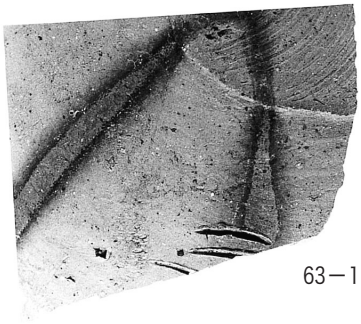

35－53


35－61


35－62


39－100


39－99


63－1

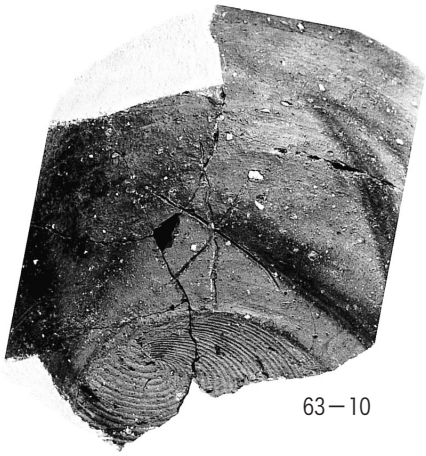
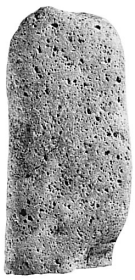

63－10

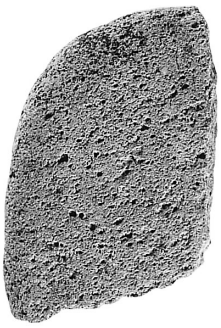
写真32　墨書土器・刻書土器

43－1

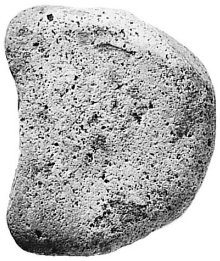
43－2

43－3

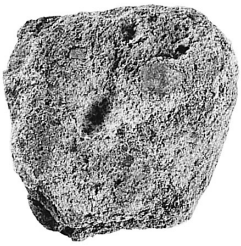

43－4


43－5

44－6


44－7

44－8


44－9

44－10

45－11

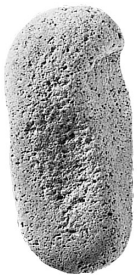
45－12

45－13

45－14

45－15

写真33　遺構内出土石器（竪穴住居跡）


45－16

45－17

46－18

46－19

46－20

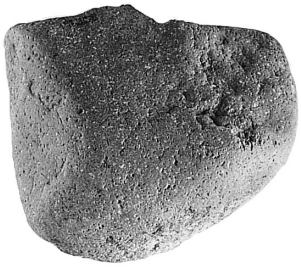
46－21

46－22

56－1

56－2

67－1


67－2

67－3

写真34　遺構内出土石器（竪穴住居跡・土坑・円形周溝）

68－4

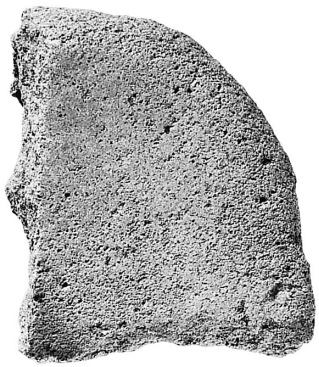
68－5

68－6

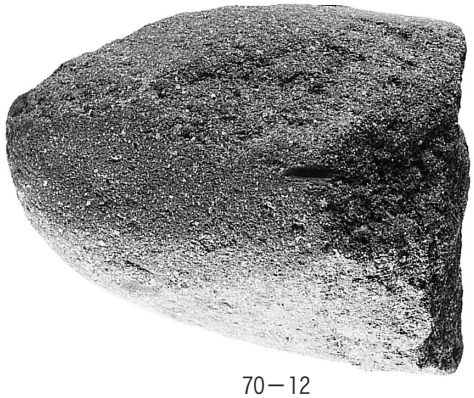
68－7

68－8

69－9


69－10

69－11


70－12

71－13

71－14

71－15

写真35　遺構内出土石器（円形周溝）

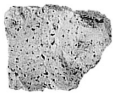
71－16

71－17

83－1

83－2

83－3


83－4

83－5

88－6

88－7

写真36　遺構内出土石器（円形周溝・溝跡・井戸跡）

109－1

109－2

109－3

109－4

109－5

110－6

110－7

110－8

110－9

111－10

111－11

111－12

111－13

111－14

写真37　遺構外出土石器

47－1

47－2

47－3

47－4

47－5

47－6

47－7

72－1

72－2

84－1

84－2

88－8

88－9

88－10

112－1

写真38　遺構内出土土製品（竪穴住居跡・円形周溝・溝跡・井戸跡）・遺構外出土土製品

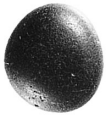
47－8

47－9

47－10

47－11

47－12


47－13

47－14

47－15

84－3

84－4

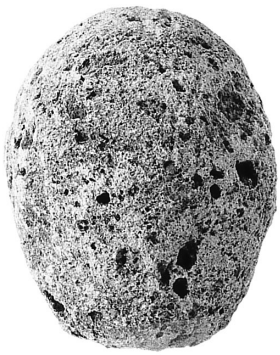

112－2

写真39　遺構内出土石製品（竪穴住居跡・溝跡）・遺構外出土石製品

48－17

48－18

48－19

48－20

48－21

48－22

49－23

49－24

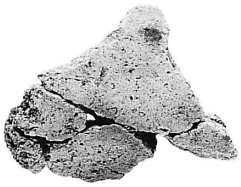
49－26

49－27

50－28

50－29

50－30

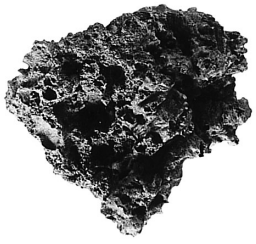

50－31

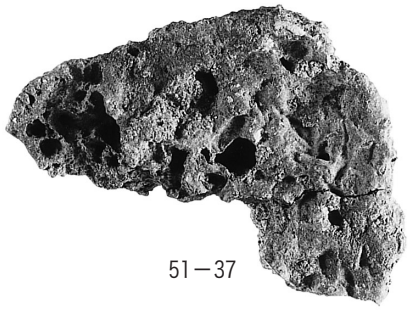
50－32

50－33

50－34

50－35

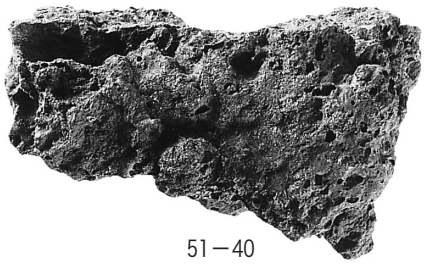

51－36


51－37

51－38

写真40　遺構内出土鉄関連遺物（竪穴住居跡）

51－39


51－40

56－3

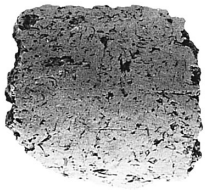
72－4

72－5

72－6

72－7

72－8

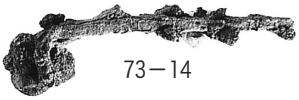

72－9

72－10

73－11

73－12

73－13


73－14

73－15

73－16

73－17

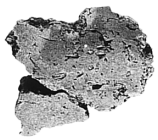
73－18

73－19

73－20

73－21

写真41　遺構内出土鉄関連遺物（竪穴住居跡・土坑・円形周溝）


85－5

85－6

85－7

85－8

85－9

85－10

104－3

104－4

104－5

104－6

104－7

104－8

112－3

112－4

112－5

112－6

112－7

112－8

112－9

112－10

112－11

112－12

写真42　遺構内出土鉄関連遺物（溝跡・柱穴状ピット）・遺構外出土鉄関連遺物・古銭

報 告 書 抄 録

ふ り が な	ごうしざわまつもりかっこにいせきはっくつちょうさほうこくしょ
書　　名	合子沢松森(２)遺跡発掘調査報告書
副 書 名	
巻　　次	
シ リ ー ズ 名	青森市埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第93集
編 著 者 名	小野　貴之、蝦名　純
編 集 機 関	青森市教育委員会
所　在　地	〒038－0012　青森県青森市柳川二丁目１番１号　TEL017－761－4796
発 行 年 月 日	西暦2007年３月30日

所収遺跡名（ふりがな）	所在地（ふりがな）	コード		世界測地系		調査期間	調査面積㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号	北緯	東経			
合子沢松森（ごうしざわまつもり）（２）遺跡（いせき）	青森市大字（あおもりしおおあざ）合子沢字松森（ごうしざわあざまつもり）	02201	01262	40°45′54″	140°45′32″	20040819～20041119 20050509～20050708	7,750	東北新幹線建設工事に伴う事前調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
合子沢松森（２）遺跡	集落跡	平　安	竪穴住居跡　12軒 土　　坑　23基 溝状土坑　2基 土器埋設遺構　1基 焼土遺構　6基 円形周溝　6基 溝　　跡　30条 井　戸　跡　6基 柱穴状ピット　233基	縄文土器 土師器 須恵器 石器 土製品 石製品 鉄関連遺物 古銭	第１号土器埋設遺構は、「合口甕棺」、「合口埋甕遺構」等と呼称されるものである。

要　約

１．合子沢松森(２)遺跡は、合子沢川の河岸段丘上、標高35～50mの地点に位置している。
２．発掘調査は、東北新幹線建設予定地を対象に２ヵ年にわたり実施した。調査面積は、平成16年度の第一次調査が3,500㎡、平成17年度の第二次調査が4,250㎡、計7,750㎡である。
３．調査の結果、縄文時代、平安時代、中世の遺構・遺物を検出した。主体は平安時代の集落跡である。
４．縄文時代の遺構には、溝状土坑２基が見られる。平安時代の遺構には、竪穴住居跡12軒、土坑６基、土器埋設遺構１基、円形周溝６基が見られる。中世の遺構には、井戸跡１基がみられる。また、時期不明の遺構には、土坑17基、焼土遺構６基、溝跡30条、井戸跡５基、柱穴状ピット233基が見られる。
５．平安時代の遺構は、出土土器や堆積状況等から概ね９世紀末葉から10世紀前半頃と思われる。

既刊埋蔵文化財関係報告書一覧

青森市の文化財	1	1962	『三内霊園遺跡調査概報』
〃	2	1965	『四ツ石遺跡調査概報』
〃	3	1967	『玉清水遺跡調査概報』
〃	4	1970	『三内丸山遺跡調査概報』
〃	5	1971	『野木和遺跡調査報告書』
〃	6	1971	『玉清水Ⅲ遺跡発掘調査報告書』
〃	7	1971	『大浦遺跡調査報告書』
〃	8	1973	『孫内遺跡発掘調査報告書』
		1979	『蛍沢遺跡』
		1983	『四戸橋遺跡調査報告書』
青森市の埋蔵文化財		1983	『山野峠遺跡』
〃		1985	『長森遺跡発掘調査報告書』
〃		1986	『田茂木野遺跡発掘調査報告書』
〃		1987	『横内城跡発掘調査報告書』
〃		1988	『三内丸山Ⅰ遺跡発掘調査報告書』
青森市埋蔵文化財調査報告書			
〃	第16集	1991	『山吹(1)遺跡発掘調査報告書』
〃	第17集	1992	『埋蔵文化財出土遺物調査報告書』
〃	第18集	1993	『三内丸山(2)遺跡発掘調査概報』
〃	第19集	1993	『市内遺跡発掘調査報告書』
〃	第20集	1993	『小牧野遺跡発掘調査概報』
〃	第21集	1994	『市内遺跡詳細分布調査報告書』
〃	第22集	1994	『小三内遺跡発掘調査報告書』
〃	第23集	1994	『三内丸山(2)・小三内遺跡発掘調査報告書』
〃	第24集	1995	『横内遺跡・横内(2)遺跡発掘調査報告書』
〃	第25集	1995	『市内遺跡詳細分布調査報告書』
〃	第26集	1995	『桜峯(2)遺跡発掘調査報告書』
〃	第27集	1996	『桜峯(1)遺跡発掘調査概報』
〃	第28集	1996	『三内丸山(2)遺跡発掘調査報告書』
〃	第29集	1996	『市内遺跡詳細分布調査報告書』
〃	第30集	1996	『小牧野遺跡発掘調査報告書』
〃	第31集	1997	『市内遺跡詳細分布調査報告書』
〃	第32集	1997	『桜峯(1)遺跡発掘調査概報Ⅱ』
〃	第33集	1997	『新町野遺跡試掘調査報告書』
〃	第34集	1997	『葛野(2)遺跡発掘調査報告書』
〃	第35集	1997	『小牧野遺跡発掘調査報告書Ⅱ』
〃	第36集	1998	『桜峯(1)遺跡発掘調査報告書』
〃	第37集	1998	『新町野遺跡発掘調査報告書』
〃	第38集	1998	『野木遺跡発掘調査報告書』
〃	第39集	1998	『市内遺跡詳細分布調査報告書』
〃	第40集	1998	『小牧野遺跡発掘調査報告書Ⅲ』
〃	第41集	1998	『野木遺跡発掘調査概報』
〃	第42集	1998	『熊沢遺跡発掘調査概報』
〃	第43集	1999	『市内遺跡詳細分布調査報告書』
〃	第44集	1999	『葛野(2)遺跡発掘調査報告書Ⅱ』
〃	第45集	1999	『小牧野遺跡発掘調査報告書Ⅳ』
〃	第46集	1999	『新町野・野木遺跡発掘調査概報』
〃	第47集	1999	『稲山遺跡発掘調査概報』
〃	第48集	2000	『熊沢遺跡発掘調査報告書』
青森市埋蔵文化財調査報告書			
〃	第49集	2000	『稲山遺跡発掘調査概報Ⅱ』
〃	第50集	2000	『小牧野遺跡発掘調査報告書Ⅴ』
〃	第51集	2000	『桜峯(1)・雲谷山吹(3)遺跡発掘調査報告書』
〃	第52集	2000	『大矢沢野田(1)遺跡調査報告書』
〃	第53集	2000	『市内遺跡発掘調査報告書』
〃	第54集	2001	『新町野遺跡発掘調査報告書Ⅱ・野木遺跡発掘調査報告書Ⅱ』
〃	第55集	2001	『小牧野遺跡発掘調査報告書Ⅵ』
〃	第56集	2001	『稲山遺跡発掘調査報告書Ⅰ』
〃	第57集	2001	『稲山遺跡発掘調査概報Ⅲ』
〃	第58集	2001	『大矢沢野田(1)遺跡発掘調査概報Ⅱ』
〃	第59集	2001	『市内遺跡発掘調査報告書』
〃	第60集	2002	『小牧野遺跡発掘調査報告書Ⅶ』
〃	第61集	2002	『大矢沢野田(1)遺跡発掘調査報告書』
〃	第62集	2002	『稲山遺跡発掘調査報告書Ⅱ』
〃	第63集	2002	『稲山遺跡発掘調査概報Ⅳ』
〃	第64集	2002	『市内遺跡発掘調査報告書』
〃	第65集	2003	『雲谷山吹(4)～(7)遺跡発掘調査報告書』
〃	第66集	2003	『稲山遺跡発掘調査報告書Ⅲ』
〃	第67集	2003	『深沢(3)遺跡発掘調査報告書』
〃	第68集	2003	『近野遺跡発掘調査報告書』
〃	第69集	2003	『市内遺跡発掘調査報告書11』
〃	第70集	2003	『小牧野遺跡発掘調査報告書Ⅷ』
〃	第71集	2004	『稲山遺跡発掘調査報告書Ⅳ』
〃	第72集	2004	『稲山遺跡発掘調査報告書Ⅴ』
〃	第73集	2004	『新町野遺跡発掘調査概報』
〃	第74集	2004	『市内遺跡発掘調査報告書12』
〃	第75集	2004	『江渡遺跡発掘調査報告書』
〃	第76集	2005	『栄山(3)遺跡発掘調査報告書』
〃	第77集	2005	『赤坂遺跡発掘調査報告書』
〃	第78集	2005	『三内丸山(8)遺跡発掘調査報告書』
〃	第79集	2005	『市内遺跡発掘調査報告書13』
〃	第80集	2005	『合子沢松森(2)遺跡発掘調査概報』
〃	第81集	2005	『石江遺跡群発掘調査概報』
〃	第82集	2006	『三内沢部(3)遺跡発掘調査報告書』
〃	第83集	2006	『合子沢松森(2)遺跡発掘調査概報Ⅱ』
〃	第84集	2006	『新町野遺跡発掘調査概報Ⅱ』
〃	第85集	2006	『小牧野遺跡発掘調査報告書Ⅸ』
〃	第86集	2006	『市内遺跡発掘調査報告書14』
〃	第87集	2006	『新町野遺跡発掘調査報告書Ⅲ』
〃	第88集	2006	『史跡高屋敷館遺跡環境整備報告書Ⅱ』
〃	第89集	2006	『篠原遺跡発掘調査報告書』
〃	第90集	2007	『月見野(1)遺跡発掘調査報告書』
〃	第91集	2007	『市内遺跡発掘調査報告書15』
〃	第92集	2007	『新町野遺跡発掘調査概報Ⅲ』
〃	第93集	2007	『合子沢松森(2)遺跡発掘調査報告書』
〃	第94集	2007	『石江遺跡群発掘調査報告書』

青森市埋蔵文化財調査報告書第93集

合子沢松森(2)遺跡発掘調査報告書

発行年月日　平成19年3月30日

発　　行　青森市教育委員会
〒038-0012 青森市柳川二丁目1番1号
TEL 017-761-4796

印　　刷　青森オフセット印刷株式会社
〒030-0802 青森市本町二丁目11番16号
TEL 017-775-1431